



足立区

# 第53回

## 足立区政に関する世論調査

2024(令和6)年8月実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／  
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／  
「孤立ゼロプロジェクト」など／「協働・協創」・「SDGs」／区の取り組み

足立区 政策経営部 区政情報課

令和7年3月発行



## はじめに

令和6年8月に区民の皆様3,000人を対象に行った世論調査の結果がまとまりました。回収率は郵送、インターネット回答合わせて47.4%と、昭和47年の調査開始以来初めて50%を切ることとなりました。とは申せ、質問数が全105問と多く、回答に時間を要する調査であり、お忙しいなか労を厭わずご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

世論調査の目的は、「区民の皆様のご要望を受け止めること」「区政に対するご意見を伺うこと」「施策の浸透度を確認すること」「数値の経年変化を検討すること」など様々であり、調査結果は、施策の方向性の決定や予算編成に欠かすことの出来ない重要なデータです。

物価高騰対策、災害対策等、直面する課題は山積しておりますが、今後も世論調査をはじめとする区民の皆様のお声に耳を傾けつつ、誇りや愛着の持てるまちづくりに力をつくしてまいります。

令和7年3月

足立区長 近藤やよい



# 目 次

<b>第 1 章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的 .....	3
2 調査の内容 .....	3
3 調査の設計 .....	3
4 調査地域 .....	4
5 調査方法 .....	5
6 回収結果 .....	5
7 報告書の見方 .....	7
8 回答者の構成 .....	10
<b>第 2 章 調査結果の要約</b> .....	<b>15</b>
1 定住性 .....	17
2 大震災などの災害への備え .....	18
3 洪水対策 .....	19
4 区の情報発信のあり方 .....	20
5 健康 .....	21
6 スポーツ・読書 .....	22
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動 .....	23
8 環境・地域活動 .....	24
9 「孤立ゼロプロジェクト」など .....	25
10 「協働・協創」・「SDGs」 .....	27
11 区の取り組み .....	28
<b>第 3 章 調査結果の分析</b> .....	<b>37</b>
1 定住性 .....	39
（1）居住地域の評価 .....	41
（2）地域の暮らしやすさ .....	63
（3）特に暮らしにくいと感じること .....	69
（4）定住意向 .....	73
2 大震災などの災害への備え .....	81
（1）備蓄や防災用具などの用意 .....	83
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 .....	87
（3）備蓄量 .....	92
（4）地域の 3 種の避難場所とその意味の認知 .....	101
（5）大規模災害時の避難生活場所 .....	110
3 洪水対策 .....	113
（1）「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知 .....	115
（2）河川はん濫時の避難場所 .....	119

(3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	123
4 区の情報発信のあり方	125
(1) 区の情報の入手手段	127
(2) 必要なときに必要とする区の情報の入手状況	132
(3) 区の情報が得られていない理由	134
5 健康	137
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	139
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	141
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	144
(4) 1日の野菜 350g以上の摂取	146
(5) 自身の健康状態について	148
(6) 体調や習慣	150
(7) 安心して受診できる医療機関の有無	153
(8) 健康維持のために実行している、心がけているもの	155
(9) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類	157
(10) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容	159
(11) 感染症予防としての手洗いの実践状況	161
(12) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	163
6 スポーツ・読書	165
(1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況	167
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	169
(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所	173
(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ	175
(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動	178
(6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由	179
(7) 読書に関わる行動状況	180
(8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	183
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	187
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	189
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	192
(3) 居住地域の治安状況	197
(4) 居住地域の治安が良いと感じる点	201
(5) 居住地域の治安が悪いと感じる点	204
(6) 駐輪時の鍵かけ状況	209
8 環境・地域活動	215
(1) 環境のために心がけていること	217
(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無	223
(3) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動	225

9	「孤立ゼロプロジェクト」など	231
	(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	233
	(2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知	236
	(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	240
	(4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況	243
	(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況	246
	(6) 仕事と仕事以外の生活の調和	248
	(7) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況	251
10	「協働・協創」・「SDGs」	255
	(1) 「協創」の認知	257
	(2) 協働・協創の実践	259
	(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	261
	(4) SDGsの認知状況	263
	(5) SDGsの関心状況	265
11	区の取り組み	267
	(1) 区に対する気持ち	269
	(2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）	299
	(3) 区を良いまちにするための行動	308
	(4) 区の取り組みで満足している分野	312
	(5) 区の取り組みで不満の分野	316
	(6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）	319
	(7) 区政に対する満足度	335
	(8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野	338
	(9) 区政への区民意見の反映度	341
	(10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	345
	(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	352

<b>第4章</b>	<b>使用した調査票</b>	<b>355</b>
------------	----------------	------------



# 第1章 調査の概要



## 1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的として実施する。

## 2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 「協働・協創」・「SDGs」
- (11) 区の取り組み

## 3 調査の設計

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域                |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満18歳以上の男女個人    |
| (3) 標本数      | 3,000サンプル（人）         |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法  |
| (5) 調査期間     | 令和6年8月15日（木）～9月6日（金） |
| (6) 調査機関     | (株) サーベイリサーチセンター     |

## 4 調査地域

図1 地域区分図

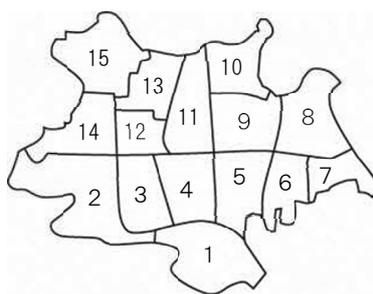


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地区町丁目名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

## 5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配付、郵送またはインターネットによる回答  
(依頼状、お礼状ともに1回)
- (2) 調査票 第4章の調査票を使用

## 6 回収結果

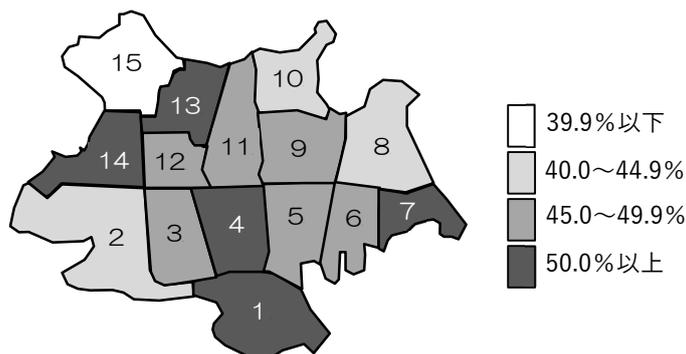
- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,421票 有効回収率 47.4%
- 回答方法別
- (郵送 965票 構成比 67.9%)
- (オンライン 456票 構成比 32.1%)
- (3) 回収不能数 1,579票 回収不能率 52.6%
- (4) 地域別回収結果

表2 地域別回収結果

地域名	18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	606,596人	100.0%	3,000人	1,421票	47.4%
第1地域	68,553	11.3	338	170	50.3
第2地域	42,607	7.0	211	86	40.8
第3地域	36,098	6.0	179	83	46.4
第4地域	52,178	8.6	258	133	51.6
第5地域	54,561	9.0	270	130	48.1
第6地域	40,888	6.7	203	99	48.8
第7地域	29,353	4.8	145	76	52.4
第8地域	48,355	8.0	240	98	40.8
第9地域	41,770	6.9	206	97	47.1
第10地域	27,838	4.6	138	62	44.9
第11地域	49,186	8.1	244	116	47.5
第12地域	25,165	4.1	124	61	49.2
第13地域	30,116	5.0	149	77	51.7
第14地域	32,084	5.3	159	80	50.3
第15地域	27,844	4.6	136	53	39.0

(18歳以上人口は令和6年7月1日現在)

図2 地域別有効回収率分布図



## 第1章 調査の概要

### (5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

年代	標本数 (男性)	有効回収数	有効回収率	標本数 (女性)	有効回収数	有効回収率
計	1,460人	611票	41.8%	1,540人	798票	51.8%
18～29歳	247	52	21.1	245	81	33.1
30代	231	66	28.6	193	80	41.5
40代	234	89	38.0	253	118	46.6
50代	287	119	41.5	251	151	60.2
60代	168	86	51.2	177	125	70.6
70歳以上	293	199	67.9	421	243	57.7

(注) 表中に触れていない有効回収数として、性別を「どちらでもない」と回答した方が2人、「答えたくない」と回答した方が7人、性別・年代の両方を回答しなかった方が3人いる。

## 7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%) はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【**そう思う(計)**】のように、「**そう思う**」と「**どちらかといえばそう思う**」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に表記された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としている。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,421人のうち38.5%であった。

回答者数が1,421人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.60%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の35.9%から41.1%であると推定できる。

### 〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の18歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,421	±1.59%	±2.12%	±2.43%	±2.60%	±2.65%
1,300	±1.66%	±2.22%	±2.54%	±2.72%	±2.77%
1,200	±1.73%	±2.31%	±2.65%	±2.83%	±2.89%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
全体	1,421	±1.59%	±2.12%	±2.43%	±2.60%	±2.65%
男性(計)	611	±2.43%	±3.24%	±3.71%	±3.96%	±4.05%
18～29歳	52	±8.32%	±11.09%	±12.71%	±13.59%	±13.87%
30代	66	±7.39%	±9.85%	±11.28%	±12.06%	±12.31%
40代	89	±6.36%	±8.48%	±9.72%	±10.39%	±10.60%
50代	119	±5.50%	±7.33%	±8.40%	±8.98%	±9.17%
60代	86	±6.47%	±8.63%	±9.88%	±10.57%	±10.78%
70歳以上	199	±4.25%	±5.67%	±6.50%	±6.95%	±7.09%
女性(計)	798	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.47%	±3.54%
18～29歳	81	±6.67%	±8.89%	±10.18%	±10.89%	±11.11%
30代	80	±6.71%	±8.94%	±10.25%	±10.95%	±11.18%
40代	118	±5.52%	±7.36%	±8.44%	±9.02%	±9.21%
50代	151	±4.88%	±6.51%	±7.46%	±7.97%	±8.14%
60代	125	±5.37%	±7.16%	±8.20%	±8.76%	±8.94%
70歳以上	243	±3.85%	±5.13%	±5.88%	±6.29%	±6.42%

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

## (9) 分類した項目の定義

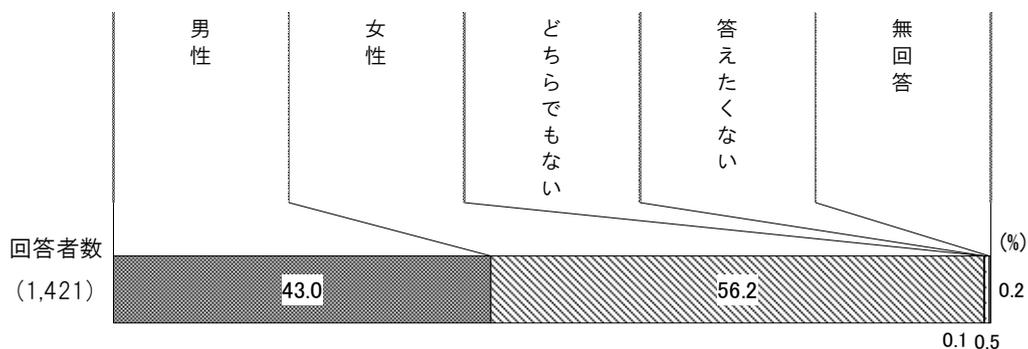
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別……………（15カテゴリー）
- ② 性別……………（2カテゴリー） ※性別の「どちらでもない」が2サンプル、「答えたくない」が7サンプルのみだったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別……………（12カテゴリー）
- ④ ライフステージ別……………（7カテゴリー）
  - ・ 独身期 40歳未満の独身者
  - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
  - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
    - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
    - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
  - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
  - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
  - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
    - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
    - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
    - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
  - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
    - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
    - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別①……………（7カテゴリー）
  - ⑤-1 エリアデザイン地域内外別②（2カテゴリー）
- ⑥ 住居形態別……………（8カテゴリー）
- ⑦ 職業別……………（8カテゴリー）
- ⑧ 就労（就学）場所別……………（6カテゴリー）
- ⑨ 居住年数別……………（6カテゴリー）

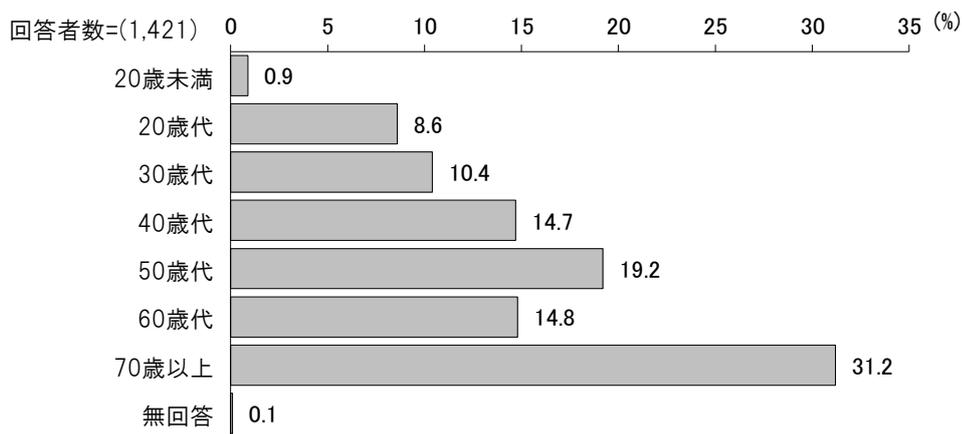
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

## 8 回答者の構成

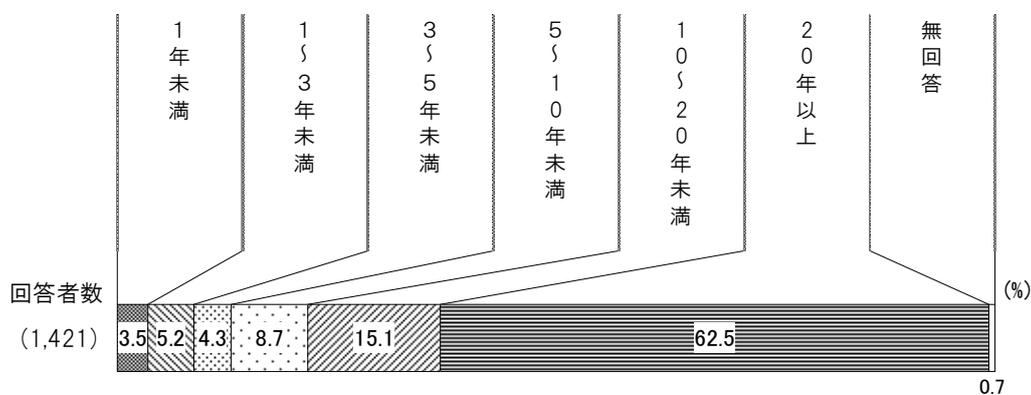
### F1 性別



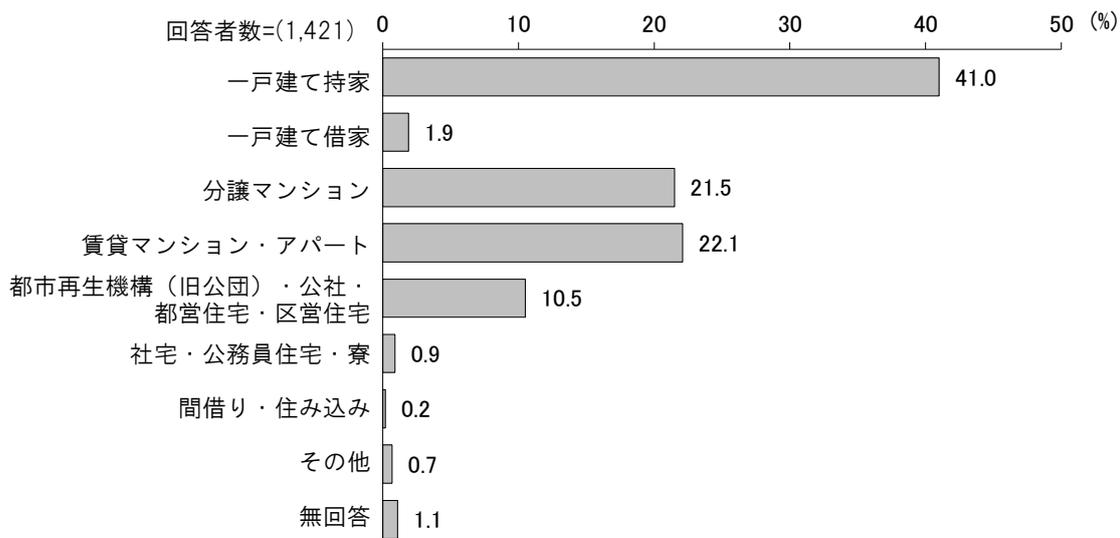
### F2 年齢



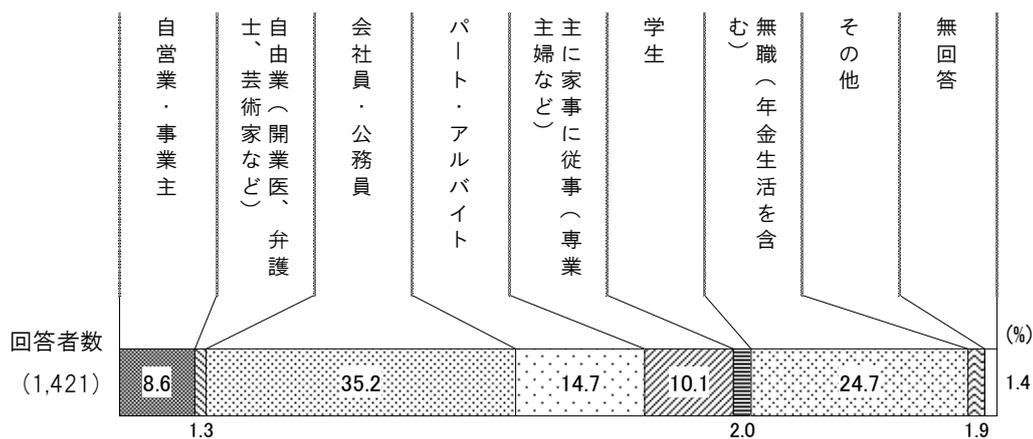
### F3 居住年数



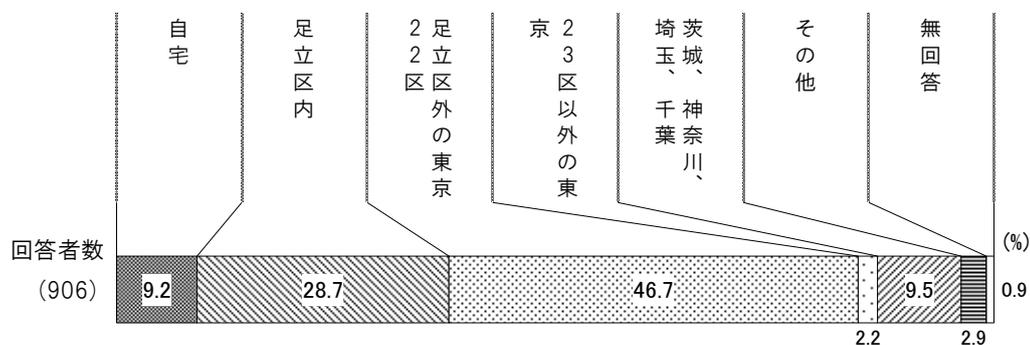
F 4 住居形態



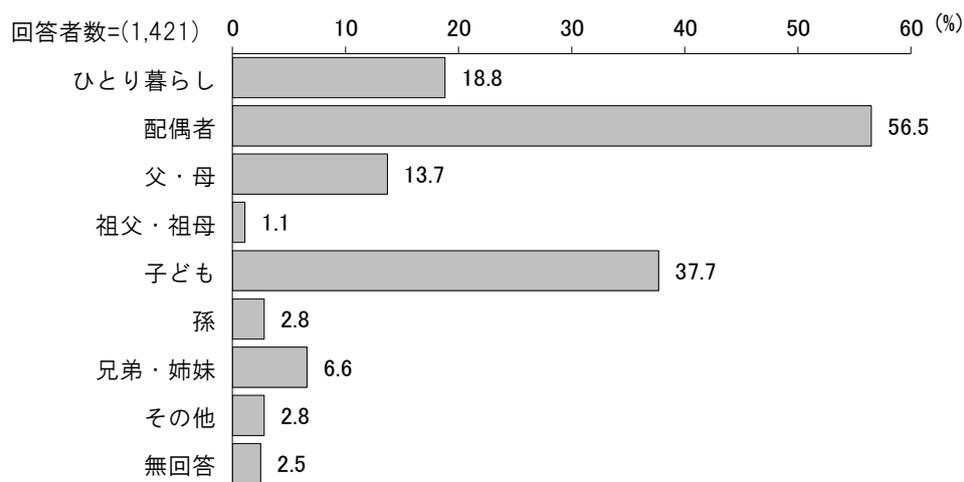
F 5 職業



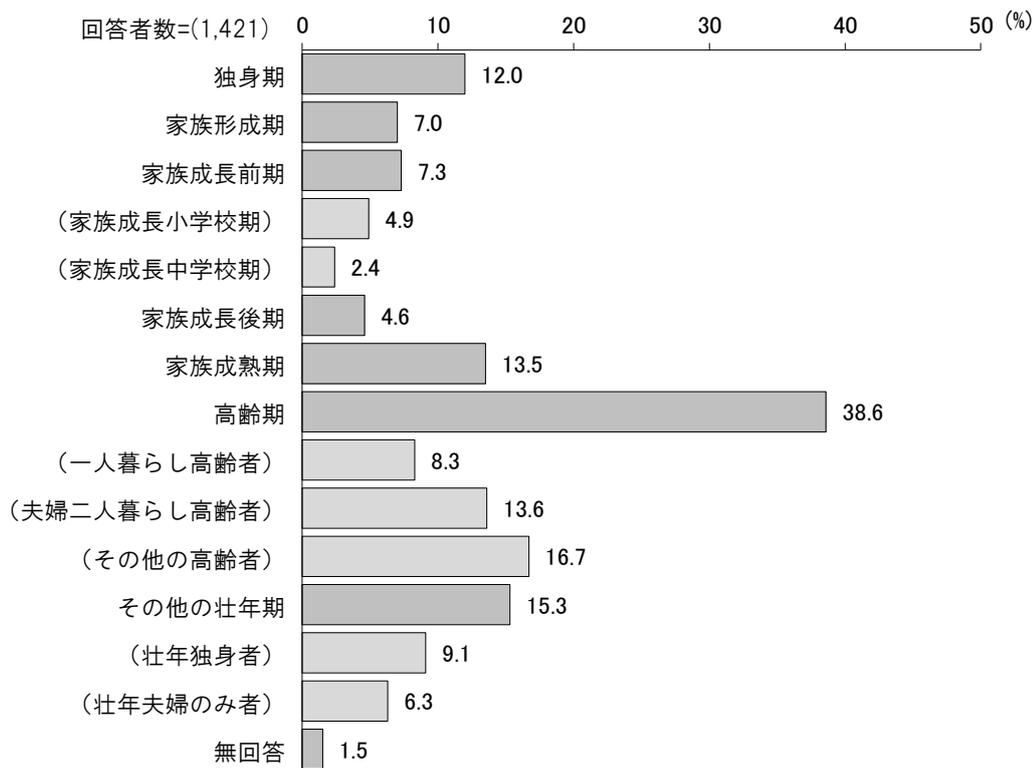
F 5 - 1 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



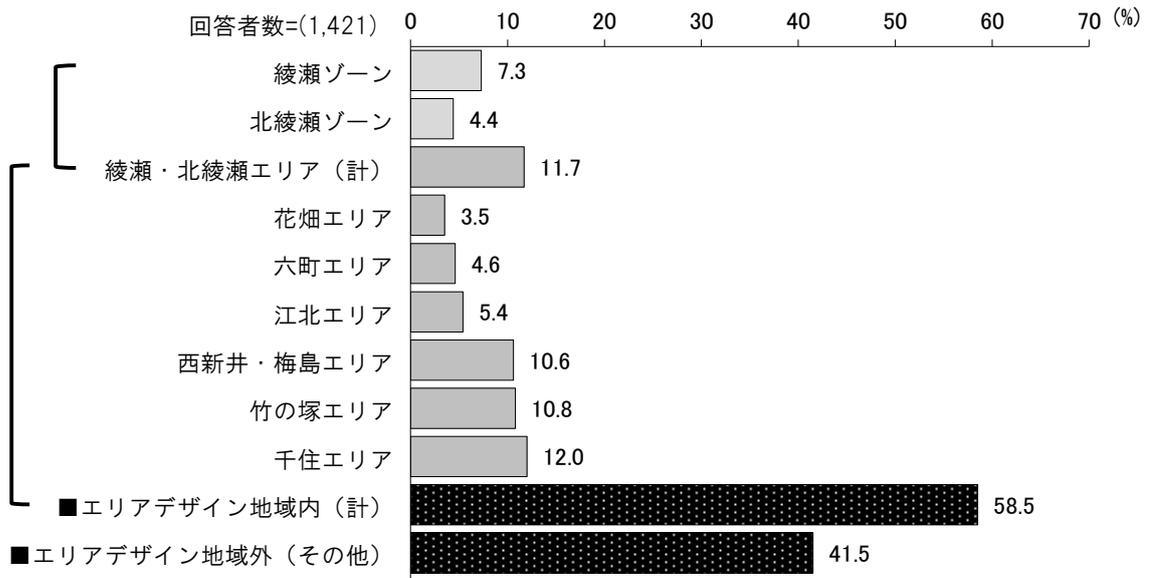
F6 同居家族（複数回答）



F7 ライフステージ



F8 エリアデザイン





## 第2章 調査結果の要約



## 1 定住性

### (1) 〈普段の買い物が便利である〉が7割台後半、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が7割近く

ア 居住地域の評価については、全15項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉に加えて〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉の5項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となった。

イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は、否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一6割を超えている。

ウ 前回調査と比較すると、15項目中14項目で肯定的評価が増加しており、〈景観・街並みが良好である〉〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉の4項目で4ポイント以上の増加となっている。

エ 肯定的評価が7割台半ばと最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第7地域、第4地域、第6地域、第9地域で8割台と高い一方、第14地域が唯一5割台と低くなっている。

### (2) 【暮らしやすい】は本設問を開始して24年間で最高値を更新

ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は86.2%で最高値を更新し、【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）は、令和4年度調査と並んで12.2%と最も低い割合となった。

イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第6地域と第2地域で9割台と高くなっている。

ウ 【暮らしにくい】を地域別にみると、第14地域で2割台と他の地域に比べて高くなっている。

エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聴いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばと5年連続で最も高くなっており、次いで「交通の便が悪いこと」、「買い物がしにくいこと」、「治安が良くないこと」などとなっている。

### (3) 定住意向がある人は、8割超で前回調査をさらに上回り、4年連続で最高値を更新

ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、令和3年調査で初めて8割台となって以降増加を続けている。

イ 【定住意向】を地域別にみると、第1地域で9割と最も高く、次いで第11地域、第9地域、第6地域が8割台後半で続いている。

### (4) 定住性全体について

ア 〈普段の買い物が便利〉〈交通の便が良い〉〈快適で安全なまち〉〈行きたい公園〉などの利便性や快適性と、〈まちなかの花や緑が多い〉〈ごみの減少〉〈景観・街並みが良好〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっていくものと考ええる。

イ 〈交通の便が良い〉〈まちなかの花や緑が多い〉については、割合が最も高い地域と最も低い地域の差が40ポイント以上あり、地域差が大きい項目である。

ウ 必要と考えられる今後の取り組み

〈自転車利用者の交通マナー〉と〈文化芸術に親しめるまち〉は【そう思わない】が5割以上と否定的評価が高く、取り組みのさらなる強化が求められる。また、〈交通の便が良い〉〈まちなかの花や緑が多い〉のように地域差の大きい項目については、地道ながらも推進していくことで、暮らしやすさを向上させ、区民の定住意向をより高めていくことに繋がると考える。

## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 【備蓄・買い置きあり】は前回調査から6.5ポイント増加して7割台半ば

ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.7%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.4%となっており、これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は76.1%となっている。一方、「特に用意していない」は20.4%であった。

イ 災害に備えての準備状況を経年で見ると、前回調査時から6.5ポイントの大幅な増加となっており、これは、元日に発生した能登半島地震の影響があると考えられ、東日本大震災直後の73%台をも上回っている。

### (2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」（9割超）、「食料」（9割弱）

ア 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が9割超、「食料」が9割弱、「あかり」が7割台半ばで上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「簡易トイレ」と「電池・予備バッテリー」が5割台後半、「医薬品」が4割台後半となっている。

イ 前回調査と比較すると、「簡易トイレ」（+6.1ポイント）が大幅に増加している。

ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日以上】で「水」は約5割、「食料」は4割台半ばとなっている。なお、今回調査で備蓄量が大幅に増加した「簡易トイレ」については約4割となっている。

### (3) <場所>の認知は【避難場所】が3割台半ばで最高、<意味>の認知は【第一次避難所】の2割弱で最低

ア 前回調査と比較して、3種の避難場所すべてで<場所>と<意味>の認知度が高くなっており、【一時集合場所】増加幅が3ポイント前後、【第一次避難所】が2ポイント強で、【避難場所】の増加は微増となっている。

イ 地域的に見た特徴的な事として、第15地域で<場所>の認知が前回調査では【一時集合場所】と【避難場所】が15地域中最も低く、【第一次避難所】が2番目に低い割合だったが、今回調査では、【一時集合場所】と【第一次避難所】が15地域中最も高く、【避難場所】が3番目に高い割合となった。このことから、地域区民への周知の効果が現れたことがわかる。

ウ <場所>と<意味>の認知の低さは、避難行動の流れに大きく影響するため、【3種の避難場所】の<意味>と<場所>の認知度を上げるための周知の強化と、周知方法の工夫が必要である。

### (4) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割、「別居している家族や親戚の家」が2割台半ば

大規模災害時の避難生活場所「避難所」（50.5%）が5割で最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」（25.2%）であった。結果、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として、区民の半数が「避難所」を想定していることがうかがえる。

### 3 洪水対策

#### (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は9割超

ア 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」(31.1%)と「見て、内容は確認した」(23.6%)と「見たが、内容までは覚えていない」(37.4%)を合わせた【見たことがある】は9割超となった。

イ 前回調査に比べて【見たことがある】の割合は2.2ポイント増加したものの、認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」を合わせた【内容を確認した】(54.7%)の割合は大きく変わらないことから、「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の存在の区民への周知もさることながら、自宅の浸水深の確認など、起こり得る水害への理解をより深めてもらうことが重要である。

#### (2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は9割台半ば

ア 河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が5割台半ばを占めており、次いで、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」が2割半ば近くとなっており、【決めている】(94.2%)は9割台半ばとなっている。一方、「決めていない」は4.9%となっている。

イ 地域別に見ると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は、第8地域、第6地域、第2地域、第11地域で6割台と高く、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」は、第15地域が3割で最も高くなっている。一方、「決めていない」は、第3地域と第5地域で7%前後と他の地域に比べて高くなっている。

#### (3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由は「避難する場所がわからないから」が4割台半ば

ア 避難場所を事前に決めていない理由は、「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで最も高く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」と「自分や家族だけで避難することができないから」が1割台半ばとなっている。

イ 河川のはん濫リスクは地域別で違いがあり、各地域の回答数が少数のため参考となるが、「近くに避難できる場所がないから」は第1、第2、第3地域の合計では19人中7人と多く、第4～15地域の合計では50人中1人と少なくなっている。こういった地域の特性に沿った避難誘導の対策と周知が必要となる。

## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報の入手手段として、「あだち広報」が7割台半ば、「トキメキ」が3割台半ば超え

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が7割台半ばで、依然として他の媒体に比べて高くなっており、これに次ぐ「トキメキ」(37.5%)、「区のホームページ」(26.0%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(23.5%)などとの間には大きな差がある。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

### (2) 必要なときに必要とする区の情報は【得られている】が7割台半ば近く

ア 区の情報が「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が7割台半ば近く、一方、【得られていない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は1割台半ばとなっており、この4年間は、【得られている】が漸減、【得られていない】が漸増傾向となっている。

イ 性・年代別に見ると、【得られている】は女性の30～50代で8割強と高く、逆に男女とも18～29歳で5割台半ばと低くなっている。また、18～29歳の男女は「区の情報に関心がない」(男性：15.4%、女性：14.8%)で他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

### (3) 区の情報が得られていない理由は「情報の探し方がわからない」が4割弱

必要なときに必要とする区の情報が【得られていない】と答えた理由としては、「情報の探し方がわからない」が38.7%と最も高く、「情報が探しにくい」(25.8%)と合わせると6割台半ばを占めており、この割合が令和2年調査以降で増加傾向にあることから、情報の探しやすさについて、なお一層の工夫が必要である。

## 5 健康

### (1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は5割弱で最高値を更新

ア 『あだちベジタライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が1割台半ばで、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（3割台半ば近く）を合わせた【知っている】は5割弱となったものの、「知らない（初めて聞いた）」（5割）をわずかに下回っている。

イ 区のキャッチフレーズの認知度を経年でみると、【知っている】は前回調査から3.1ポイント増加し、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となった。

ウ 区のキャッチフレーズの認知度を性別でみると、【知っている】は女性（54.9%）の方が男性（39.9%）より15.0ポイント大きく上回っている。

エ 性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代が6割台半ばで最も高く、50代以上で5割台と高くなっている。逆に男女とも18～29歳で3割台と低くなっており、若年層への周知が課題となっている。

### (2) 野菜から「食べている」人は初めて7割台となり最高値を更新

ア 糖尿病の予防には、“食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的である”と言われていることに対し、「(野菜から)食べている」人は7割、「食べていない」人は2割台半ば近くとなっている。

イ 「(野菜から)食べている」人の割合は、前回調査から4.1ポイント増加しているものの、野菜の摂取量については、前回調査から変動はみられない。

ウ 性別でみると、「(野菜から)食べている」は、女性（74.9%）の方が男性（64.0%）より10.9ポイント高くなっている。

### (3) 1日野菜350g以上の摂取は【できている】が4割強で、【できていない】（5割強）を下回る

ア 野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】（「できている」＋「だいたいできている」）は4割強となっている。

イ 性別でみると、【(野菜の1日350g以上の摂取が)できている】は女性（47.4%）の方が男性（37.5%）より9.9ポイント高く、18～29歳を除く年代層で男性より女性の方が高くなっていることから、糖尿病の予防に対する知識の浸透・周知は、より男性にも届くような展開が重要である。

### (4) 自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

ア 自身の健康状態への認識は、「健康な方だと思う」が6割を占めており、「非常に健康だと思う」を合わせた【健康である】は、6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）と感じている人は、3割台半ばとなっている。

イ 【健康である】を性別で見ると、女性の方が男性より4.5ポイント高く、性・年代別で見ると、女性の50代が8割弱で最も高く、逆に男性の30代と60代以上で5割台と低くなっている。

### (5) 「安心して受診できる医療機関がある」と【かかりつけ歯科医院を決めている】は3ポイント増加

ア 安心して受診できる医療機関が「ある」は2.9ポイント増加し7割台半ばとなっている。

イ 【かかりつけ歯科医院を決めている】は2.7ポイント増加し8割台半ばで、治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものとして、「歯石除去・歯面清掃」が6.2ポイント3増加し4割台半ばとなった。

ウ このことから、身近な医療機関とのつながりが増しており、日頃からの健康と安心に関する意識が高くなっていることがうかがえる。

## 6 スポーツ・読書

### (1) 【運動している】は6割弱、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強

- ア 日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が2割強で、以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は6割弱となり、前回調査から微増となっている。
- イ 性別で見ると、男性の方が女性より5.8ポイント高く、年代別に見ると、男性では18～29歳（8割台半ば）から60代にかけて割合が低くなり、女性では18～29歳（5割台半ば）から50代にかけて割合が高くなっている。

### (2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が5割弱で突出

- ア 【運動している】と回答した人が、継続的に実施している運動・スポーツは、「ウォーキング」が5割弱で最も高く、これに「筋力トレーニング」が2割台半ば近く、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が約2割で続いている。
- イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の70歳以上と女性の40代で6割台半ば近くと高く、「筋力トレーニング」は男性の方が女性より10.3ポイント高く、「健康体操」は女性の方が男性より11ポイント高くなっている。

### (3) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば近く、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割強

- ア 運動・スポーツを行いたいと思うきっかけとなるのは、「身近な場所で運動・スポーツができる」（3割台半ば近く）、「手頃な価格で施設を利用できる」（3割強）、「レベルを気にせず参加できる機会がある」（2割強）が上位3項目となっている。
- イ 前回調査と比べると、上位項目は割合が増加しており、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会う」が5.1ポイント、「手頃な価格で施設を利用できる」が2.9ポイント増加している。
- ウ 運動・スポーツを行うきっかけを性別で見ると、上位3項目は女性の方が男性より高くなっている。
- エ 運動・スポーツを行うきっかけを性・年代別にみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は男性の30代と女性の18～29歳が5割台半ばで高く、「手頃な価格で施設を利用できる」は女性の40代と18～29歳で5割台と高くなっている。

### (4) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割台半ば近く

- ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が83.0%で前回調査とほぼ同じ割合となっている。
- イ 行動内容では、上位5位の「本を読む」（45.8%）、「新聞を読む」（43.1%）、「雑誌を読む」（34.3%）、「漫画を読む」（30.1%）、「書店・古書店に行く」（27.4%）の順位に変化はない。
- ウ 性・年代別に見ると、「新聞を読む」は年代が上がるほど割合も上がり、「漫画を読む」と「本などの通販サイトをみる」は年代が上がるほど割合が下がる傾向がある。また、「書店・古書店に行く」は男女とも18～29歳が最も高く、次いで40代が高くなっている。

## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】が4割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」が5割超

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が46.7%となっている。

イ 設問開始からの10年をみると、【知っている】はわずかな増減を繰り返しつつ4割台で推移しており、この3年間は増加傾向となっている。

ウ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みに【参加している・今後参加したい】（34.4%）は前回調査から微増しており、具体的な取り組みでは、「ながら見守り活動」、「まちの清掃活動」、「花の育成活動」、「不法投棄通報」が上位4位と順位に変化はない。

(2) 居住地域の治安状況が【良い】は5.1ポイント増加し6割台半ば

ア 居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が順調に増加を続けていたが、令和4年の刑法犯認知件数が5年ぶりに増加したことから、前回調査で6割を切ったが、今回調査では5.1ポイント増加し再び6割台半ばとなった。

イ 治安状況が【良い】について地域別にみると、第1地域、第6地域、第9地域、第2地域で7割台と高い一方で、5割台と低い地域が6地域あり、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割強と最も高く、次いで「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」が続き、「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」が「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」と順位が入れ替わり3位となっている。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」約4割で最も高く、以下「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」、「治安が悪いイメージがあるから」などとなっている。この上位3項目はいずれも、前回と今回調査で新設された項目であり、単純に経年比較はできない。

(3) 自転車の駐輪時に「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割弱、敷地内が約6割

自転車を駐輪する際の鍵かけについては、「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割弱で、敷地内が約6割となっており、前々回調査から大きな変化は見られなかった。

## 8 環境・地域活動

### (1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が約9割、次いで「不要なレジ袋を断る」が8割近く

ア 環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が9割弱で今回も最も高くなっている。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(78.3%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(57.5%)、「外食時に食べられる分だけ注文する」(55.7%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(52.9%)までが上位5位となっている。

イ 環境のために心がけていることについて、SDGsの認知度別にみると、「外食時に食べられる分だけ注文する」と「節電や節水など省エネルギーを心がけている」で認知度合いが高いほど、割合が高くなる強い比例関係が見られた。

ウ 環境のために心がけていることについて、SDGsの関心度別にみると、上位8項目すべてで関心度合いが高いほど、割合も高くなる比例関係にあり、その度合いは認知度よりも関心度で強く現れている。

### (2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が約7割

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が21.0%で、「行動することが時々ある」(48.1%)を合わせた【行動している】は、微増し約7割となった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は女性の18~29歳、40代、50代で7割台後半と高くなっている。

### (3) この1年間の活動状況は、「特に参加していない・特にない」が4ポイント減少

ア この1年間に参加した活動(現状)と、引き続き、または今後参加したいと思う活動(参加意向)の割合をそれぞれ前回調査と比較した。

①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」

(現状) 前回16.5% ➡ 今回23.6% (参加意向) 前回17.5% ➡ 27.0%

②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」

(現状) 前回18.2% ➡ 今回21.7% (参加意向) 前回27.8% ➡ 30.9%

③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」

(現状) 前回 8.5% ➡ 今回12.0% (参加意向) 前回14.5% ➡ 17.2%

④「特に参加していない・特にない」

(現状) 前回53.2% ➡ 今回49.6% (参加意向) 前回39.0% ➡ 38.6%

イ この1年間の活動への参加状況を前回調査と比べると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」が7.1ポイント増加したのを始め、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」と「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が各3.5ポイント増加している。

ウ 引き続き、または今後参加したいと思う活動を前回調査と比べると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が9.5ポイント増加したのを始め、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」が3.1ポイント、「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が2.7ポイントそれぞれ増加している。

## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は3割台半ば近く、「知らない」が6割台半ば

ア 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容もおおむね理解している」(11.0%) + 「聞いたことはあるが、内容はわからない」(21.6%)）が32.6%となり、平成25年の設問開始から最高値を更新した。

イ 【知っている】を地域別で見ると、第15地域と第11地域で4割台と高くなっており、前回調査で最下位(10.3%)であった第15地域が43.4%で、最も高くなっているのが注目される。逆に第6地域で1割台半ばと、地域差がかなり大きくなっている。

ウ 【知っている】を性・年代別で見ると、男性の18～29歳は平均値と変わらないものの、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合も低くなっている。

### (2) 「地域包括支援センター（ホウカツ）」について、【業務内容を知っている】は5割

ア 地域包括支援センター（ホウカツ）の認知状況は、【業務内容を知っている】は50.7%で前回調査から7.4ポイント増加している。「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」が16.6%、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は30.5%となっている。

イ 業務内容別の認知は、「高齢者の健康や介護の相談」が4割台半ばで最も高く、次いで「介護保険サービスの相談」(33.1%)、「高齢者宅への訪問調査」(29.6%)、「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」(24.3%)などとなっている。

ウ 【業務内容を知っている】を地域別で見ると、第5地域で約6割と最も高く、第6地域で4割と最も低く、18.8ポイントの違いがある。

エ 【業務内容を知っている】を性・年代別で見ると、女性の方が男性より13ポイント高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の70歳以上で7割台半ばと高くなっている。

### (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に【協力したい】は2割台半ば、【協力できない】は4割強

ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】は2割台半ばで前回調査から4.0ポイント増加した。

イ 性・年代別で見ると、【協力したい】は女性の40代と60代で3割台と高く、男性の50代で1割と最も低くなっている。この極端な違いは、「協力したいが、時間などに余裕がない」(50代：46.2%・60代：20.9%)の割合の差によるもので、男性の60代は就業状況によって考え方に大きな変化があることがうかがえる。

### (4) 「フレイル」を予防する活動を【知っている】は5.2ポイント増加し6割近くとなる

ア 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が15.6%で前回調査時と変わらないものの、これに「知っているが、特に何もしていない」(43.1%)を合わせた【知っている】は6割近くとなり、前回調査時から5.2ポイントの増加となった。

イ 【知っている】を性別にみると、女性の方が男性より7.9ポイント高くなっている。

ウ 【知っている】を性・年代別にみると、女性では年代が上がるほど割合が高くなっているのに対し、男性では18～29歳から40代にかけて割合が低くなり、その後は割合が高くなっていることから、若年層よりむしろ男性の30～50代の年齢層に向けての周知が必要である。

### (5) 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」は5割強で、「取れていない」と「わからない」が2割台半ば

ア 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」を性別で見ると、女性の55.2%に対し、男性は48.3%と6.9ポイント低くなっているが、「取れていない」では特に大きな違いはみられない。

イ 同様に「取れていない」を性・年代別で見ると、は男性では40代（31.4%）、女性では18～29歳（31.0%）で3割台と高くなっており、男性の18～29歳（16.3%）で1割台半ばと最も低くなっている。

（6）言葉の「内容まで知っている」は「LGBT」と「身体的暴力以外のDV」が4割台半ば、「成年後見制度」が2割台半ば

ア【知っている】（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容は分からない」）は、「身体的暴力以外のDV」が8割台半ば、「LGBT」が7割強、「成年後見制度」が6割台半ばとなっている。

イ「内容まで知っている」を前回調査と比較すると、「身体的暴力以外のDV」と「LGBT」は10ポイント以上減少しているが、「成年後見制度」は微増となっている。

ウ「内容まで知っている」を性別にみると、「成年後見制度」と「身体的暴力以外のDV」は女性の方が男性より5ポイント以上高くなっているが、「LGBT」では特に大きな違いはみられない。また、「内容まで知っている」を性・年代別で見ると、「身体的暴力以外のDV」と「LGBT」は男女とも年齢が下がるほど割合が高くなっているが、「成年後見制度」は男性では年齢別の傾向はないが、女性では、50～60代が3割台で高く、18～29歳が1割台半ばと最も低くなっている。

## 10 「協働・協創」・「SDGs」

### (1) 「協創」の認知度は前回調査で3割となったが、今回は2割台と伸び悩み

「協創」について、「知っている」は7.6%で、これに「聞いたことはある」(19.6%)を合わせた【知っている】は27.2%で、前回(30.8%)の3割から伸び悩んだ。

### (2) “協働”“協創”の実践は、「関心はあるが、特に活動していない」が4.9ポイント増加

「協創」を【知っている】と回答した人に、協働・協創の実践状況を聞いたところ、「すでに、活動を実践している」は前回調査からの増減はないが、「関心はあるが、特に活動していない」は4.9ポイントの増加となっている。

### (3) “協働”“協創”が進んでいると感じるかについては、【そう思う】が前回調査から3.1ポイント増加

協働・協創が進んでおり、関心度も高まってはいるものの、協働・協創の実践に至っていない状況と言える。身近なところで始められるビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクトなどの具体的な活動の周知と動機づけが必要である。

### (4) SDGsの認知状況は、【知っている】が7割台半ば超で伸び悩み

ア SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が42.6%で最も高く、「内容まで知っている」(34.5%)を合わせた【知っている】は7割台半ば超で前回調査から変動はない。

イ SDGsの認知度を性・年代別で見ると、【知っている】は、男女とも18~29歳と30代、女性の50代で9割台と高いが、男女とも70歳以上で5割台と低く、この年代への周知が進んでいないことが課題となっている。

### (5) SDGsに【関心がある】が3割台半ば、【関心がない】が3割台半ば近く

ア SDGsへの関心状況を性別で見ると、【関心がある】(「とても関心がある」+「関心がある」)は、女性(39.2%)の方が男性(33.6%)より5.6ポイント高くなっているが、【関心がない】(「あまり関心がない」+「全く関心がない」)で見ると、女性(26.3%)より男性(41.6%)の方が15.3ポイント大幅に高くなっている。

イ SDGsへの関心状況を性・年代別で見ると、【関心がない】は、男性の40代以下と60代で4割以上と高く、女性の30~60代の各年齢層で2割台以下と低くなっている。

## 11 区の取り組み

### (1) 「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」が7割台半ば近く、「足立区に愛着」が7割超

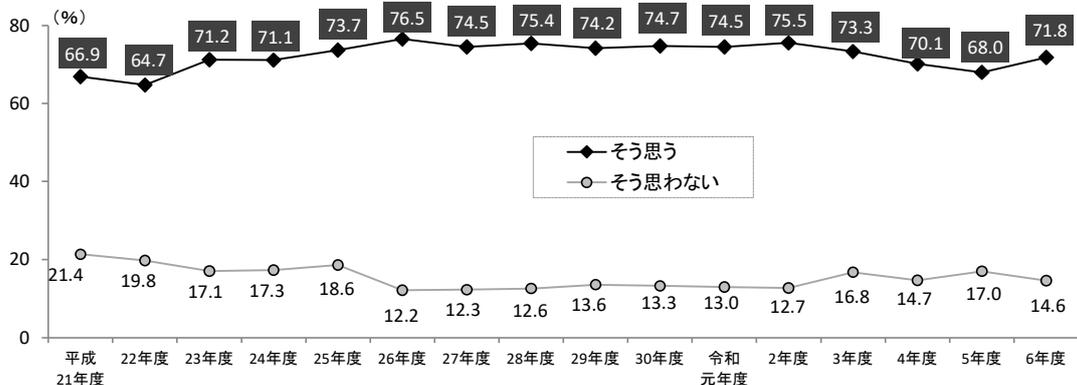
ア 平成21年度調査から今回の令和6年度調査まで16年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえばそう思う**」）の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は71.8%、〈足立区に誇りをもっている〉は43.5%、〈足立区を人に勧めたい〉は44.4%となっている。

イ 経年でみると、【**そう思う**】は3項目ともこの3年間減少を続けていたが、今回調査では、〈足立区に誇りをもっている〉が5.9ポイント、〈足立区を人に勧めたい〉が4.8ポイント、〈足立区に愛着をもっている〉が3.8ポイントそれぞれ増加した。

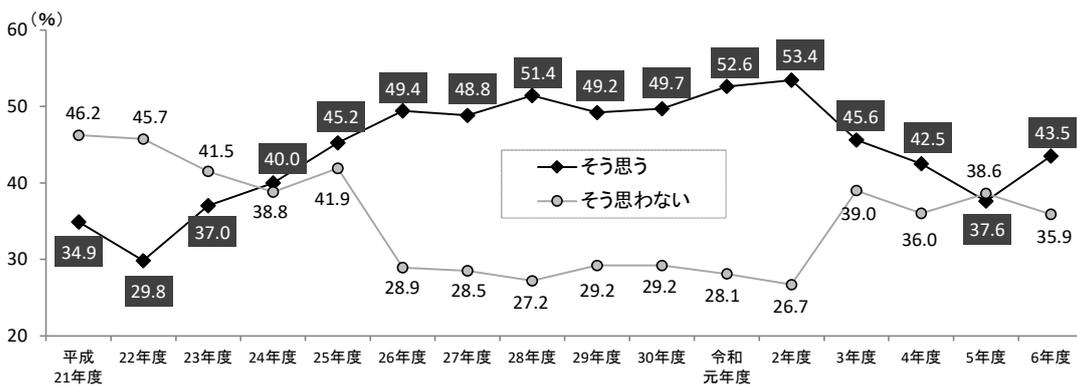
ウ また、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉については【**そう思う**】と【**そう思わない**】の割合の値が同様に推移しており正の相関がうかがえる。

エ 居住年数別でみると、【**そう思う**】は〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区に誇りをもっている〉は居住年数が長くなるほど割合が高くなる正の相関がみられるが〈足立区を人に勧めたい〉については、どの居住年数別でも4割前後から4割台半ばと差がない。

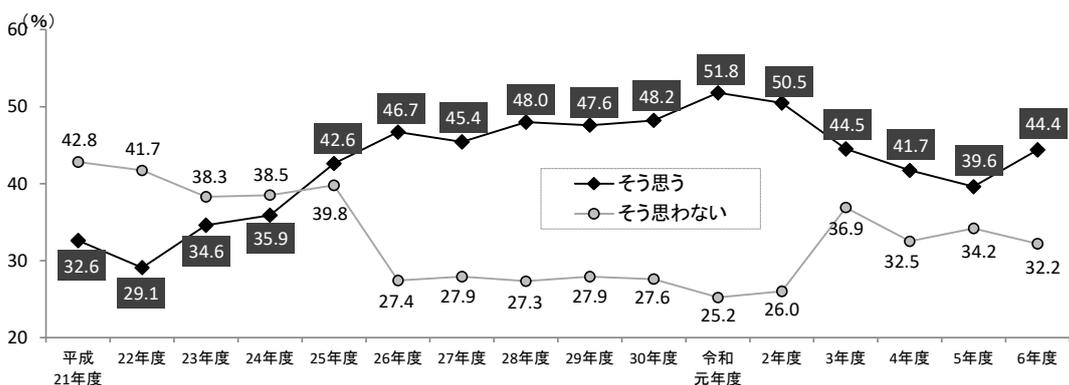
「足立区に愛着をもっている」



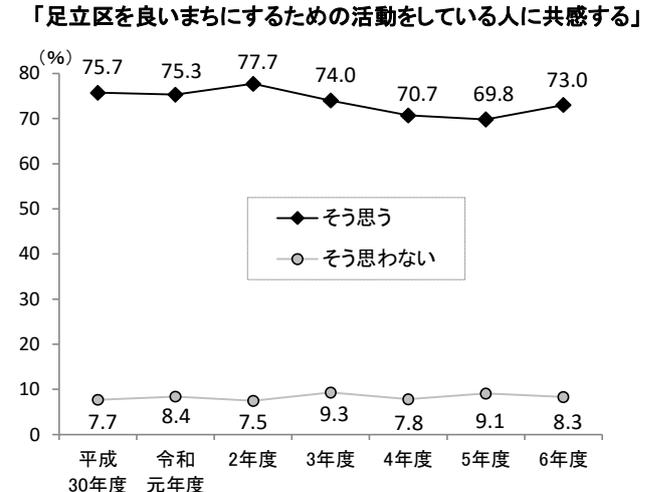
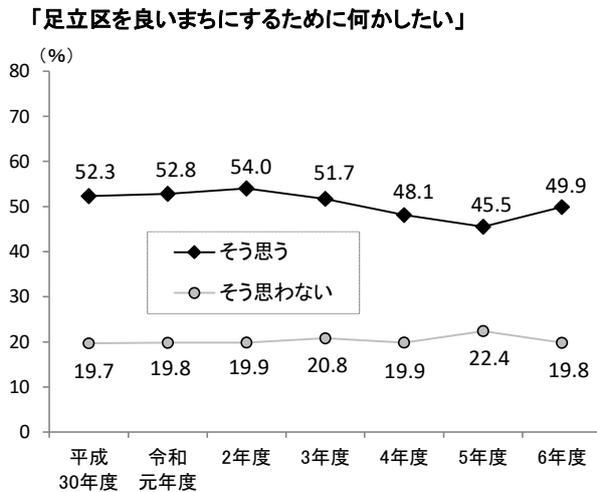
「足立区に誇りをもっている」



「足立区を人に勧めたい」



オ 平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【そう思う】をみると、それぞれ49.9%、73.0%と、前記の3項目同様に割合が増加となっている。



(2) 区を良いまちにするための行動については、【行動しなかった】が6割超で、【行動した】の3割を大きく上回る

- ア この1年間に「行動しなかった」が43.2%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(18.1%)を合わせた【行動しなかった】は61.3%となっている。
- イ 「行動した」は11.7%に留まり、「どちらかといえば行動した」(18.6%)を合わせた【行動した】は30.3%となっている。
- ウ 前回調査と比べると、【行動した】は5.7ポイントの増加となっている。
- エ 区を良いまちにするための行動を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【行動した】の割合は増加し、『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【行動した】は12.2%に留まったが、『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【行動した】は42.6%となっている。

(3) 区の取り組みで満足している分野は、「情報提供」が4割強で最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割台半ば超

- ア 21分野の区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が41.4%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(37.4%)、「保健衛生対策」(27.3%)、「高齢者支援」(21.7%)、「職員の接客態度」(19.2%)などとなっており、前回と上位5位の順位に変動はない。
- イ 区の取り組みで満足している分野について、性別でみたときに、男性の方が女性より高いのは9分野、女性の方が男性より高いのは12分野と分野数では大きな違いはなかったが、性差で3ポイント以上ある分野は、女性の方が高いのが4分野に対し、男性の方が高い分野はなかった。
  - a 女性の方が男性より3ポイント以上高い分野
    - 「保健衛生対策」(+9.1ポイント)、「治安対策」(+5.0ポイント)、「情報提供」(+4.1ポイント)、「生涯学習振興」(+3.6ポイント)

(4) 区の取り組みで不満な分野は、「交通対策」が約2割で最上位、次いで「住環境対策」が1割超

ア 21分野の区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が19.6%と最も高く、次いで、「住環境対策」(12.4%)、「都市開発」(11.8%)、「高齢者支援」(11.1%)、「低所得者支援」(10.1%)などとなっている。

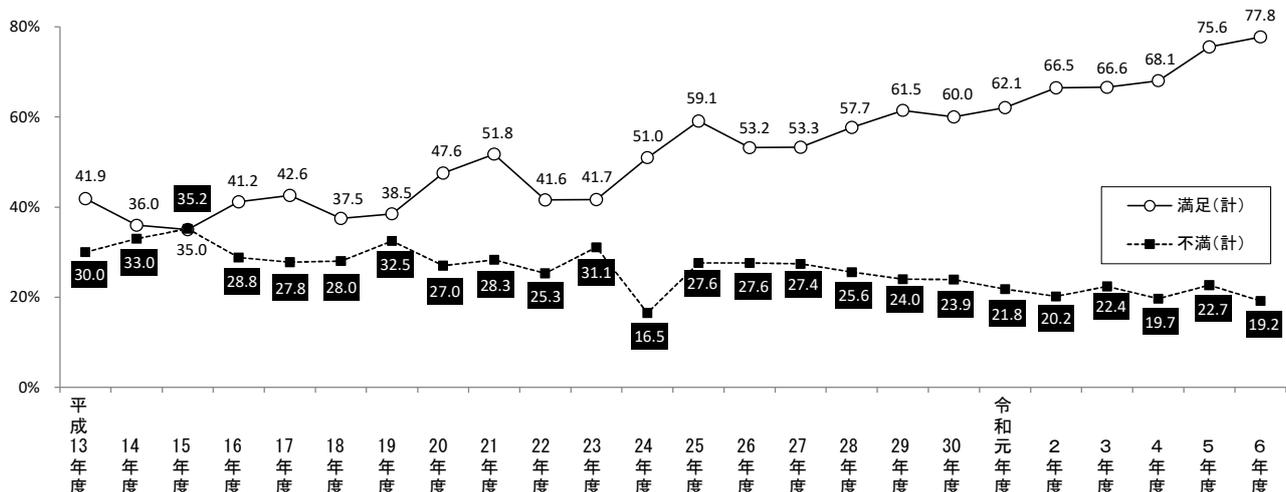
イ 区の取り組みで不満な分野について、性別でみると、区の取り組みで満足している分野に比べ、男女の差が小さく、女性の方が男性の割合より2ポイント以上高い分野はなかった。

ア 男性の方が女性より2ポイント以上高い分野

「情報提供」(+2.7ポイント)、「ICT活用」(+2.2ポイント)、「都市開発」(+2.0ポイント)、「高齢者支援」(+2.0ポイント)。

(5) 区政全体について【満足】は7割台半ば超で、平成25年※の設問開始以降の最高値を更新

ア 区政全体について、「やや満足」が64.5%と最も高く、「満足」(13.2%)を合わせた【満足】は77.8%となり、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。



※ 平成24年度までは「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」の5選択肢であったが、平成25年度以降は「わからない」の選択肢を除外した4選択肢となっており、単純に比較はできないが参考として掲載している。

イ 地域別でみると、【満足】は第15地域で86.8%と最も高く、次いで、第8地域(85.7%)、第13地域(83.1%)などとなっている。一方、【不満】は第12地域で27.9%と最も高く、次いで、第14地域(27.5%)、第11地域(25.9%)などとなっている。

ウ 性・年代別にみると、【満足】は、男性の30代で81.8%と最も高く、次いで、女性の30代(81.3%)、50代(80.8%)が続いている。一方、【不満】は女性の60代で26.4%と最も高く、次いで、男性の60代(25.6%)となっている。

(6) 今後特に力を入れてほしい分野は、「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「防災対策」が3割台半ば近くで続く

ア 21分野の区取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が36.2%と最も高く、次いで「防災対策」(33.4%)、「高齢者支援」(32.6%)、「都市開発」(29.7%)、「自然・緑化対策」(26.2%)などとなっている。

イ 地域別でみると、第6地域は「防災対策」「都市開発」「自然・緑化対策」「治安対策」「子育て支援」「産業振興」の6分野で、第13地域では「高齢者支援」「障がい者支援」「ICT活用」「資源環境対策」の4分野で、第10地域では「低所得者支援」「職員の接客態度」「男女共同参画推進」の3分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

ウ 性別でみたときに、21項目中13項目で男性の方が女性より割合が高くなっている。

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み  
「交通対策」(+4.7ポイント)、「低所得者支援」(+4.3ポイント)、「都市開発」(+3.6ポイント)、「情報提供」(+3.3ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み  
「高齢者支援」(+3.3ポイント)

エ 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 40代は、21項目中最多の6分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「学校教育対策」と「子育て支援」で10ポイント以上高くなっている。

b 18~29歳では、4分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」と「都市開発」の2分野で7ポイント以上高くなっている。

c 30代では、3分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」で17ポイント、「学校教育対策」で14ポイント以上高くなっている。

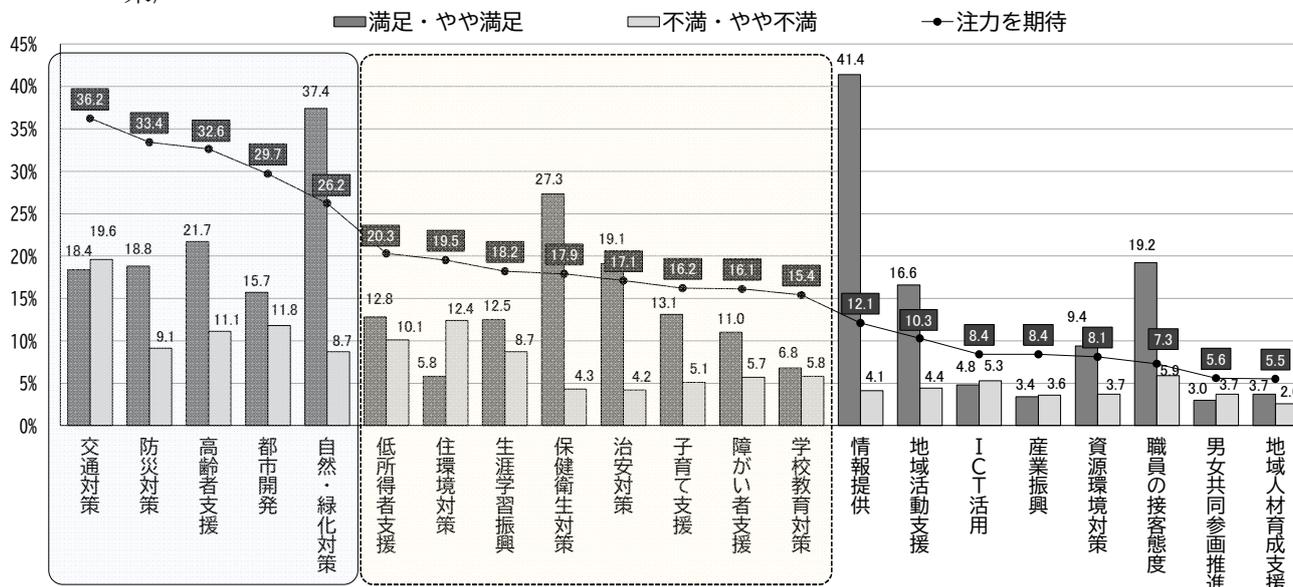
(7) 「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況から見える、課題となる取り組み

ア 各取り組みに対する、「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況を見ると、下記の取り組みが課題となっている。

a 「注力を期待」が大きく、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈交通対策〉

b 「注力を期待」が大きく、「満足評価」の方が大きいものの「不満評価」と大きな差がないのは、〈都市開発〉

c 「注力を期待」は中位だが、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈住環境対策〉

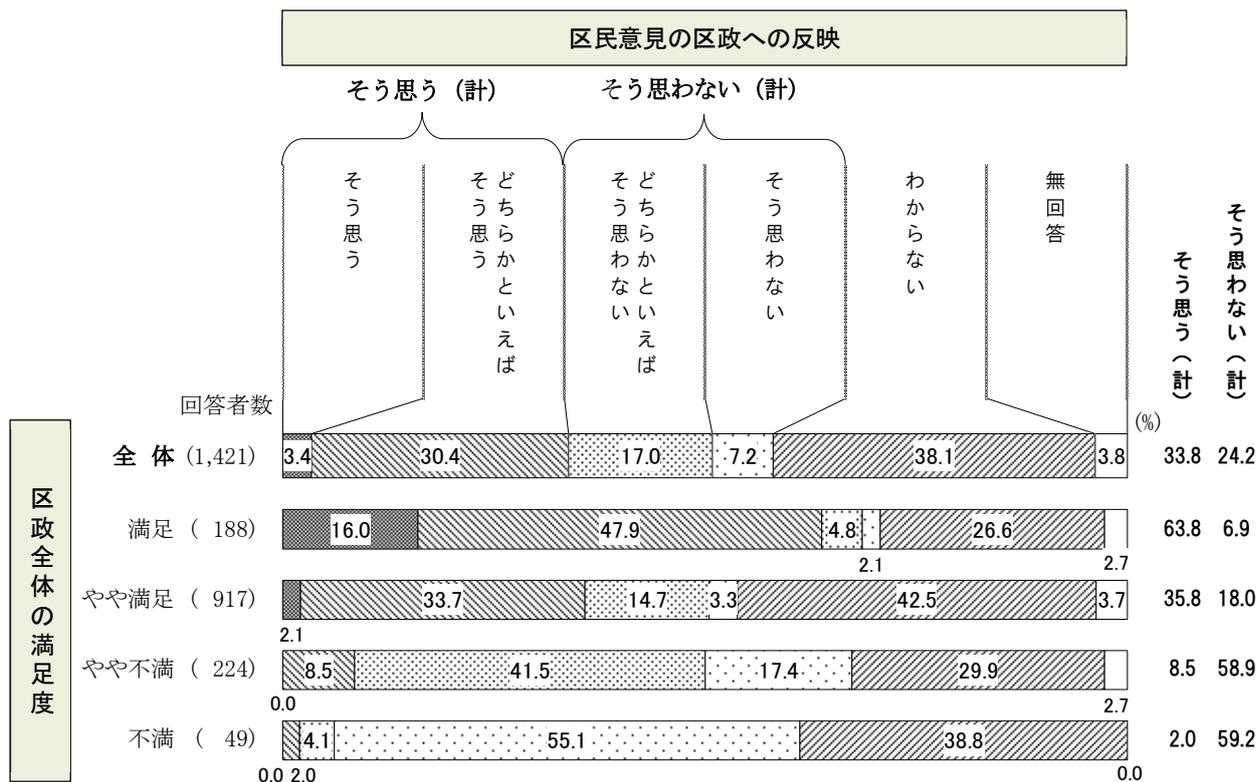


(8) 区政への区民意見の反映について、【**そう思う**】は4ポイント増加し3割台半ば、【**そう思わない**】は変わらず2割台半ば、「**わからない**」が4.4ポイント減少し4割近く

ア 区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「**そう思う**」(3.4%)と「**どちらかといえばそう思う**」(30.4%)を合わせた【**そう思う**】は33.8%となり、「**どちらかといえばそう思わない**」(17.0%)と「**そう思わない**」(7.2%)を合わせた【**そう思わない**】(24.2%)を10ポイント近く上回っている。

イ 前回調査と比較してみると、【**そう思う**】が4ポイント増加している。

ウ 区政満足度別でみると、【**そう思う**】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で6割台半ば近くと高くなっている。



## 区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

### 1 足立区に愛着をもっている

全体	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年	(%)
	28年			元年						
	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1	68.0	71.8	

男性	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年
	28年			元年					
全体	77.4	76.1	76.1	75.1	77.5	73.9	71.2	67.7	72.7
18～19歳	—	—	—	—	—	68.1	55.2	59.3	71.2
20代	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7				
30代	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2	53.0	75.8
40代	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3	68.4	76.4
50代	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8	71.8	66.4
60代	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4	66.0	76.7
70歳以上	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1	73.0	72.4

女性	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年
	28年			元年					
全体	73.9	73.6	73.6	73.9	74.3	73.2	69.2	68.4	71.3
18～19歳	—	—	—	—	—	67.5	54.3	59.4	65.4
20代	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3				
30代	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3	59.3	65.0
40代	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0	66.9	74.6
50代	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3	69.7	76.8
60代	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5	75.0	69.6
70歳以上	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7	72.9	71.2

### 2 足立区に誇りをもっている

全体	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年	(%)
	28年			元年						
	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5	37.6	43.5	

男性	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年
	28年			元年					
全体	56.1	51.5	52.7	55.6	56.8	48.9	43.6	38.8	44.7
18～19歳	—	—	—	—	—	43.1	23.9	25.4	32.7
20代	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8				
30代	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3	22.7	36.4
40代	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0	28.9	43.8
50代	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3	37.3	39.5
60代	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9	44.7	46.5
70歳以上	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7	53.0	53.3

女性	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年
	28年			元年					
全体	47.8	47.7	47.5	50.1	50.9	43.1	41.6	36.9	43.1
18～19歳	—	—	—	—	—	28.9	31.4	22.8	38.3
20代	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7				
30代	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8	27.4	31.3
40代	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2	37.9	47.5
50代	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3	41.1	43.7
60代	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5	34.2	40.0
70歳以上	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0	44.7	47.7

### 3 足立区を人に勧めたい

全体	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年	(%)
	28年			元年						
	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7	39.6	44.4	

男性	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年
	28年			元年					
全体	53.3	49.6	52.6	54.2	54.8	47.9	43.5	39.8	46.5
18～19歳	—	—	—	—	—	40.3	34.3	32.2	53.8
20代	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4				
30代	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3	40.9	51.5
40代	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8	38.6	44.9
50代	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5	40.8	46.2
60代	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6	40.4	40.7
70歳以上	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8	41.6	46.2

女性	平成	29年	30年	令和	2年	3年	4年	5年	6年
	28年			元年					
全体	44.7	46.5	44.7	49.8	47.7	41.5	40.2	39.6	42.9
18～19歳	—	—	—	—	—	38.6	40.0	32.7	51.9
20代	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7				
30代	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8	45.1	47.5
40代	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1	41.9	52.5
50代	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4	47.4	45.7
60代	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6	36.7	36.0
70歳以上	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4	34.9	35.4

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1	45.5	49.9

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	53.5	54.1	56.4	52.2	48.1	46.8	52.5
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3	39.0	59.6
20代	45.8	39.1	44.1				
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8	43.9	62.1
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8	49.1	66.3
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0	49.3	53.8
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0	47.9	43.0
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8	46.5	44.7

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	51.9	51.8	52.2	51.9	48.1	44.9	48.1
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4	42.6	45.7
20代	41.6	39.4	41.3				
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9	48.7	51.3
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3	50.8	61.9
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1	49.7	57.0
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9	45.8	44.0
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8	37.6	37.9

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7	69.8	73.0

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	75.1	75.0	77.5	71.8	70.7	69.2	71.8
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7	62.7	67.3
20代	64.4	59.4	67.8				
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7	57.6	74.2
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5	71.9	78.7
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4	77.5	74.8
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4	67.0	62.8
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1	68.6	71.4

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	76.4	75.6	77.8	76.4	70.9	70.3	74.2
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6	66.3	71.6
20代	61.0	66.7	66.3				
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5	72.6	71.3
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1	76.6	82.2
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3	76.0	78.8
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0	72.5	76.0
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3	63.1	68.3

## 区政の満足度と正の相関がみられる / 暮らしやすさ / 定住意向 / 情報の入手 / 治安

※各割合(%)は全体(1,421)に対する割合となっています。

## 1 「区政に満足している層」は&lt;暮らしやすい&gt;と感じている

		<区政満足度>					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<暮らしやすさ>		13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	(%)
暮らしやすい		8.4	18.0	1.9	0.1	0.4	
どちらかといえば暮らしやすい		4.4	40.5	9.0	1.5	1.8	
どちらかといえば暮らしにくい		0.2	4.4	3.9	1.1	0.4	
暮らしにくい		0.0	0.8	0.8	0.7	0.1	
《暮らしやすい・計》		71.3		12.5			

## 2 「区政に満足している層」は&lt;住み続けたい&gt;と考えている

		<区政満足度>					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<定住意向>		13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	(%)
ずっと住み続けたい		9.1	24.4	3.4	0.3	1.3	
当分は住み続けたい		3.4	31.0	7.7	1.0	1.1	
区外に転出したい		0.2	2.4	2.1	1.2	0.1	
わからない		0.4	6.2	2.5	0.9	0.6	
《住み続けたい・計》		67.9		12.4			

## 3 「区政に満足している層」は&lt;区の情報得られている&gt;

		<区政満足度>					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<区の情報入手状況>		13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	(%)
十分に得られている		1.3	2.0	0.2	0.0	0.2	
ある程度得られている		9.4	47.4	8.7	1.3	2.1	
得られないことが多い		0.7	7.8	3.9	0.8	0.3	
まったく得られない		0.5	1.0	0.6	0.1	0.1	
必要と思ったことがない		0.4	3.1	1.3	0.5	0.1	
区の情報に関心がない		0.6	2.0	0.8	0.7	0.1	
《情報が得られている・計》		60.1		10.2			

## 4 「区政に満足している層」は&lt;地域の治安が良い&gt;と感じている

		<区政満足度>					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<地域の治安状況>		13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	(%)
良い		3.7	5.5	0.4	0.1	0.4	
どちらかといえば良い		7.0	39.3	6.1	0.6	1.5	
どちらかといえば悪い		1.1	11.4	5.3	1.1	0.4	
悪い		0.1	1.1	1.6	0.8	0.1	
わからない		0.6	6.3	2.0	0.6	0.4	
《地域の治安が良い・計》		55.5		7.2			



## 第3章 調査結果の分析



# 1 定住性

- 
- (1) 居住地域の評価
  - (2) 地域の暮らしやすさ
  - (3) 特に暮らしにくいと感じること
  - (4) 定住意向
-



## 1 定住性

### (1) 居住地域の評価

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか

(○はそれぞれ1つずつ)。

■ 〈普段の買い物が便利である〉が7割台後半、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が7割近く

#### ア 単純集計・経年比較／居住地域の評価

(ア) 住んでいる地域について感じていることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈普段の買い物が便利である〉(76.4%)
- ② 〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(68.6%)
- ③ 〈快適で安全なまちである〉(62.8%)
- ④ 〈まちなかの花や緑が多い〉(62.6%)

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(62.5%)
- ② 〈文化芸術に親しめるまちである〉(50.7%)
- ③ 〈よく行く、または行きたい公園がある〉(38.1%)

(ウ) 前回調査と比較すると、【そう思う】は15項目のうち14項目で増加しており、増加幅が大きい上位5項目は以下のとおりである。なお、減少している項目は〈普段の買い物が便利である〉(-1.4ポイント)のみとなっている。

- ① 〈景観・街並みが良好である〉(5.9ポイント)
- ② 〈地域の施設(建物や道路など)は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉(4.8ポイント)
- ③ 〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉(4.4ポイント)
- ④ 〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉(4.3ポイント)
- ⑤ 〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉(3.9ポイント)

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

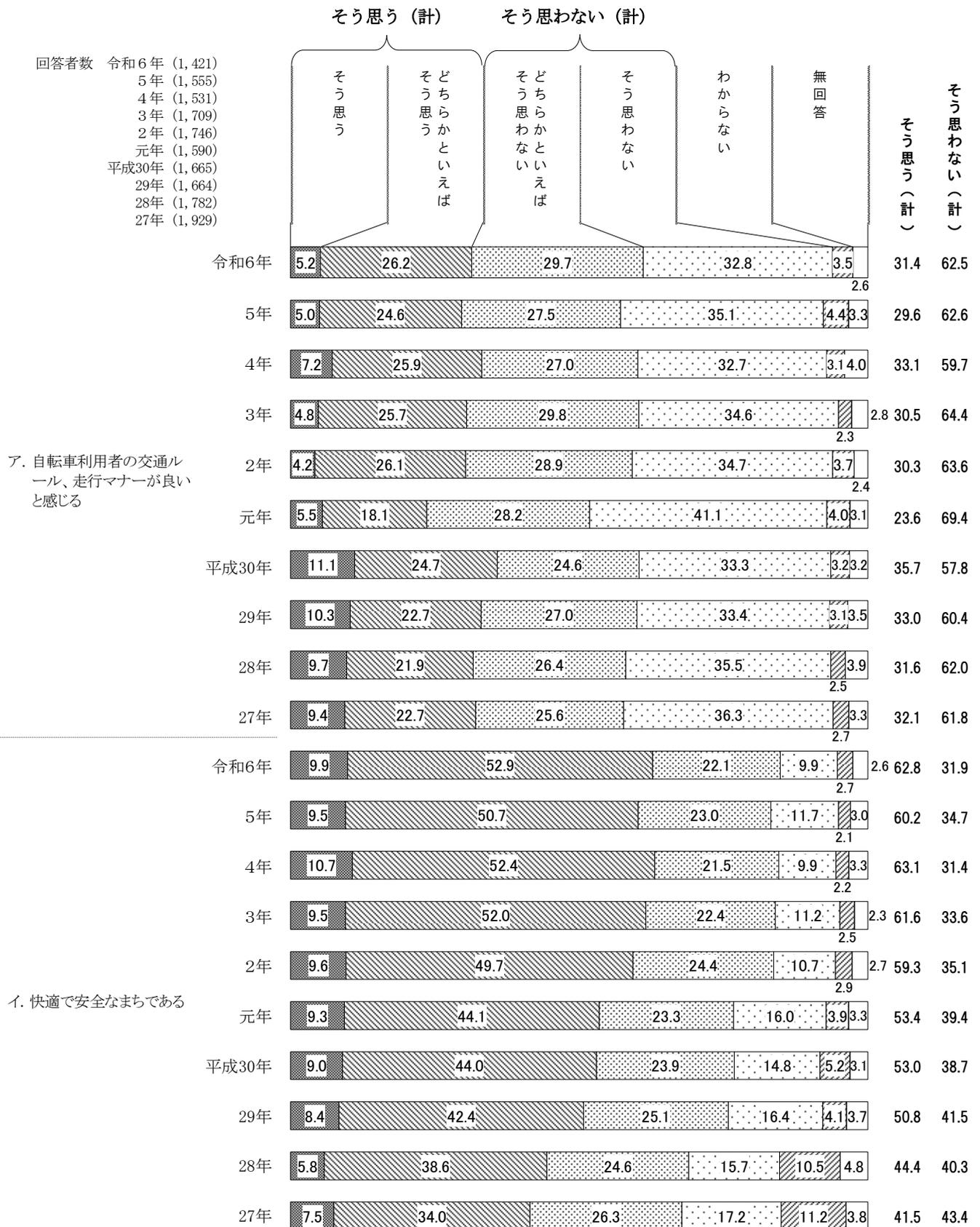


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価

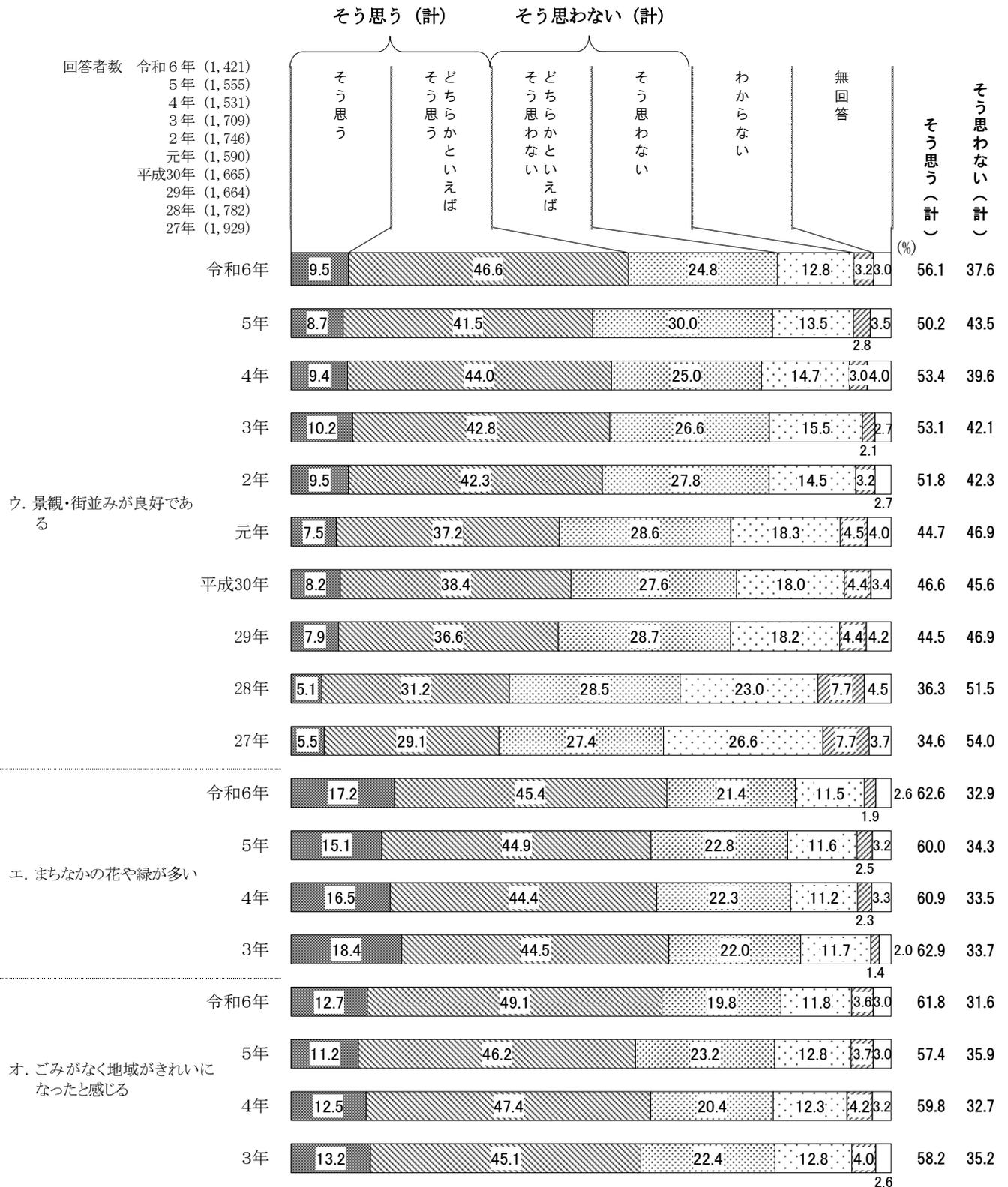


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

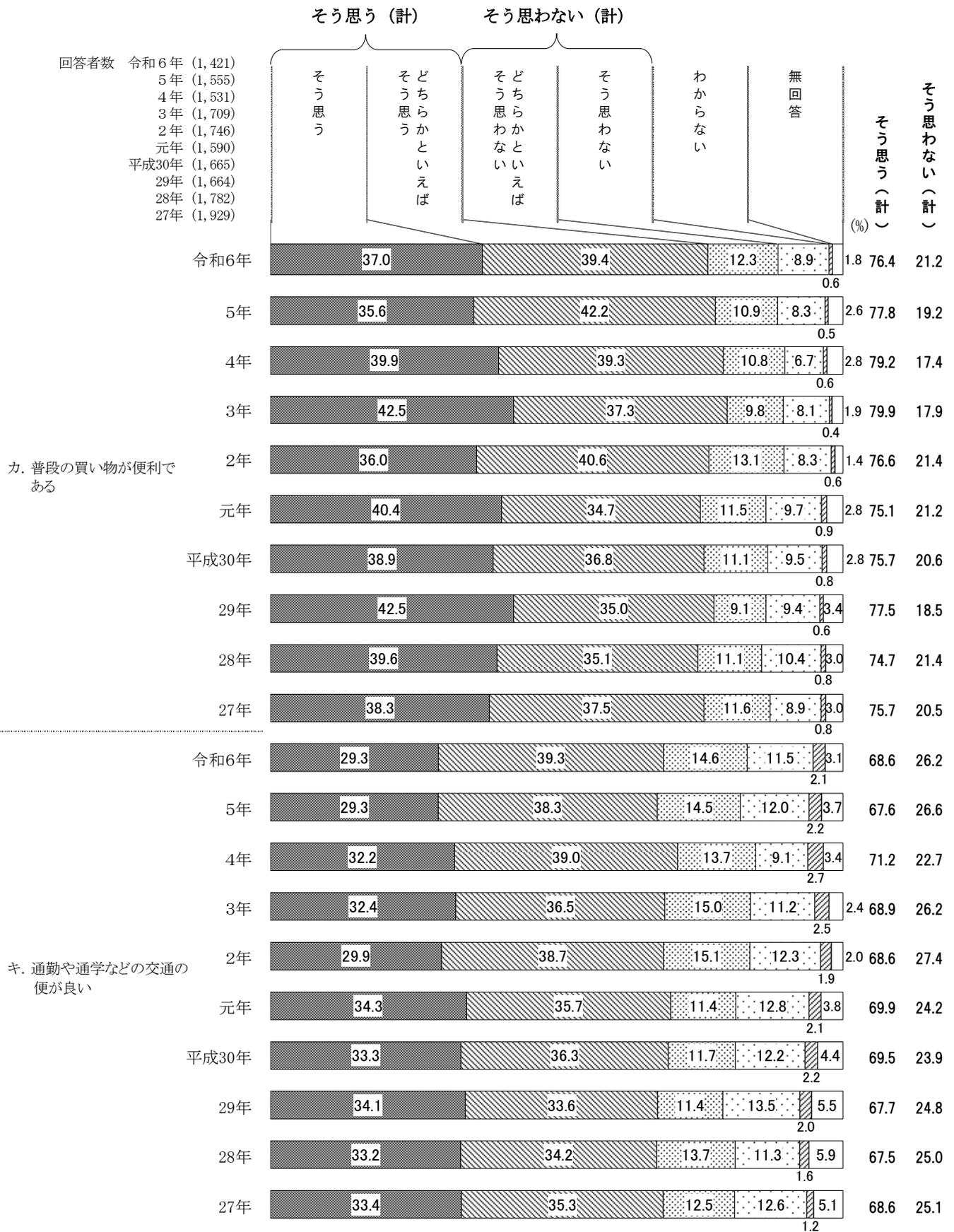


図1-1-1-④ 経年比較／居住地域の評価

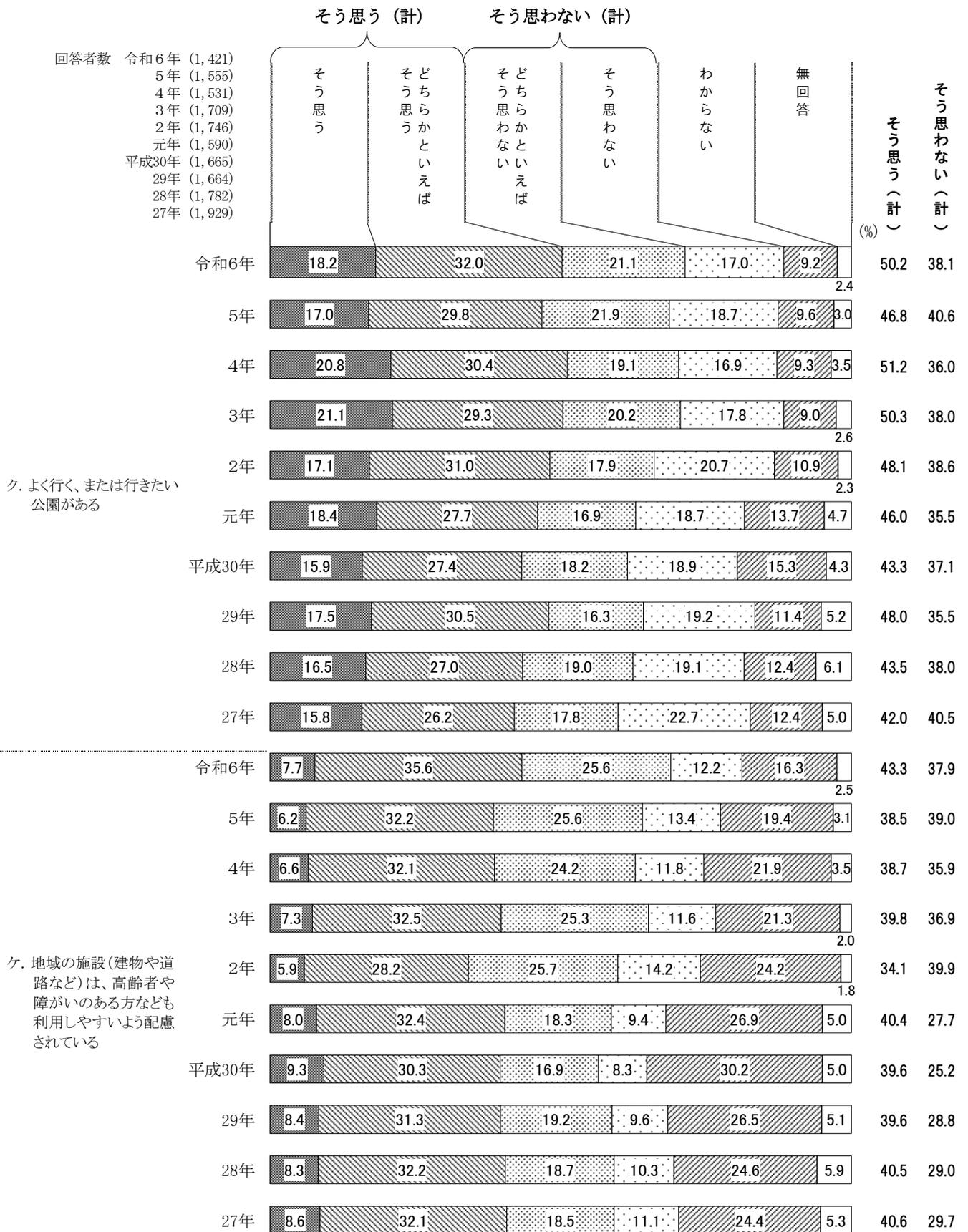


図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価

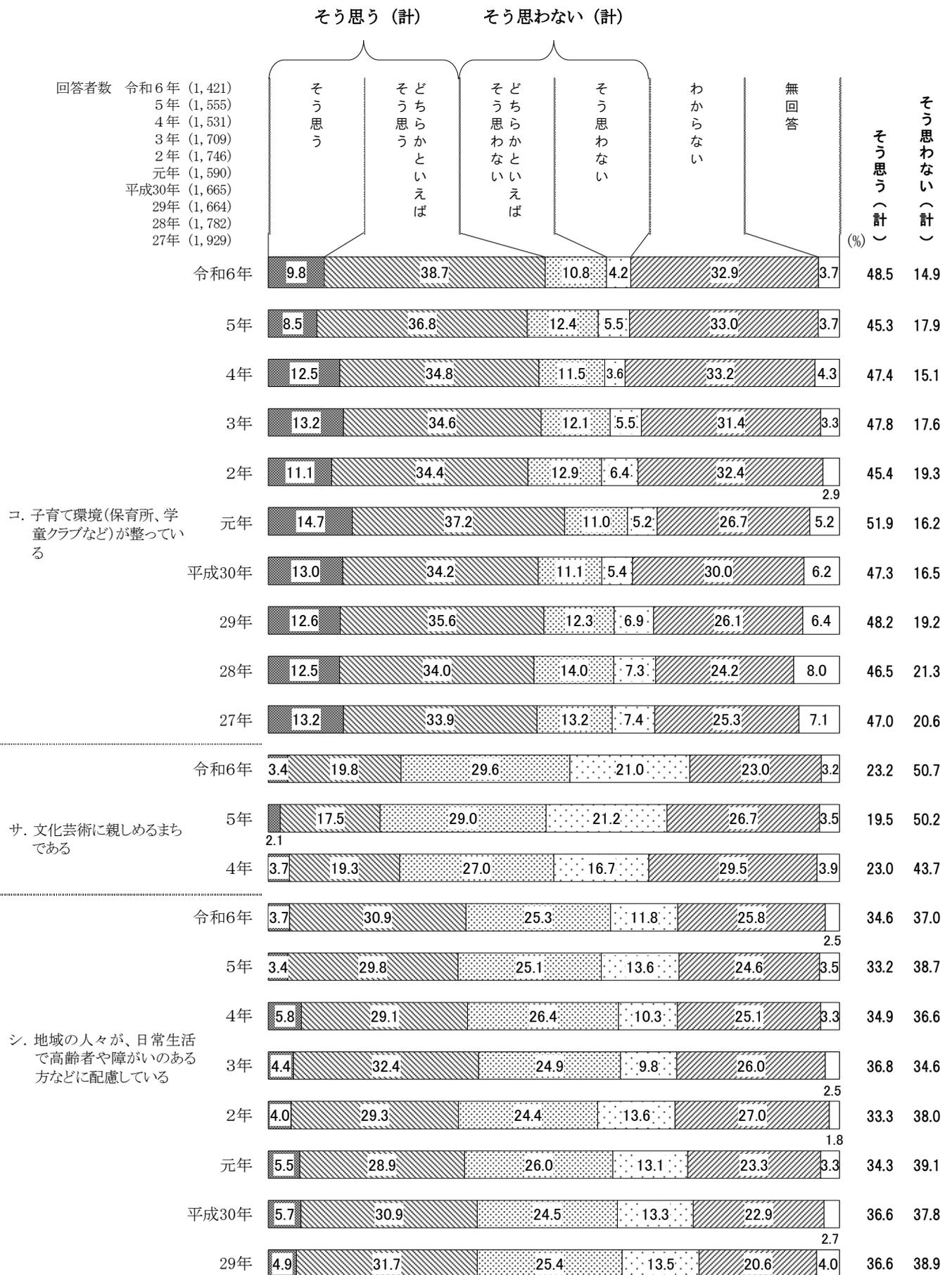
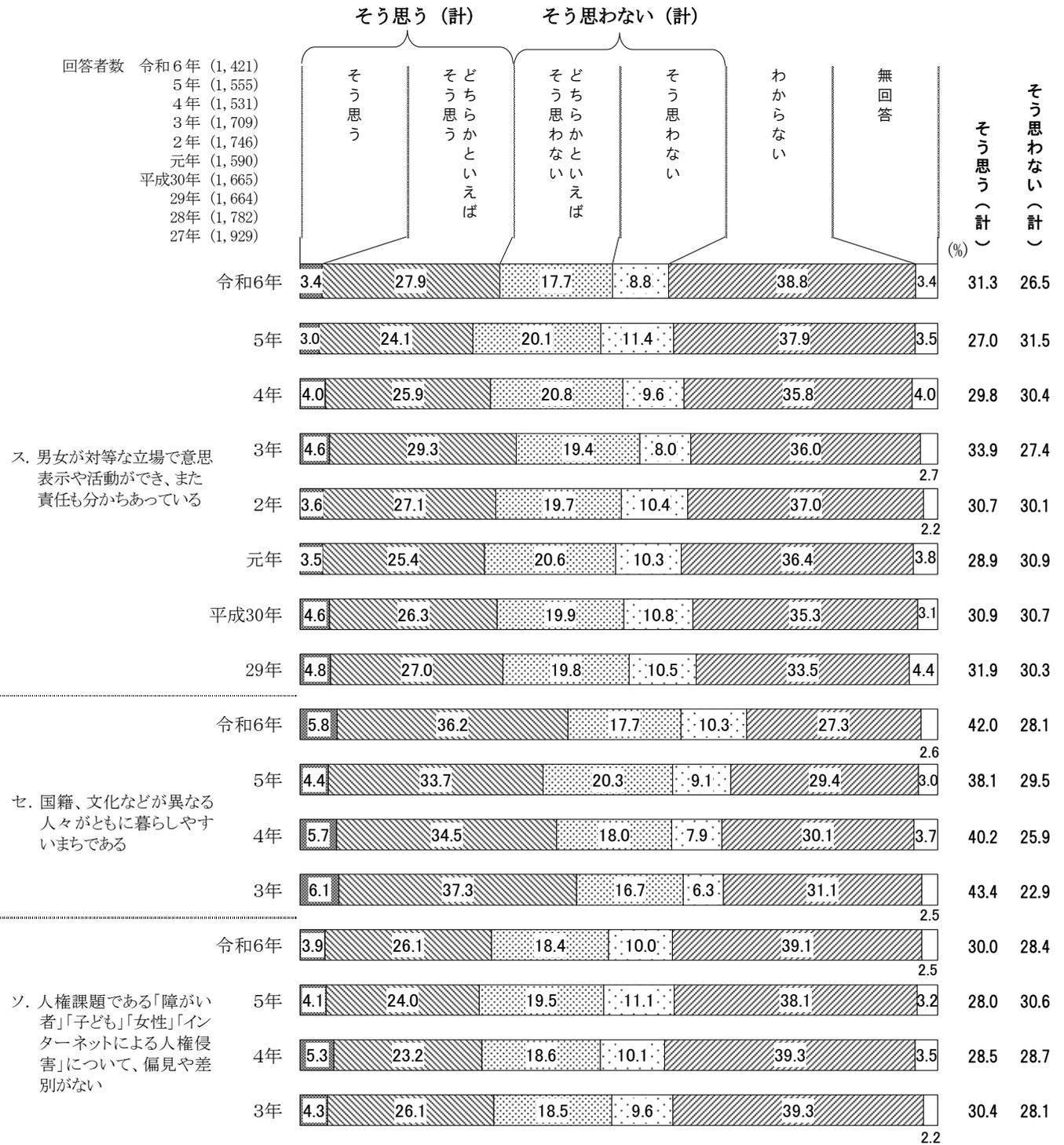


図1-1-1-⑥ 経年比較／居住地域の評価



※ アは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。  
 ※ イは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。  
 ※ ウは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。  
 ※ ケは、令和2年度に「地域の施設」の部分に「地域の施設（建物や道路など）」に表現をかえた。

イ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

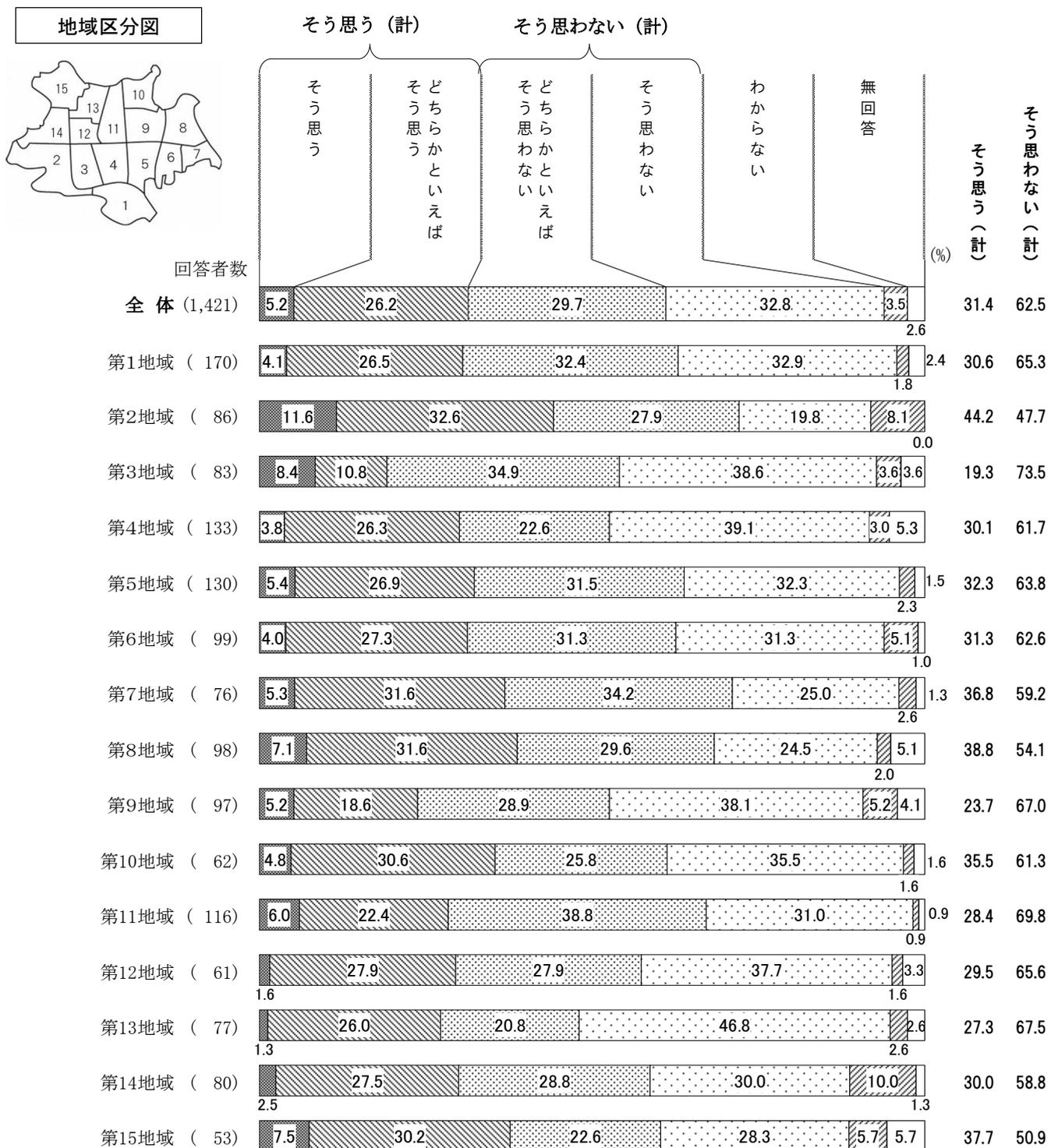
自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる

次に、各項目について、地域別でみた。

〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉について、【そう思う】は第2地域で44.2%と最も高く、次いで第8地域が38.8%となっている。一方、【そう思わない】は第3地域で73.5%と最も高く、次いで第11地域が69.8%となっている。

図1-1-2-① 地域別／居住地域の評価

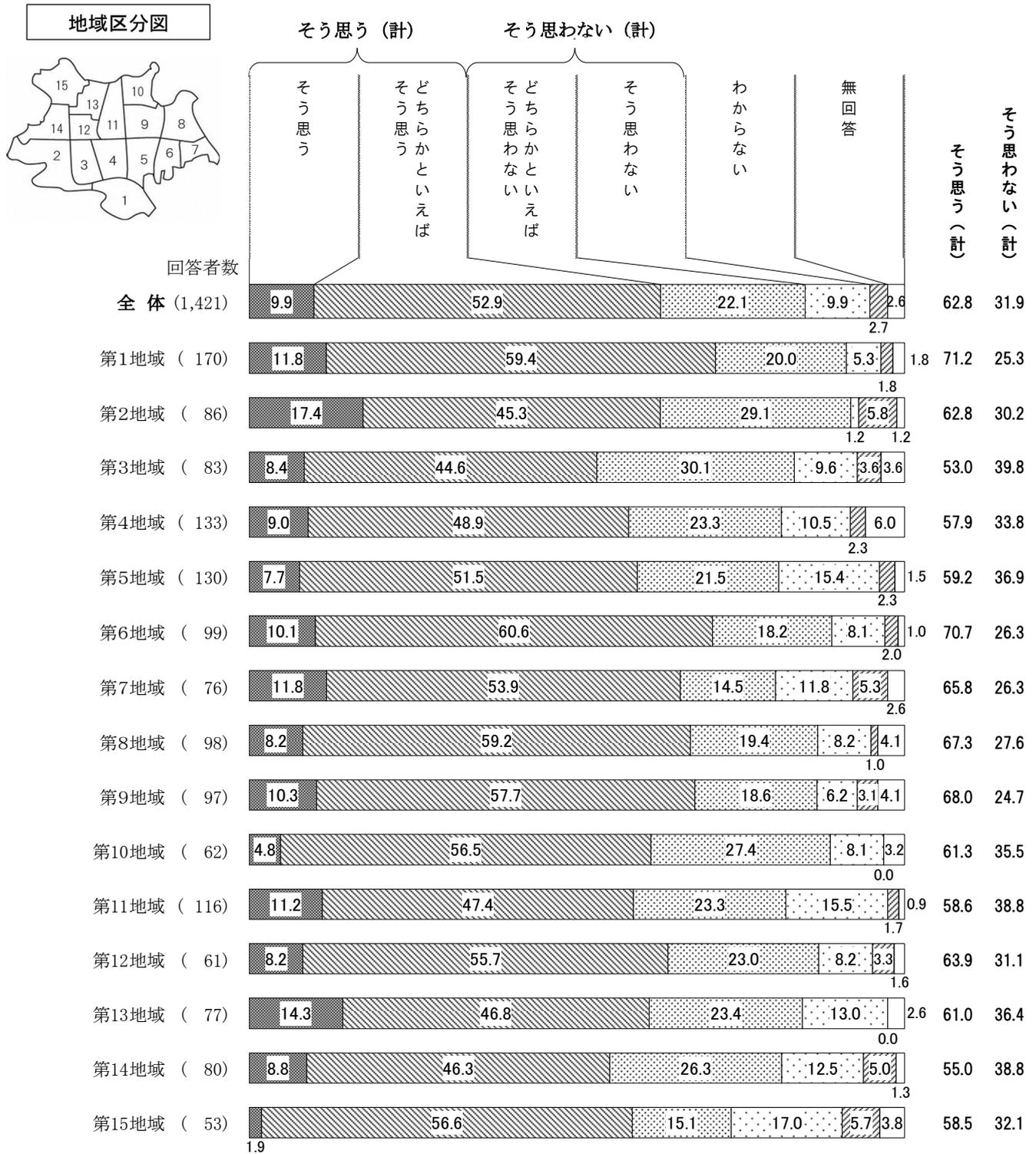
／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる



ウ クロス集計・地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである

〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第1地域で71.2%と最も高く、次いで第6地域が70.7%となっている。一方、【そう思わない】は第3地域で39.8%と最も高く、次いで第11地域と第14地域が38.8%となっている。

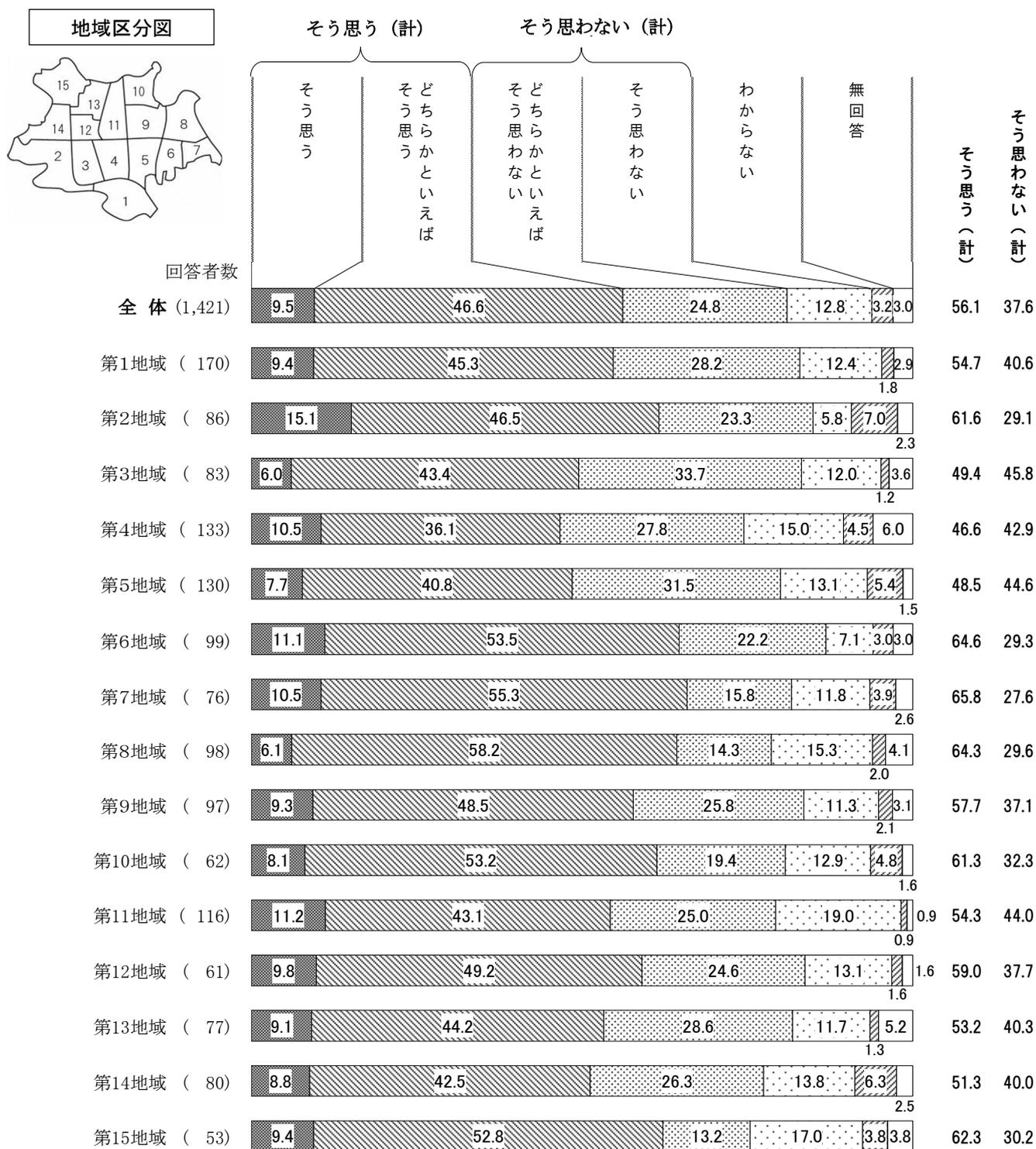
図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



エ クロス集計・地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である

〈景観・街並みが良好である〉について、【そう思う】は第7地域で65.8%と最も高く、次いで第6地域が64.6%となっている。一方、【そう思わない】は第3地域で45.8%と最も高く、次いで第5地域が44.6%と続いている。

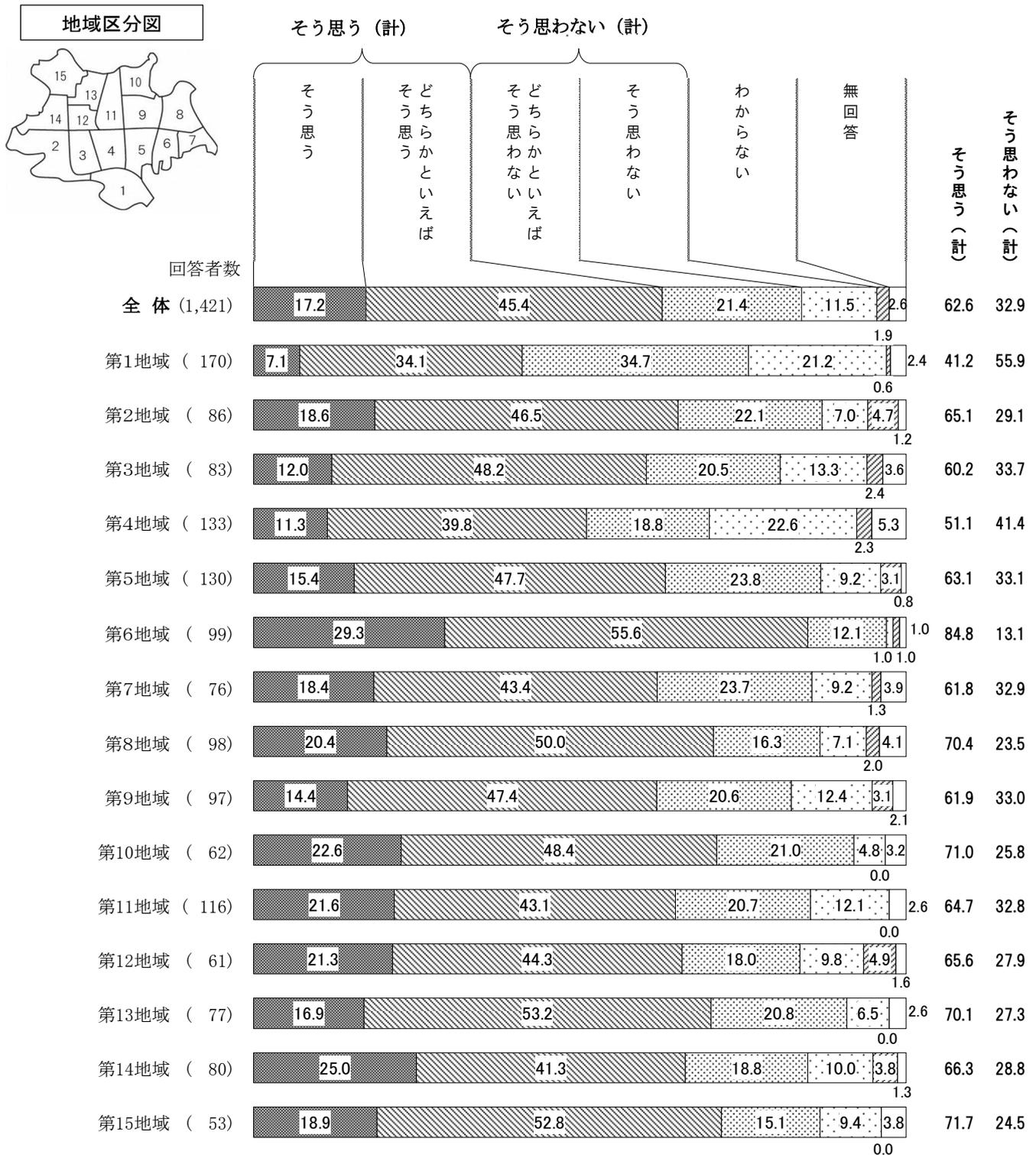
図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である



オ クロス集計・地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い

〈まちなかの花や緑が多い〉について、【そう思う】は第6地域が84.8%で最も高く、次いで第15地域が71.7%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域で55.9%と最も高く、次いで第4地域が41.4%となっている。

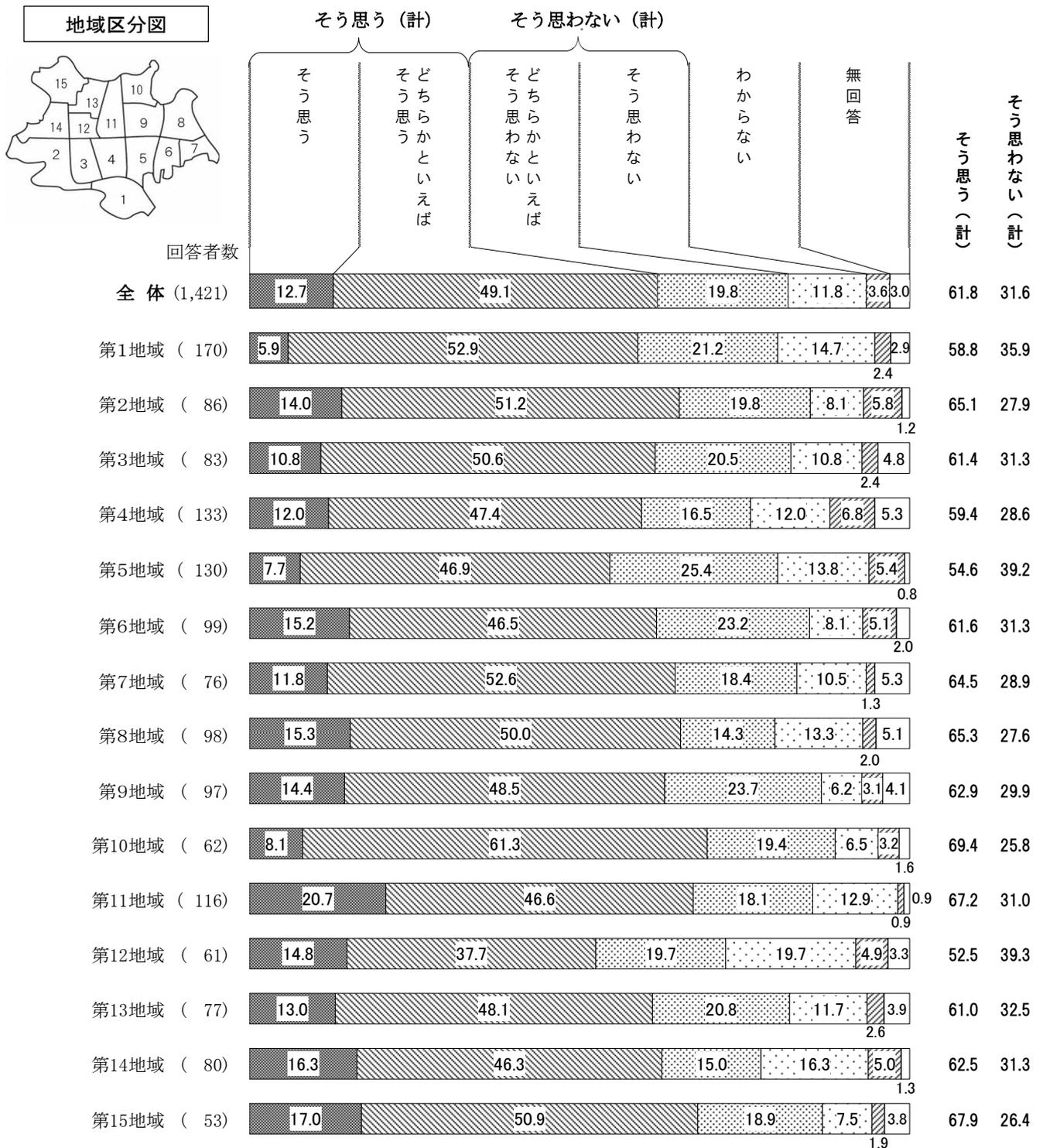
図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い



カ クロス集計・地域別／居住地の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる

〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉について、【そう思う】は第10地域が69.4%と最も高く、次いで第15地域が67.9%となっている。一方、【そう思わない】は第12地域で39.3%と最も高く、僅差で第5地域が39.2%となっている。

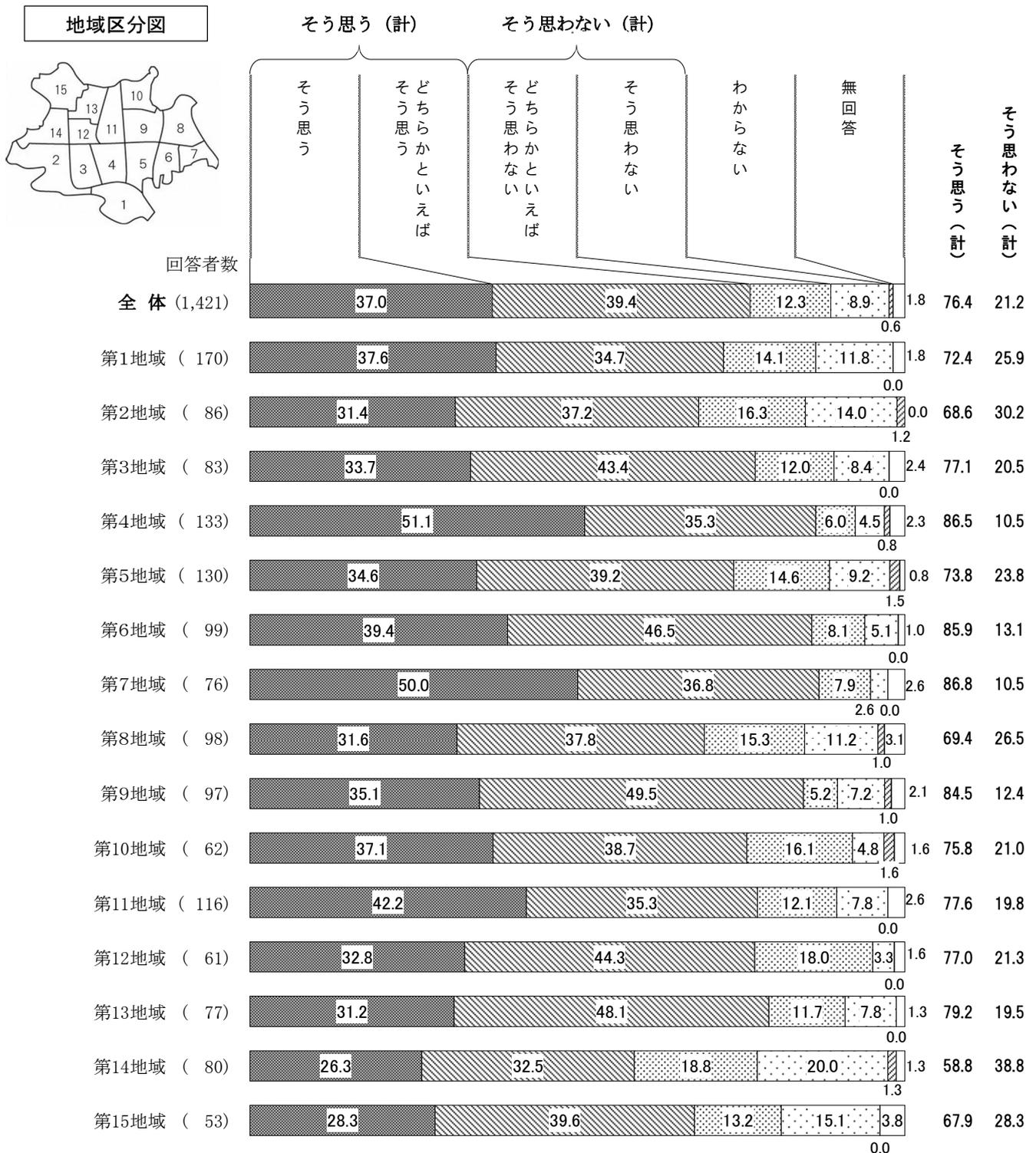
図1-1-2-⑤ 地域別／居住地の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる



キ クロス集計・地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である

〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第7地域で86.8%と最も高く、次いで第4地域が86.5%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で38.8%と他の地区に比べて特に高くなっており、次いで第2地域が30.2%となっている。

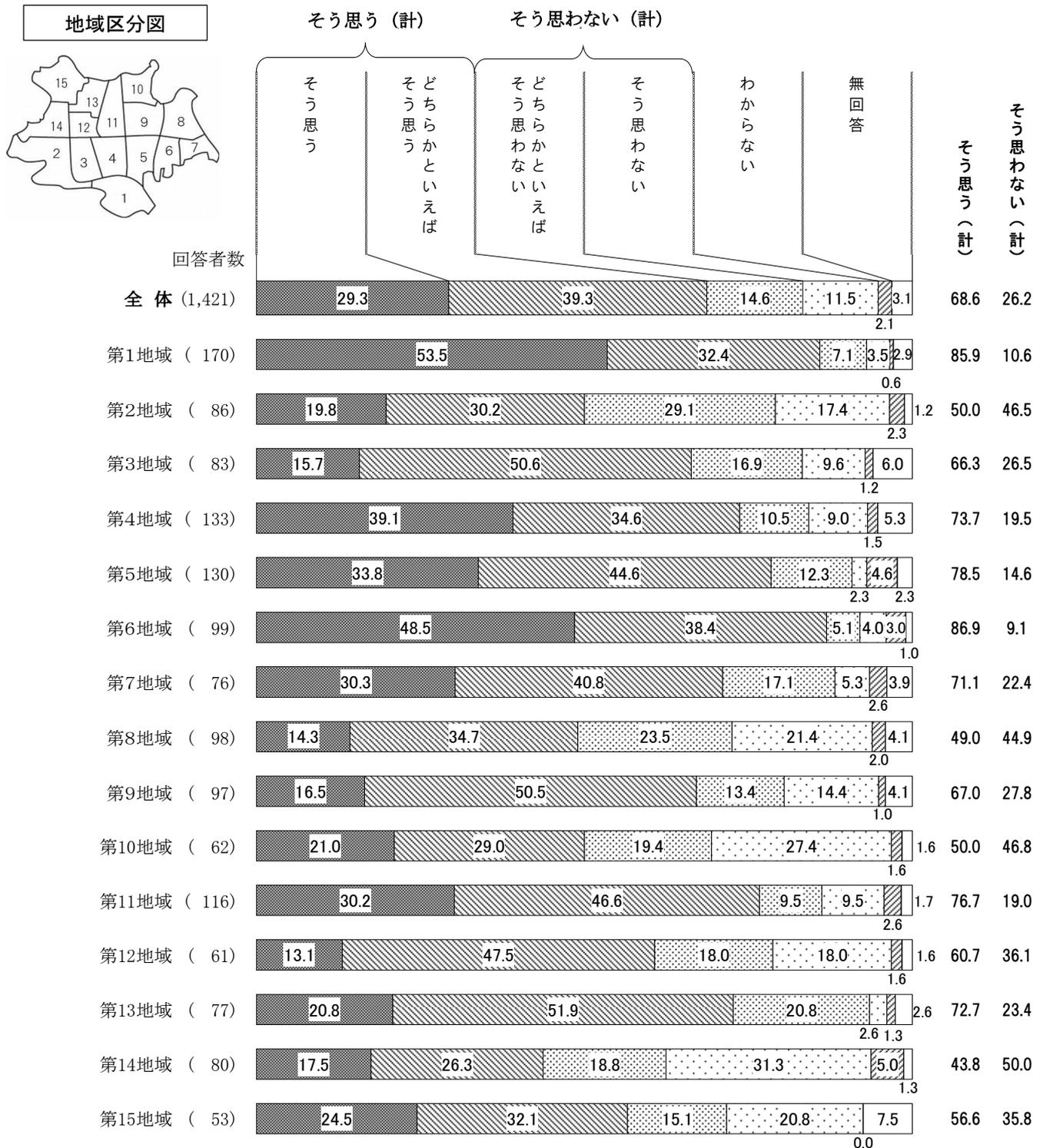
図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



ク クロス集計・地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い

〈通勤や通学などの交通の便が良い〉について、【**そう思う**】は第6地域で86.9%と最も高く、次いで第1地域が85.9%となっている。一方、【**そう思わない**】は第14地域で50.0%と最も高く、次いで第10地域が46.8%となっている。

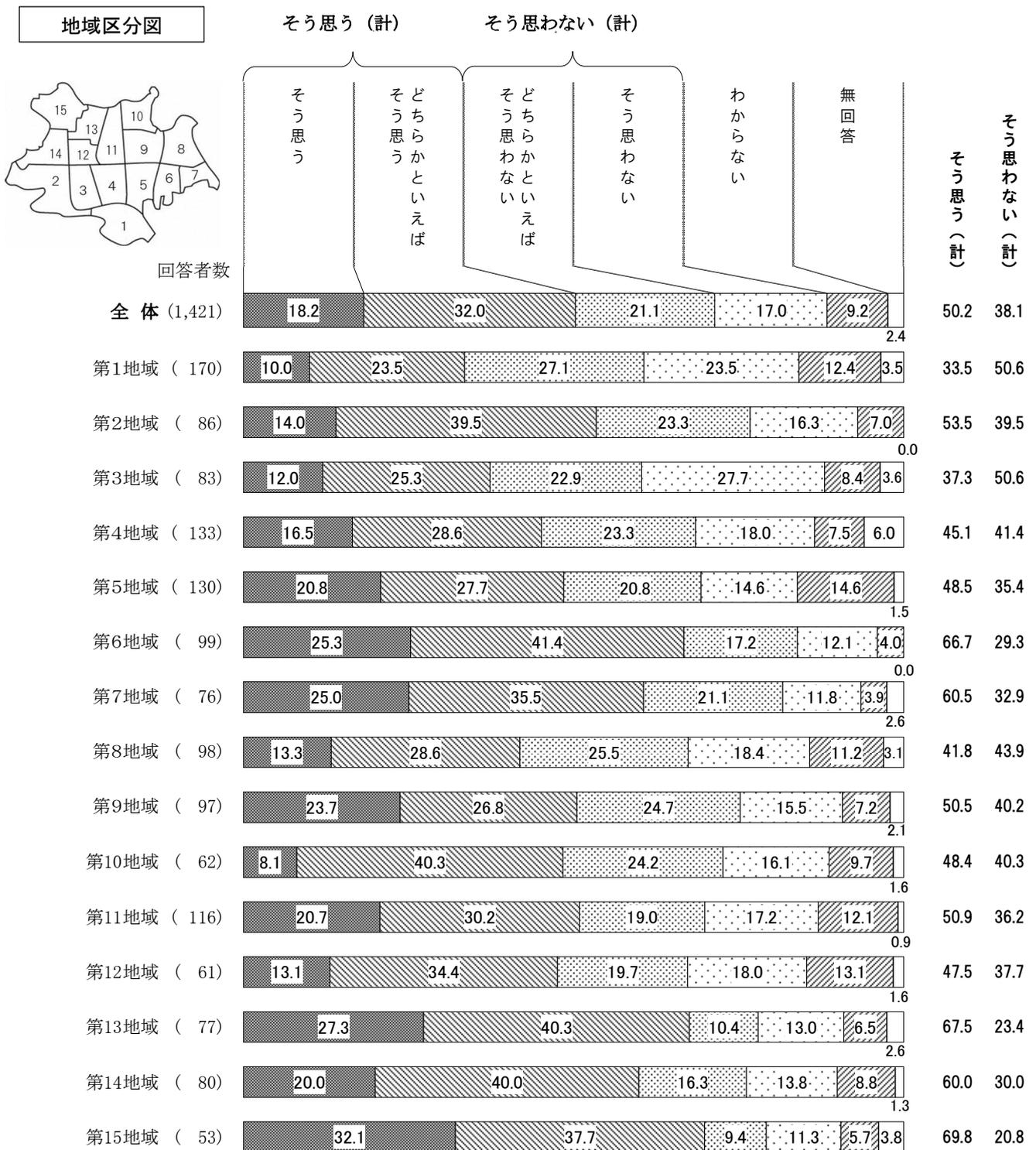
図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い



ケ クロス集計・地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある

〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【そう思う】は第15地域が69.8%で最も高く、次いで第13地域で67.5%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域と第3地域がともに50.6%で最も高くなっている。

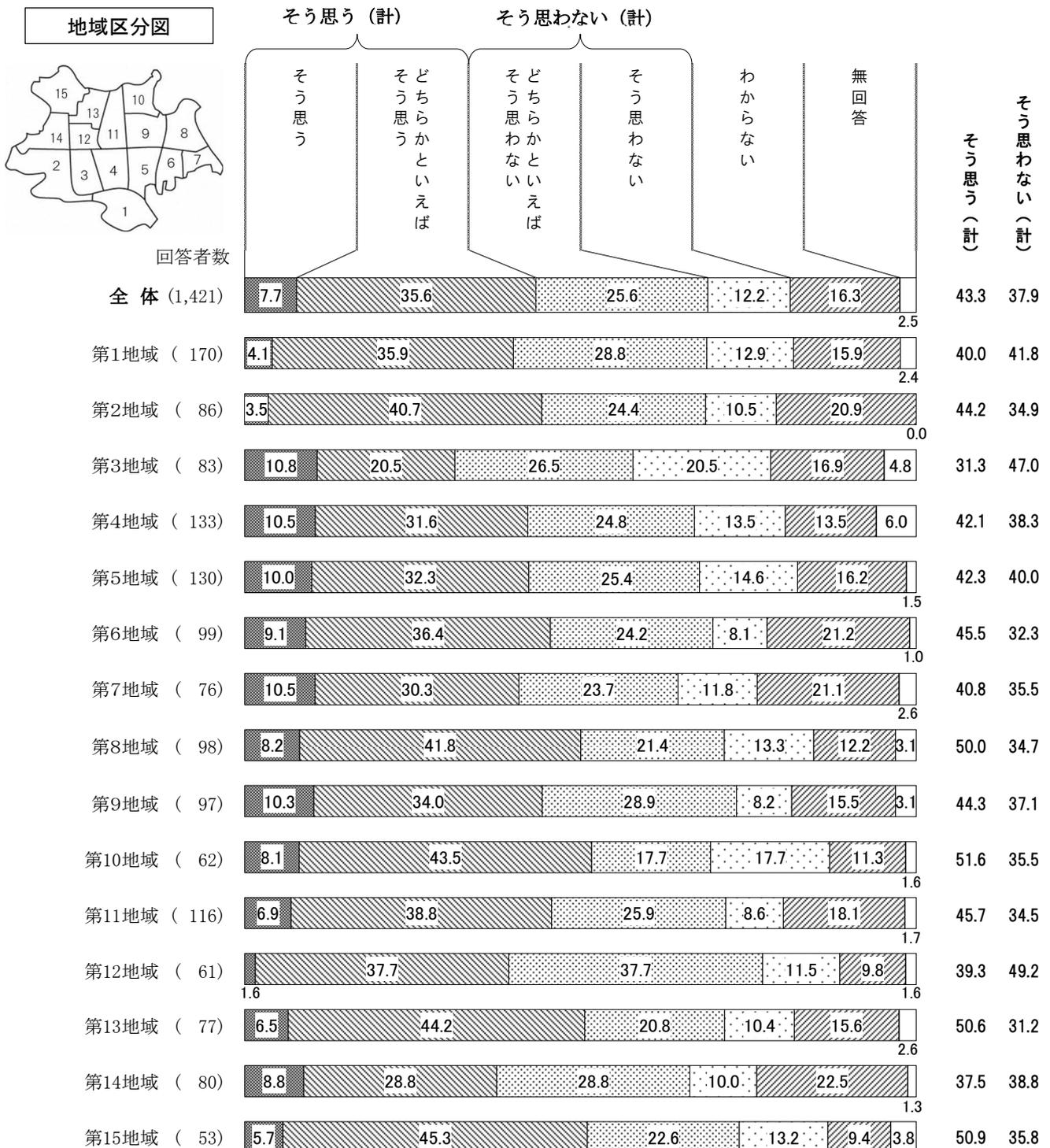
図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



コ クロス集計・地域別／居住地の評価／地域の施設（建物や道路など）は、  
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている

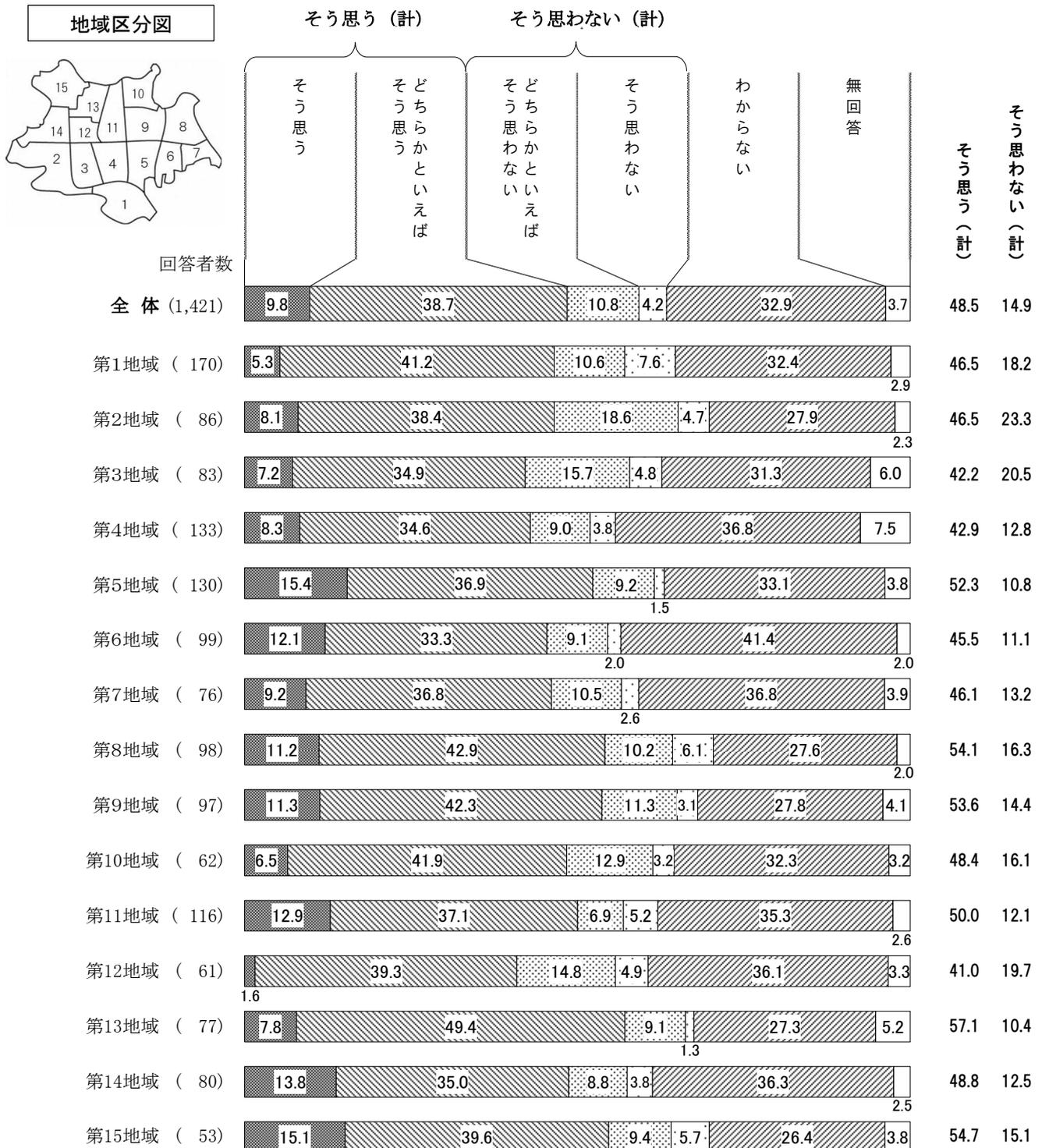
〈地域の施設（建物や道路など）は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【**そう思う**】は第10地域が51.6%と最も高く、次いで第15地域が50.9%となっている。一方、【**そう思わない**】は第12地域で49.2%と最も高く、次いで第3地域が47.0%となっている。

図1-1-2-⑨ 地域別／居住地の評価／地域の施設（建物や道路など）は、  
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



サ クロス集計・地域別／居住地の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている  
 〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第13地域  
 で57.1%と最も高く、次いで第15地域で54.7%となっている。一方、【そう思わない】は第2  
 地域で23.3%と最も高く、次いで第3地域で20.5%となっている。

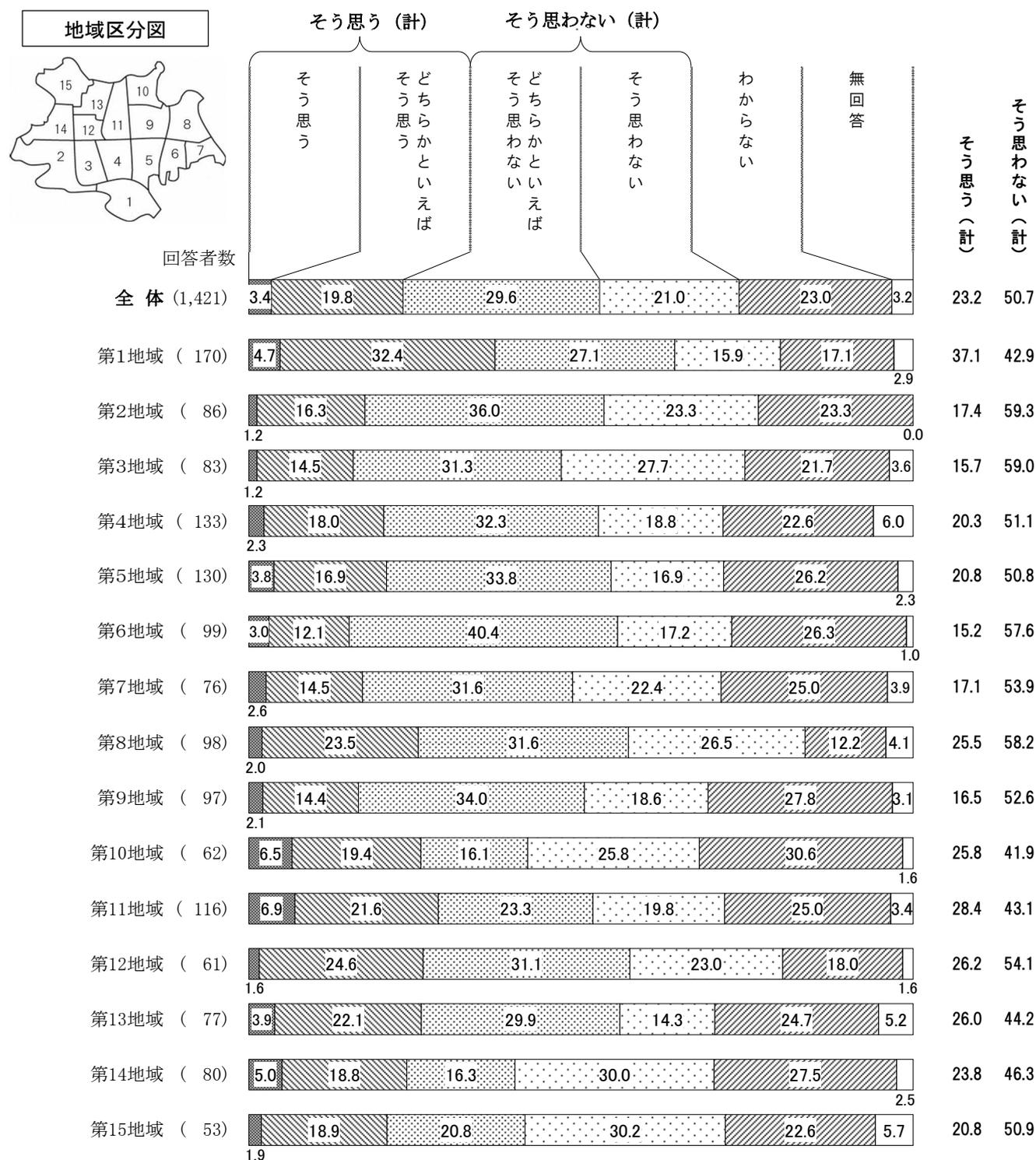
図1-1-2-⑩ 地域別／居住地の評価／子育て環境  
 （保育所、学童クラブなど）が整っている



シ クロス集計・地域別／居住地の評価／文化芸術に親しめるまちである

〈文化芸術に親しめるまちである〉について、【そう思う】は第1地域で37.1%と他の地域に比べて特に高く、次いで第11地域が28.4%となっている。一方、【そう思わない】は第2地域で59.3%と最も高く、次いで第3地域で59.0%となっている。

図1-1-2-⑪ 地域別／居住地の評価／文化芸術に親しめるまちである



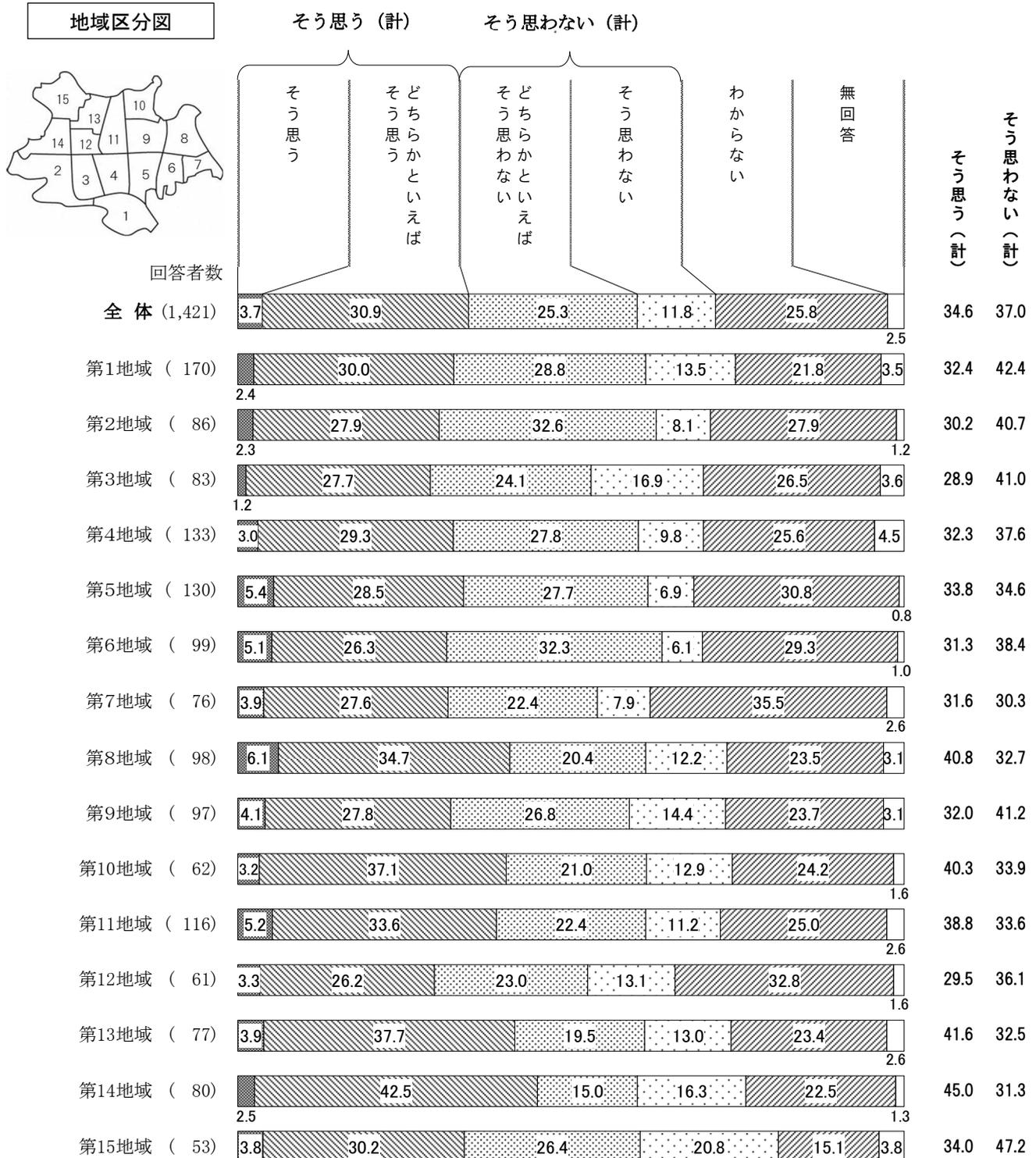
ス クロス集計・地域別／居住地域の評価／

地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【**そう思う**】は第14地域で45.0%と最も高く、次いで第13地域で41.6%となっている。一方、【**そう思わない**】は第15地域で47.2%と最も高く、次いで第1地域で42.4%となっている。

図1-1-2-⑫ 地域別／居住地域の評価

／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している



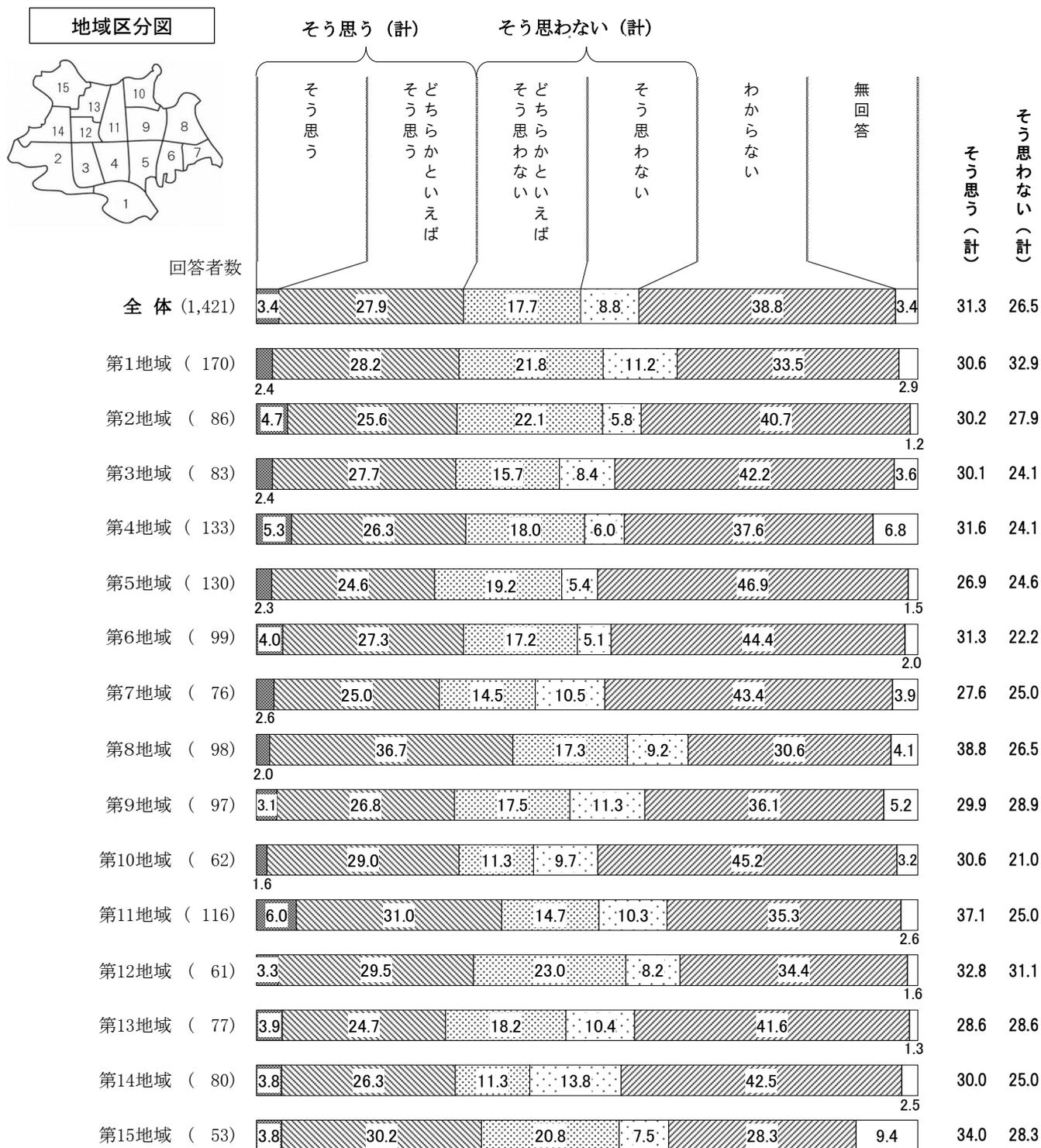
セ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている

〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【**そう思う**】は第8地域で38.8%と最も高く、次いで第11地域が37.1%となっている。一方、【**そう思わない**】は第1地域で32.9%と最も高く、次いで第12地域で31.1%となっている。

図1-1-2-⑬ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



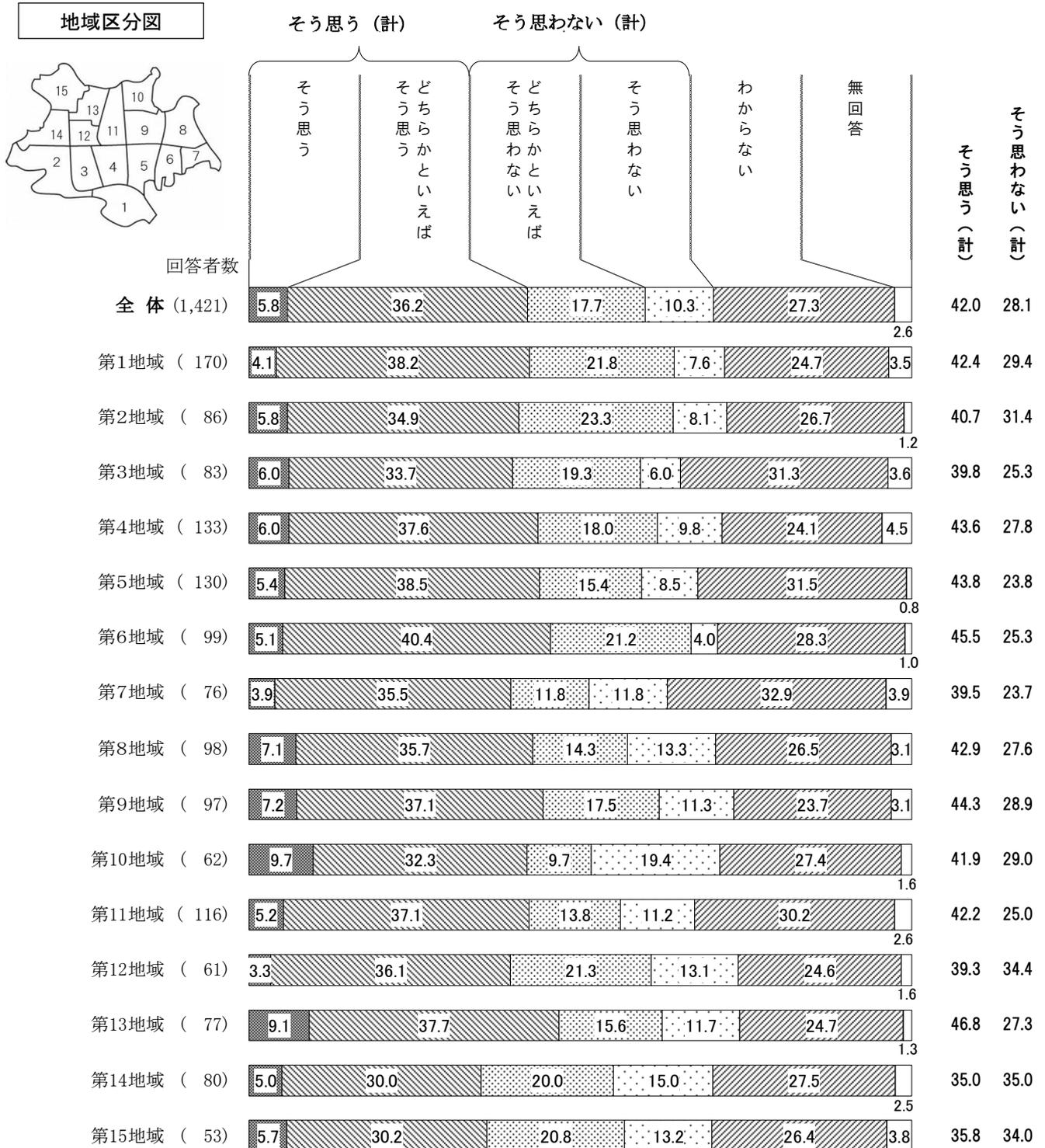
ソ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである

〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉について、【そう思う】は第13地域で46.8%と最も高く、次いで第6地域が45.5%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で35.0%と最も高く、次いで第12地域で34.4%となっている。

図1-1-2-⑭ 地域別／居住地域の評価

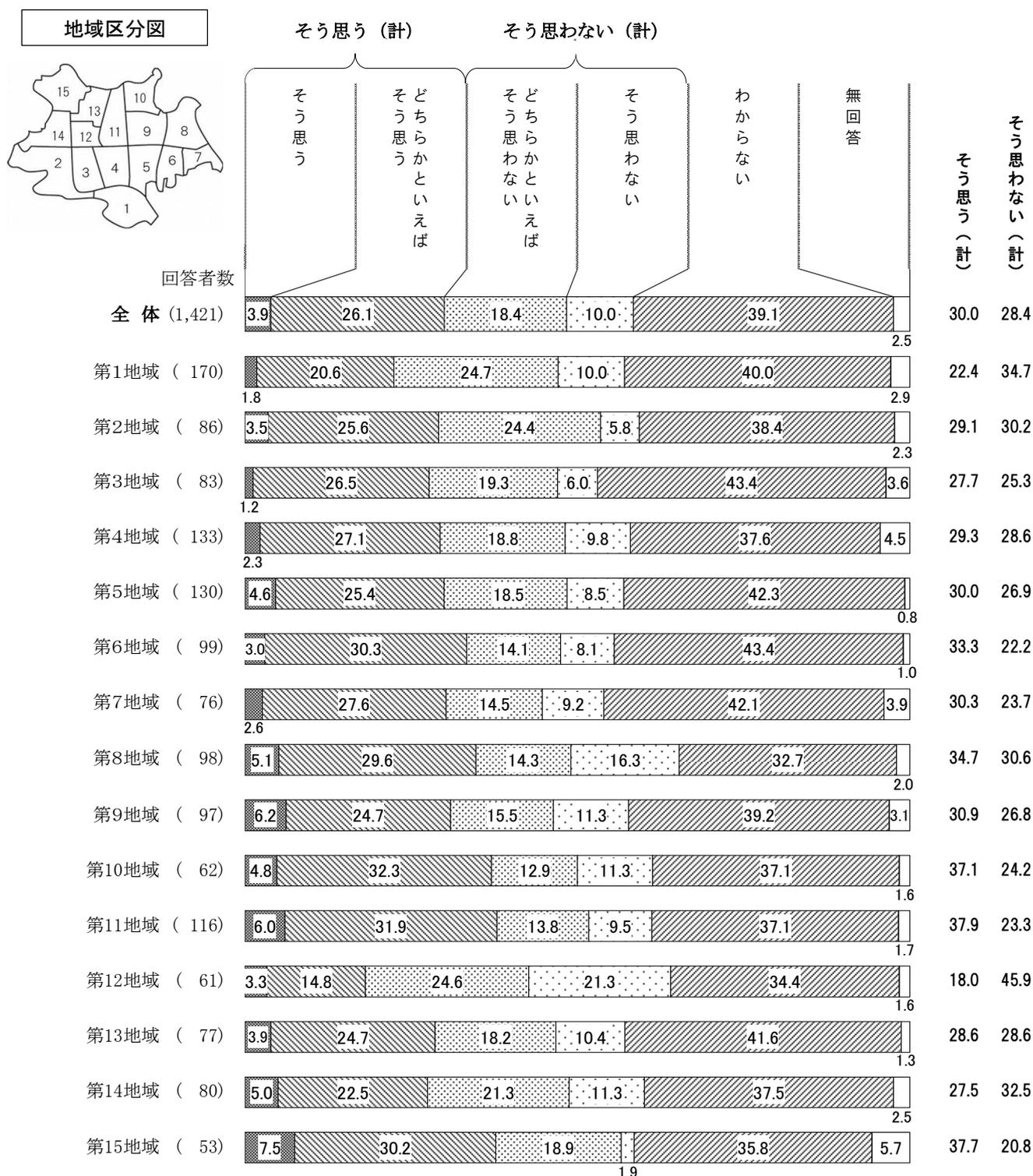
／国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである



タ クロス集計・地域別／居住地の評価／人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」  
「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない

〈人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない〉について、【そう思う】は第11地域で37.9%と最も高く、僅差で第15地域が37.7%となっている。一方、【そう思わない】は第12地域で45.9%と他の地域に比べて特に高く、次いで第1地域が34.7%となっている。

図1-1-2-⑮ 地域別／居住地の評価／人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない



(2) 地域の暮らしやすさ

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（○は1つだけ）。

■【暮らしやすい】は本設問を開始した以降で最も高い割合となり、【暮らしにくい】も令和4年調査と並んで最も低い割合となった

ア 単純集計・経年比較／地域の暮らしやすさ

- (ア) 地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は28.9%で、「どちらかといえば暮らしやすい」(57.3%)を合わせた【暮らしやすい】は8割台半ばを占めている。
- (イ) 「暮らしにくい」は2.3%で、「どちらかといえば暮らしにくい」(9.9%)を合わせた【暮らしにくい】は1割超となっている。
- (ウ) 【暮らしやすい】を経年で見ると、前回調査(83.5%)から2.7ポイント増加し、本設問を開始した平成13年以降で最も高い割合となった。
- (エ) 【暮らしにくい】を経年で見ると、前回調査(14.5%)から2.3ポイント減少し、本設問を開始した平成13年以降で前々回調査(令和4年調査)と並んで最も低い割合となった。

図1-2-1-① 経年比較／地域の暮らしやすさ

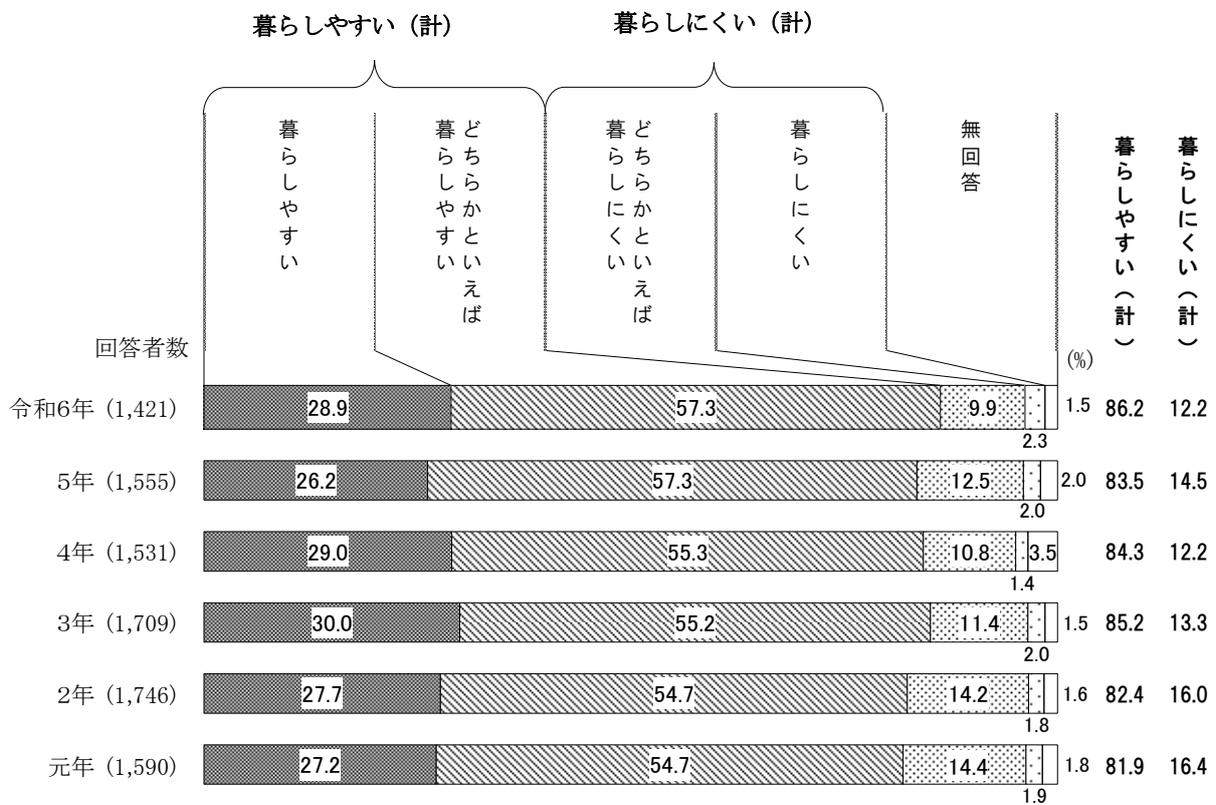
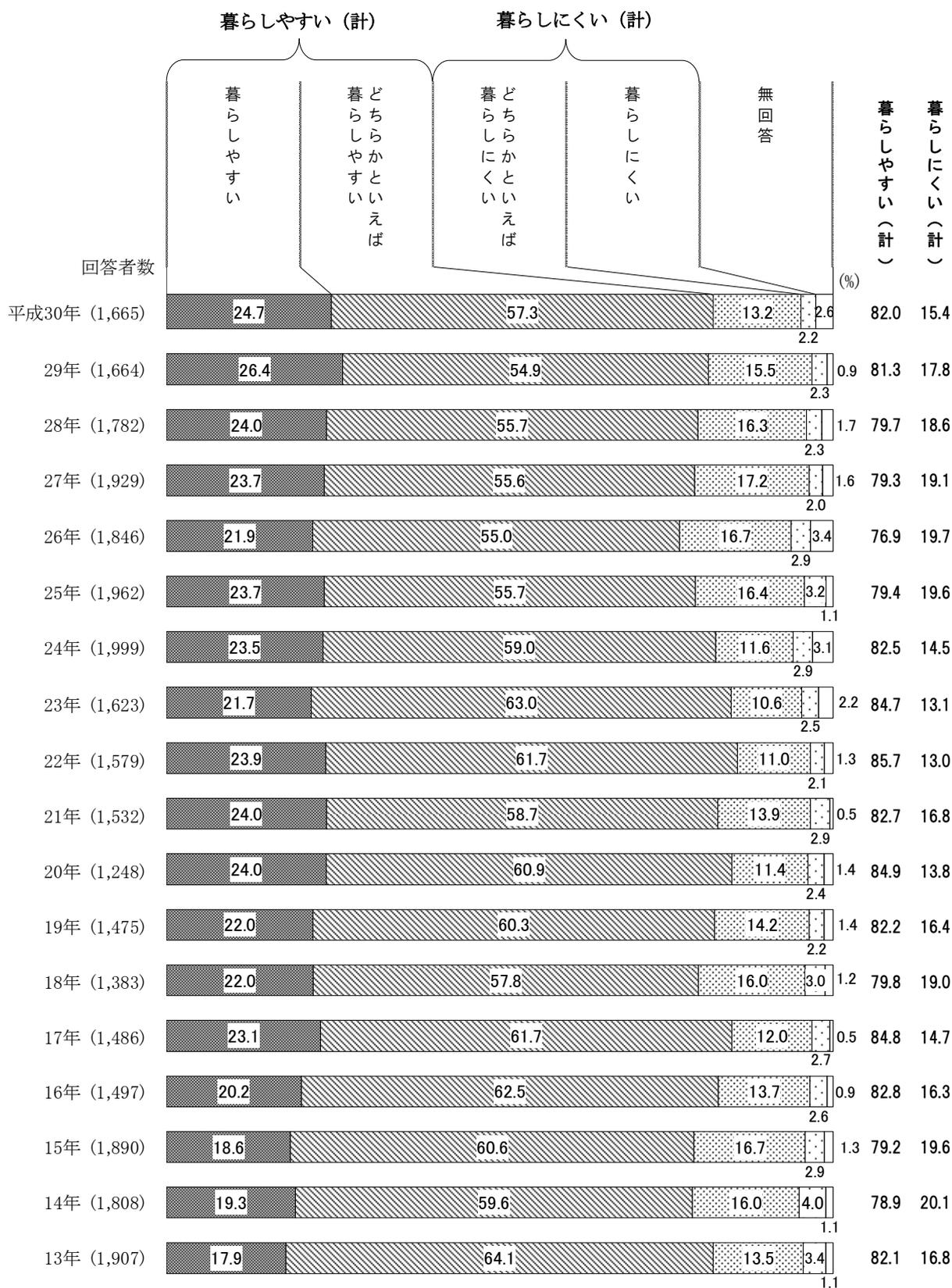


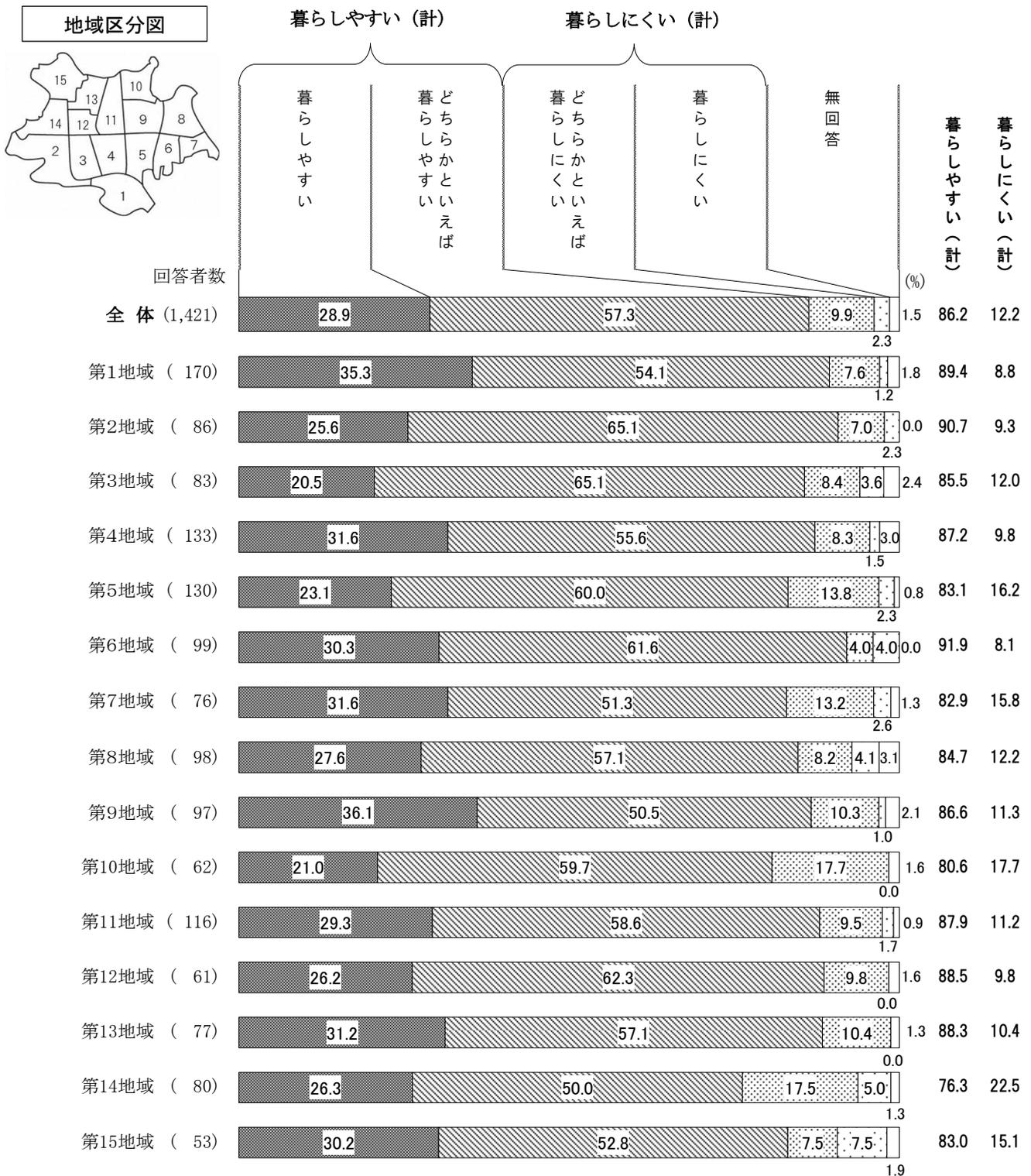
図1-2-1-② 経年比較/地域の暮らしやすさ



イ クロス集計・地域別／地域の暮らしやすさ

地域別でみると、【暮らしやすい】は第6地域で91.9%と最も高く、次いで第2地域が90.7%で続いている。一方、【暮らしにくい】は第14地域が22.5%で最も高く、次いで第10地域が17.7%となっている。

図1-2-2 地域別／地域の暮らしやすさ

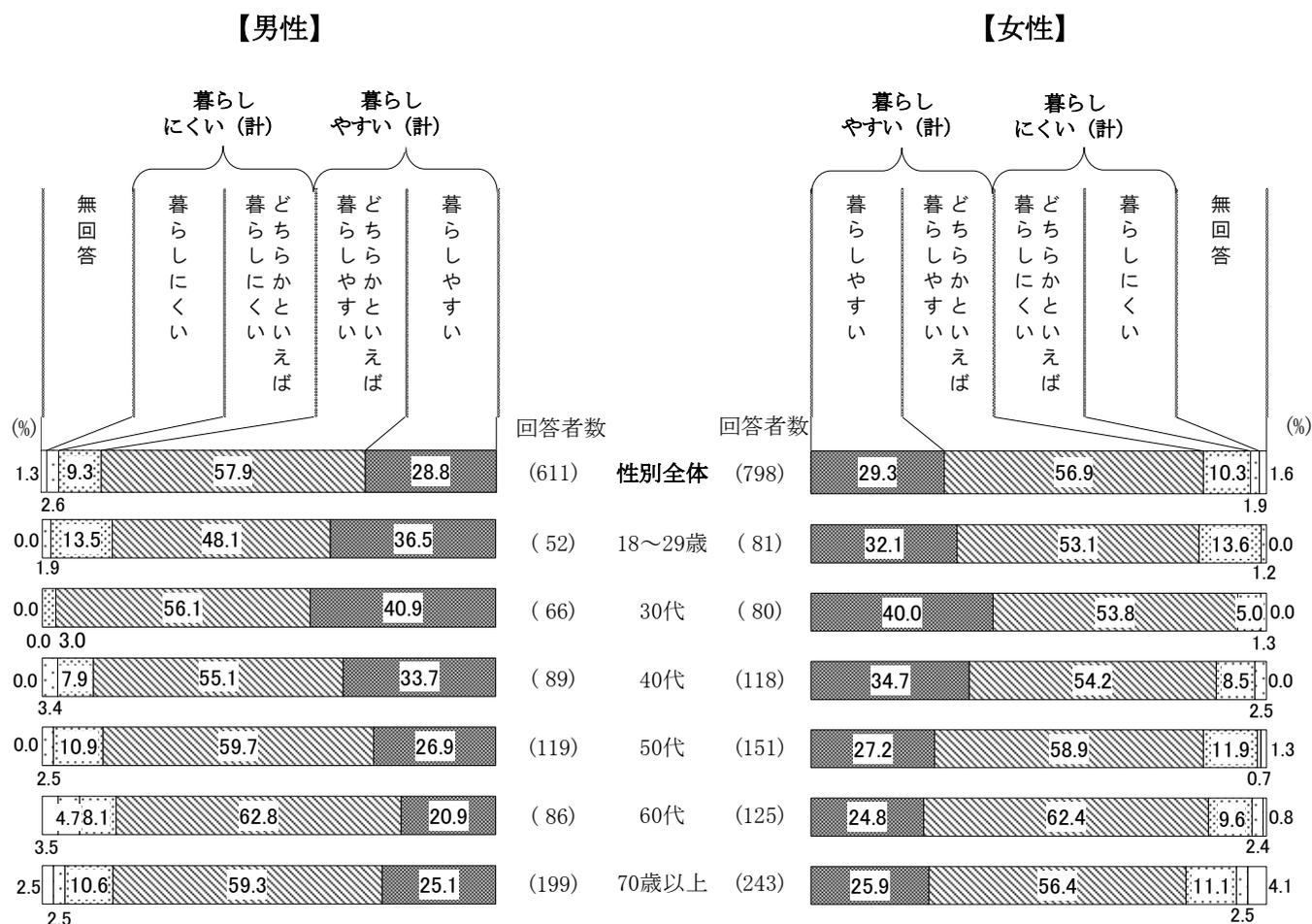


ウ クロス集計・性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ

(ア) 性別でみると【暮らしやすい】は、男性（86.7%）と女性（86.2%）で特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別でみると、【暮らしやすい】は男女ともに30代（男性97.0%：女性93.8%）で9割台と最も高くなっている。一方、【暮らしにくい】は男女ともに18～29歳（男性15.4%：女性14.8%）で1割台半ばと最も高くなっている。

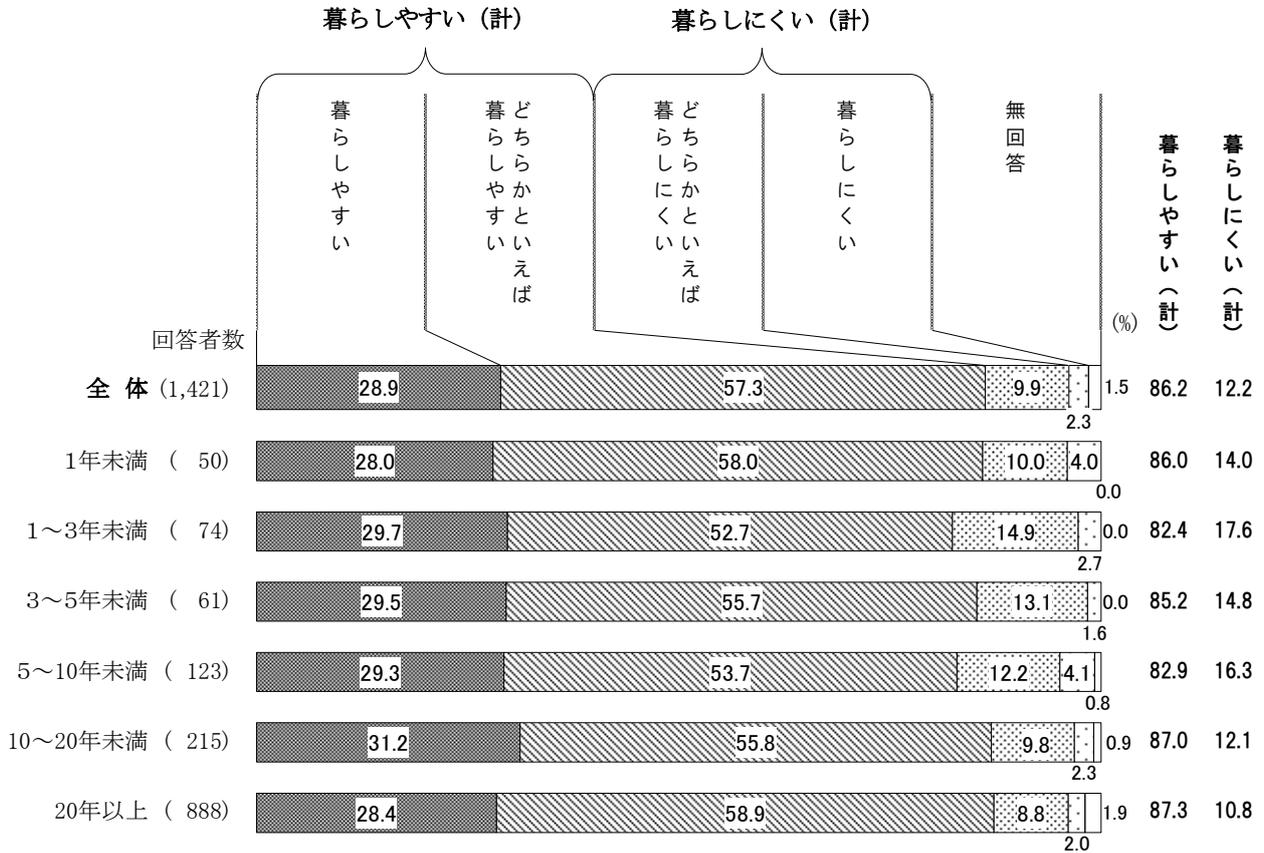
図1-2-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



エ クロス集計・居住年数別／地域の暮らしやすさ

居住年数別でみると、【暮らしやすい】は「20年以上」で87.3%と最も高く、【暮らしにくい】は「1～3年未満」で17.6%と最も高くなっている。

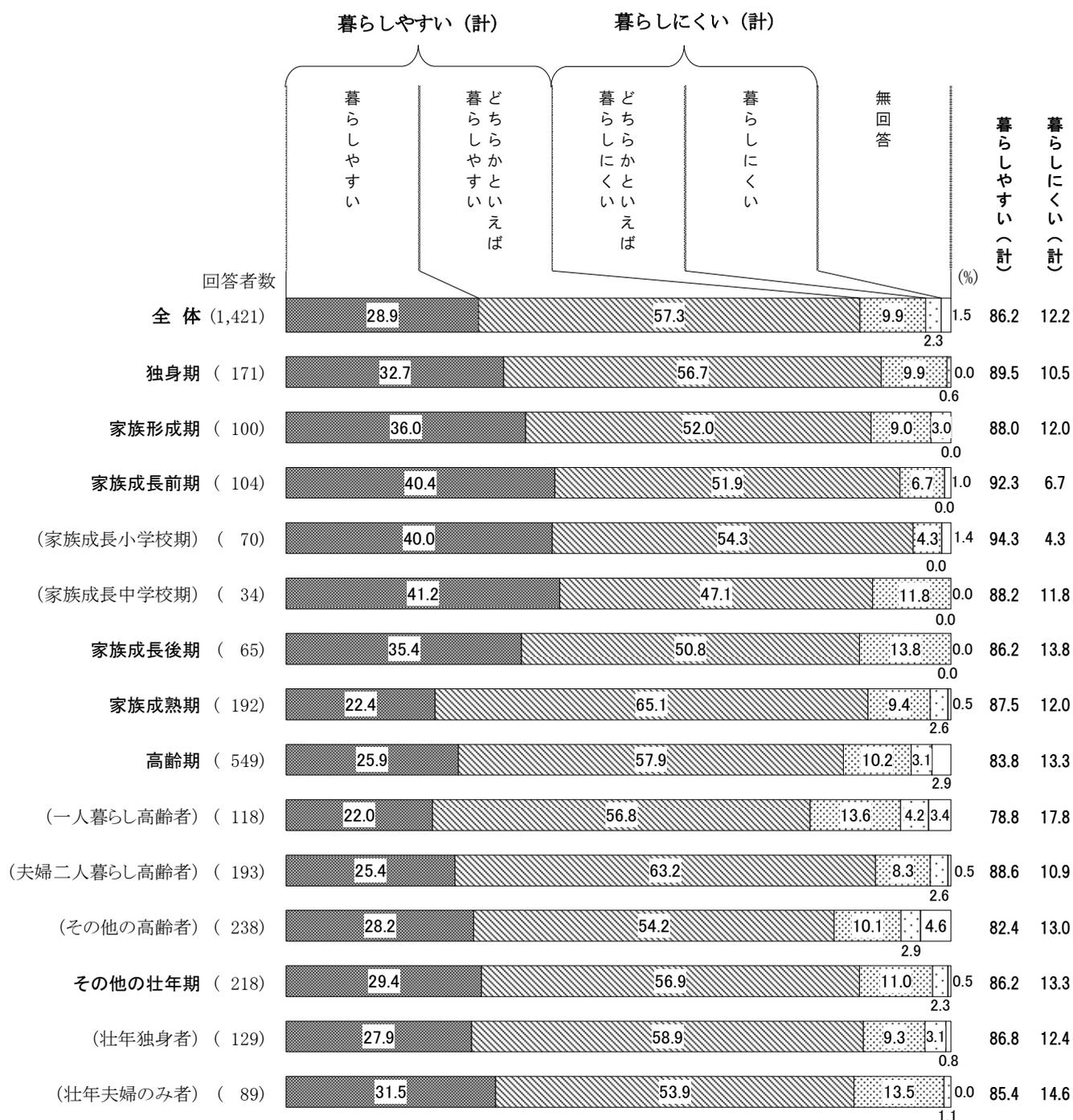
図1-2-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



オ クロス集計・ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

ライフステージ別でみると、【暮らしやすい】は〈家族成長前期〉で92.3%と最も高く、次いで〈独身期〉（89.5%）となっており、【暮らしにくい】は〈家族成長後期〉で13.8%と最も高くなっている。詳細区分でみると【暮らしやすい】は〈（家族成長小学校期）〉で94.3%と最も高く、【暮らしにくい】は〈（一人暮らし高齢者）〉で17.8%と最も高くなっている。

図1-2-5 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



(3) 特に暮らしにくいと感じること

問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に  
問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

■ “マナーやルールへの意識の低さ” が4割台半ばと5年連続で最も高い

ア 単純集計・経年比較／特に暮らしにくいと感じること

(ア) 【暮らしにくい】という人に、その理由を聴いたところ、高い順に以下のとおりとなっている。

- ① 「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(45.4%)
- ② 「交通の便が悪いこと」(38.5%)
- ③ 「買い物がしにくいこと」(36.8%)
- ④ 「治安が良くないこと」(32.8%)

(イ) 前回調査に比べて増加している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ① 「買い物がしにくいこと」(+9.2ポイント)
- ② 「公共施設や介護・医療施設が不十分なこと」(+3.7ポイント)

(ウ) 前回調査に比べて減少している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ① 「家の広さなどの居住環境が悪いこと」(-7.7ポイント)
- ② 「交通の便が悪いこと」(-5.5ポイント)

図1-3-1-① 経年比較／特に暮らしにくいと感じること

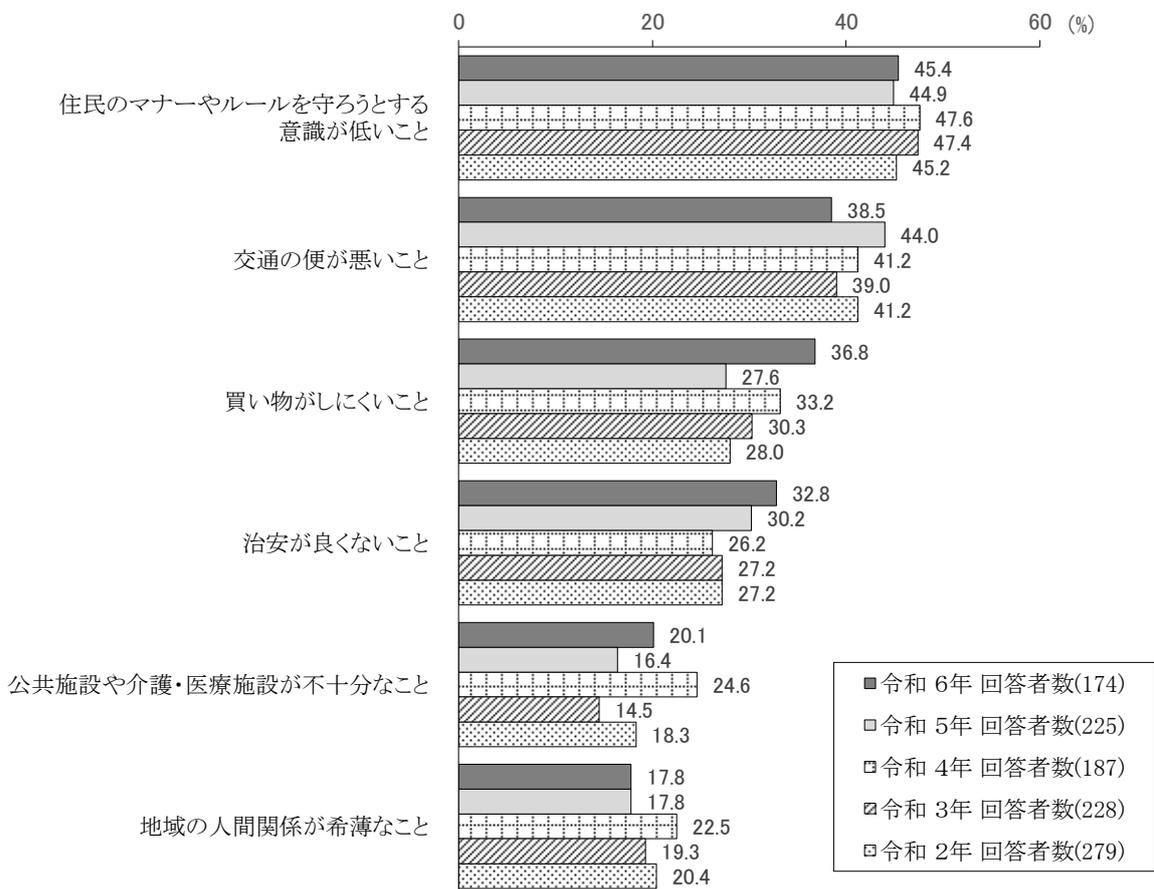
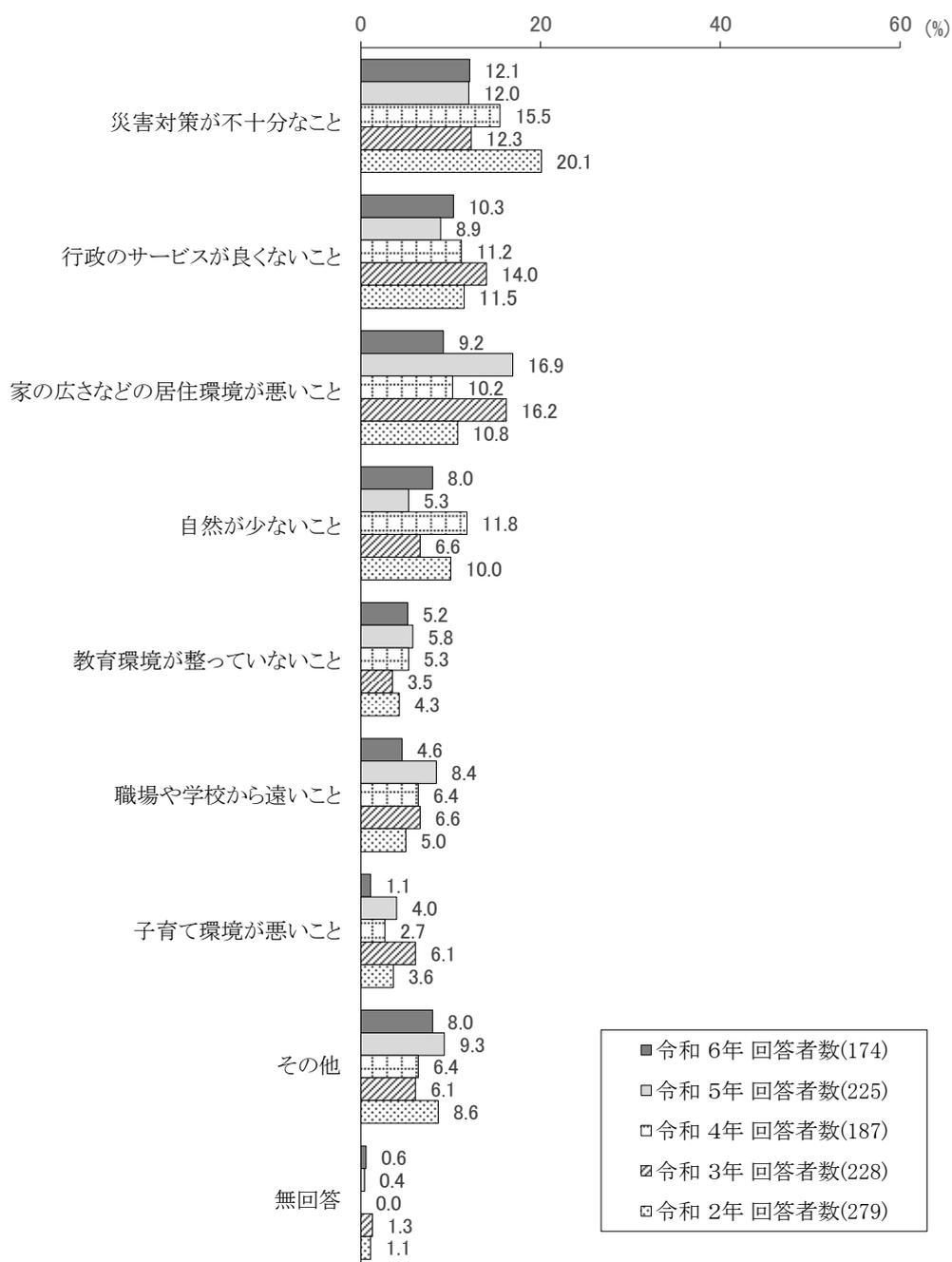


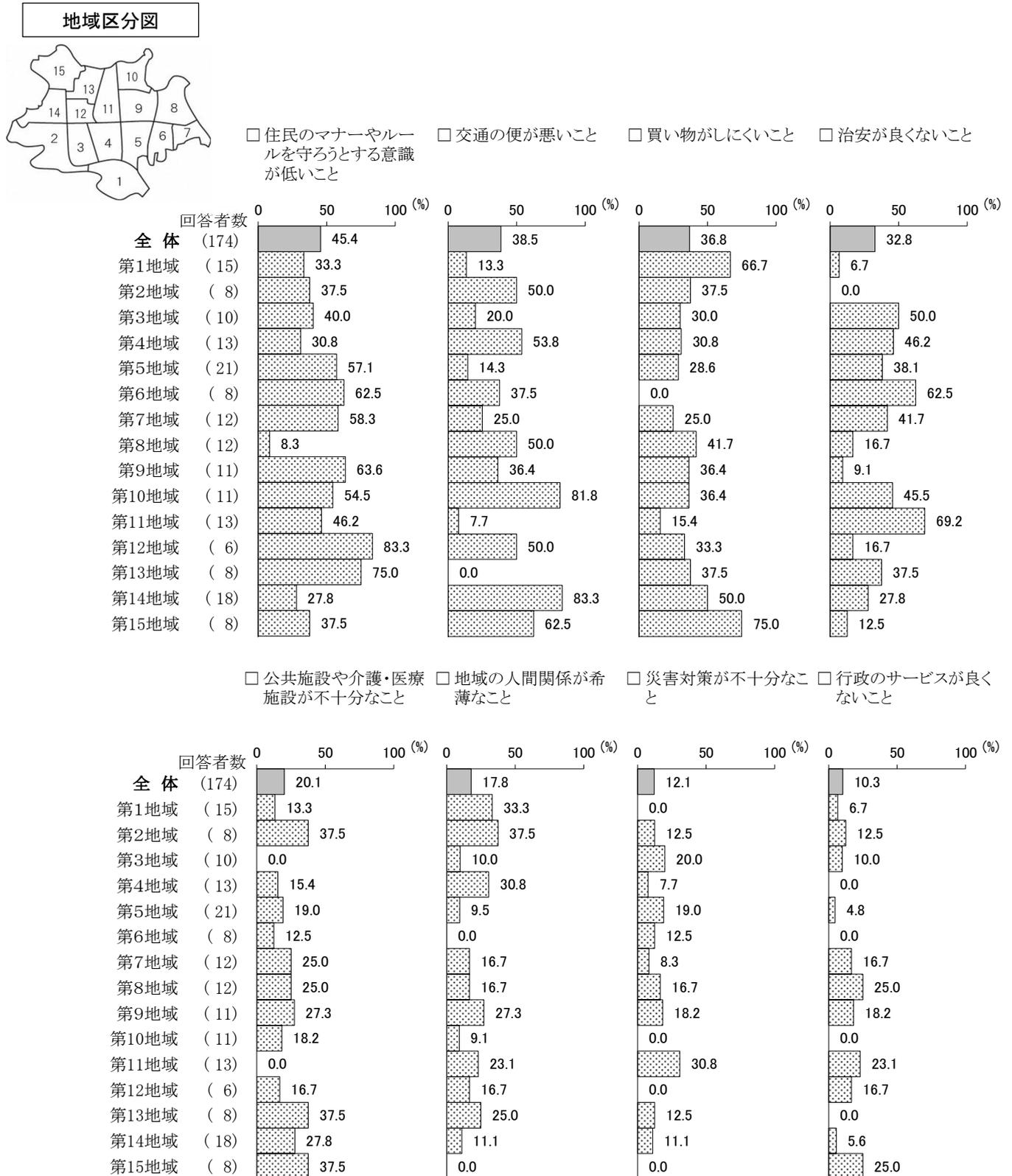
図1-3-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



イ クロス集計・地域別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

地域別でみると、すべての地域の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の地域に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第9地域（63.6%）、「交通の便が悪いこと」は第14地域（83.3%）、「買い物がしにくいこと」は第1地域（66.7%）で最も高くなっている。

図1-3-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

(ア) 性別でみると、8項目中5項目で女性の方が男性より高くなっている。

a 男性の方が女性より高くなっている項目

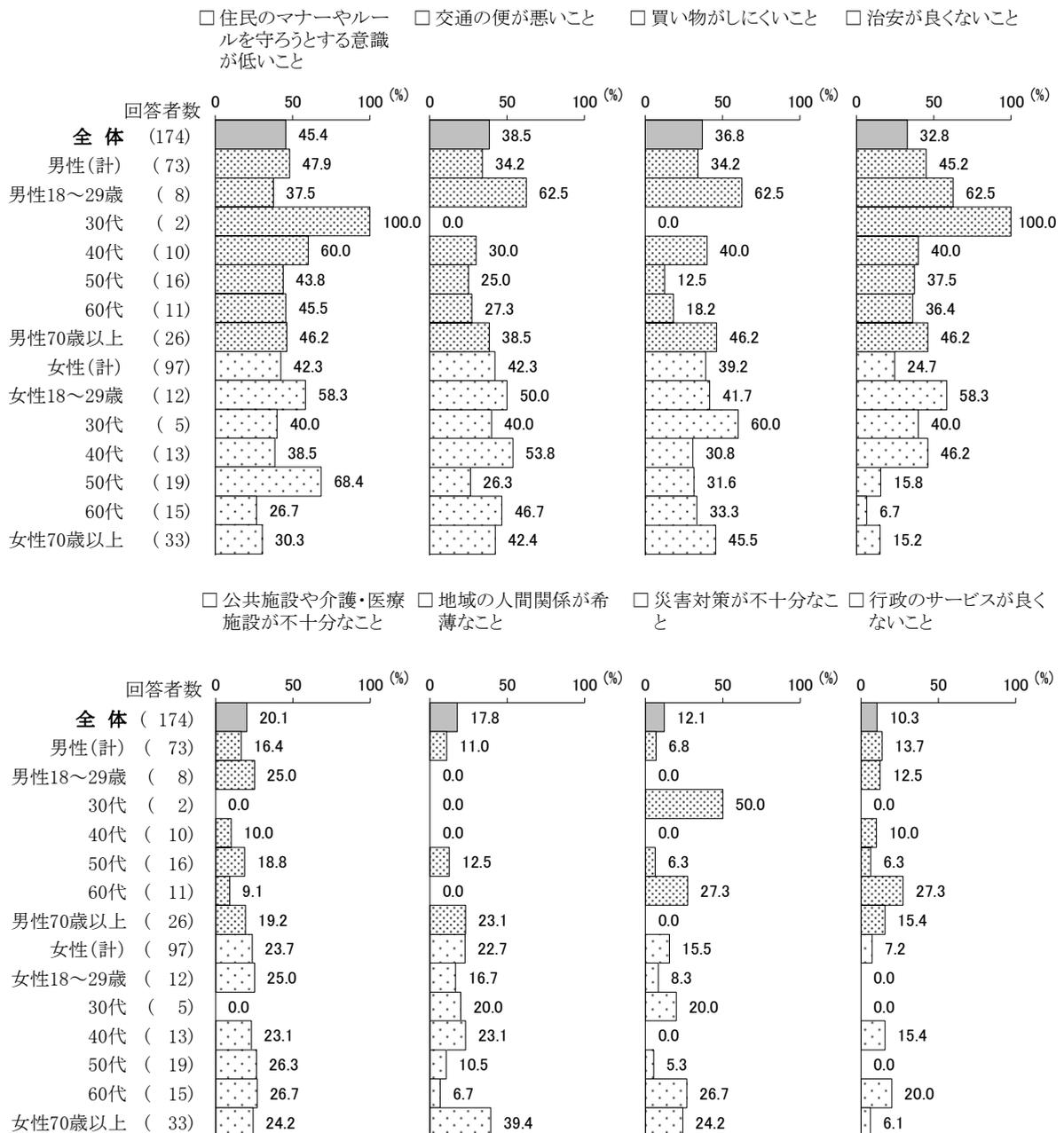
「治安が良くないこと」(+20.5ポイント)、行政のサービスが良くないこと」(+6.5ポイント)、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(+5.6ポイント)。

b 女性の方が男性より高くなっている項目

「地域の人間関係が希薄なこと」(+11.7ポイント)、「災害対策が不十分なこと」(+8.7ポイント)、「交通の便が悪いこと」(+8.1ポイント)、「公共施設や介護・医療施設が不十分なこと」(+7.3ポイント)、「買い物がしにくいこと」(+5.0ポイント)。

(イ) 性・年代別でみると、多くの性・年代層の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の性・年代層に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は男性の40代と女性の50代で6割以上と高く、「交通の便が悪いこと」は女性の18～29歳と40代で5割台と高くなっている。

図1-3-3 性別、性・年齢別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



(4) 定住意向

問3 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか(○は1つだけ)。

■【定住意向】は8割超で前回調査をさらに上回り、4年連続で最高値を更新

ア 単純集計・経年比較／定住意向

- (ア) 足立区への定住意向をみると、「ずっと住みたい」は38.5%で、「当分は住みたい」(44.1%)を合わせた【定住意向】は8割超を占めている。一方、「区外に転出したい」は1割未満となっている。
- (イ) 前回調査と比較すると、【定住意向】は前回調査に比べて1.7ポイント増加し、4年連続で最高値を更新している。

図1-4-1-① 経年比較／定住意向

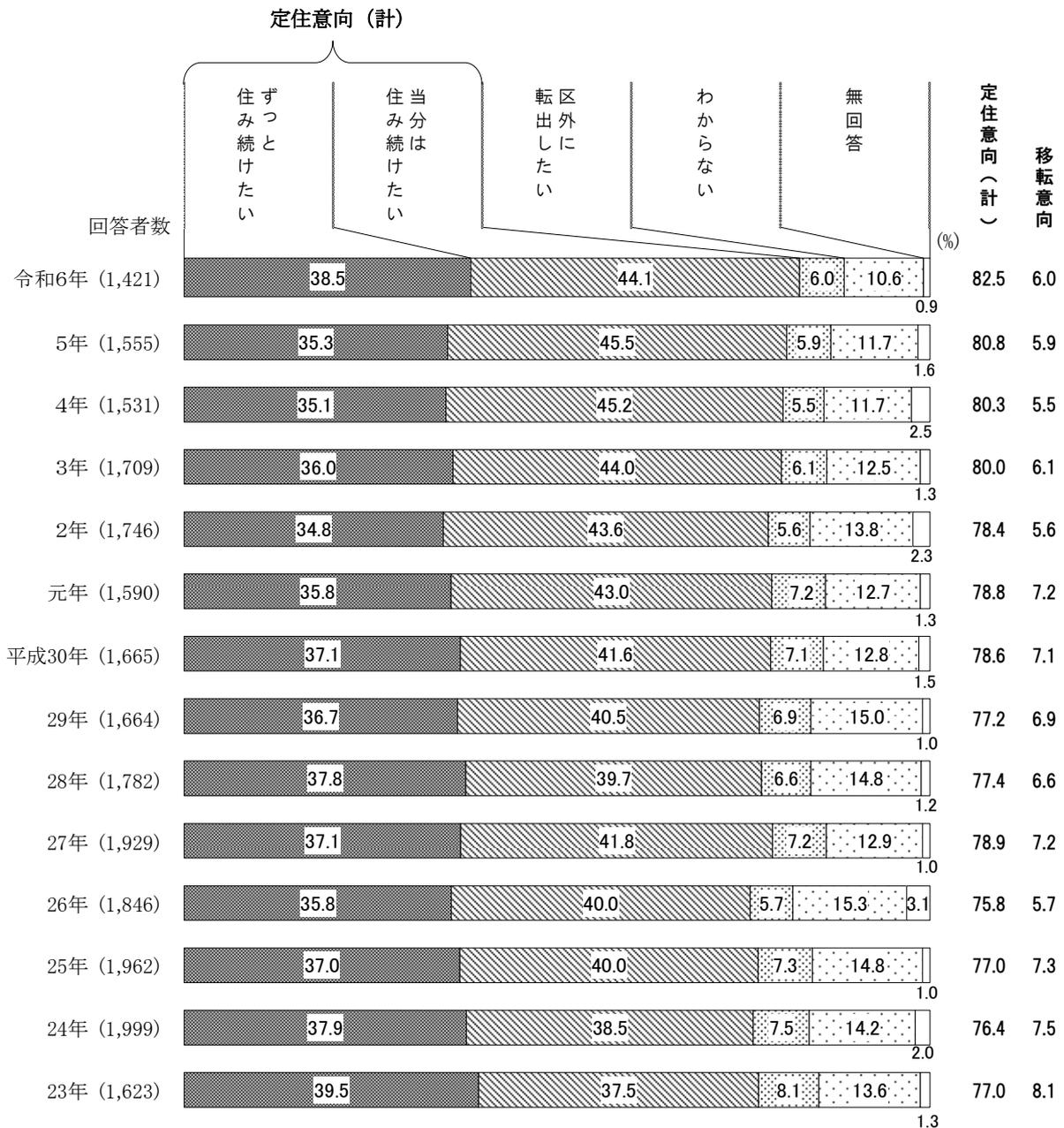
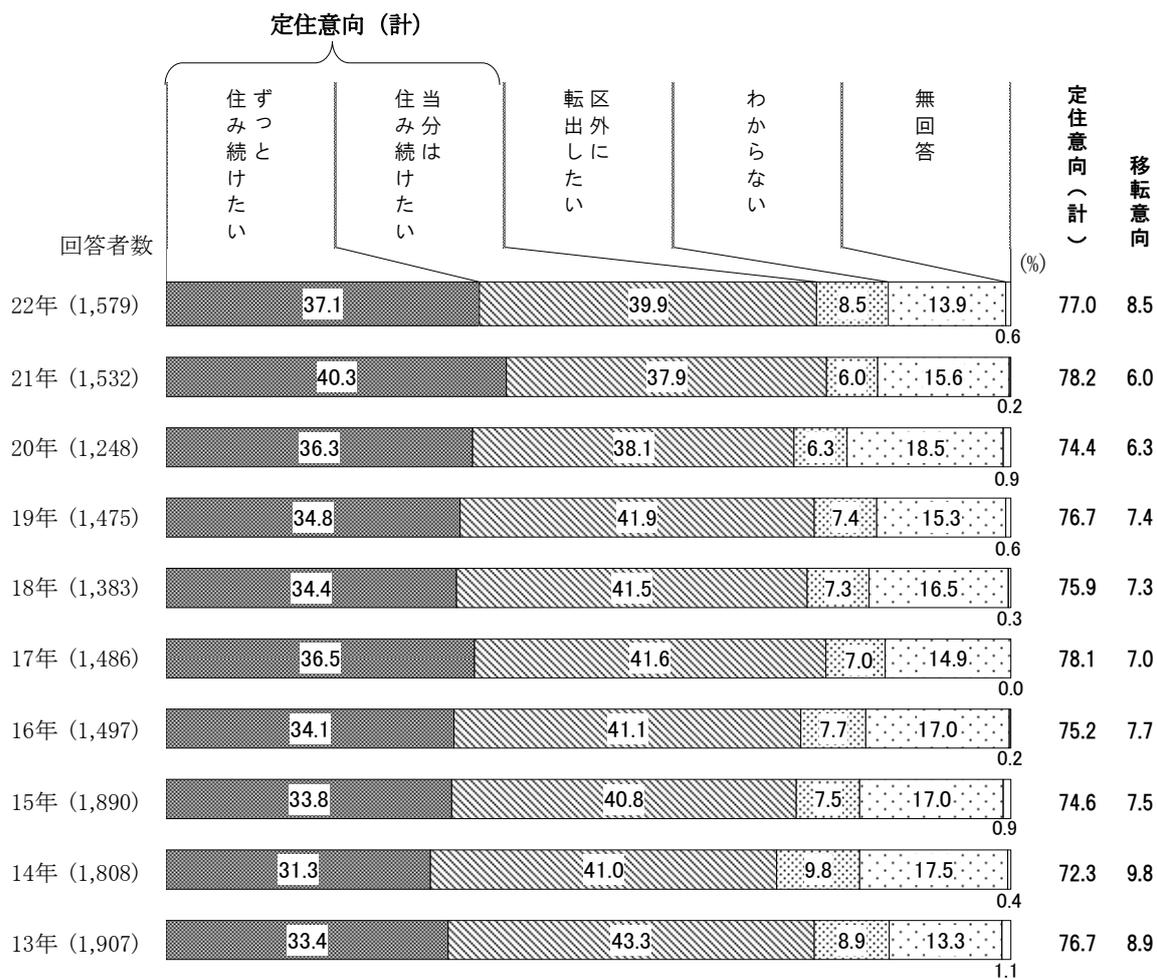


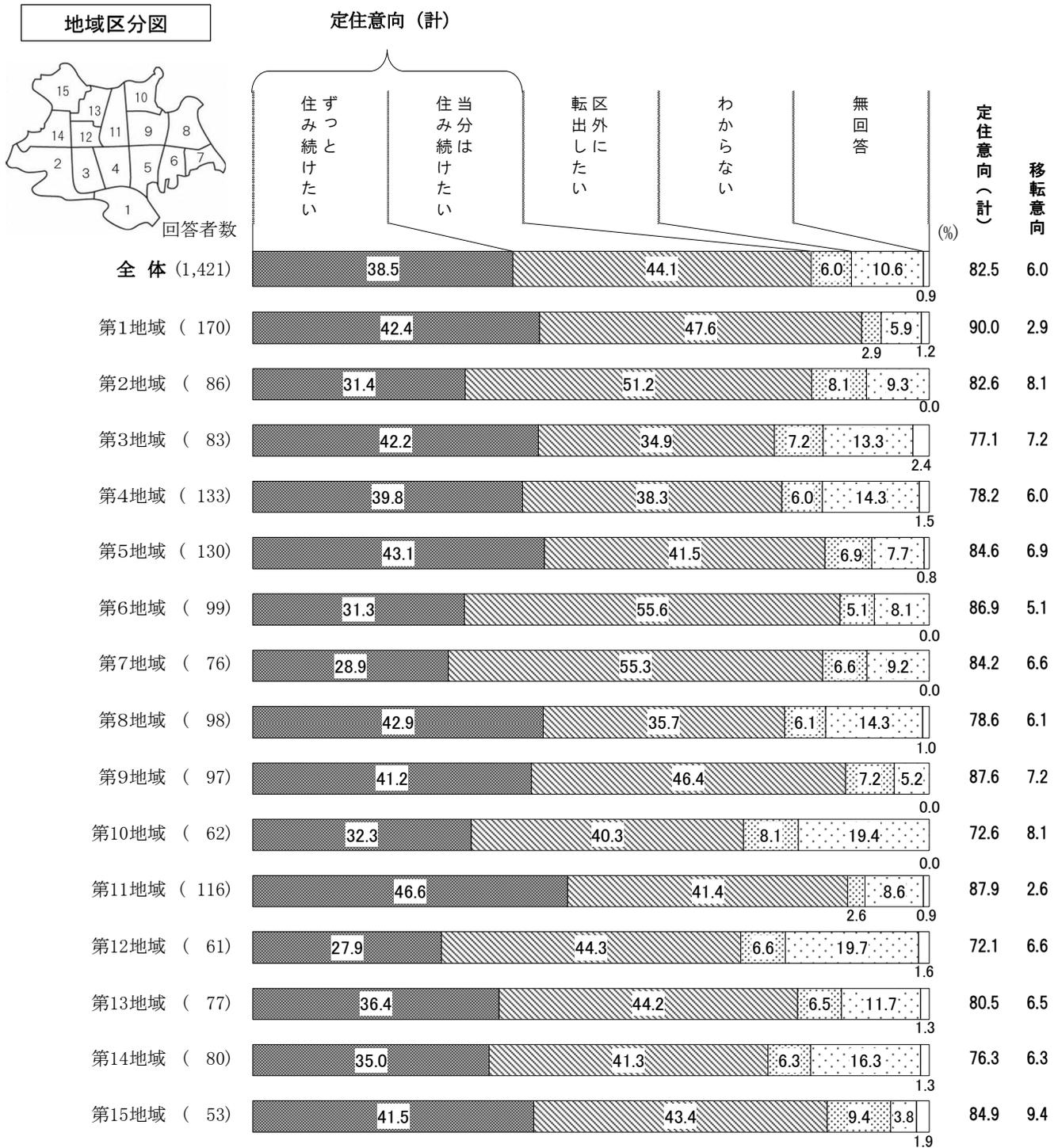
図1-4-1-② 経年比較/定住意向



イ クロス集計・地域別／定住意向

地域別でみると、【定住意向】は第1地域で90.0%と最も高く、次いで第11地域（87.9%）と続いている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第15地域で9.4%と最も高く、次いで第2地域と第10地域で8.1%となっている。

図1-4-2 地域別／定住意向

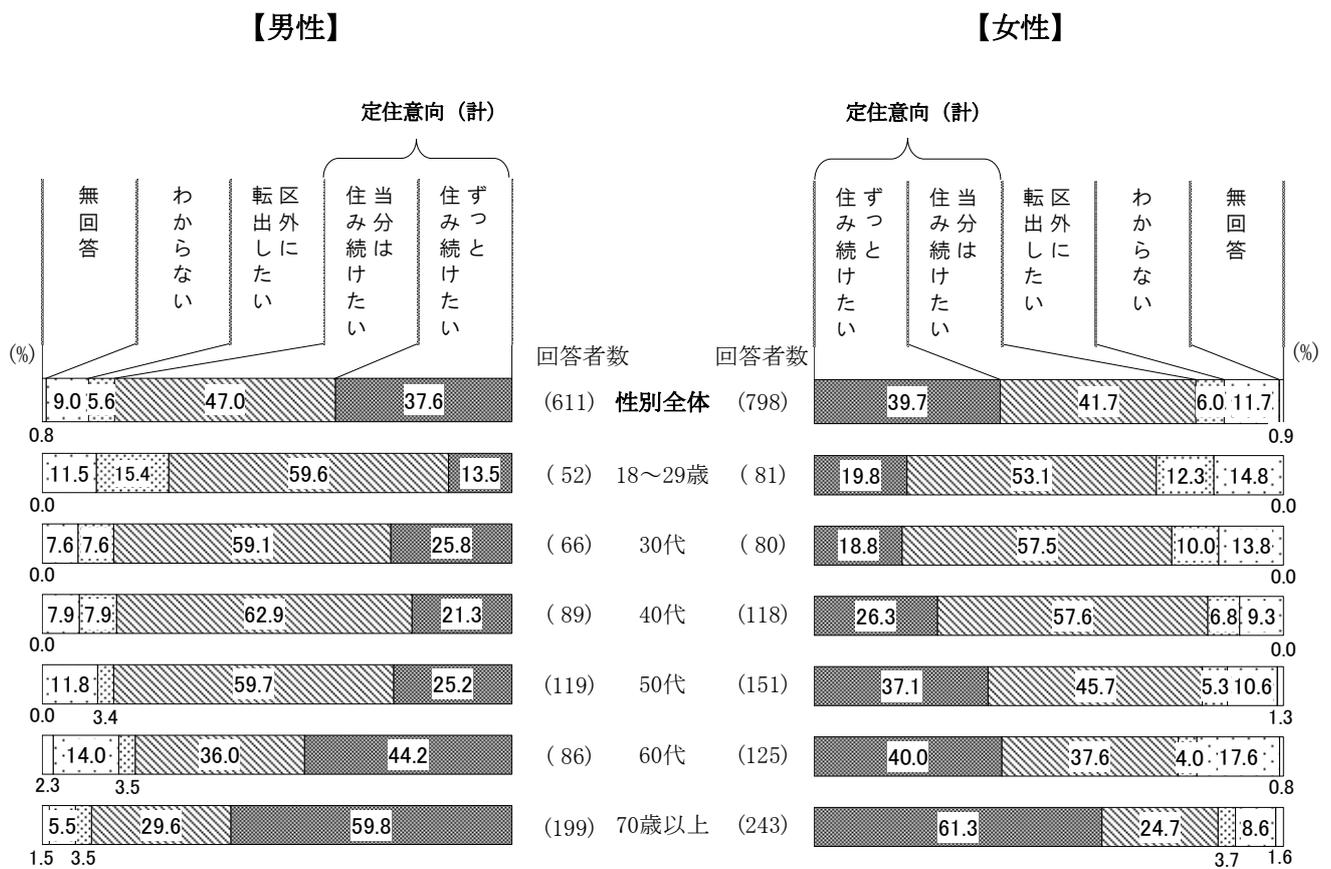


ウ クロス集計・性別、性・年代別／定住意向

(ア) 性別でみると、【定住意向】は、男性（84.6%）が女性（81.5%）よりも3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【定住意向】は、男性の70歳以上が89.4%で最も高く、次いで、女性の70歳以上（86.0%）となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は男女ともに18～29歳（男性15.4%、女性12.3%）が他の性・年代層に比べて高くなっている。

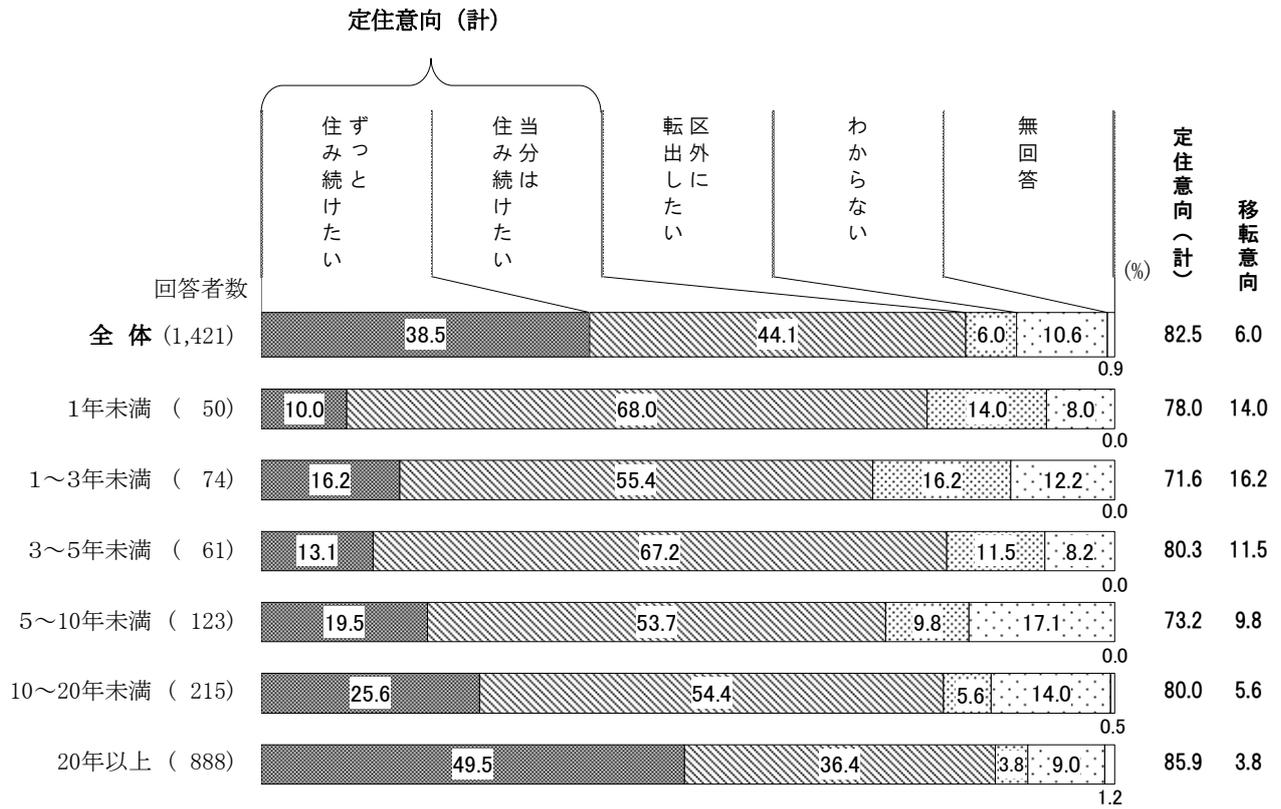
図1-4-3 性別、性・年代別／定住意向



エ クロス集計・居住年数別／定住意向

居住年数別で見ると、【定住意向】は20年以上で85.9%と最も高く、次いで3～5年未満(80.3%)、10～20年未満(80.0%)となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は、1～3年未満で16.2%と最も高くなっている。

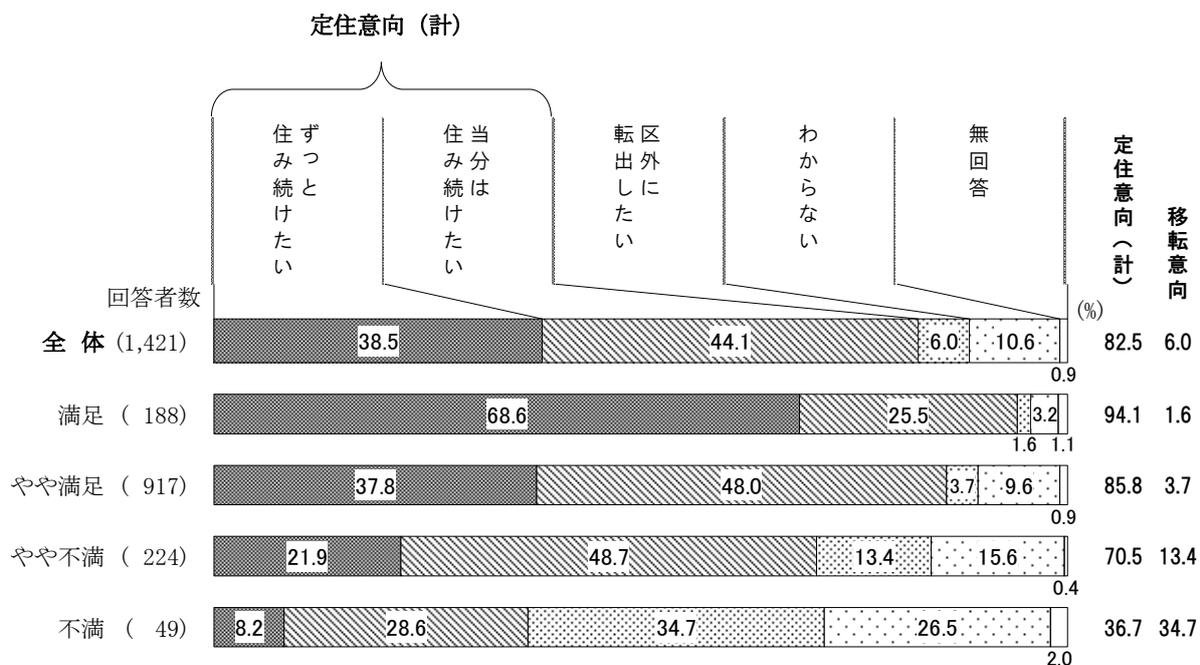
図1-4-4 居住年数別／定住意向



オ クロス集計・区政満足度別／定住意向

区政満足度別にみると、【定住意向】は満足が94.1%と最も高く、やや満足も85.8%と高くなっている。また、やや不満で70.5%となり、不満では36.7%まで低くなっており、区政への満足度と定住意向には正の相関がみられる。

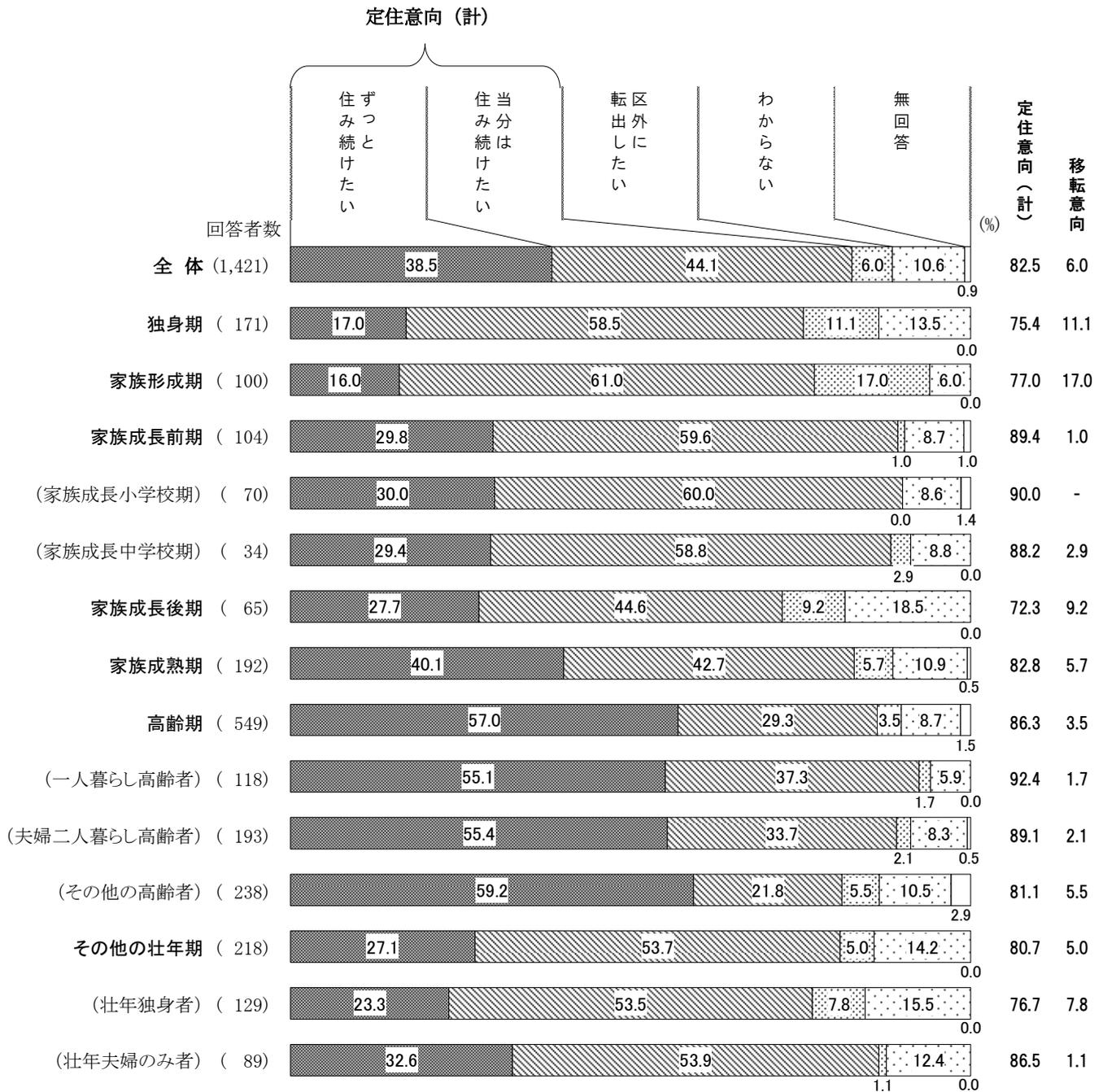
図1-4-5 区政満足度別／定住意向



カ クロス集計・ライフステージ別／定住意向

ライフステージ別でみると、【定住意向】は〈家族成長前期〉が89.4%で最も高く、次いで、〈高齢期〉が86.3%となっている。詳細区分でみると、〈(一人暮らし高齢者)〉が92.4%で最も高く、次いで〈(家族成長小学校期)〉が90.0%となっている。一方、〈家族成長後期〉で72.3%と最も低くなっている。

図1-4-6 ライフステージ別／定住意向





## 2 大震災などの災害への備え

- 
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
  - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
  - (3) 備蓄量
  - (4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
  - (5) 大規模災害時の避難生活場所
-



## 2 大震災などの災害への備え

### （1）備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■【備蓄・買い置きあり】は前回調査から6.5ポイント増加して7割台半ば

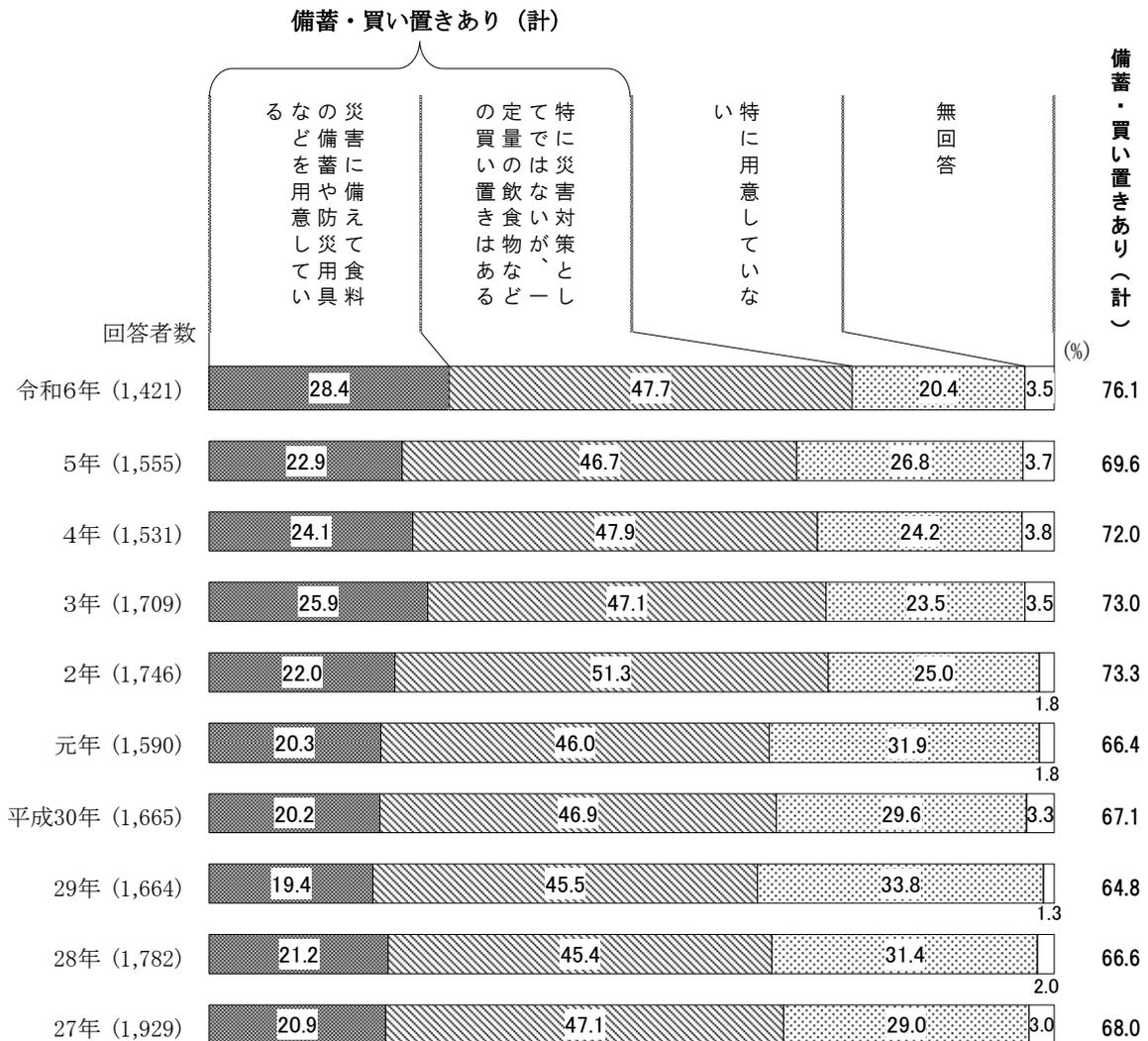
#### ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

（ア）災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.7%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.4%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は76.1%となっている。

（イ）災害に備えて「特に用意していない」は20.4%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査（69.6%）から6.5ポイント増加しており、過去10年間で最も高い割合となった。

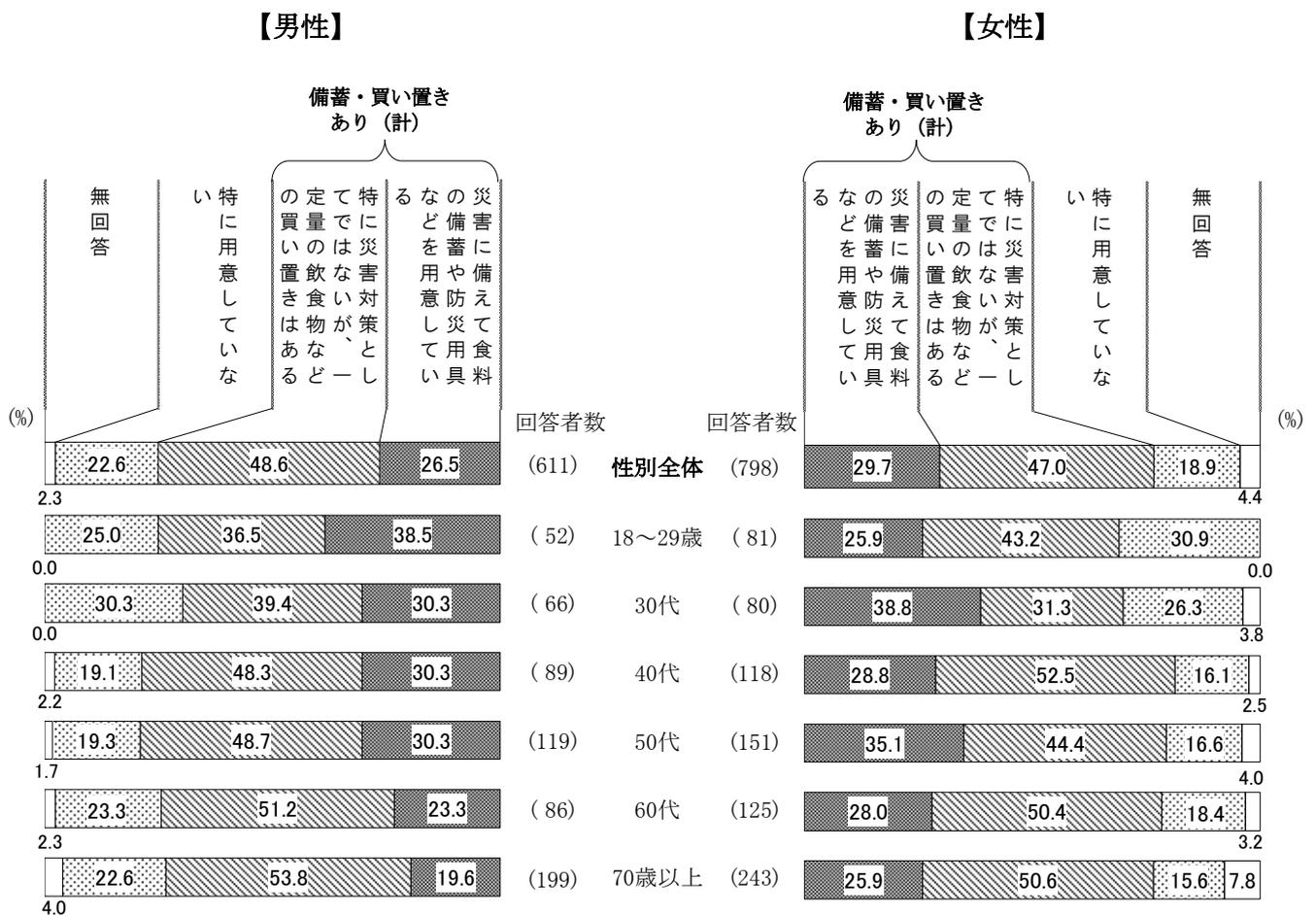
図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は女性（76.7%）の方が男性（75.1%）より1.6ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の30代（38.8%）で最も高く、次いで男性の18～29歳が38.5%となっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の40代が81.4%で最も高く、次いで女性の50代（79.5%）となっている。
- (ウ) 「特に用意していない」を性・年代別で見ると、女性の18～29歳が30.9%で最も高くなっている。

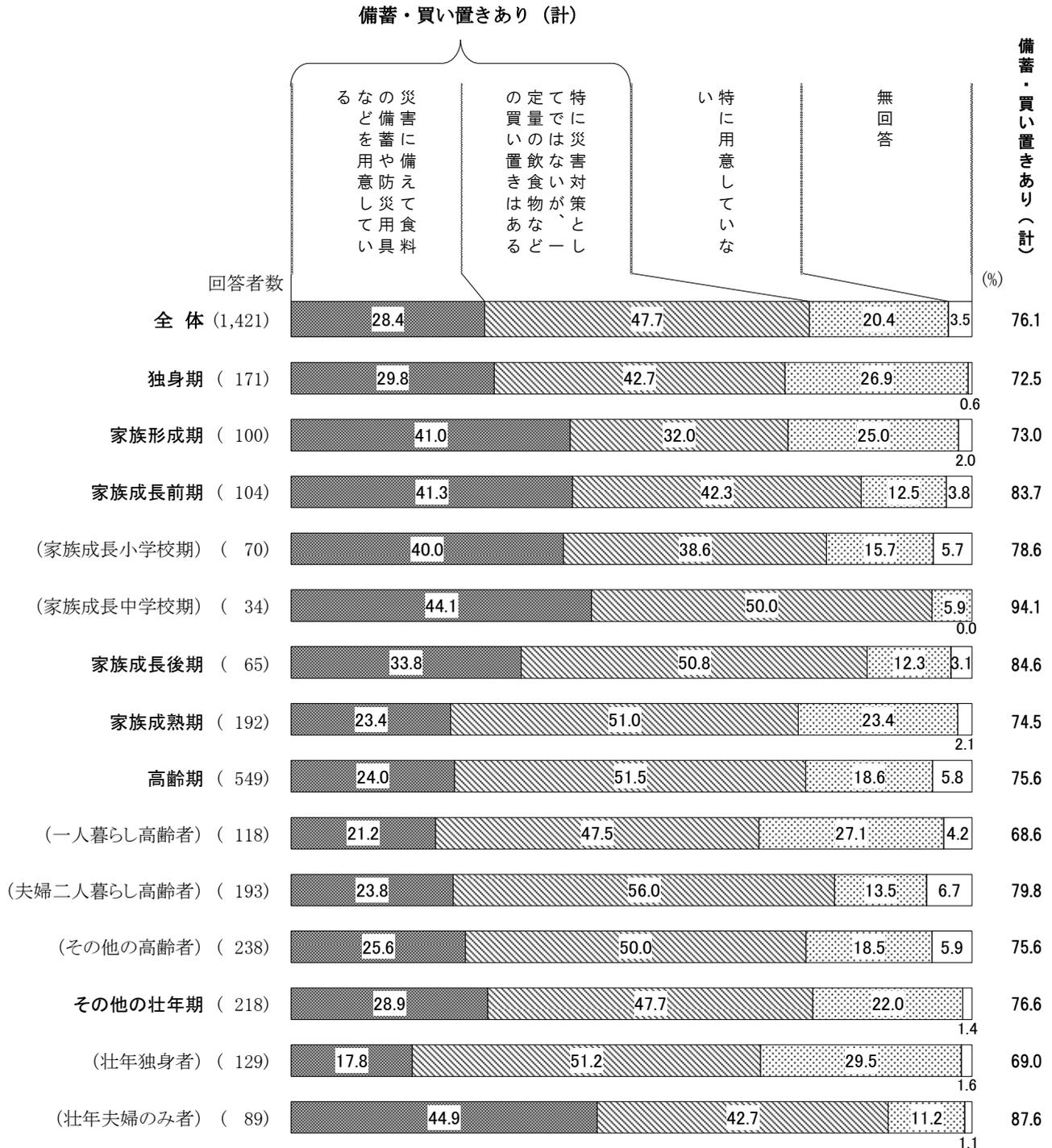
図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長後期〉が84.6%で最も高く、次いで〈家族成長前期〉(83.7%)となっており、〈独身期〉が72.5%で最も低くなっている。なお、詳細区分で見ると、〈(家族成長中学校期)〉が94.1%で最も高く、〈(一人暮らし高齢者)〉が68.6%で最も低くなっている。

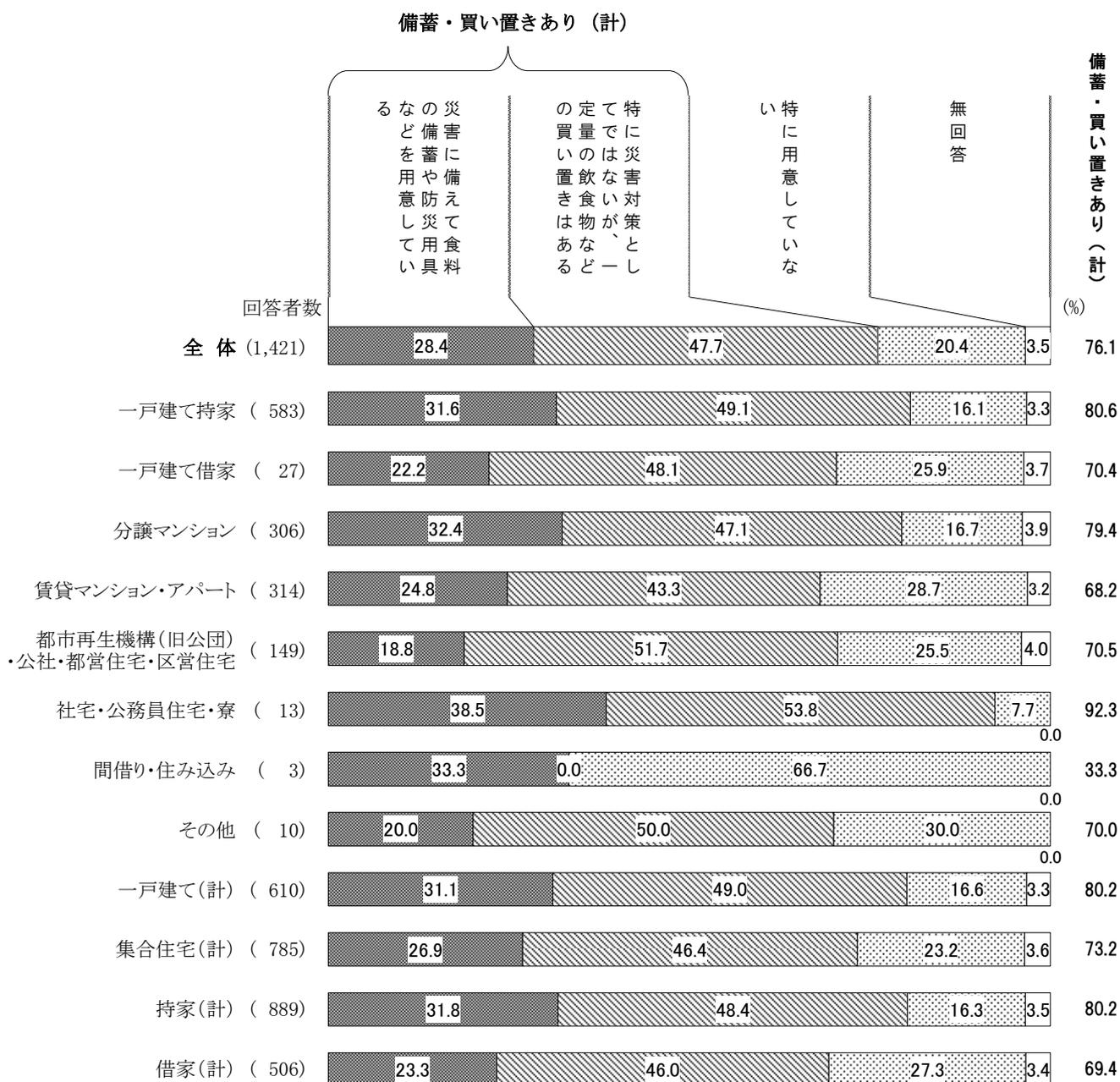
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 住居形態別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈一戸建て持家〉が80.6%で最も高く、次いで〈分譲マンション〉(79.4%)となっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が28.7%で最も高くなっている。
- (イ) 住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て（計）〉(80.2%)の方が〈集合住宅（計）〉(73.2%)より7.0ポイント高くなっている。
- (ウ) 住宅の所有形態別では、〈持家（計）〉(80.2%)の方が〈借家（計）〉(69.4%)より10.8ポイント高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。

■ 1位「水」（9割超）、2位「食料」（9割弱）、3位「あかり」（7割台半ば）で、前回調査と同順位

ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

（ア）【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ① 「水」（92.7%）
- ② 「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（88.2%）
- ③ 「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（73.9%）
- ④ 「簡易トイレ」（57.8%）
- ⑤ 「電池・予備バッテリー」（57.5%）

（イ）令和3年度調査以降、「水」「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」の上位3項目の順位に変更はない。

（ウ）前回調査と比較すると、「簡易トイレ」（51.7%→57.8%）が6.1ポイント、「電池・予備バッテリー」（51.6%→57.5%）が5.9ポイントと大きく増加している。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

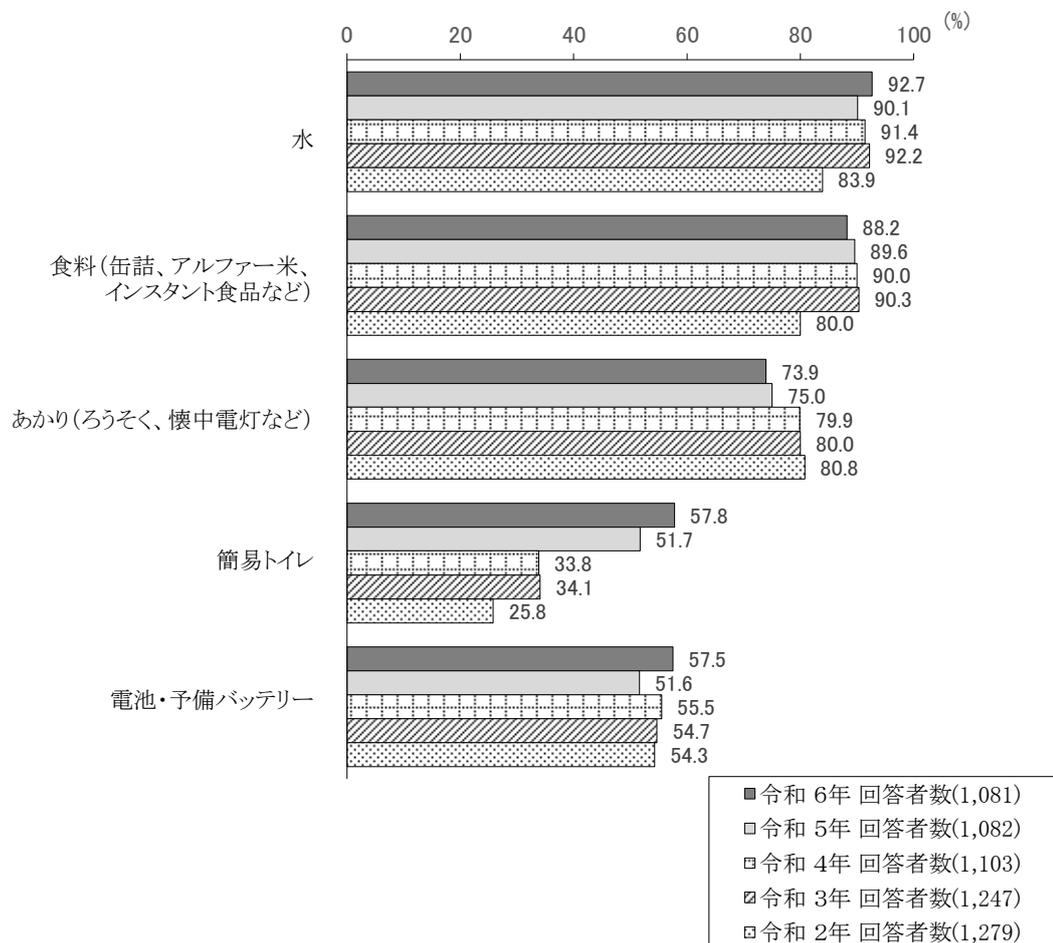


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

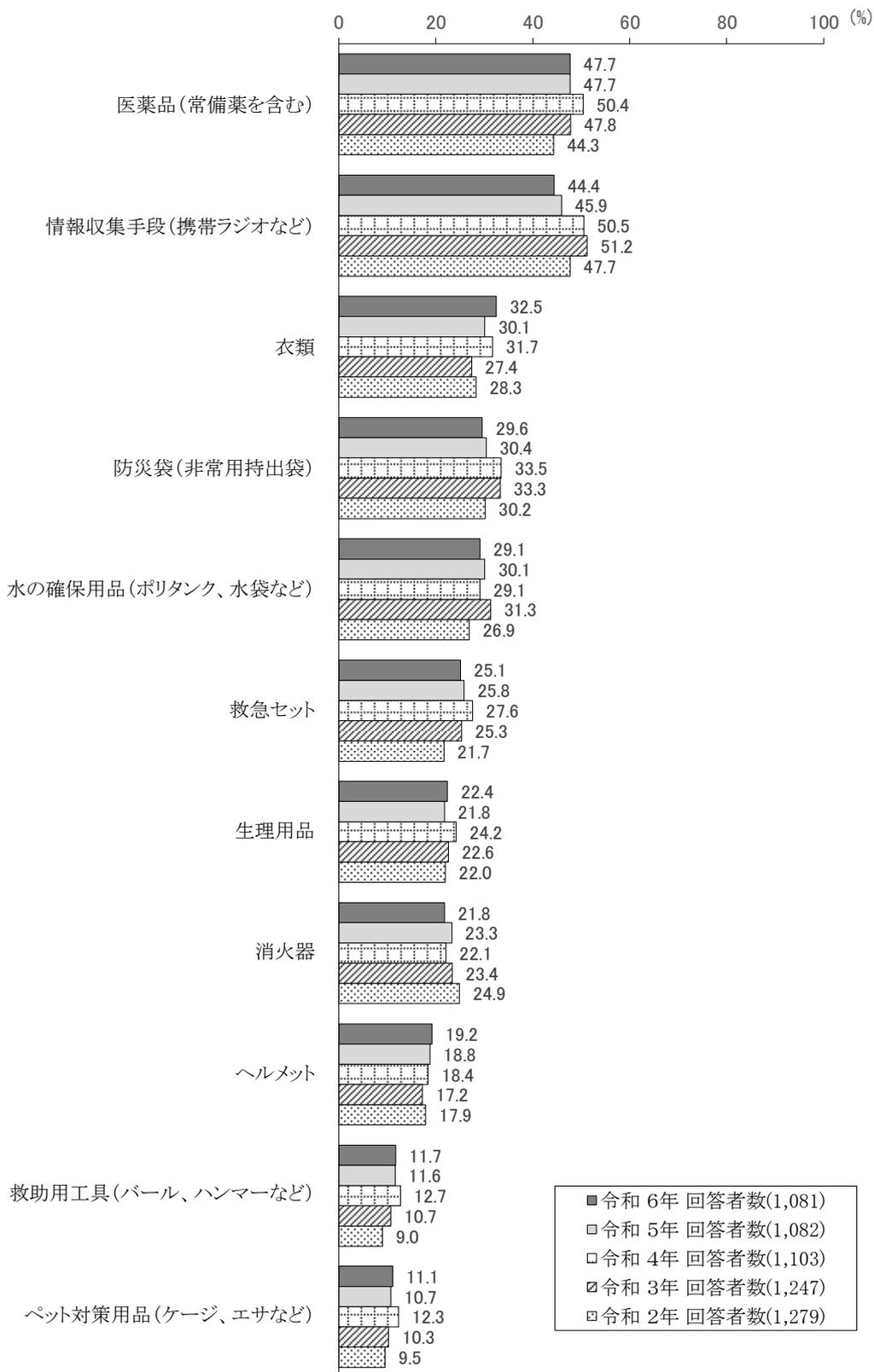
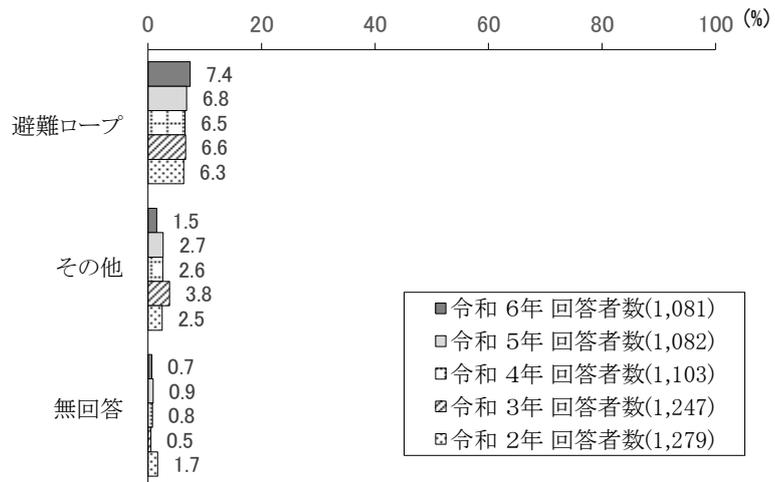


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

(ア) 性別にみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い項目

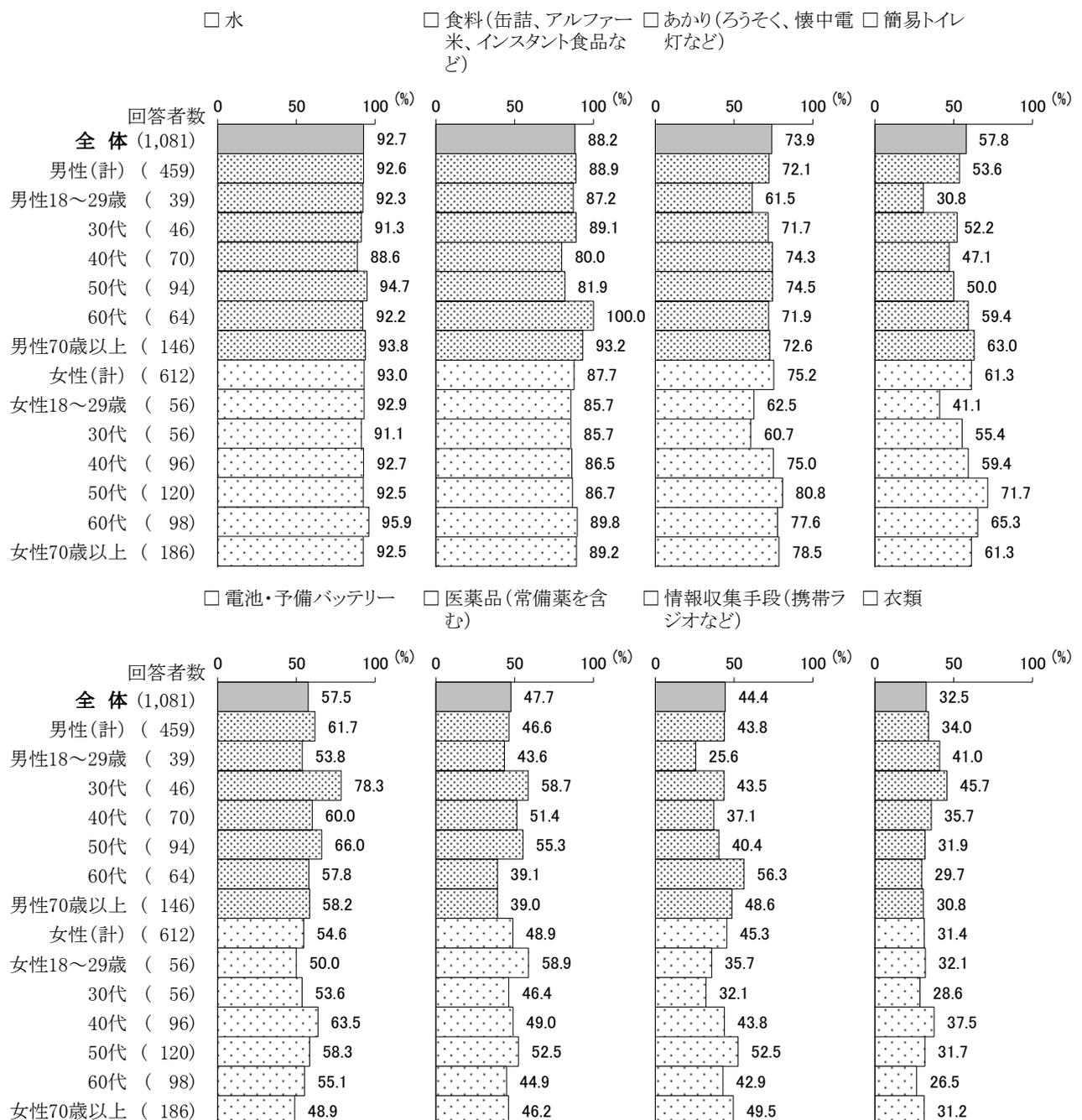
「電池・予備バッテリー」(+7.1ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い項目

「簡易トイレ」(+7.7ポイント)、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」(+3.1ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、「水」は女性の60代（95.9%）が最も高く「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は男性の60代（100.0%）が最も高くなっている。また、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の50代（80.8%）が最も高い一方で、女性の30代（60.7%）で最も低く、その差は約20ポイントと大きく開いている。

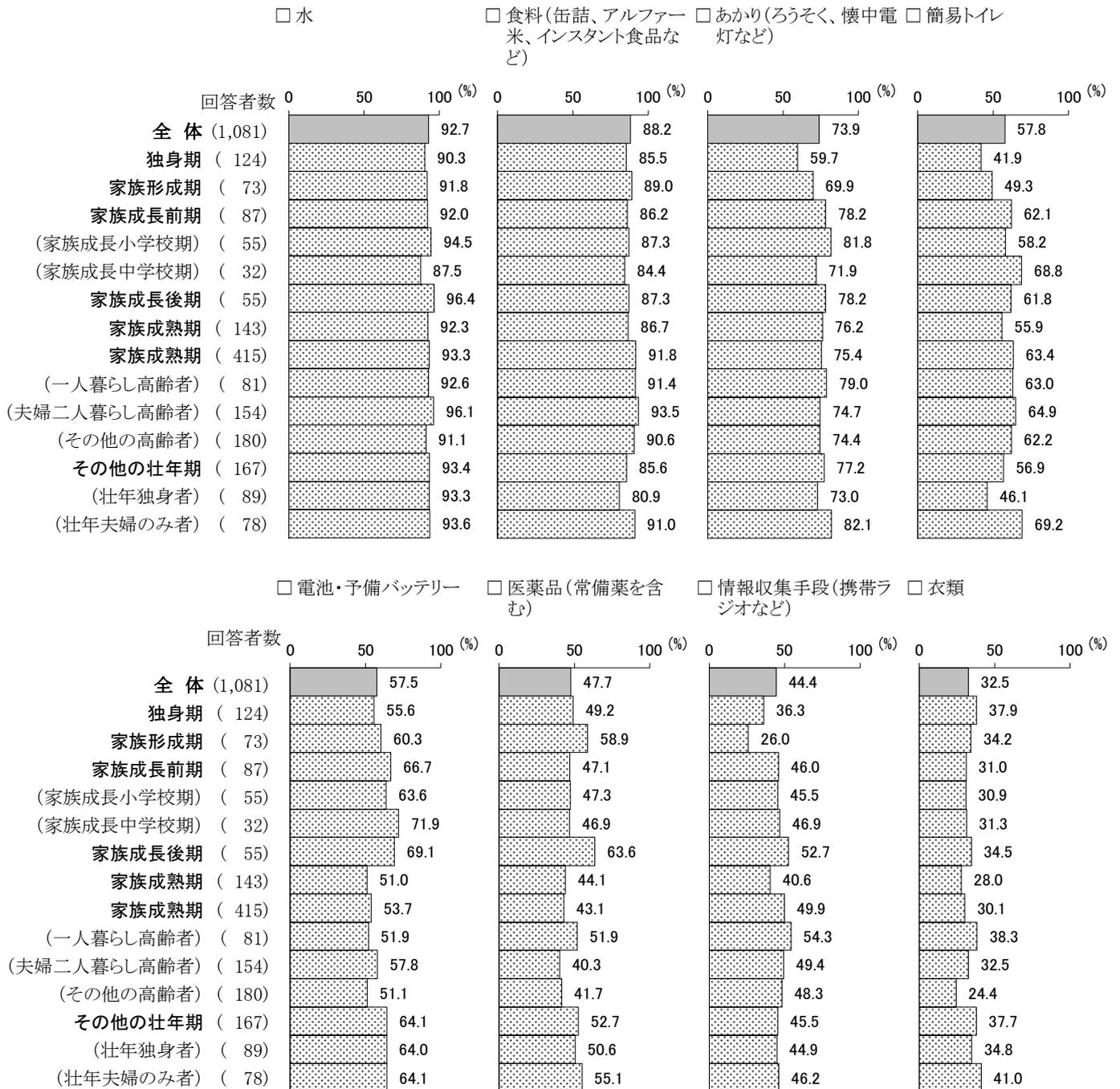
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」は〈家族成長後期〉（96.4%）、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は〈家族成熟期〉（91.8%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は〈家族成長前期〉と〈家族成長後期〉（各78.2%）でそれぞれ最も高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です  
(〇はそれぞれ1つずつ)。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含まず。

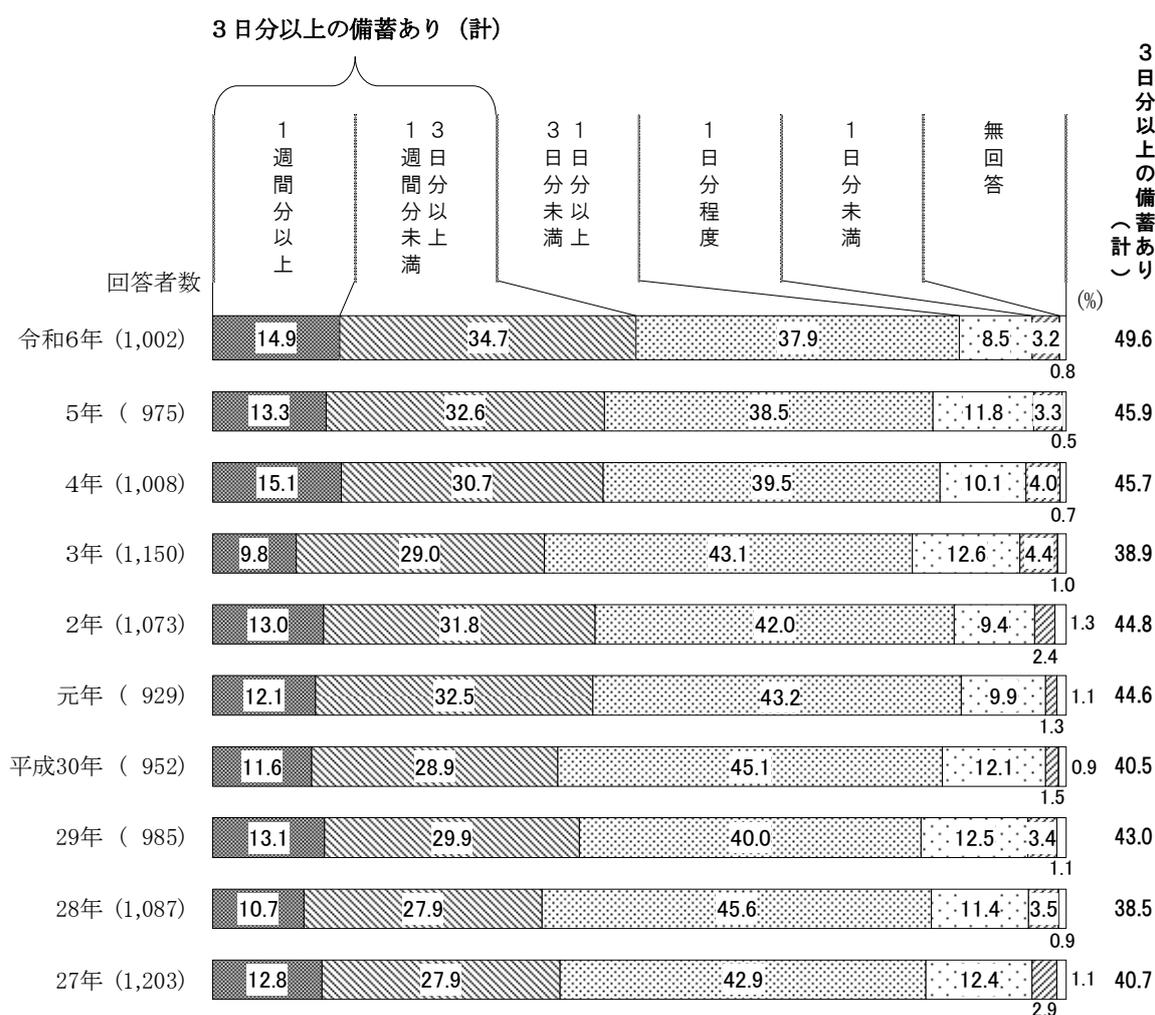
■【3日分以上の備蓄あり】は「水」が約5割、「食料」が4割台半ば、「簡易トイレ」が約4割

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

(ア)「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が37.9%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(34.7%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(14.9%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は49.6%となっている。

(イ)水について前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は3.7ポイント増加しており、過去10年間で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水

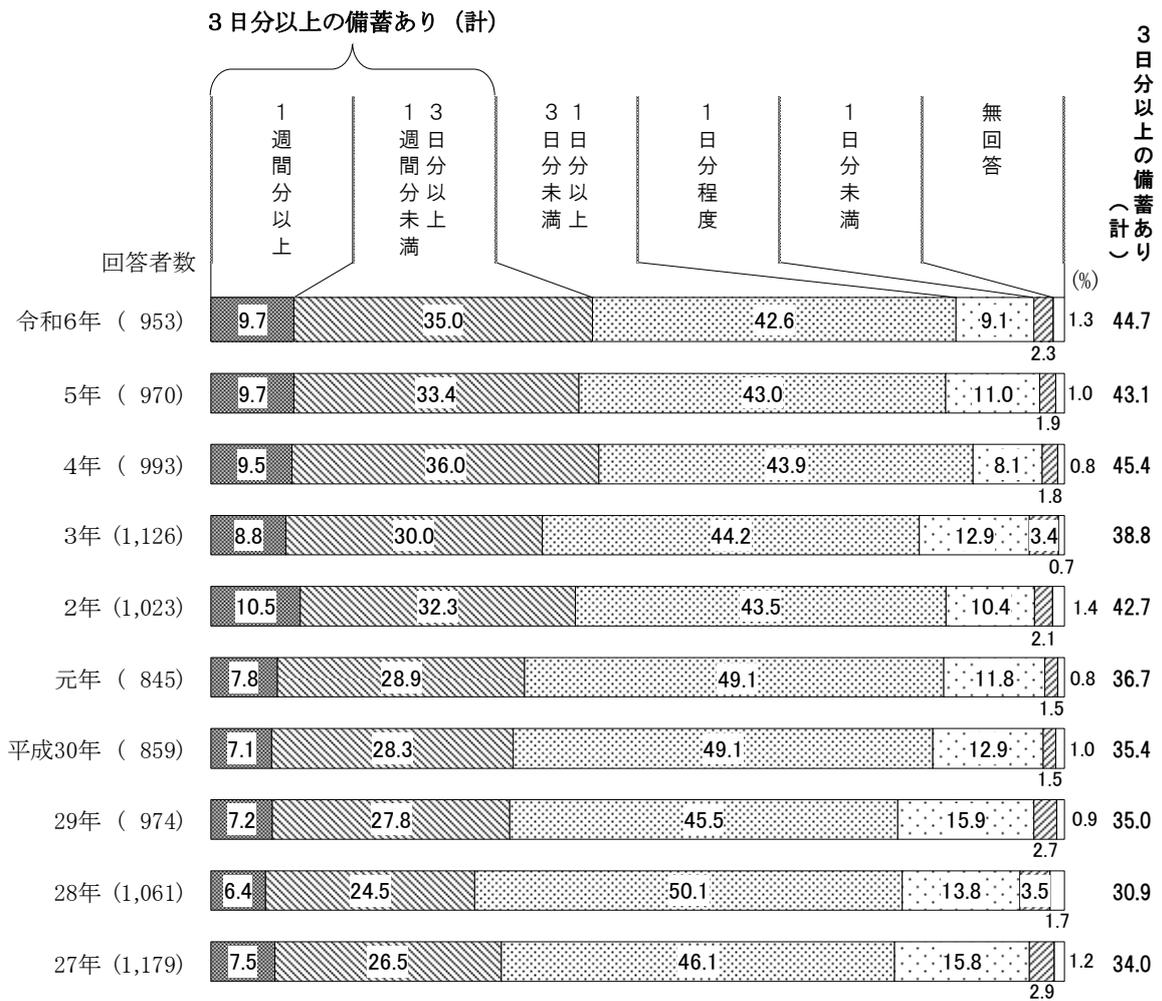


イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

(ア) 「食料（缶詰、アルファーム米、インスタント食品など）」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が42.6%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（35.0%）となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」（9.7%）を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は44.7%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、前々回の令和4年度調査（45.4%）に次いで高い割合となっている。

図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料

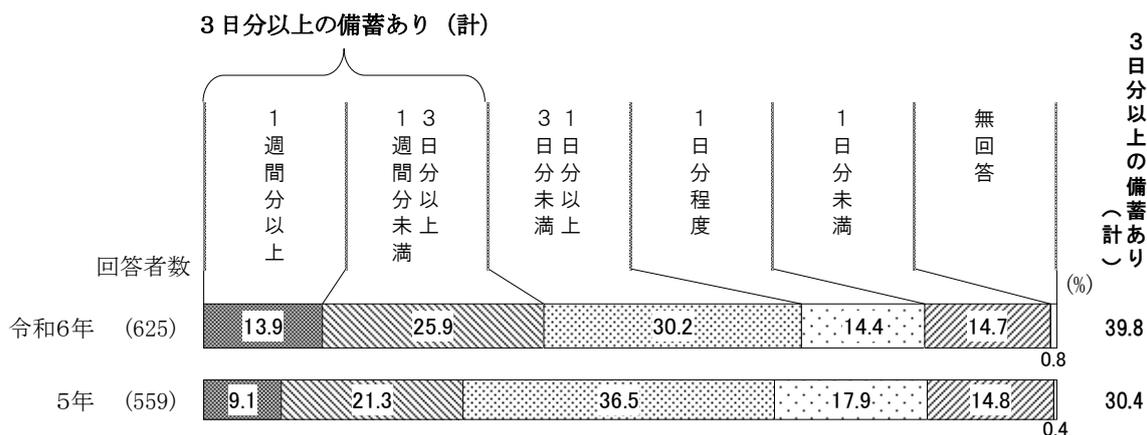


ウ 単純集計／備蓄量／簡易トイレ

(ア) 「簡易トイレ」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が30.2%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(25.9%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(13.9%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は39.8%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】(30.4%)は9.4ポイント増と大幅に増加している。

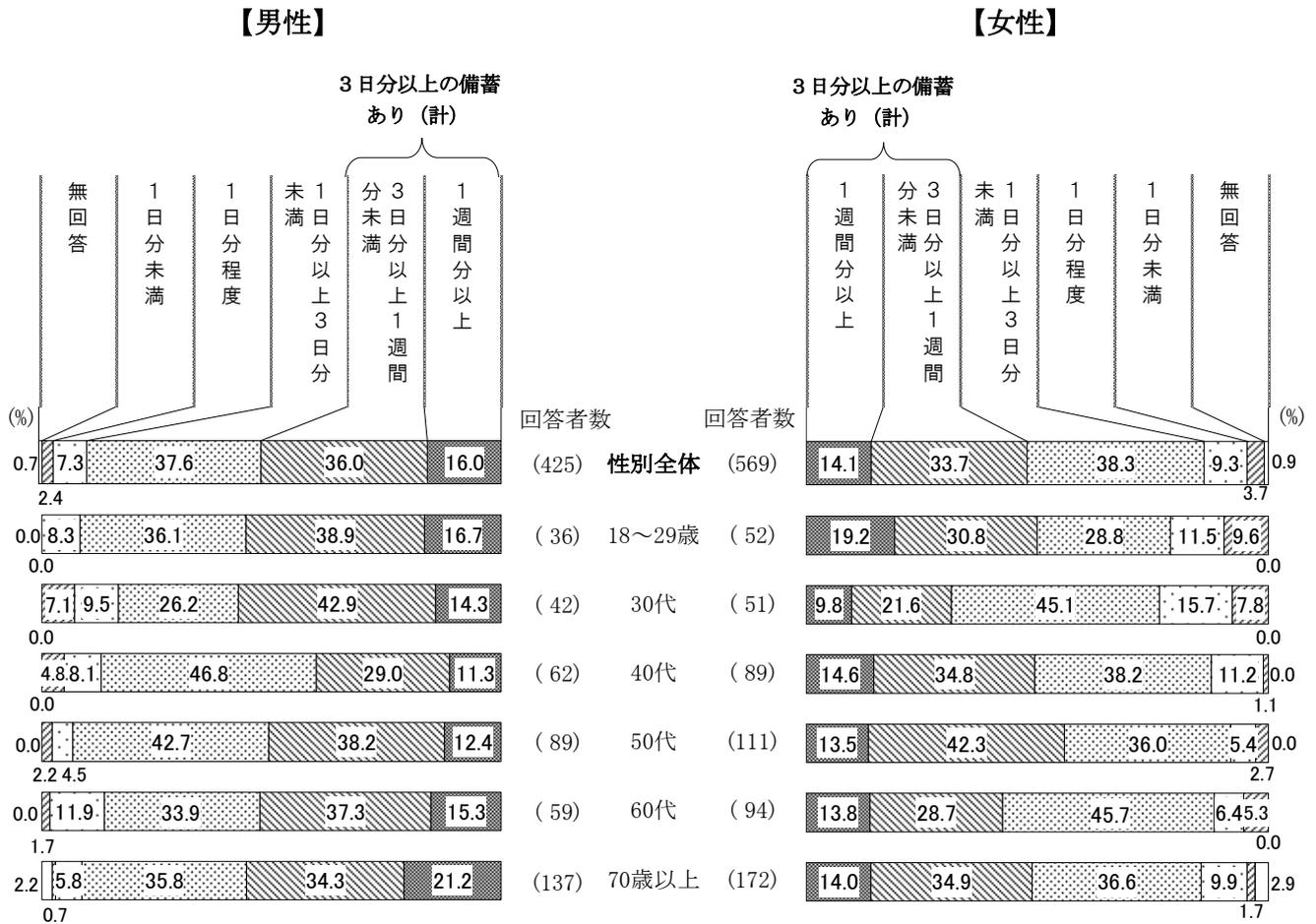
図2-3-1-③ 前回調査比較／備蓄量／簡易トイレ



エ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

- (ア) 「水」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（52.0%）の方が女性（47.8%）より4.2ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が57.1%で最も高く、次いで女性の50代（55.9%）となっている。逆に、女性の30代が31.4%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の18～29歳が9.6%で最も高くなっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

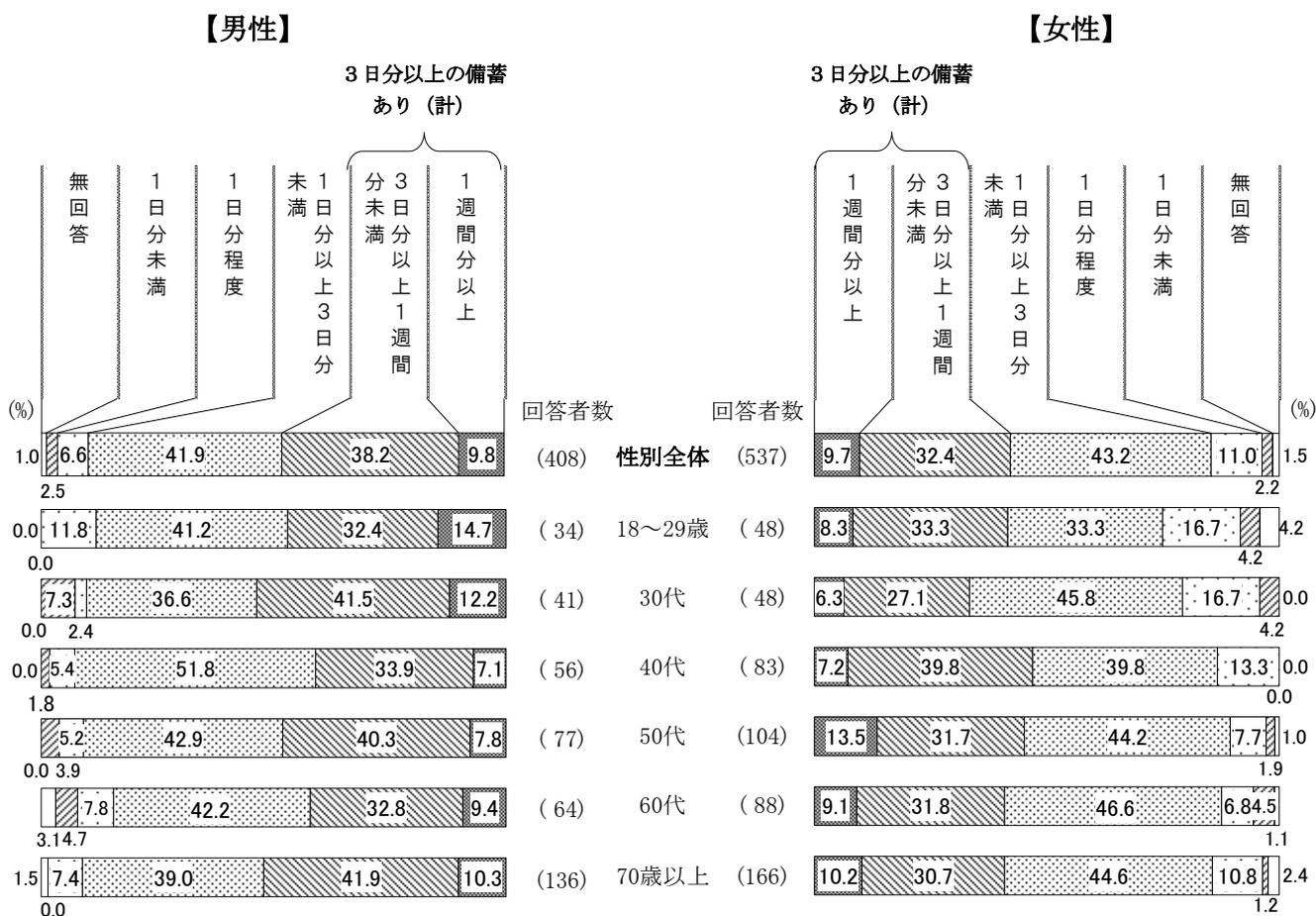


オ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

(ア) 「食料」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（48.0%）の方が女性（42.1%）より5.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が53.7%で最も高く、次いで男性の70歳以上（52.2%）となっている。逆に、女性の30代が33.3%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の30代が7.3%で最も高くなっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料

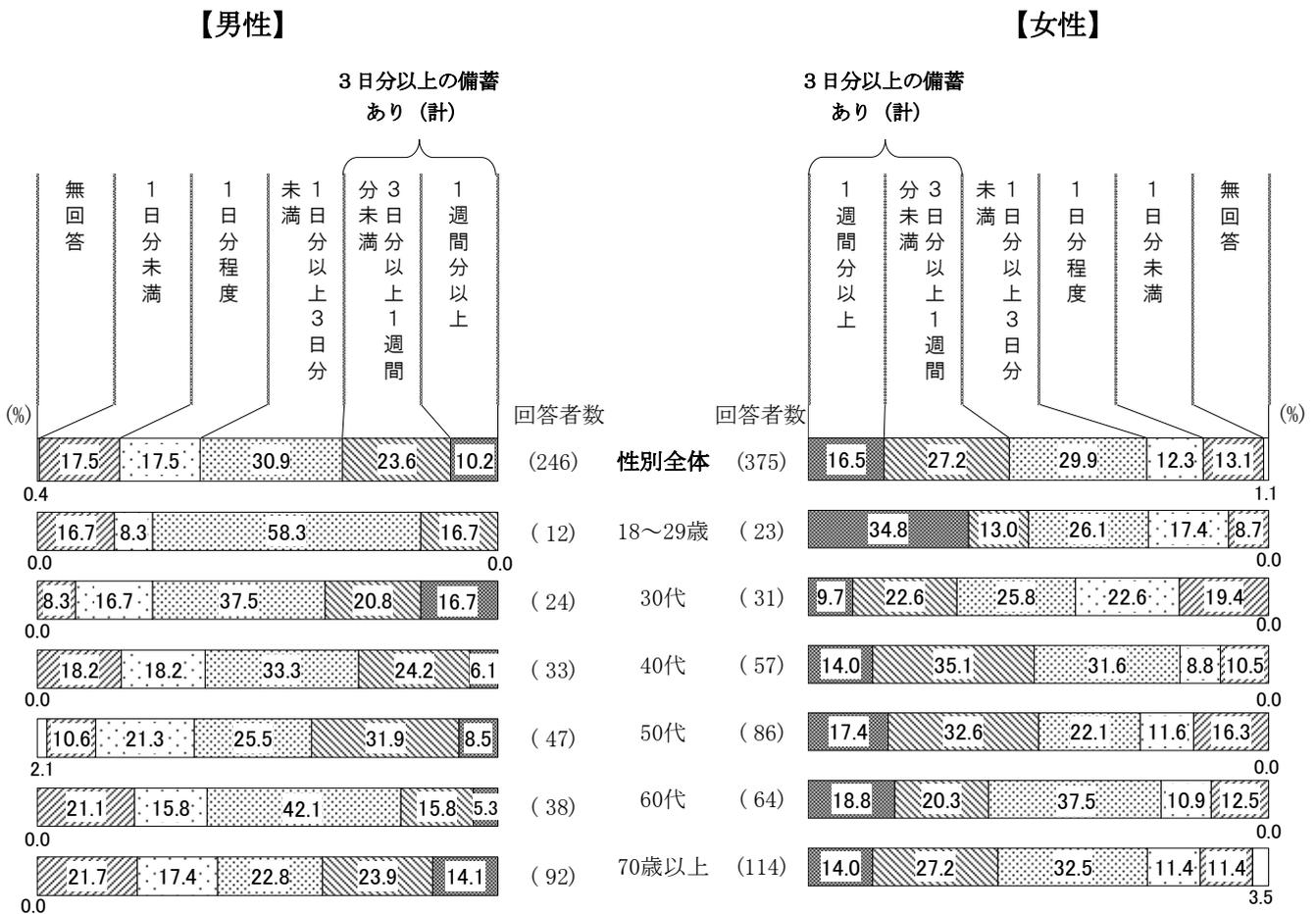


カ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

(ア) 「簡易トイレ」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は女性(43.7%)の方が男性(33.7%)より10.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の50代が50.0%で最も高く、次いで女性の40代(49.1%)となっている。逆に、男性の18～29歳が16.7%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の70歳以上が21.7%で最も高くなっている。

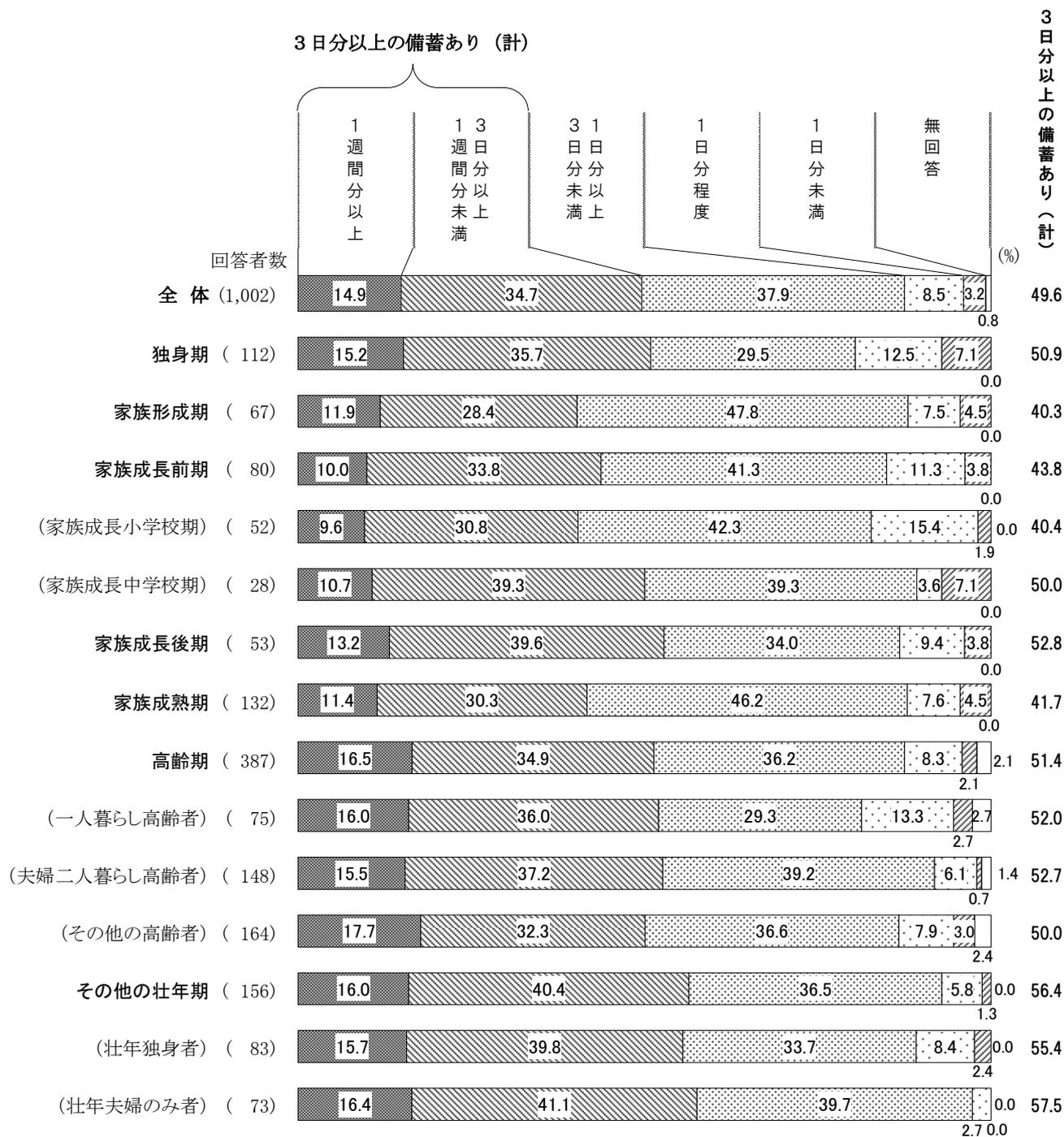
図2-3-2-③ 性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ



キ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が56.4%で最も高く、次いで、〈家族成長後期〉が52.8%となっている。逆に〈家族形成期〉が40.3%で最も低くなっている。

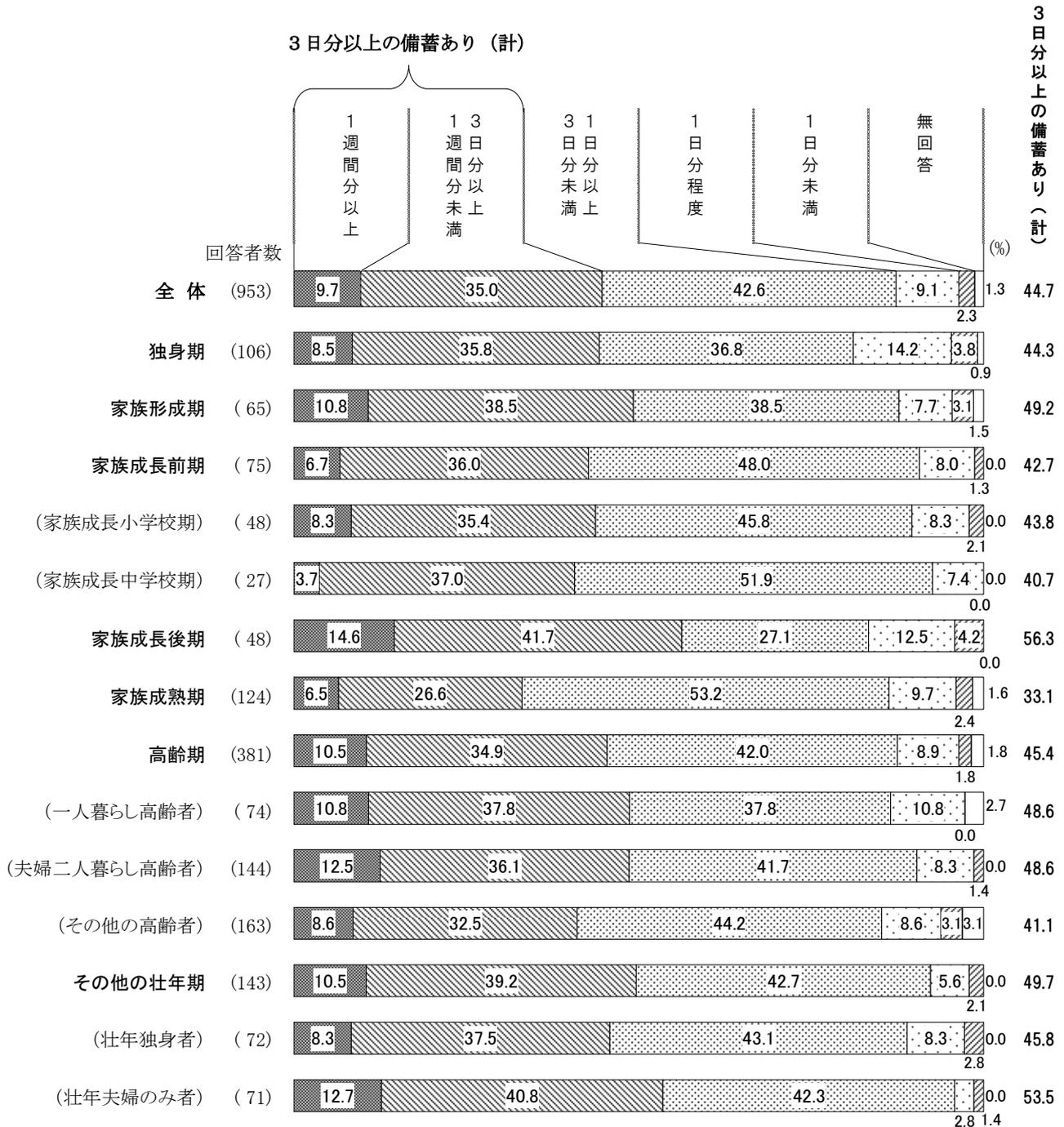
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



ク クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族成長後期〉が56.3%で最も高く、次いで、〈その他の壮年期〉が49.7%となっている。逆に〈家族成熟期〉が33.1%で最も低くなっている。

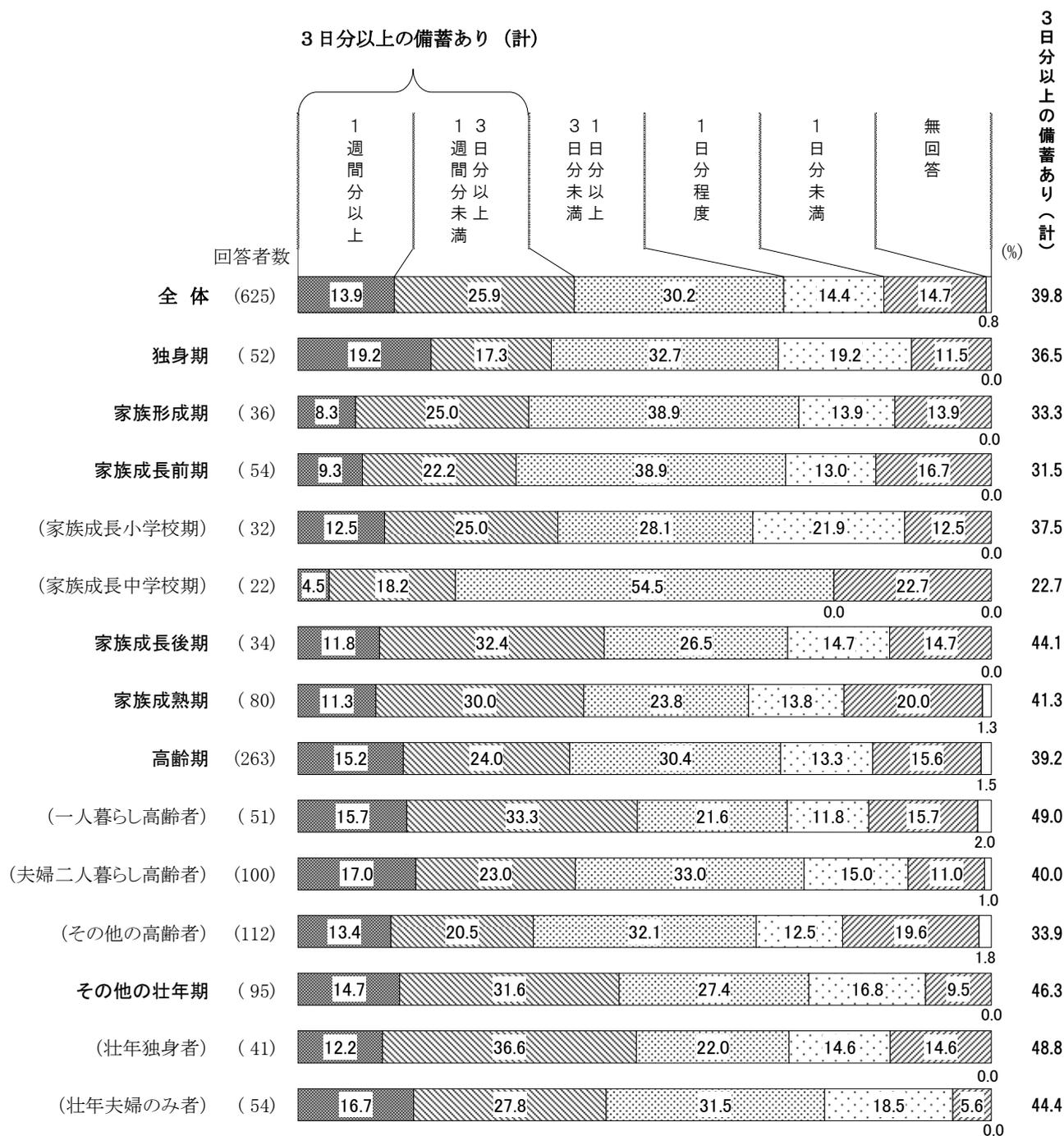
図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



ケ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が46.3%で最も高く、次いで、〈家族成長後期〉が44.1%となっている。逆に〈家族成長前期〉が31.5%で最も低くなっている。

図2-3-3-③ ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ



#### (4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問5 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つつ）。

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.7%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（18.4%）

ア【一時集合場所】とは、大地震など、災害が発生した場合に、避難場所（区内に32カ所）や避難所（区内の小・中学校や福祉施設）に集団で避難するために、町会・自治会単位で一時的に集まる場所です。

イ【避難場所】とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所です。

ウ【第一次避難所】とは、自宅が倒壊・焼失等で生活が出来ない場合、生活する場所です。第一次避難所は、区立の小中学校、都立高校などが指定されており、災害発生時には、避難所近隣の町会・自治会を中心とした避難所運営本部により開設されます。

#### ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

- (ア) 地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」(36.3%)、「ウ 第一次避難所」(24.3%)の順となっている。
- (イ) 地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が26.5%で最も高く、「ア 一時集合場所」(24.4%)、「ウ 第一次避難所」(18.4%)の順となっている。
- (ウ) いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「ア 一時集合場所」(11.9ポイント)、「イ 避難場所」(10.2ポイント)、「ウ 第一次避難所」(5.9ポイント)となっている。
- (エ) 前回調査と比較すると、〈場所〉〈意味〉ともに「知っている」が微増しているものの、割合としては特に大きな違いではない。

図2-4-1-① 経年比較/地域の3種の避難場所とその意味の認知

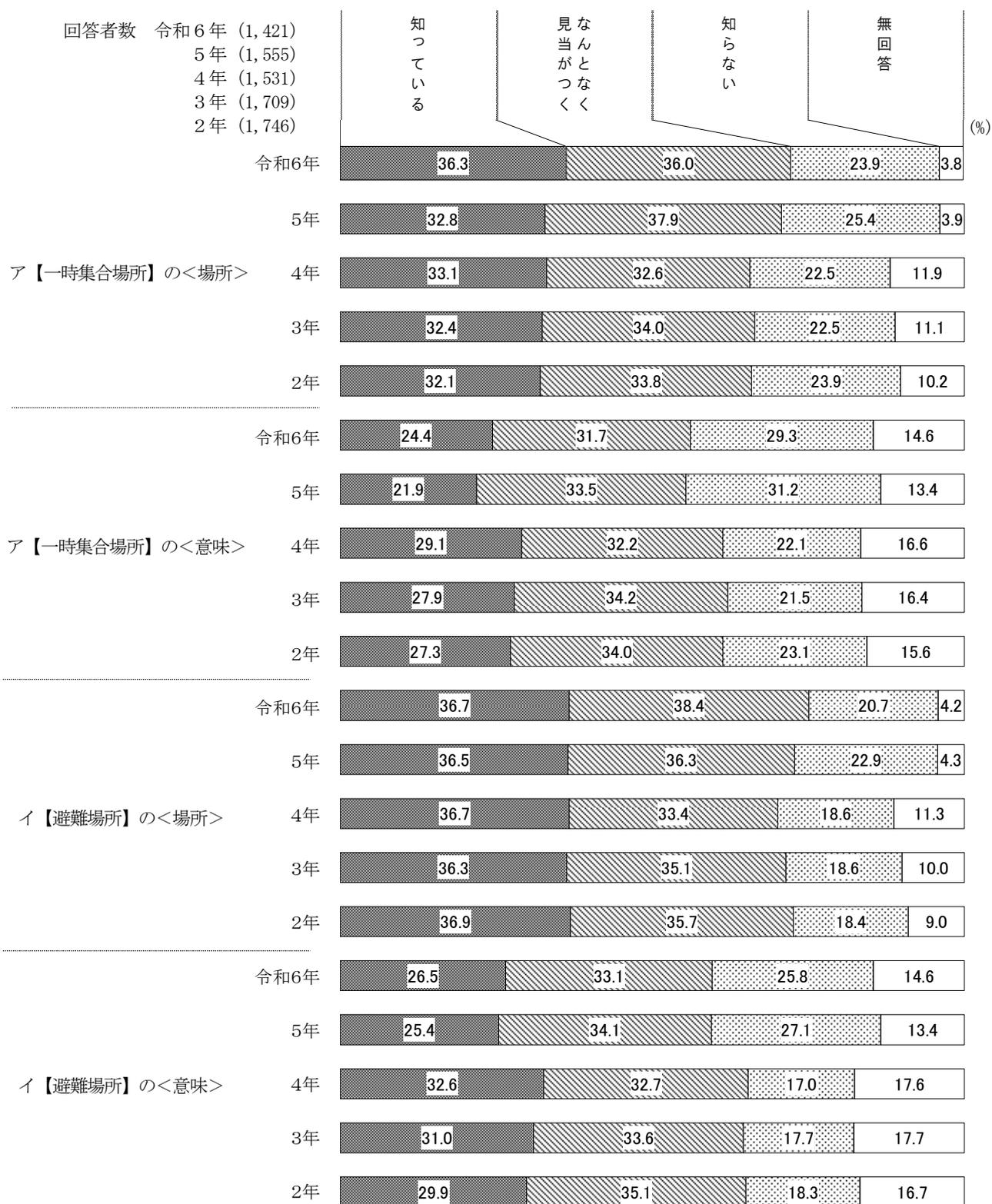
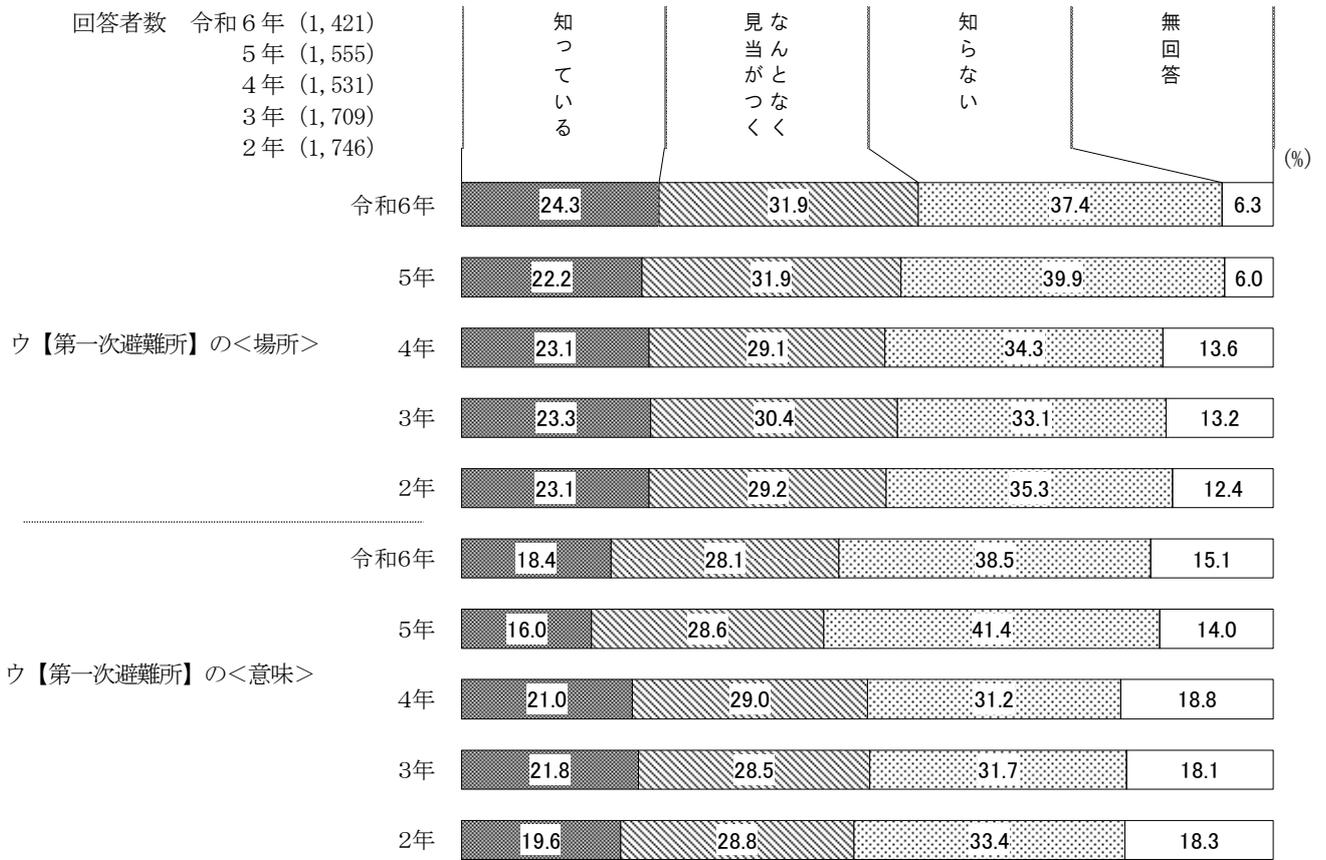


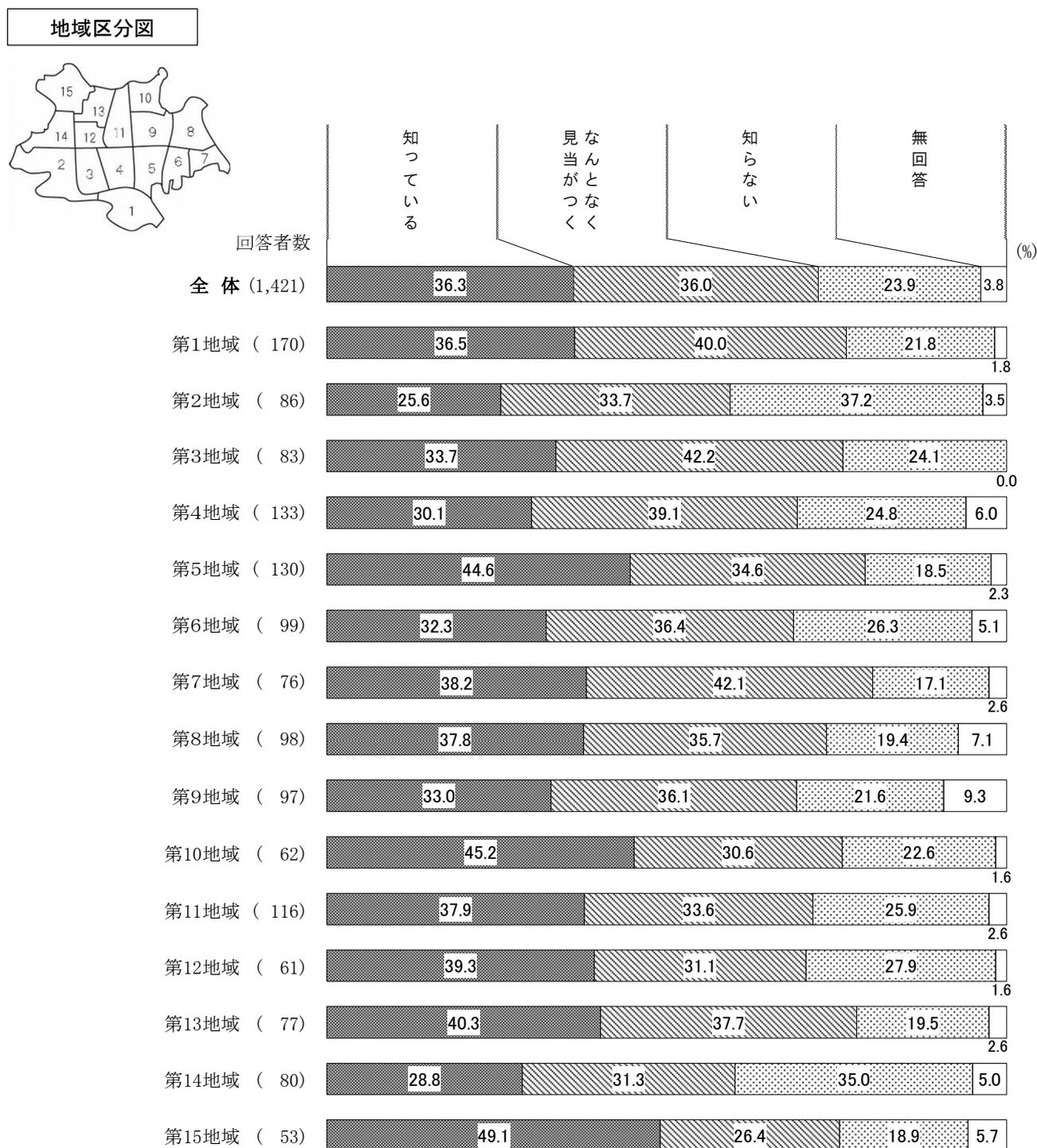
図2-4-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が49.1%で最も高く、次いで、第10地域（45.2%）となっている。一方、第2地域が25.6%で最も低く、次いで第14地域（28.8%）となっている。

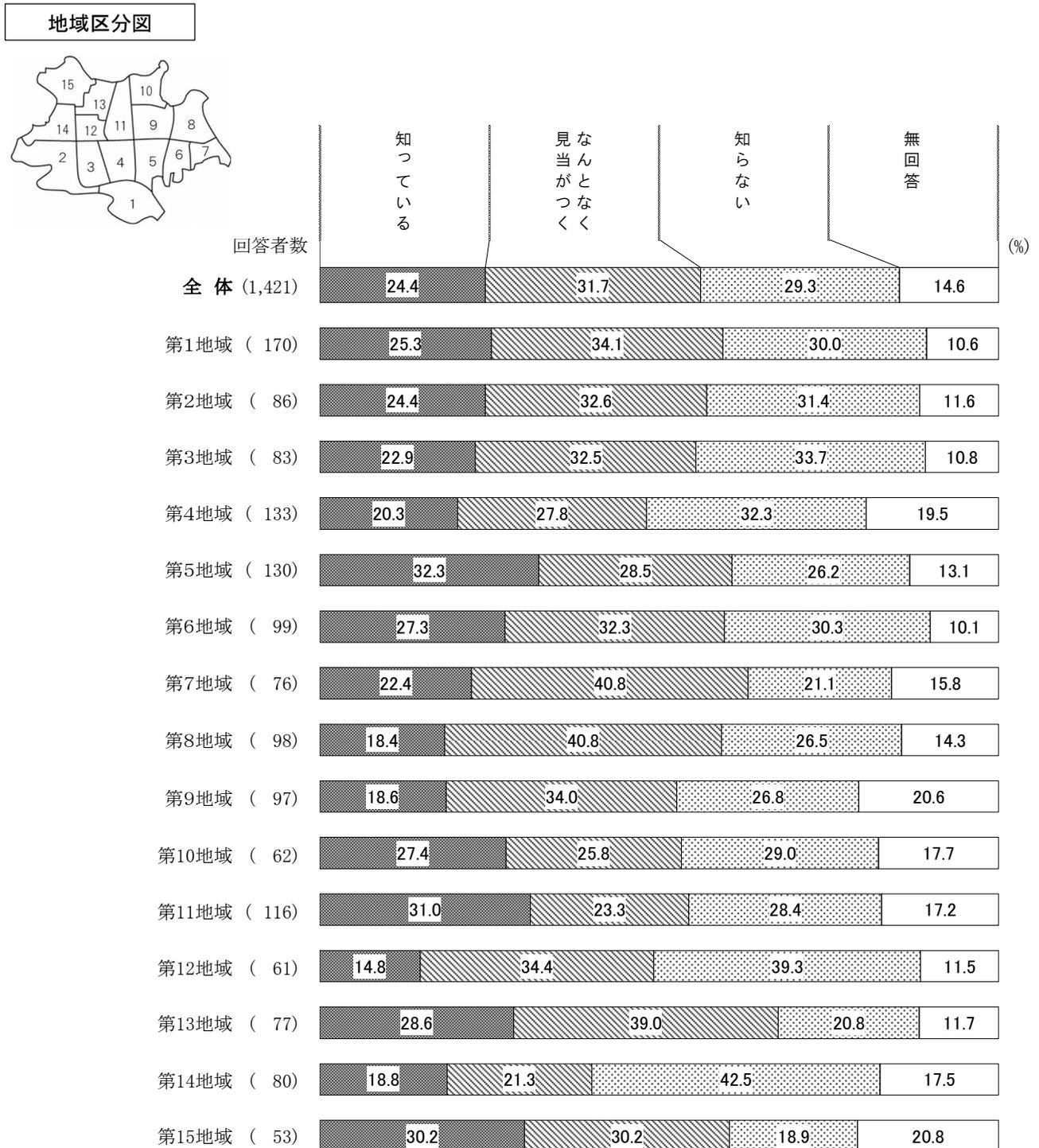
図2-4-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第5地域が32.3%で最も高く、次いで第11地域（31.0%）となっている。一方、第12地域が14.8%で最も低く、次いで第8地域（18.4%）となっている。

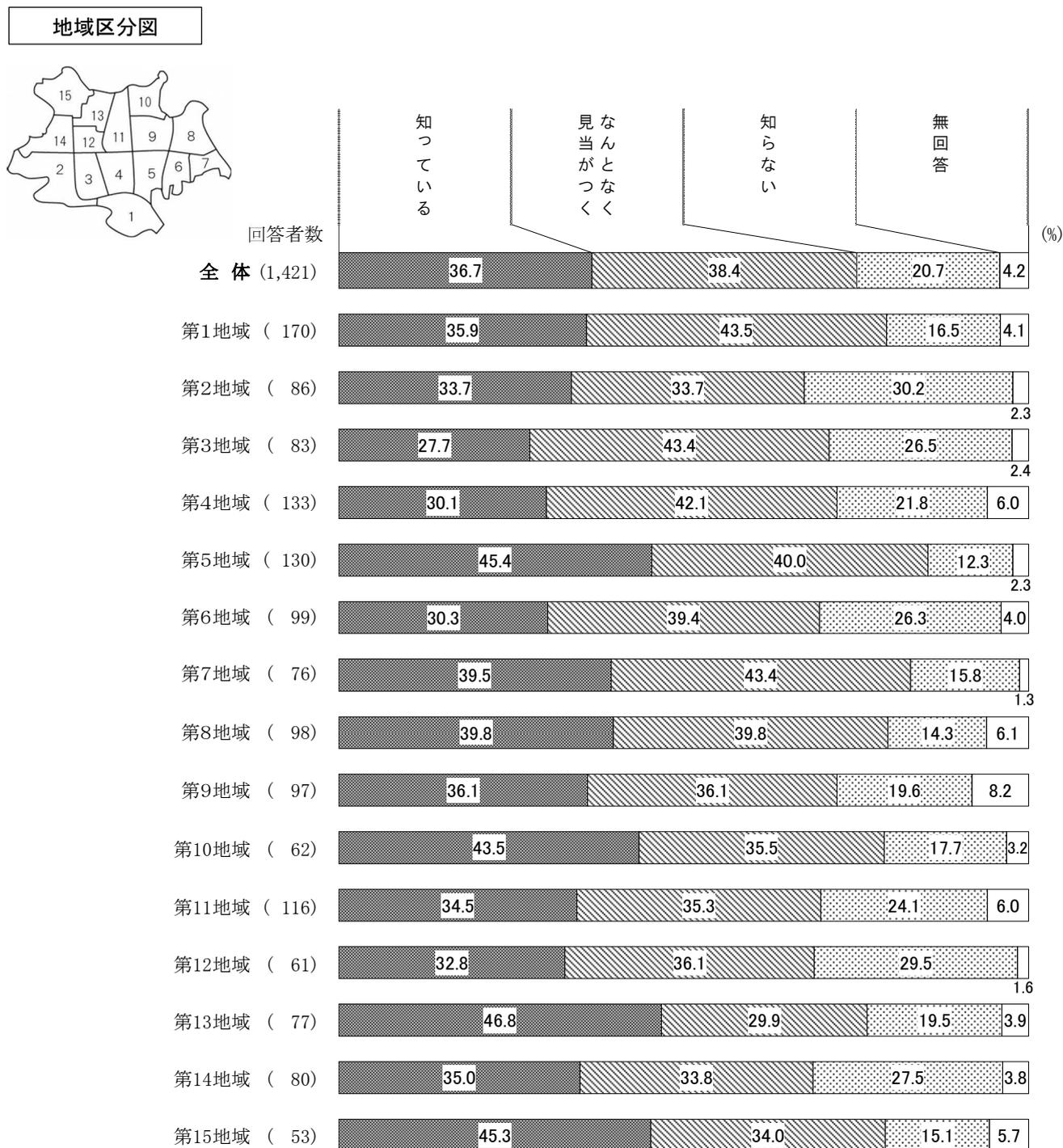
図2-4-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域が46.8%で最も高く、次いで第5地域（45.4%）となっている。一方、第3地域が27.7%で最も低く、次いで第4地域（30.1%）となっている。

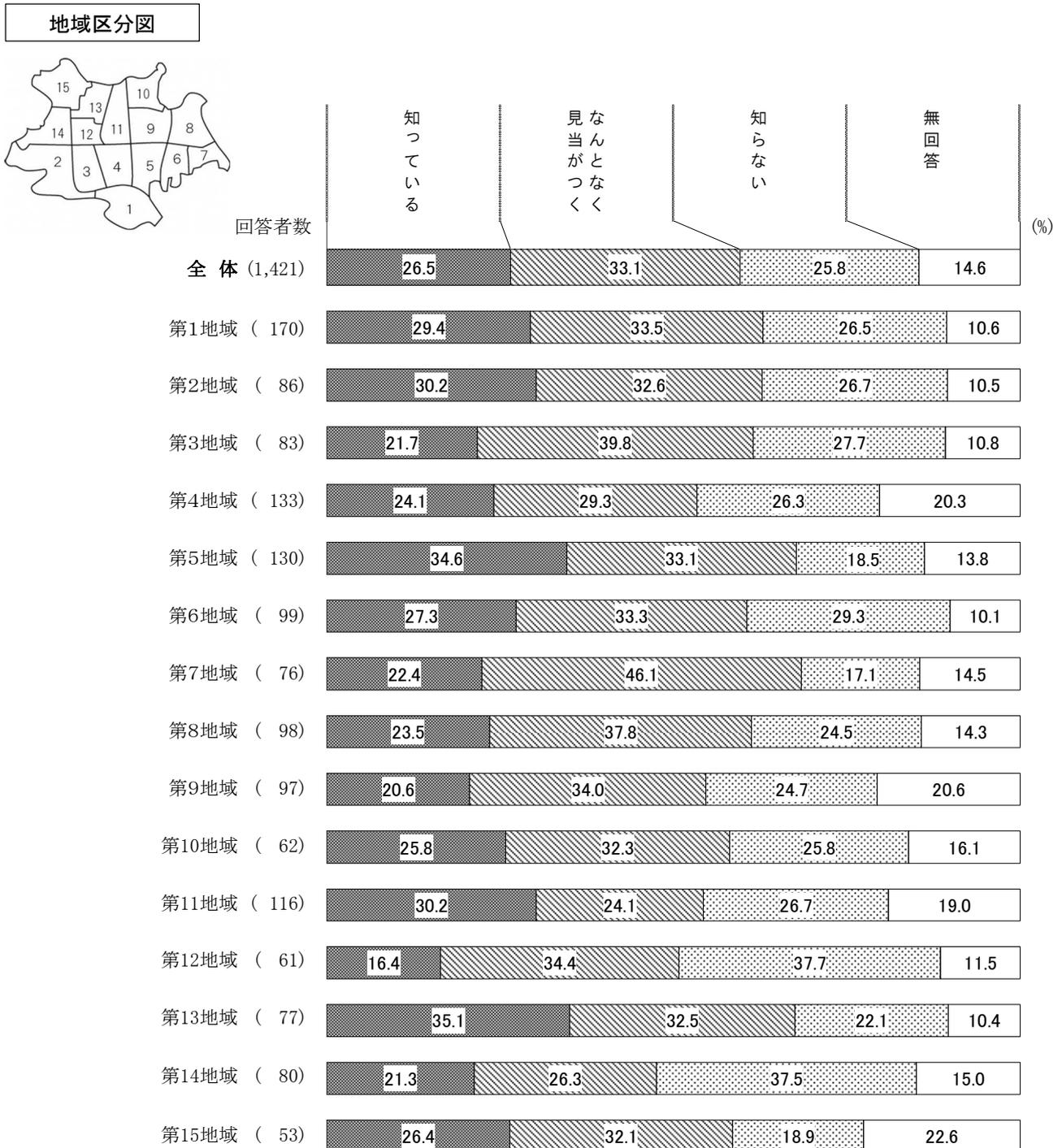
図2-4-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈意味〉」の認知

「イ【避難場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域が35.1%で最も高く、次いで第5地域（34.6%）となっている。一方、第12地域が16.4%で最も低く、次いで第9地域（20.6%）となっている。

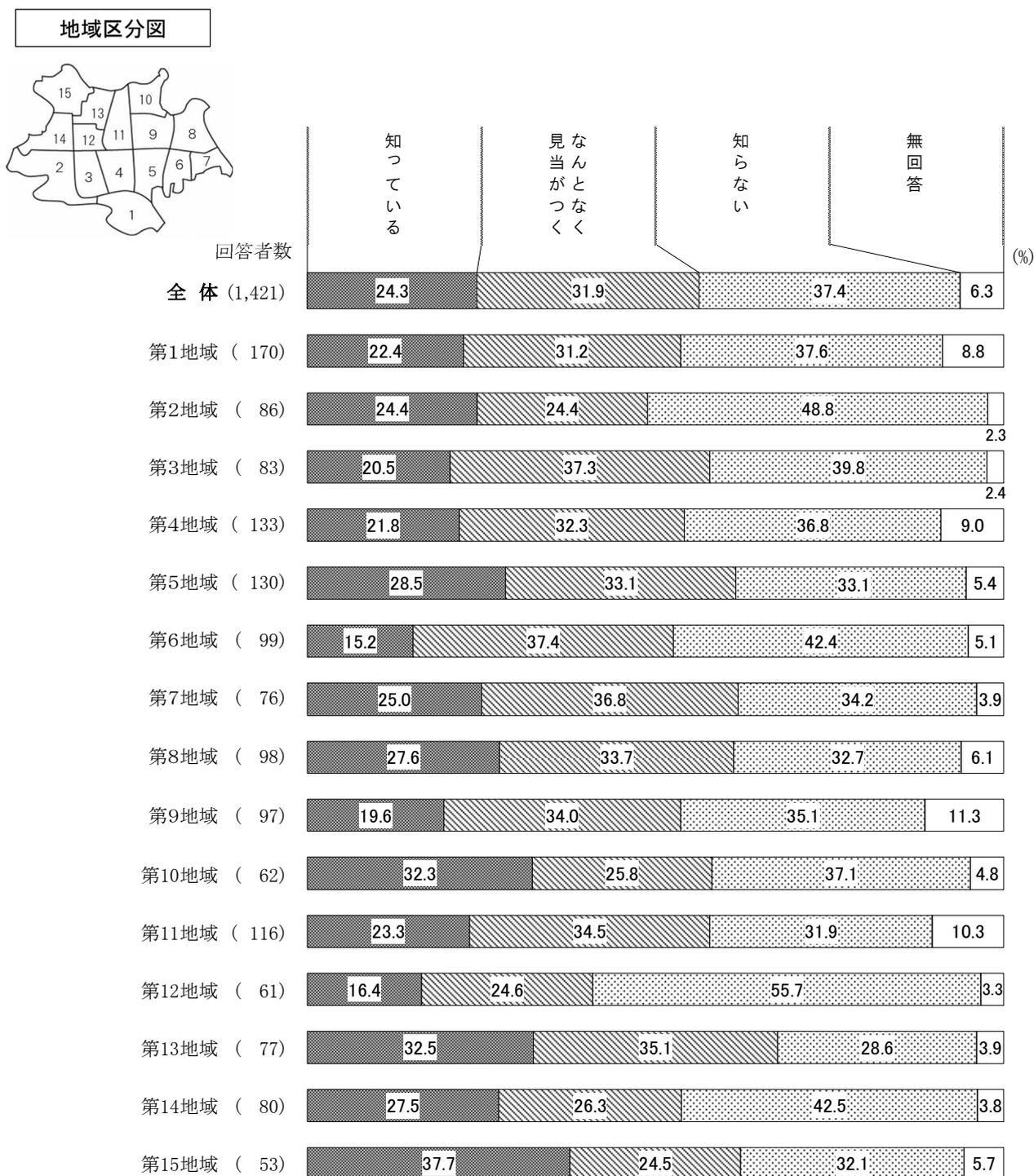
図2-4-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の〈意味〉」の認知



カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が37.7%と最も高く、次いで第13地域（32.5%）となっている。一方、第6地域が15.2%で最も低く、次いで第12地域（16.4%）となっている。

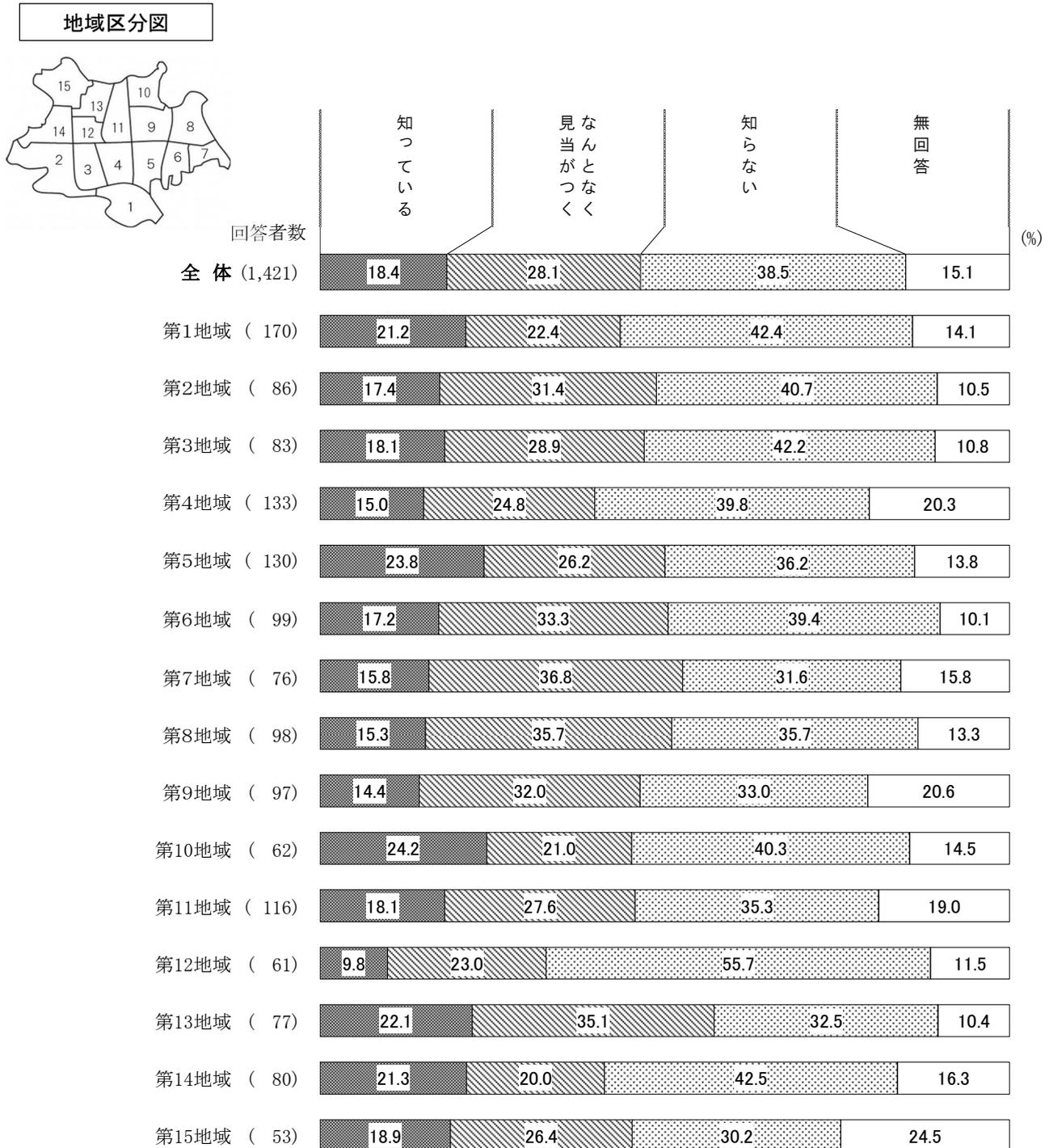
図2-4-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第10地域が24.2%で最も高く、次いで第5地域（23.8%）となっている。一方、第12地域が9.8%で最も低く、次いで第9地域（14.4%）となっている。

図2-4-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



(5) 大規模災害時の避難生活場所

問6 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

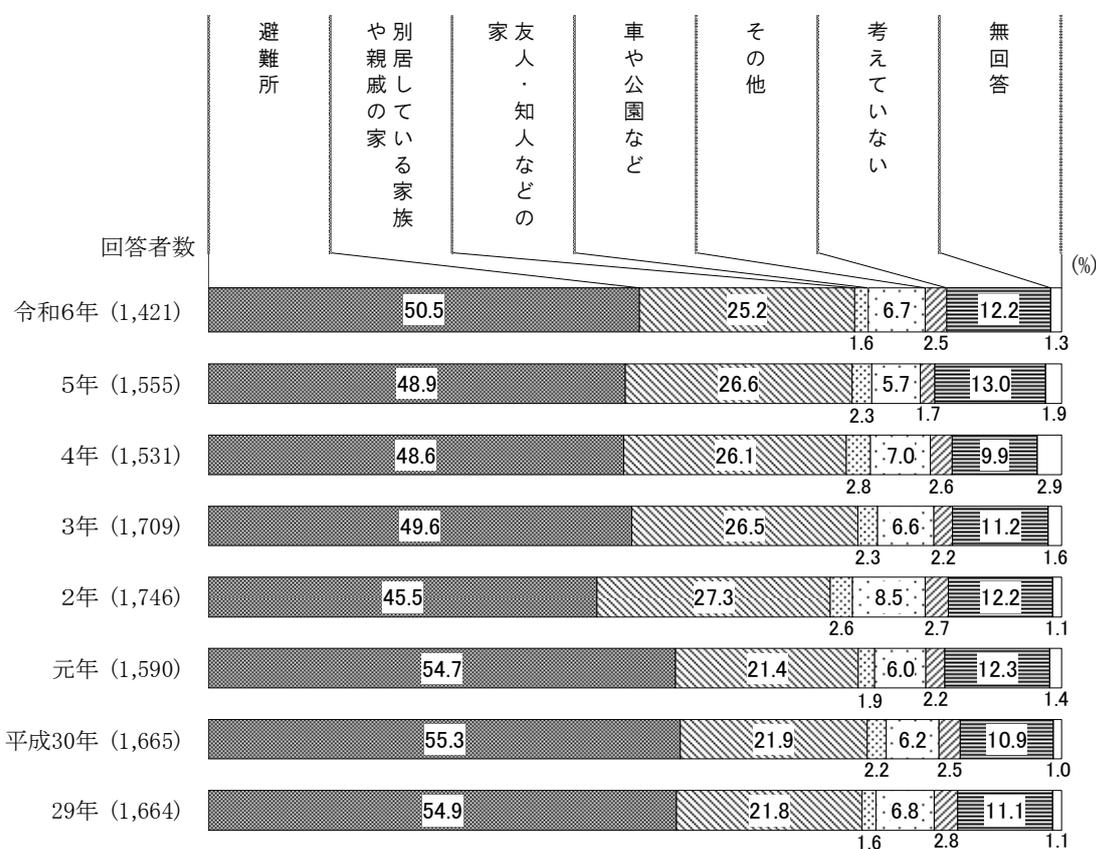
■「避難所」が5割で最も高く、他の項目を含めてこの4年間に割合の変化はない

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が50.5%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(25.2%)となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

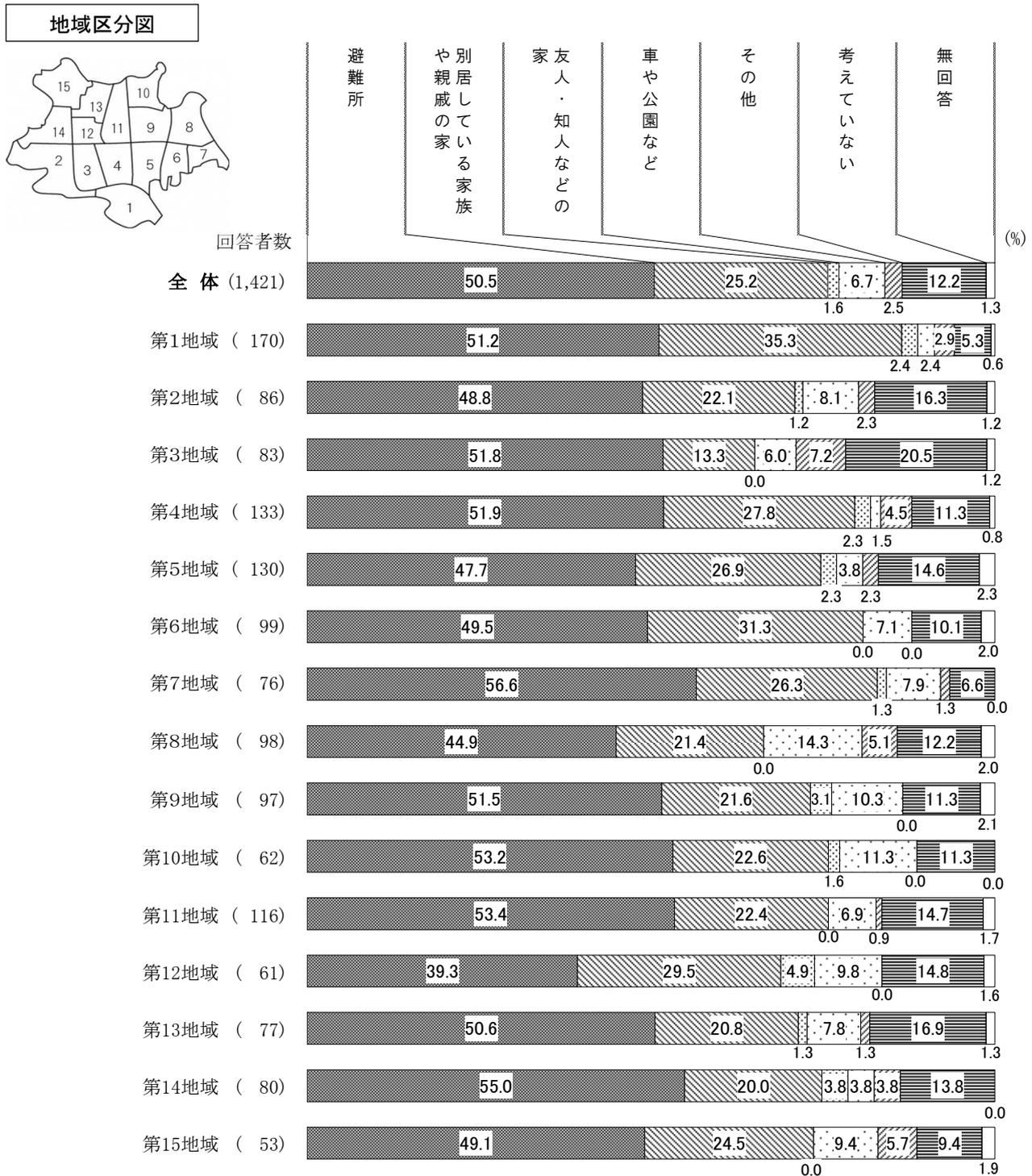
図2-5-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第7地域（56.6%）で最も高く、次いで第14地域（55.0%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第1地域（35.3%）、「車や公園など」は第8地域（14.3%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第3地域（20.5%）で最も高く、第1地域（5.3%）で最も低くなっている。

図2-5-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所





### 3 洪水対策

- 
- (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知
  - (2) 河川はん濫時の避難場所
  - (3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
-



### 3 洪水対策

#### (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

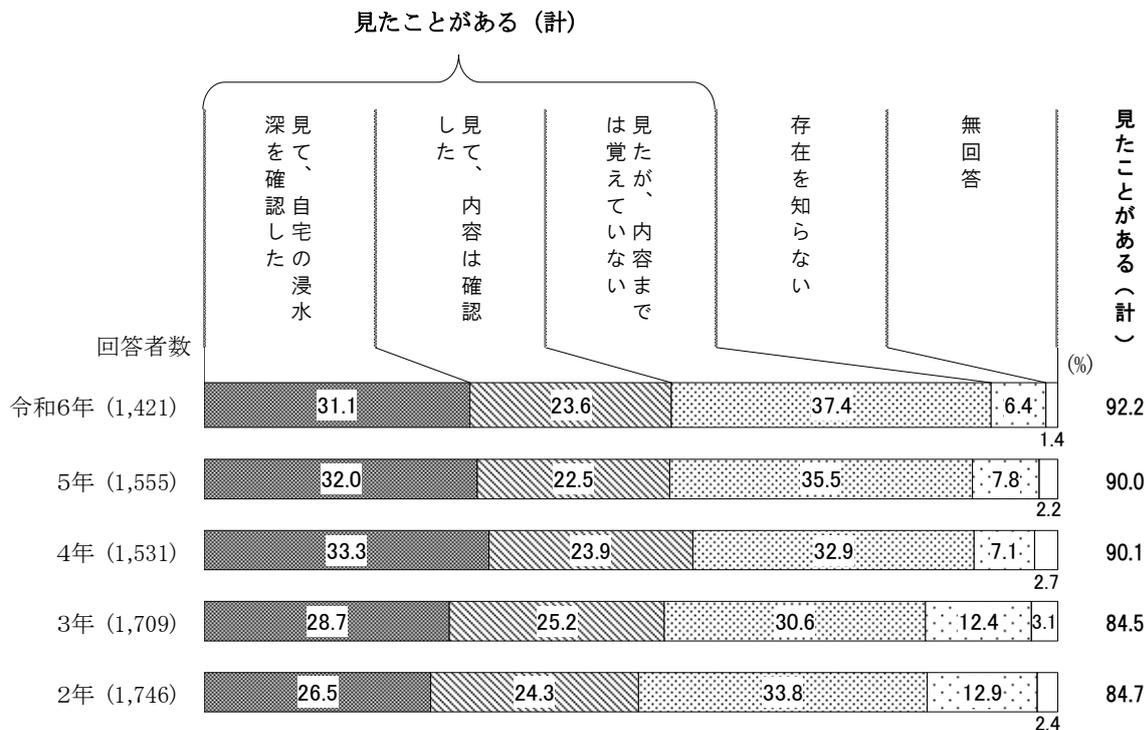
問7 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

■【見たことがある】は9割超で前回調査から微増

#### ア 単純集計・経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』について、「見たが、内容までは覚えていない」が37.4%で最も高く、次いで「見て、自宅の浸水深を確認した」(31.1%)、「見て、内容は確認した」(23.6%)となり、これらを合わせた【見たことがある】は9割超を占めている。  
 (イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

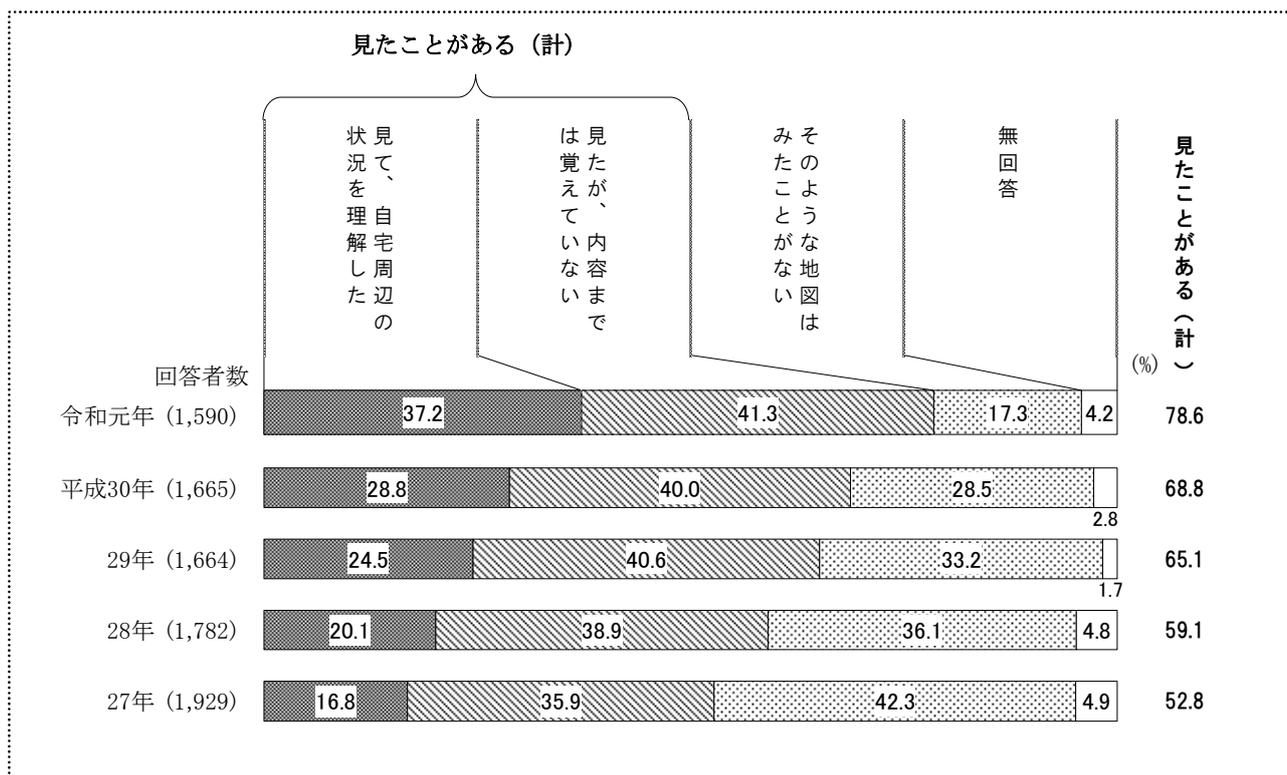
図3-1-1 経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



※ 令和3年度までの『足立区洪水ハザードマップ』は、令和4年度から、『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』に名称が変更となった。

※ 「存在を知らない」は令和4年度までは「そのような地図はみたことがない」。

参考／「足立区洪水ハザードマップ」の認知（令和元年度までの選択肢）



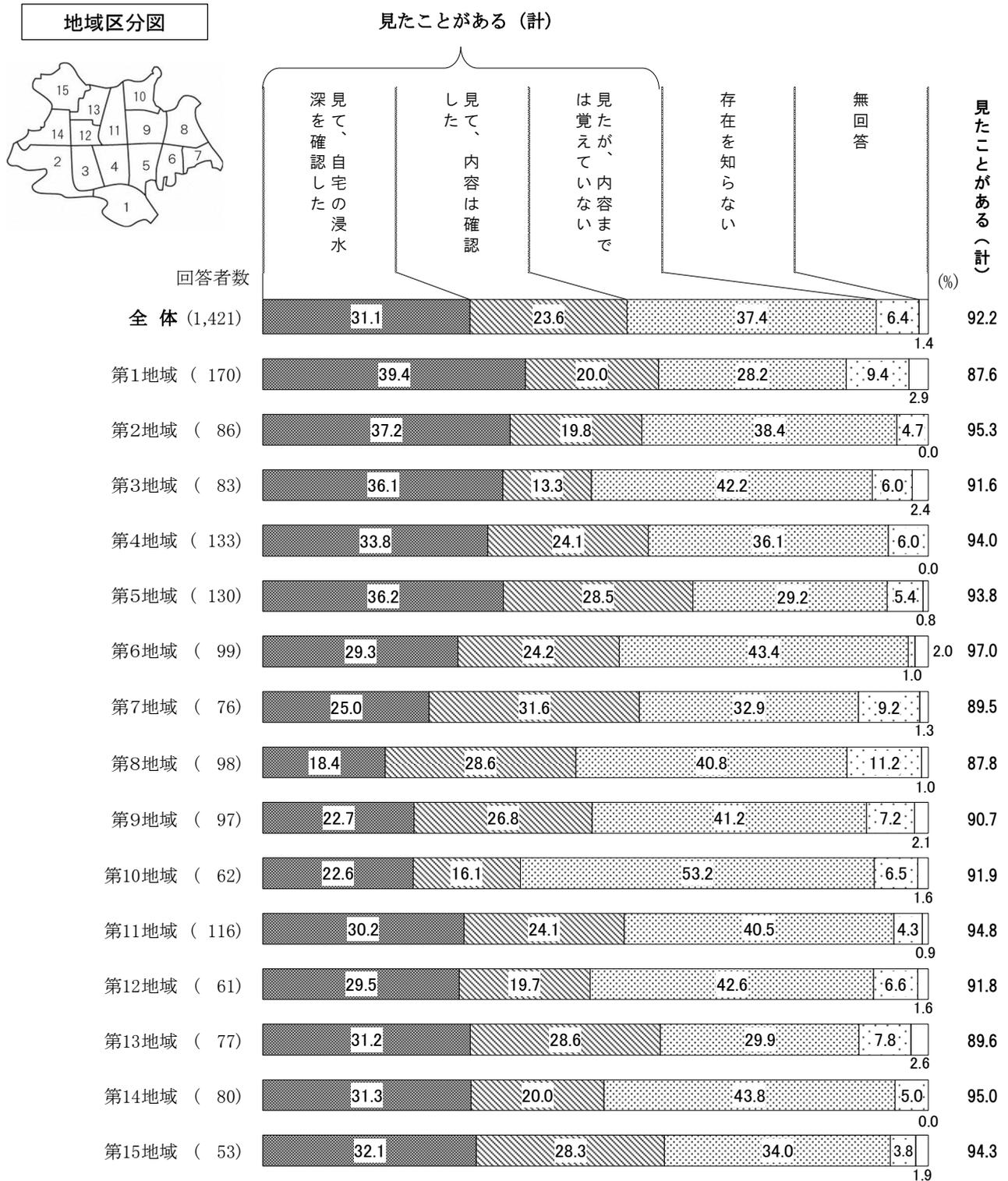
※ 令和2年度から、令和元年度までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。

※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

イ クロス集計・地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第1地域で39.4%と最も高く、第2地域が37.2%で続いており、第8地域で18.4%と最も低くなっている。また、【見たことがある】では第6地域で97.0%と最も高く、次いで第2地域が95.3%で続いており、第1地域が87.6%で最も低くなっている。

図3-1-2 地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

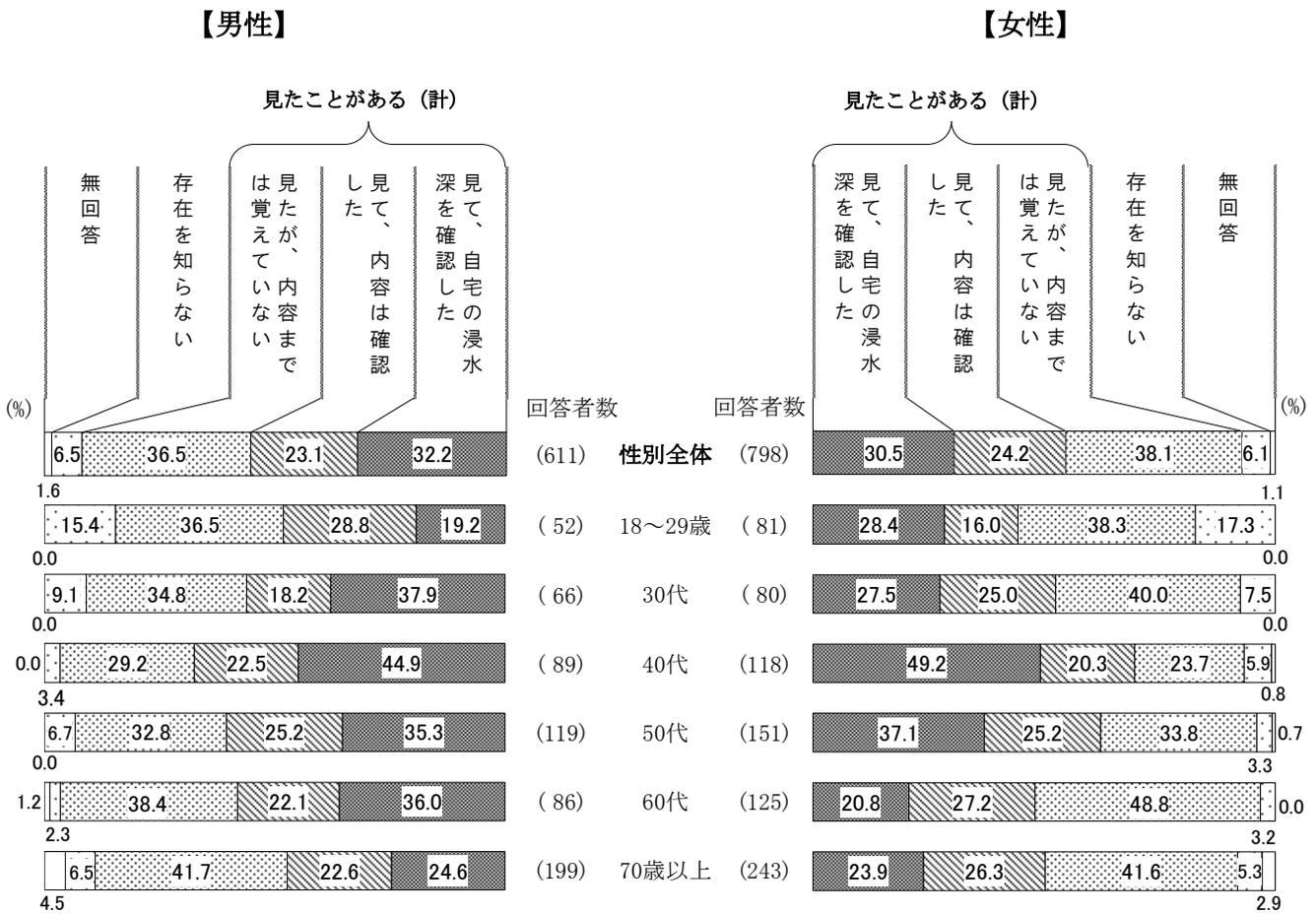


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は女性の40代で49.2%と最も高く、男性の18～29歳が19.2%で最も低くなっている。【見たことがある】でみると、女性の60代で96.8%と最も高く、女性の18～29歳で82.7%と最も低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



(2) 河川はん濫時の避難場所

問8 河川がはん濫する恐れがある場合、あなたはどこに避難しますか（○は1つだけ）。

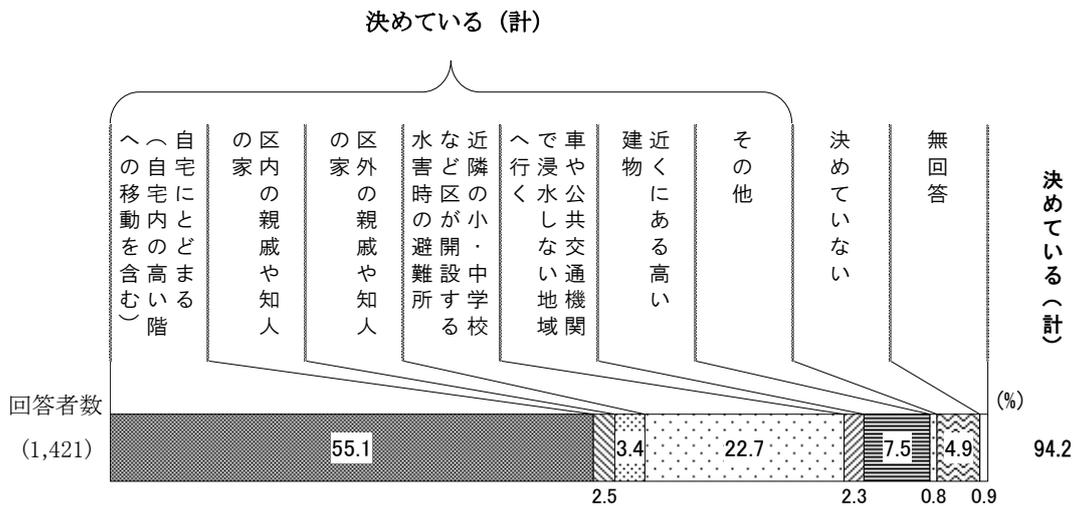
■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が9割台半ば

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合の避難場所は、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が94.2%を占めており、「決めていない」は4.9%となっている。

(イ) 前回調査との比較については、先ず決定状況を聞き、「決めている」と答えた方に避難場所を聞いており単純に比較できないため、参考までに次ページに過去4年間の結果を記載している。

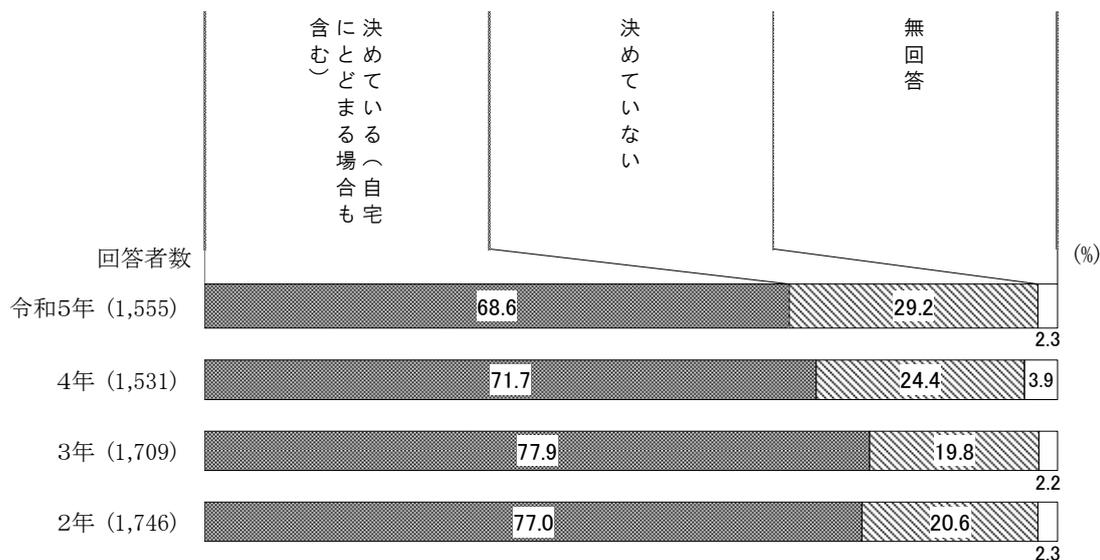
図3-2-1 河川はん濫時の避難場所



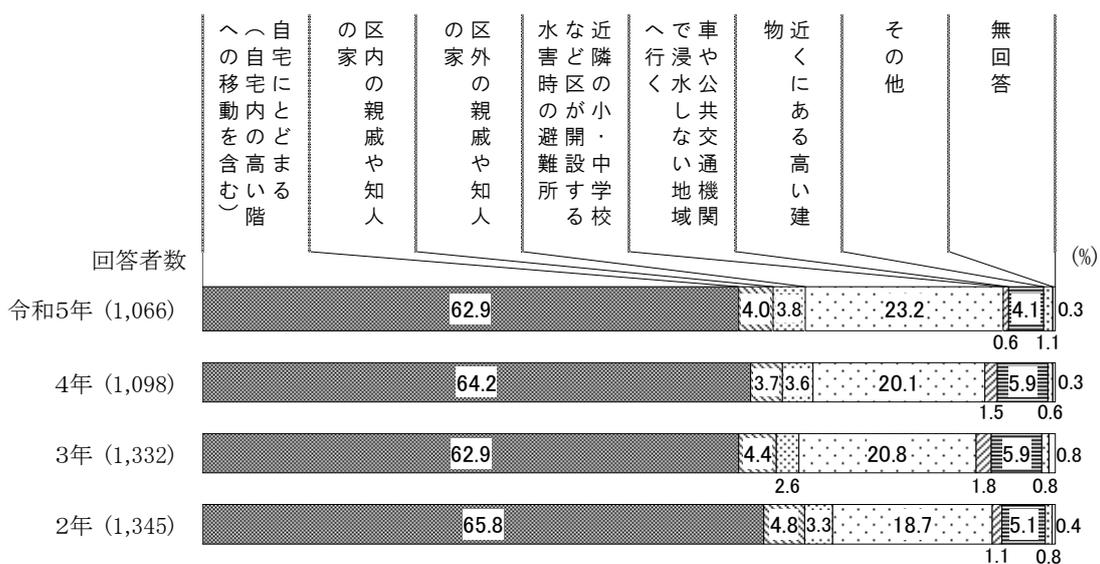
参考／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況と決めている場合避難場所

問 あなたは、河川が氾濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか。

(○は1つだけ)



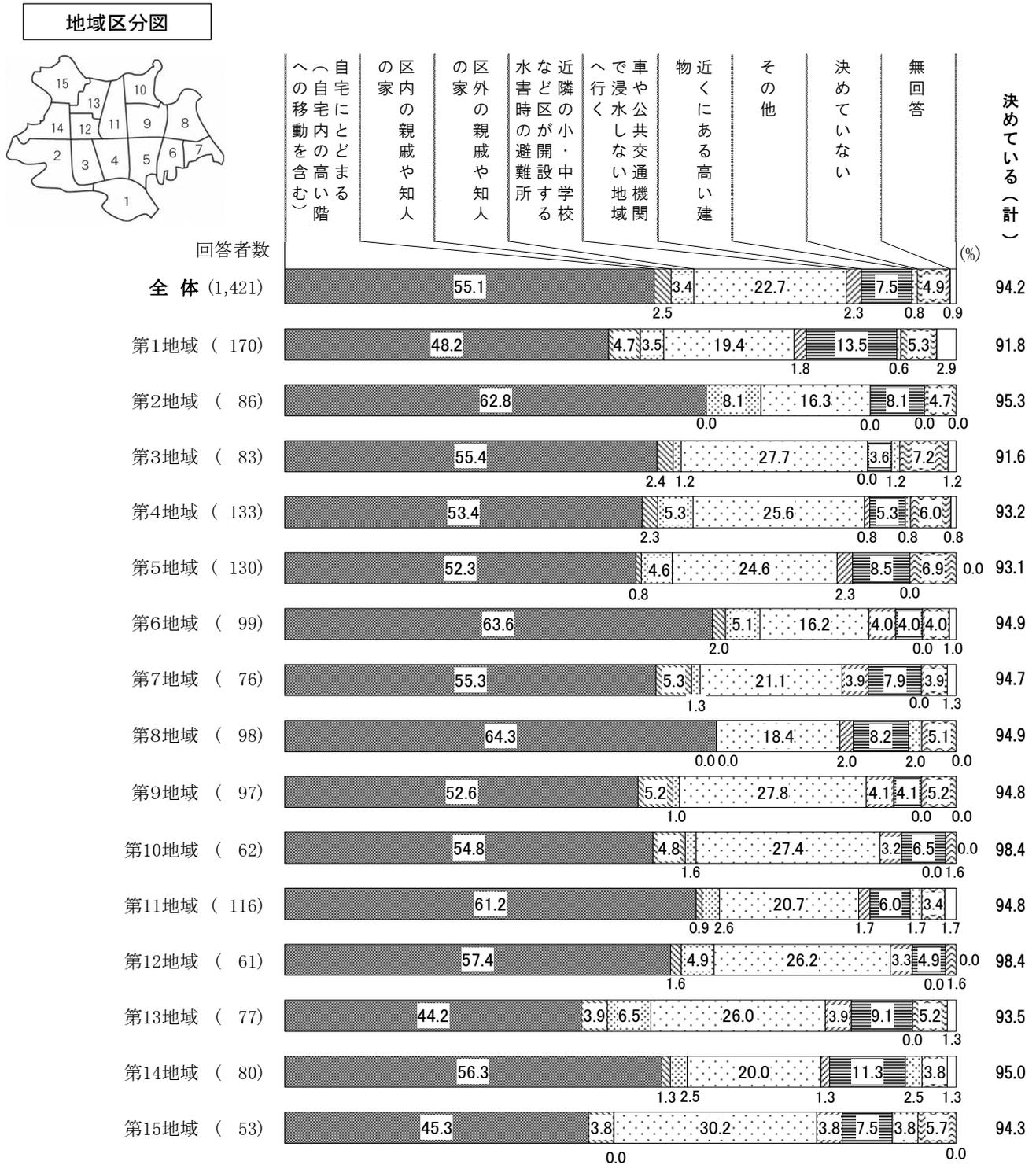
問 あなたが、避難する場所はどこですか。(○は1つだけ)



イ クロス集計・地域別／河川はん濫時の避難場所

地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第10地域と第12地域がともに98.4%で最も高くなっている。一方、第3地域が91.6%と最も低く、次いで、第1地域が91.8%となっている。

図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所

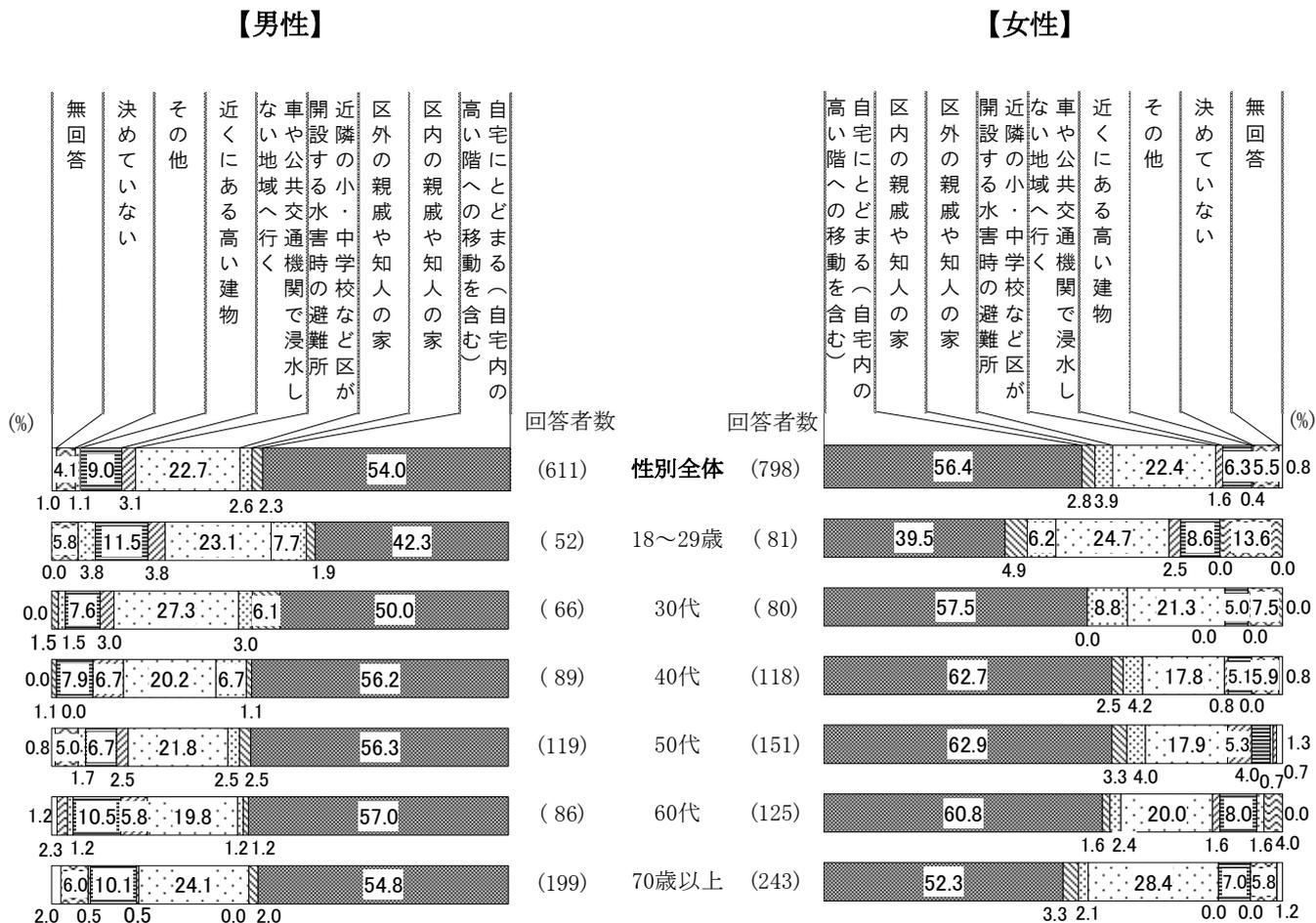


ウ クロス集計・性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所

(ア) 性別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は男性の40代（98.9%）で最も高く、僅差で男性の30代（98.5%）、女性の50代（98.0%）が続いている。逆に女性の18～29歳が86.4%で最も低くなっている。

図3-2-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所



(3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

問8で「8 決めていない」とお答えの方に

問8-1 避難する場所を決めていない理由は何ですか（○は1つだけ）。

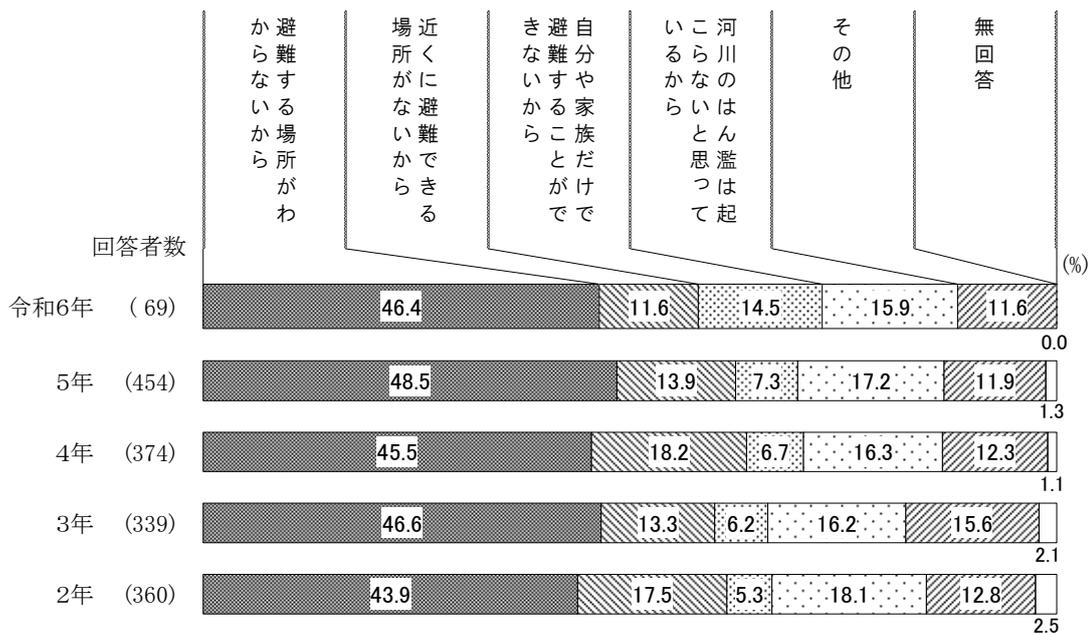
■「避難する場所がわからないから」が4割台半ば

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、決めていない理由を聞いた結果、「避難する場所がわからないから」が46.4%と最も高く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」(15.9%)、「自分や家族だけで避難することができないから」(14.5%)、「近くに避難できる場所がないから」(11.6%)などとなっている。

(イ) 前回調査との比較については、先述のとおり、先ず決定状況を聞き、「決めている」と答えた方に避難場所を聞いており単純に比較できないため、参考までに図示する。

図3-3-1 経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由





## 4 区の情報発信のあり方

- 
- (1) 区の情報入手手段
  - (2) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
  - (3) 区の情報得られていない理由
-



## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報入手手段

問9 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか  
(〇はあてはまるものすべて)。

■「あだち広報」が7割台半ばで最も高く、次いで「トキメキ」が3割台半ば超え

#### ア 単純集計・経年比較／区の情報入手手段

(ア) 足立区に関する情報の入手媒体の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「あだち広報」(74.0%)
- ②「トキメキ」(37.5%)
- ③「区のホームページ」(26.0%)
- ④「町会・自治会の掲示板・回覧板」(23.5%)
- ⑤「A-メール」(17.2%)

(イ) 前回調査と比較すると、上位5項目では「あだち広報」(+4.9ポイント)、「トキメキ」(+3.7ポイント)、「区のホームページ」(+3.6ポイント)で3ポイント以上の増加となっている。

図4-1-1-① 経年比較／区の情報入手手段

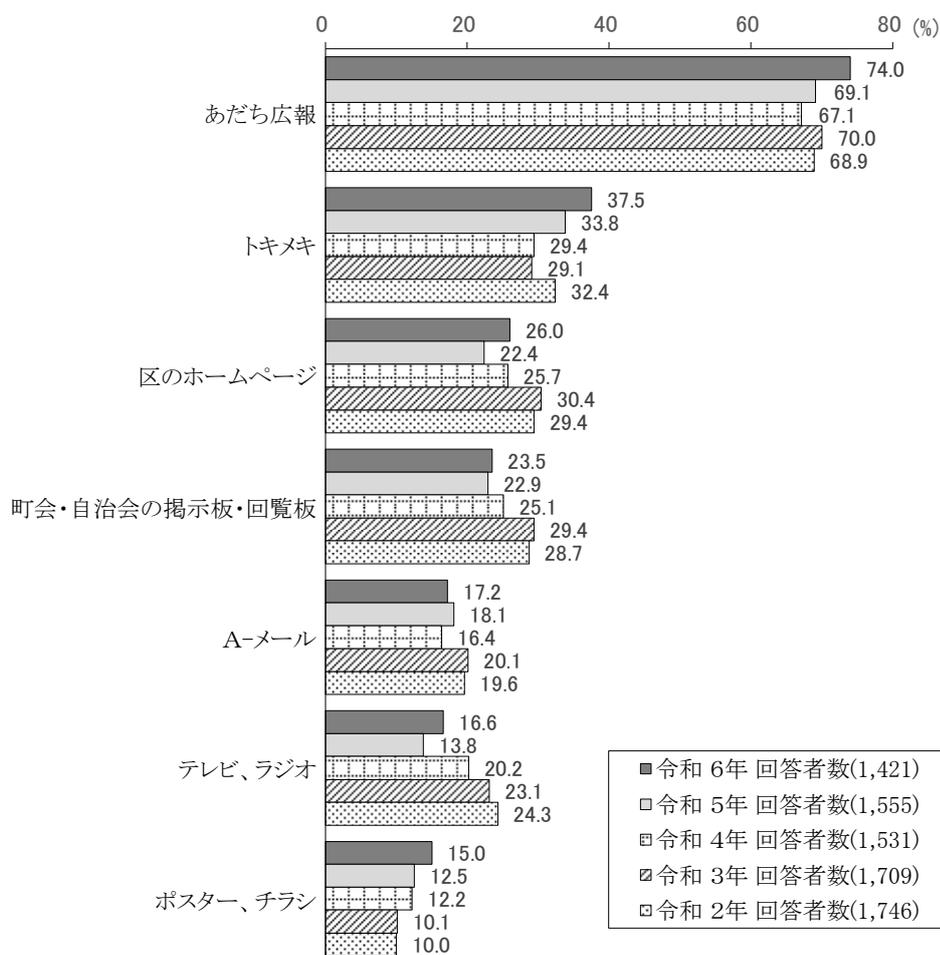
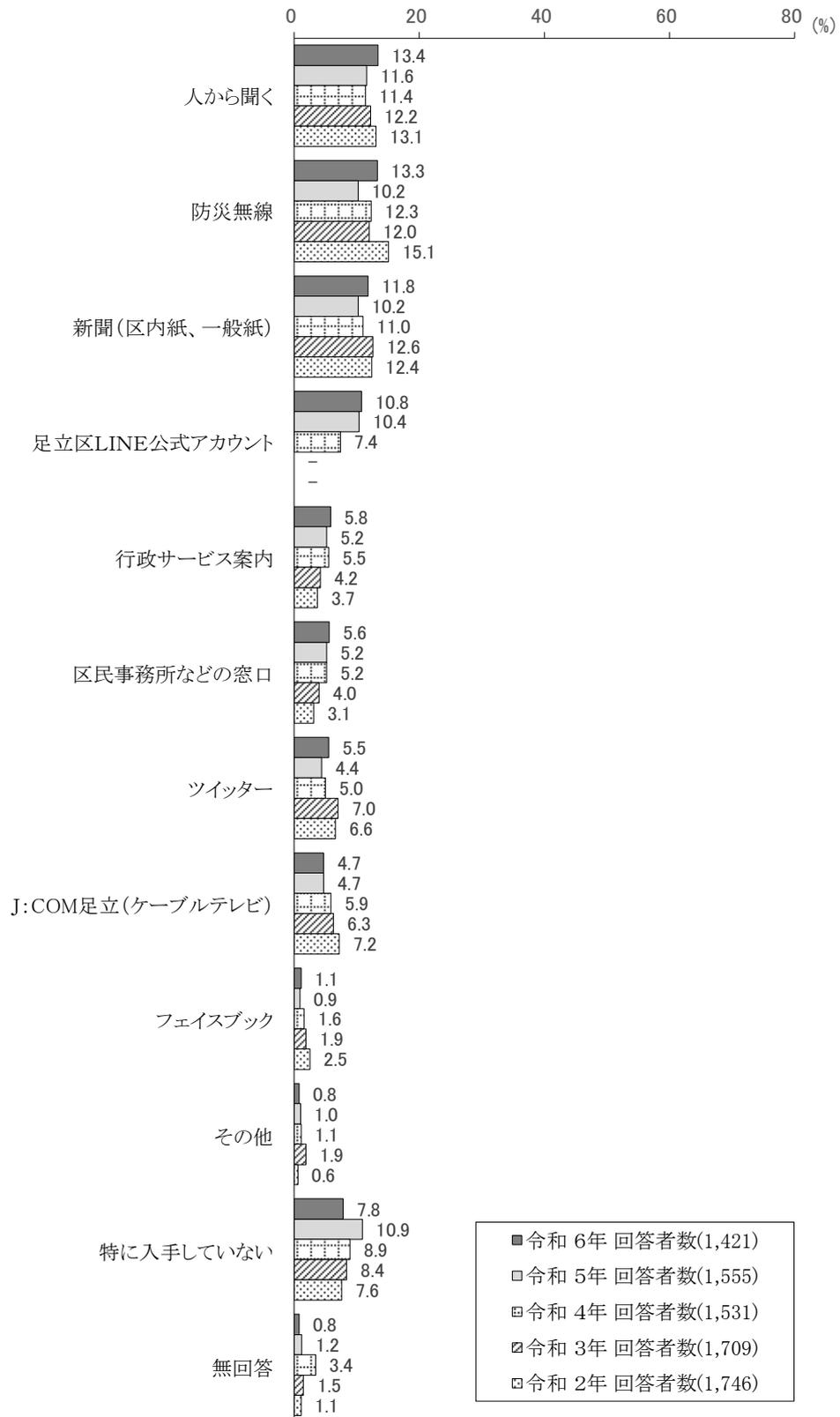


図4-1-1-② 経年比較／区情報の入手手段

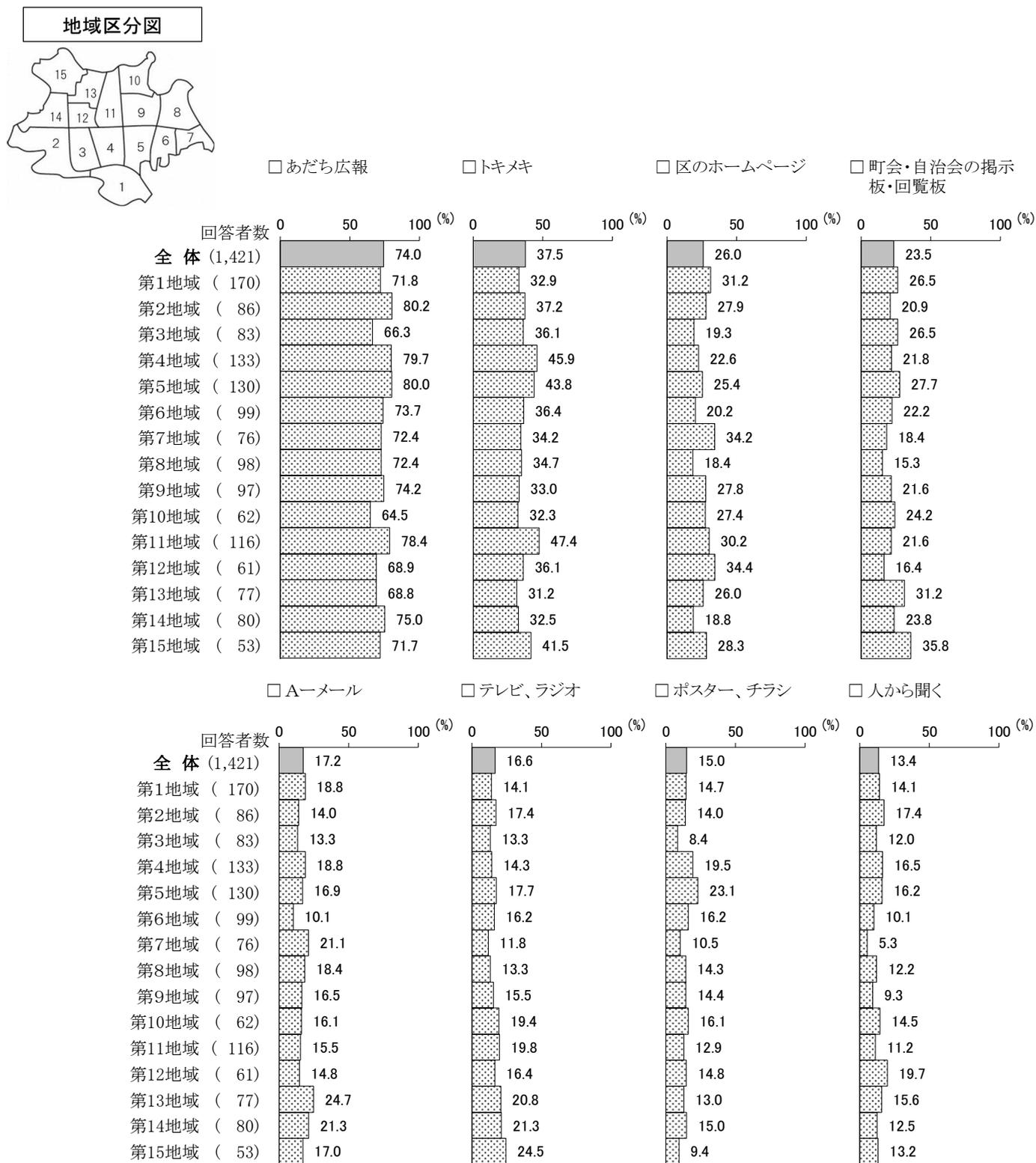


※「足立区LINE公式アカウント」は、令和4年度新設。

イ クロス集計・地域別／区の情報入手手段（上位8項目）

地域別でみると、「あだち広報」は第2地域と第5地域で8割台と高く、「トキメキ」は第11地域と第4地域で4割台半ば、「区のホームページ」は第12地域と第7地域で3割台半ば、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第15地域と第13地域で3割台とそれぞれ高くなっている。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目

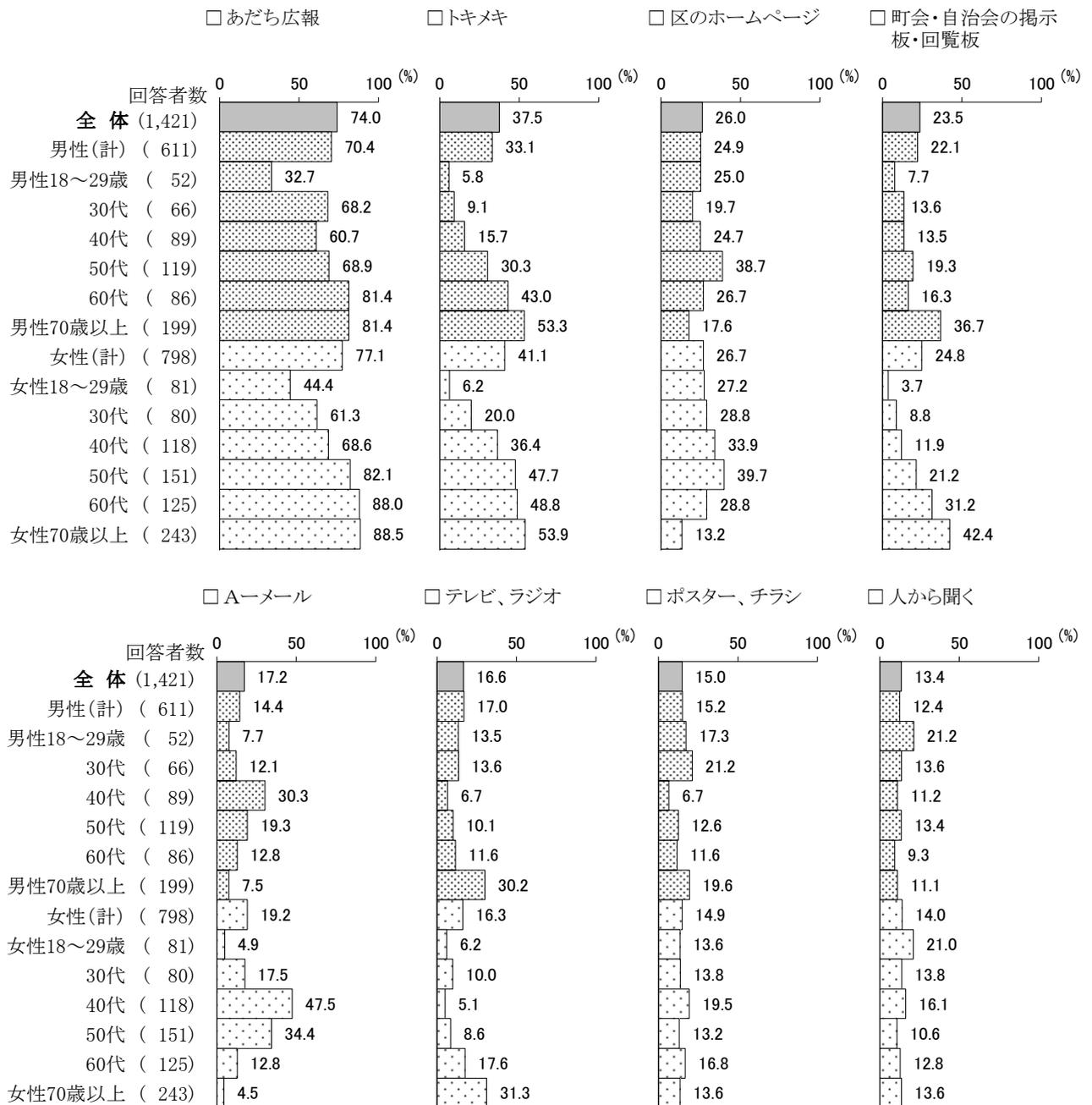


ウ クロス集計・性別、性・年代別／区の情報入手手段（上位8項目）

（ア）性別でみると、多くの項目で女性の方が高く、特に「トキメキ」（+8.0ポイント）、「あだち広報」（+6.7ポイント）、「A-メール」（+4.8ポイント）でそれぞれ女性の方が男性より4ポイント以上高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、「あだち広報」、「トキメキ」、「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は男女とも年代が上がるほど割合も高く、年代層での差が大きくなっている。また、「区のホームページ」、「A-メール」などの電子媒体は40～50代の中間年代層で高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目

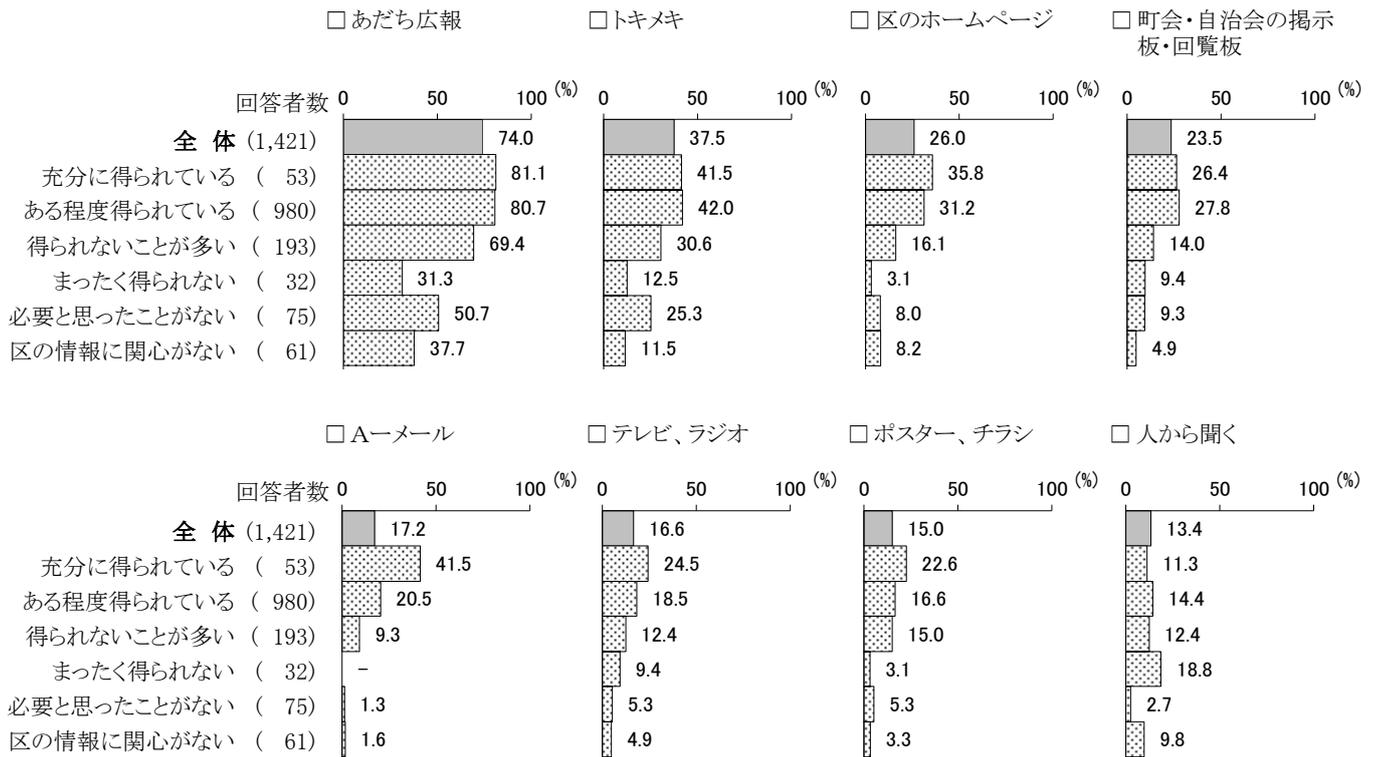


エ クロス集計・必要なときに必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段

(上位8項目)

必要なときに必要とする区の情報入手状況別にみると、「あだち広報」は〈十分に得られている〉と〈ある程度得られている〉を合わせた【情報が得られている層】の割合が8割台と高くなっているが、〈得られないことが多い〉でも69.4%と高い割合となっている。「Aメール」では、〈十分に得られている〉が41.5%と他の層に比べて高くなっている。

図4-1-4 必要なときに必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



（2）必要なときに必要とする区の情報入手状況

問10 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

■ 必要なときに【得られている】は7割台半ば近く、【得られていない】は1割台半ば

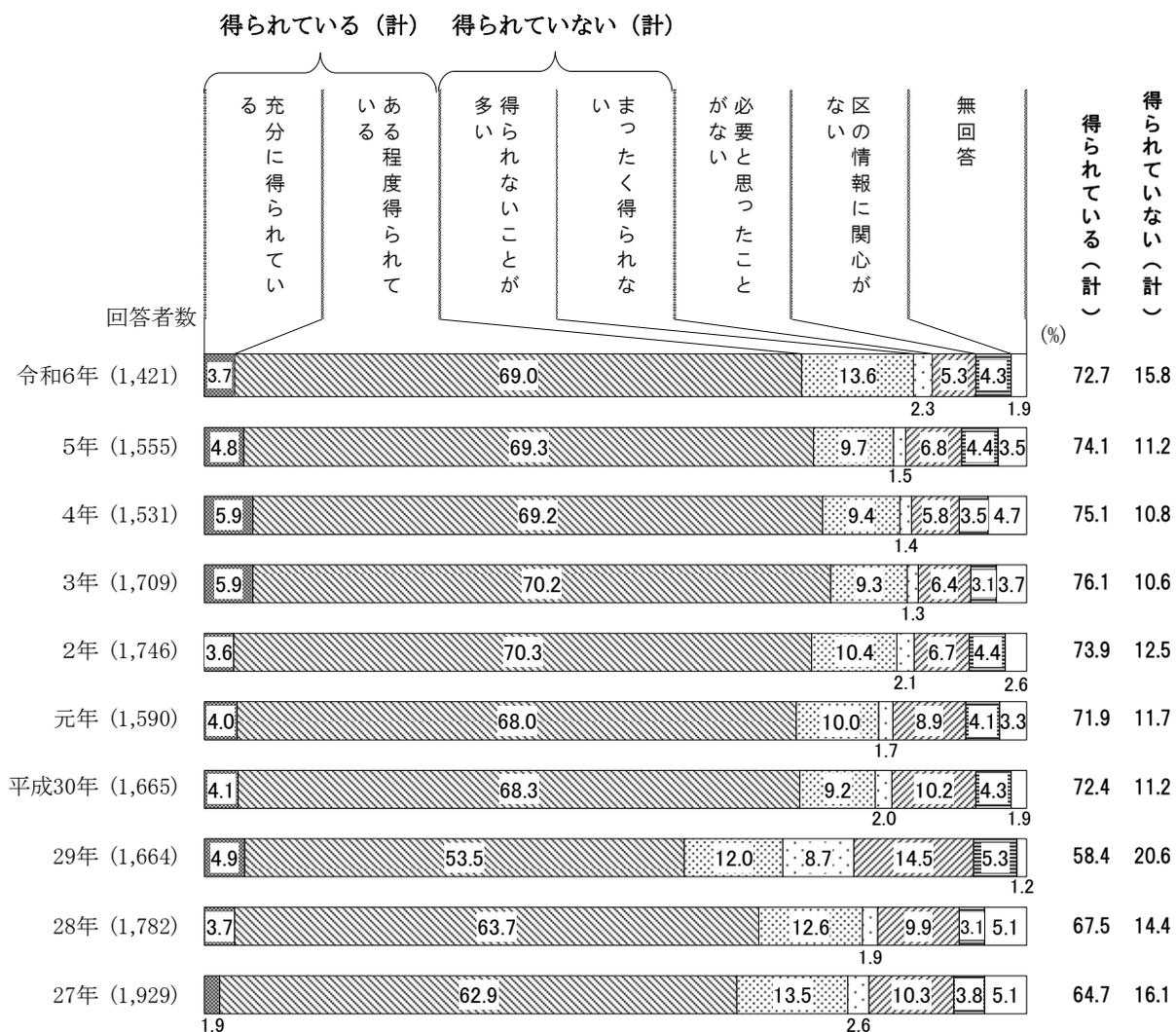
ア 単純集計・経年比較／必要なときに必要とする区の情報入手状況

（ア）必要なときに必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が3.7%で、これに「ある程度得られている」の69.0%を合わせた【得られている】は72.7%となっている。

（イ）必要なときに必要とする情報が「得られないことが多い」は13.6%、「まったく得られない」は2.3%で、これらを合わせた【得られていない】は15.8%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、【得られていない】が4.6ポイント増加している。

図4-2-1 経年比較／必要なときに必要とする区の情報入手状況



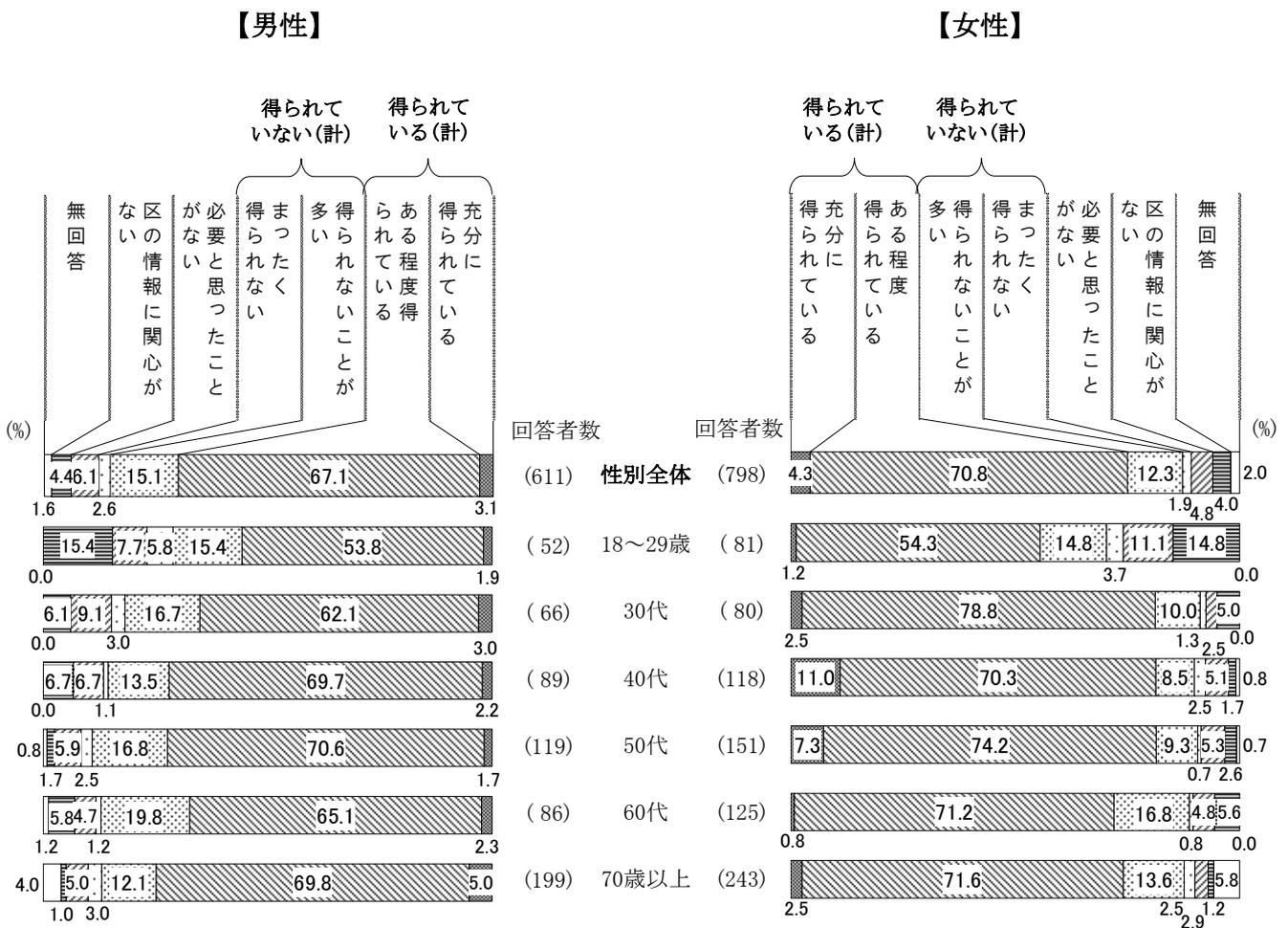
※ 平成29年度については、本設問の前の問である＜区の情報入手手段＞を聴取していないため、他の年度と単純比較できないことから、平成29年度の数値は分析外としている。

イ クロス集計・性別、性・年代別／必要なときに必要とする区の情報入手状況

(ア) 性別で見ると、【得られている】は女性（75.1%）の方が男性（70.2%）より4.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【得られている】は、女性の30～50代で8割台と高く、男女とも18～29歳で5割台半ばと低くなっている。一方、「必要と思ったことがない」は女性の18～29歳で1割強、「区の情報に関心がない」は男女ともに18～29歳で1割台半ばと他の性・年代層に比べて高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／必要なときに必要とする区の情報入手状況



（3）区の情報得られていない理由

問10で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に  
問10-1 主にどのような理由からですか（○は1つだけ）。

■「情報の探し方がわからない」が4割弱、「情報が探しにくい」が2割台半ば

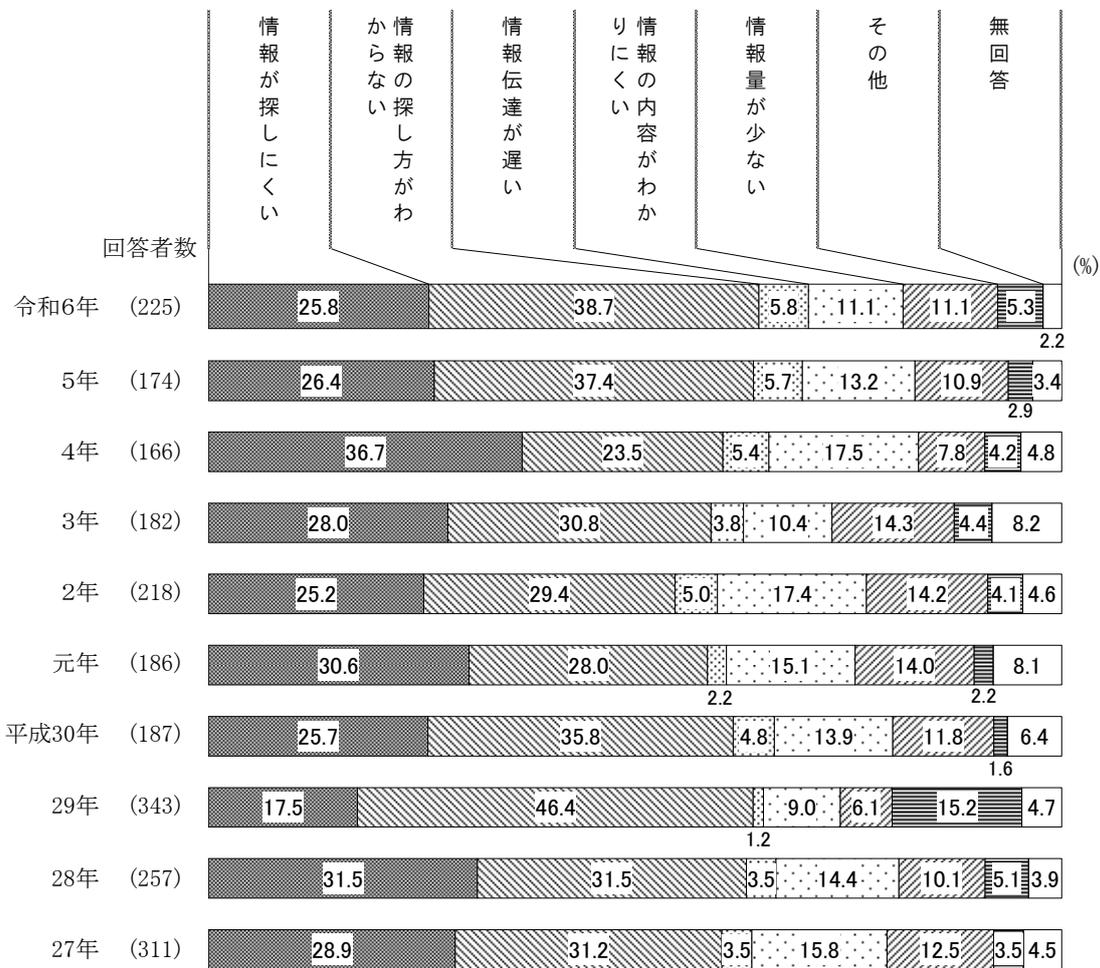
ア 単純集計・経年比較／区の情報得られていない理由

（ア）区の情報【得られていない】という人にその主な理由を聞いたところ、割合が高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「情報の探し方がわからない」（38.7%）
- ②「情報が探しにくい」（25.8%）
- ③「情報の内容がわかりにくい」・「情報量が少ない」（各11.1%）

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

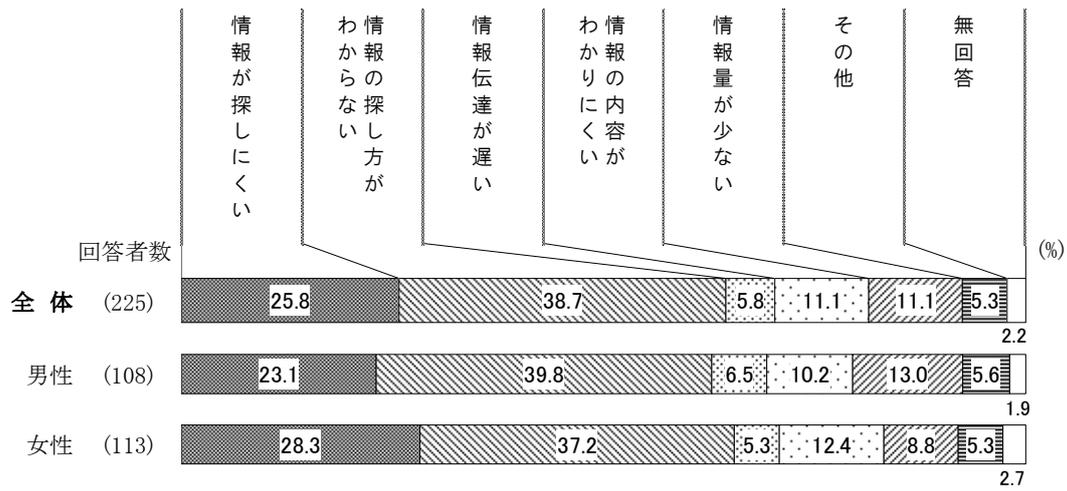
図4-3-1 経年比較／区の情報得られていない理由



イ クロス集計・性別／区の情報得られていない理由

性別で見ると、「情報が探しにくい」は女性（28.3%）の方が男性（23.1%）より5.2ポイント高く、逆に「情報量が少ない」は男性（13.0%）の方が女性（8.8%）より4.2ポイント高くなっている。

図4-3-2 性別／区の情報得られていない理由





## 5 健康

- 
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
  - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
  - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
  - (4) 1日の野菜350g以上の摂取
  - (5) 自身の健康状態について
  - (6) 体調や習慣
  - (7) 安心して受診できる医療機関の有無
  - (8) 健康維持のために実行している、心がけているもの
  - (9) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類
  - (10) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容
  - (11) 感染症予防としての手洗いの実践状況
  - (12) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-



## 5 健康

### (1) 区のキャッチフレーズの認知状況

問11 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～(※)」を知っていますか(○は1つだけ)。

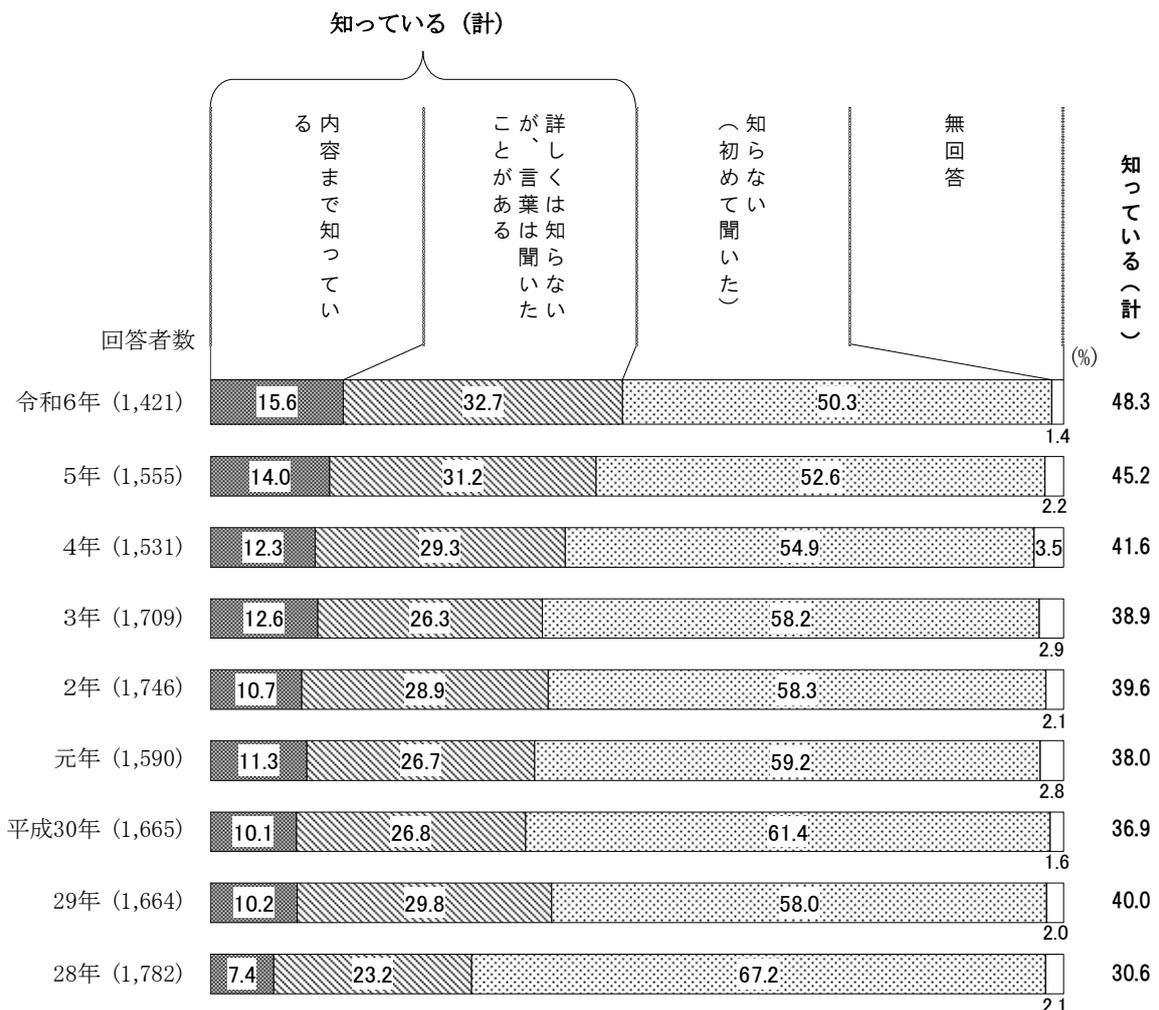
※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

■【知っている】は5割弱で最高値を更新

#### ア 単純集計・経年比較/区のキャッチフレーズの認知状況

- (ア) 区のキャッチフレーズ『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は15.6%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(32.7%)を合わせた【知っている】は48.3%となっている。
- (イ) 区のキャッチフレーズを「知らない(初めて聞いた)」は50.3%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】は3.1ポイント増加しており、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となった。

図5-1-1 経年比較/区のキャッチフレーズの認知状況

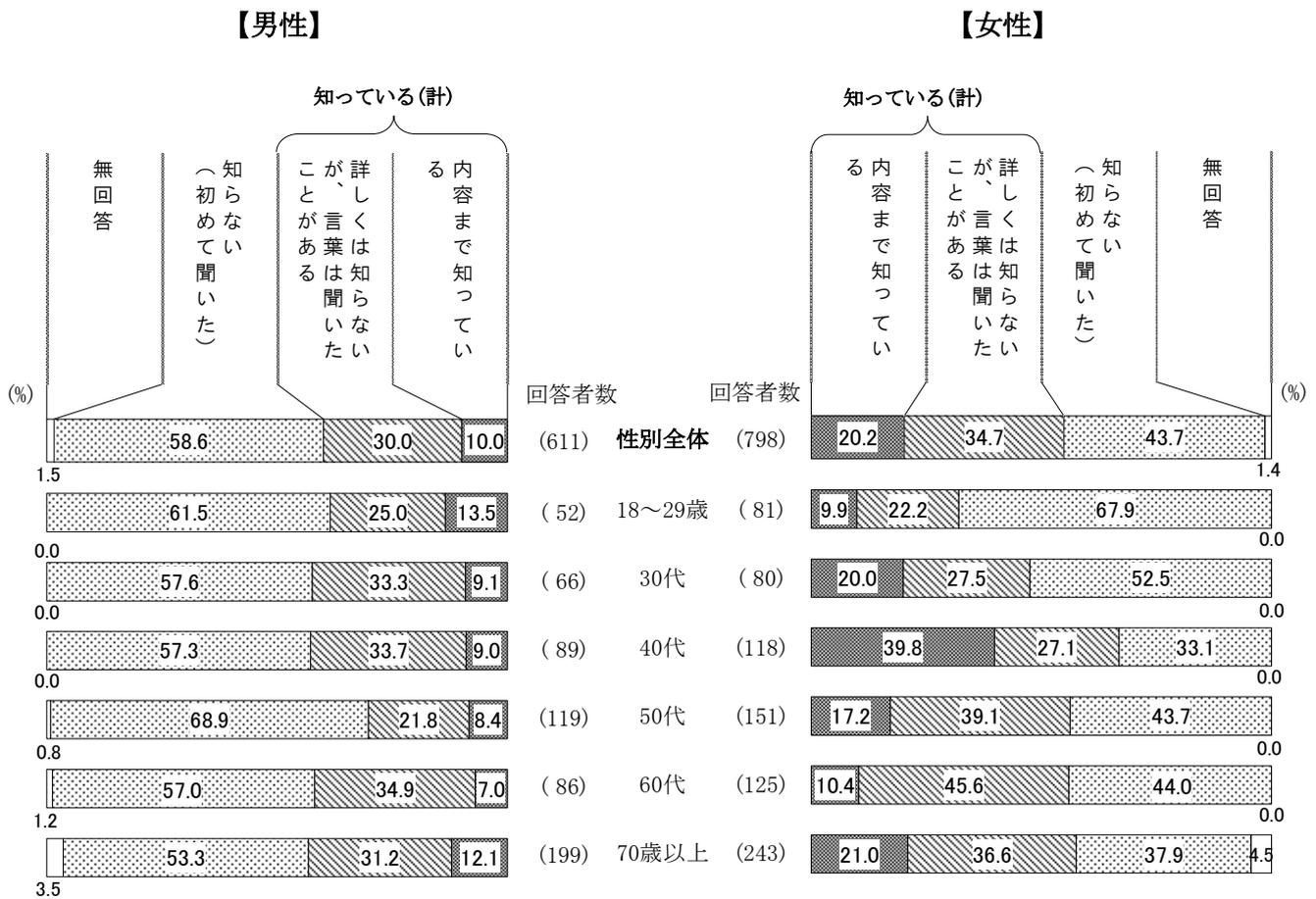


イ クロス集計・性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（54.9%）の方が男性（39.9%）より15.0ポイント大きく上回っている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代以上のすべての年代で5割以上と高く、女性の40代で66.9%と最も高くなっている。一方、男性の50代で30.3%と最も低く、次いで女性の18～29歳（32.1%）となっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

問12 初期の糖尿病には自覚症状がありませんが、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で、あなたが知っているものはどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

■ 「失明」が6割強で、「足の壊疽（えそ）」が6割

ア 単純集計・経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

(ア) 糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの認知上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「失明」(61.1%)
- ② 「足の壊疽（えそ）」(60.3%)
- ③ 「人工透析」(49.3%)
- ④ 「口の渇き」(48.3%)
- ⑤ 「腎不全」(35.7%)

(イ) 前々回調査と比較すると、上位5項目の順位に変動はない。また、ほとんどの病気や障がいの認知割合が増加しており、特に「神経障がい（手足のしびれ）」(+4.3ポイント)、「網膜症」(+3.7ポイント)、「人工透析」(+3.1ポイント)、で3ポイント以上の増加となっている。

図5-2-1-① 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

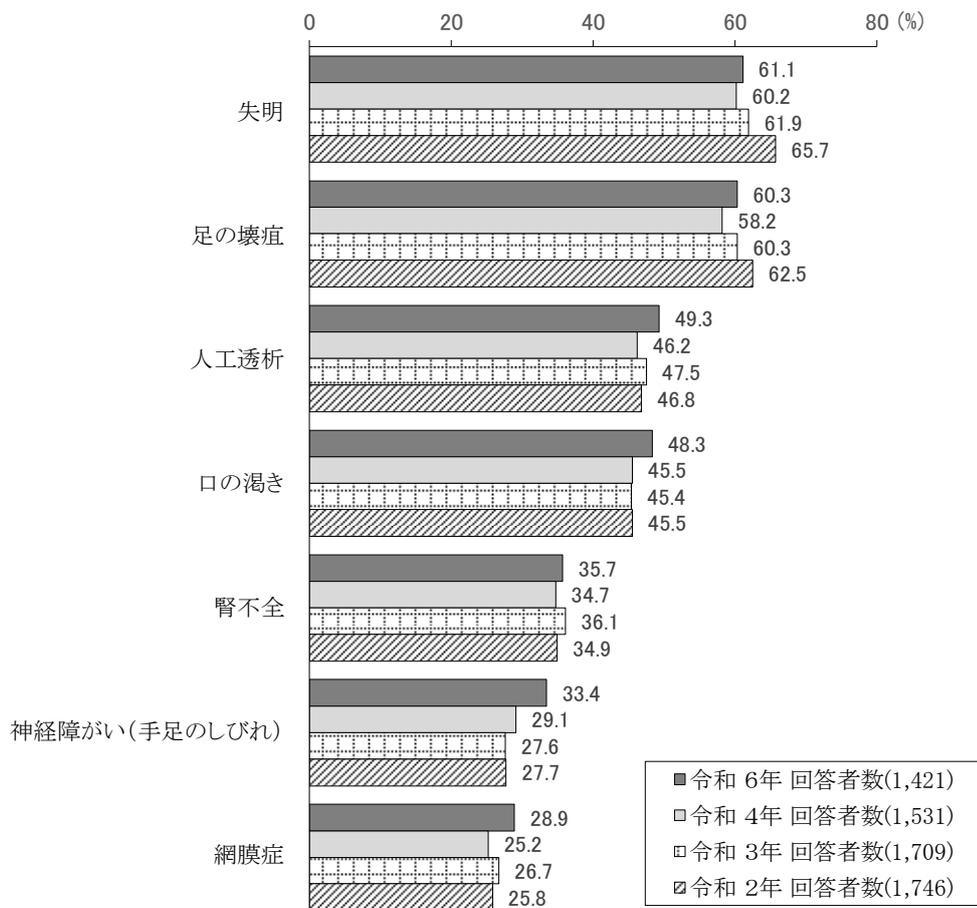
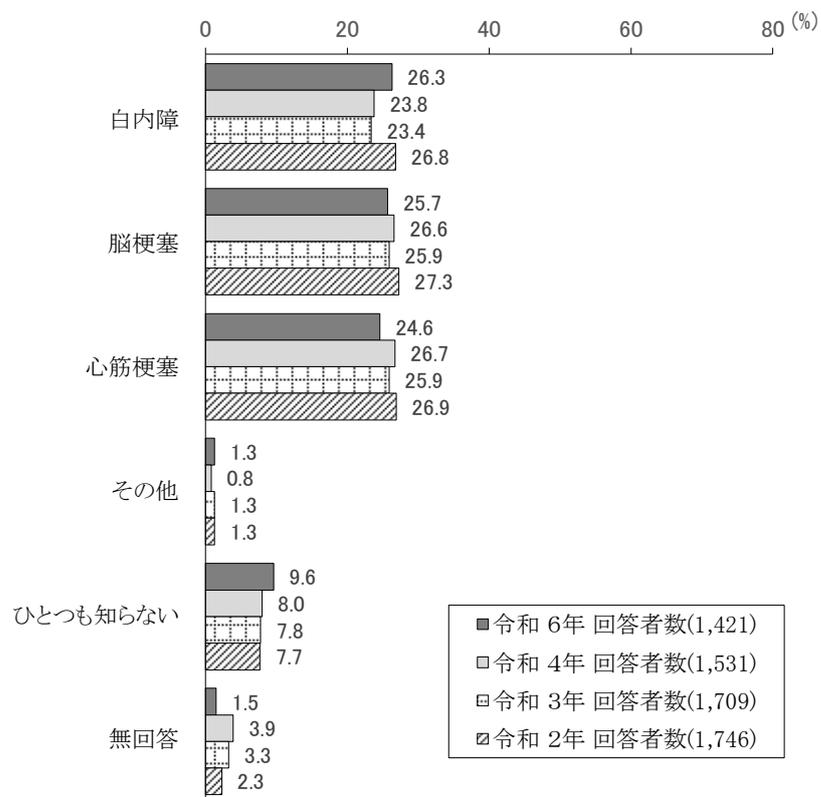


図5-2-1-② 糖尿病の進行による病気や障がいの認識



※ 本設問は、平成25年度以降から聴取しているが、令和5年度では聴取していない。

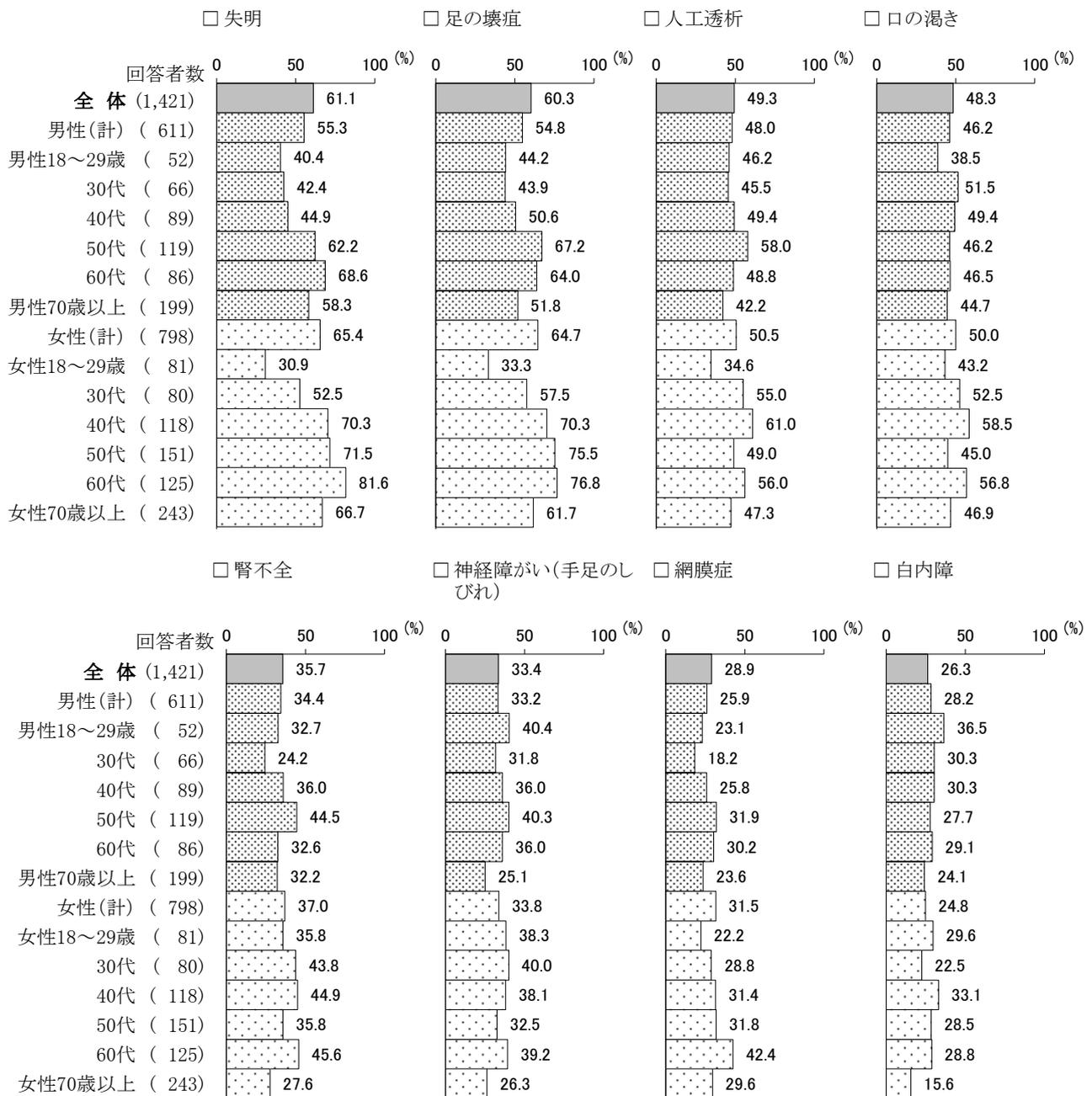
イ クロス集計・性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、多くの項目で女性の方が高く、特に「失明」(+10.1ポイント)、「足の壊疽(えそ)」(+9.9ポイント)、「網膜症」(+5.6ポイント)でそれぞれ5ポイント以上女性の方が男性より高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「失明」は女性の60代で81.6%と最も高く、女性の40～50代でも7割台と高くなっている。「足の壊疽(えそ)」は女性の50～60代で7割台半ばと高く、「人工透析」は女性の40代で6割超と高くなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

／上位8項目



(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

問13 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

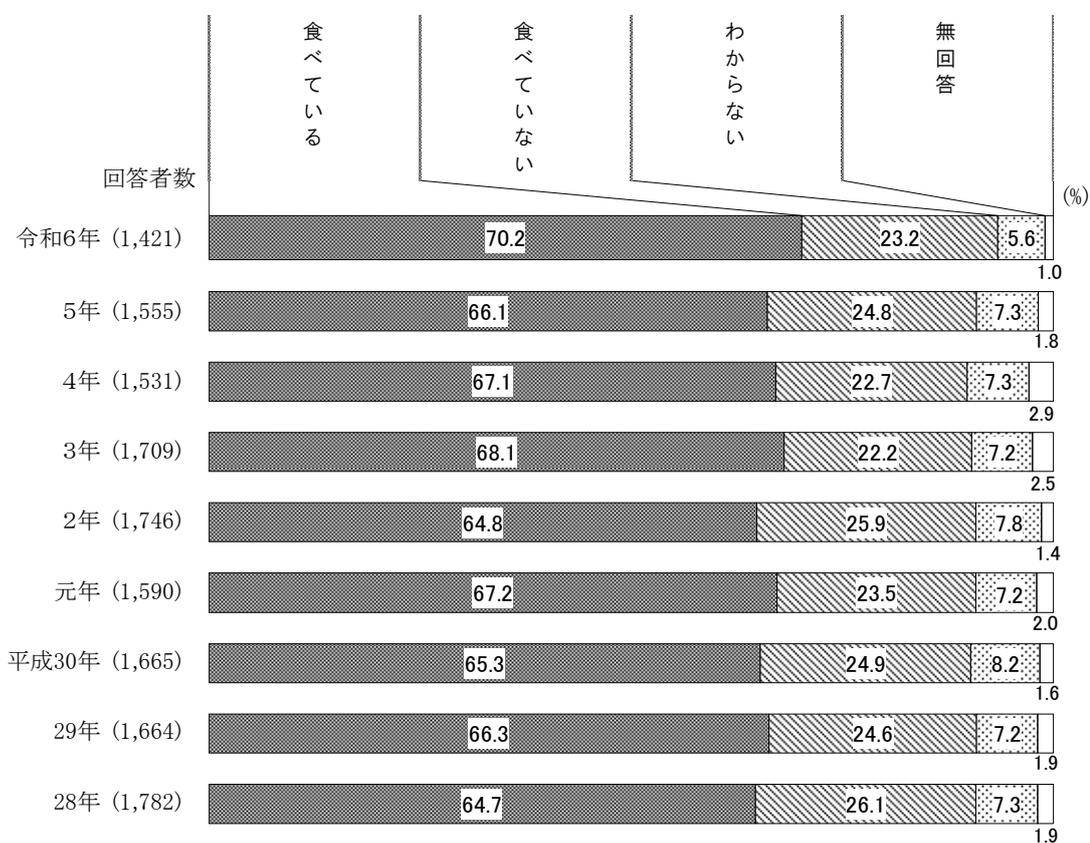
■野菜から「食べている」は初めて7割台で最高値を更新

ア 単純集計・経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 野菜から「食べている」は70.2%を占めており、「食べていない」は23.2%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「食べている」は4.1ポイント増加し、初めて7割台となった。

図5-3-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

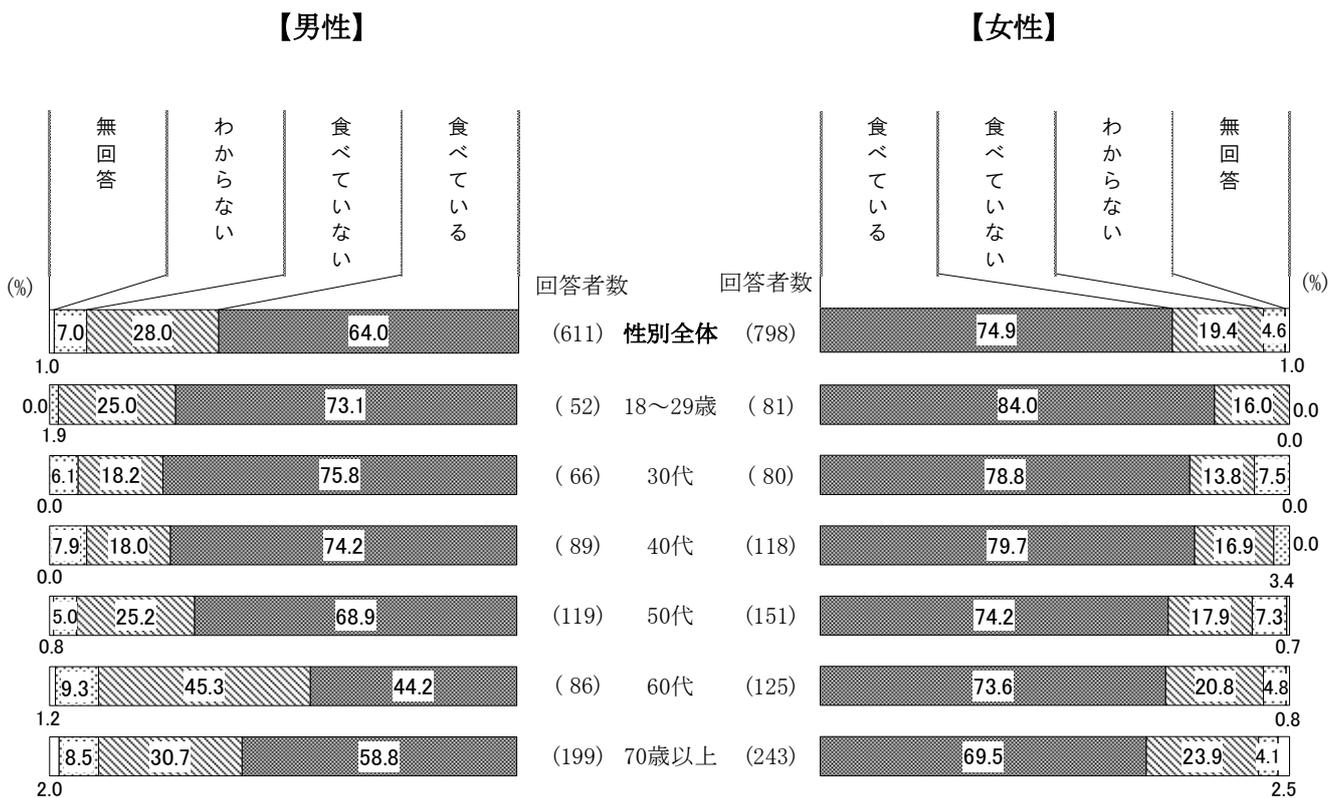


イ クロス集計・性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 性別でみると、「食べている」は女性（74.9%）の方が男性（64.0%）より10.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「食べている」は、女性の18～29歳で84.0%と最も高く、女性の30代と40代でも約8割から8割弱と高くなっている。一方、男性の60代で44.2%と最も低くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



(4) 1日の野菜350g以上の摂取

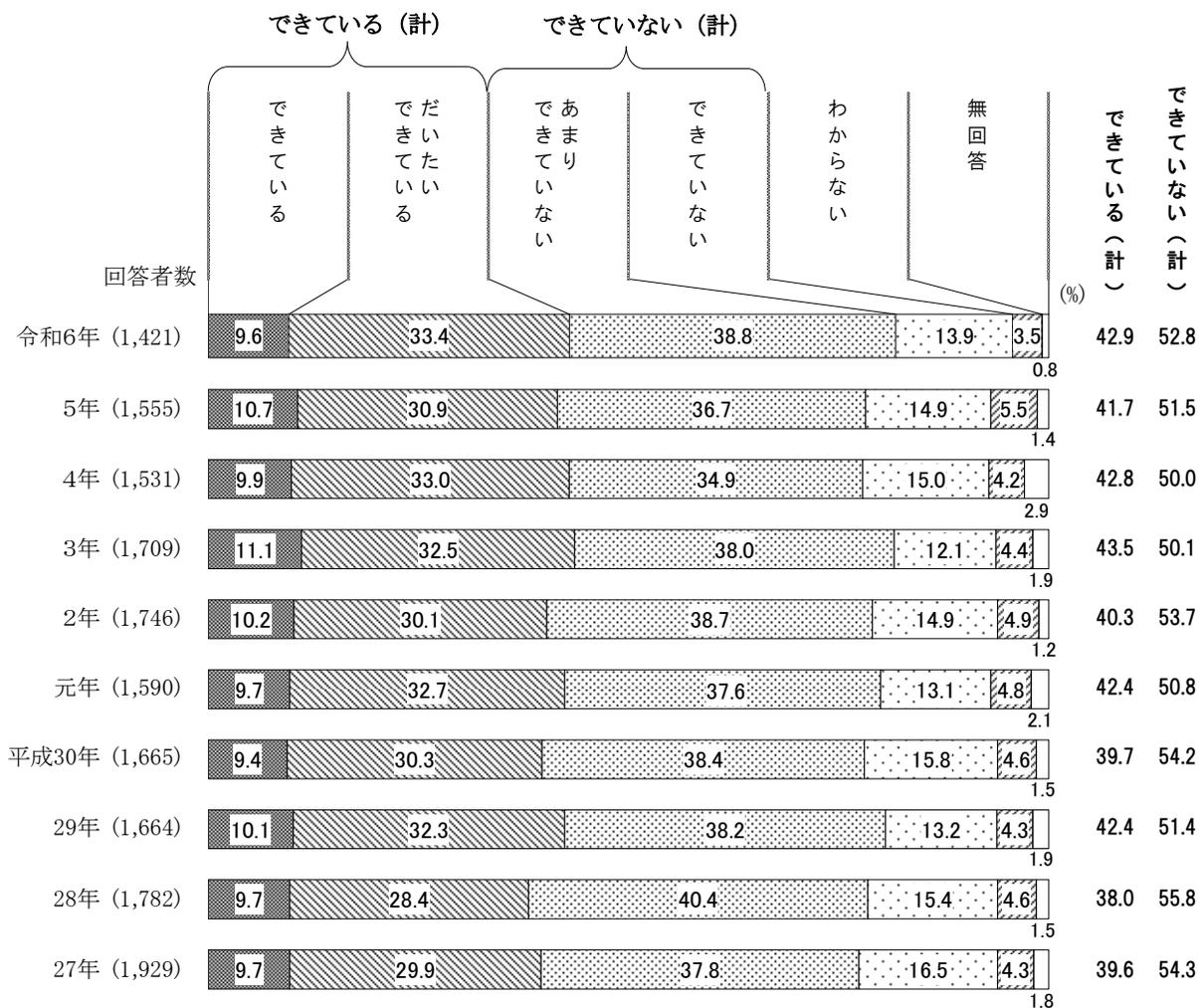
問14 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。  
 ※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

■【できている】が4割強で、【できていない】（5割強）を下回る

ア 単純集計・経年比較／1日の野菜350g以上の摂取

- (ア) 毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が9.6%で、これに「だいたいできている」(33.4%)を合わせた【できている】は42.9%となっている。
- (イ) 野菜の摂取を「あまりできていない」(38.8%)と「できていない」(13.9%)を合わせた【できていない】は52.8%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図5-4-1 経年比較／1日の野菜350g以上の摂取

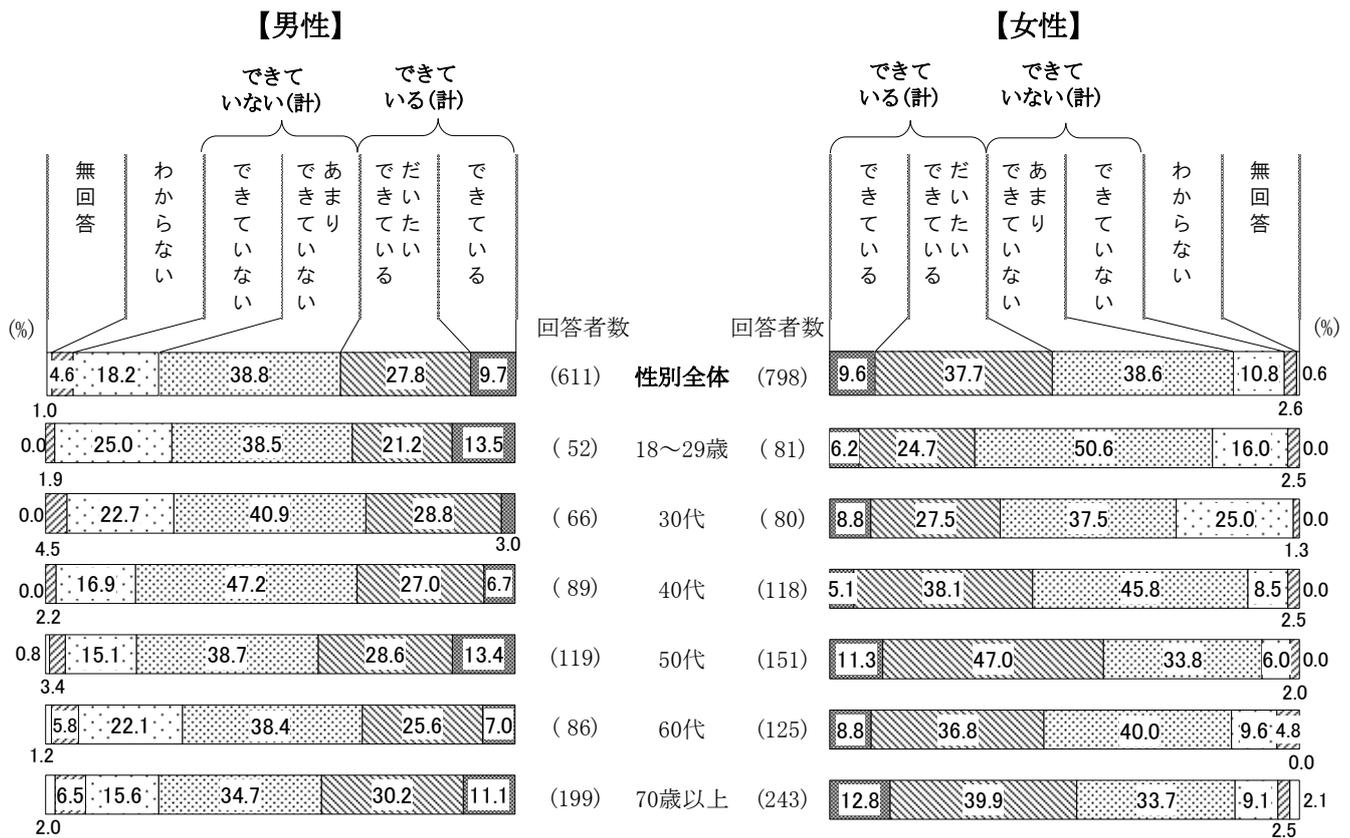


イ クロス集計・性別、性・年代別／1日の野菜350g以上の摂取

(ア) 性別で見ると、【できている】は、女性（47.4%）の方が男性（37.5%）より9.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【できている】は女性の50代で58.3%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（52.7%）が続いている。一方、女性の18～29歳で30.9%と最も低くなっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 自身の健康状態について

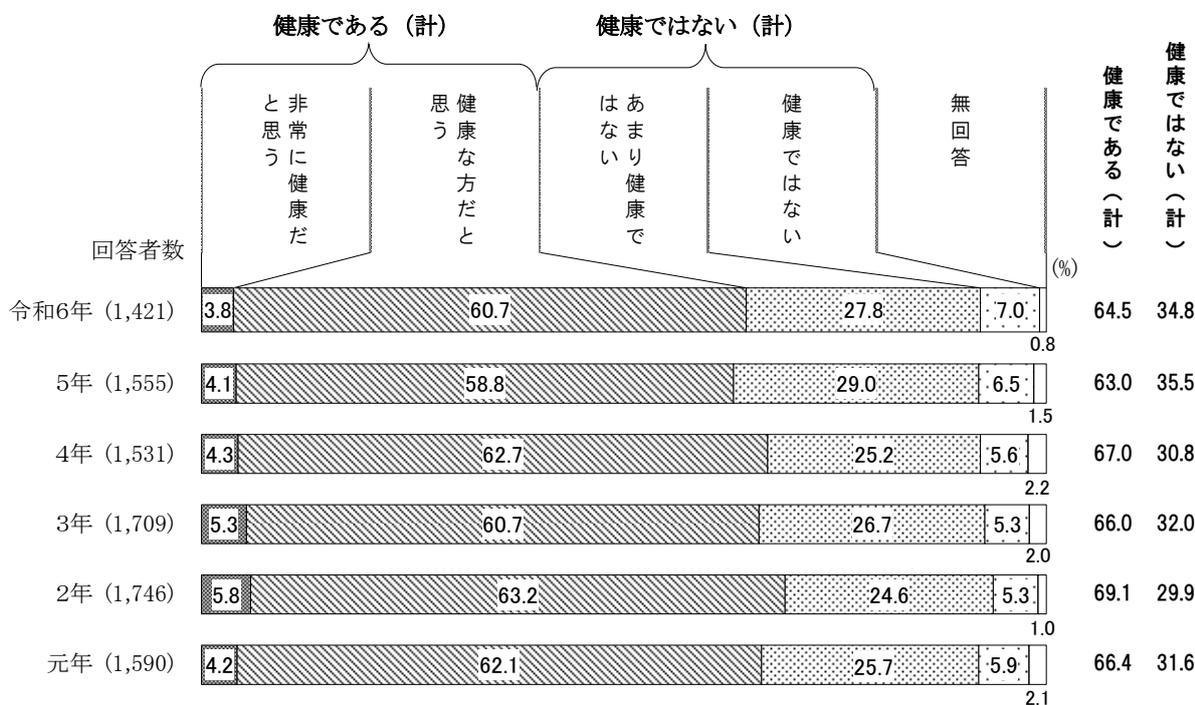
問15 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか。(〇は1つだけ)。

■自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／自身の健康状態について

- (ア) 自身の健康状態については、「健康な方だと思う」が60.7%を占めており、これに「非常に健康だと思う」(3.8%)を合わせた【健康である】が64.5%となっている。
- (イ) 自身の健康状態は「あまり健康ではない」(27.8%)と「健康ではない」(7.0%)を合わせた【健康ではない】は34.8%となっている。
- (ウ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図5-5-1 経年比較／自身の健康状態について

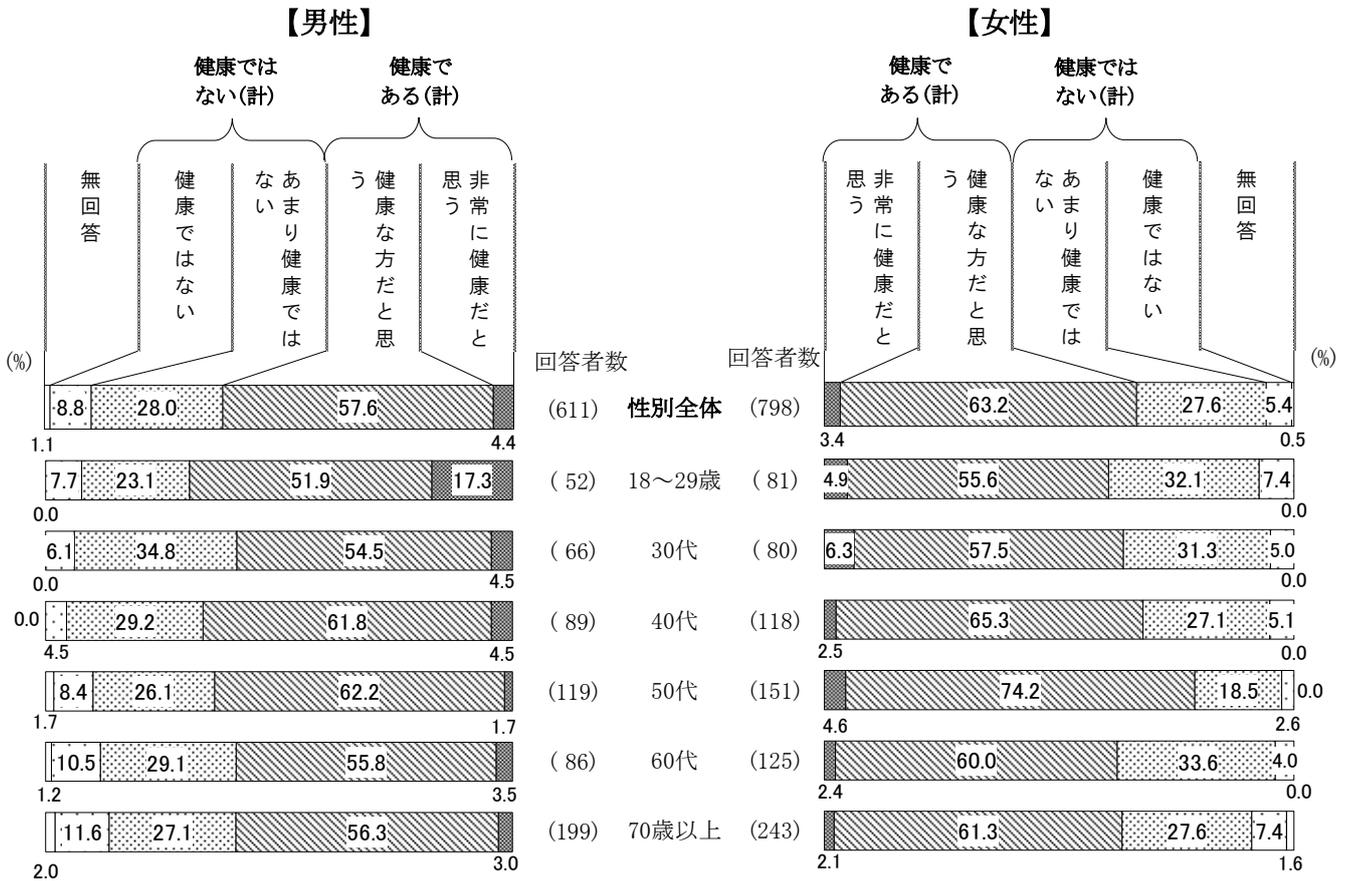


イ クロス集計・性別、性・年代別／自身の健康状態について

(ア) 性別では、女性（66.5%）の方が男性（62.0%）より4.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【健康である】は、女性の50代（78.8%）で唯一7割台と高く、逆に、男性の30代、60代、70歳以上で5割台と低くなっている。

図5-5-2 性別、性・年代別／自身の健康状態について



(6) 体調や習慣

問16 あなたの体調や習慣について、あてはまるものをお答えください

(○はあてはまるものすべて)。

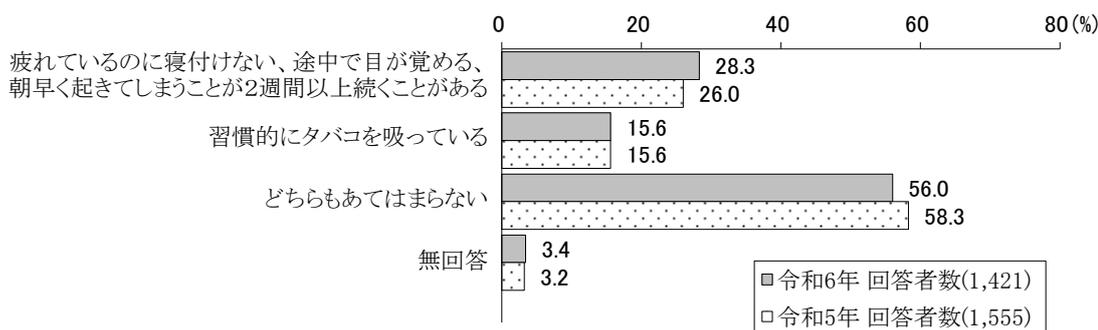
- 「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が3割弱、「習慣的にタバコを吸っている」が1割台半ば、「どちらもあてはまらない」が5割台半ば

ア 単純集計／体調や習慣

(ア) 体調（睡眠度合い）と習慣（喫煙習慣）についてあてはまるかかかったところ、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が28.3%、「習慣的にタバコを吸っている」が15.6%で、「どちらもあてはまらない」が56.0%となっている。

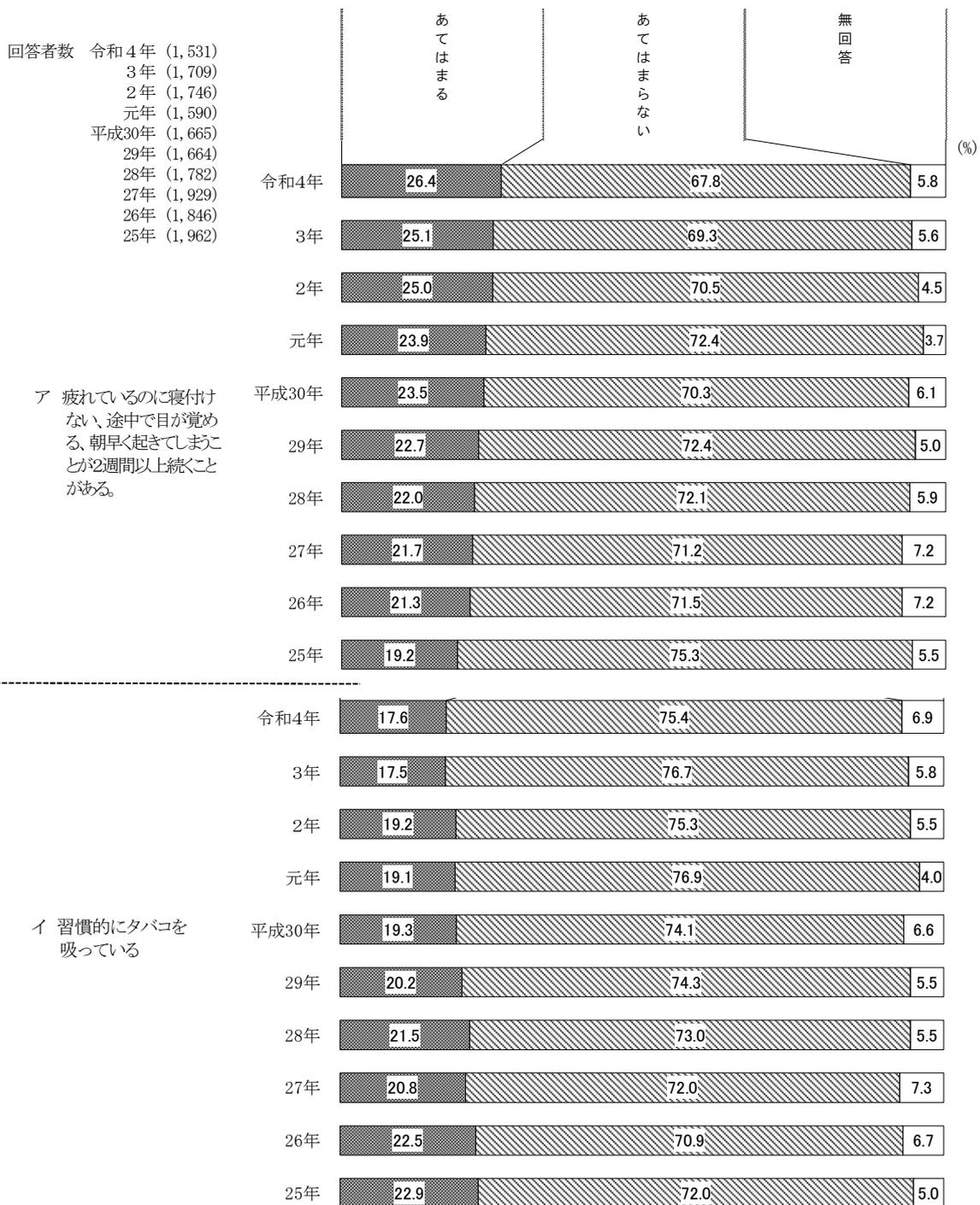
(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られないが、本設問における2つの体調と習慣を個別に聴いていた平成25年調査から、「習慣的にタバコを吸っている」は漸減傾向となっているが、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」は漸増傾向となっている。

図5-6-1 前回調査比較／体調や習慣



参考／体調や習慣

問 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。

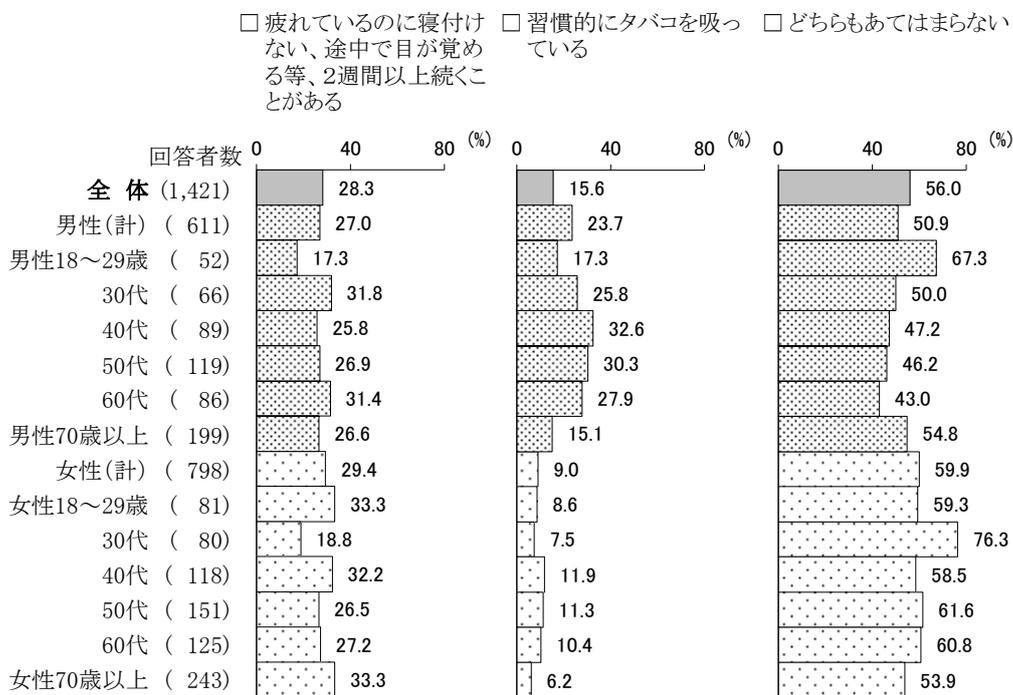


※ 前々回調査までは、体調（睡眠度合い）と習慣（喫煙習慣）の状況を個別に聴いていたが、前回調査から、「どちらもあてはまらない」の割合を把握するため、1つの質問（複数回答）にまとめたため、単純に割合を比較することはできない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣

- (ア) 性別で見ると、「習慣的にタバコを吸っている」は男性（23.7%）の方が女性（9.0%）より14.7ポイント高く、「どちらもあてはまらない」は女性（59.9%）の方が男性（50.9%）より9.0ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」は、女性の18～29歳と70歳以上で約3割と最も高く、「習慣的にタバコを吸っている」は男性の40代、50代で3割台と高くなっている。
- (ウ) 「どちらもあてはまらない」は女性の30代で76.3%と最も高く、次いで男性の18～29歳（67.3%）となっている。逆に男性の60代で43.0%と最も低くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／体調や習慣



(7) 安心して受診できる医療機関の有無

問17 あなたが安心して受診できる医療機関は身近にありますか (〇は1つだけ)。

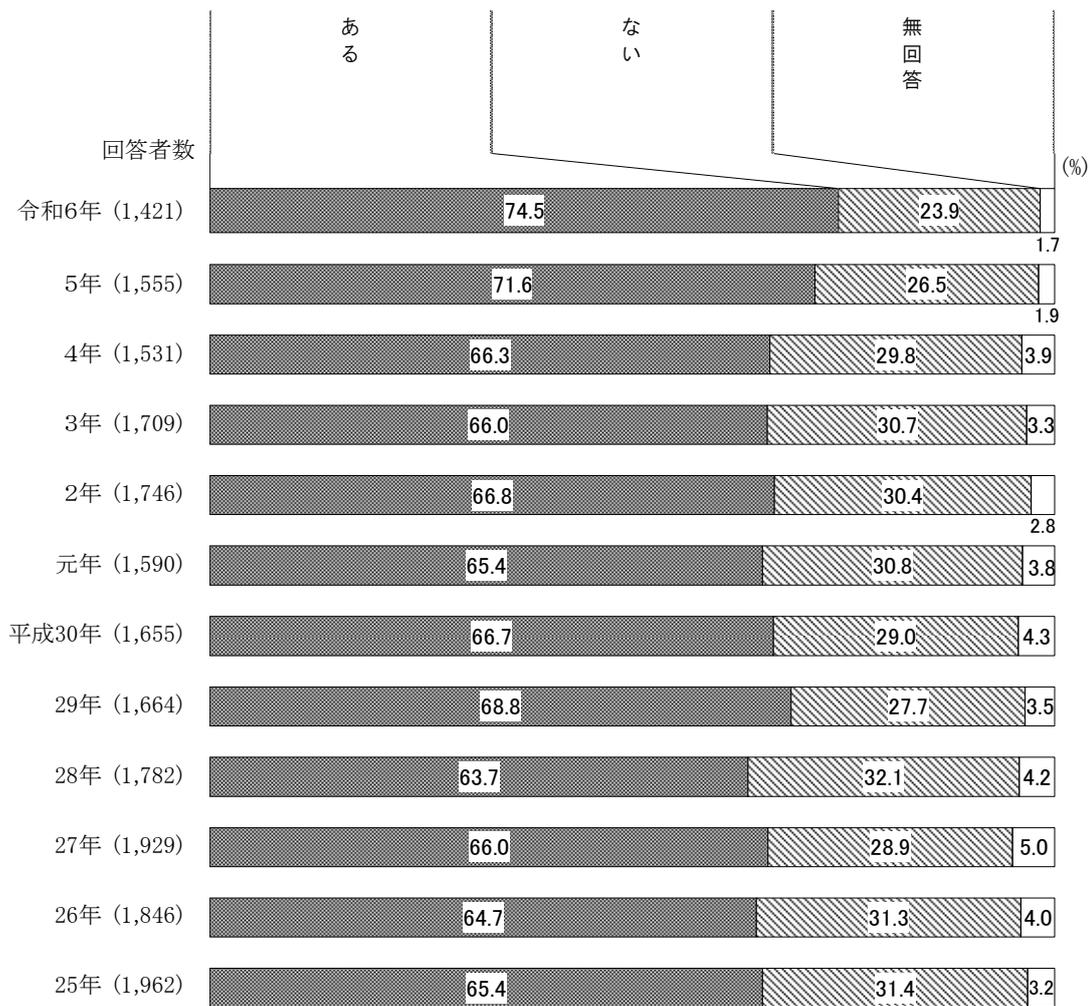
■ 「ある」が7割台半ば、「ない」が2割台半ば近く

ア 単純集計・経年比較／安心して受診できる医療機関の有無

(ア) 「ある」が74.5%で、「ない」が23.9%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「ある」が2.9ポイント増加している。

図5-7-1 経年比較／安心して受診できる医療機関の有無



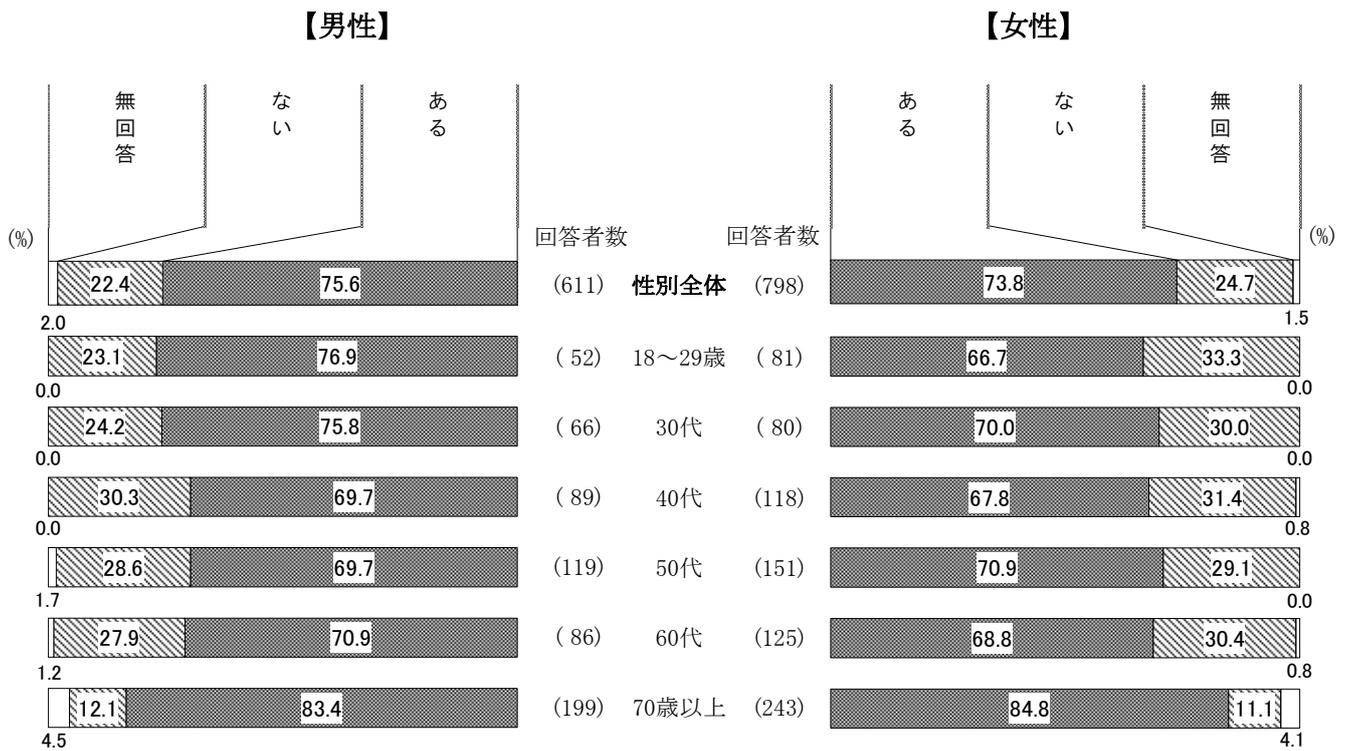
※ 前々回調査までは、選択肢を「あてはまる」「あてはまらない」という選択肢で聴取していたが、前回調査より「ある」「ない」と選択肢をかえた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／安心して受診できる医療機関の有無

(ア) 性別にみると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、「ある」は、男女とも70歳以上で8割台と高くなっている。逆に、女性の18～29歳が66.7%と最も低く、次いで、女性の40代（67.8%）となっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／安心して受診できる医療機関の有無



(8) 健康維持のために実行している、心がけているもの

問18 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください  
(〇はあてはまるものすべて)。

■「毎年健康診断を受けている」が6割台半ば、「毎日朝ごはんを食べている」が6割

ア 単純集計・経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 健康維持のために心がけていることについて、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「毎年健康診断を受けている」(66.2%)
- ②「毎日朝ごはんを食べている」(60.9%)
- ③「日ごろ、健康のために適度な運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」(37.7%)
- ④「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」(37.5%)
- ⑤「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(33.4%)

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図5-8-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

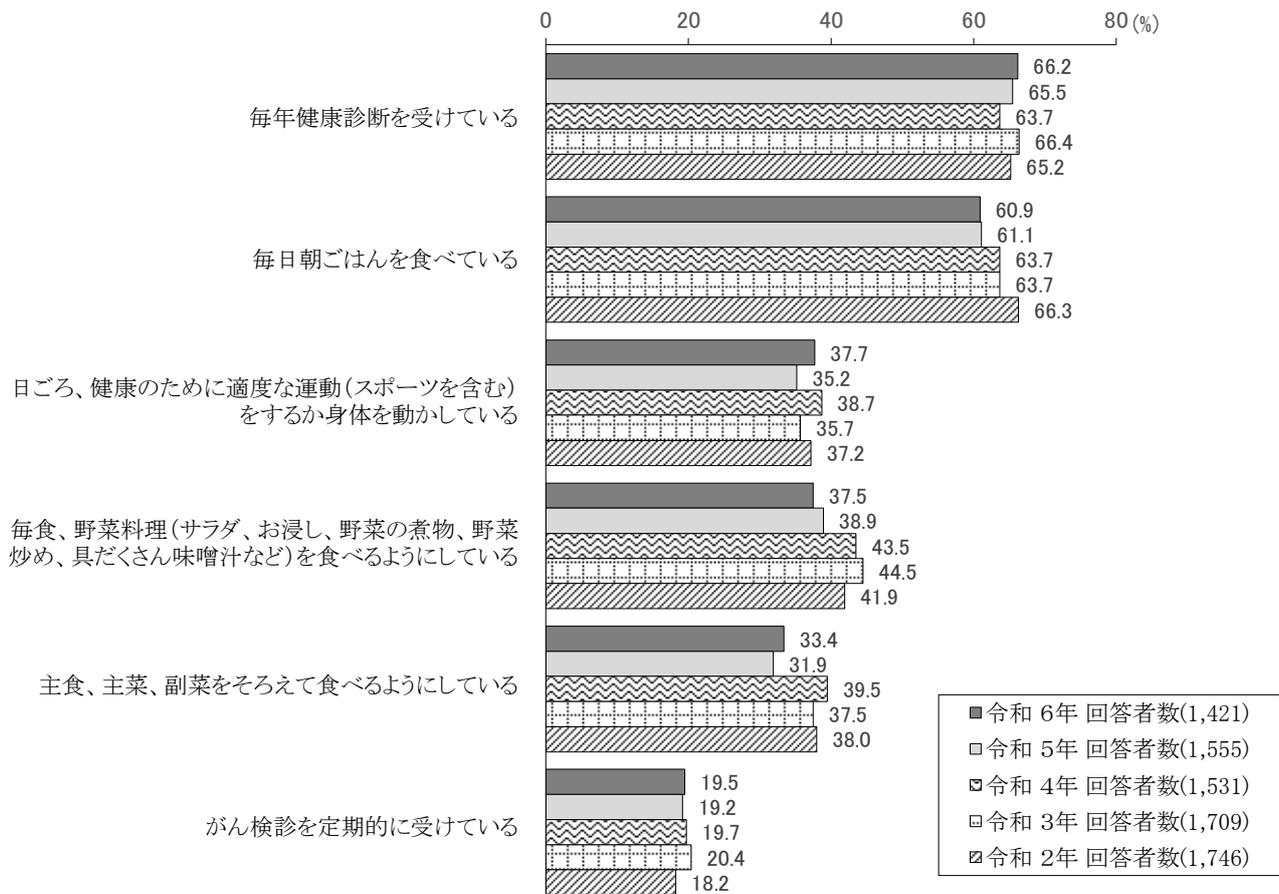
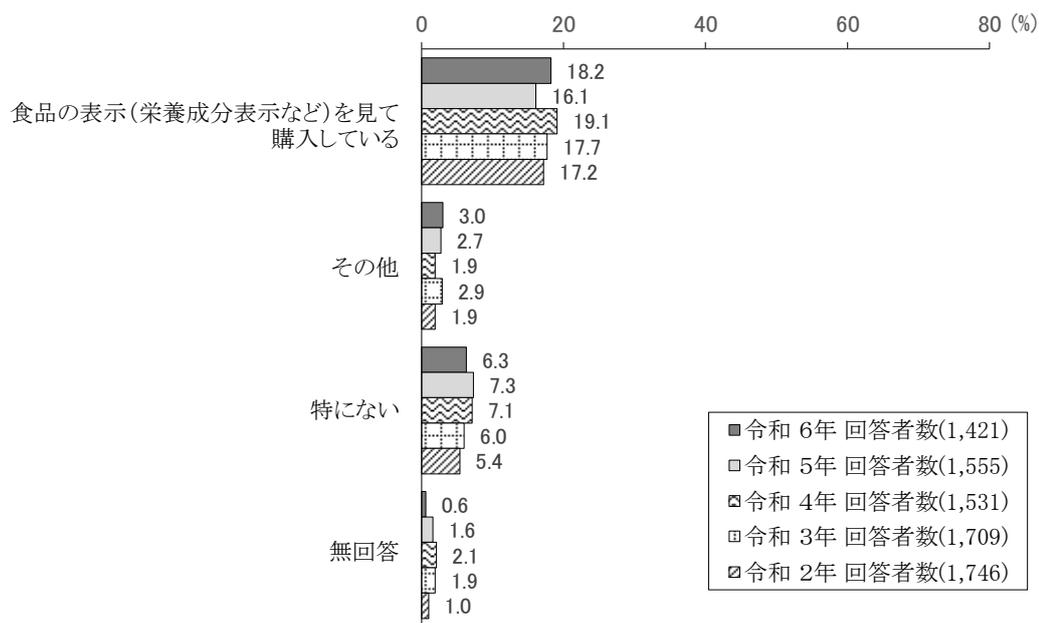


図5-8-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



(9) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類

問19 あなたがこの一年間で受けたがん検診は以下のどれですか（○はあてはまるものすべて）。

- 【がん検診を受けた】(43.4%) は「がん検診は受けていない」(49.8%) を下回っている。
- 受けたがん検診は、「大腸がん検診」、「胃がん検診」、「乳がん検診」の順。

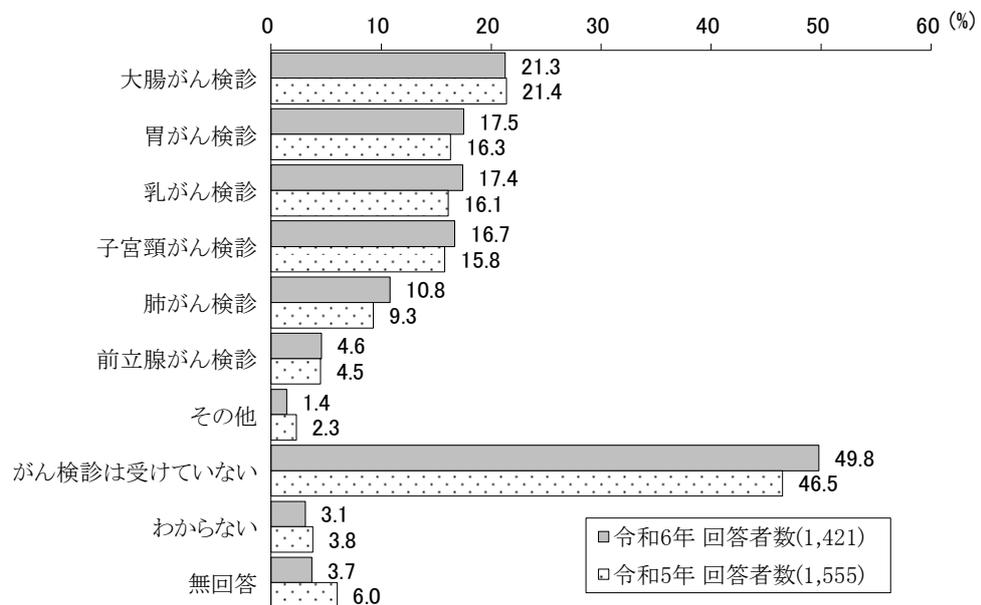
ア 単純集計／がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類

(ア) この一年間に【がん検診を受けた】は43.4%で、「がん検診は受けていない」(49.8%) を下回っている。

(イ) 受けたがん検診の種類の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「大腸がん検診」(21.3%)
- ② 「胃がん検診」(17.5%)
- ③ 「乳がん検診」(17.4%)
- ④ 「子宮頸がん検診」(16.7%)

図5-9-1 前回調査比較／がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類



※ 【がん検診を受けた】=100%－「がん検診は受けていない」－「わからない」－「無回答」

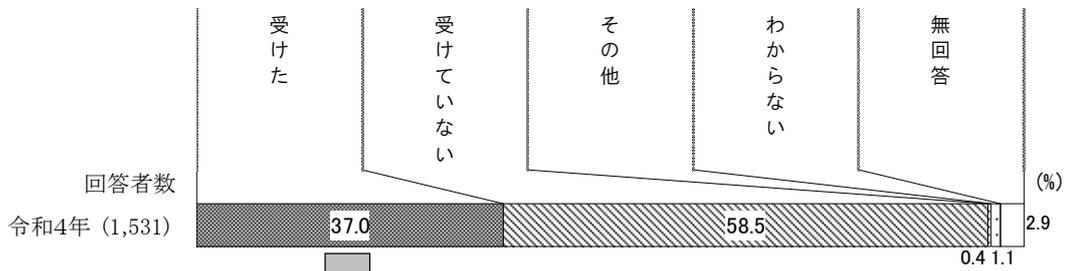
<参考> 足立区が区民対象に行っているがん検診

検査項目	受診対象	自己負担金	備考
胃がんハイリスク検診	40歳から74歳の間に1回のみ受診可	1,000円	
胃がん内視鏡検診	50歳以上 ※2年度に1回受診可	2,000円	
肺がん検診	40歳以上毎年度受診可 (かく痰検査は50歳以上)	800円	胸部X線：800円 かく痰検査：300円
大腸がん検診	40歳以上毎年度受診可	300円	
子宮頸がん検診	20歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	一部年齢の方に無料クーポン券送付
乳がん検診	40歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	
前立腺がん検診	60歳から64歳の間毎年度受診可	800円	

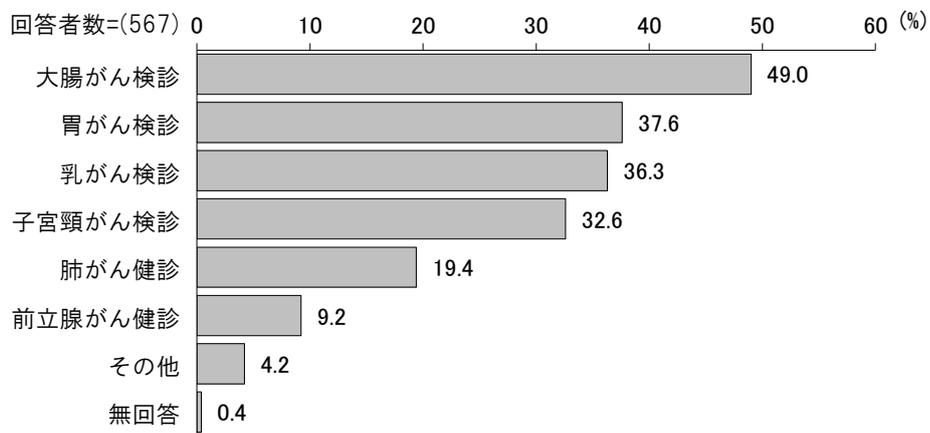
※ がん検診は足立区が行っている「区の検診」以外に、職場で行う「職場の検診」、医療機関で行う人間ドックなどの「個人的な検診」などがあり、また上記表のとおり検査項目によって受診対象が異なることを考慮する必要がある。

参考／がん検診の受診有無→受けたがん検診の種類

問 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（〇は1つだけ）。



問 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（〇はあてはまるものすべて）。



※ 前々回調査（令和4年調査）では、最初に、がん検診の受診有無を質問し、「受けた」と回答された方に対して受けたがん検診の種類をたずねた。従って単純に割合を比較することはできない。

(10) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容

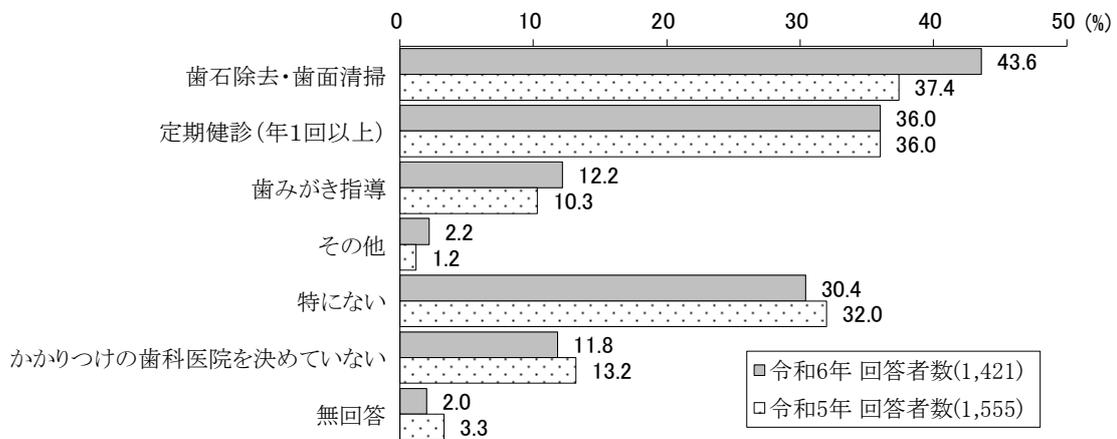
問20 あなたは、かかりつけの歯科医院で、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（〇はあてはまるものすべて）。

- 【かかりつけ歯科医院を決めている】は8割台半ば、「かかりつけ歯科医院を決めていない」は1割超
- 治療のほかに受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」が43.6%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%

ア 単純集計／かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容

- (ア) 【かかりつけ歯科医院を決めている】は86.2%を占めており、「かかりつけ歯科医院を決めていない」は11.8%となっている。
- (イ) かかりつけ歯科医院で治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものは、「歯石除去・歯面清掃」が43.6%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%となっている。一方、「特にない」は30.4%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【かかりつけ歯科医院を決めている】は2.7ポイント増加している。また、「歯石除去・歯面清掃」が前回調査（37.4%）から6.2ポイント増加となっている。

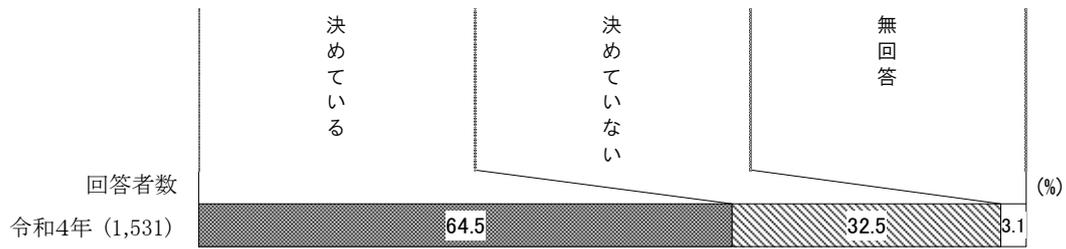
図5-10-1 前回調査比較／かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容



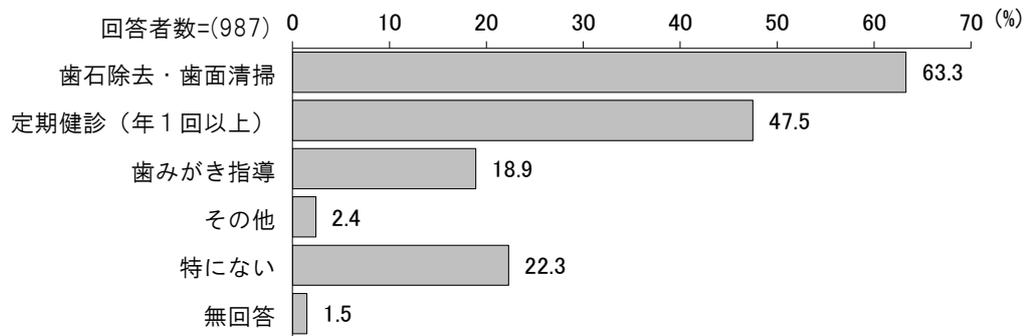
※ 【かかりつけ歯科医院を決めている】 = 100% - 「かかりつけ歯科医院を決めていない」 - 「無回答」

参考／かかりつけ歯科医院の有無→受けている治療や指導

問 あなたは、かかりつけ歯科医院を決めていますか（○は1つだけ）。



問 その歯科医院では、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものはありますか（○はあてはまるものすべて）。



※ 前々回調査では、最初に、かかりつけ歯科医院の有無を質問し、「決めている」と回答された方に対して、治療や入れ歯修理など以外の定期健診や指導などをたずねた。従って単純に割合を比較することはできない。

(11) 感染症予防としての手洗いの実践状況

問21 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

■「毎日（毎回）行っている」人が8割超も、漸減傾向

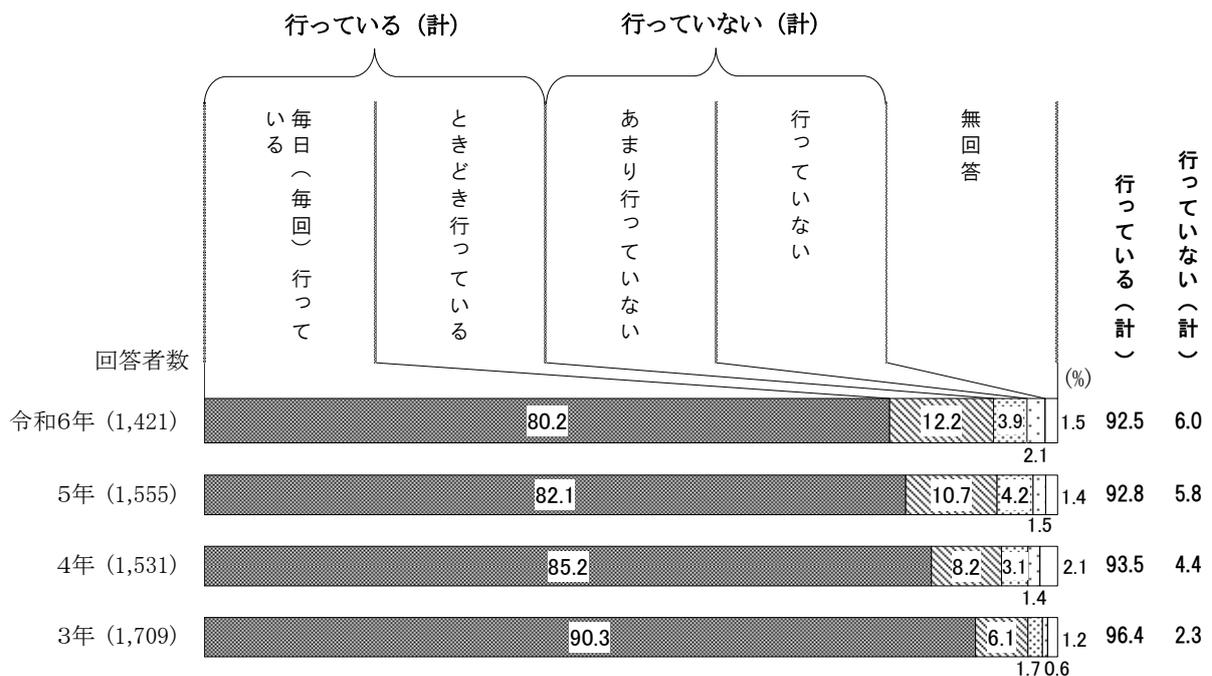
ア 単純集計・経年比較／感染症予防としての手洗いの実践状況

(ア) 帰宅時における感染症予防としての手洗いの実践状況は、「毎日（毎回）行っている」が80.2%を占めており、これに「ときどき行っている」（12.2%）を合わせた【行っている】（92.5%）は9割超となっている。

(イ) 帰宅時における手洗いを「あまり行っていない」（3.9%）と「行っていない」（2.1%）を合わせた【行っていない】（6.0%）は僅かとなっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「毎日（毎回）行っている」は微減しており、調査開始以降は減少傾向となっている。

図5-11-1 経年比較／感染症予防としての手洗いの実践状況

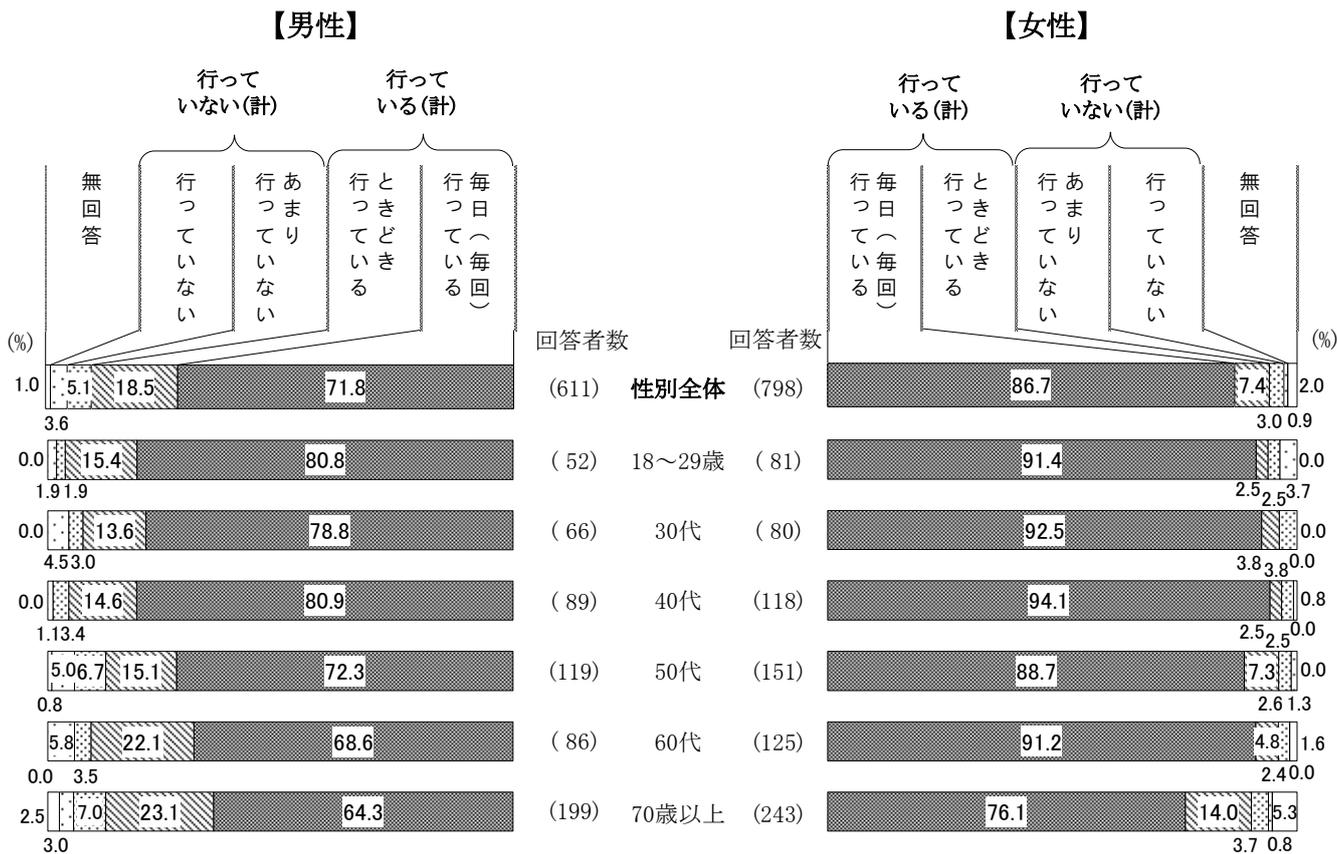


イ クロス集計・性別、性・年代別／感染症予防としての手洗いの実践状況

(ア) 性別にみると、【行っている】は女性（94.1%）の方が男性（90.3%）より3.8ポイント高く、「毎日（毎回）行っている」でみると、女性（86.7%）の方が男性（71.8%）より14.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行っている】は、女性の30～60代と男性の18～29歳、40代で9割台後半と高く、逆に男性の50代、70歳以上で8割台と低くなっている。

図5-11-2 性別、性・年代別／感染症予防としての手洗いの実践状況



(12) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

問22 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

■【知っている】は約2割で、「知らない（初めて聞いた）」が約8割

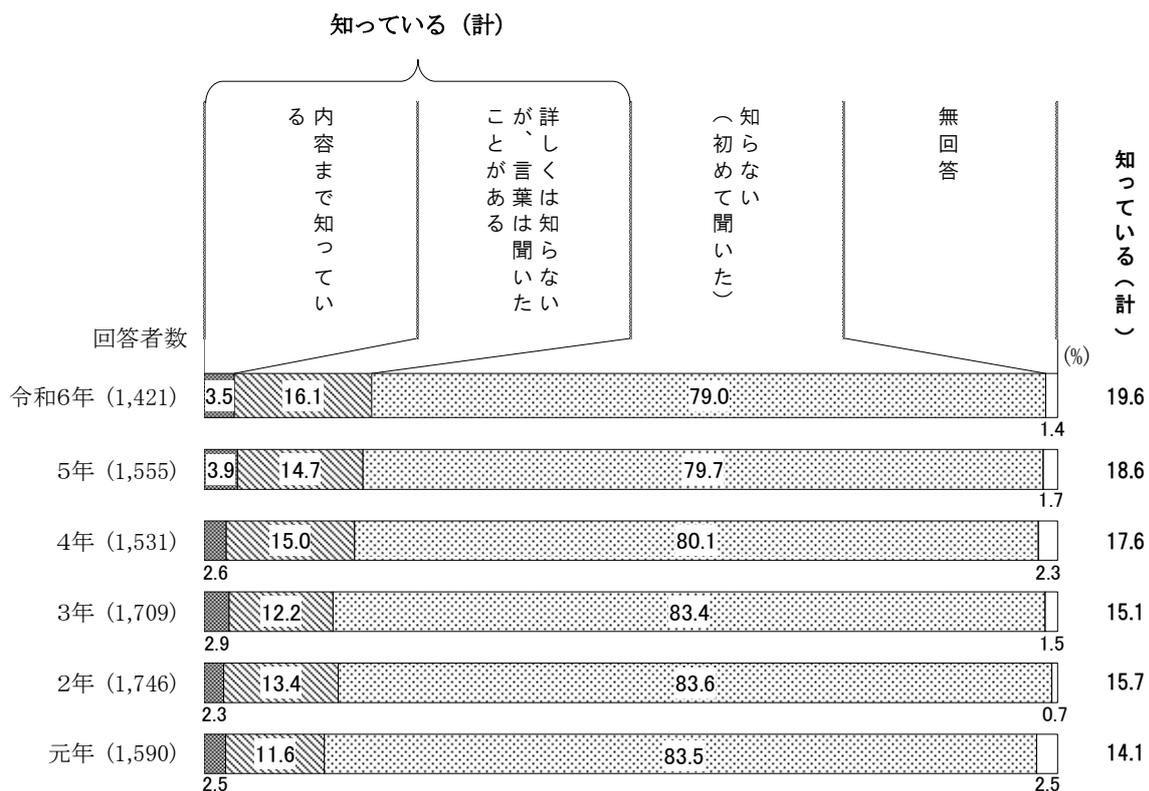
ア 単純集計・経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が約8割を占めている。

(イ) 「ゲートキーパー」という言葉を「内容まで知っている」（3.5%）は僅かで、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（16.1%）を合わせた【知っている】は19.6%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】は大きな違いはないものの、設問を開始した令和元年からおおむね漸増傾向となっている。

図5-12-1 経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

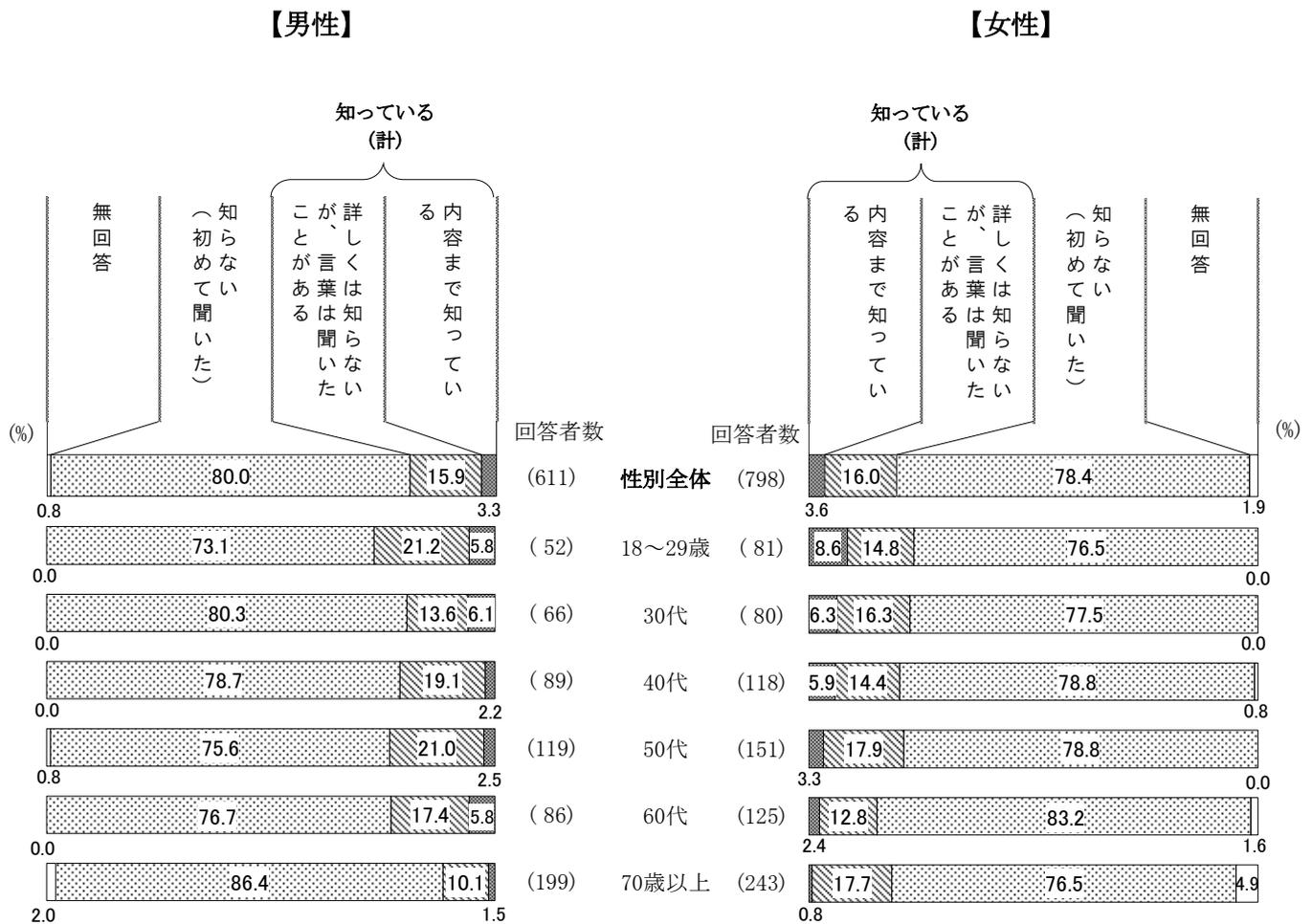


イ クロス集計・性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別にみると、【知っている】は、男性の18～29歳で26.9%と最も高く、次いで男性の50代と女性の18～29歳（各23.5%）となっている。一方、男性の70歳以上（11.6%）で1割超で最も低くなっている。

図5-12-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



## 6 スポーツ・読書

- 
- (1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況
  - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
  - (3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所
  - (4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ
  - (5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動
  - (6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由
  - (7) 読書に関わる行動状況
  - (8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由
-



## 6 スポーツ・読書

### (1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

問23 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

■【運動している】は6割弱で、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強

#### ア 単純集計・経年比較／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

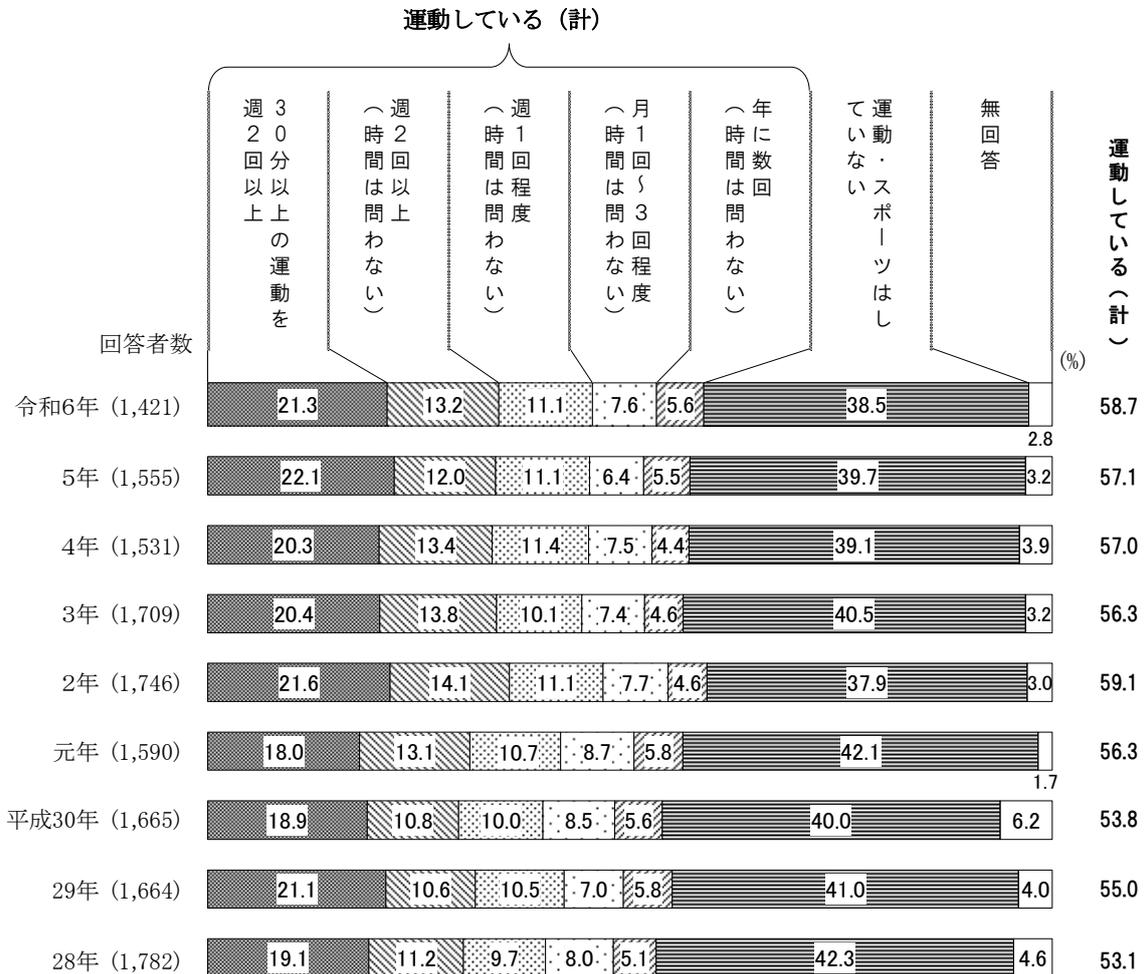
(ア) 運動・スポーツの実践頻度別の割合は、頻度の高い順に以下のとおりとなっている。

- ① 「30分以上の運動を週2回以上」(21.3%)
- ② 「週2回以上（時間は問わない）」(13.2%)
- ③ 「週1回程度（時間は問わない）」(11.1%)
- ④ 「月1回～3回程度（時間は問わない）」(7.6%)
- ⑤ 「年に数回（時間は問わない）」(5.6%)

(イ) 上記5項目を合わせた【運動している】は58.7%となっており、「運動・スポーツはしていない」は38.5%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図6-1-1 経年比較／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

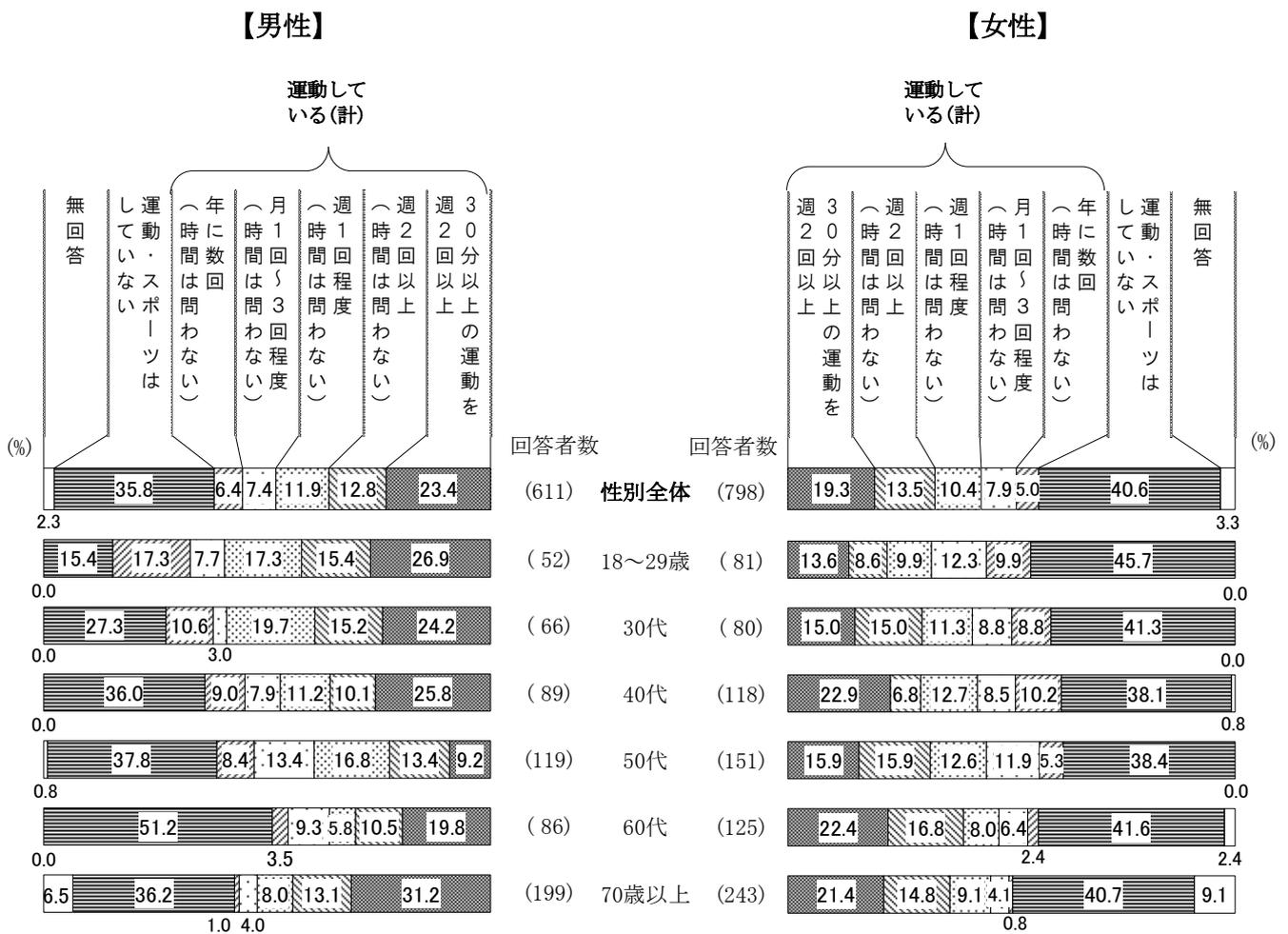


イ クロス集計・性別、性・年代別／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

(ア) 性別で見ると、「30分以上の運動を週2回以上」は男性(23.4%)の方が女性(19.3%)より4.1ポイント高く、【運動している】でみても男性(61.9%)の方が女性(56.1%)より5.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【運動している】は男性の18～29歳で84.6%と最も高く、次いで、男性の30代が72.7%で続いている。逆に男性の60代(48.8%)が唯一4割台と低くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

問23で1～5のいずれかをお答えの方に

問23-1 あなたが最近、継続的にやっている運動・スポーツは何ですか

(〇はあてはまるものすべて)。

■「ウォーキング」が5割弱で突出し、「筋力トレーニング」が2割台半ば近くで続く

ア 単純集計・経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

(ア) 何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「ウォーキング」(48.4%)
- ②「筋力トレーニング」(23.3%)
- ③「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(19.9%)
- ④「ラジオ体操」(11.2%)

(イ) 前回調査と比較すると、「ウォーキング」が微減、「筋力トレーニング」が微増しているものの、特に大きな違いは見られない。

図6-2-1-① 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

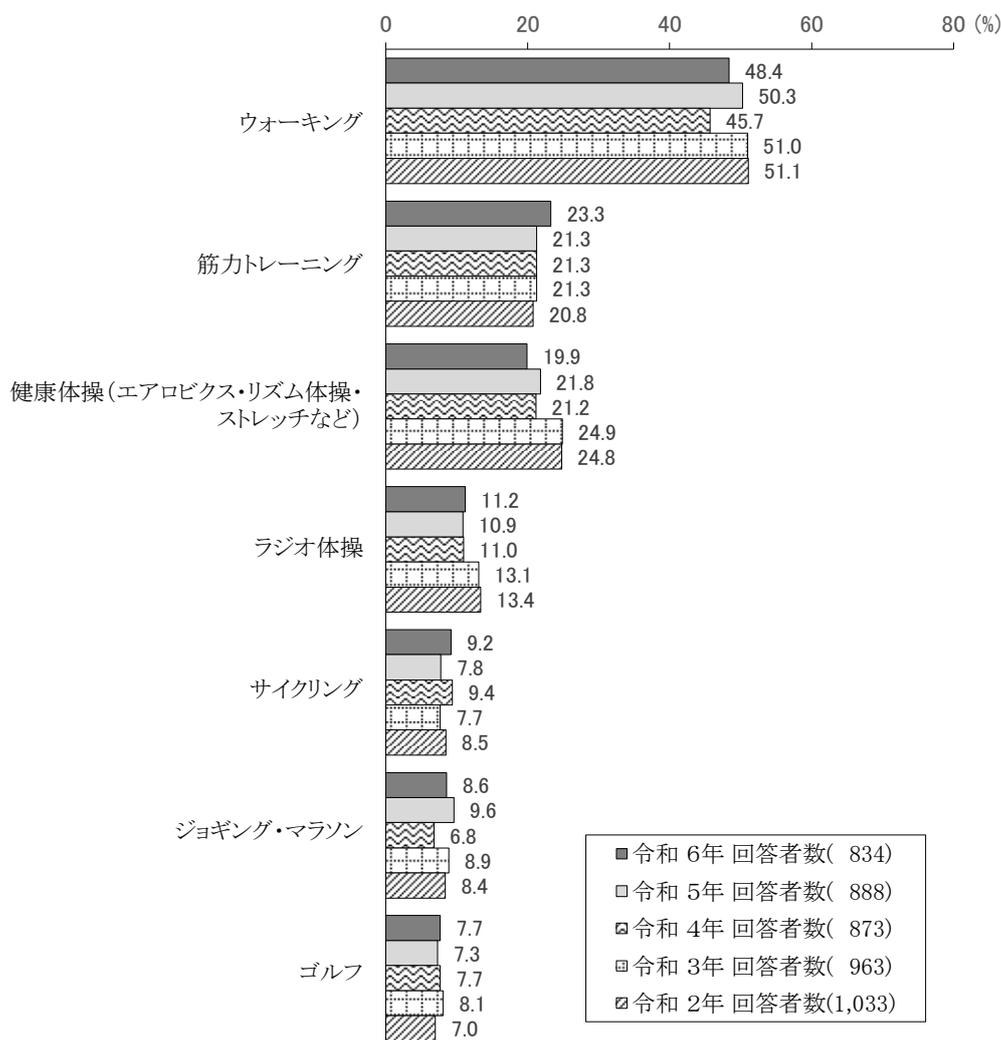


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

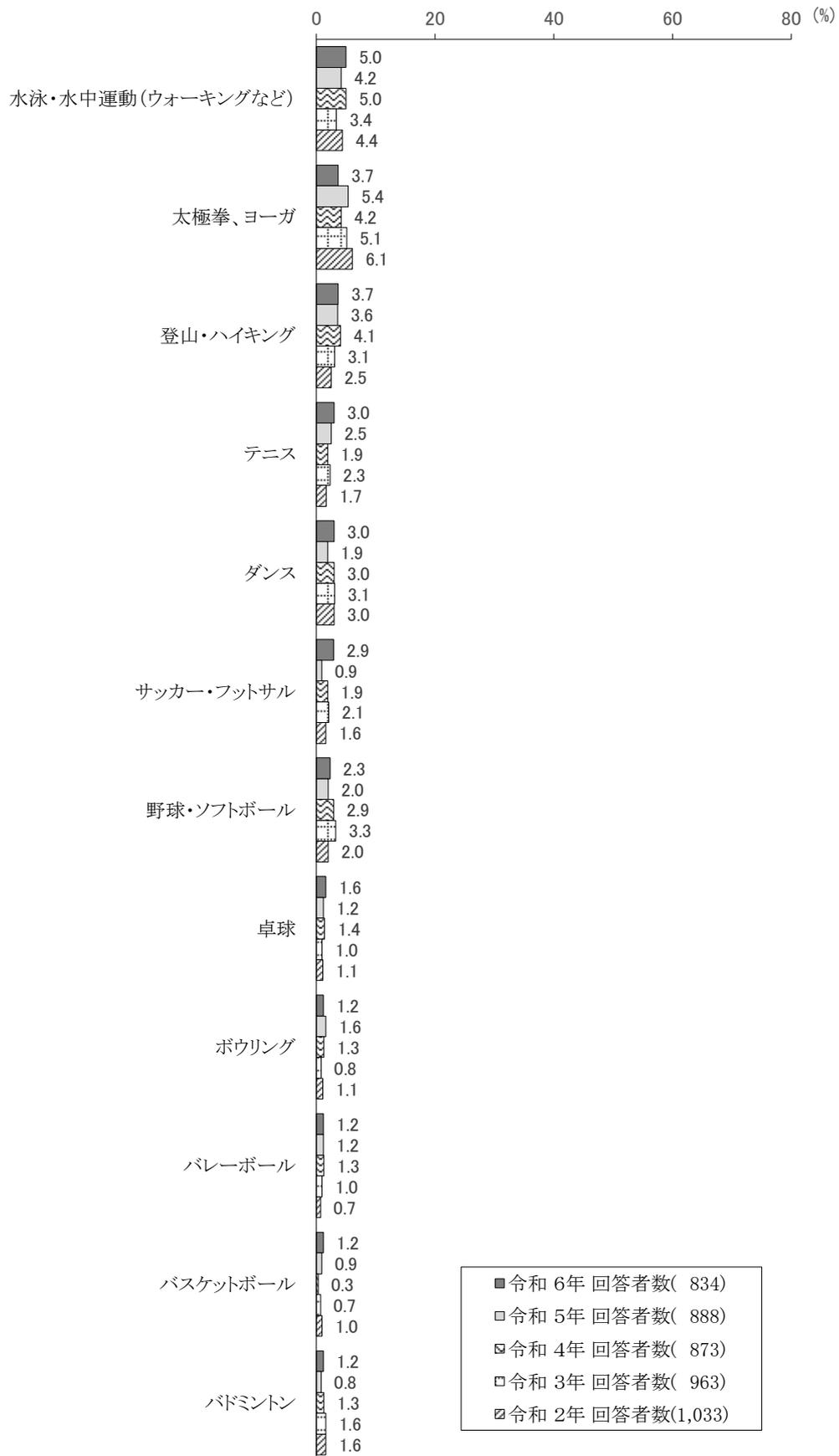
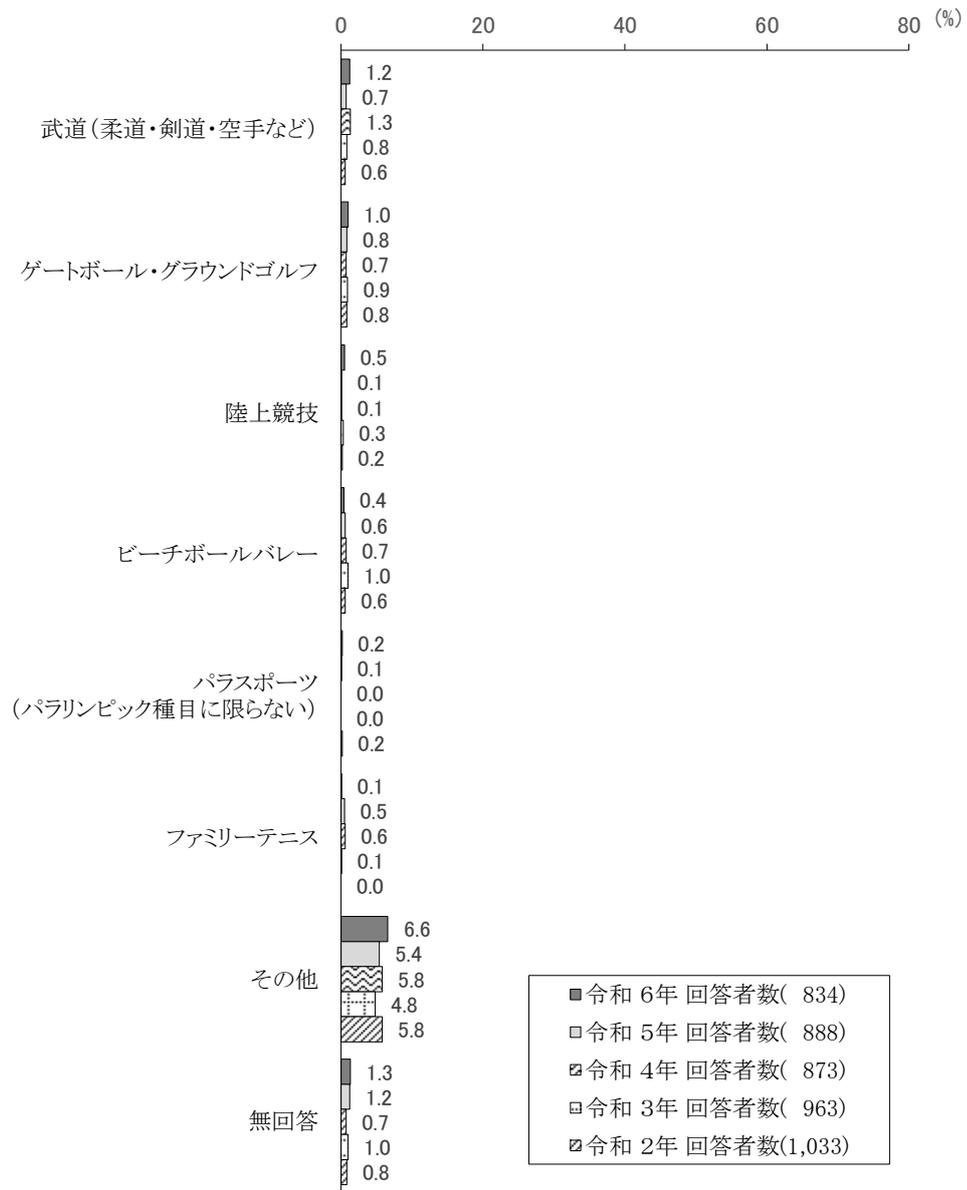


図6-2-1-③ 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



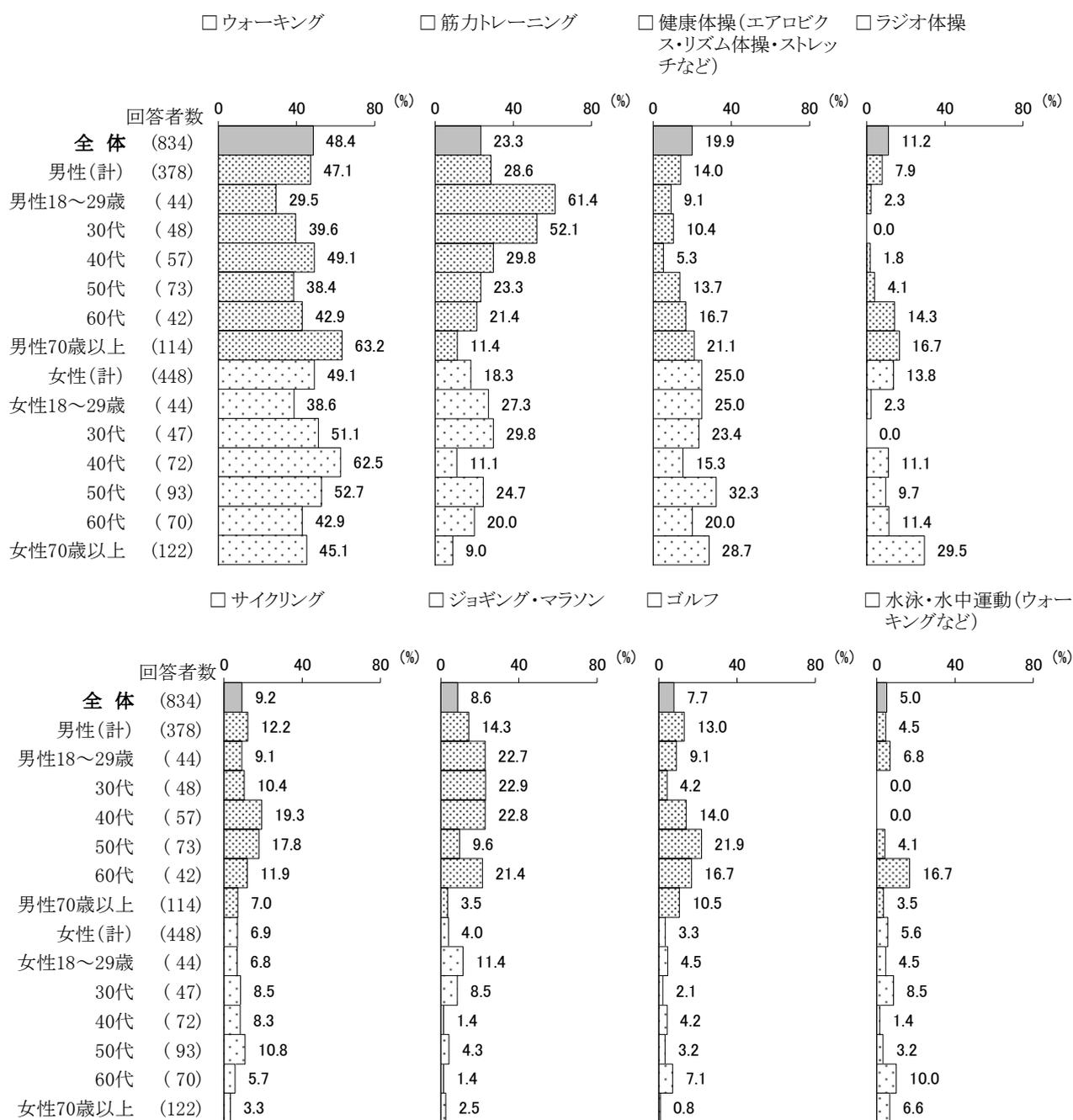
イ クロス集計・性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ（上位8項目）

(ア) 性別でみると、上位8項目のうち4項目で男性の方が高く、特に「筋力トレーニング」(+10.3ポイント)、「ジョギング・マラソン」(+10.3ポイント)、「ゴルフ」(+9.7ポイント)で10ポイント前後高くなっている。

(イ) 女性の方が男性より高いのは、「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(+11.0ポイント)、「ラジオ体操」(+5.9ポイント)などとなっている。

(ウ) 性・年代別でみると、「ウォーキング」は男性の70歳以上と女性の40代で6割台と高く、「筋力トレーニング」は男性の18～29歳で6割台、30代で5割台と高くなっている。また、「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」は女性の50代で3割台、「ラジオ体操」は女性の70歳以上で約3割と他の性・年齢層より高くなっている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所

問23で1～5のいずれかをお答えの方に

問23-2 あなたは、どこで運動・スポーツを行うことが最も多いですか（○は1つだけ）。

■「自宅周辺」が4割台半ば、次いで「自宅」が1割台半ば

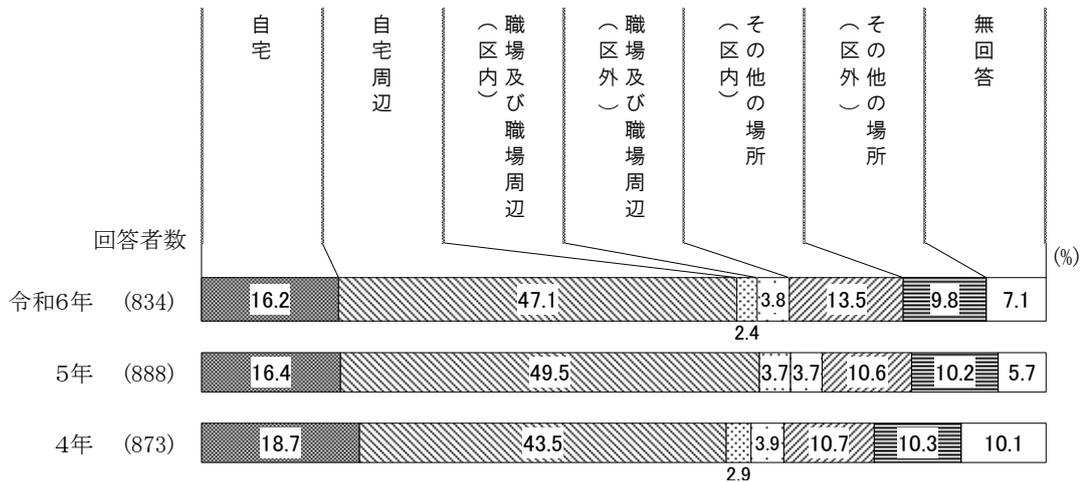
ア 単純集計・前回調査比較／運動・スポーツを最も多く行っている場所

(ア) 運動・スポーツの実施場所について、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「自宅周辺」(47.1%)
- ②「自宅」(16.2%)
- ③「その他の場所(区内)」(13.5%)
- ④「その他の場所(区外)」(9.8%)

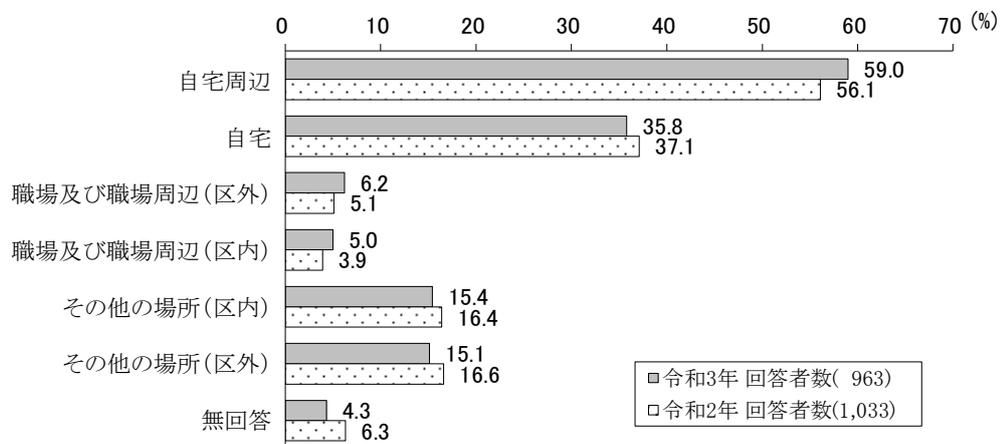
(イ) 前回調査と比較すると、「その他の場所(区内)」が2.9ポイント増加し「自宅周辺」が2.4ポイント減少している。

図6-3-1 経年比較／運動・スポーツを最も多く行っている場所



参考／(令和2・3年は複数回答) 運動・スポーツを行っている場所

問 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか（○はあてはまるものすべて）。

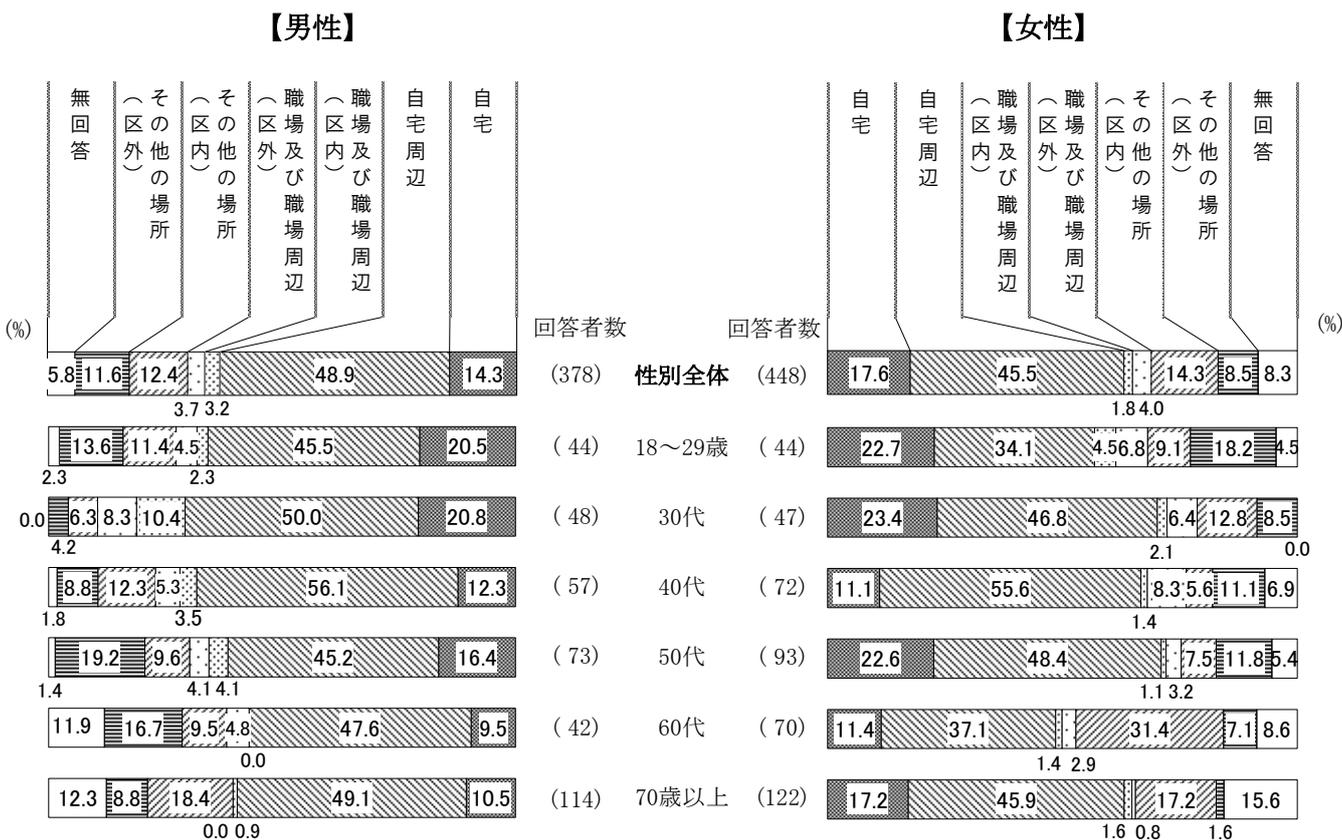


イ クロス集計・性別、性・年代別／運動・スポーツを最も多く行っている場所

(ア) 性別でみると、「自宅」は女性（17.6%）の方が男性（14.3%）より3.3ポイント高く、「自宅周辺」では男性（48.9%）の方が女性（45.5%）より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「自宅周辺」は男女ともに40代で5割台半ばと高く、「自宅」は男女ともに18～29歳と30代、女性の50代で他の年齢層に比べて高くなっている。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを最も多く行っている場所



(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ

問23で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に

問23-3 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか  
(〇はあてはまるものすべて)。

■「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割超

ア 単純集計・経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

(ア) 日常的に「運動・スポーツはしていない」と回答した人に、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思うか聞いた結果、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「身近な場所で運動・スポーツができる」(33.6%)
- ②「手頃な価格で施設を利用できる」(31.3%)
- ③「レベルを気にせず参加できる機会がある」(21.4%)
- ④「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」(17.9%)

(イ)「どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない」は15.4%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、上位4項目すべてで増加しており、特に「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」で5.1ポイント、「手頃な価格で施設を利用できる」で2.9ポイントと増加幅が大きい。

図6-4-1-① 経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

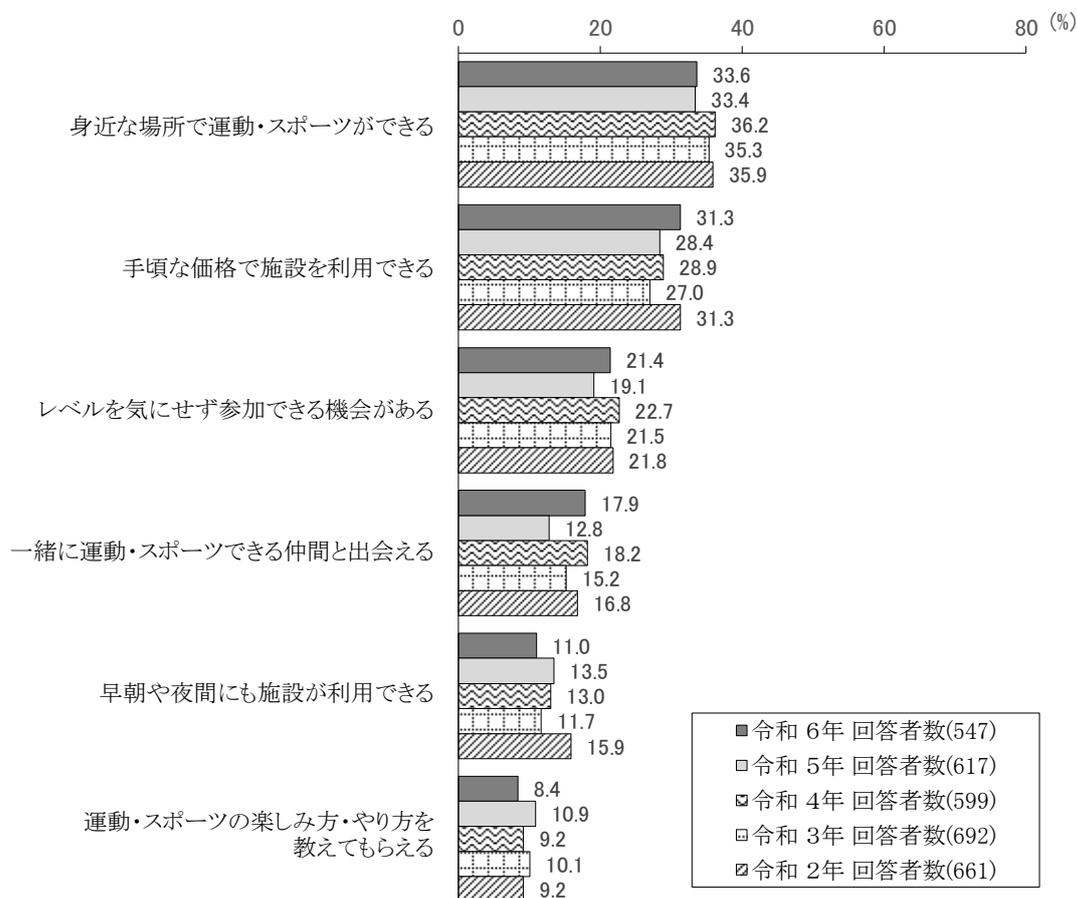
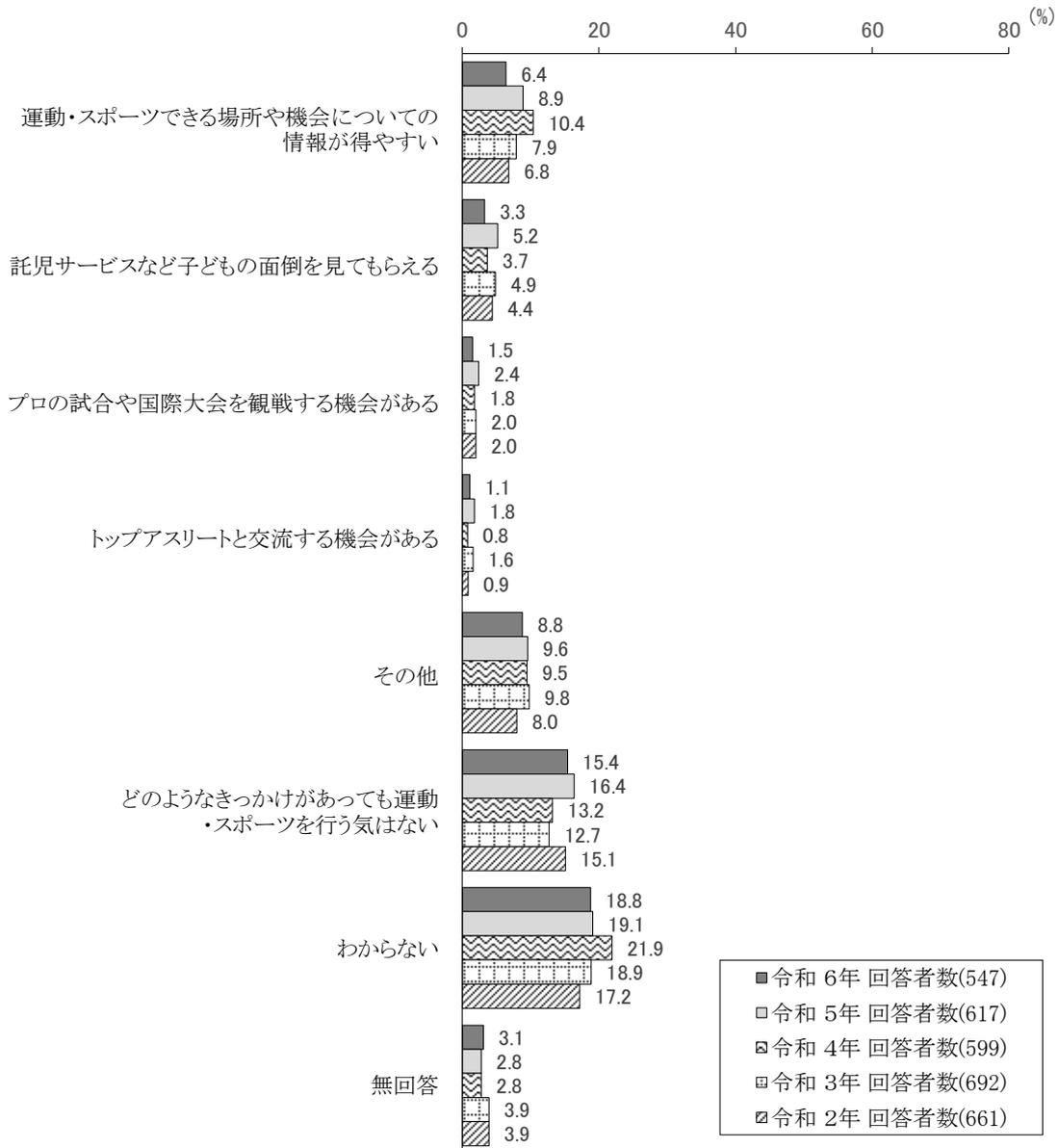


図6-4-1-② 経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

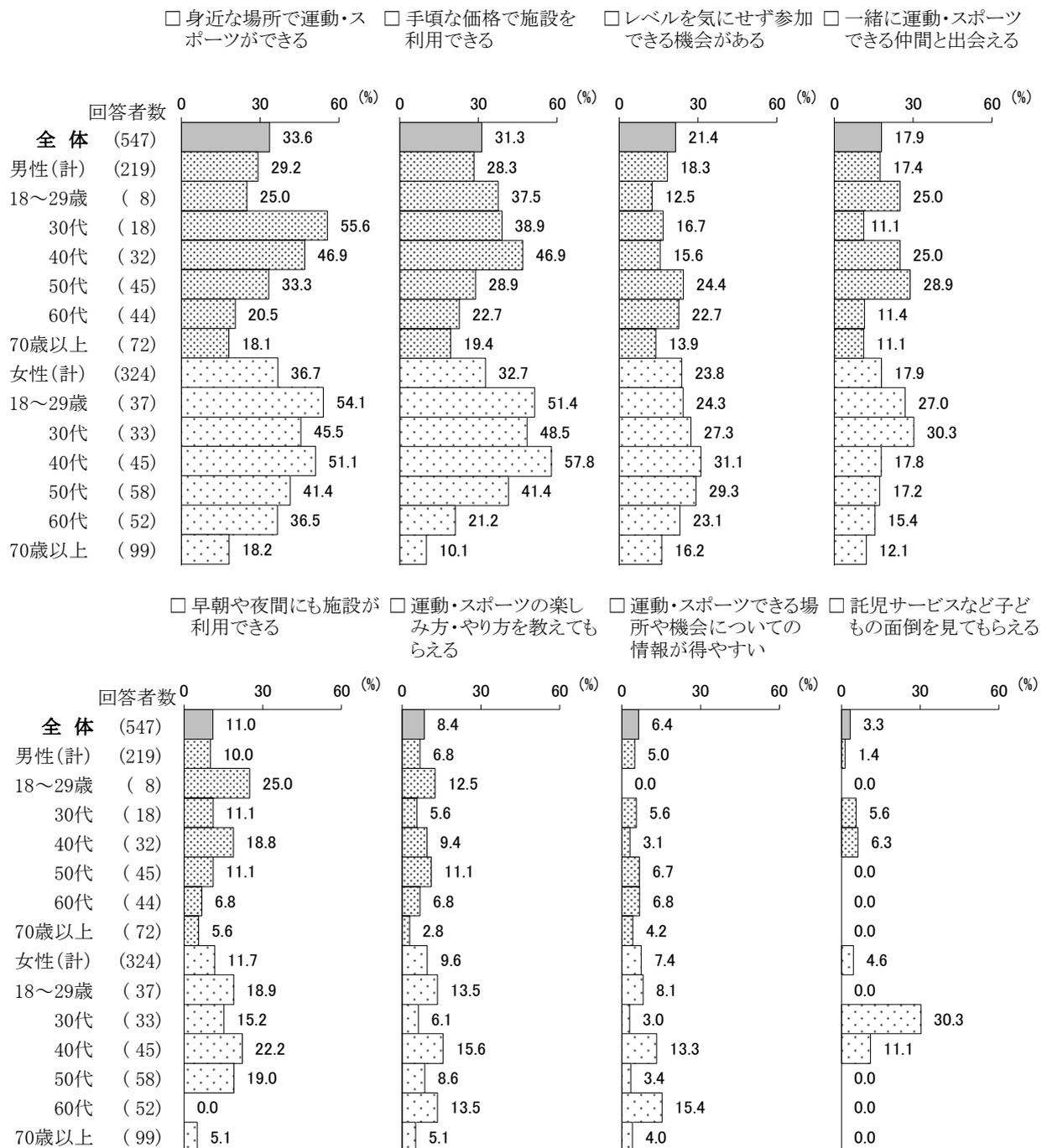


イ クロス集計・性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ（上位8項目）

(ア) 性別でみると、上位8項目はいずれも女性の方が高く、特に「身近な場所で運動・スポーツができる」(+7.5ポイント)、「手頃な価格で施設を利用できる」(+4.4ポイント)、「レベルを気にせず参加できる機会がある」(+5.5ポイント)の上位3項目でそれぞれ男性より4ポイント以上高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は男性の30代、女性の18～29歳と40代で5割台と高く、「手頃な価格で施設を利用できる」は女性の18～29歳と40代が5割台と高くなっている。また、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」は女性の30代で30.3%と他の性・年齢層に比べて高くなっている。

図6-4-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ／上位8項目



(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動

問24 次の活動のうち、過去1年間にあなたが関わった運動・スポーツを支える活動はありますか（〇はあてはまるものすべて）。

■ 「活動しなかった」が73.3%、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.7%

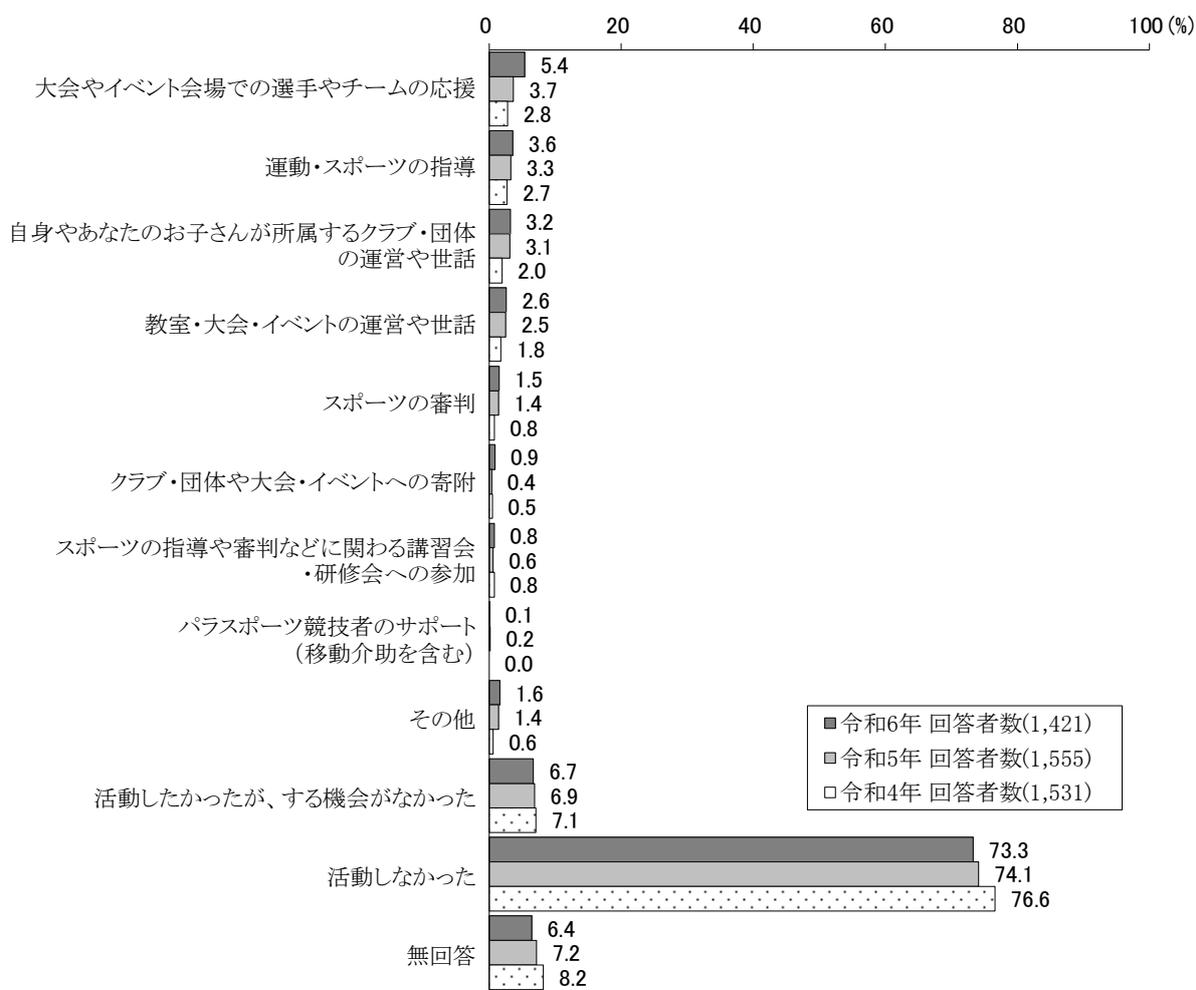
ア 単純集計・前回調査比較／過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動

(ア) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動については、「活動しなかった」(73.3%)が7割台半ば近くとなり、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.7%、【何らかの支える活動をした】は13.6%となっている。

(イ) 具体的な活動としては、「大会やイベント会場での選手やチームの応援」(5.4%)、「運動・スポーツの指導」(3.6%)、「自身やあなたのお子さんが所属するクラブ・団体の運営や世話」(3.2%)などであった。

(ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図6-5-1 経年比較／過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動



※ 【何らかの支える活動をした】 = 100% - 「活動したかったが、する機会がなかった」 - 「活動しなかった」 - 「無回答」

(6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

問24で「10 活動したかったが～」または「11 活動しなかった」とお答えの方に

問24-1 あなたが運動・スポーツを支える活動をしなかった理由は何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

■「仲間や一緒に参加する人がいないから」が20.6%、「年をとったから」が18.5%

ア 単純集計・経年比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

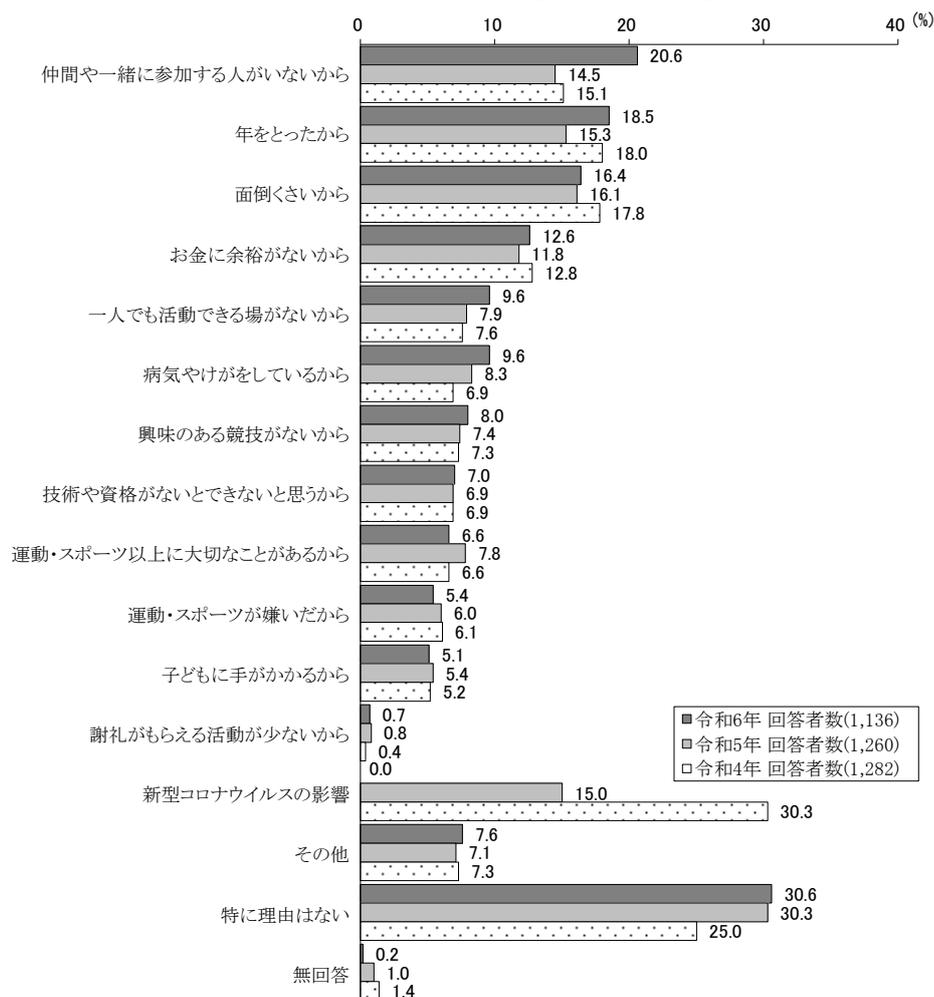
(ア) 過去1年間に運動・スポーツを支える活動をしなかった理由の上位としては、以下のとおりとなっている。

- ①「仲間や一緒に参加する人がいないから」(20.6%)
- ②「年をとったから」(18.5%)
- ③「面倒くさいから」(16.4%)
- ④「お金に余裕がないから」(12.6%)

(イ) 活動をしなかったことについて、「特に理由はない」が30.6%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「仲間や一緒に参加する人がいないから」が6.1ポイント、「年をとったから」が3.2ポイントそれぞれ増加となっている。

図6-6-1 経年比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由



※ 「新型コロナウイルスの影響」は今回調査では除外したが、前回調査までの割合が大きかったため、参考までに掲載している。

(7) 読書に関わる行動状況

問25 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください（○はあてはまるものすべて）。

※ ここでいう「本」「漫画」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていないてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含まれません。

■ 「本を読む」「新聞を読む」「雑誌を読む」「漫画を読む」「書店・古書店に行く」の上位5項目の順位に変化なし

ア 単純集計・経年比較／読書に関わる行動状況

(ア) 最近1か月間の読書に関わる行動で、【読書に関わる行動あり】は83.0%となっている。

(イ) 読書に関わる行動の内容の上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「本を読む」(45.8%)
- ② 「新聞を読む」(43.1%)
- ③ 「雑誌を読む」(34.3%)
- ④ 「漫画を読む」(30.1%)
- ⑤ 「書店・古書店に行く」(27.4%)

(ウ) 読書に関わる行動を「したかったが、できなかった」(1.6%)と「いずれもしなかった」(13.2%)を合わせた【読書に関わる行動なし】は14.8%となっている。

(エ) 前回調査と比較すると、「本を読む」が3.7ポイント増加し、「漫画を読む」が4.5ポイントの減少となっている。

図6-7-1-① 経年比較／読書に関わる行動状況

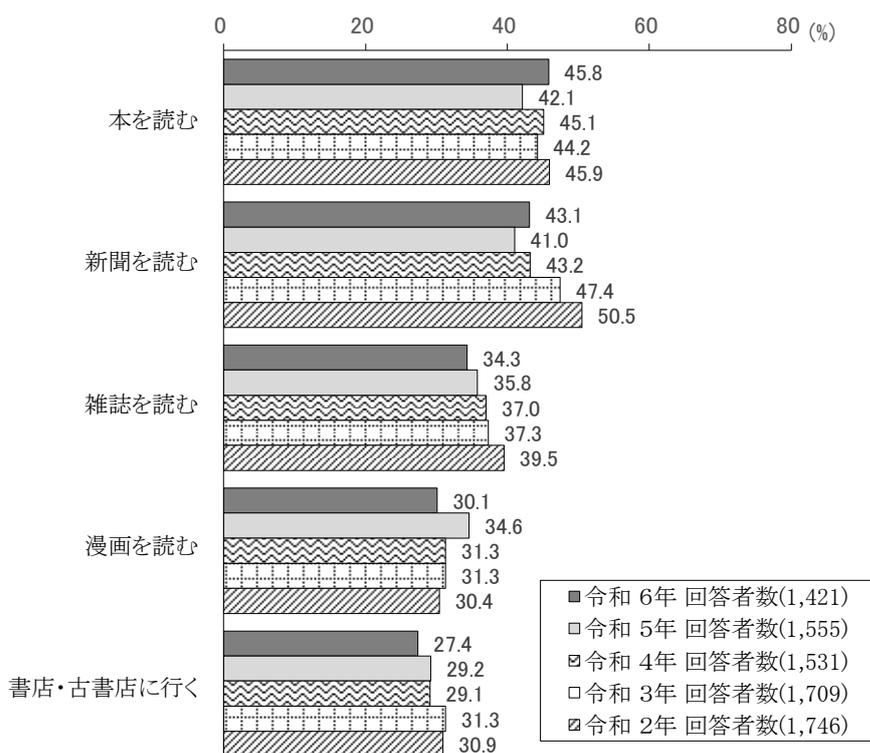


図6-7-1-② 経年比較／読書に関わる行動状況

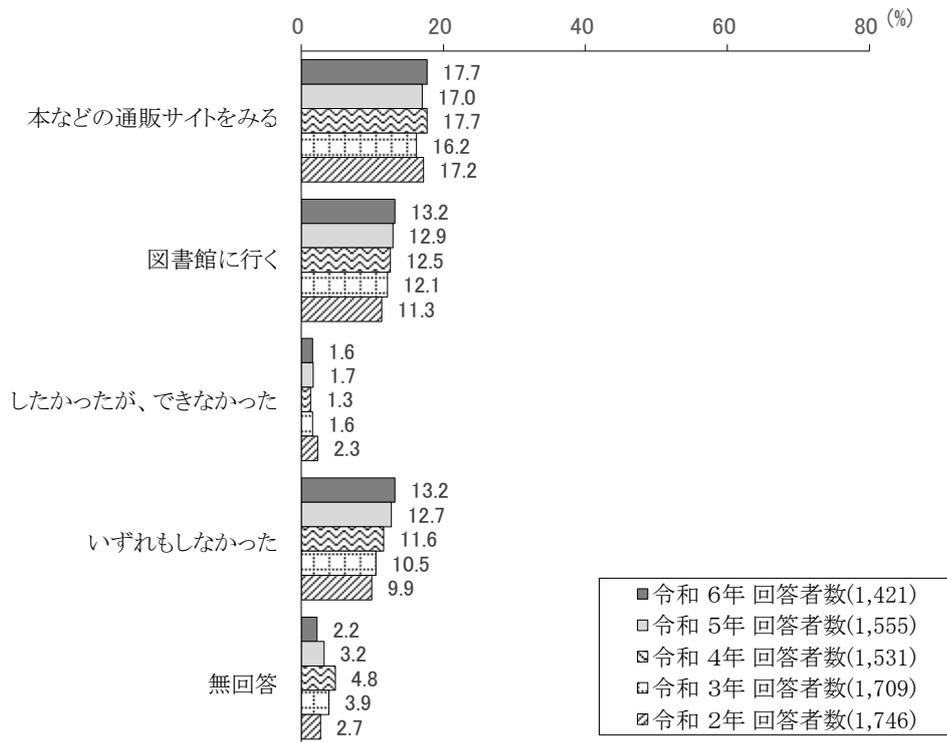
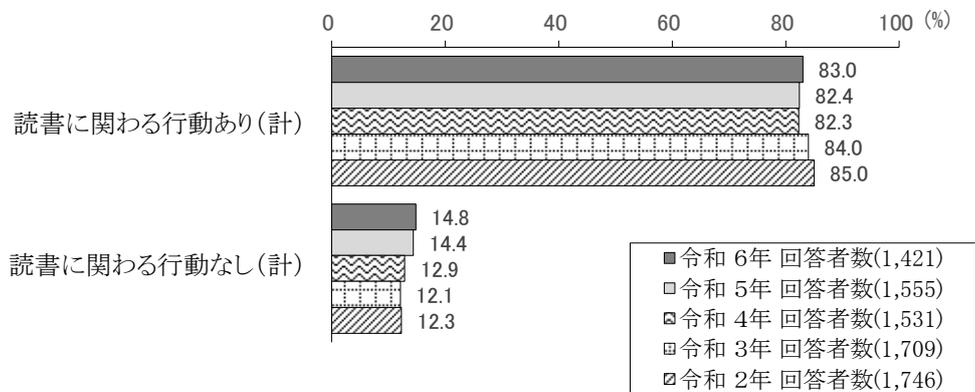


図6-7-1-③ 経年比較／読書に関わる行動状況



※【読書に関わる行動なし】 = 「したかったが、できなかった」 + 「いずれもしなかった」 + 「無回答」

※【読書に関わる行動あり】 = 100% - 【読書に関わる行動なし】

イ クロス集計・性別、性・年代別／読書に関わる行動状況（上位6項目+なし2項目）

(ア) 性別でみると【読書に関わる行動あり】は女性（84.0%）の方が男性（81.7%）より2.3ポイント高くなっている。

a 男性の方が女性よりも4ポイント以上高い項目

(a) 「新聞を読む」(+6.7ポイント)

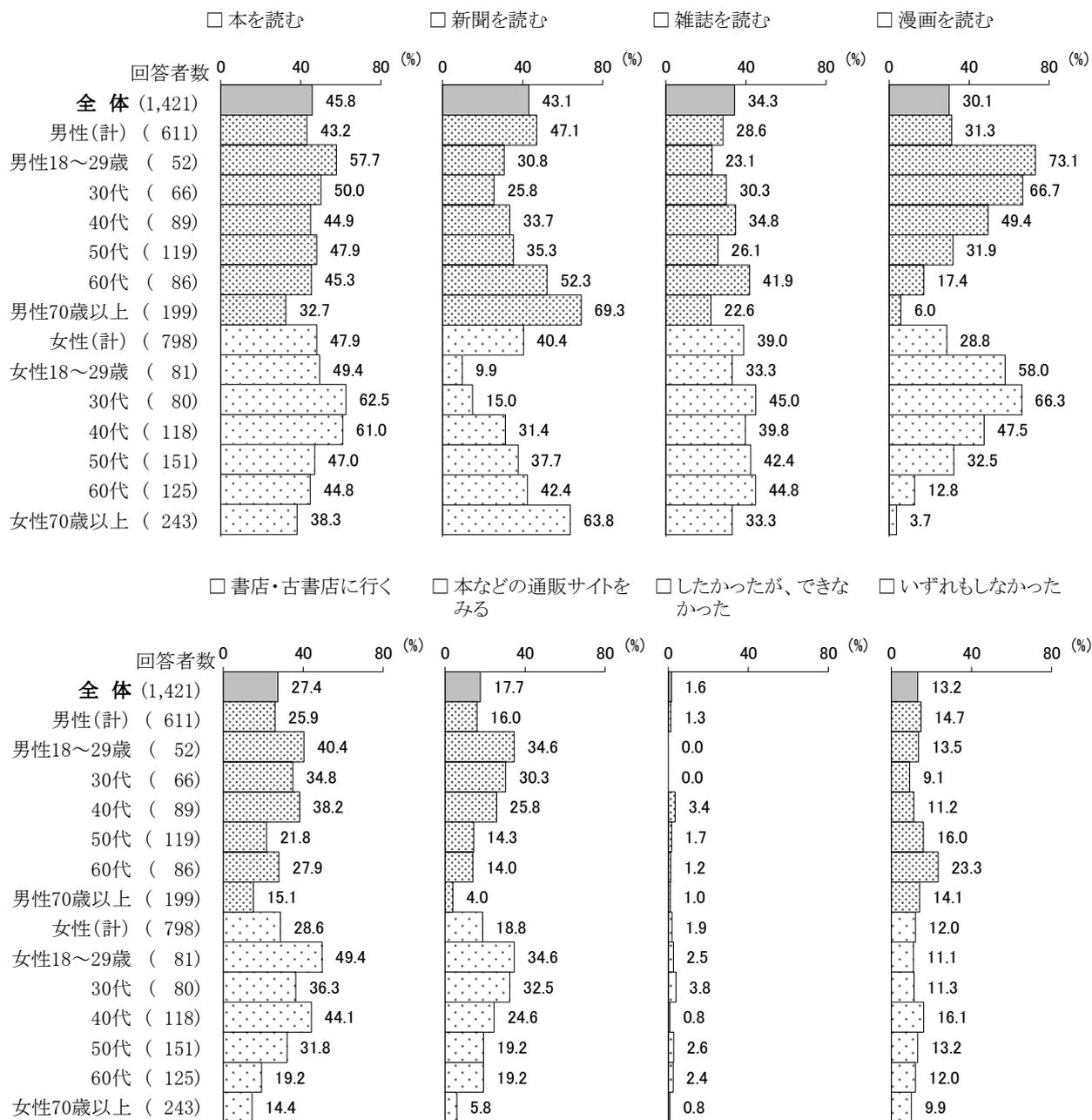
b 女性の方が男性よりも4ポイント以上高い項目

(a) 「雑誌を読む」(+10.4ポイント)

(b) 「本を読む」(+4.7ポイント)

(イ) 性・年代別にみると、「本を読む」は女性の30代と40代が6割台と高く、「新聞を読む」は男女とも年代が上がるほどおおむね割合が高くなり、男女とも70歳以上で6割台と高くなっている。逆に、「漫画を読む」はおおむね年代が若いほど割合が高くなっている。

図6-7-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動状況／上位6項目+なし2項目



(8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

問25で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはいずれもしなかった」をお答えの方に

問25-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。

■「面倒くさいから」(22.3%)、「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」(21.8%)、「忙しいから」(20.4%)の順

ア 単純集計・経年比較／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

(ア) 最近1か月間に読書に関わる行動が「できなかった」または「しなかった」理由の上位は、以下のとおりとなっている。

- ①「面倒くさいから」(22.3%)
- ②「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」(21.8%)
- ③「忙しいから」(20.4%)

(イ) 読書に関わる行動をできなかった(しなかった)ことに「特に理由はない」は25.6%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「本などを読むことが嫌いだから」が6.6ポイント、「面倒くさいから」が4.4ポイント、「子どもに手がかかるから」が3.1ポイントそれぞれ増加し、逆に、「加齢に伴い読む気力がなくなったから」が4.6ポイント減少している。

図6-8-1-① 経年比較／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

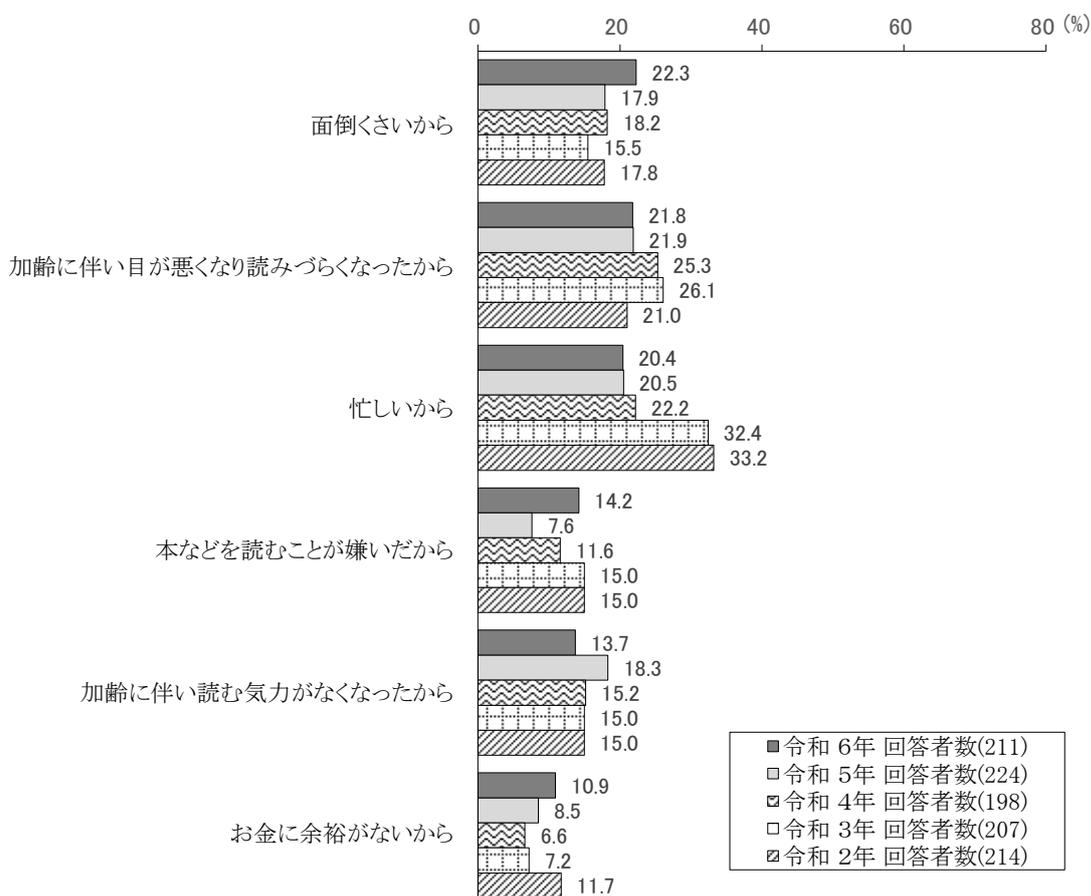
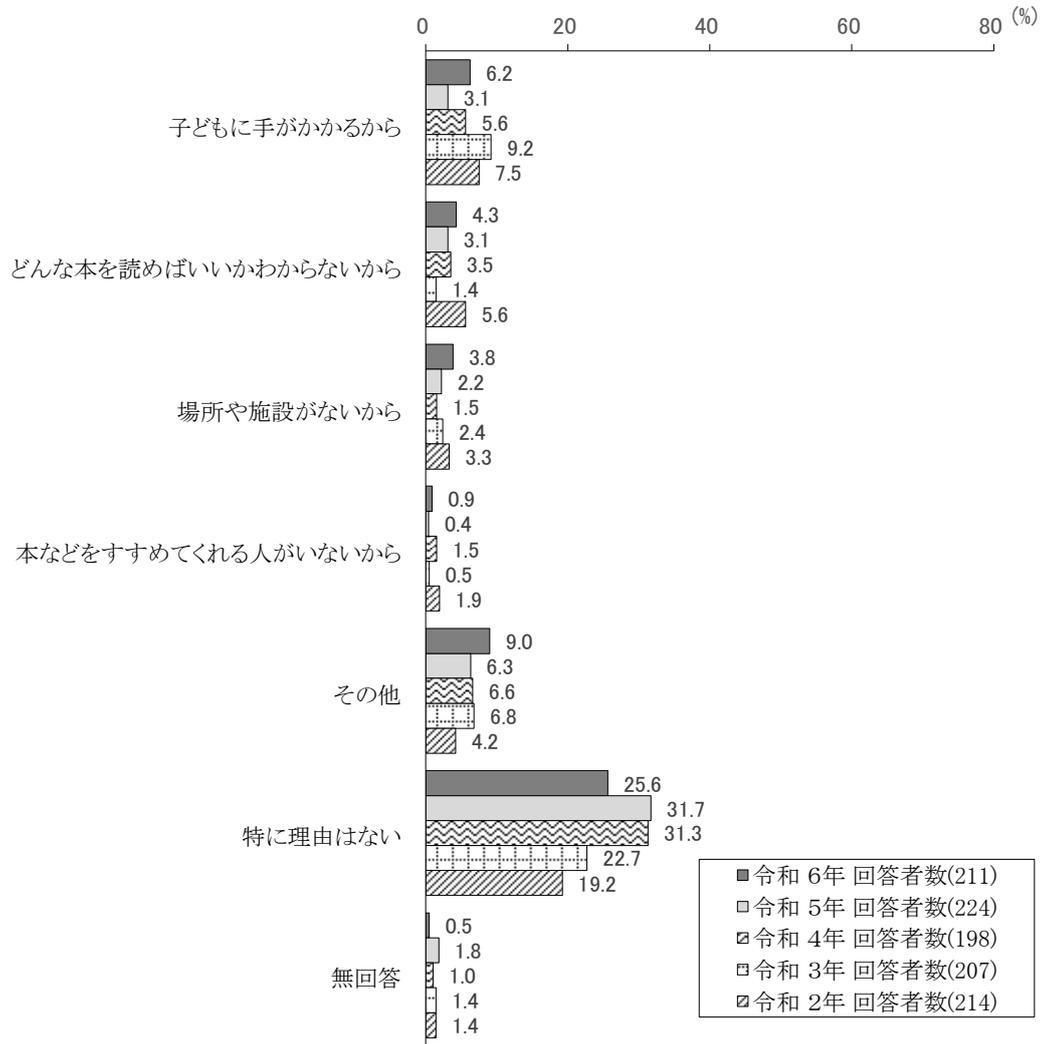


図6-8-1-② 経年比較／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由



イ クロス集計・性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

(上位8項目)

(ア) 性別でみると上位8項目中男性が4項目で、女性が4項目でそれぞれ高くなっている。

a 男性の方が女性より10ポイント前後高い項目

(a) 「本などを読むことが嫌いだから」(+10.4ポイント)

(b) 「面倒くさいから」(+9.6ポイント)

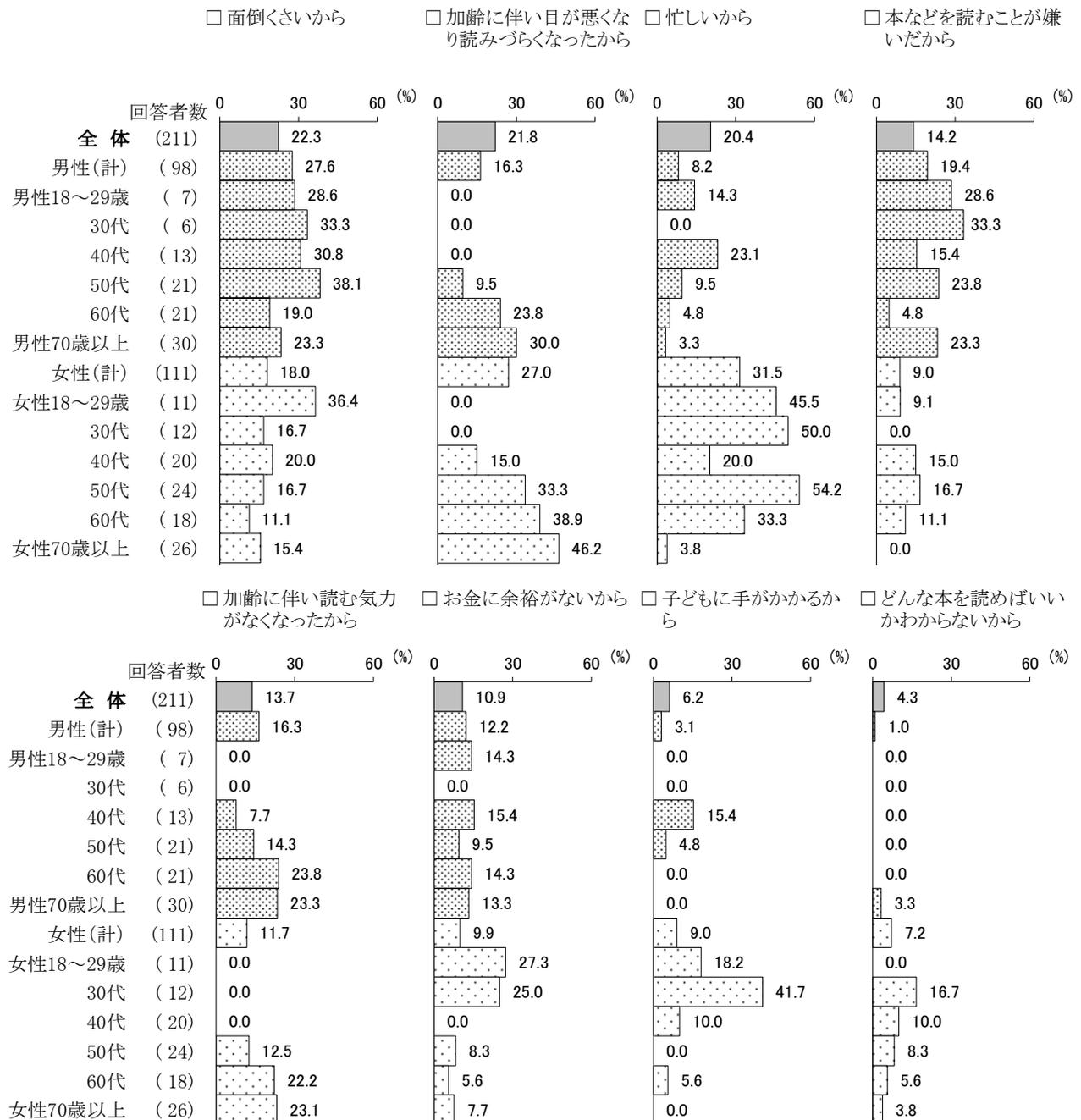
b 女性の方が男性より10ポイント前後高い項目

(a) 「忙しいから」(+23.3ポイント)

(b) 「加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから」(+10.7ポイント)

(イ) 性・年代別にみると、多くの項目で目立った違いがあるものの、大半の性・年代層でサンプル数が少ないことから、あくまで参考値としての掲載にとどめ、コメントは割愛する。

図6-8-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由／上位8項目



## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

- 
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
  - (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み
  - (3) 居住地域の治安状況
  - (4) 居住地域の治安が良いと感じる点
  - (5) 居住地域の治安が悪いと感じる点
  - (6) 駐輪時の鍵かけ状況
-



## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

### （1）「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

問26 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

■【知っている】が4割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」が5割超

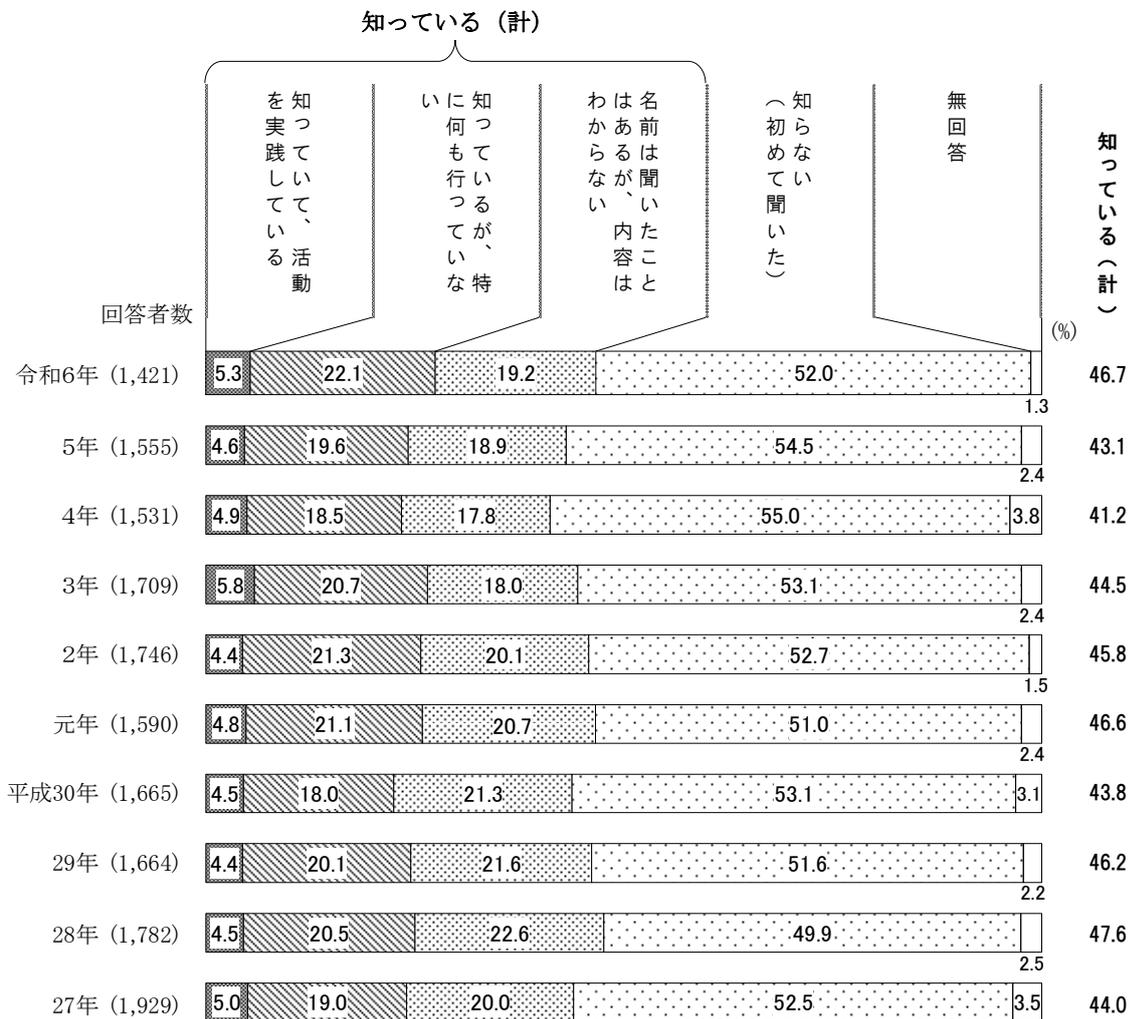
#### ア 単純集計・経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

（ア）「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は5.3%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」（22.1%）と「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」（19.2%）を合わせた【知っている】は46.7%となっている。

（イ）「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知らない（初めて聞いた）」は52.0%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、【知っている】は3.6ポイント増加している。

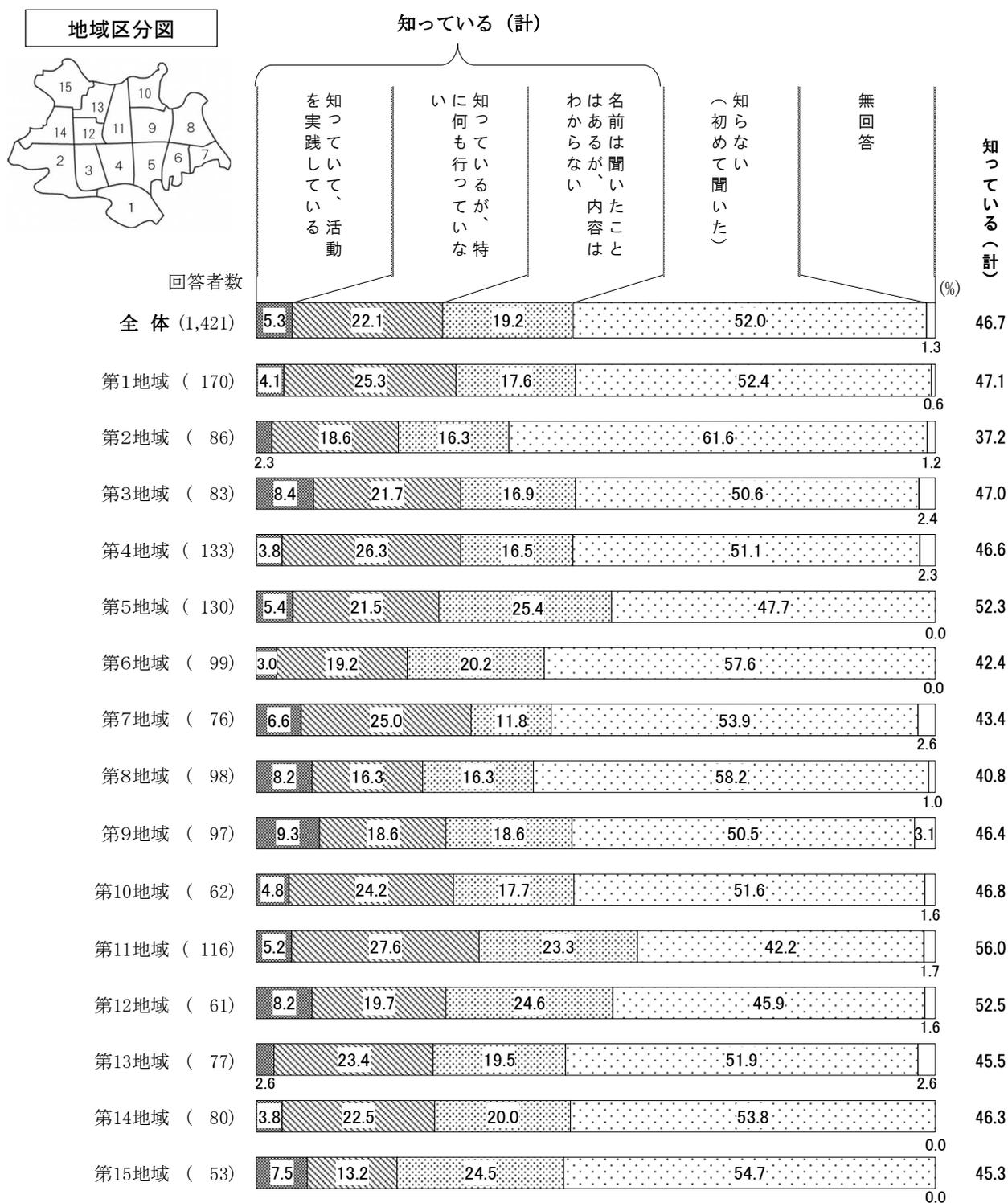
図7-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は、第11地域で56.0%と最も高く、次いで、第12地域(52.5%)、第5地域(52.3%)などとなっている。一方、第2地域で37.2%と最も低くなっている。

図7-1-2 地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

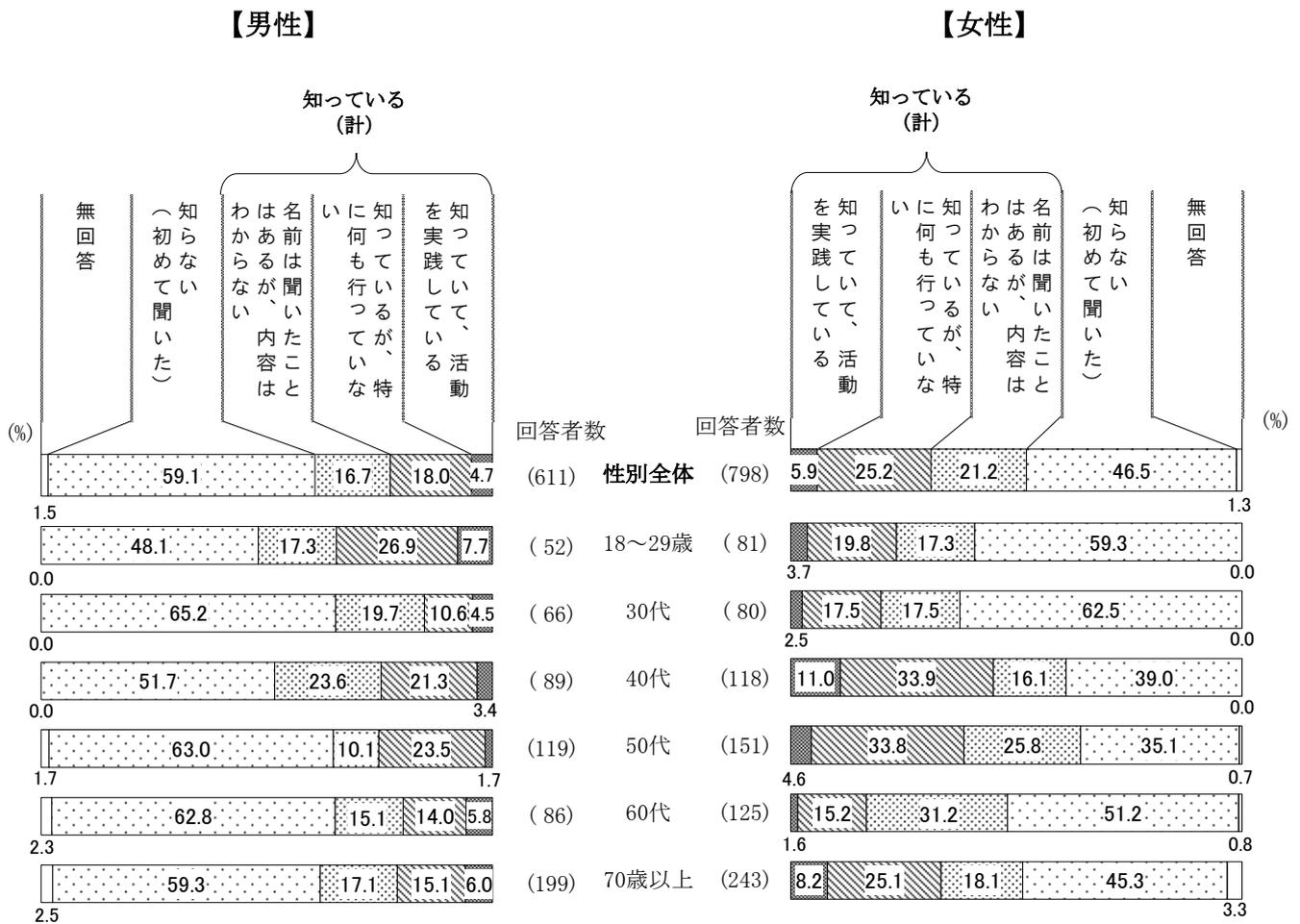


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（52.3%）の方が男性（39.4%）より12.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の50代で64.2%と最も高く、次いで、女性の40代が61.0%で続いている。逆に、男性の30代が34.8%で最も低くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

問27 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

■「参加していない(今後も参加しない)」が約6割、取り組みでは「ながら見守り活動」が13.2%で最多

ア 単純集計・経年比較

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

(ア) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関する取り組みのうち、現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みを聞いたところ、上位は以下のとおりとなった。

- ①「ながら見守り活動」(13.2%)
- ②「まちの清掃活動」(11.5%)
- ③「花の育成活動」(10.2%)
- ④「不法投棄通報」(8.0%)

(イ) 取り組みに「参加していない(今後も参加しない)」は59.5%となっている。

(ウ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られないものの、「参加していない今後も参加しない」が漸減傾向となっている。

図7-2-1-① 経年比較／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

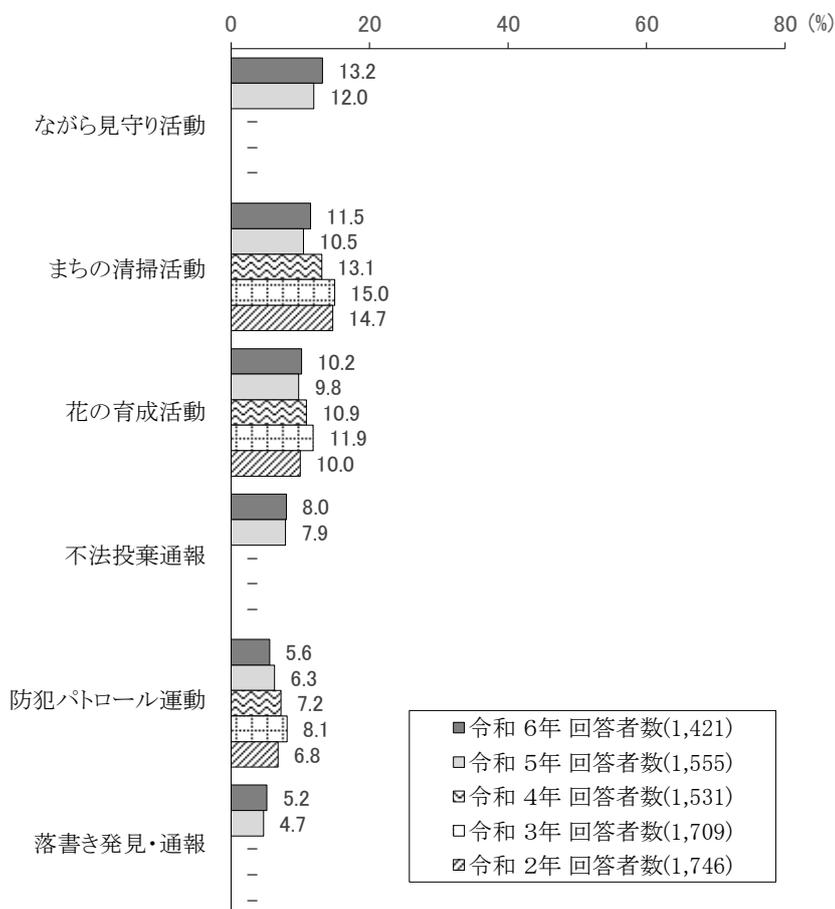
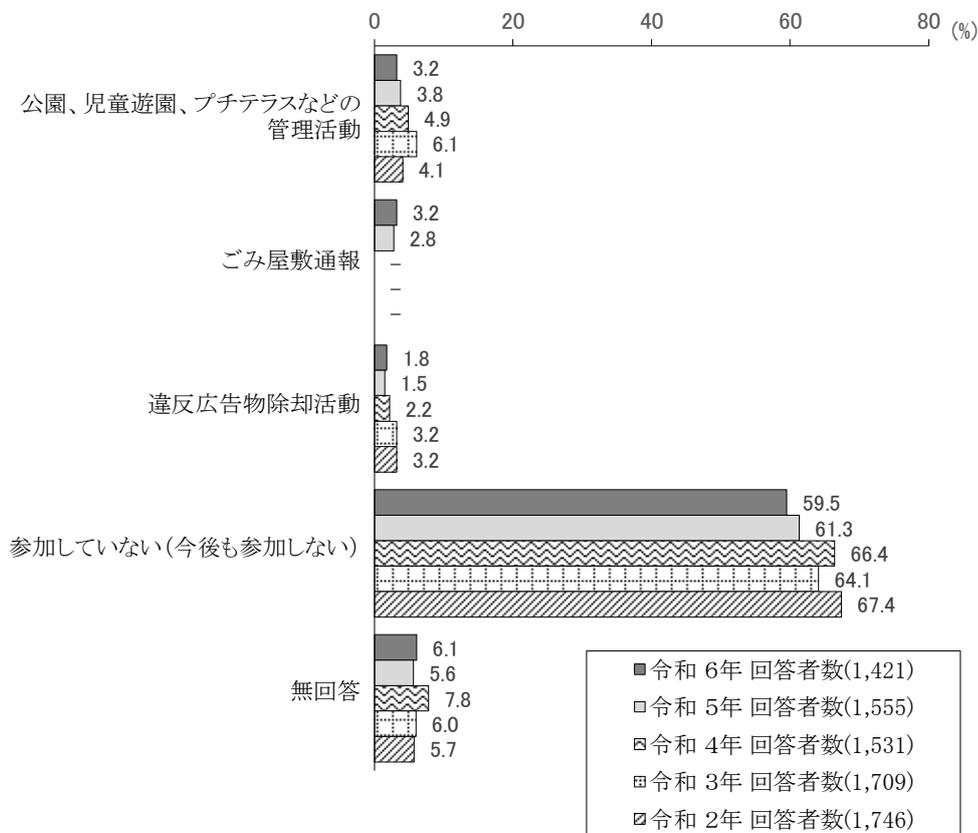


図7-2-1-② 経年比較／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



※「ながら見守り活動」・「ごみ屋敷通報」・「不法投棄通報」・「落書き発見・通報」は、令和5年度調査からの新設項目。

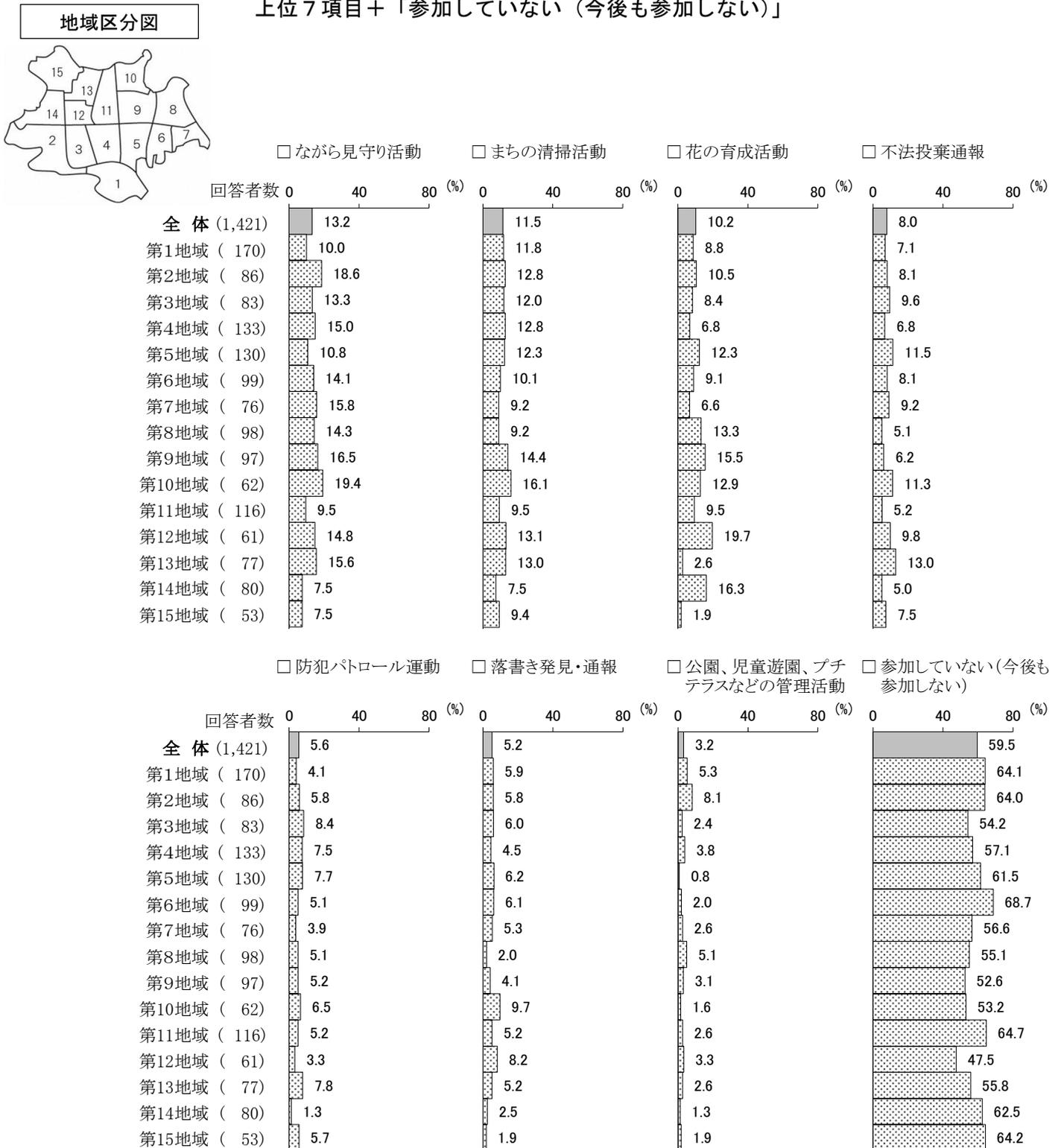
イ クロス集計・地域別

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

- (ア) 地域別で見ると、「ながら見守り活動」は第10地域で19.4%と最も高く、「まちの清掃活動」も第10地域（16.1%）、「花の育成活動」は第12地域（19.7%）で最も高くなっている。
- (イ) 「参加していない（今後も参加しない）」は、第6地域で68.7%と最も高く、逆に、第12地域で47.5%と最も低くなっている。

図7-2-2 地域別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み／  
上位7項目＋「参加していない（今後も参加しない）」



ウ クロス集計・性別、性・年代別

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

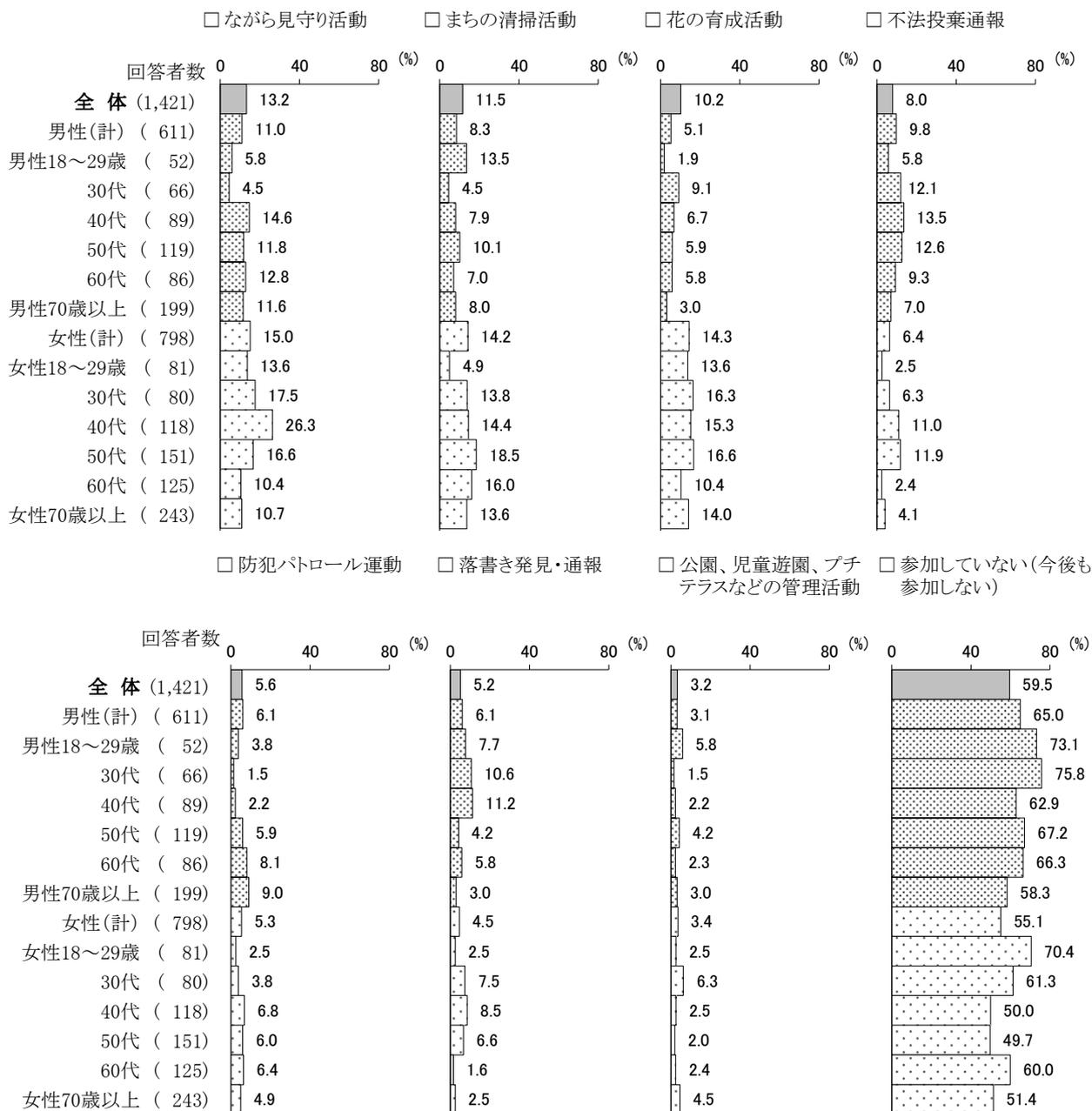
(ア) 性別で見ると、「ながら見守り活動」、「まちの清掃活動」、「花の育成活動」の上位3項目はいずれも女性の方が男性より4ポイント以上高く、逆に「不法投棄通報」は男性(9.8%)の方が女性(6.4%)より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 「参加していない(今後も参加しない)」を性別で見ると、男性(65.0%)の方が女性(55.1%)より9.9ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別で見ると、「ながら見守り活動」は女性の40代で26.3%と最も高く、「まちの清掃活動」と「花の育成活動」はともに女性の50代(18.5%・16.6%)で最も高くなっている。一方、「参加していない(今後も参加しない)」は、男性の30代が75.8%で最も高く、逆に女性の50代が49.7%で最も低くなっている。

図7-2-3 性別、性・年代別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み／  
上位7項目+「参加していない(今後も参加しない)」

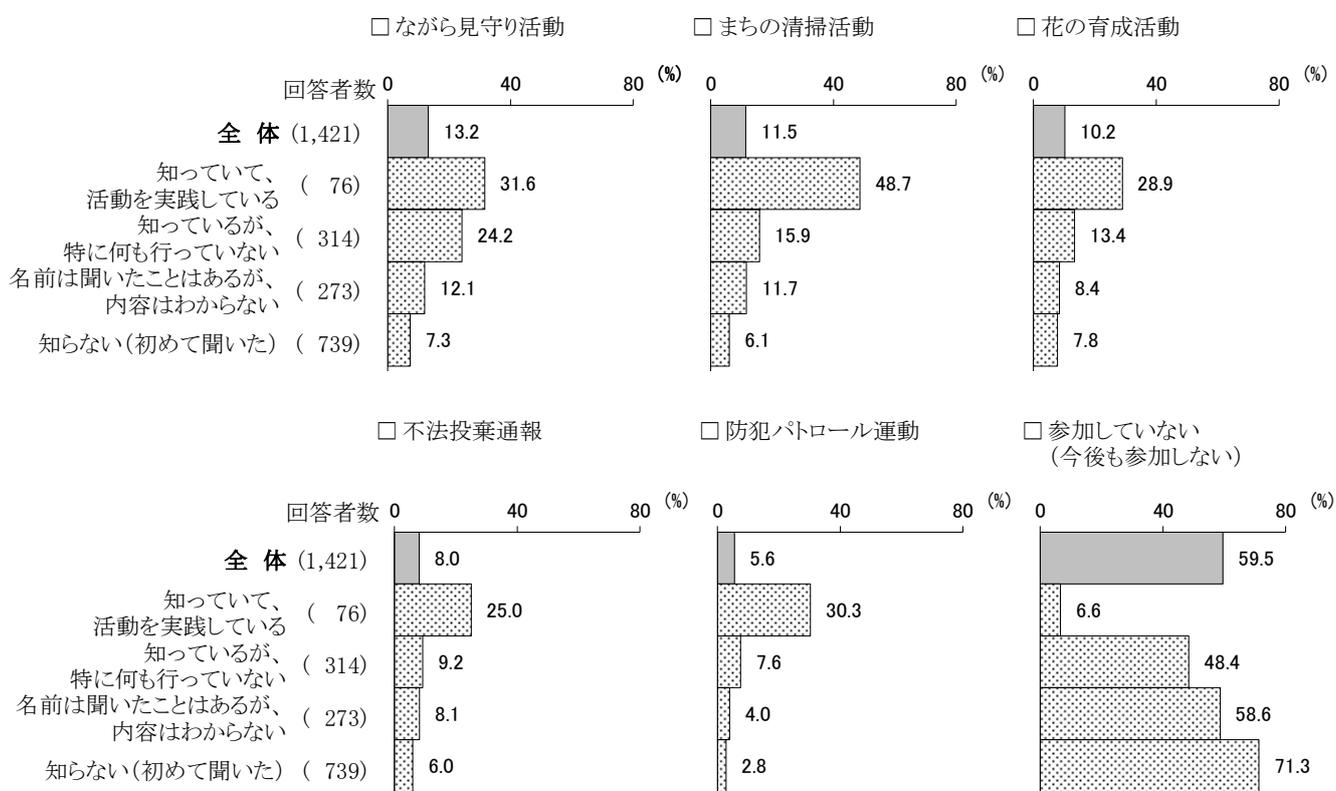


エ クロス集計・「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別

／参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

(ア) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別にみると、認知・実践レベルが高くなるほど、それぞれの取り組みに対する参加率、参加意向が高くなっており、その傾向は〈知っていて、活動を実践している〉層でとくに顕著で、「まちの清掃活動」(48.7%)で37.2ポイント、「防犯パトロール運動」(30.3%)で24.7ポイント、「花の育成活動」(28.9%)で18.7ポイント、それぞれ全体に比べて高くなっている。

図7-2-4 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み／  
上位5項目+「参加していない(今後も参加しない)」



(3) 居住地域の治安状況

問28 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか  
 （○は1つだけ）。  
 ※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

■ 【良い】は前回から5.1ポイント増加し6割台半ば、【悪い】は再び減少し2割台前半

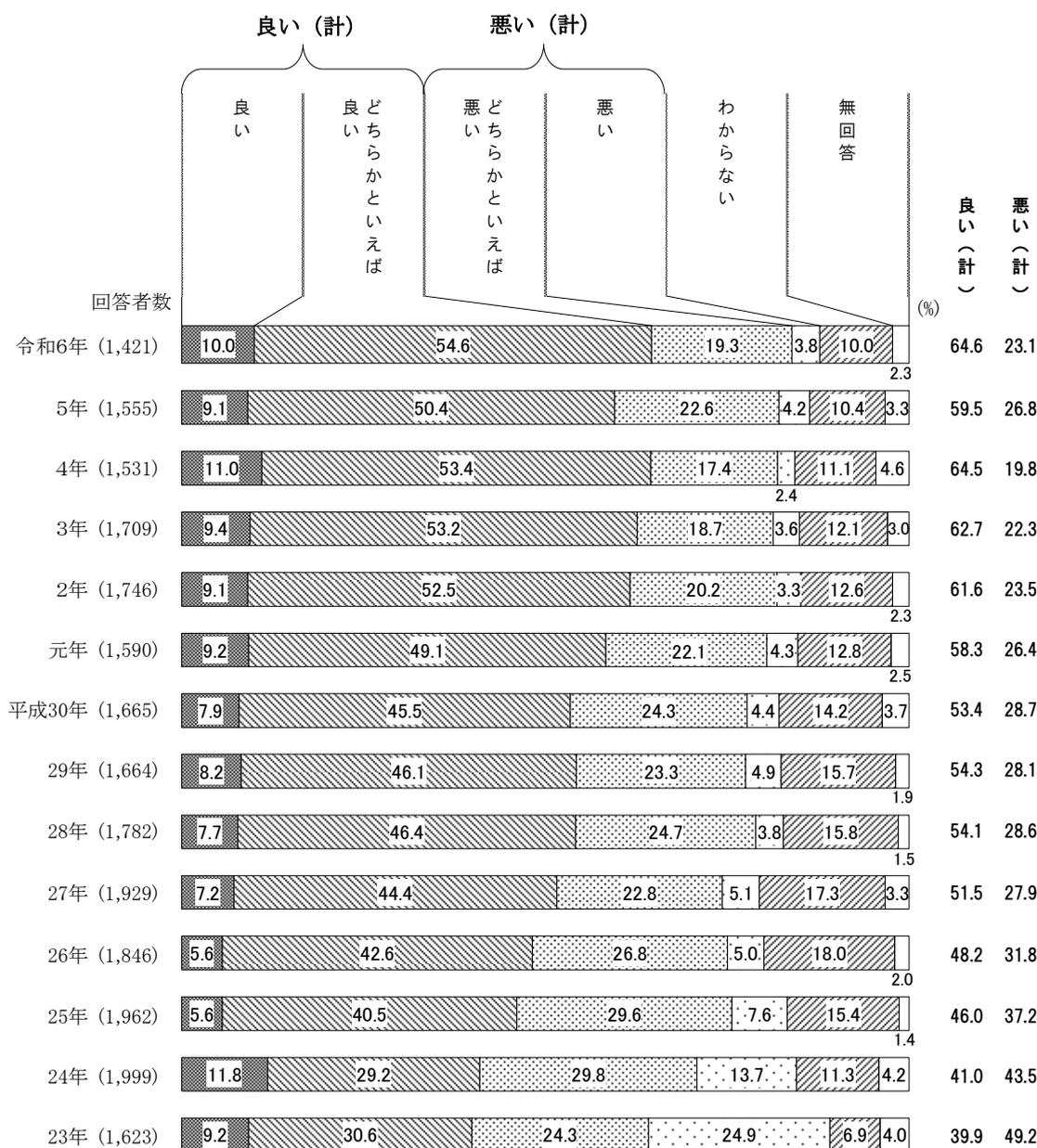
ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安状況

(ア) 住んでいる地域の治安について、「良い」が10.0%で、これに「どちらかといえば良い」(54.6%)を合わせた【良い】は64.6%となっている。

(イ) 住んでいる地域の治安について、「どちらかといえば悪い」(19.3%)と「悪い」(3.8%)を合わせた【悪い】は23.1%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【良い】は5.1ポイント増加し、再び6割台となった。一方、【悪い】は3.7ポイント減少し2割台前半となった。

図7-3-1 経年比較／居住地域の治安状況



イ クロス集計・地域別／居住地域の治安状況

地域別でみると、【良い】は第1地域で74.1%と最も高く、次いで第6地域（73.7%）が続いている。一方、【悪い】は第13地域で33.8%と最も高く、次いで第12地域（29.5%）となっている。

図7-3-2 地域別／居住地域の治安状況

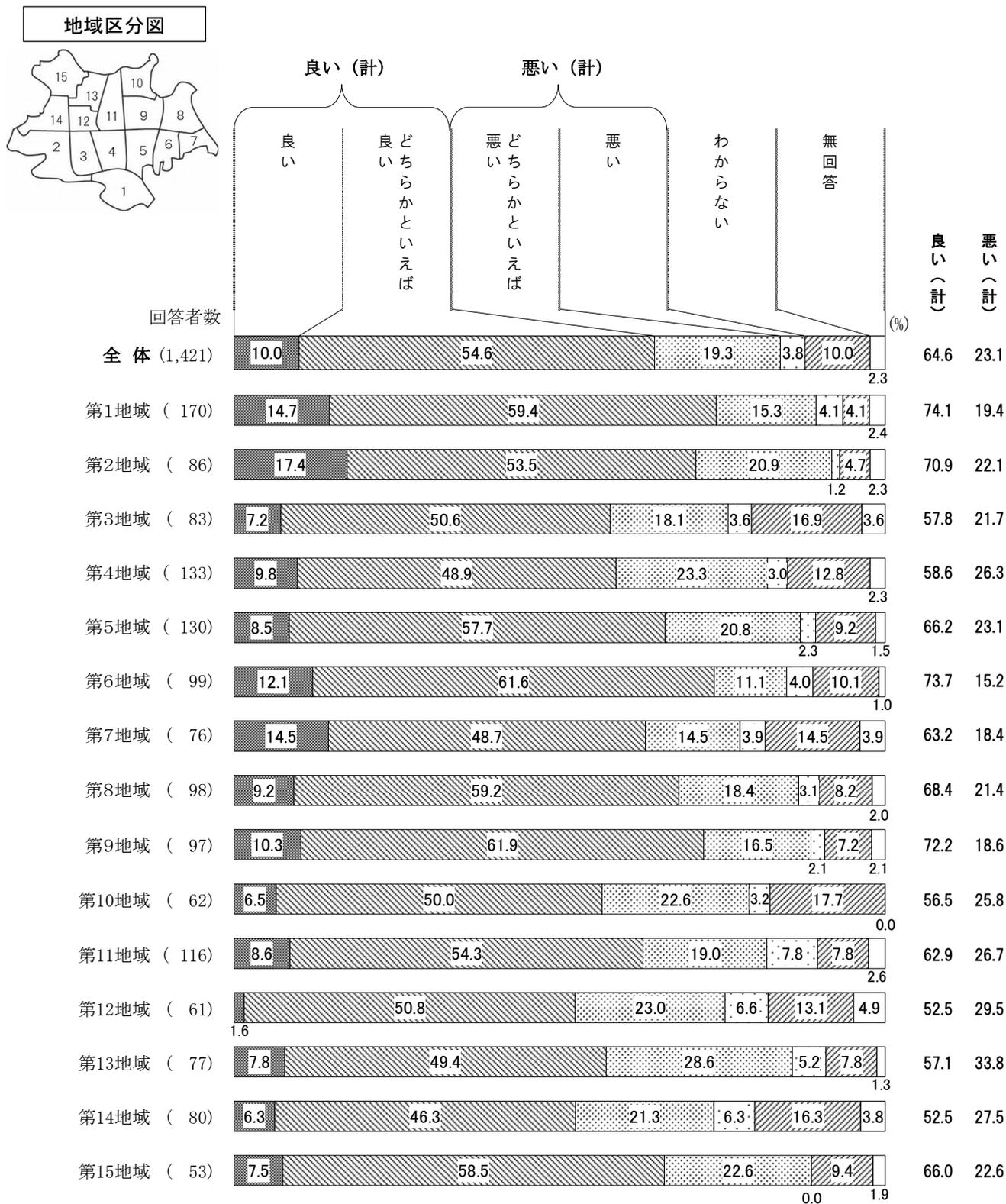
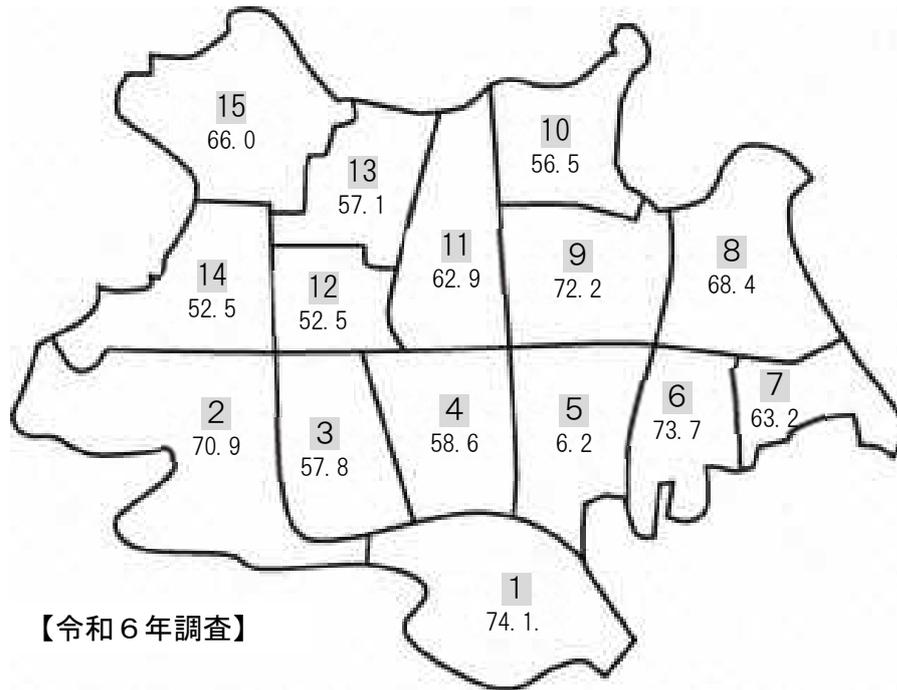
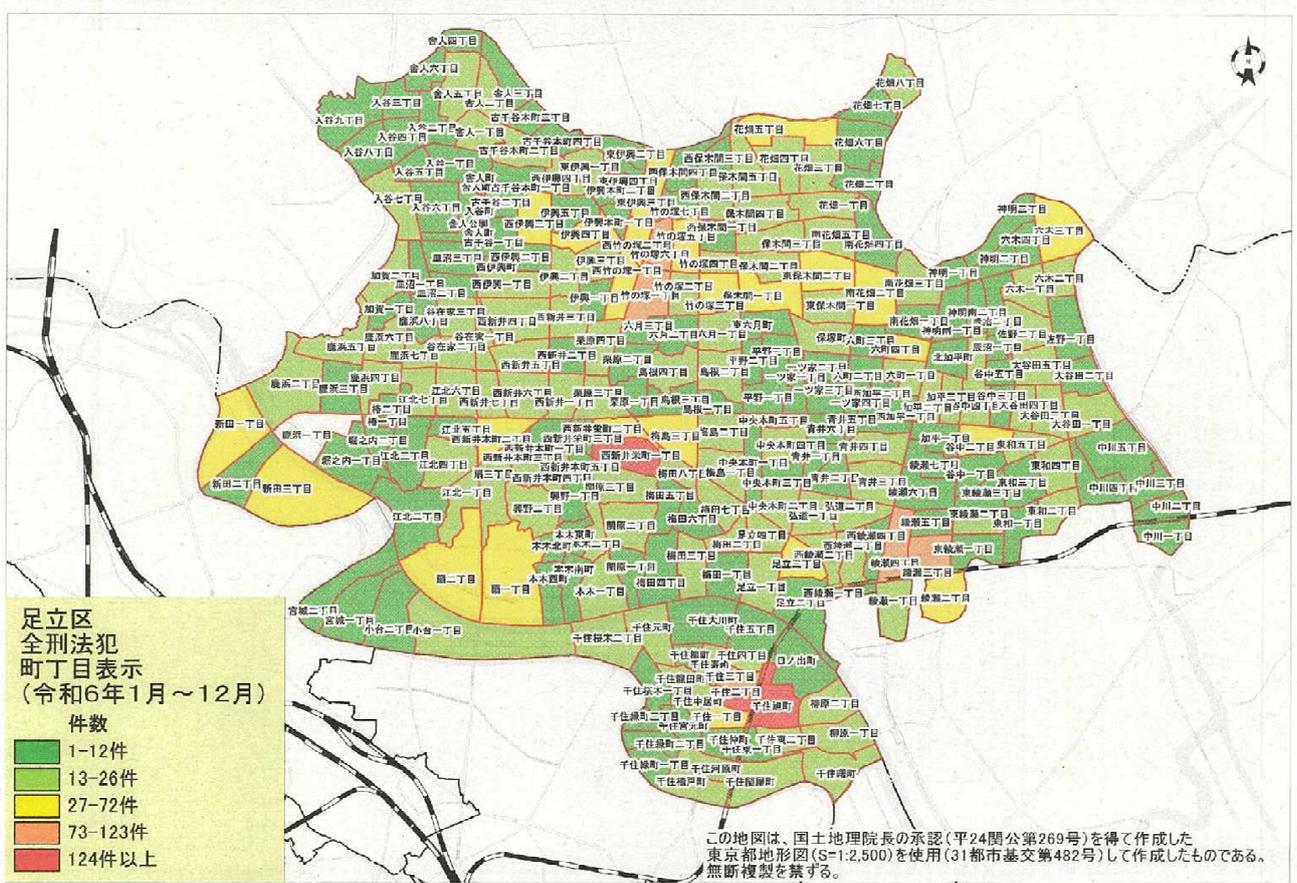


図7-3-3 地域区分図／居住地域の治安状況

(上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



【参考資料】区内全刑法犯認知件数（令和6年1月～12月）

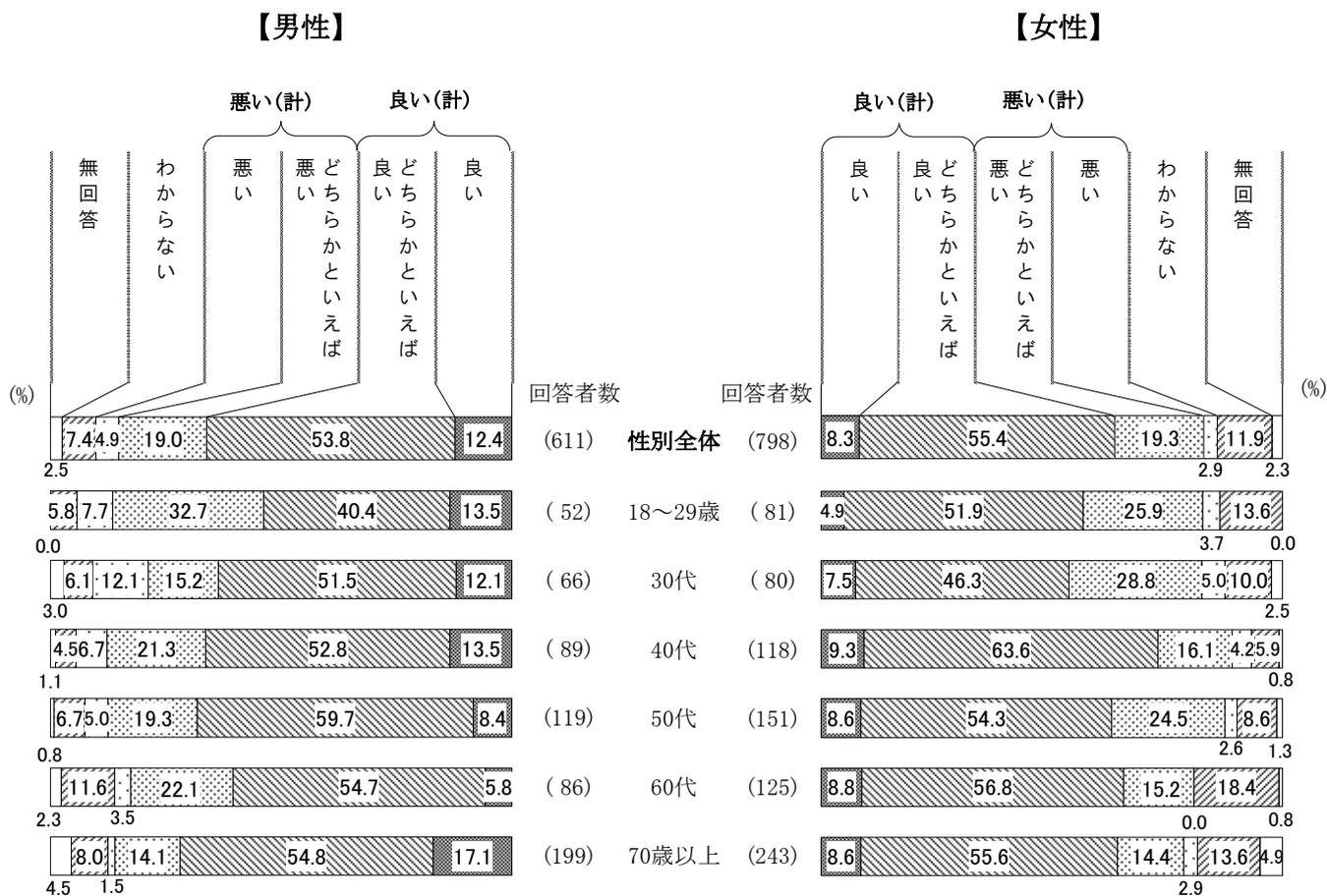


ウ クロス集計・性別、性・年代別／居住地の治安状況

(ア) 性別でみると、【良い】は男性（66.3%）の方が女性（63.7%）より2.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【良い】は、女性の40代で72.9%と最も高く、次いで男性の70歳以上（71.9%）が7割台で続いている。逆に女性の30代と男性の18～29歳で53.8%と最も低くなっている。

図7-3-4 性別、性・年代別／居住地の治安状況



(4) 居住地域の治安が良いと感じる点

問28で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に  
問28-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。

■「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割超

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点

(ア) 居住地域の治安を【良い】と評価した人の理由の上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」(52.4%)
- ② 「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」(32.6%)
- ③ 「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」(23.1%)
- ④ 「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」(20.5%)

(イ) 前回調査と比較すると、「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」が3.5ポイント増加し、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」を逆転し第3位となった。

図7-4-1-① 経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点

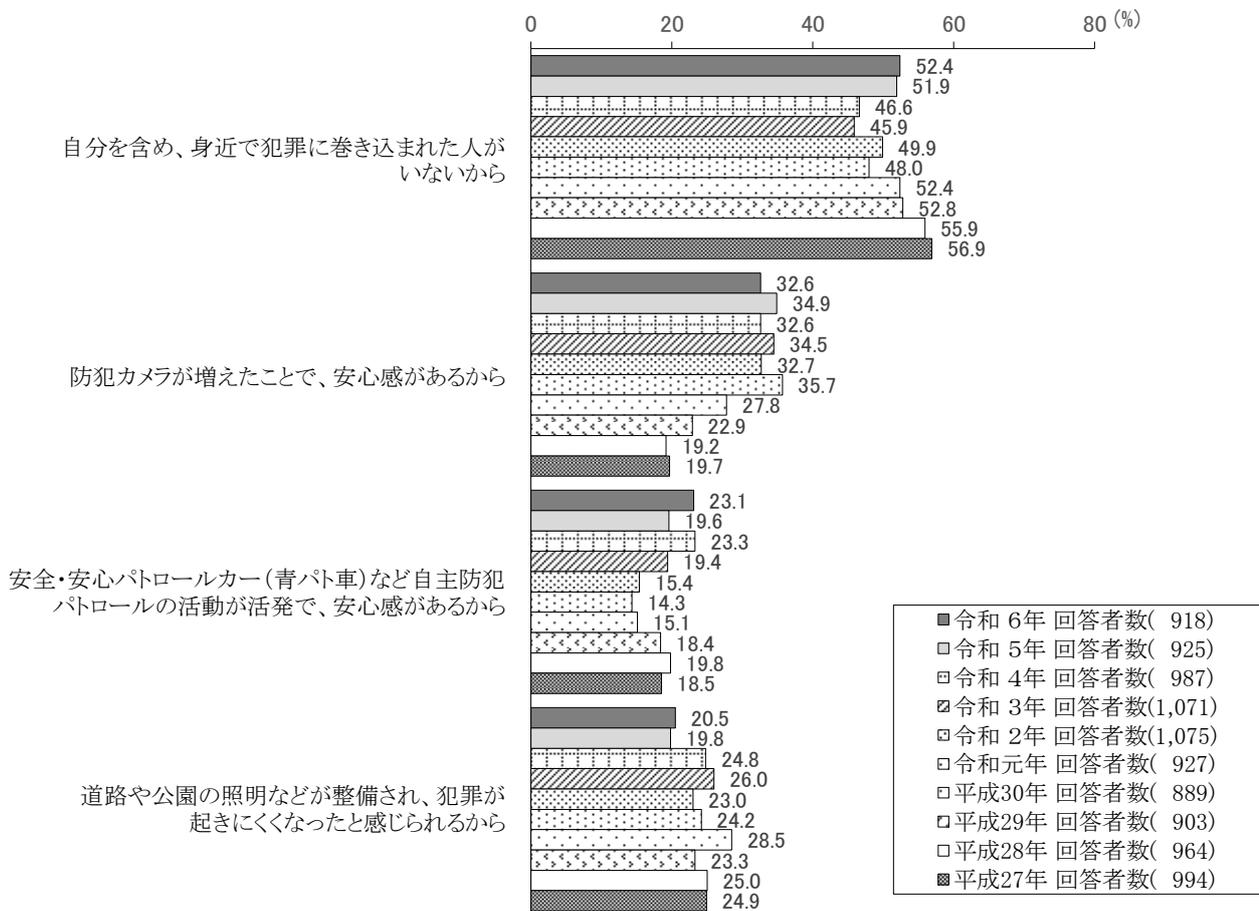
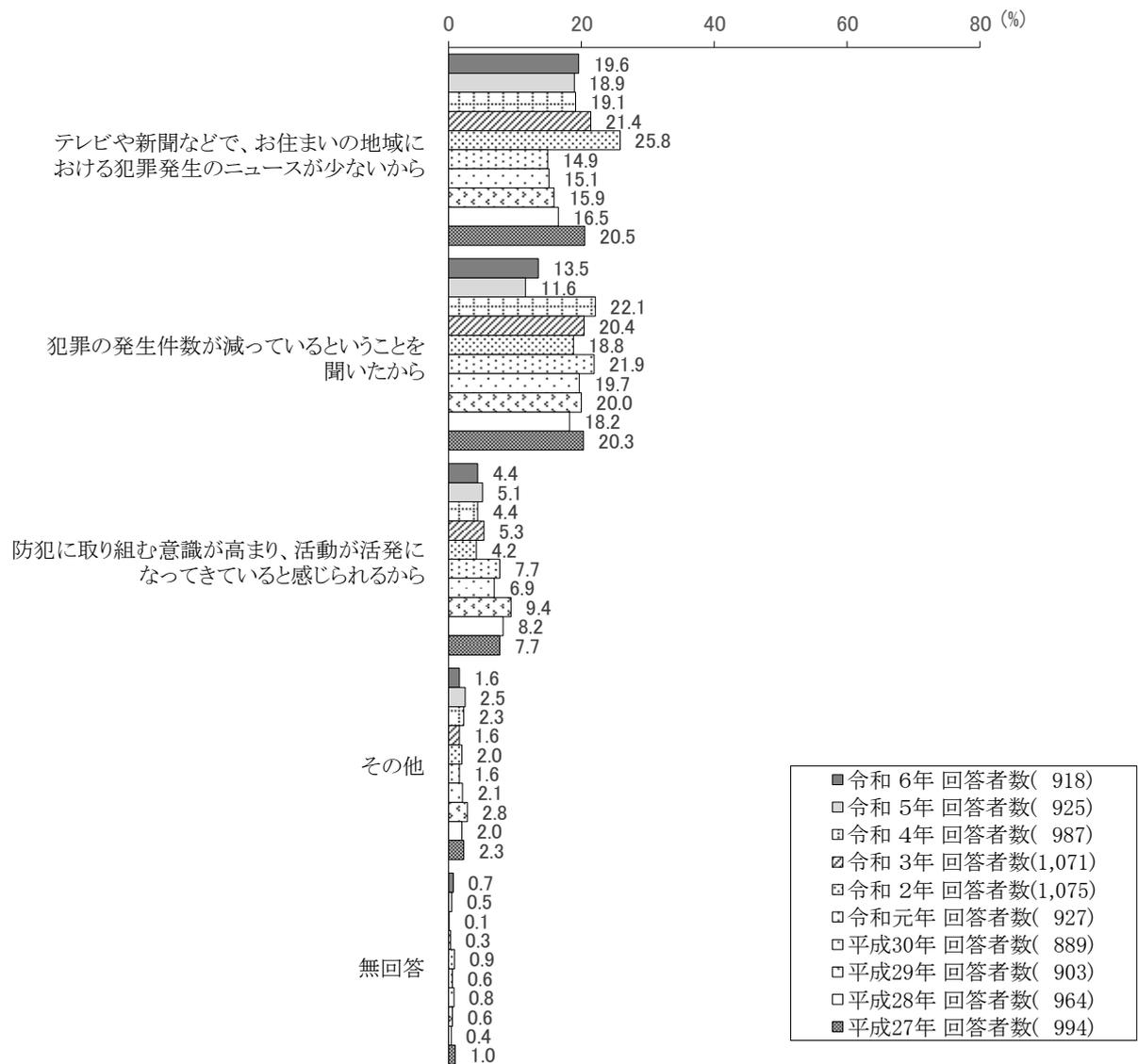


図7-4-1-② 経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点



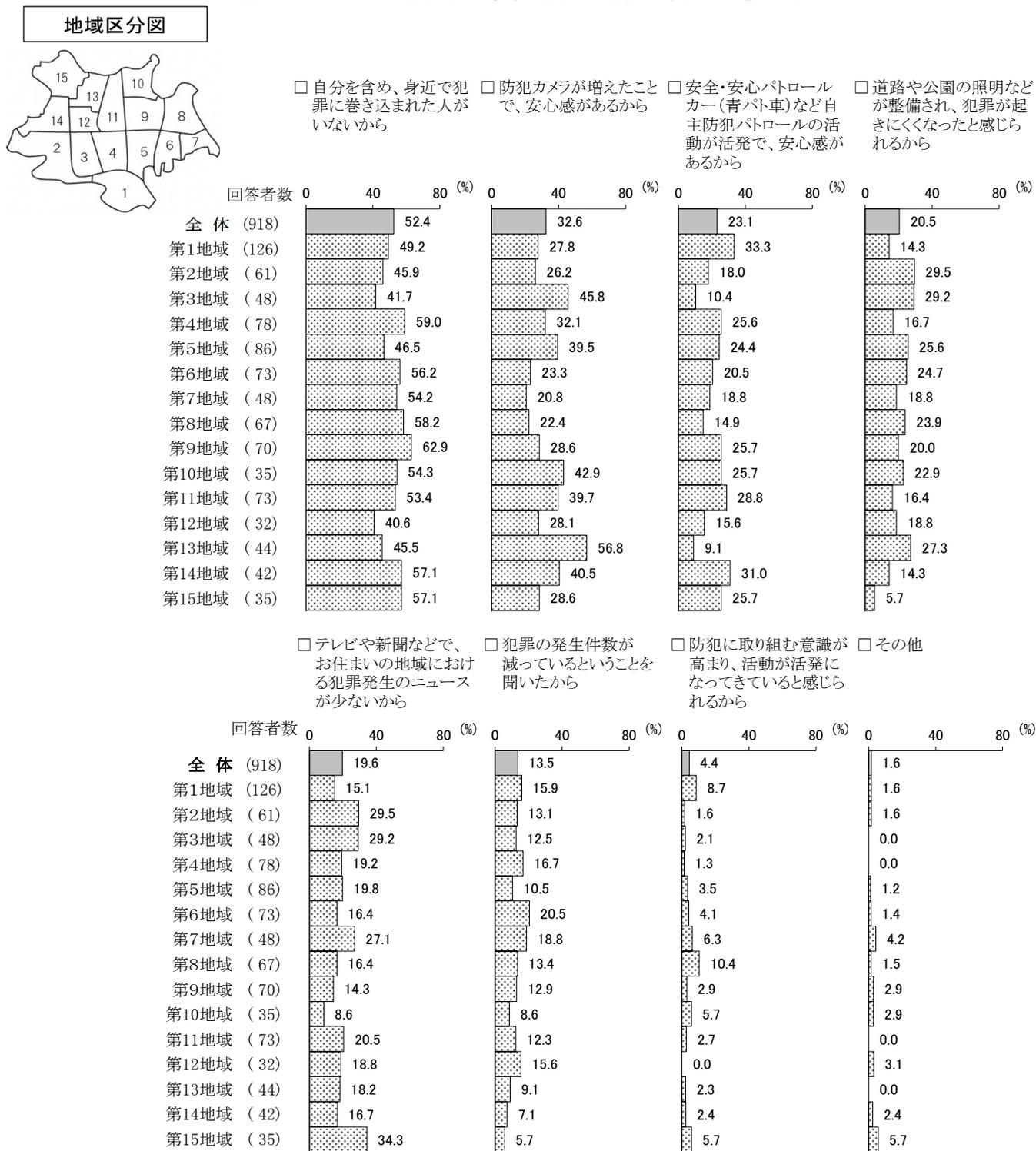
※ 「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は、令和元年度までは「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」。

※ 「防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから」は、令和元年度までは「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

イ クロス集計・地域別／居住地域の治安が良いと感じる点

地域別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は第9地域で62.9%と最も高く、第4地域が約6割で続いている。「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は第13地域（56.8%）が唯一5割で最も高く、「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」は第1地域（33.3%）で最も高くなっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は第2地域（29.5%）と第3地域（29.2%）で約3割と高くなっている。

図7-4-2 地域別／居住地域の治安が良いと感じる点



(5) 居住地域の治安が悪いと感じる点

問28で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に  
問28-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（○は2つまで）。

■「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」が約4割で1位、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」が3割台半ば近くで2位

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

(ア) 居住地域の治安が【悪い】と評価した人の理由の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」(39.3%)
- ② 「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」(33.8%)
- ③ 「治安が悪いイメージがあるから」(31.1%) ※新設

(イ) 前回調査と比較すると、今回調査から新設された「治安が悪いイメージがあるから」が第3位となったことから、他の項目は軒並み割合が減少しており、居住地域の治安が【悪い】と評価した人の3割はイメージに依るものとしている。

図7-5-1-① 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

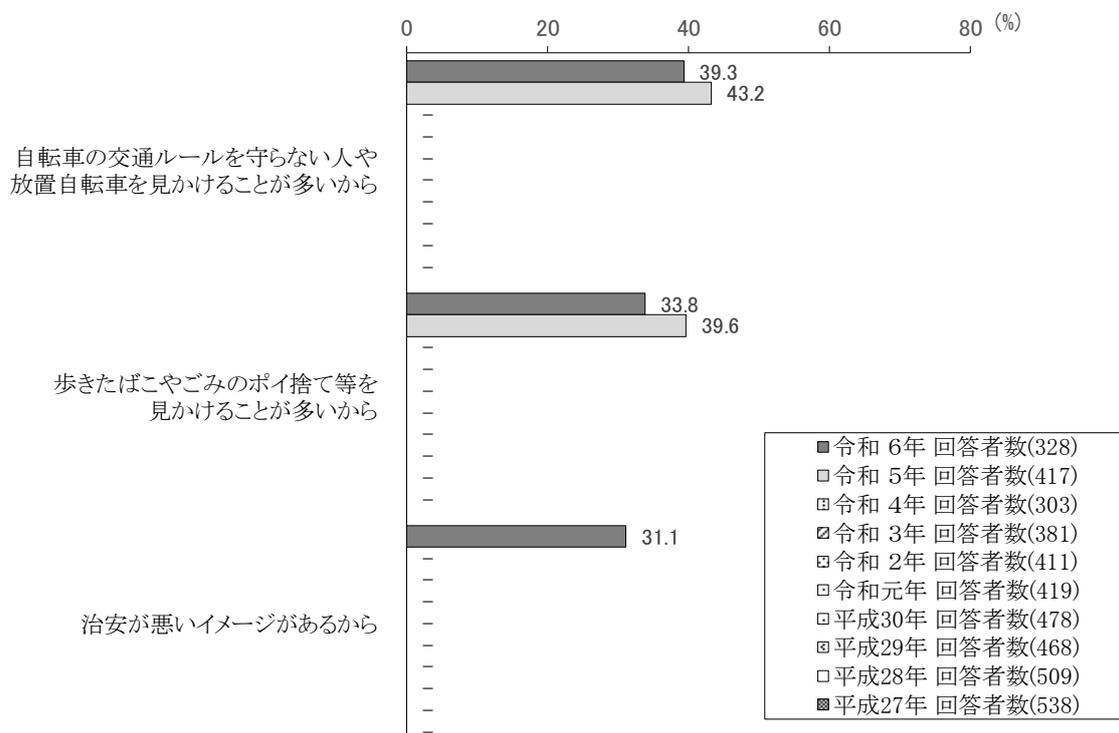


図7-5-1-② 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

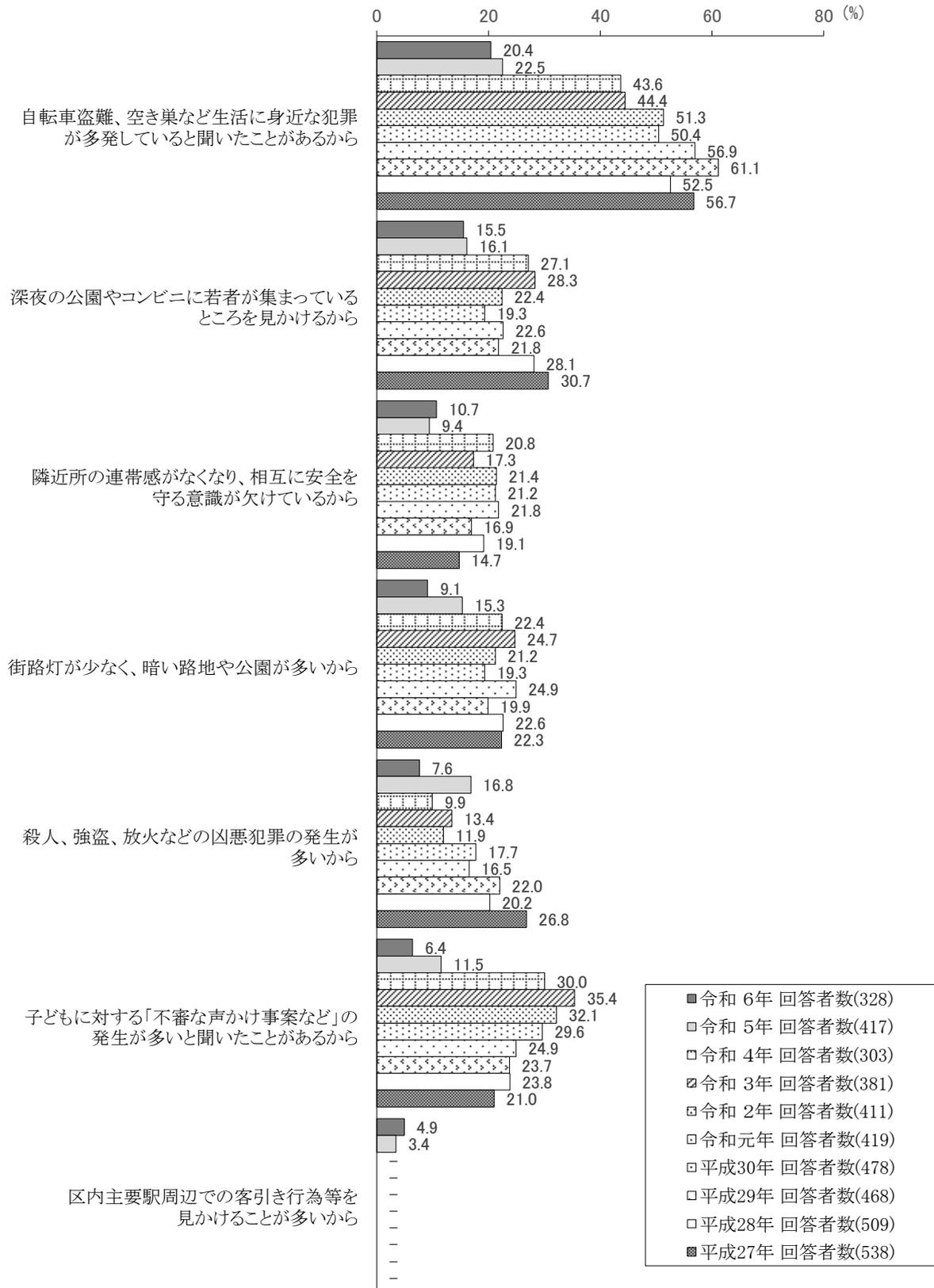
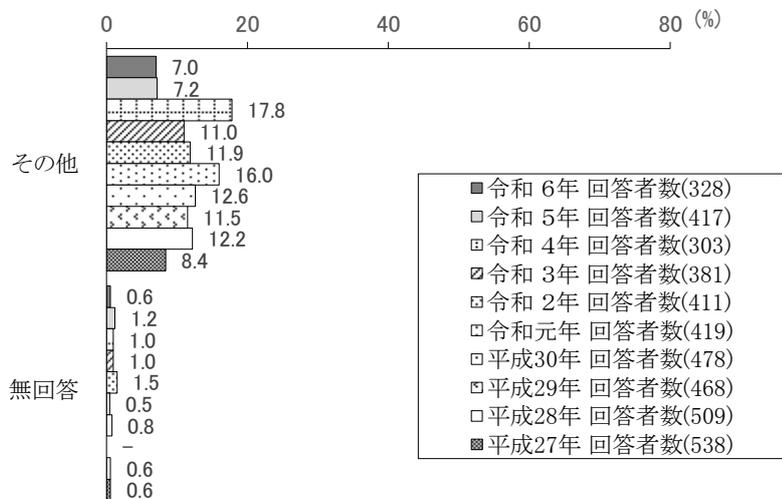


図7-5-1-③ 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

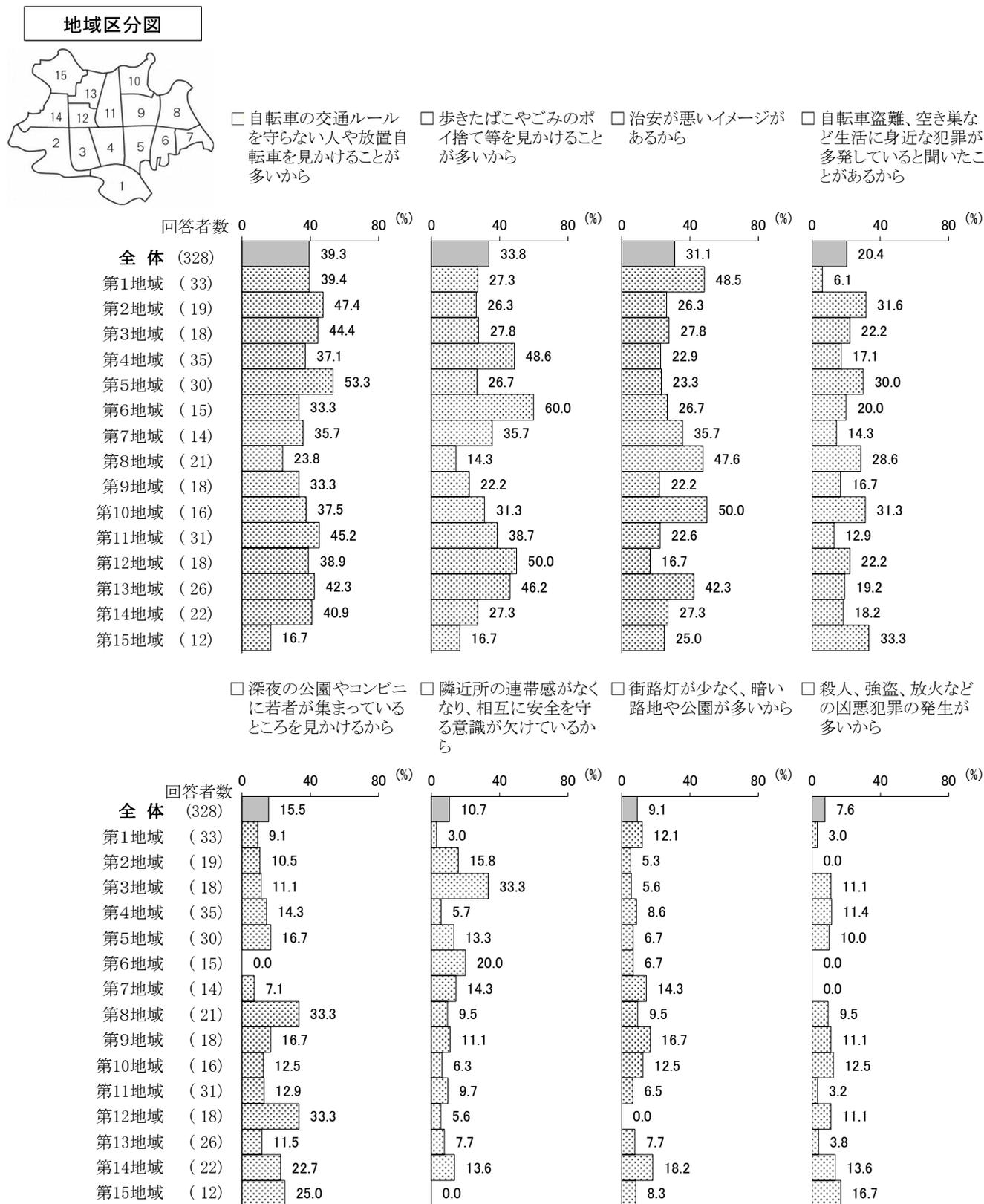


※「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」、「区内主要駅周辺での客引き行為等を見かけることが多いから」は、令和5年度調査からの新設項目。  
 ※「治安が悪いイメージがあるから」は、今回調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／居住地域の治安が悪いと感じる点

地域別でみると、大半の地域で回答者数が少ないことから、参考値としてみる必要があるが、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」は第5地域、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」は第6地域と第12地域、「治安が悪いイメージがあるから」は第10地域でそれぞれ5割以上と高くなっている。

図7-5-2 地域別／居住地域の治安が悪いと感じる点／上位8項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／居住地の治安が悪いと感じる点

(ア) 居住地の治安が悪いと感じる上位8項目について性別でみると、男女の差が3ポイント以上のものは4項目であった。

a 男性の方が女性よりも高い項目

(a) 「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているときいたことがあるから」(+5.8ポイント)

(b) 「治安が悪いイメージがあるから」(+3.0ポイント)

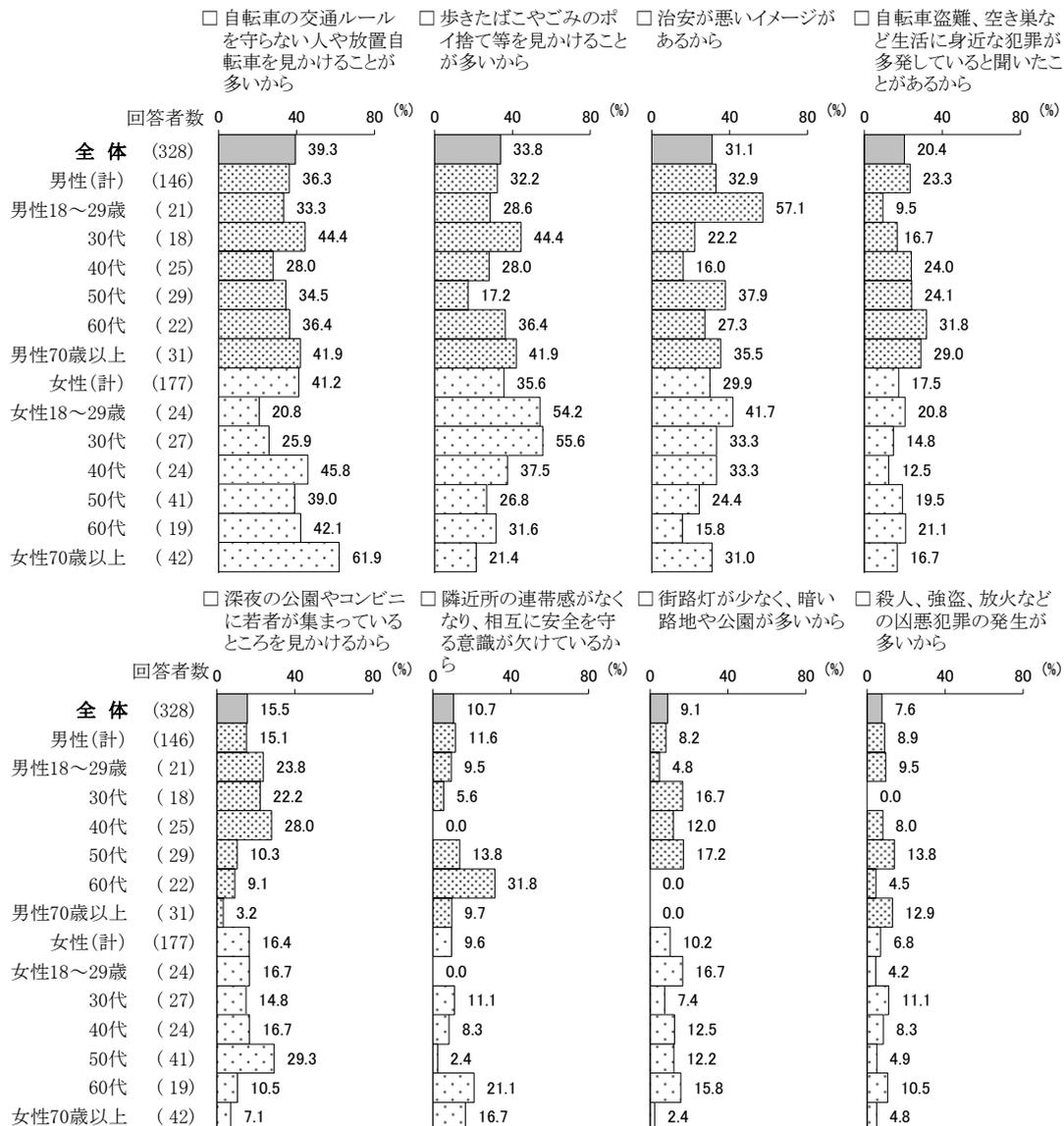
b 女性の方が男性よりも高い項目

(c) 「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」(+4.9ポイント)

(d) 「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」(+3.4ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、多くの性・年代層で回答者数が少ないことから参考値としてみる必要があるが、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」は女性の70歳以上、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」は女性の18～29歳と30代、「治安が悪いイメージがあるから」は男性の18～29歳でそれぞれ5割以上と高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／居住地の治安が悪いと感じる点／上位8項目



(6) 駐輪時の鍵かけ状況

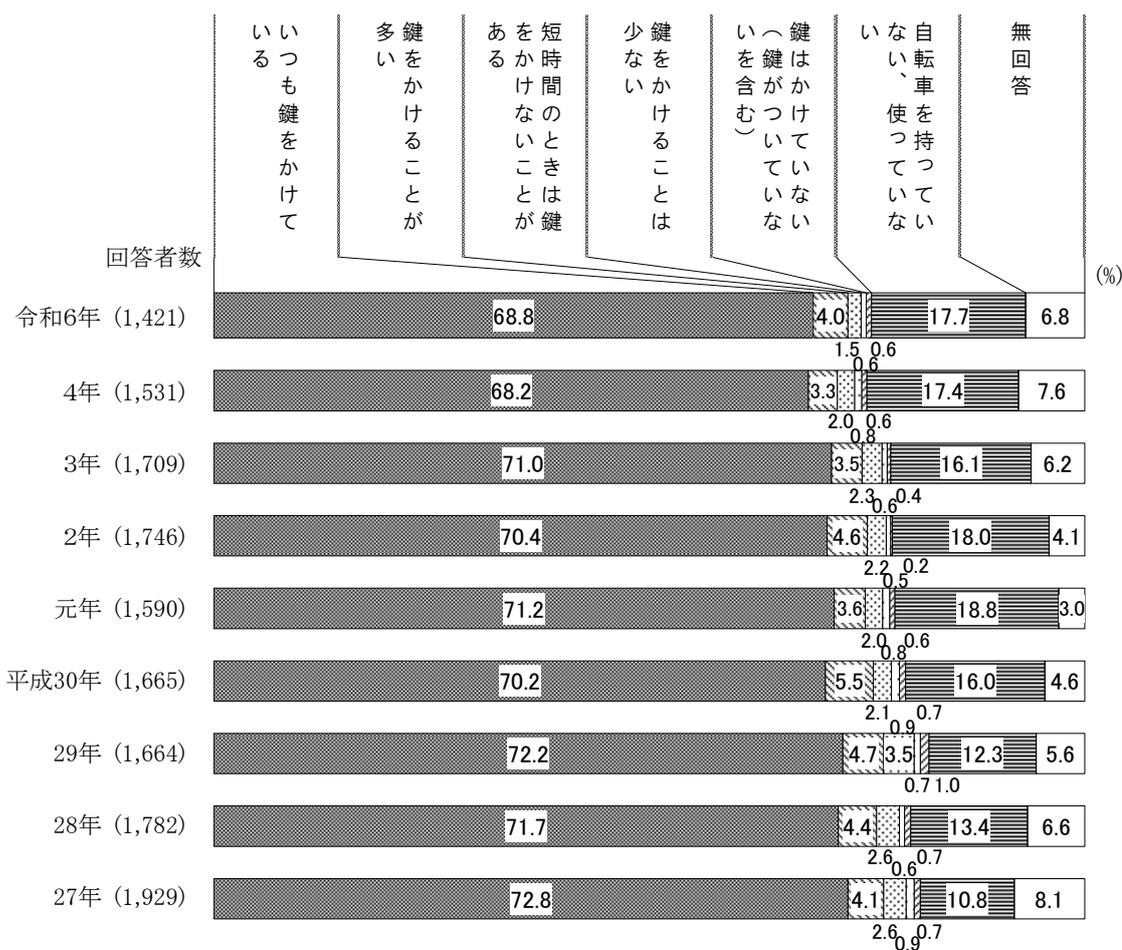
問29 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか  
(○はそれぞれ1つずつ)。

■ 「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割弱、敷地内が約6割

ア 単純集計・経年比較／駐輪時の鍵かけ状況（外出先）

- (ア) 外出先で自転車を駐輪するときの鍵かけ状況は、「いつも鍵をかけている」が68.8%で、「鍵をかけることが多い」(4.0%)を合わせた【鍵をかける】は72.8%となっている。
- (イ) 外出先で自転車を駐輪するとき、「鍵はかけていない(鍵がついていないを含む)」(0.6%)と「鍵をかけることは少ない」(0.6%)を合わせた【鍵をかけない】は1.2%となっている。
- (ウ) 前回調査(令和4年度)との比較では、特に大きな違いは見られない。

図7-6-1-① 経年比較／駐輪時の鍵かけ状況（外出先）



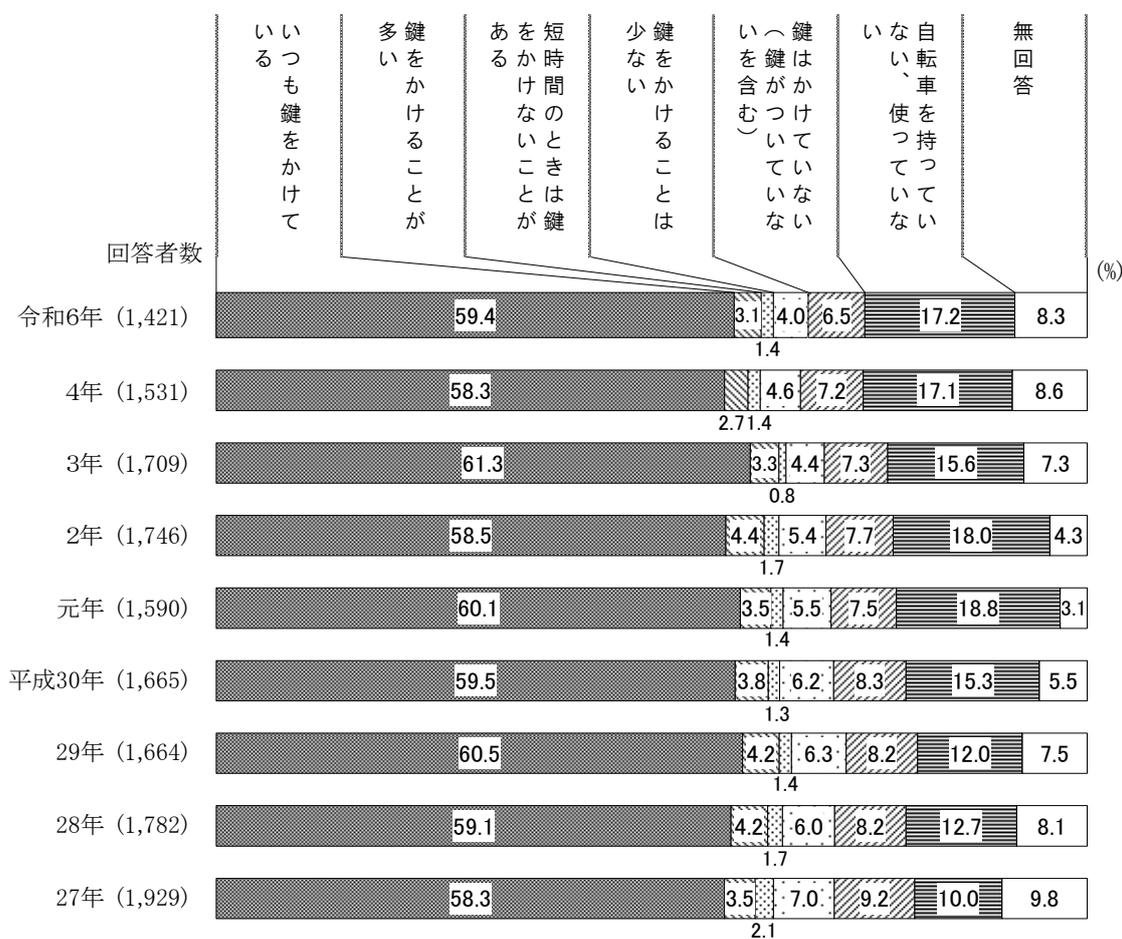
イ 単純集計・経年比較／駐輪時の鍵かけ状況（敷地内）

(ア) 自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐輪するときの鍵かけ状況は、「いつも鍵をかけている」が59.4%で、「鍵をかけることが多い」（3.1%）を合わせた【鍵をかける】は62.5%となっている。

(イ) 自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐輪するとき、「鍵はかけていない（鍵がついていないを含む）」（6.5%）と「鍵をかけることは少ない」（4.0%）を合わせた【鍵をかけない】は10.5%となっている。

(ウ) 前回調査（令和4年度）との比較では、特に大きな違いは見られない。

図7-6-1-② 経年比較／駐輪時の鍵かけ状況（敷地内）

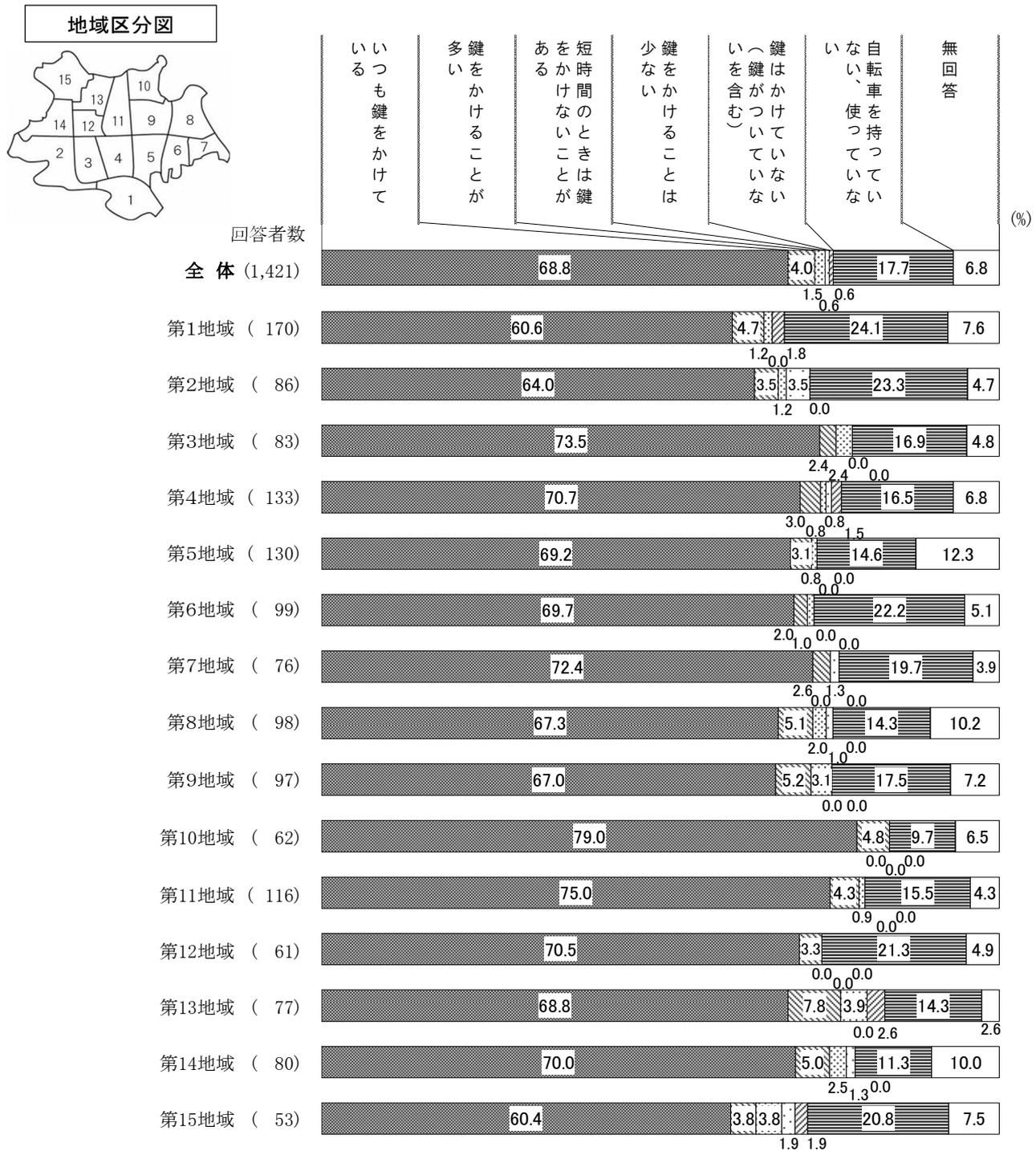


※本設問は、平成27年度以降から聴取しているが、令和5年度では聴取していない。

ウ クロス集計・地域別／駐輪時の鍵かけ状況（外出先）

外出先で自転車を駐輪するときの鍵かけ状況を地域別にみると、「いつも鍵をかけている」は、第10地域で79.0%と最も高く、次いで、第11地域（75.0%）となっている。逆に、第15地域で60.4%と最も低くなっている。

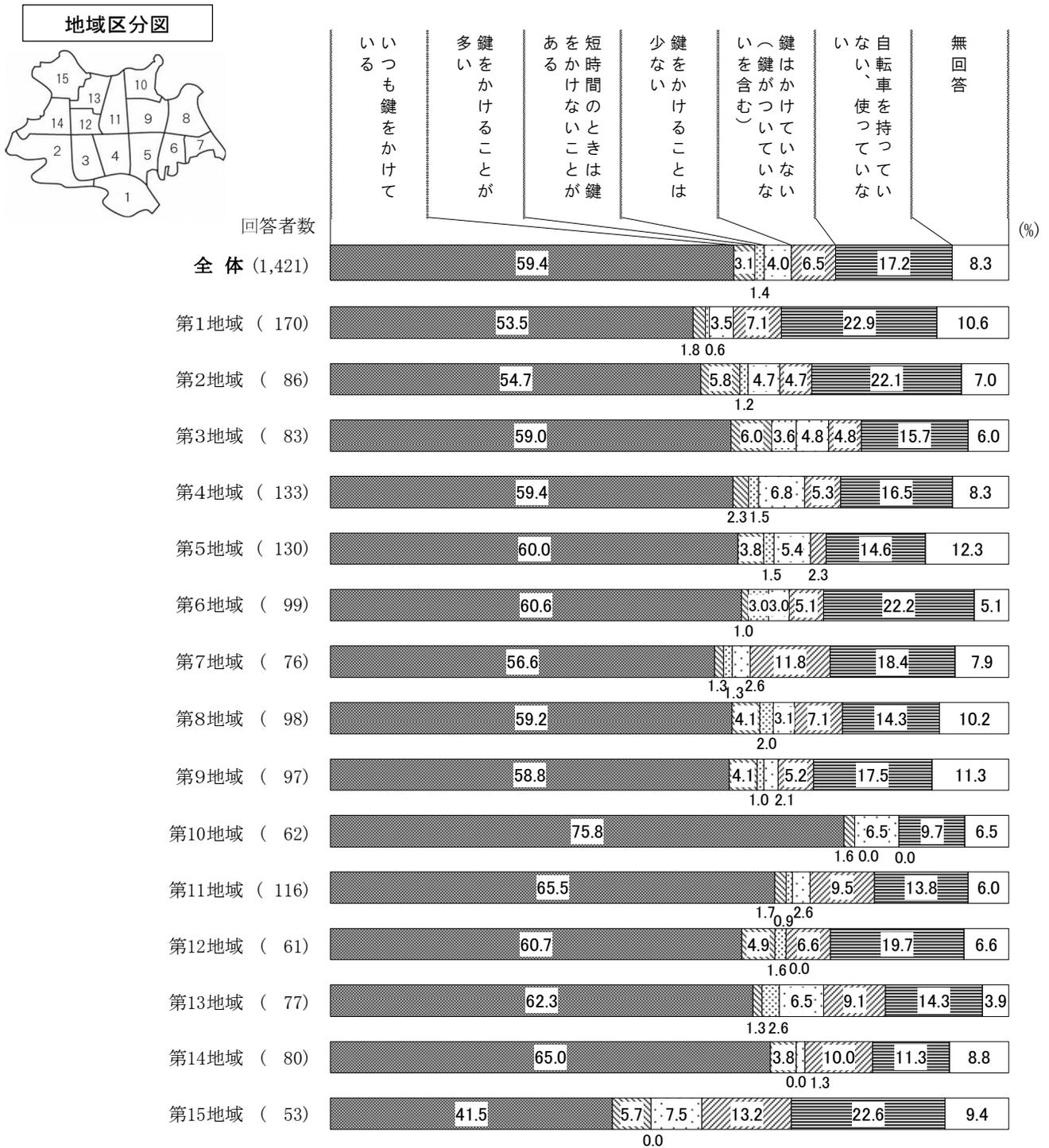
図7-6-2-① 地域別／駐輪時の鍵かけ状況（外出先）



エ クロス集計・地域別／駐輪時の鍵かけ状況（敷地内）

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐輪するときの鍵かけ状況を地域別にみると、「いつも鍵をかけている」は、第10地域で75.8%と最も高く、次いで、第11地域（65.5%）となっている。逆に、第15地域で41.5%と最も低くなっている。

図7-6-2-② 地域別／駐輪時の鍵かけ状況（敷地内）

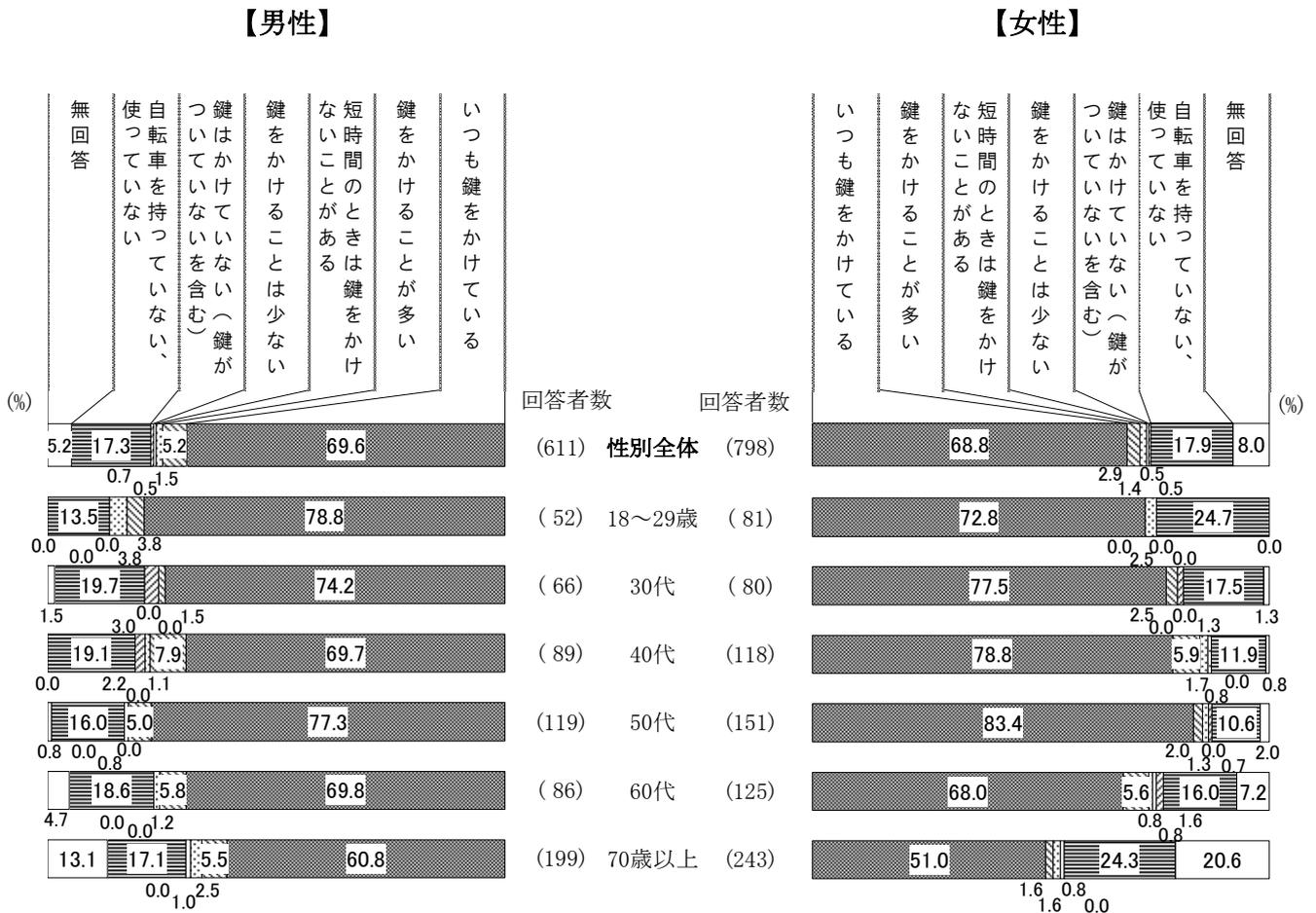


オ クロス集計・性別・年代別／駐輪時の鍵かけ状況（外出先）

(ア) 外出先で自転車を駐輪するときの鍵かけ状況を性別で見ると、【鍵をかける】は、男性（74.8%）の方が女性（71.7%）より3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「いつも鍵をかけている」は、女性の50代で83.4%と最も高く、女性の70歳以上で51.0%と最も低くなっている。

図7-6-3-① 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況（外出先）

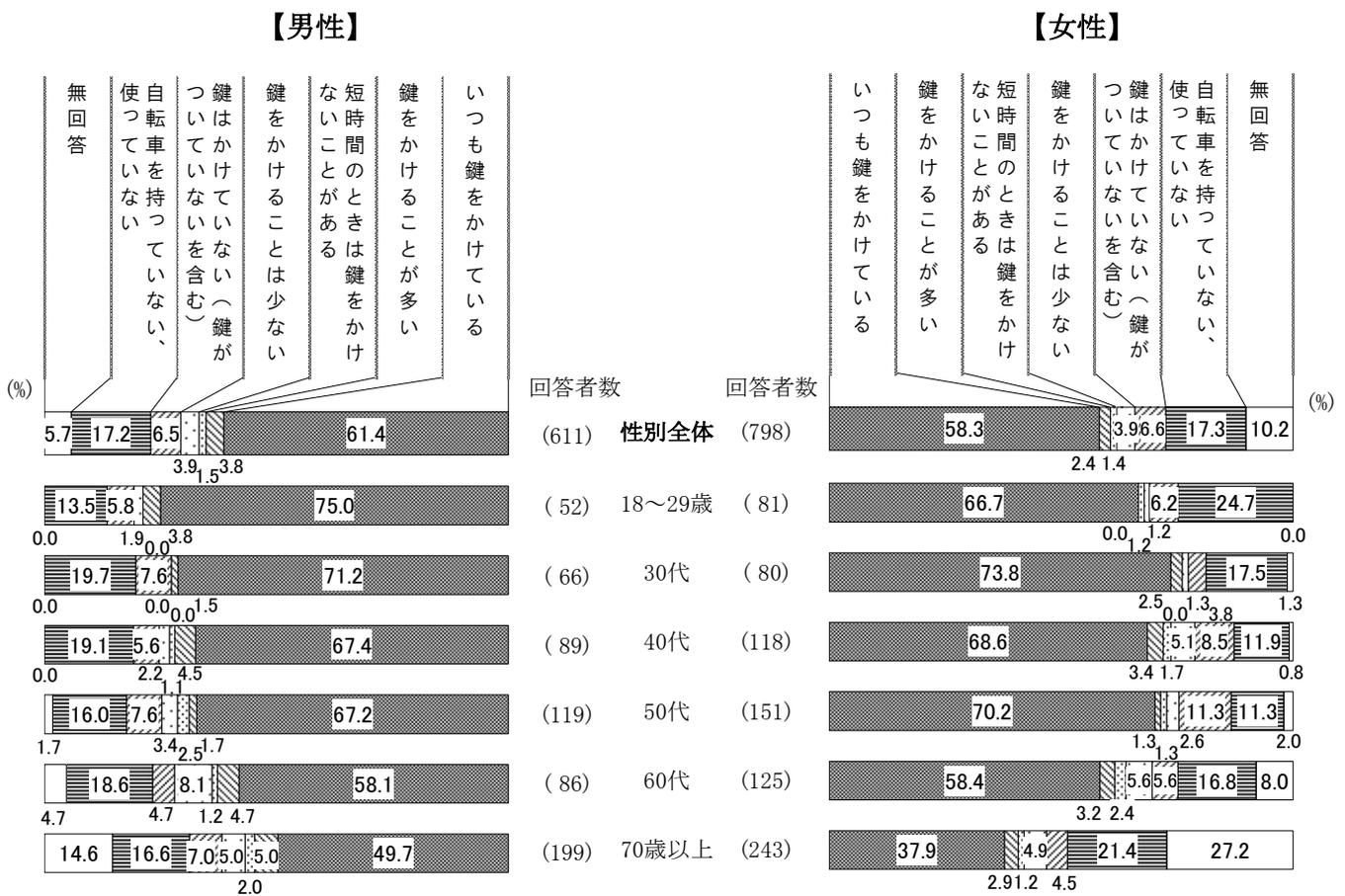


カ クロス集計・性別・年代別／駐輪時の鍵かけ状況（敷地内）

(ア) 自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐輪するときの鍵かけ状況を性別でみると、「いつも鍵をかけている」は、男性（61.4%）の方が女性（58.3%）より3.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「いつも鍵をかけている」は、男性の18～29歳で75.0%と最も高く、女性の70歳以上で37.9%と最も低くなっている。

図7-6-3-② 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況（敷地内）



## 8 環境・地域活動

- 
- (1) 環境のために心がけていること
  - (2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無
  - (3) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動
-



## 8 環境・地域活動

### (1) 環境のために心がけていること

問30 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

■「ごみと資源の分別を実行している」が約9割、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が8割弱

#### ア 単純集計・経年比較／環境のために心がけていること

(ア) 環境のために心がけていることの上位をみると、以下のとおりとなっている。

- ①「ごみと資源の分別を実行している」(89.0%)
- ②「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(78.3%)
- ③「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(57.5%)
- ④「外出時に食べられる分だけ注文する」(55.7%)
- ⑤「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(52.9%)

(イ) 前回調査と比較すると、ほとんどの項目で割合が増加しており、「外出時に食べられる分だけ注文する」(7.3ポイント)と「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」(5.0ポイント)で5ポイント以上の増加となっている。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

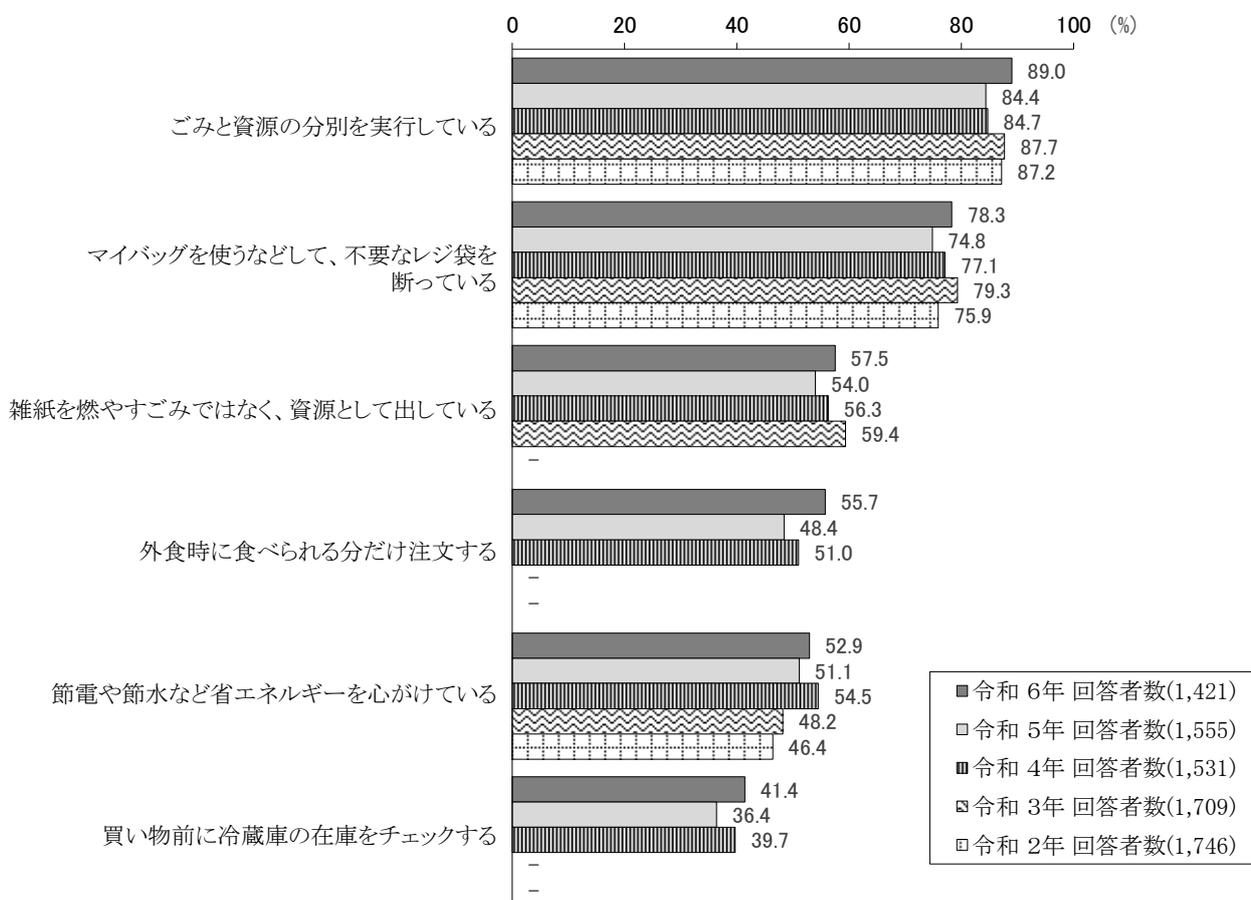
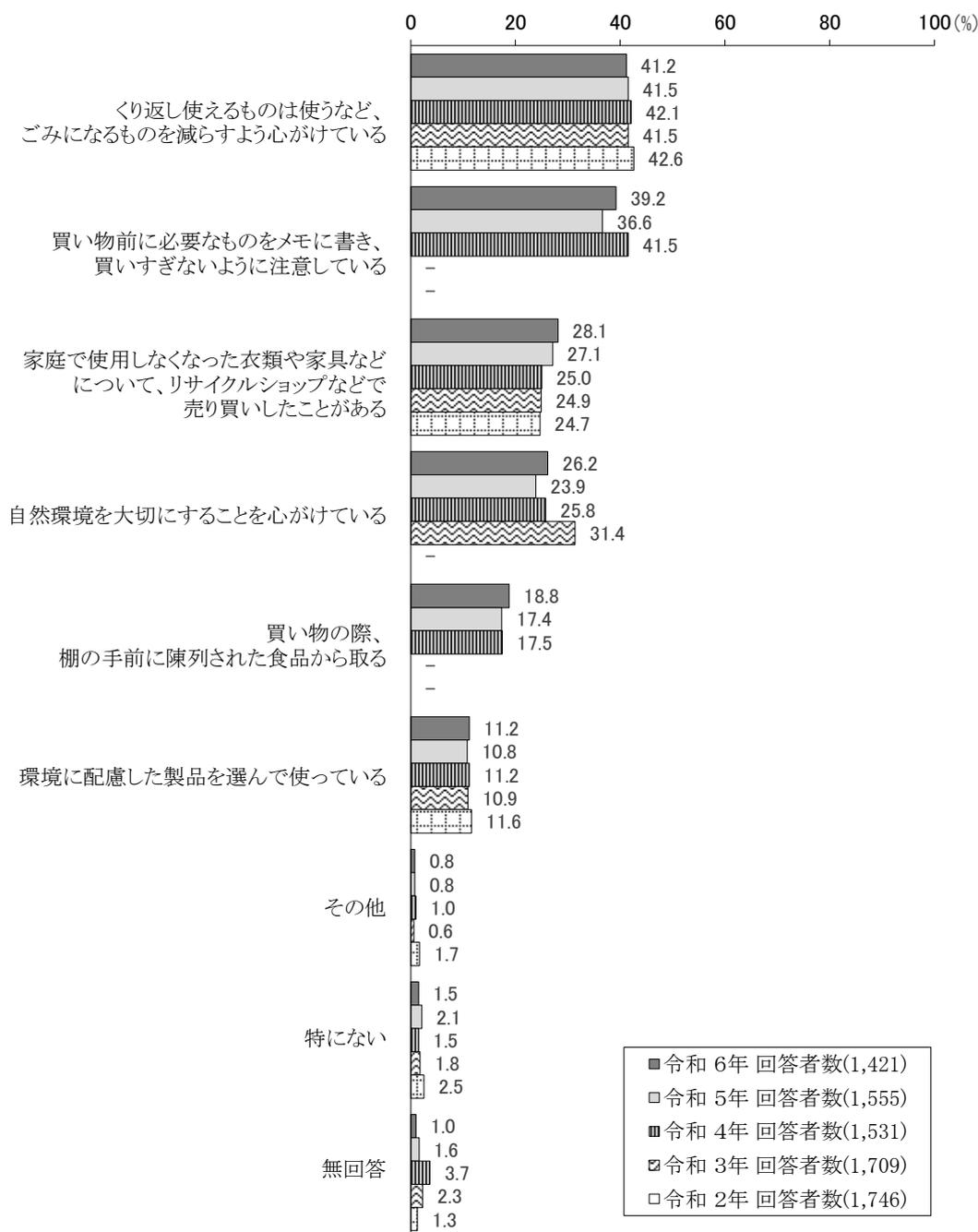


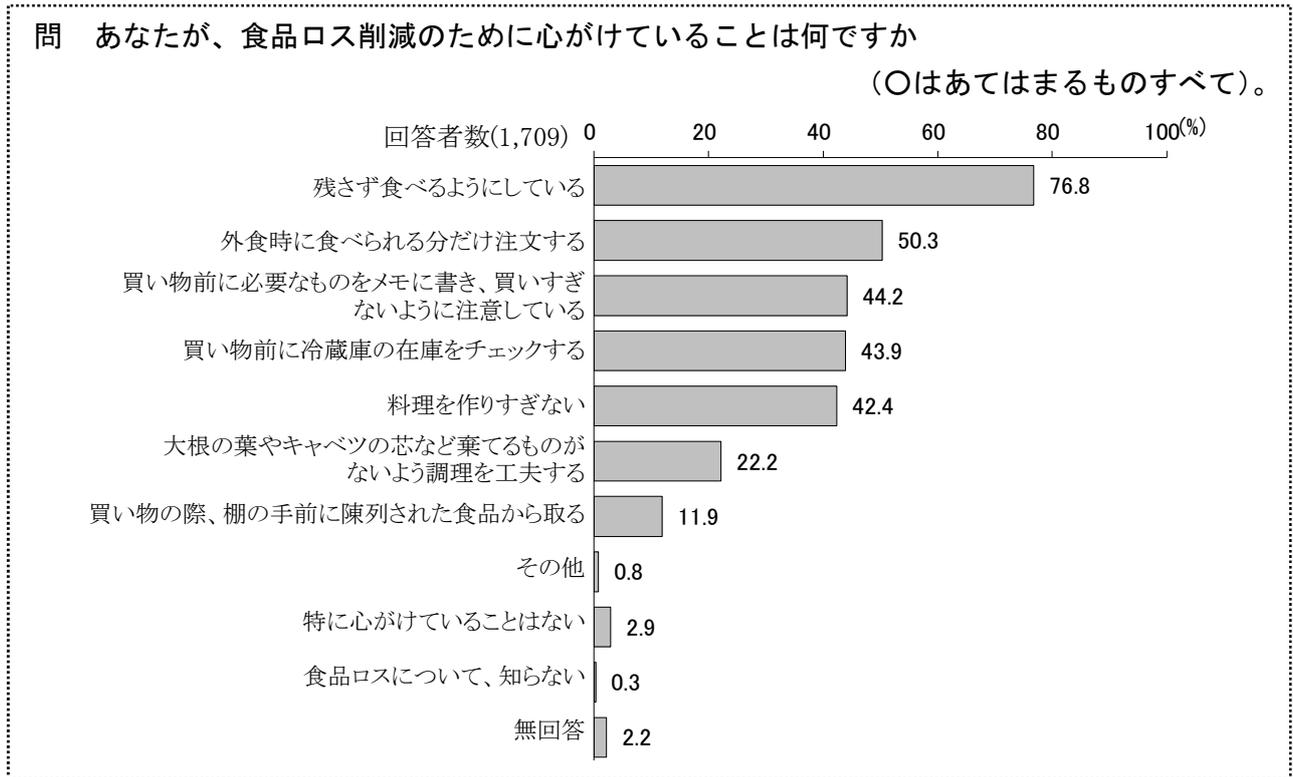
図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること



※「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」と「自然環境を大切にすることを心がけている」は令和3年度新設。

※「外食時に食べられる分だけ注文する」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」、「買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る」の4項目は令和3年度まで「食品ロス削減のために心がけていること」についての設問で聴いていたが、令和4年度から本設問に統合。

参考／（令和3年度）食品ロス削減のために心がけていること

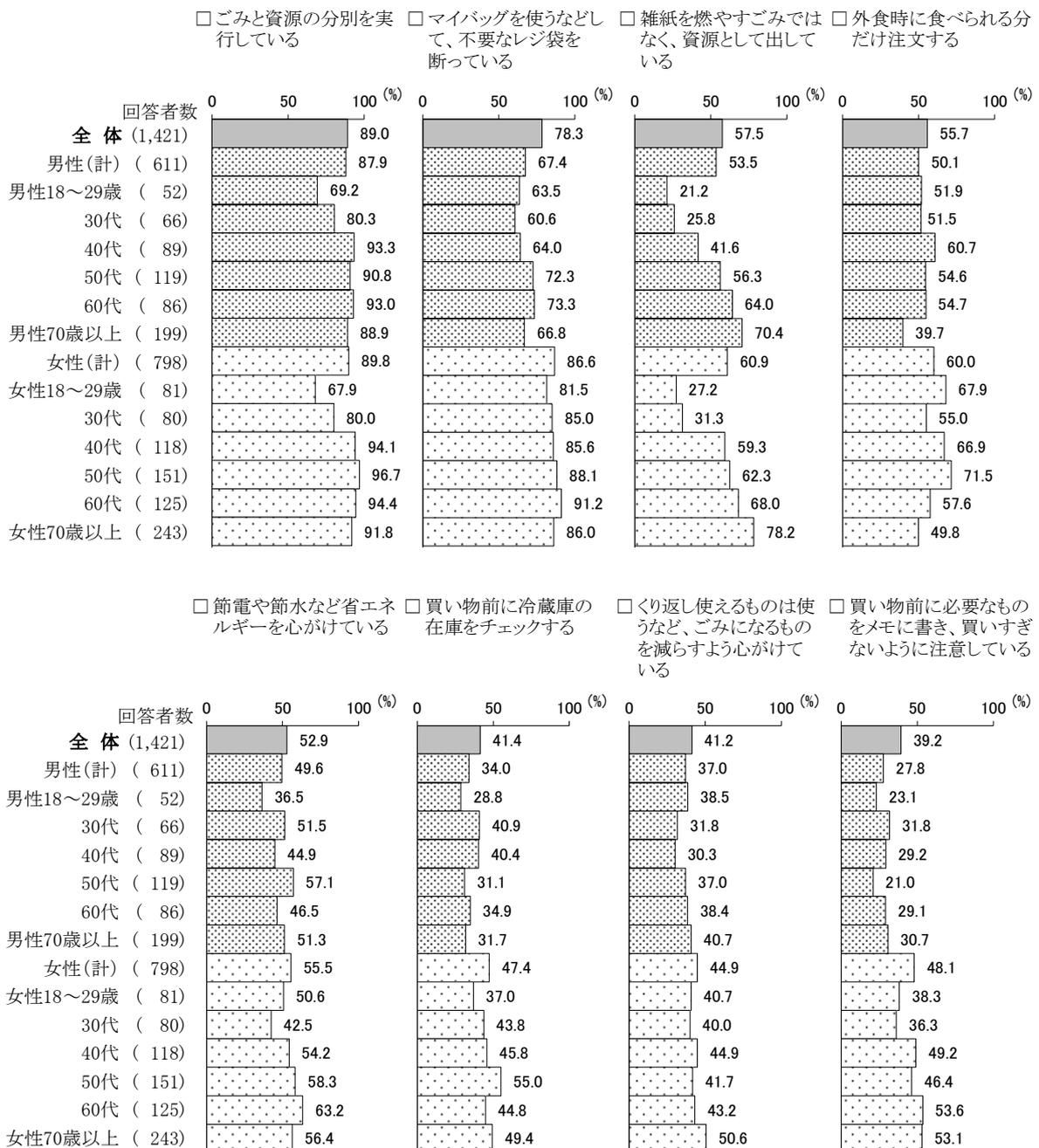


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境のために心がけていること（上位8項目）

(ア) 性別で見ると、すべての項目で女性の方が男性より高くなっており、特に、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（+20.3ポイント）、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（+19.2ポイント）、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（+13.4ポイント）で女性の方が10ポイント以上高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「ごみと資源の分別を実行している」は、男女ともに40代以上で9割弱から9割台半ばと高く、18～29歳では6割台と低くなっている。「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は年代別の傾向は見られないが、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」では、男女とも年代が上がるほど割合も高くなる傾向が見られる。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること／上位8項目



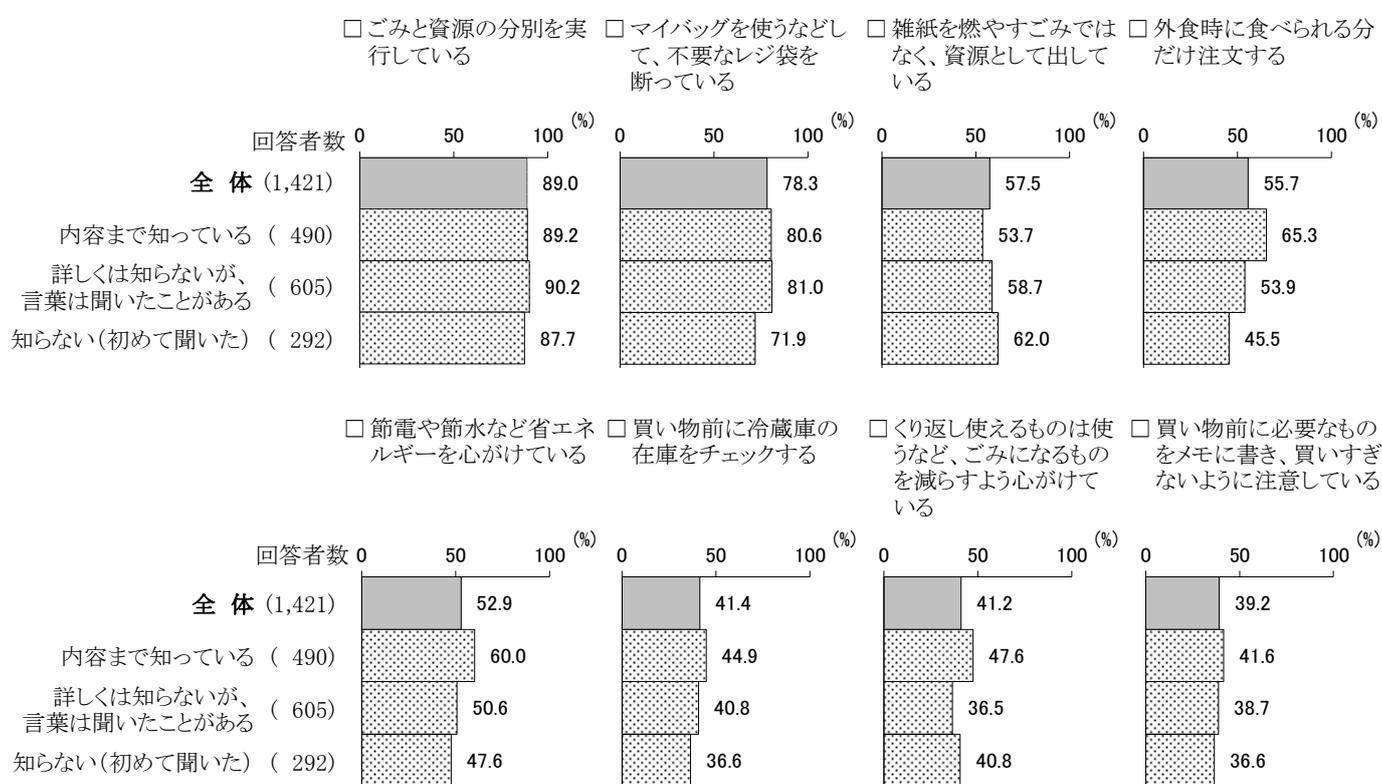
ウ クロス集計・SDGs認知度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目中4項目でSDGsの認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、SDGsについて「内容まで知っている」－「知らない（初めて聞いた）」のポイント差が大きい順に並べると以下のとおりとなっている。

- ①「外食時に食べられる分だけ注文する」（19.8ポイント）
- ②「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（12.4ポイント）
- ③「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（8.7ポイント）
- ④「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（8.3ポイント）

（イ）一方、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」については、SDGsの認知度合いと反比例の相関がうかがえた。

図8-1-3 SDGs認知度別／環境のために心がけていること／上位8項目

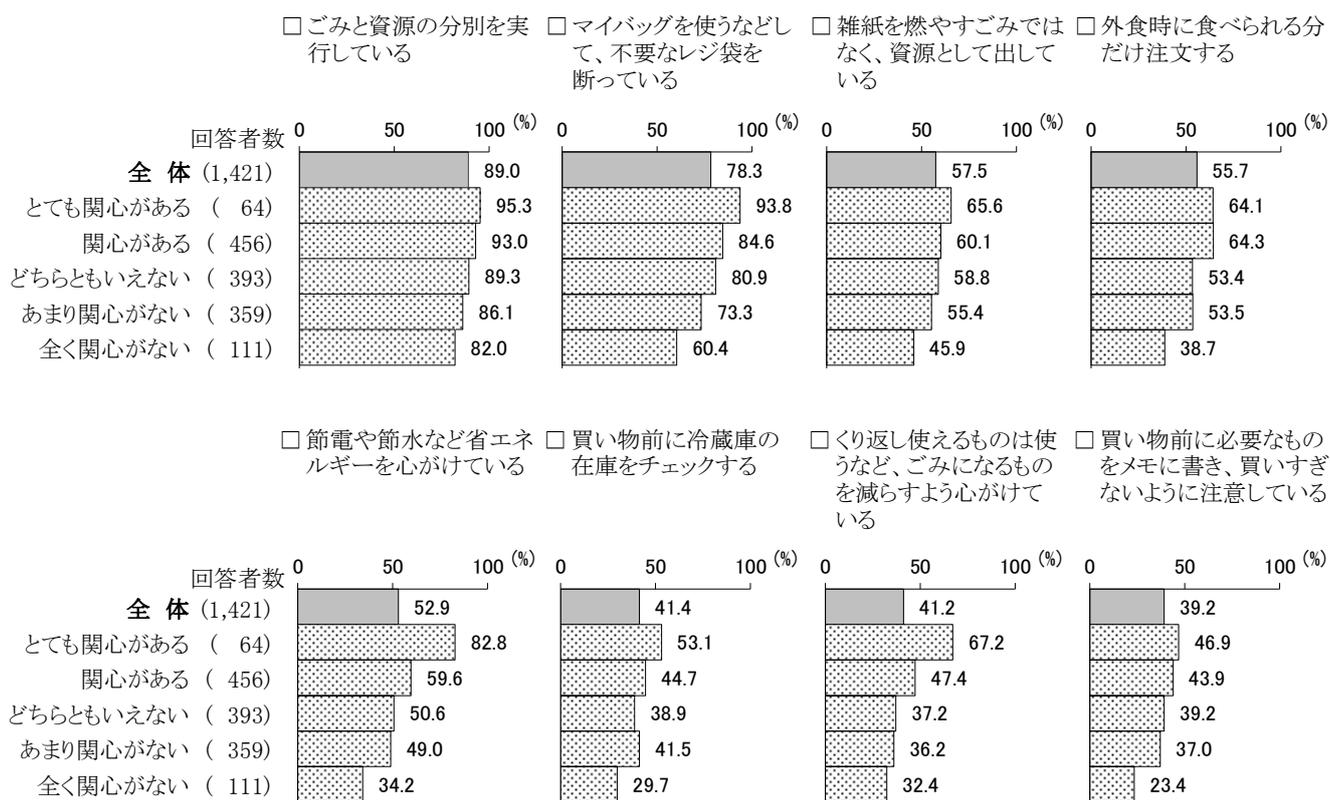


エ クロス集計・SDGs 関心度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目のすべてでSDGsの関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にあり、「とても関心がある」－「全く関心がない」のポイント差が大きい順に並べると、以下のとおりとなっている。

- ①「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（48.6ポイント）
- ②「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」（34.8ポイント）
- ③「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（33.4ポイント）
- ④「外食時に食べられる分だけ注文する」（25.4ポイント）
- ⑤「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（23.5ポイント）
- ⑥「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（23.4ポイント）
- ⑦「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」（19.7ポイント）
- ⑧「ごみと資源の分別を実行している」（13.3ポイント）

図8-1-4 SDGs 関心度別／環境のために心がけていること／上位8項目



(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

問31 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していますか（○は1つだけ）。

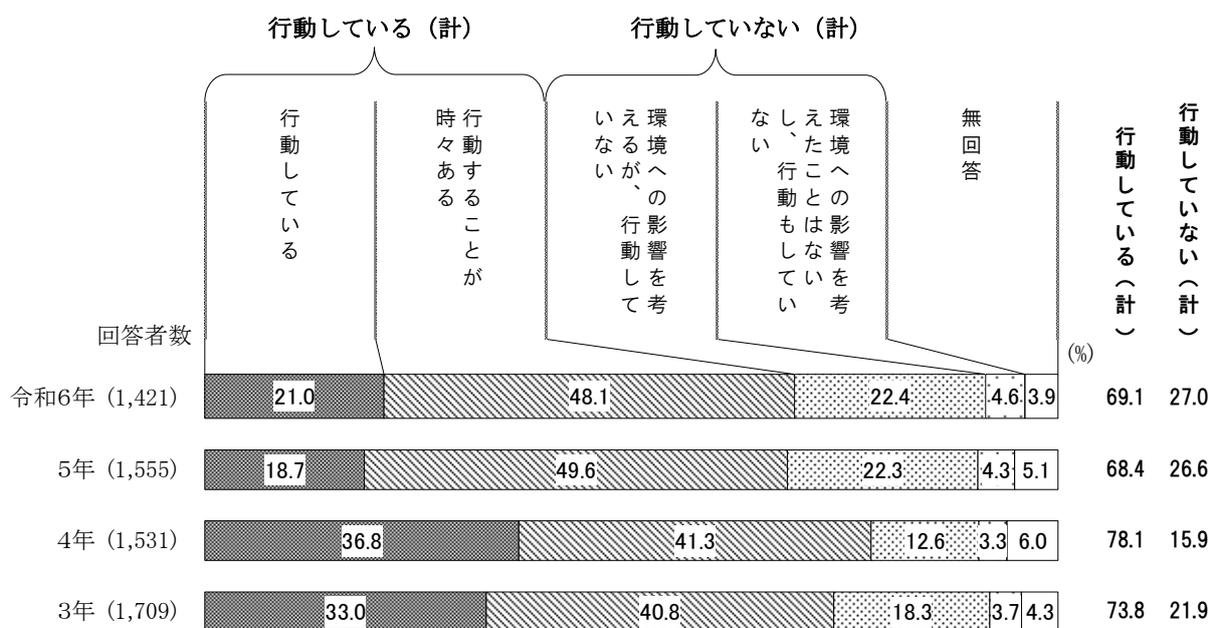
■【行動している】が約7割で、【行動していない】が2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 環境への影響を考えた日頃からの行動状況は、「行動することが時々ある」が48.1%で最も高く、これに「行動している」(21.0%)を合わせた【行動している】は69.1%となっている。一方、「環境への影響を考えるが、行動していない」(22.4%)と「環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない」(4.6%)を合わせた【行動していない】は27.0%となっている。

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図8-2-1 経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



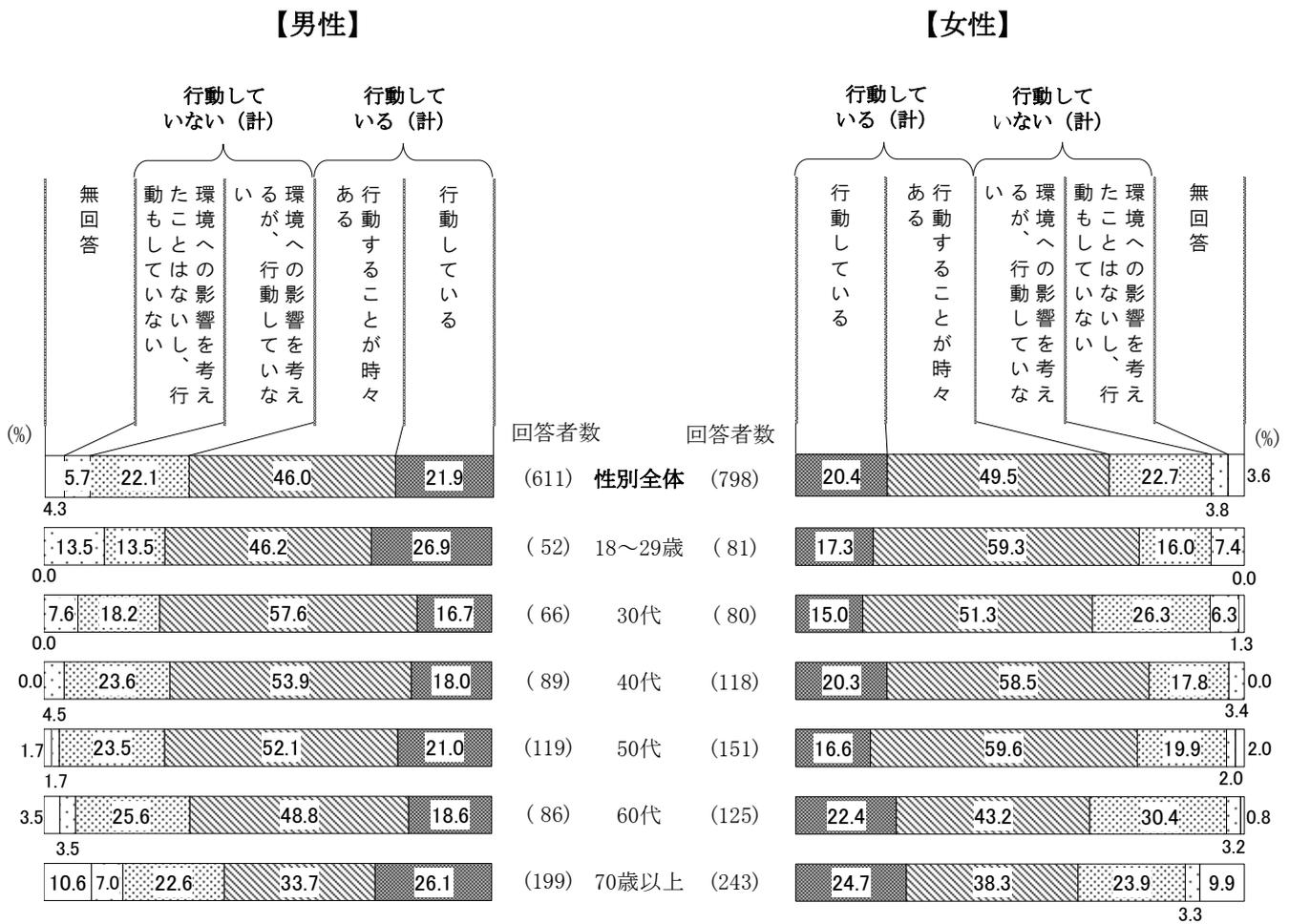
※令和5年調査で「行動している」の割合が急落している理由は、令和4年度調査以前の設問文において、「・・・具体的に行動(※)していますか。」とし、質問文の後に「※前問(今年度では問30)の1～8で示された内容のことです。」と注釈を加えていたことによって「行動している」への回答を助成したと考えられる。

イ クロス集計・性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 性別では、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【行動している】は女性の40代で78.8%と最も高く、次いで女性の18～29歳(76.5%)、男性の30代(74.2%)、男性の50代(73.1%)が続いている。一方、男性の70歳以上で59.8%と最も低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



(3) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動

問32 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（○はいずれも、あてはまるものすべて）。

■「特に参加していない」が減少し、【引き続き、または今後参加したい】が増加

ア 単純集計・経年比較／この1年間に参加した活動

(ア) この1年間の参加状況は、「特に参加していない」が49.6%となっている。

(イ) 【参加した活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

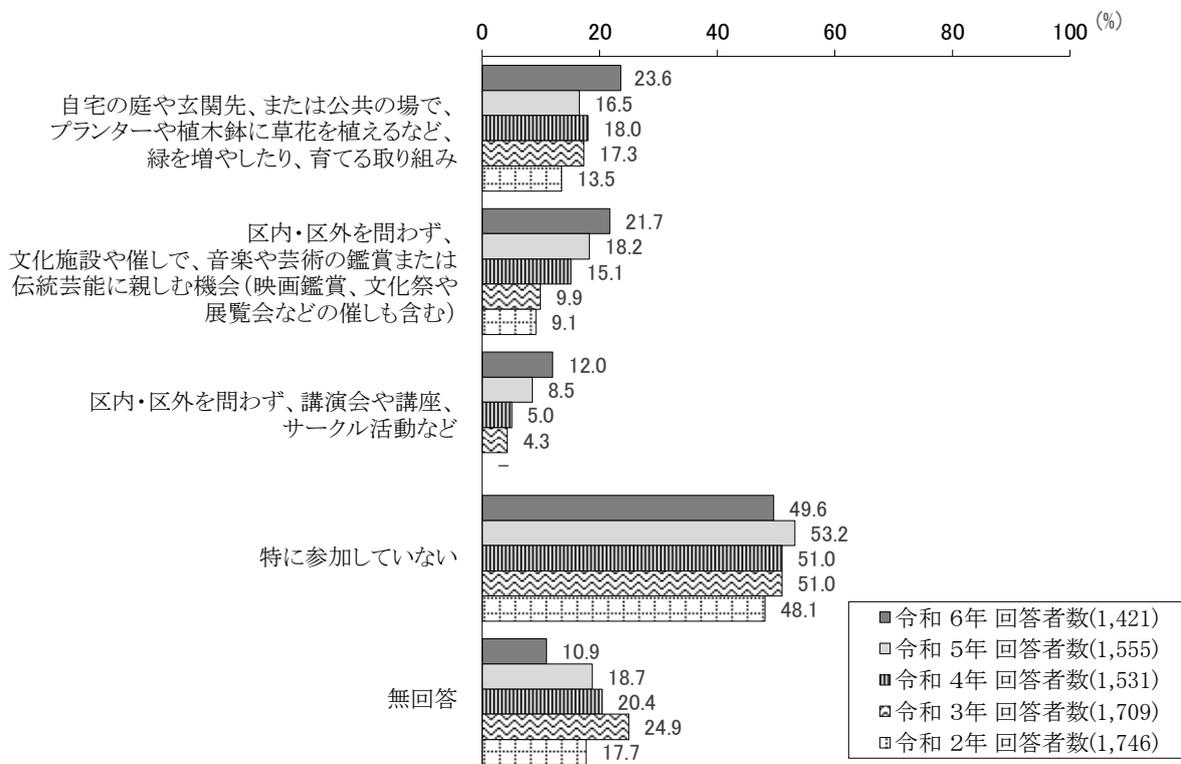
①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(23.6%)

②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(21.7%)

③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(12.0%)

(ウ) 前回調査との比較では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が7.1ポイント増加したのを始め、“区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）”と「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が各3.5ポイント増加している。

図8-3-1 経年比較／この1年間に参加した活動



※「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」は令和3年度の新設。前回の令和5年度調査で、選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えた。

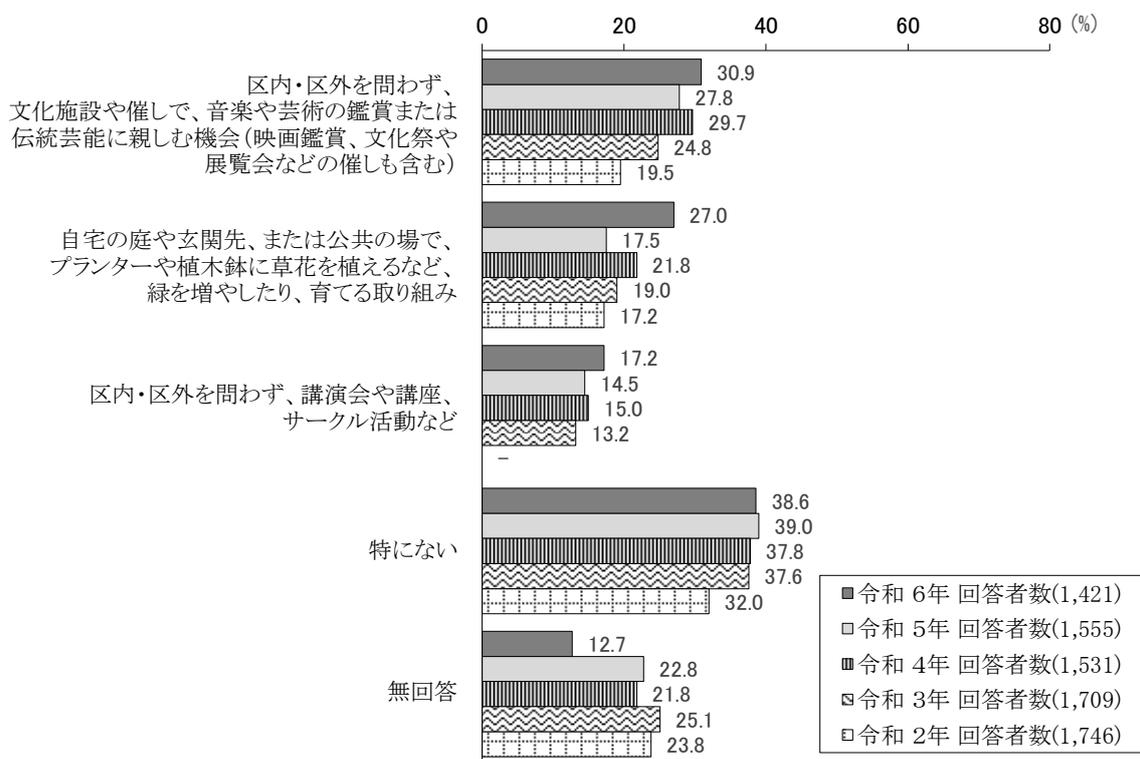
イ 単純集計・経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア)【引き続き、または今後参加したいと思う活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」(30.9%)
- ②「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(27.0%)
- ③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(17.2%)

(イ) 前回調査との比較では、すべての活動で増加しており、特に「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」で9.5ポイントと大きく増加している。

図8-3-2 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動



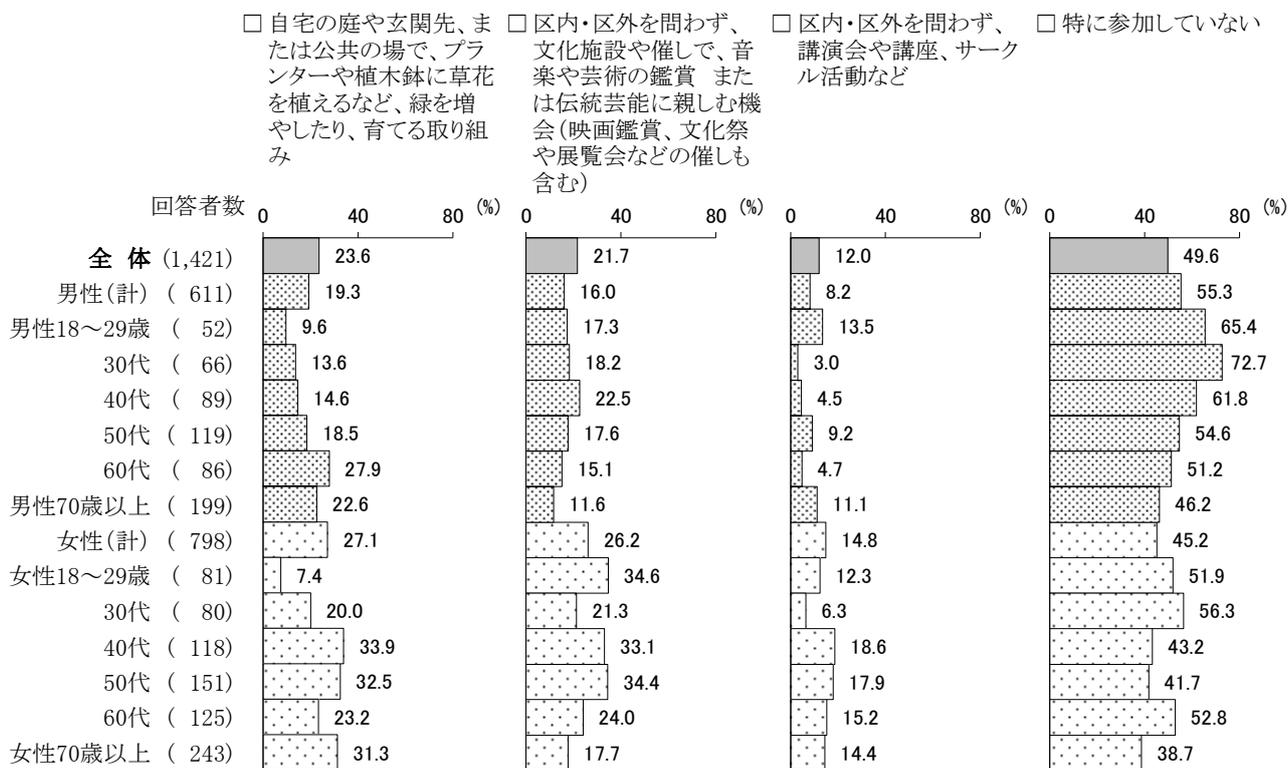
ウ クロス集計・性別、性・年代別／この1年間に参加した活動

(ア) 性別で参加状況を見ると、「特に参加していない」は男性（55.3%）の方が女性（45.2%）より10.1ポイント高くなっている。

(イ) 【参加した活動】について性別で見ると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（26.2%）の方が男性（16.0%）より10.2ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別で見ると、「特に参加していない」は男女とも30代で高く、男性の30代で72.7%と最も高くなっている。「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の40代と50代で3割台と高く、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の18～29歳、40代、50代で3割台と高くなっている。

図8-3-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動



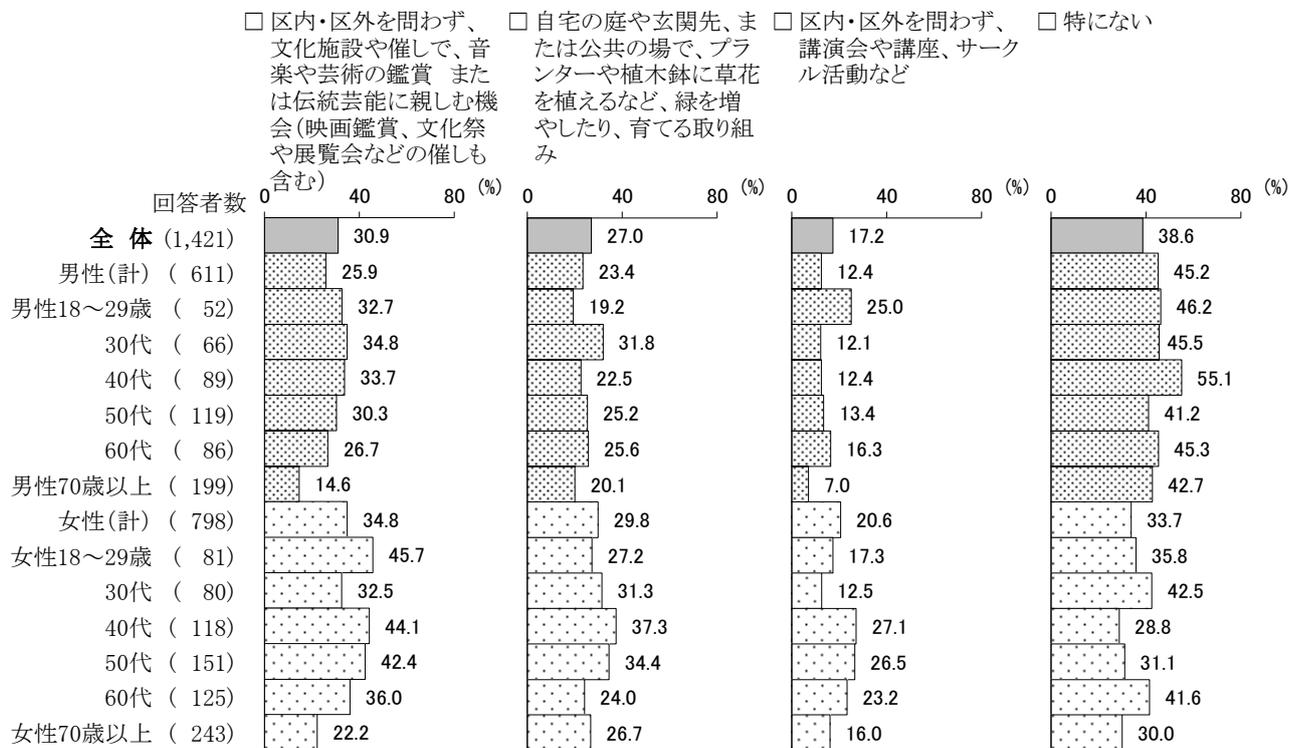
エ クロス集計・性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) 性別でみると、「特にない」は男性（45.2%）の方が女性（33.7%）より11.5ポイント高くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】について性別でみると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（34.8%）の方が男性（25.9%）より8.9ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別でみると、「特にない」は男性の40代で5割台半ばと最も高くなっている。「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の18～29歳、40代、50代で4割台と高く「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の40代で3割台後半と高くなっている。

図8-3-4 性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

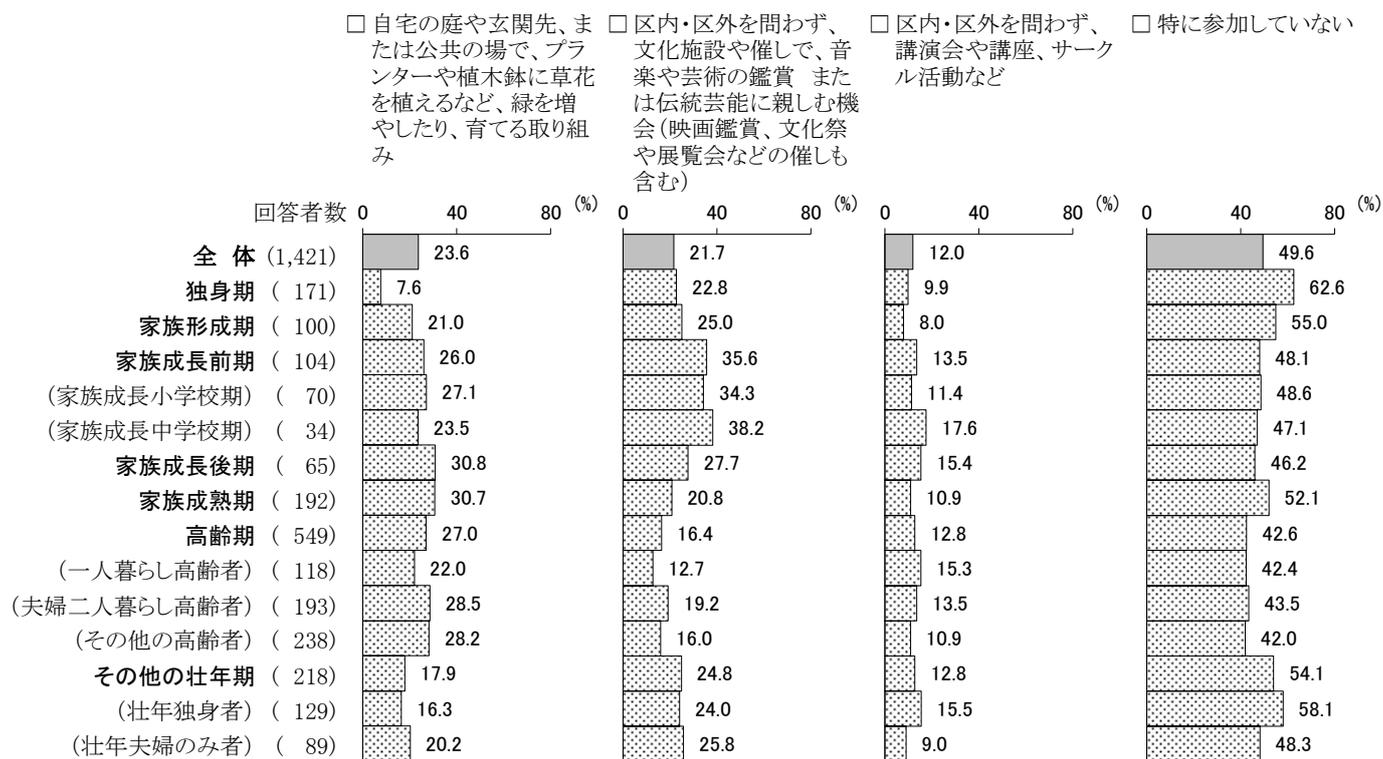


オ クロス集計・ライフステージ別／この1年間に参加した活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特に参加していない」は〈独身期〉が62.6%で最も高く、〈高齢期〉が42.6%で最も低くなっている。

(イ) 【参加した活動】では、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長後期〉(30.8%)と〈家族成熟期〉(30.7%)で3割、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」は〈家族成長前期〉(35.6%)でそれぞれ3割台と高くなっている。

図8-3-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動

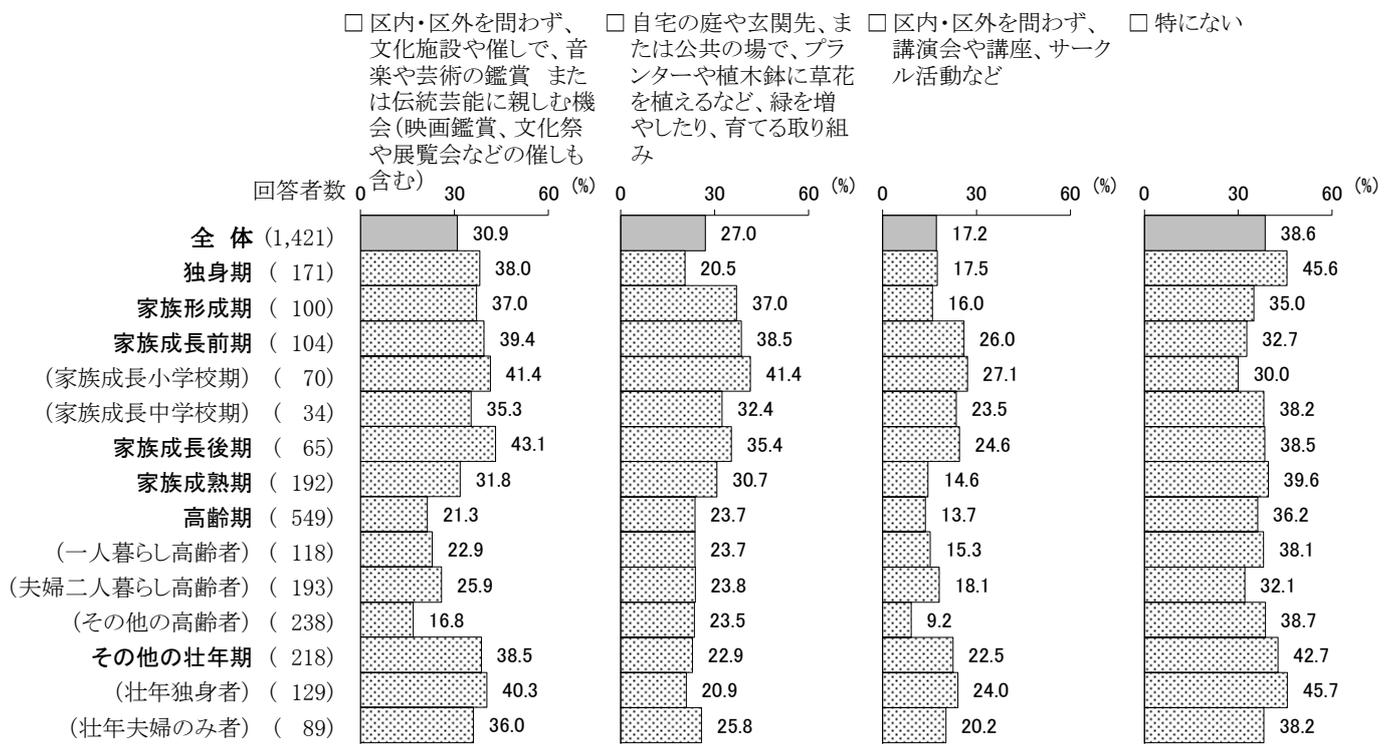


カ クロス集計・ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特にない」は〈独身期〉が45.6%で最も高く、〈家族成長前期〉が32.7%で最も低くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成長後期〉が43.1%で最も高く、〈高齢期〉が21.3%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長前期〉が38.5%で最も高く、〈独身期〉が20.5%で最も低くなっている。

図8-3-6 ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動



## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- 
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
  - (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知
  - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
  - (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
  - (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況
  - (6) 仕事と仕事以外の生活の調和
  - (7) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-



## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問33 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

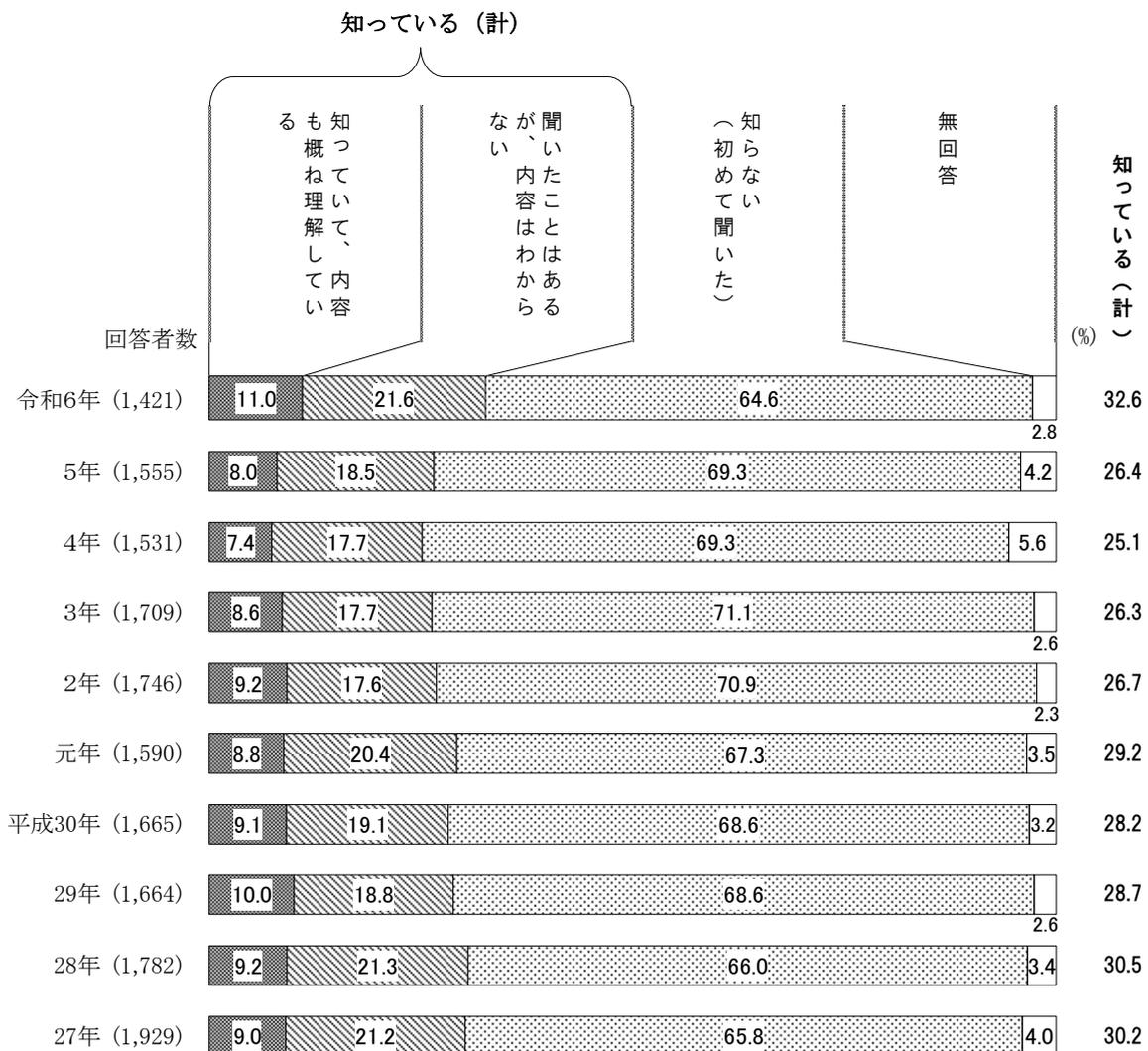
※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は3割台半ば近くで、「知らない（初めて聞いた）」が6割台半ば

#### ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

- (ア) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容もおおむね理解している」が11.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の21.6%を合わせた【知っている】は32.6%となっている。
- (イ) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は64.6%を占めている。
- (ウ) 前回調査との比較では、【知っている】は6.2ポイント増加し、平成28年度調査（30.5%）以来8年ぶりに3割台となった。

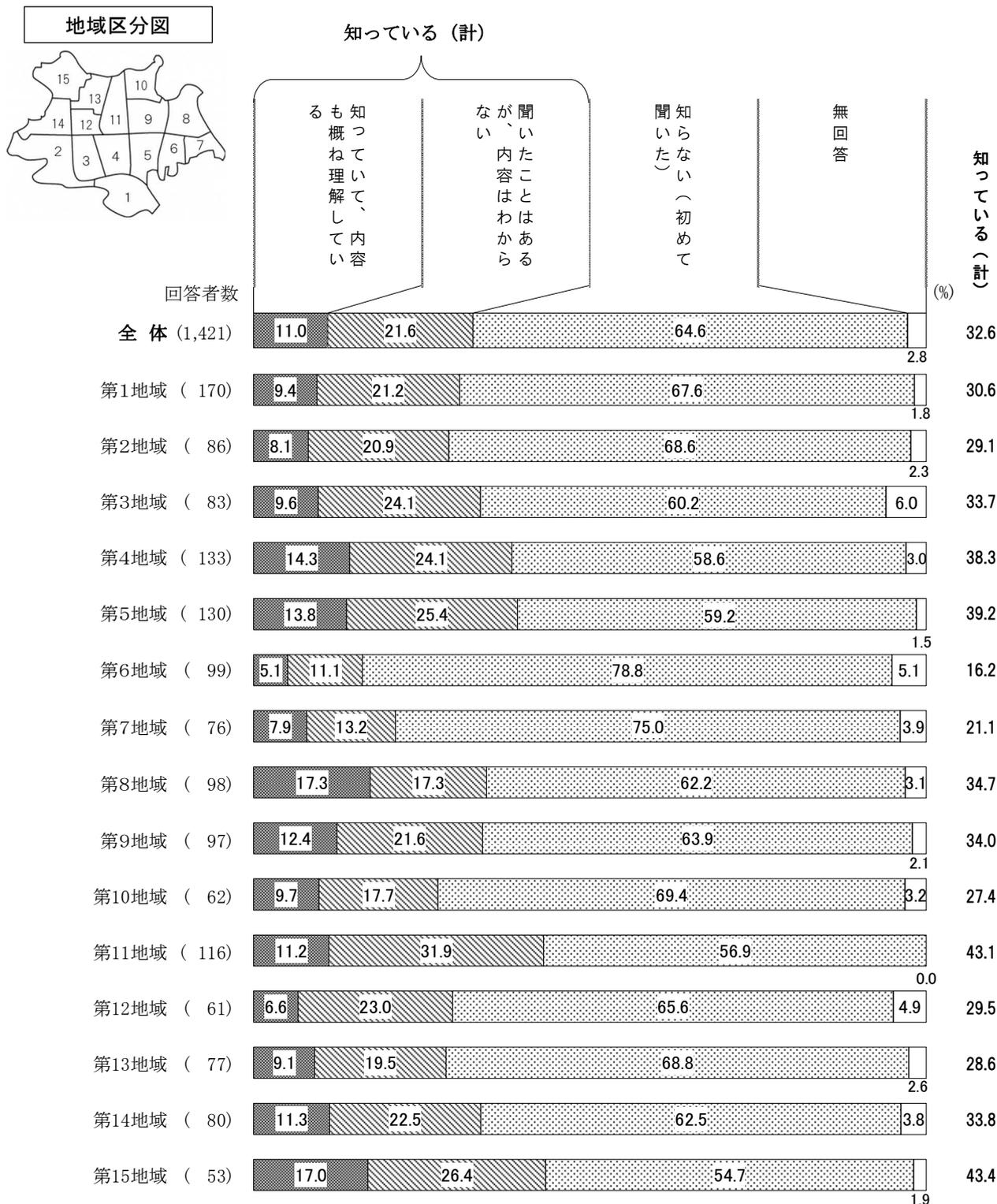
図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別で見ると、【知っている】は第15地域が43.4%で最も高く、次いで第11地域（43.1%）が4割台で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第6地域が78.8%で最も高く、次いで第7地域（75.0%）が7割台と高くなっている。

図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

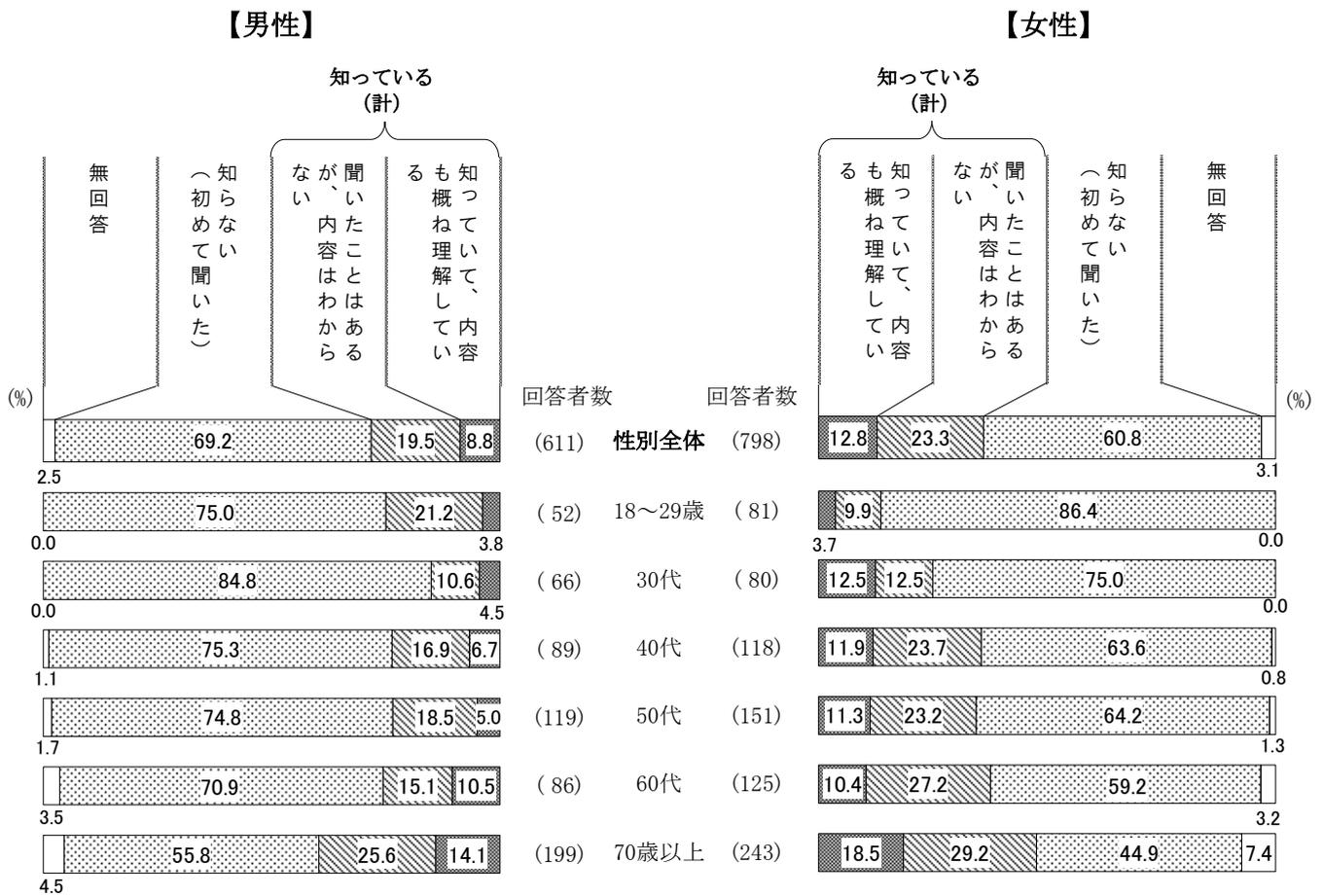


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（36.1%）の方が男性（28.3%）より7.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の70歳以上が47.7%と最も高く、次いで、男性の70歳以上（39.7%）が続いている。逆に、女性の18～29歳（13.6%）と男性の30代（15.2%）で1割台と特に低くなっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



（2）地域包括支援センター、及び業務内容の認知

問34 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか（〇はあてはまるものすべて）。

- 【業務内容を知っている】が5割、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が3割
- 知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順

ア 単純集計／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

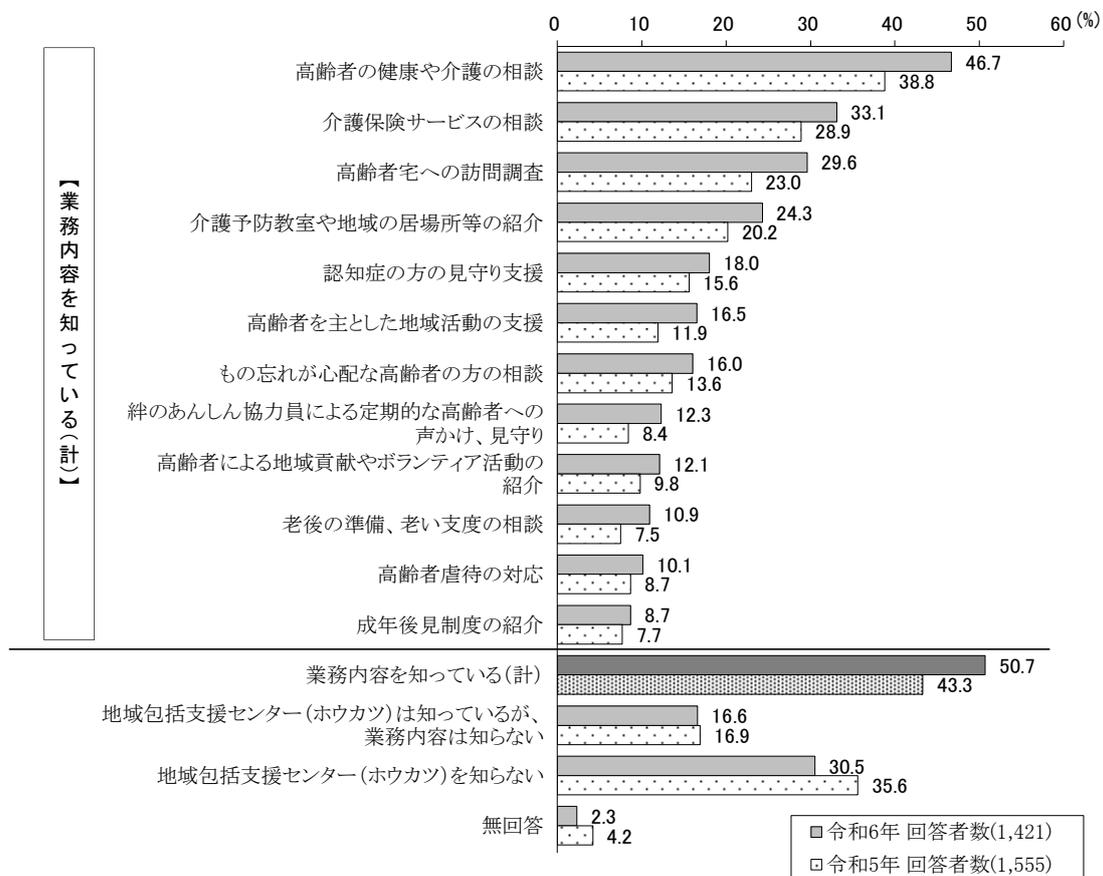
（ア）地域包括支援センターの認知については、【業務内容を知っている】が50.7%で、「地域包括支援センターは知っているが、業務内容は知らない」が16.6%、「地域包括支援センターを知らない」が30.5%となっている

（イ）知っている業務内容の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「高齢者の健康や介護の相談」（46.7%）
- ②「介護保険サービスの相談」（33.1%）
- ③「高齢者宅への訪問調査」（29.6%）

（ウ）前回調査と比較してみると、【業務内容を知っている】が7.4ポイント増加している。また、すべての業務内容でも割合が増加しており、特に「高齢者の健康や介護の相談」で7.9ポイント、「高齢者宅への訪問調査」で6.6ポイント大幅に増加している。

図9-2-1 前回調査比較／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

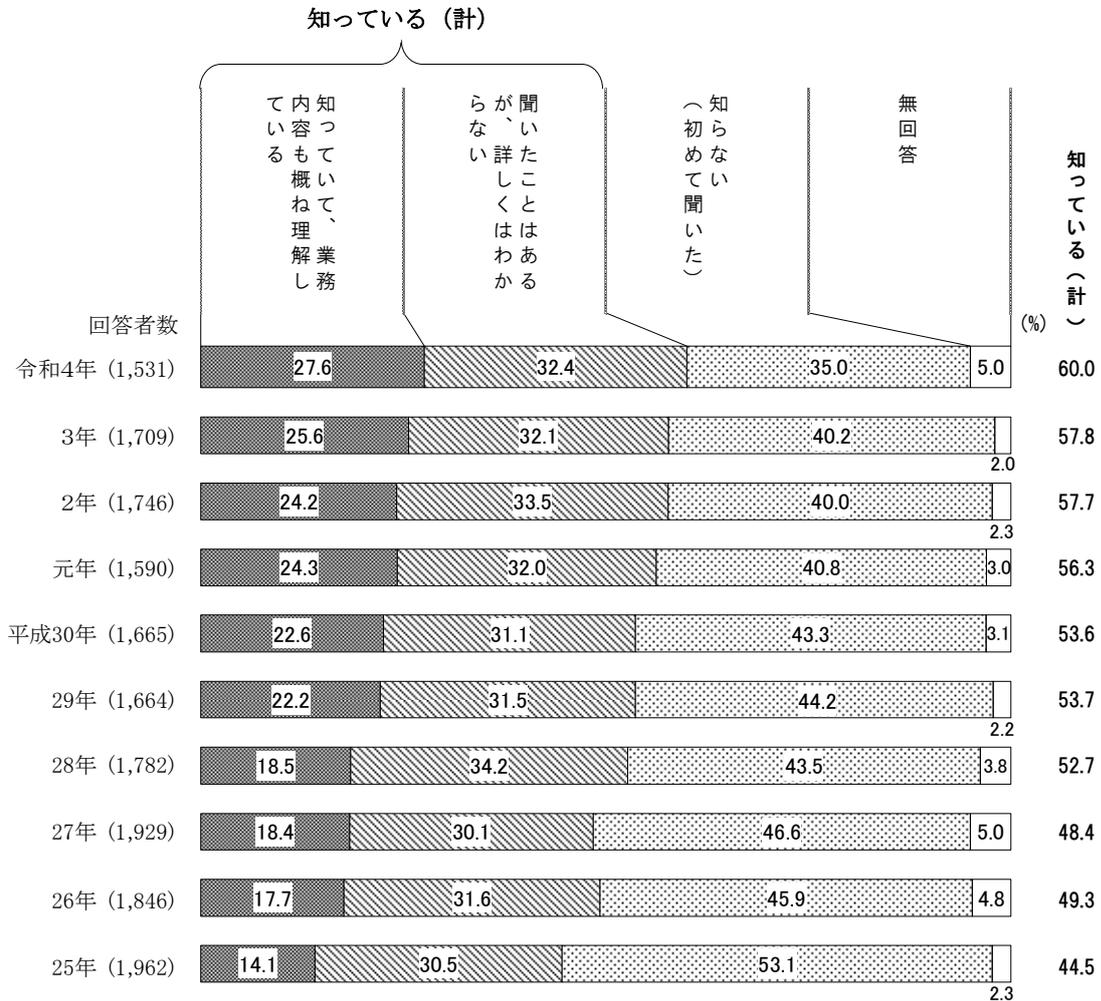


※《業務内容を知っている（計）》＝100%－「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」－「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」－「無回答」

参考／地域包括支援センターの認知

問 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。



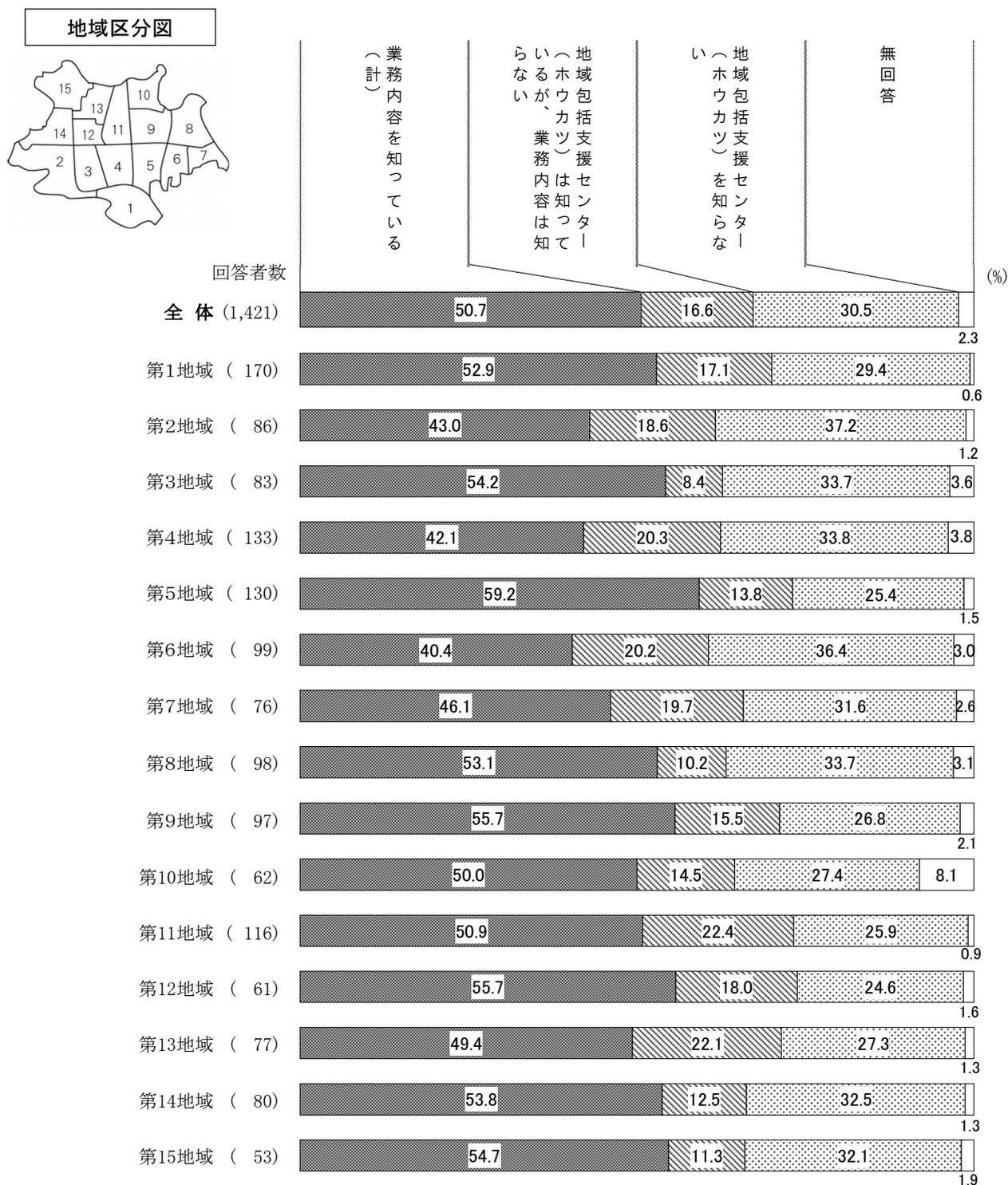
※ 令和4年度までは「地域包括支援センター」の認知のみを聴いていたが、令和5年度調査からは認知に併せて、業務内容を選択肢で提示して聴いたことから、認知状況に影響を与えたと考えられるため、単純に比較できない。

イ クロス集計・地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域別に認知状況をみると、《業務内容を知っている》は第5地域が59.2%で最も高く、次いで、第9地域と第12地域（各55.7%）などとなっている。

（イ）「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は第2地域が37.2%で最も高く、次いで、第6地域（36.4%）、第4地域（33.8%）などとなっている。

図9-2-2 地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

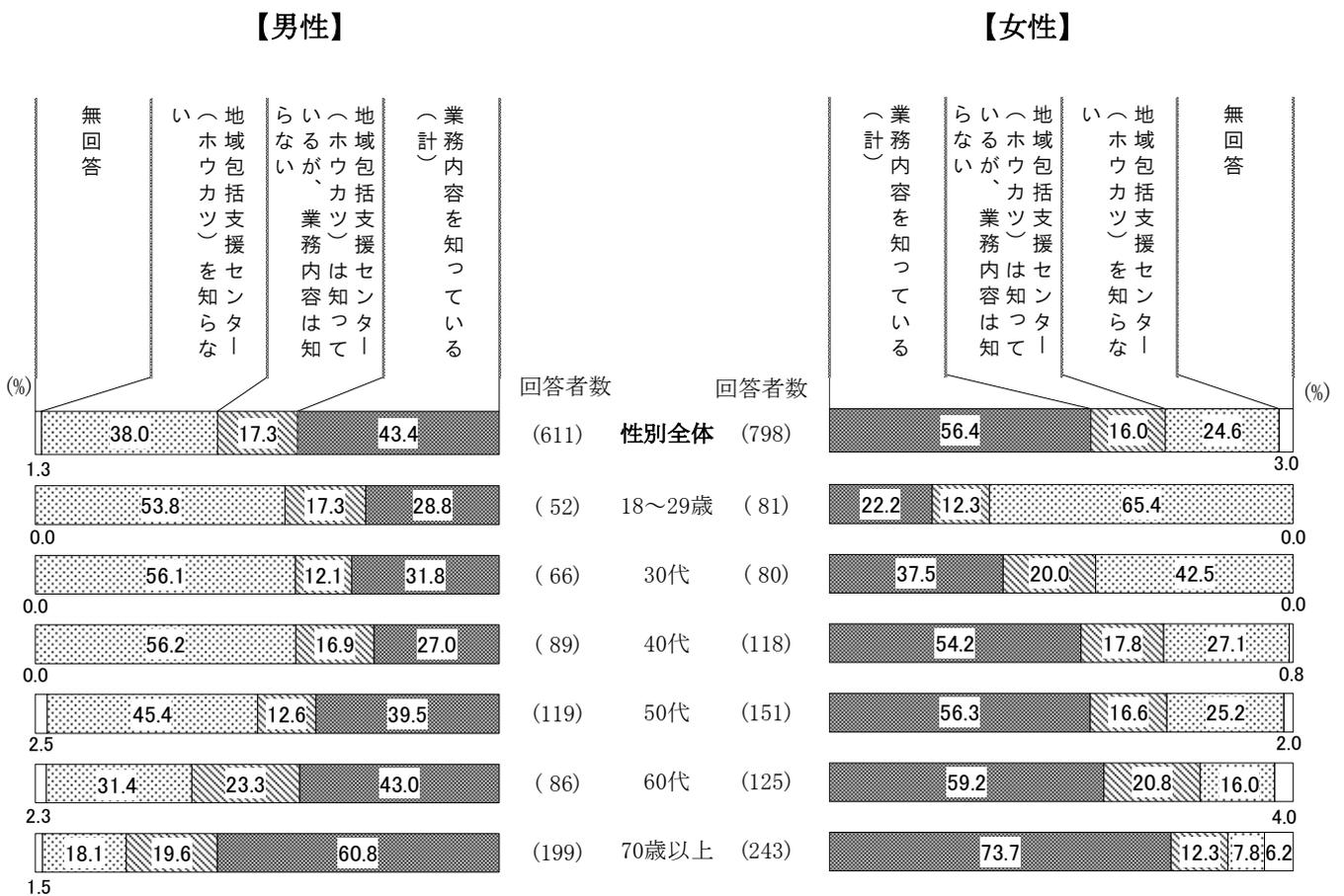


ウ クロス集計・性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 性別にみると、《業務内容を知っている》は、女性（56.4%）の方が男性（43.4%）より13.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、《業務内容を知っている》は、女性の70歳以上で73.7%と最も高く、次いで、男性の70歳以上（60.8%）、女性の60代（59.2%）などとなっている。一方、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は女性の18～29歳で65.4%と最も高く、次いで、男性の40代以下の年齢層で5割台となっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知



（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

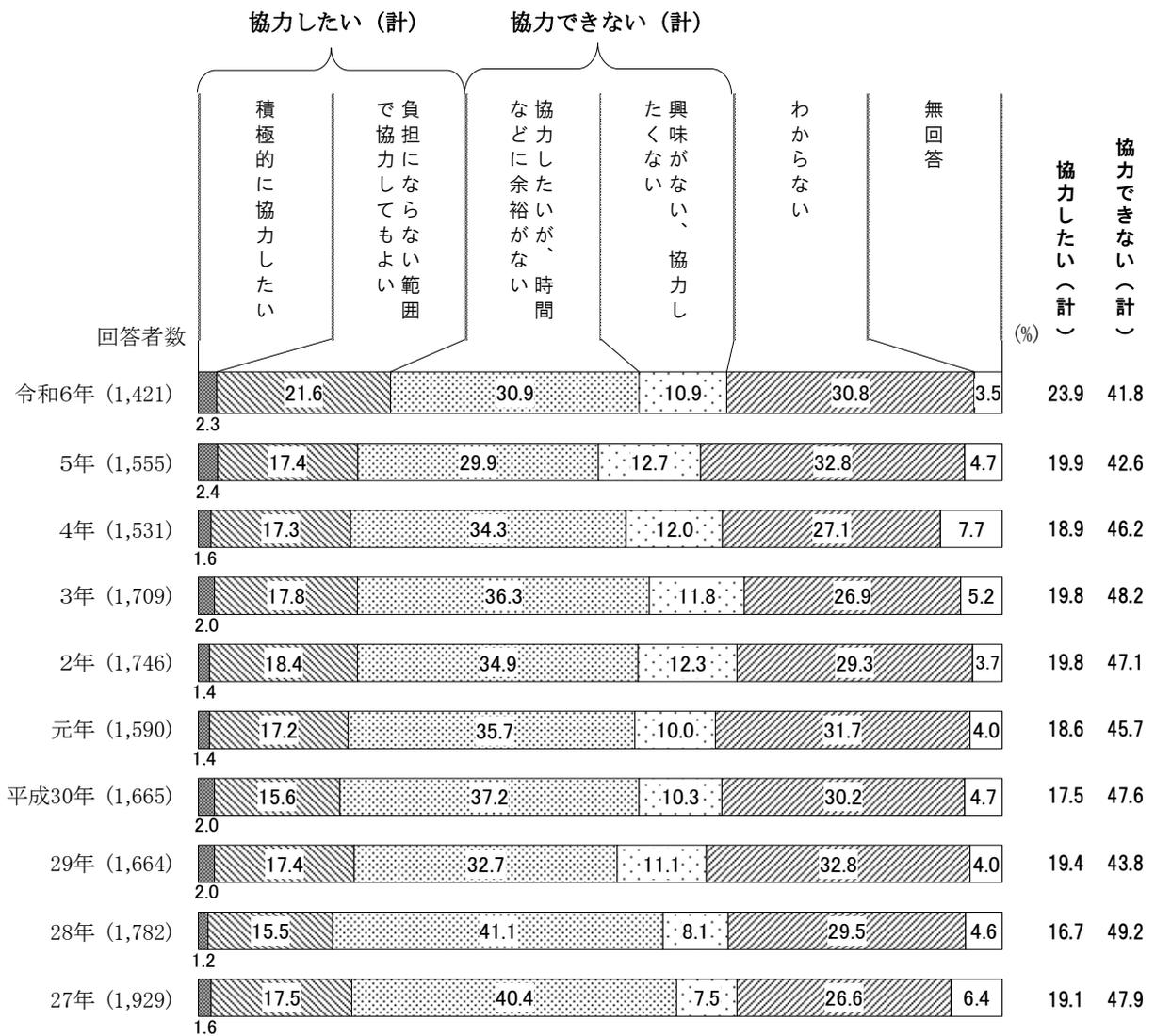
問35 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は2割台半ばに増加、【協力できない】は4割超

ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

- （ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.3%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」（21.6%）を合わせた【協力したい】は23.9%となっている。
- （イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は30.9%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」（10.9%）を合わせた【協力できない】は41.8%となっている。
- （ウ）前回調査との比較では、【協力したい】が4.0ポイントの増加となっている。

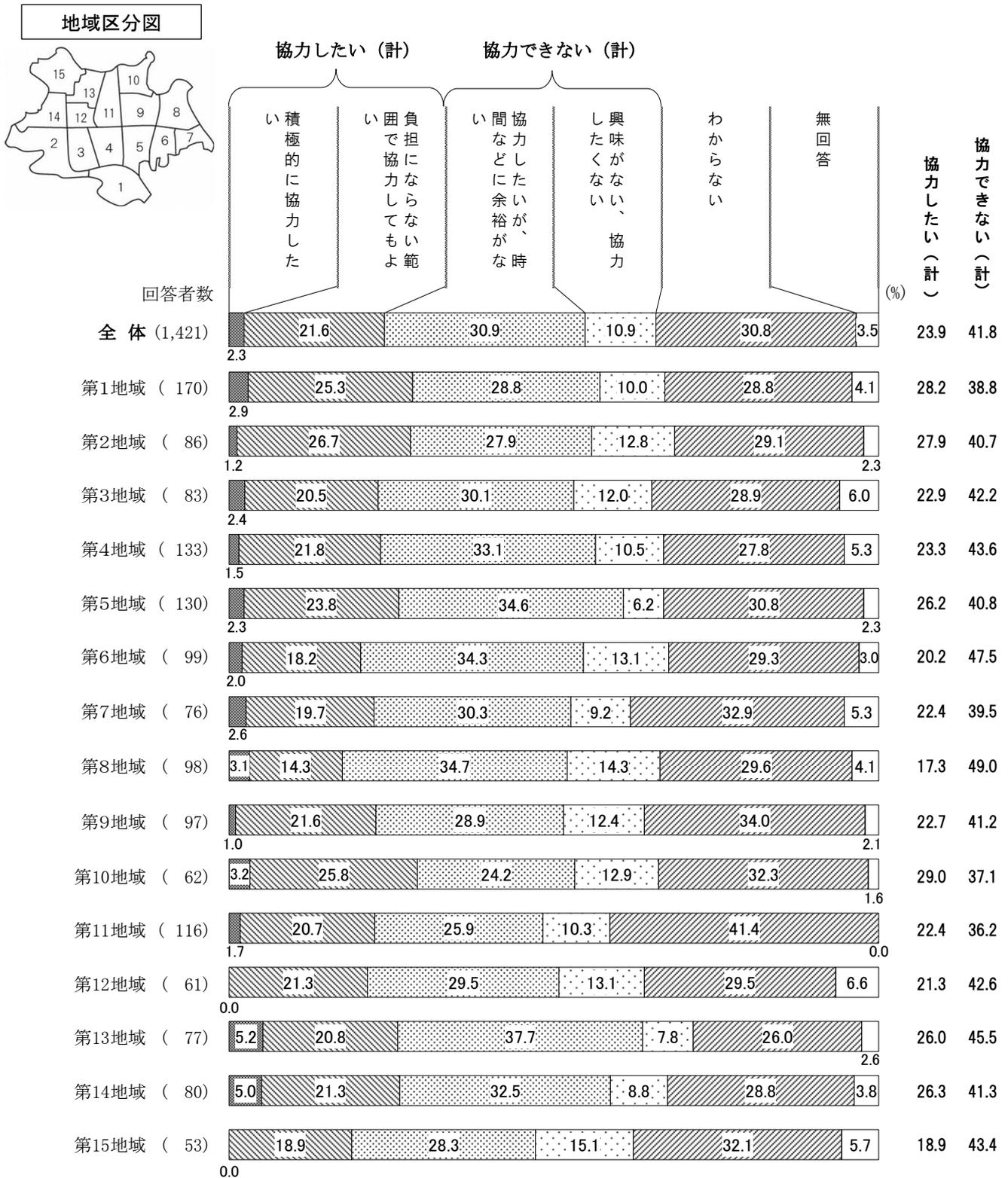
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第10地域が29.0%で最も高く、次いで、第1地域（28.2%）、第2地域（27.9%）となっている。一方、【協力できない】は第8地域が49.0%と最も高く、次いで、第6地域（47.5%）となっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

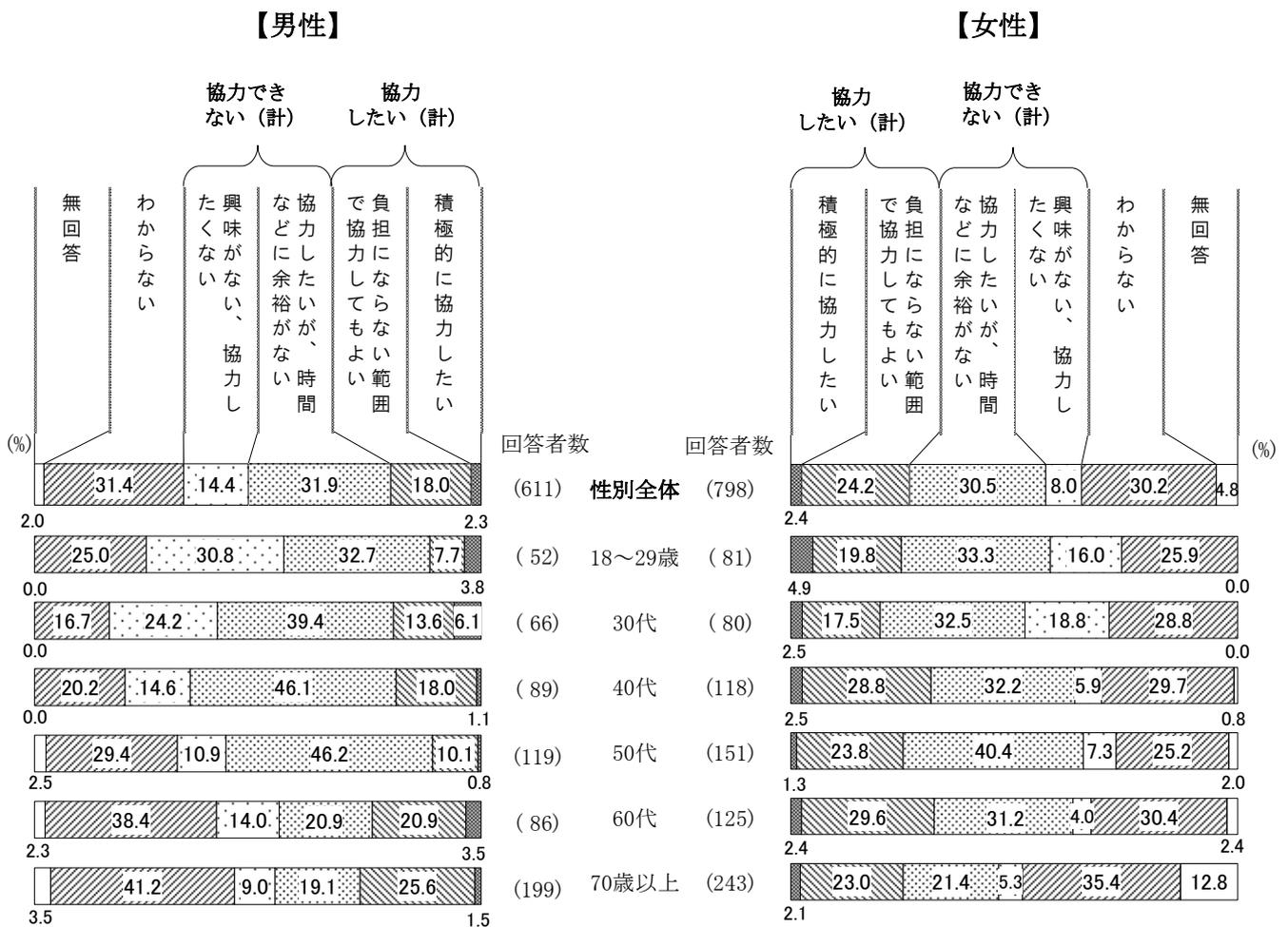


ウ クロス集計・性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

(ア) 性別で見ると、【協力したい】は女性（26.6%）の方が男性（20.3%）より6.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【協力したい】は女性の60代（32.0%）と40代（31.4%）で3割台と高く、次いで、男性の70歳以上（27.1%）となっている。一方、【協力できない】は、男性の50代以下の年齢層で6割前後、女性の30代以下の年齢層で5割前後と高くなっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



（4）「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

問36 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は6割近く、「知らない（初めて聞いた）」は約4割

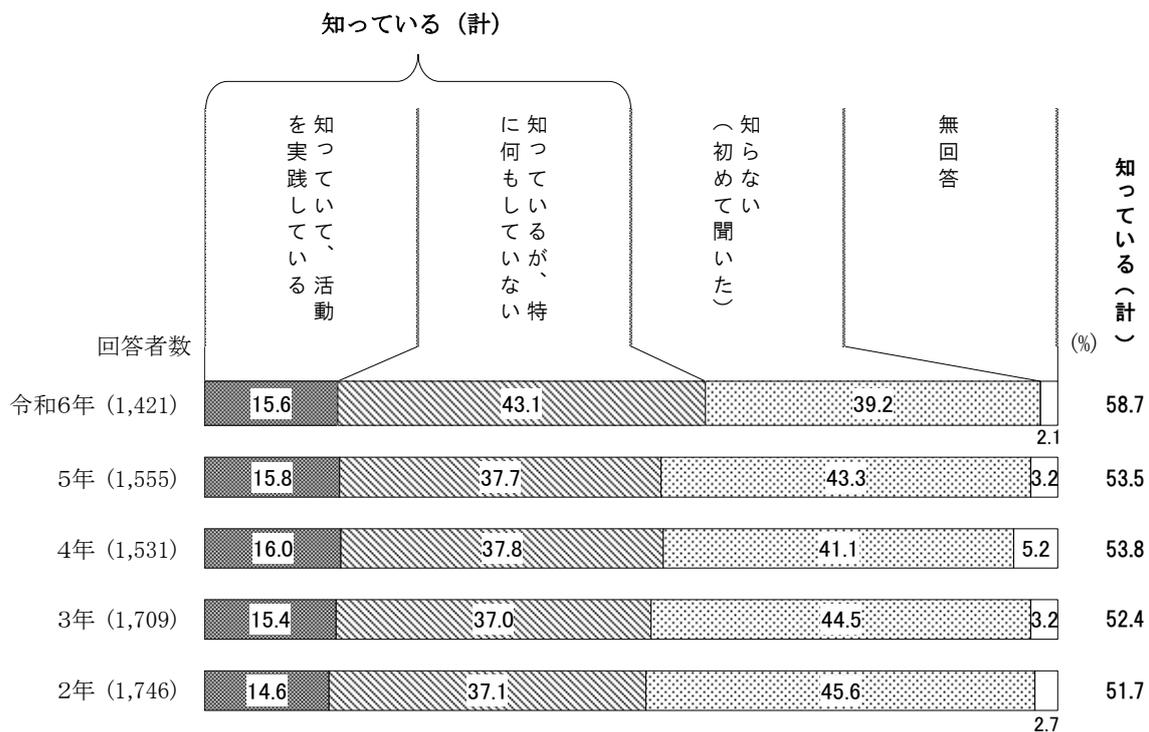
ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

（ア）「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は15.6%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（43.1%）を合わせた【知っている】は58.7%となっている。

（イ）「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は39.2%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、【知っている】が5.2ポイント増加している。

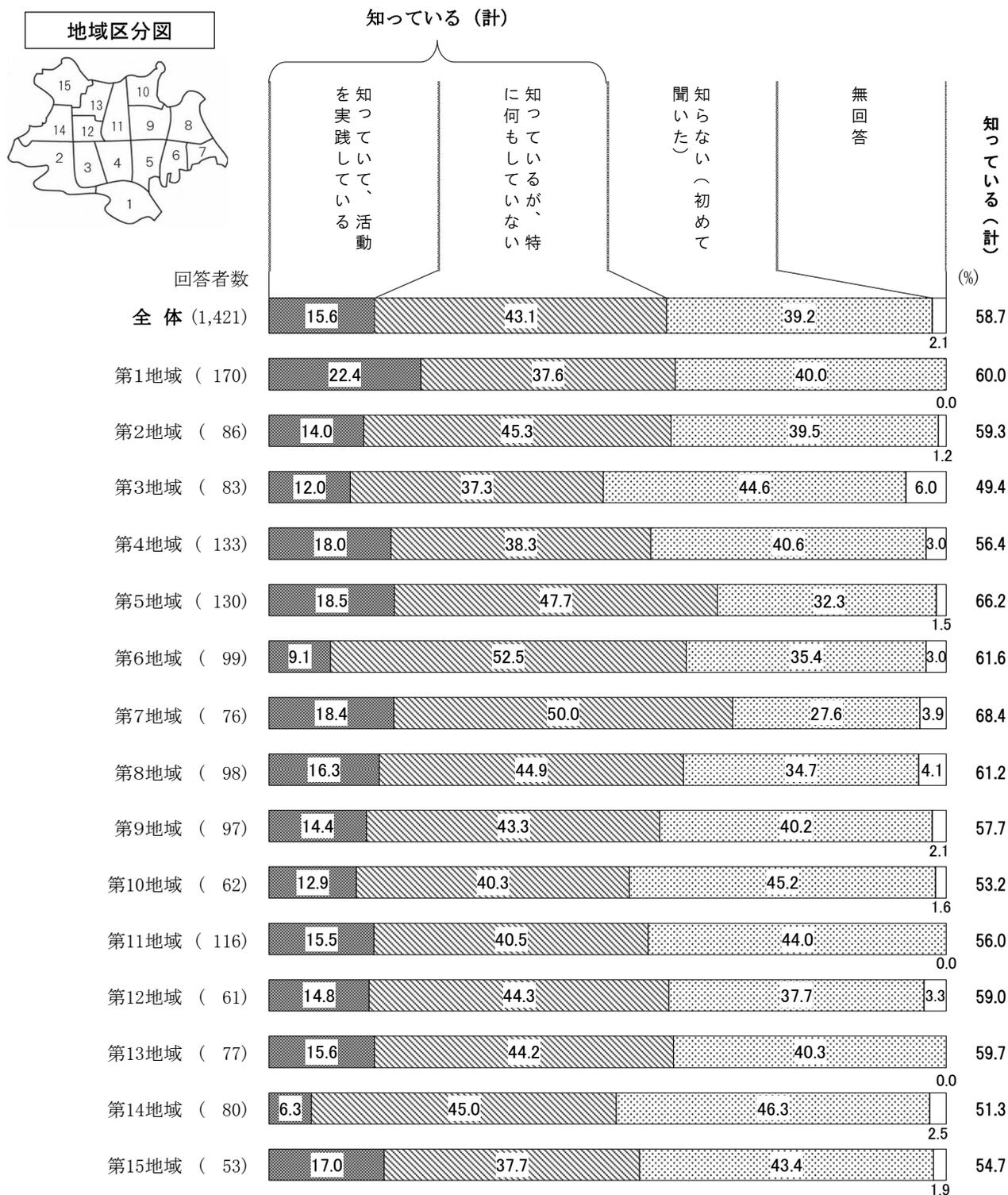
図9-4-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っている、活動を実践している」は第1地域が22.4%で唯一2割台となっている。【知っている】でみると、第7地域が68.4%で最も高く、次いで第5地域（66.2%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第14地域が46.3%で最も高く、次いで第10地域（45.2%）となっている。

図9-4-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

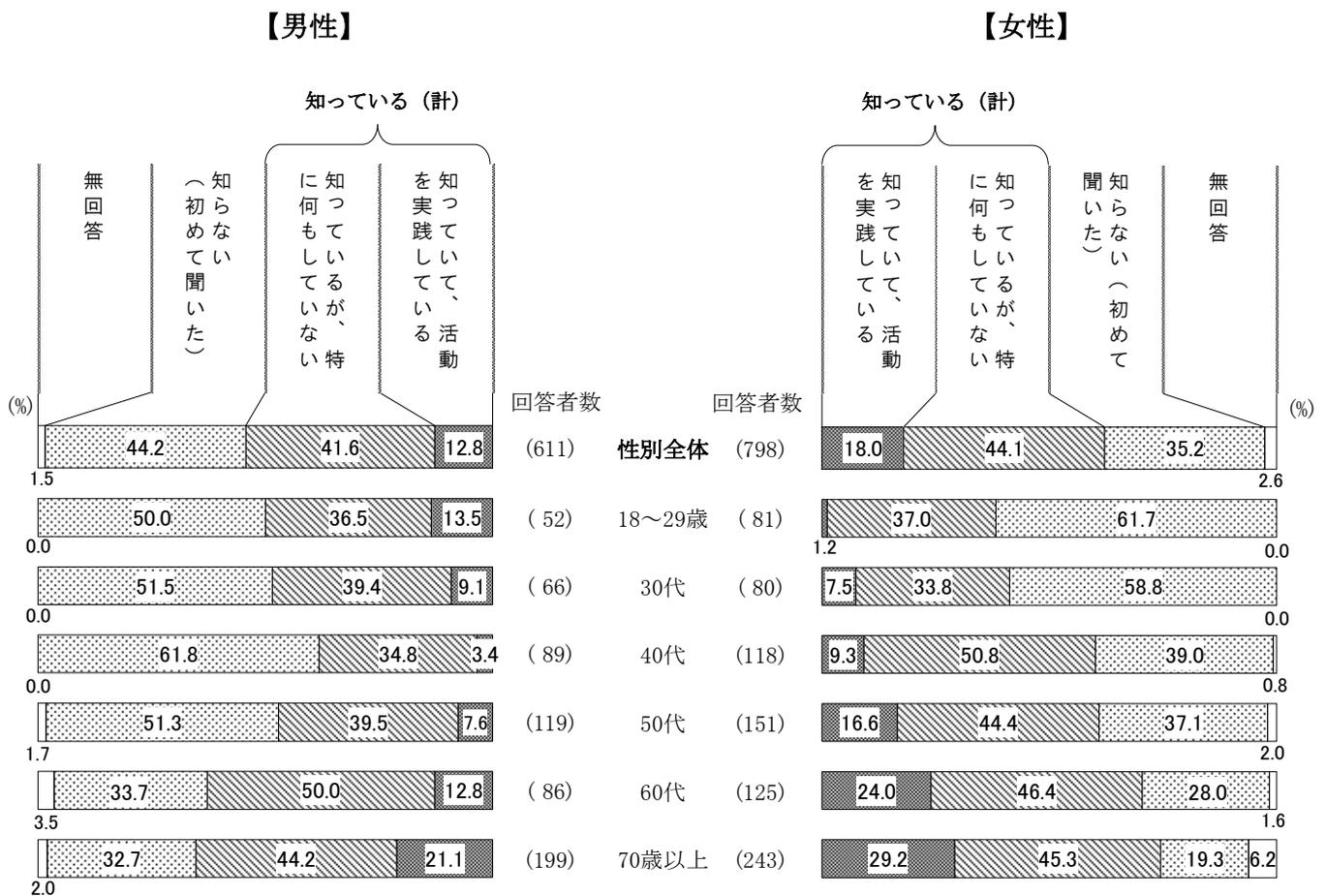


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（62.2%）の方が男性（54.3%）より7.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、女性の60代、70歳以上で7割台と高く、男性の70歳以上でも6割台半ばと高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の40代と女性の18～29歳で6割超と高くなっている。

図9-4-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



（5）「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

問37 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。  
 ※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■「毎食（1日3回）食べている」が約2割、「1日2回位食べている」が3割台半ば

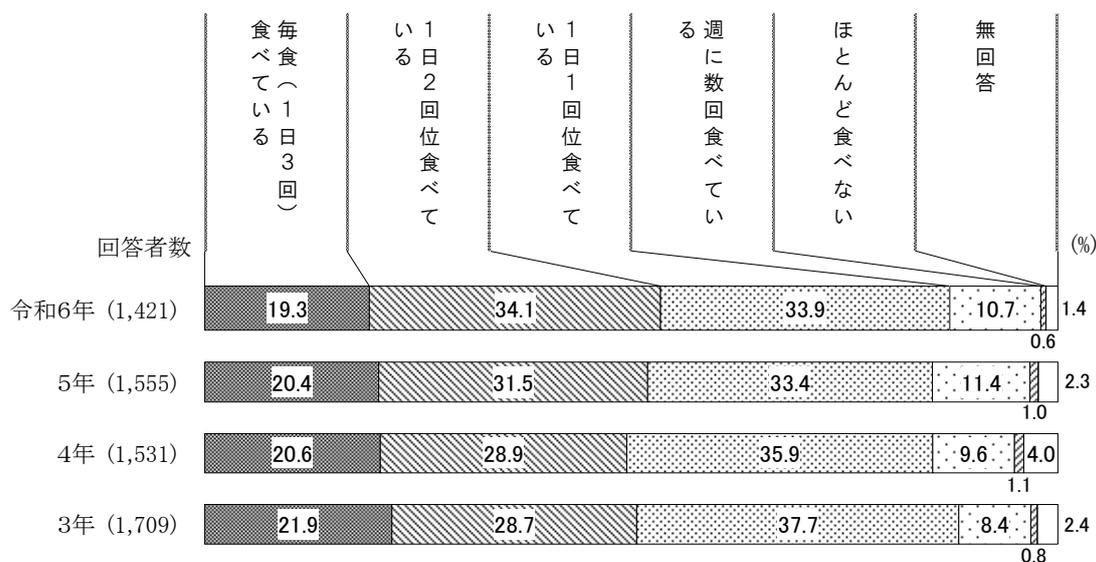
ア 単純集計・経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

（ア）「たんぱく質を多く含む食品」の摂取頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ①「1日2回位食べている」（34.1%）
- ②「1日1回位食べている」（33.9%）
- ③「毎食（1日3回）食べている」（19.3%）
- ④「週に数回食べている」（10.7%）
- ⑤「ほとんど食べない」（0.6%）

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図9-5-1 経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

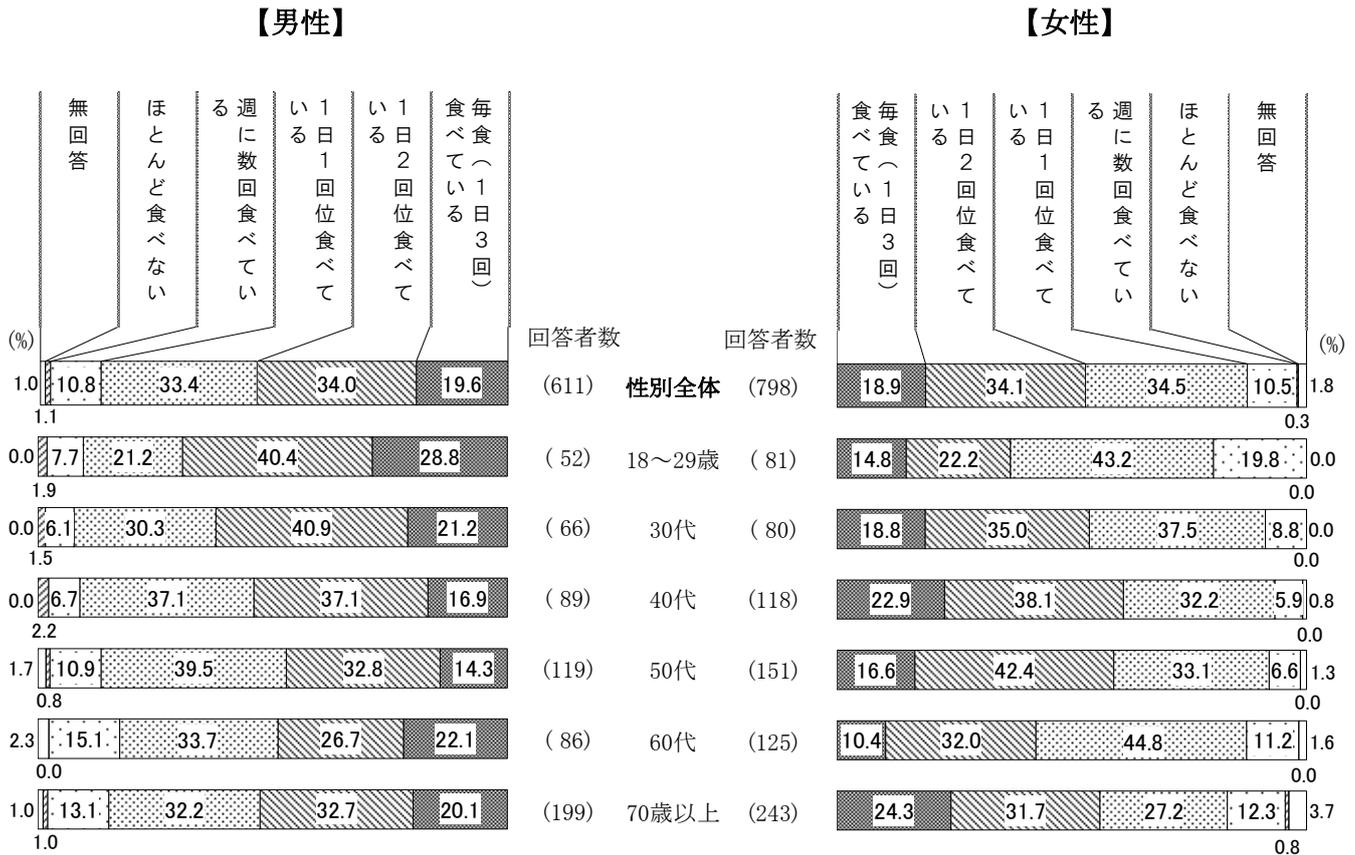


イ クロス集計・性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は男性では18～29歳（28.8%）が最も高く、50代（14.3%）が最も低くなっているが、女性では70歳以上（24.3%）が最も高く、60代（10.4%）が最も低くなっており、男女で年代別の割合に大きな違いが見られる。

図9-5-2 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



（6）仕事と仕事以外の生活の調和

問38 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

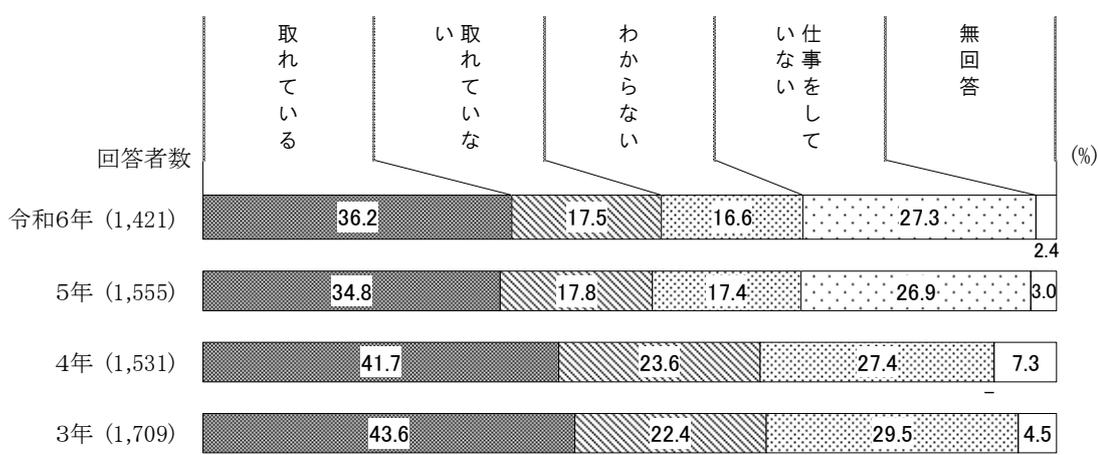
■ 「取れている」が3割台半ば、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば

ア 単純集計・経年比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が36.2%で、「取れていない」（17.5%）と「わからない」（16.6%）がほぼ同じ割合となっている。

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図9-6-1 経年比較／仕事と仕事以外の生活の調和

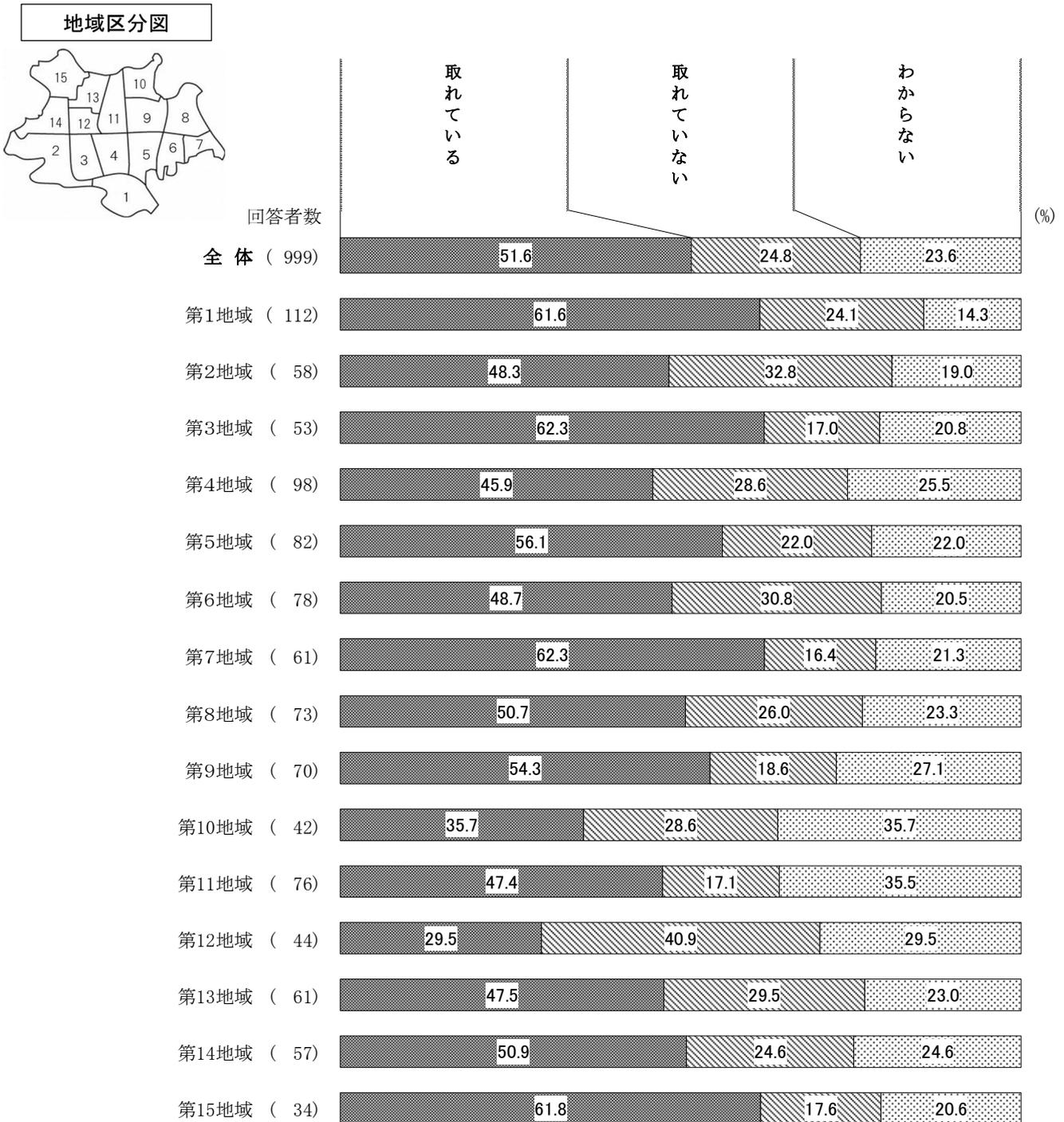


※ 「仕事をしない」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

地域別でみると、「取れている」は第3地域と第7地域が62.3%で最も高く、次いで、第15地域（61.8%）、第1地域（61.6%）が続いている。一方、「取れていない」は第12地域が40.9%で最も高く、次いで、第2地域（32.8%）、第6地域（30.8%）となっている。

図9-6-2 地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和  
 （※本図においては、就業者を母数として再計算している）

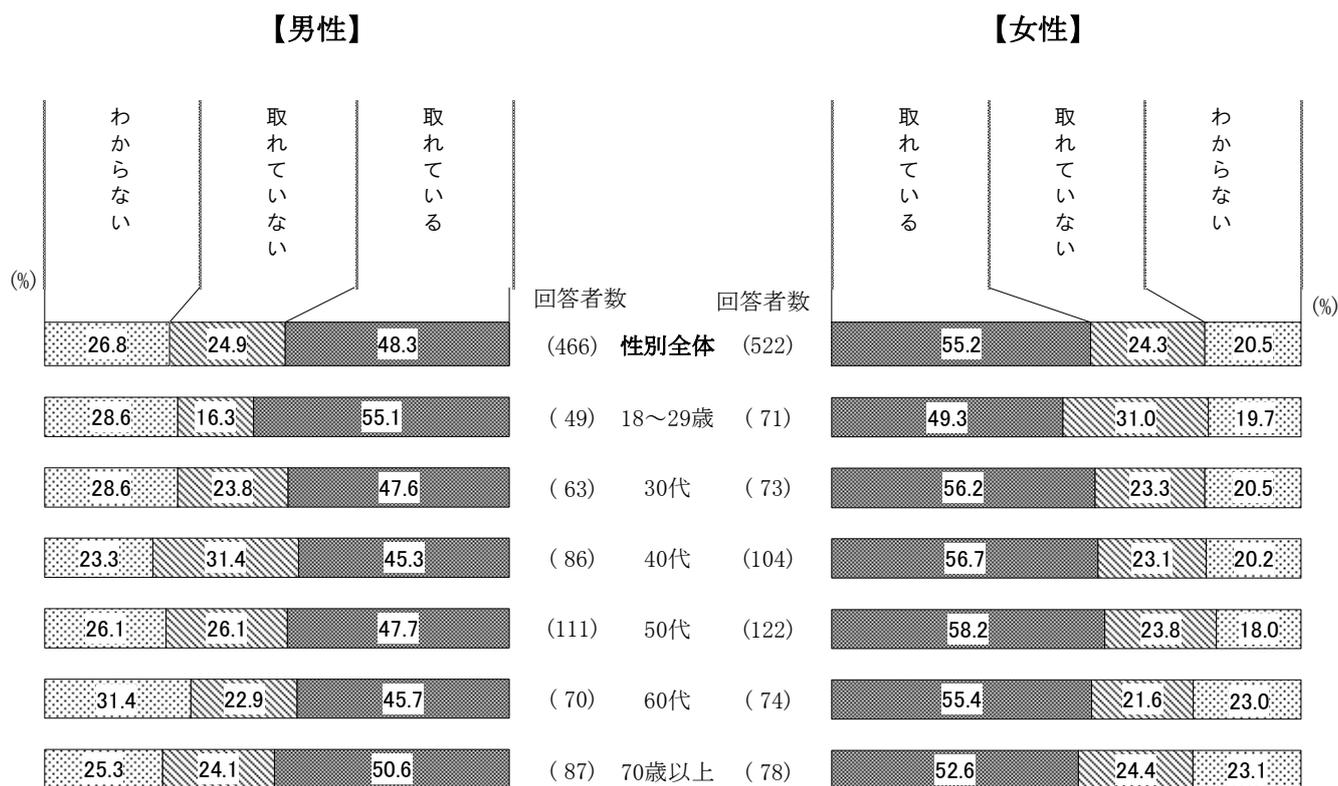


ウ クロス集計・性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

(ア) 性別で見ると、「取れている」は女性（55.2%）の方が男性（48.3%）より6.9ポイント高くなっている。一方、「取れていない」では性差が見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、「取れている」は女性の30代以上の年齢層で5割以上となっており、男性では18～29歳と70歳以上で5割以上となっている。一方、「取れていない」は、男性の40代（31.4%）と女性の18～29歳（31.0%）で3割超と高くなっている。

図9-6-3 性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和  
（※本図においては、就業者を母数として再計算している）



（7）「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問39 あなたは、下記のア、イ、ウについて知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

■【知っている】は〈身体的暴力以外のDV〉が8割台半ば、〈LGBT〉が7割超、〈成年後見制度〉が6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

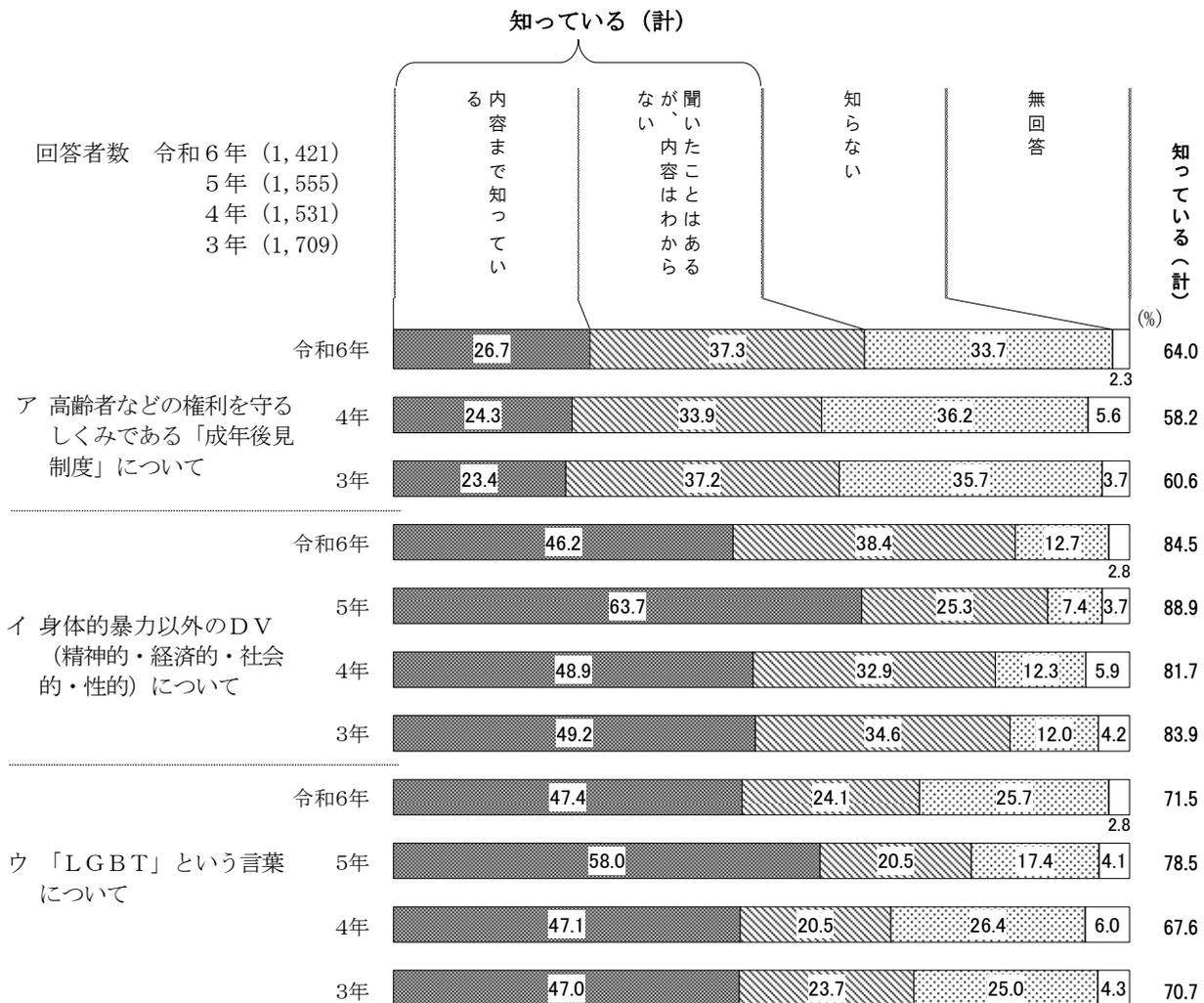
（ア）〈成年後見制度〉は、「内容まで知っている」が26.7%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（37.3%）を合わせた【知っている】は64.0%となっている。

（イ）〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が46.2%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（38.4%）を合わせた【知っている】は84.5%となっている。

（ウ）〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が47.4%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（24.1%）を合わせた【知っている】は71.5%となっている。

（エ）前回調査との比較では、「内容まで知っている」について、〈成年後見制度〉は微増したものの、〈身体的暴力以外のDV〉では17.5ポイント、〈LGBT〉では10.6ポイントの減少となっている。

図9-7-1 経年比較／「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



※「成年後見制度」の設問は、令和3年度以降から聴取しているが、令和5年度では聴取していない

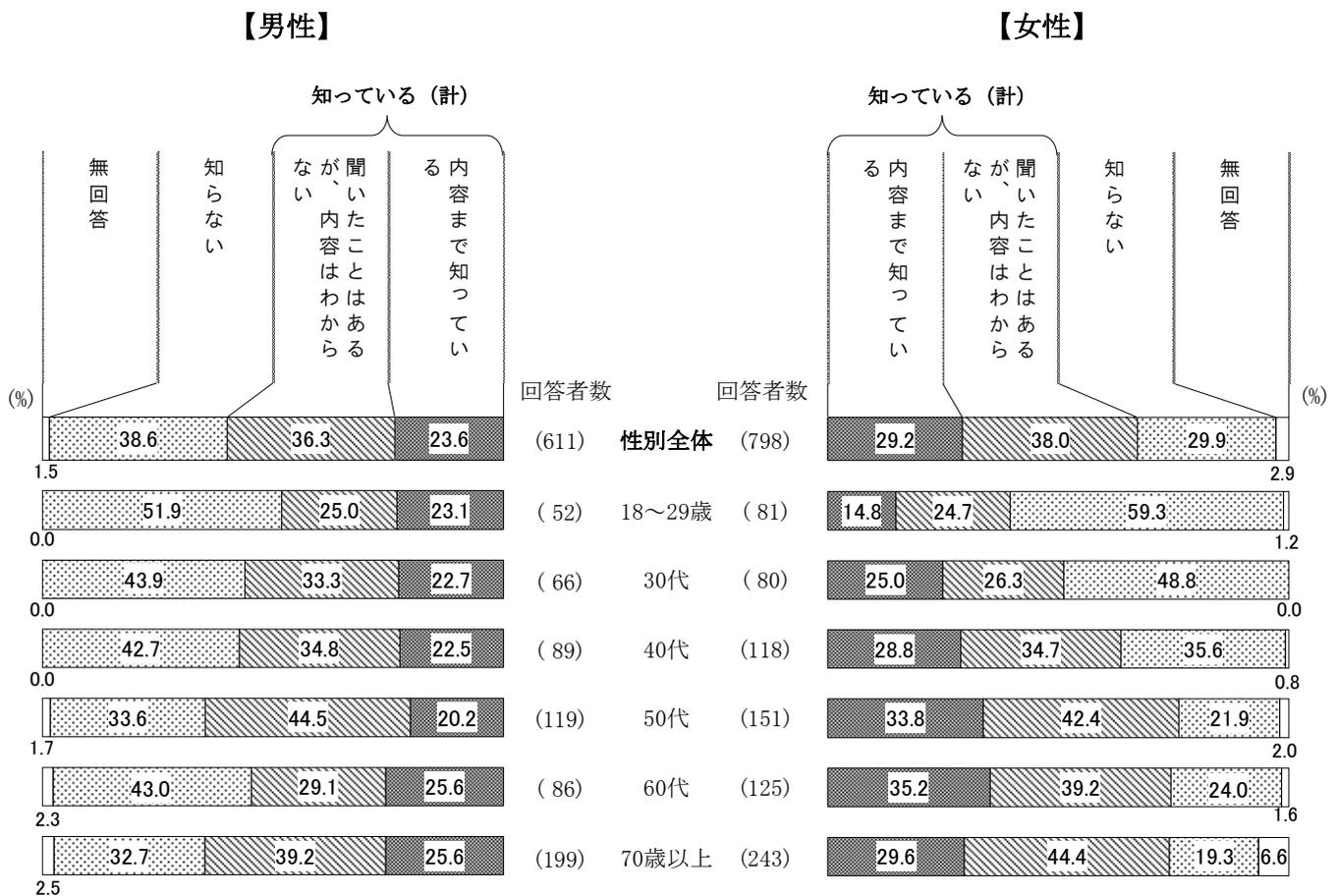
イ クロス集計・性別、性・年代別／成年後見制度について

(ア) 〈成年後見制度〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】は女性（67.2%）の方が男性（59.9%）より7.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の50代で76.2%と最も高く、次いで、女性の60代、70歳以上が7割台半ばと続いている。一方、「知らない」は女性の18～29歳で59.3%と最も高く、男性の18～29歳（51.9%）も5割超で続いている。

図9-7-2-① 性別、性・年代別

／高齢者などの権利を守るしくみである「成年後見制度」について



ウ クロス集計・性別、性・年代別

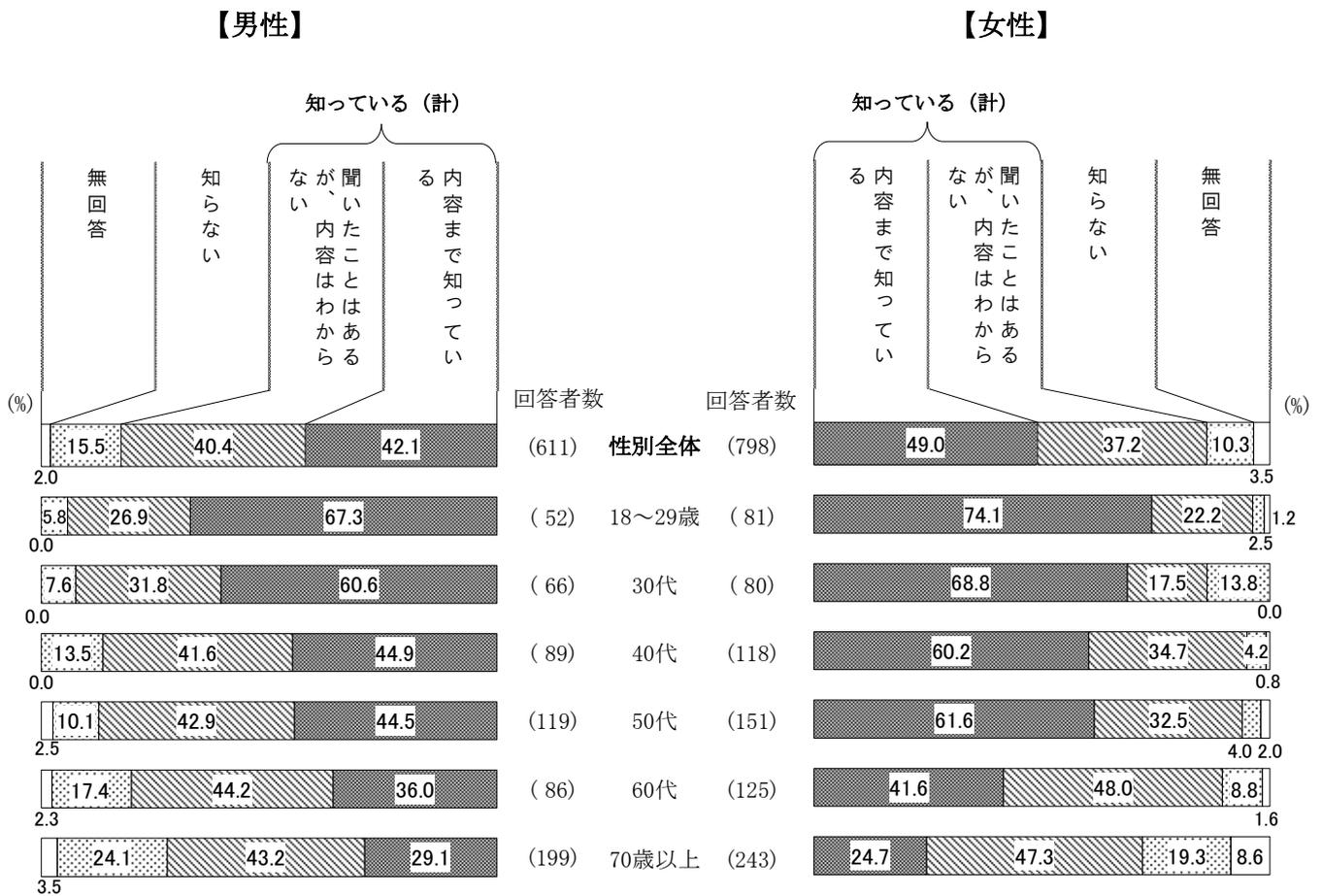
／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

(ア) 〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】は女性（86.2%）の方が男性（82.5%）より3.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の18～29歳で96.3%と最も高く、次いで、女性の40代、50代、男性の18～29歳、30代が9割台で続いている。一方、「知らない」は男性の70歳以上で24.1%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（19.3%）、男性の60代（17.4%）が1割台後半で続いている。

図9-7-2-② 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

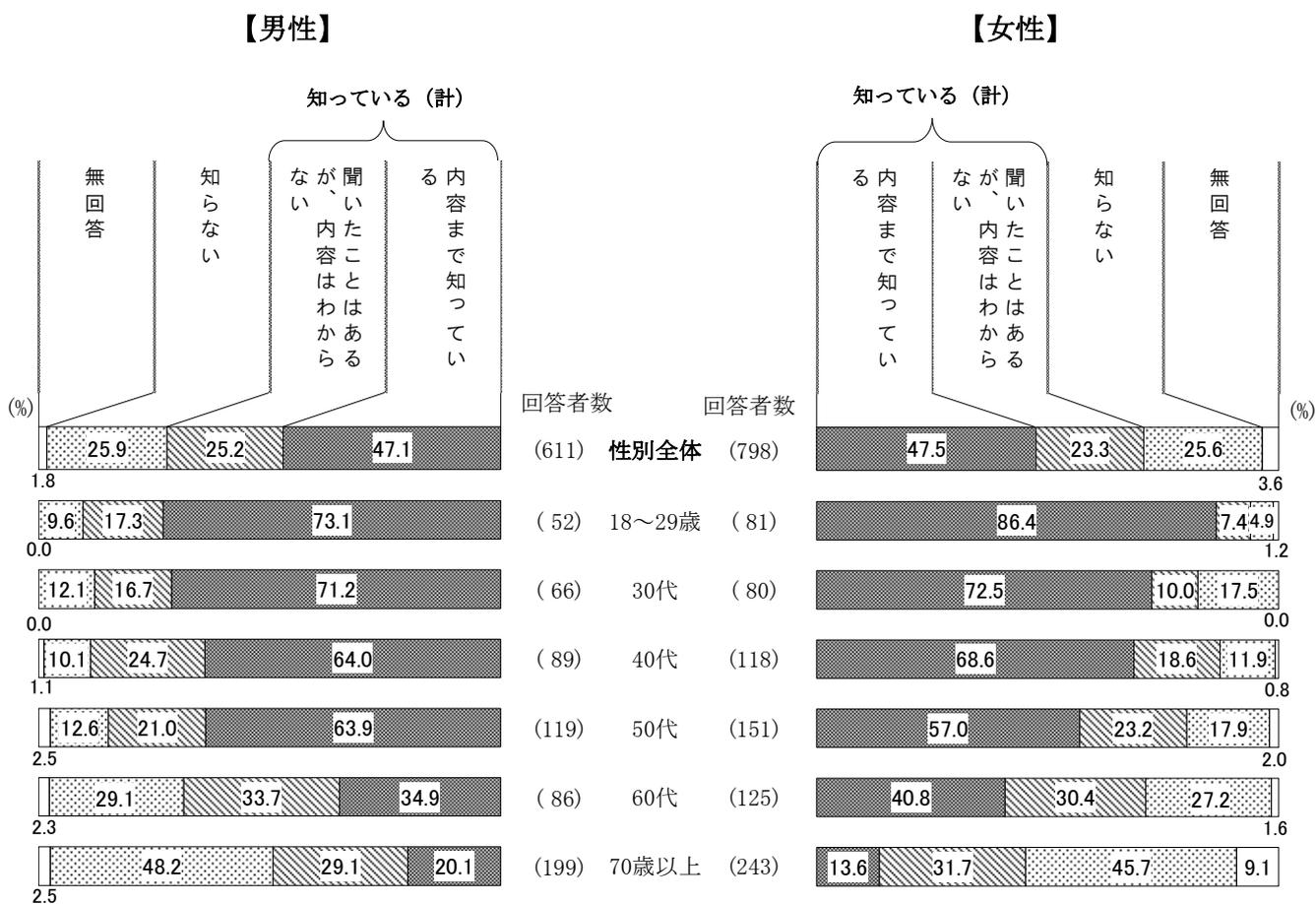


エ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

(ア) 〈LGBT〉の認知状況を性別で見ると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の18～29歳で93.8%と最も高く、次いで、男性の18～29歳（90.4%）となっており、男女とも18～29歳で9割台と高くなっている。一方、「知らない」は、は男性の70歳以上で48.2%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（45.7%）となっており、男女とも70歳で4割台と高くなっている。

図9-7-2-③ 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について



## 10 「協働・協創」・「SDGs」

- 
- (1) 「協創」の認知
  - (2) 協働・協創の実践
  - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
  - (4) SDGsの認知状況
  - (5) SDGsの関心状況
-



## 10 「協働・協創」・「SDGs」

### （1）「協創」の認知

問40 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。  
あなたは、この「協創」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

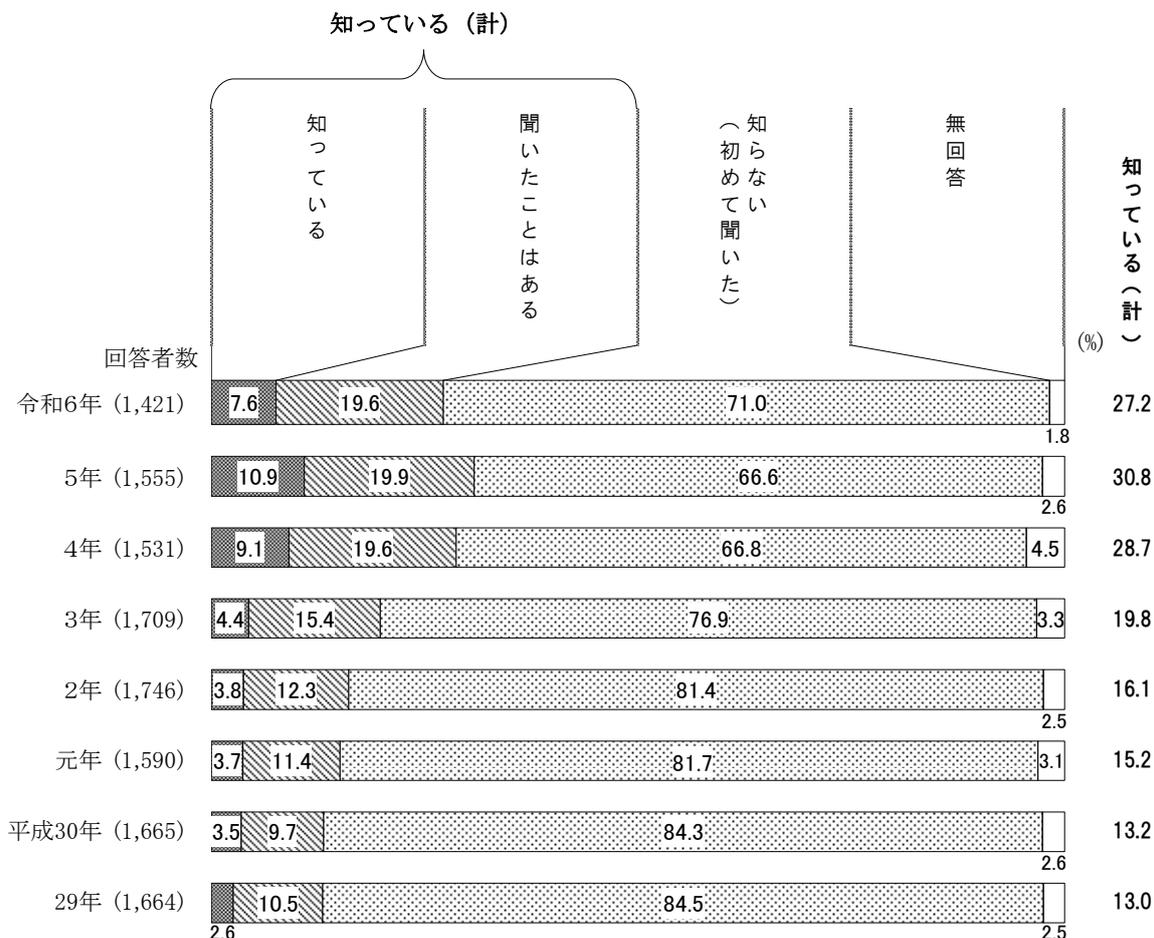
■【知っている】は、前回の3割から3.6ポイント減少

#### ア 単純集計・経年比較／「協創」の認知

（ア）「協創」について「知っている」が7.6%で、これに「聞いたことはある」（19.6%）を合わせた【知っている】は27.2%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は71.0%を占めている。

（イ）前回調査との比較では、「知っている」が3.3ポイント減少し、「知らない（初めて聞いた）」が4.4ポイント増加となっている。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知

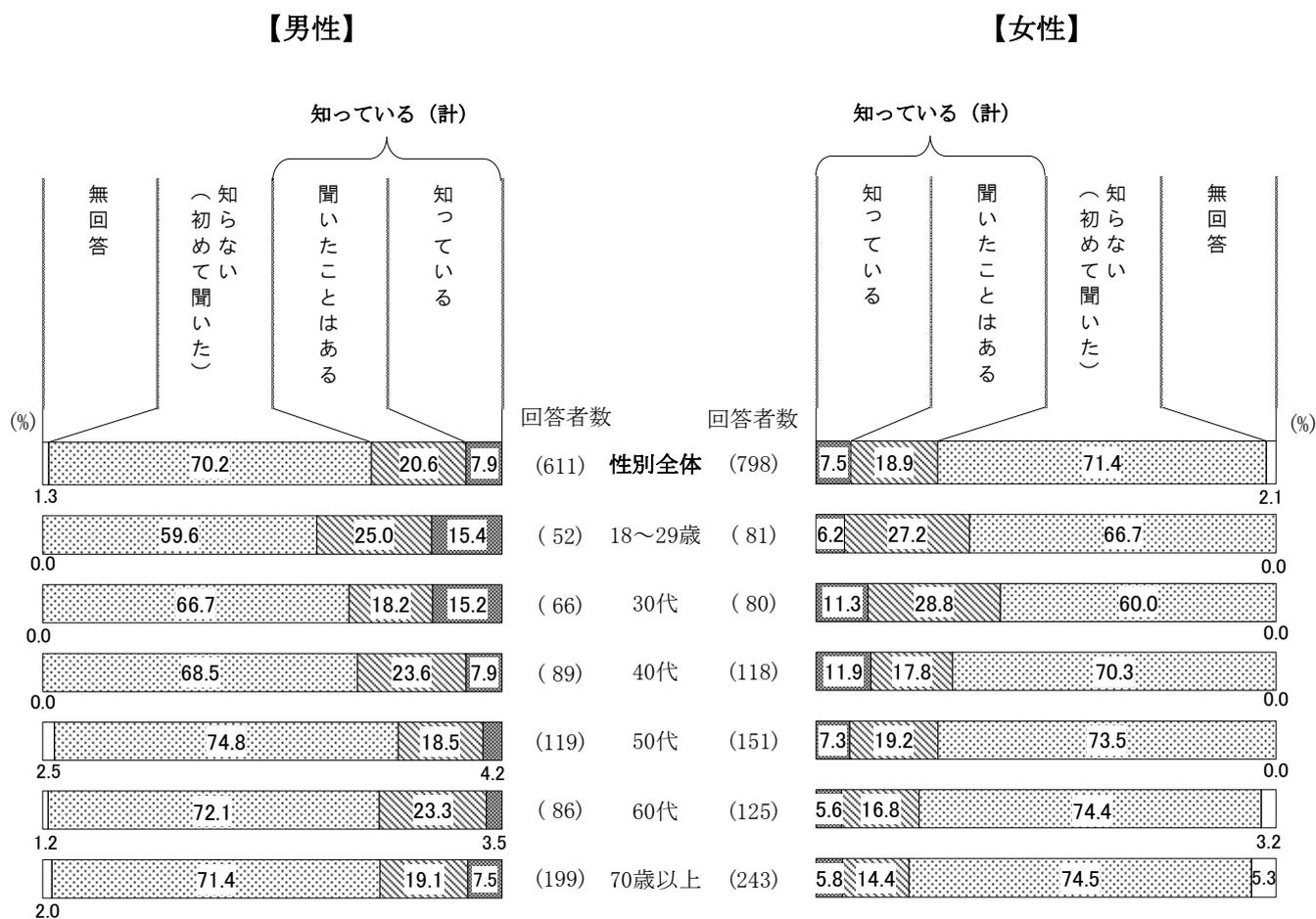


イ クロス集計・性別、性・年代別／「協創」の認知

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、男性の18～29歳で40.4%と最も高く、次いで女性の30代（40.0%）、女性の18～29歳、男性の30代（各33.3%）と続いており、男女とも30代以下の年齢層で高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性では50代以上、女性では40代以上の年齢層で7割台と高くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知



（2）協働・協創の実践

問40で「1 知っている」とお答えの方に

問40-1 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）  
（○は1つだけ）。

■「すでに、活動を実践している」は変わらないものの、「関心はあるが、特に活動していない」が4.9ポイント増加

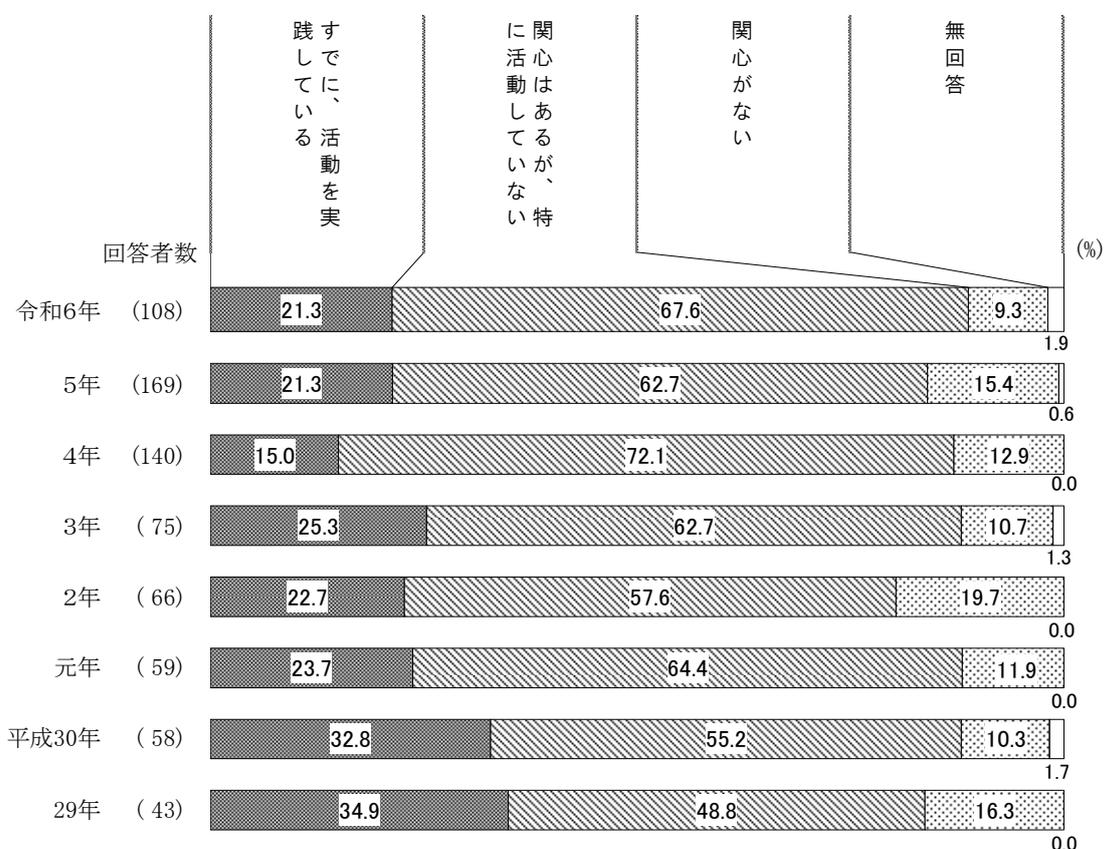
ア 単純集計・経年比較／協働・協創の実践

（ア）「協創」を「知っている」という人の実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が21.3%で、「関心はあるが、特に活動していない」が67.6%で最も高くなっている。

（イ）「協創」を《知っているが、関心がない》は9.3%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、「すでに、活動を実践している」は変わらないものの、「関心はあるが、特に活動していない」が4.9ポイント増加し、《知っているが、関心がない》が6.1ポイント減少している。

図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践



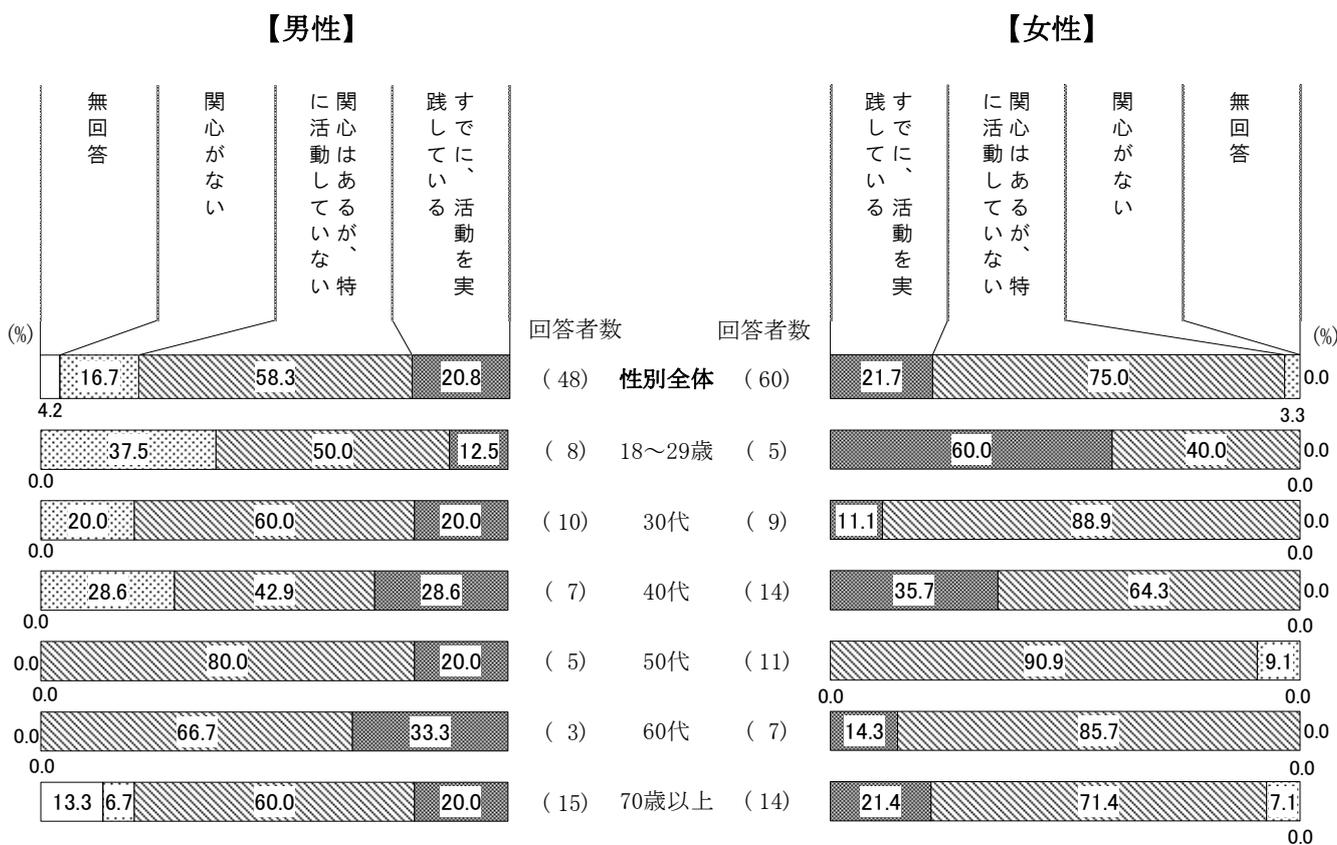
イ クロス集計・性別、性・年代別／協働・協創の実践

(ア) 性別で見ると、「すでに、活動を実践している」に違いは見られないが、「関心はあるが、特に活動していない」は女性（75.0%）の方が男性（58.3%）より16.7ポイント高くなっている。

(イ) 「関心がない」は男性（16.7%）の方が女性（3.3%）より13.4ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別では、すべての性・年代層でサンプル数が30未満のため、参考のために図示のみとし、コメントは割愛する。

図10-2-2 性別、性・年代別／協働・協創の実践



(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

問41 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）  
 （○は1つだけ）。

■【そう思う】（3割弱）が【そう思わない】を上回っているものの、「わからない」が5割弱

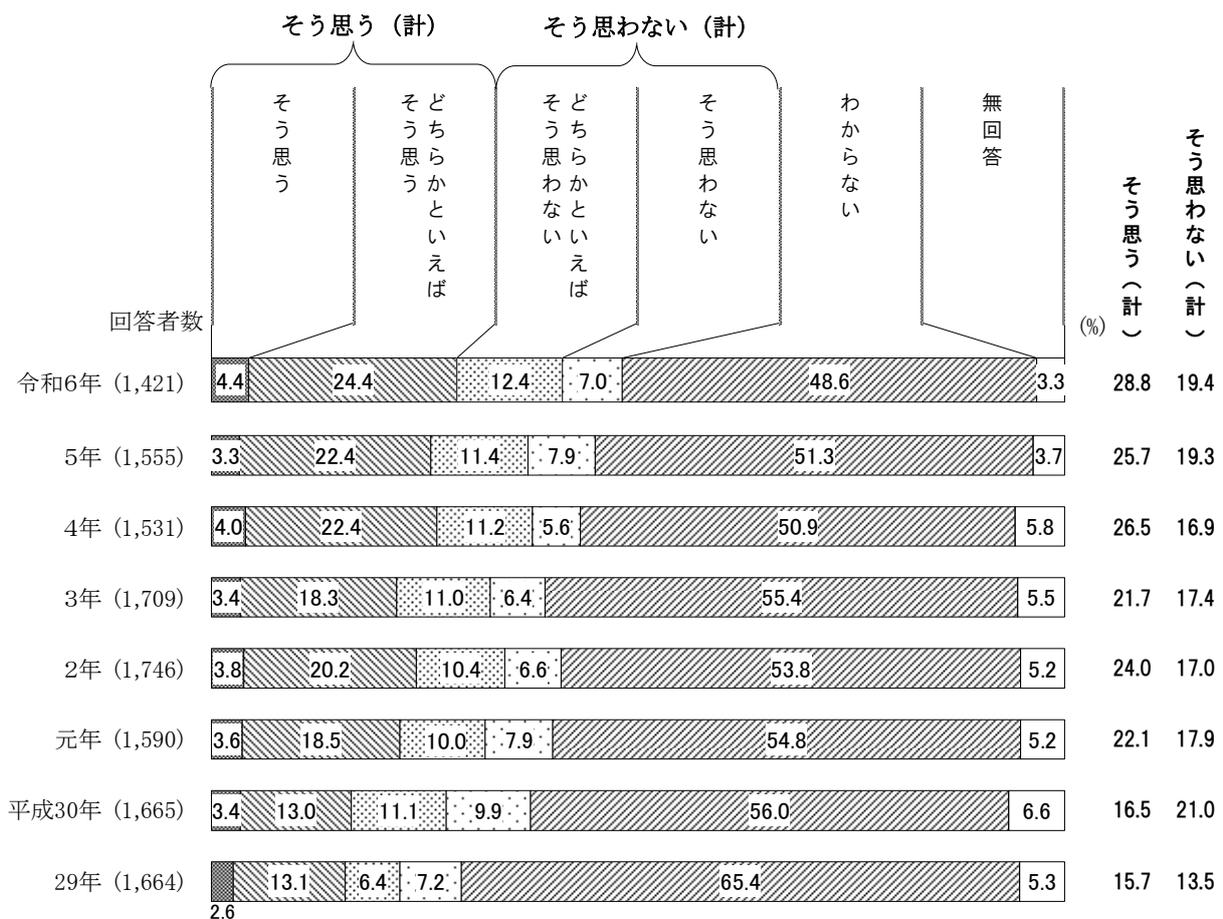
ア 単純集計・経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が4.4%で、これに「どちらかといえばそう思う」（24.4%）を合わせた【そう思う】は3割弱となっている。

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」（12.4%）と「そう思わない」（7.0%）を合わせた【そう思わない】は約2割となっている。一方、「わからない」（48.6%）が全体の半数近くを占めている。

(ウ) 前回調査との比較では、【そう思う】が3.1ポイント増加している。

図 10-3-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



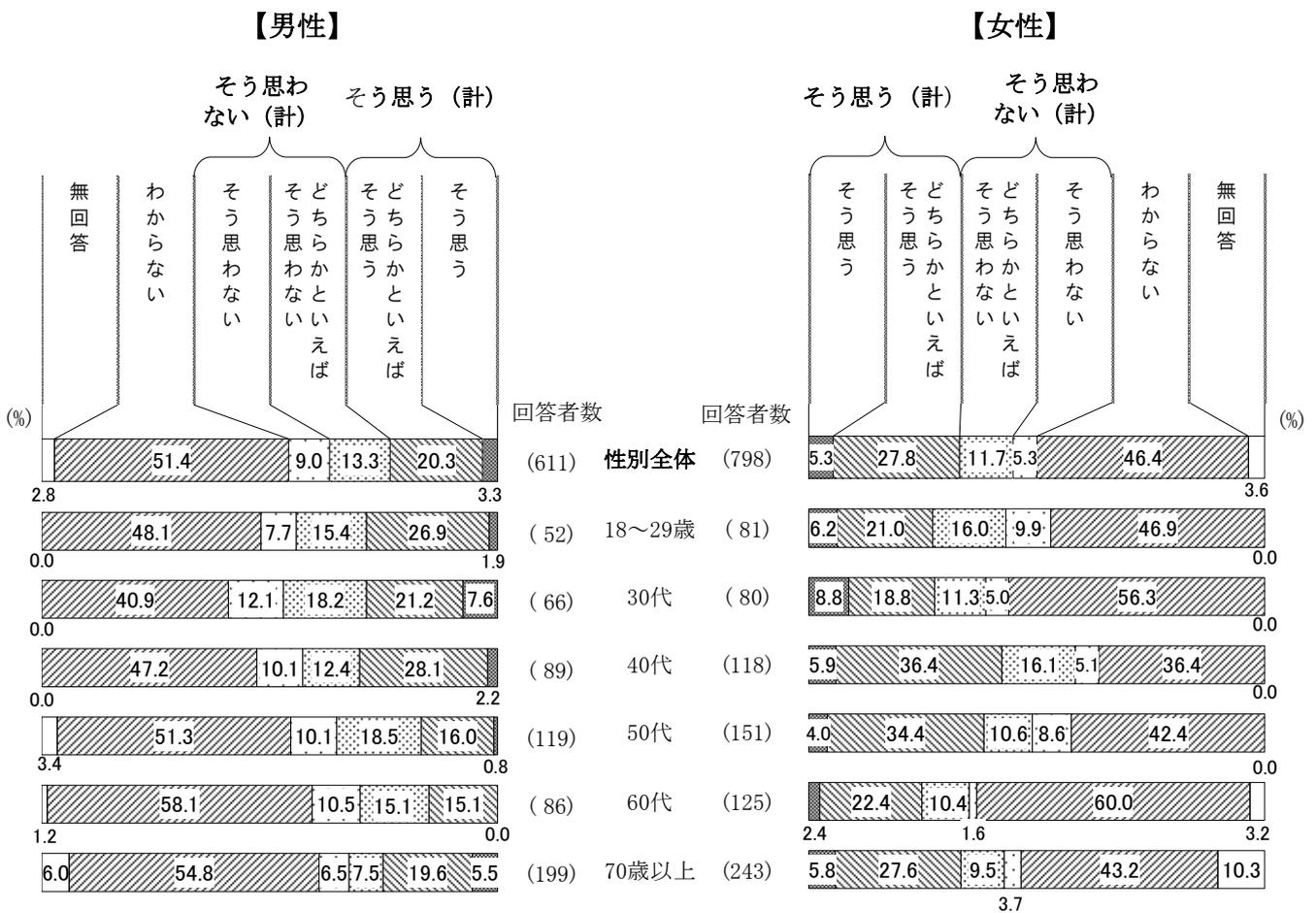
※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部表現が変更になるとともに「子どもの貧困対策」が追加挿入された。さらに、令和2年度には設問文の一部が現在の設問文に変更された。

イ クロス集計・性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別でみると、【そう思う】は女性（33.1%）の方が男性（23.6%）より9.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は女性の40代で42.4%と最も高く、次いで、女性の50代と70歳以上、男性の40代が3割台で続いている。一方、【そう思わない】は男性の30代が30.3%と最も高く、次いで、男性の50代が3割弱となっている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



（4）SDGsの認知状況

問42 あなたは、SDGsについて知っていますか（○は1つだけ）。

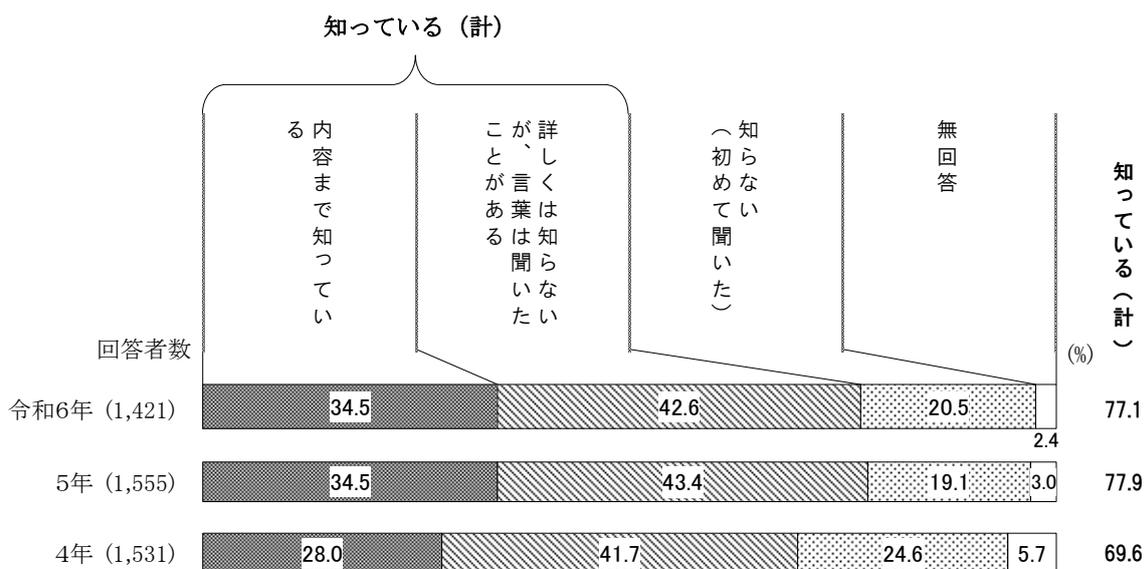
※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

■「内容まで知っている」が3割台半ば、【知っている】が7割台半ば超で変化なし

ア 単純集計・経年比較／SDGsの認知状況

- （ア）SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が42.6%で最も高く、これに「内容まで知っている」（34.5%）を合わせた【知っている】は7割台半ばを超える。一方、「知らない（初めて聞いた）」は20.5%となっている。
- （イ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図10-4-1 経年比較／SDGsの認知状況

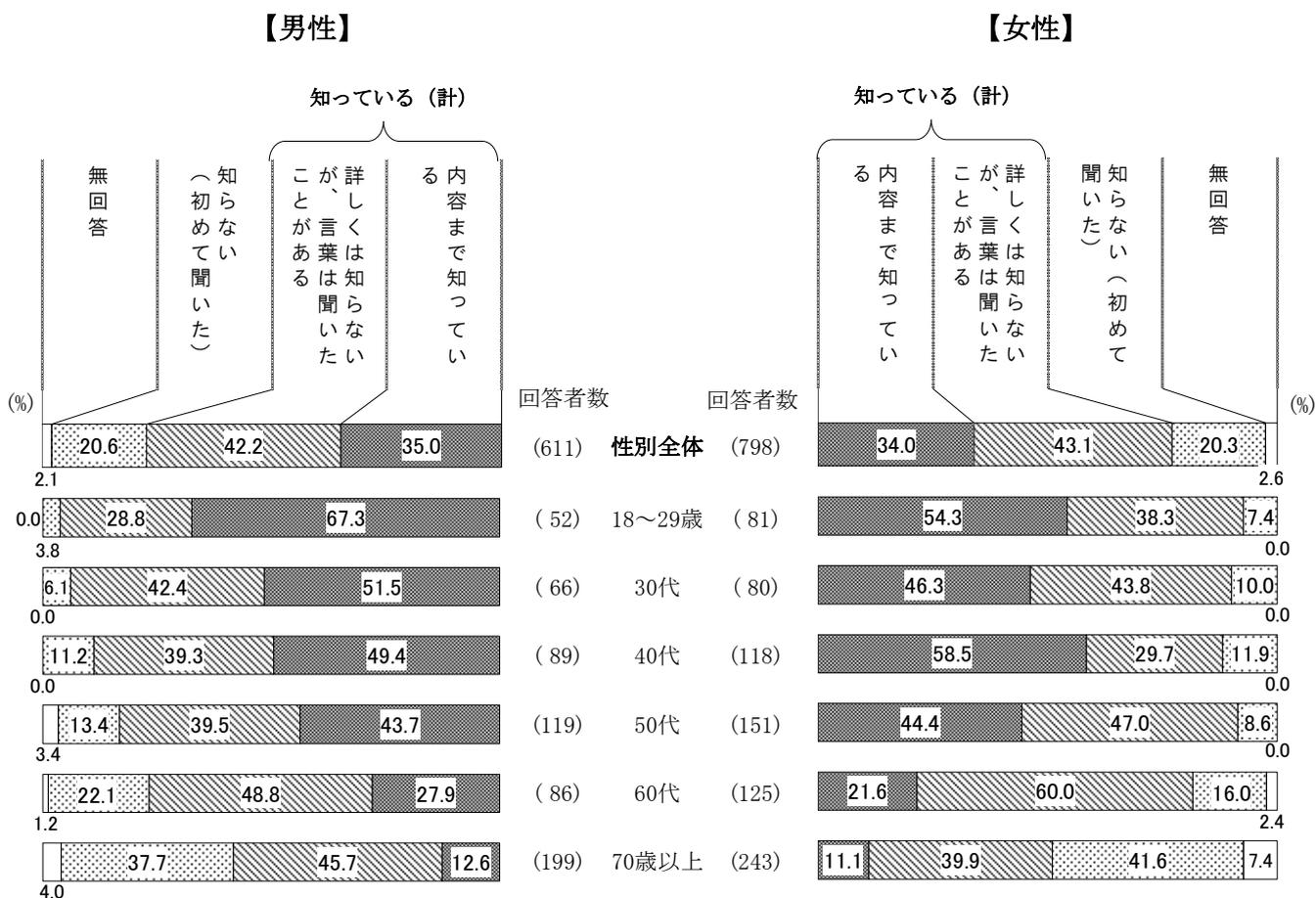


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの認知状況

(ア) SDGsの認知について性別で見ると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、「内容まで知っている」は、男性の18～29歳で67.3%と特に高くなっており、次いで、女性の40代（58.5%）、18～29歳（54.3%）、男性の30代（51.5%）などとなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男女とも70歳以上（男性37.7%：女性41.6%）で高くなっている。

図10-4-2 性別、性・年代別／SDGsの認知状況



（5）SDGsの関心状況

問43 あなたは、SDGsに関心がありますか（○は1つだけ）。

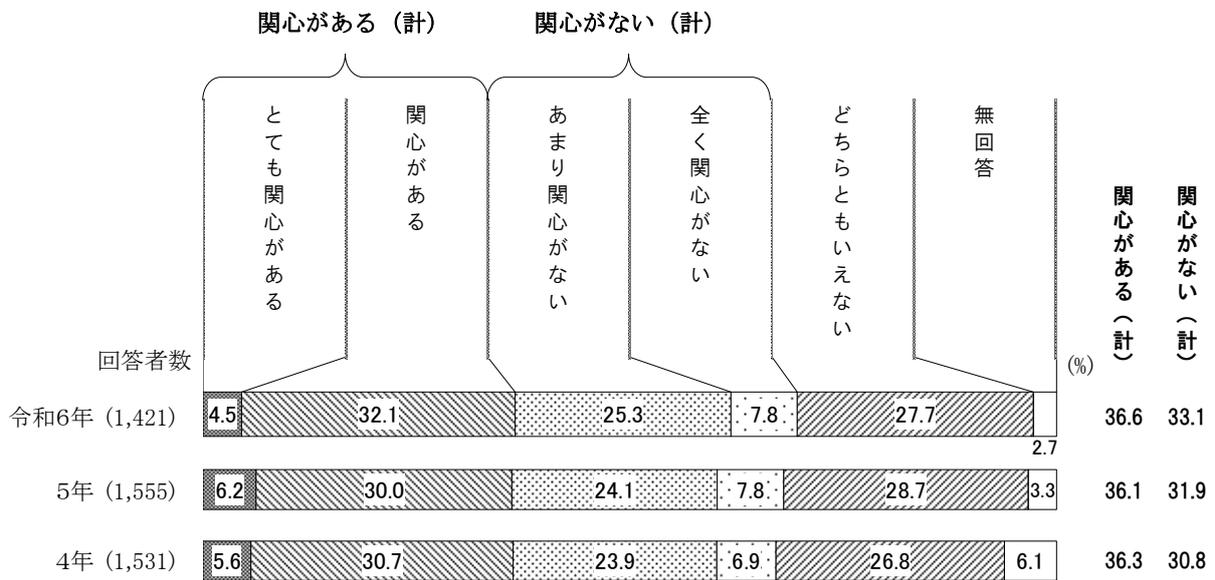
■【関心がある】が3割台半ばで、【関心がない】の3割半ば近くを上回る

ア 単純集計・経年比較／SDGsの関心状況

（ア）SDGsへの関心状況については、「関心がある」が32.1%で最も高く、これに「とても関心がある」（4.5%）を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」（25.3%）と「全く関心がない」（7.8%）を合わせた【関心がない】は3割台半ば近くとなる。また、「どちらともいえない」は27.7%となっている。

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図 10-5-1 経年比較／SDGsの関心状況

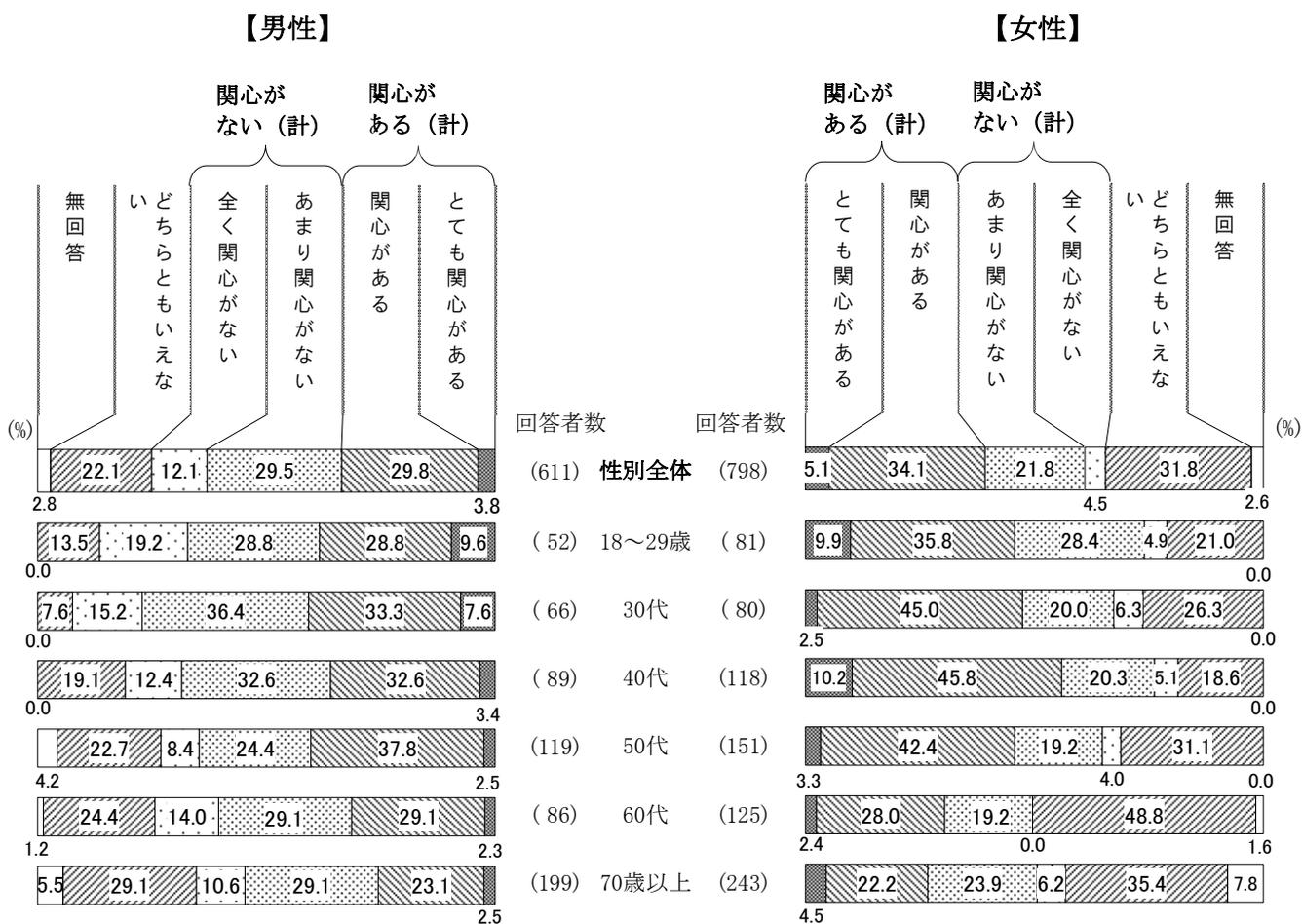


イ クロス集計・性別、性・年代別／SDGsの関心状況

(ア) SDGsの関心状況について性別で見ると、【関心がある】は、女性（39.2%）の方が男性（33.6%）より5.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【関心がある】は、女性の40代が55.9%で最も高く、次いで、女性の30代（47.5%）、18～29歳と50代（各45.7%）が4割台半ばで続いている。一方、【関心がない】は、男性の30代が51.5%と最も高く、次いで、男性の18～29歳（48.1%）、40代（44.9%）などとなっている。

図10-5-2 性別、性・年代別／SDGsの関心状況



## 11 区の取り組み

- 
- (1) 区に対する気持ち
  - (2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）
  - (3) 区を良いまちにするための行動
  - (4) 区の取り組みで満足している分野
  - (5) 区の取り組みで不満の分野
  - (6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）
  - (7) 区政に対する満足度
  - (8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野
  - (9) 区政への区民意見の反映度
  - (10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
  - (11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-



## 11 区の取り組み

### (1) 区に対する気持ち

問44 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか（○はそれぞれ1つつ）。

■「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」が7割半ば近く、「足立区に愛着」が7割超

#### ア 単純集計・経年比較／区に対する気持ち

(ア) 区に対する気持ちについて計5項目にわたって聴いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ① 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(73.0%)
- ② 〈足立区に愛着をもっている〉(71.8%)
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(49.9%)
- ④ 〈足立区を人に勧めたい〉(44.4%)
- ⑤ 〈足立区に誇りをもっている〉(43.5%)

(イ) 前回調査と比較すると、5項目のすべてで【そう思う】が増加し、【そう思わない】が減少している。【そう思う】の増加幅が大きい順にみると、以下のとおりとなっている。

- ① 〈足立区に誇りをもっている〉(+5.9ポイント)
- ② 〈足立区を人に勧めたい〉(+4.8ポイント)
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(+4.4ポイント)
- ④ 〈足立区に愛着をもっている〉(+3.8ポイント)
- ⑤ 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(+3.2ポイント)

図11-1-1-① 経年比較／区に対する気持ち

ア 足立区に愛着をもっている

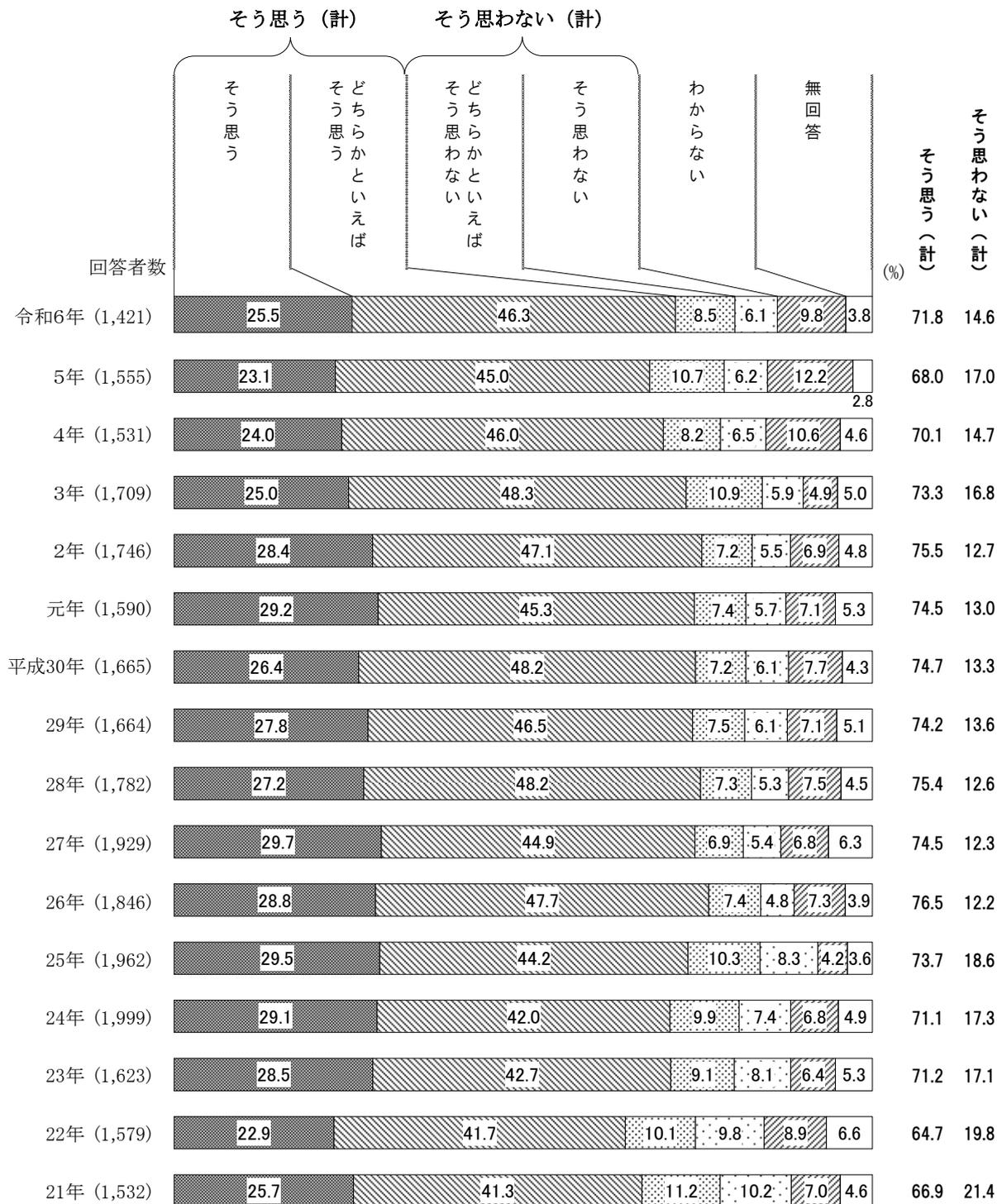


図11-1-1-② 経年比較/区に対する気持ち

イ 足立区に誇りをもっている

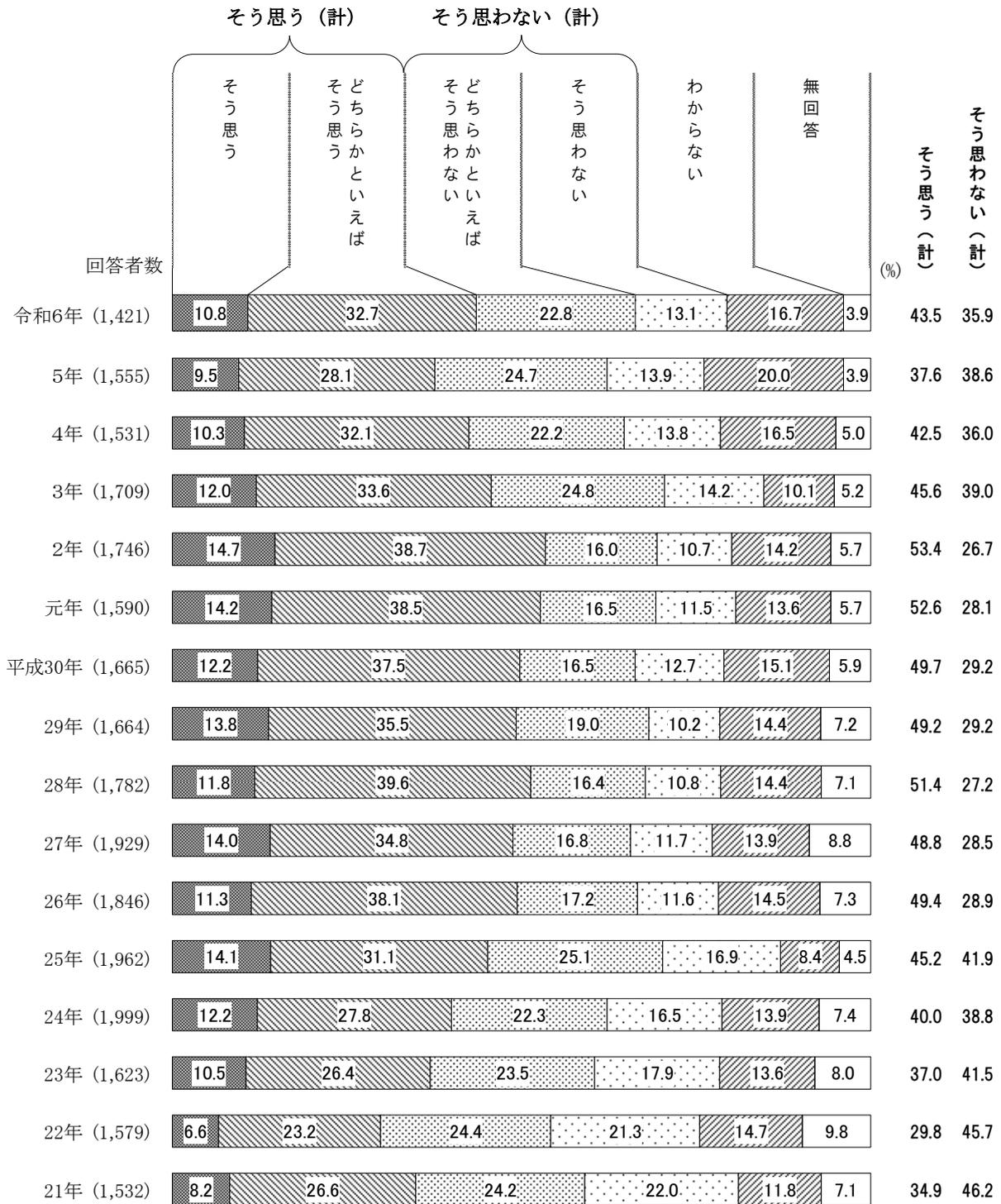


図11-1-1-③ 経年比較／区に対する気持ち

ウ 足立区を人に勧めたい

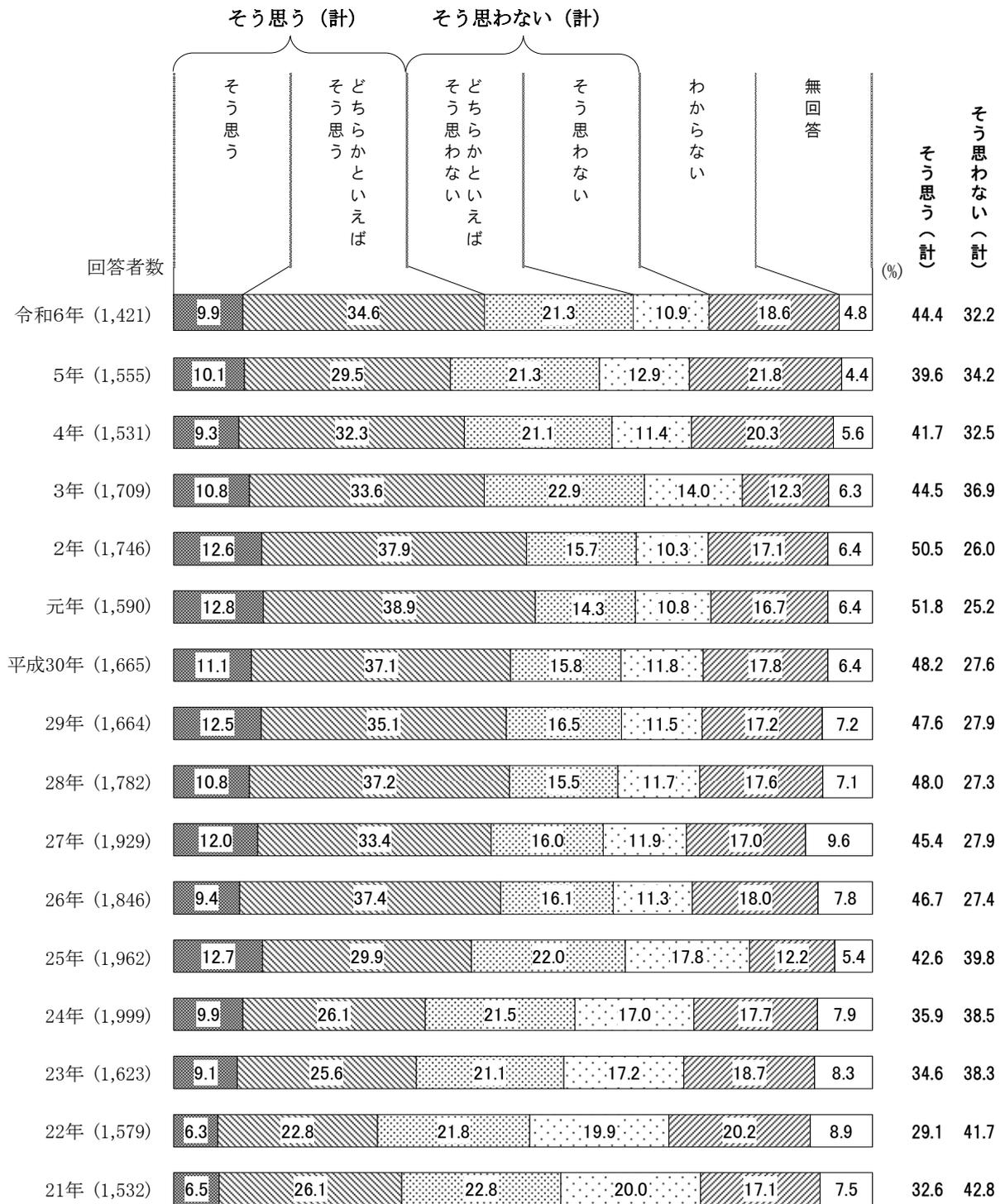


図11-1-1-④ 経年比較/区に対する気持ち

エ 足立区を良いまちにするために何かしたい

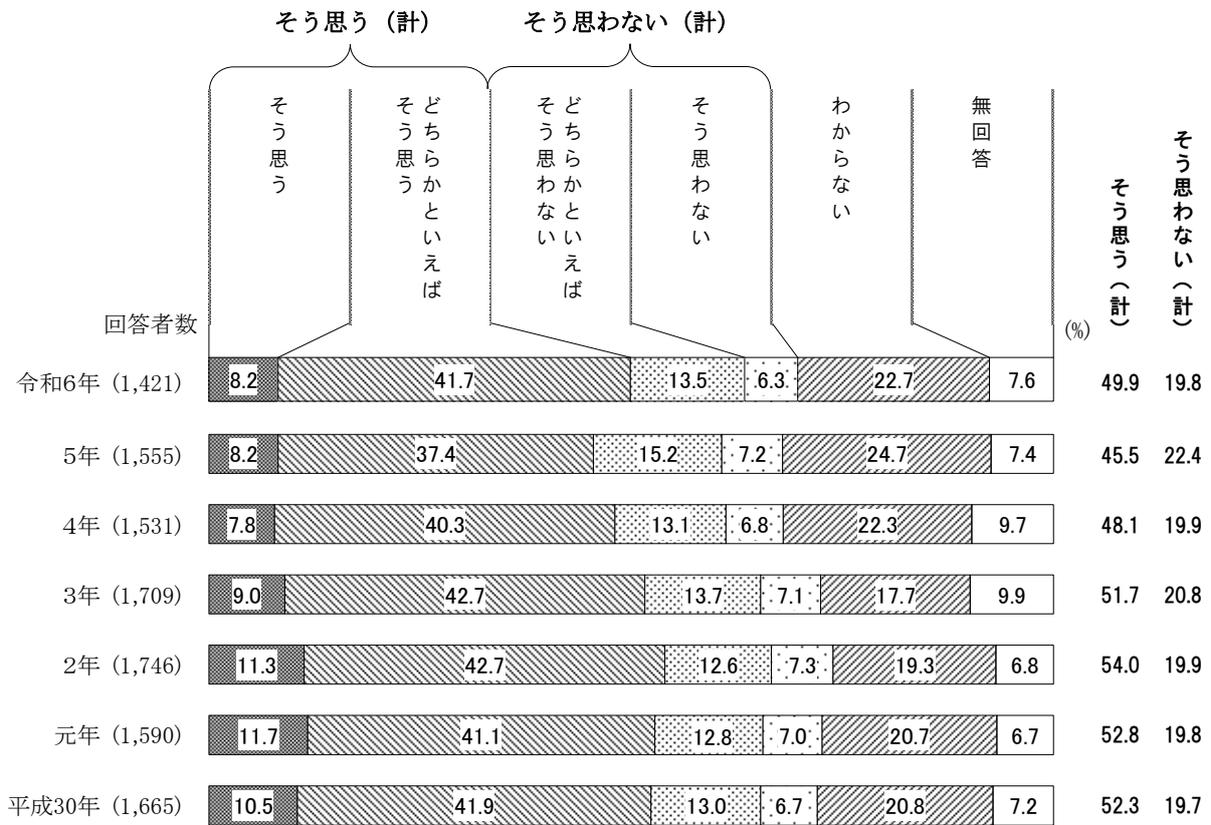
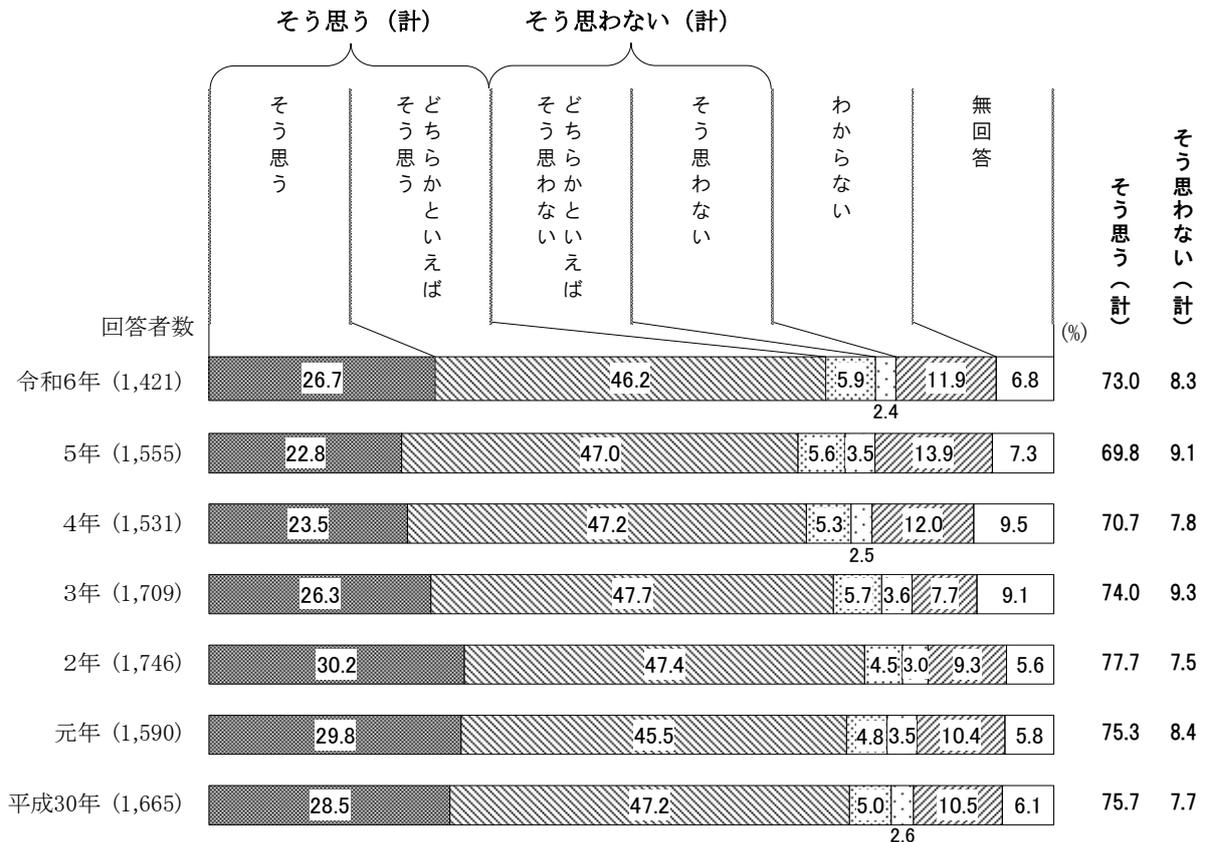


図11-1-1-⑤ 経年比較/区に対する気持ち

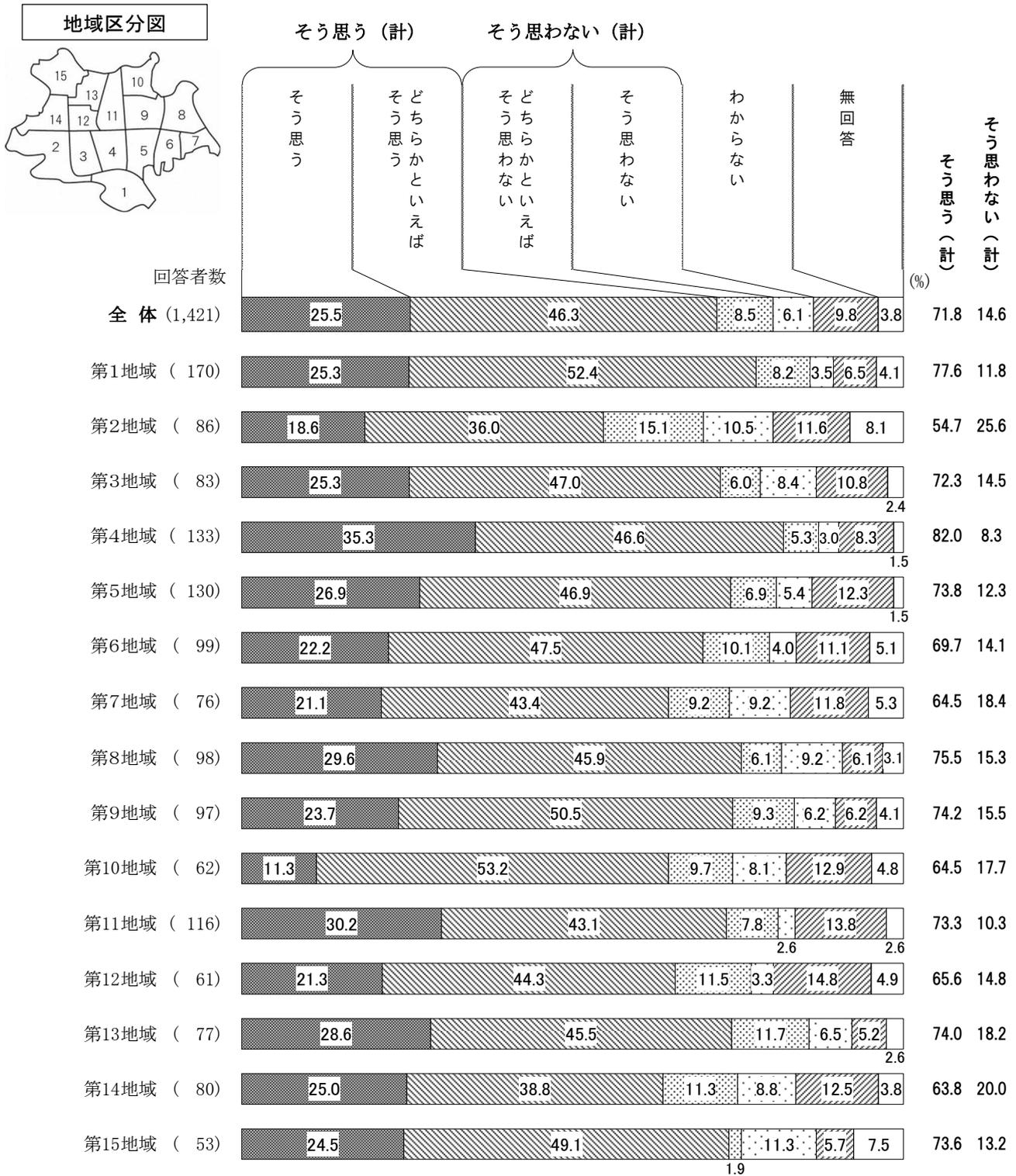
オ 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



イ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉を地域別で見ると、【そう思う】は第4地域が82.0%で最も高く、次いで第1地域、第8地域が7割台後半が続いている。一方、【そう思わない】は、第2地域が25.6%で最も高く、次いで第14地域が2割となっている。

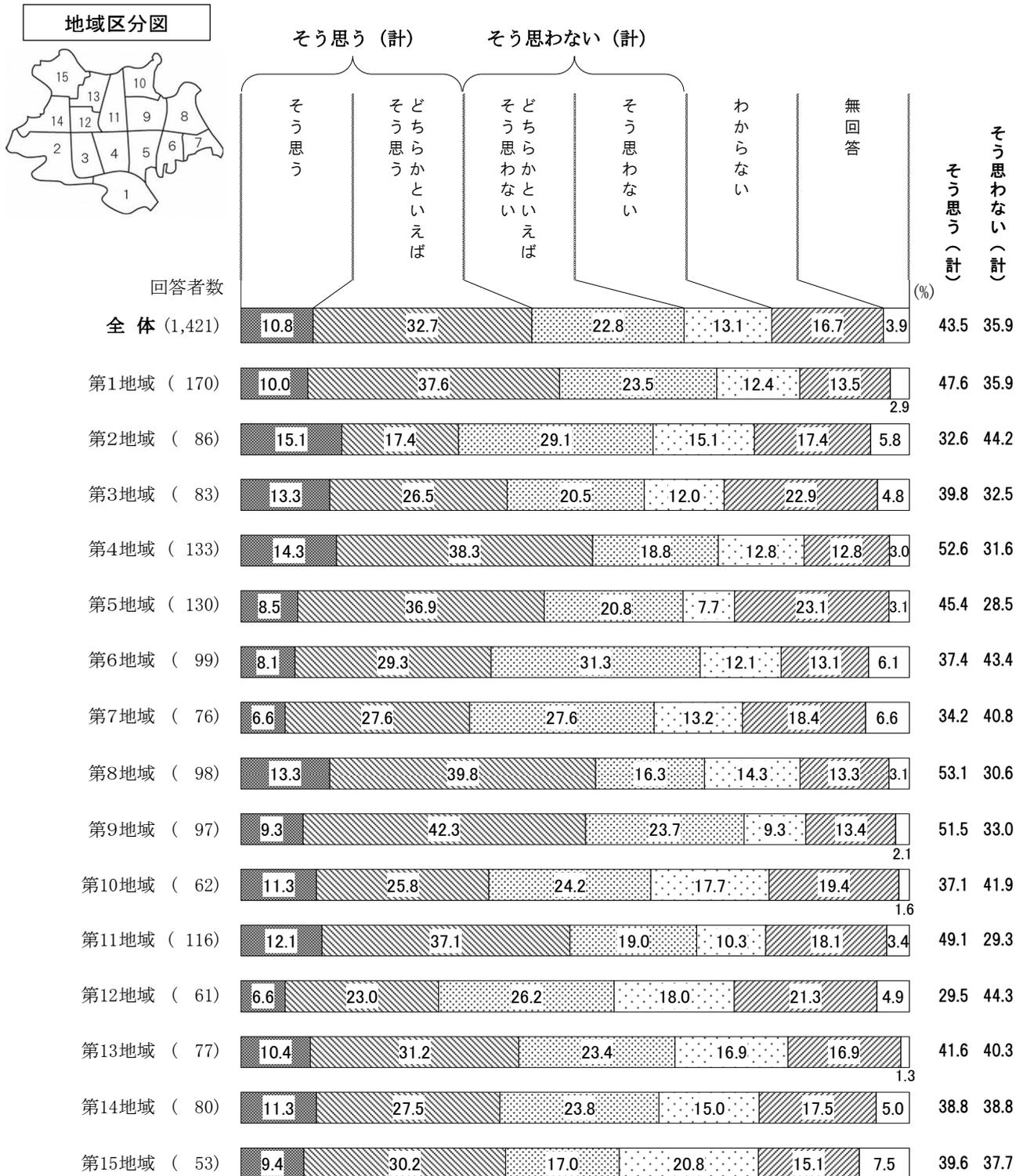
図11-1-2-① 地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ウ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉を地域別で見ると、【**そう思う**】は第8地域が53.1%で最も高く、次いで第4地域、第9地域が5割台で続いている。一方、【**そう思わない**】は、第12地域が44.3%で最も高く、次いで第2地域、第6地域が4割台半ばとなっている。

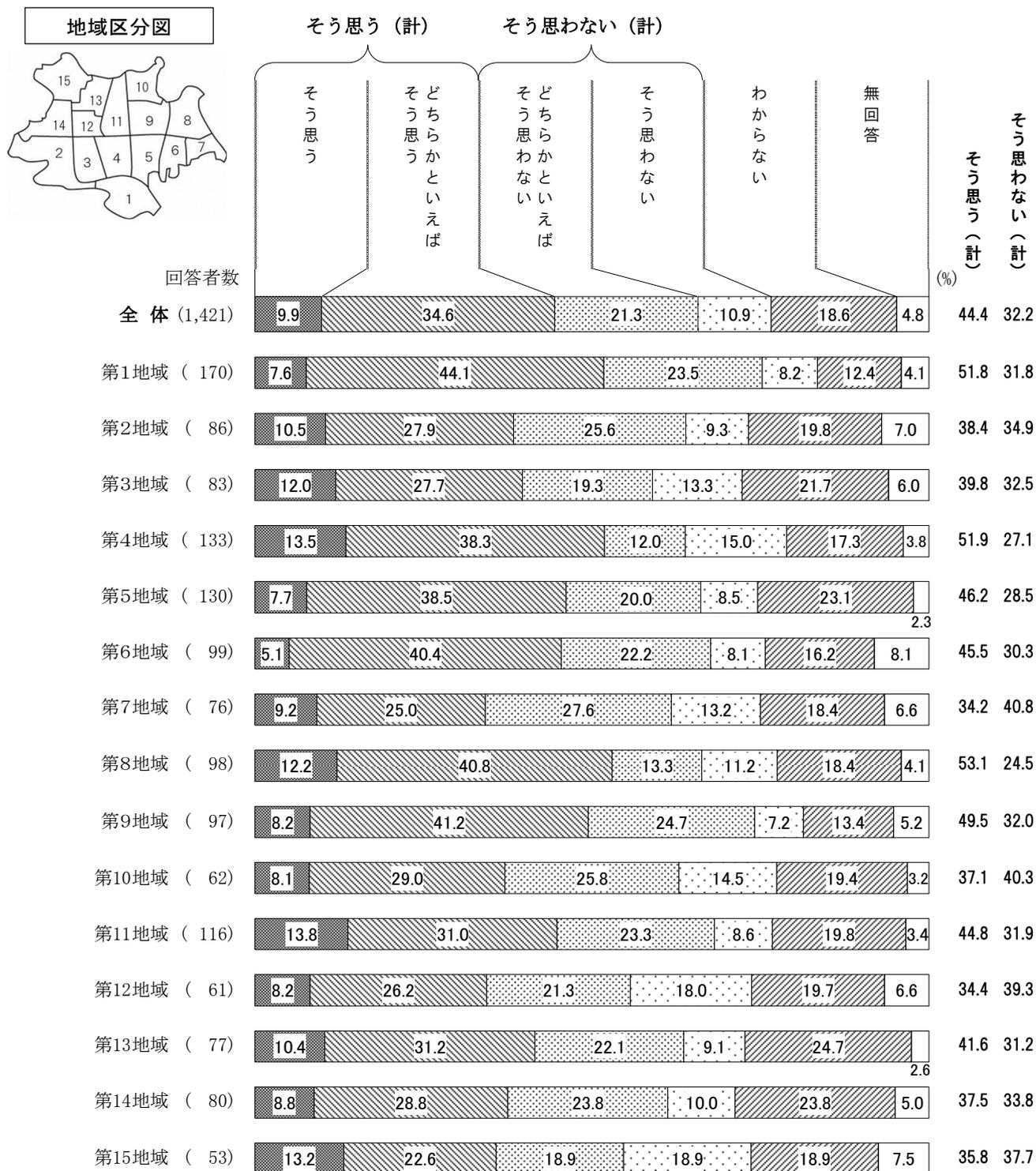
図11-1-2-② 地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



エ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉を地域別で見ると、【そう思う】は第8地域が53.1%で最も高く、次いで第4地域、第1地域が5割台で続いている。一方、【そう思わない】は第7地域が40.8%で最も高く、次いで第10地域、第12地域が4割前後で続いている。

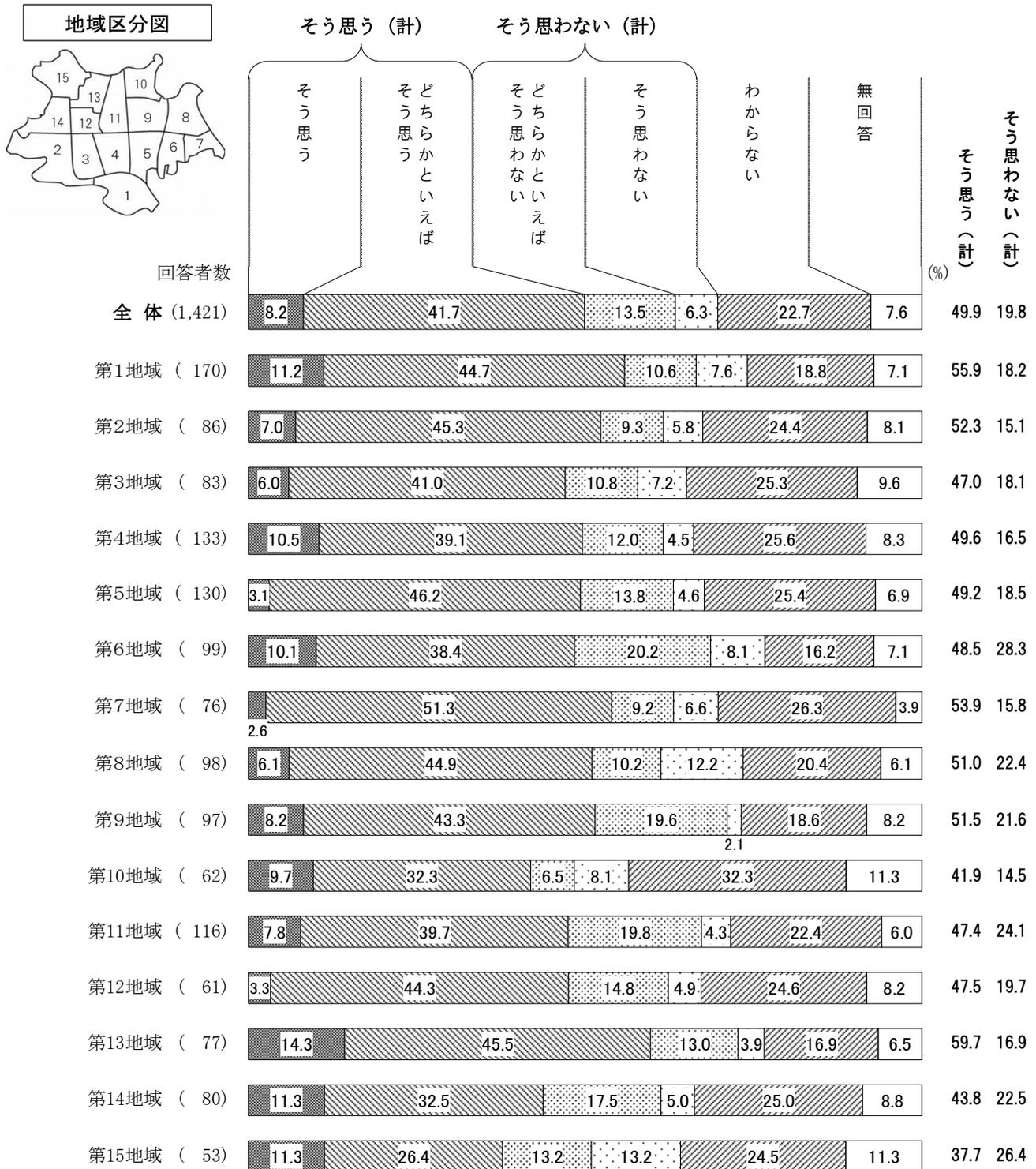
図11-1-2-③ 地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



オ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を地域別で見ると、【そう思う】は第13地域が59.7%で最も高く、次いで第1地域、第7地域が5割台半ばで続いている。一方、【そう思わない】は第6地域が28.3%で最も高く、次いで第15地域、第11地域が2割台半ばで続いている。

図11-1-2-④ 地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



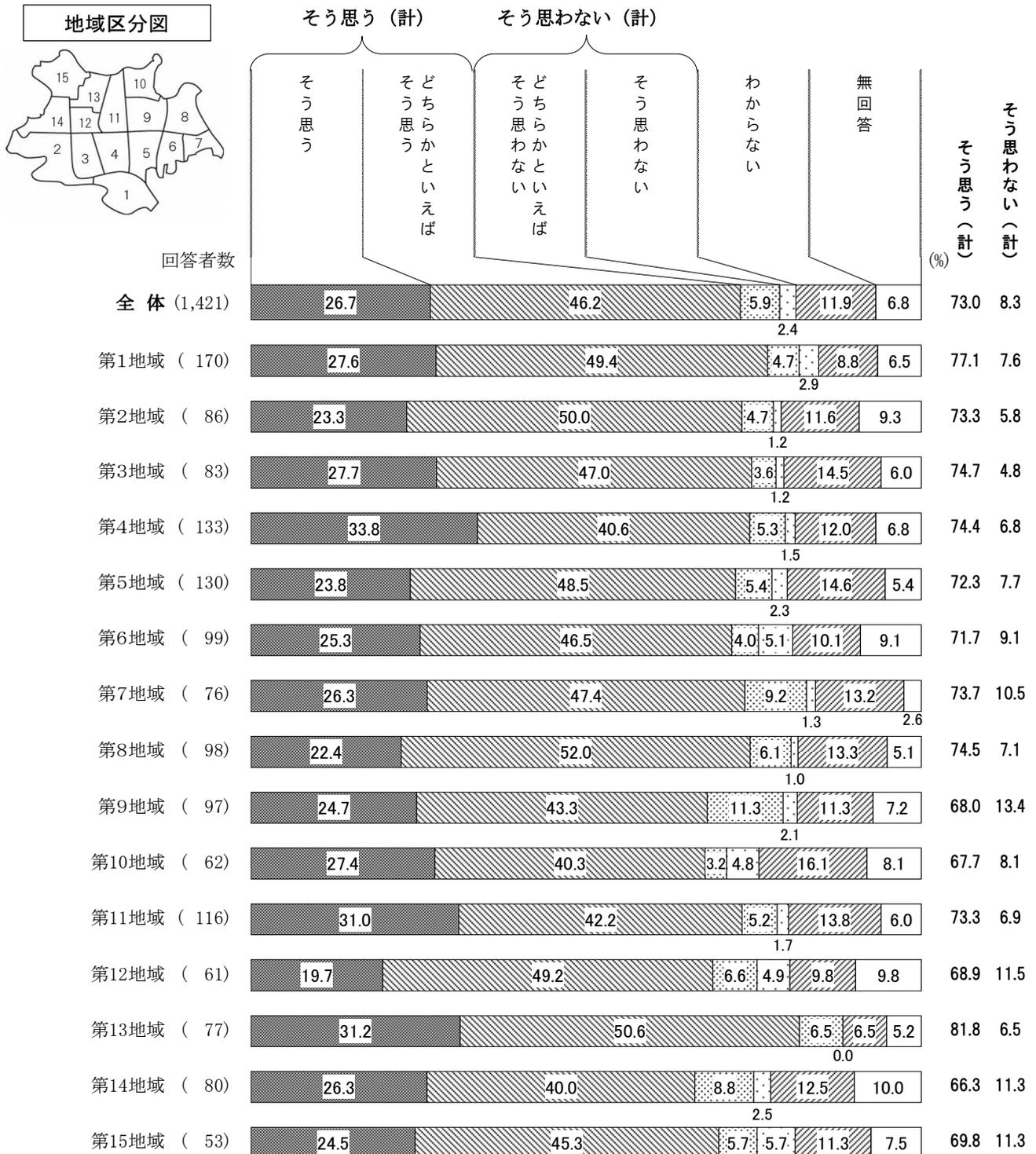
カ クロス集計・地域別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を地域別でみると、【**そう思う**】は第13地域が81.8%で最も高く、次いで、第1地域、第3地域、第8地域、第4地域が続いている。一方、【**そう思わない**】は第9地域が13.4%で最も高く、次いで第12地域、第14地域、第15地域、第7地域が1割台が続いている。

図11-1-2-⑤ 地域別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

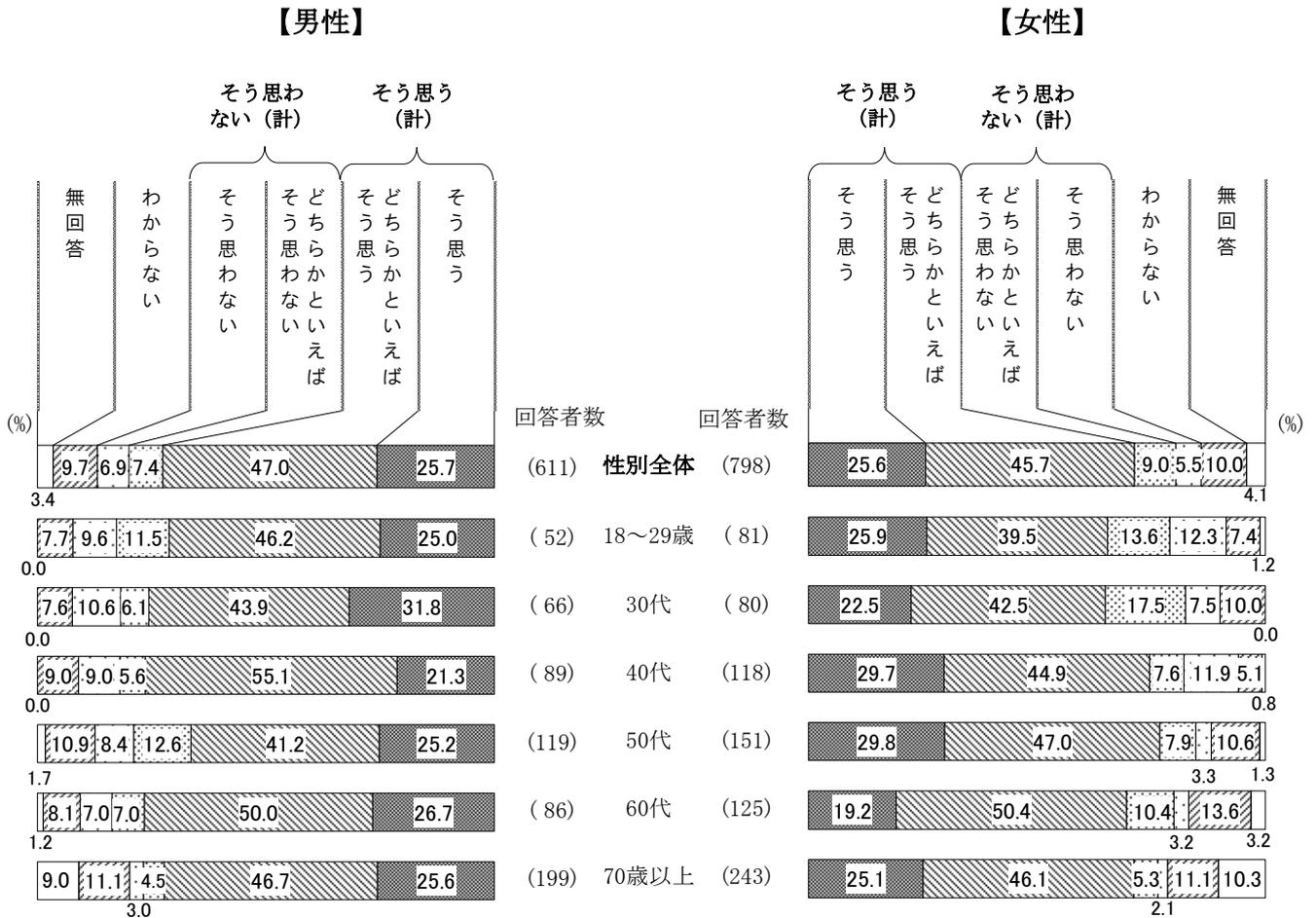


キ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

(ア) 〈足立区に愛着をもっている〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は女性の50代が76.8%で最も高く、次いで男性の60代(76.7%)、40代(76.4%)、30代(75.8%)となっている。一方、【**そう思わない**】は女性の18～29歳が25.9%で最も高く、次いで女性の30代(25.0%)となっている。

図11-1-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

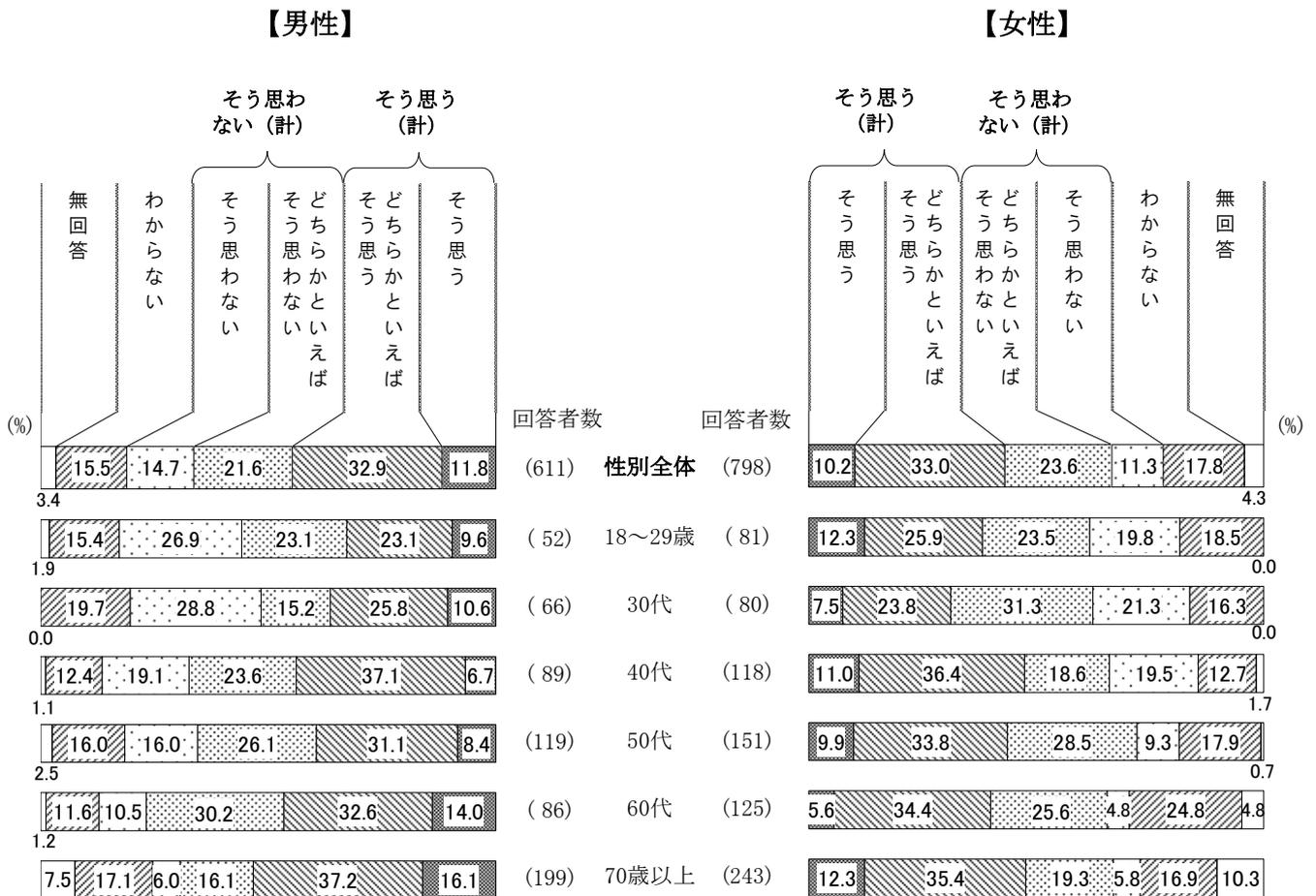


ク クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 〈足立区に誇りをもっている〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は男性の70歳以上が53.3%で最も高く、次いで女性の70歳以上と40代、男性の60代が4割台後半で続いている。一方、【**そう思わない**】は女性の30代が52.5%で最も高く、次いで、男性の18～29歳が5割となっている。

図11-1-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

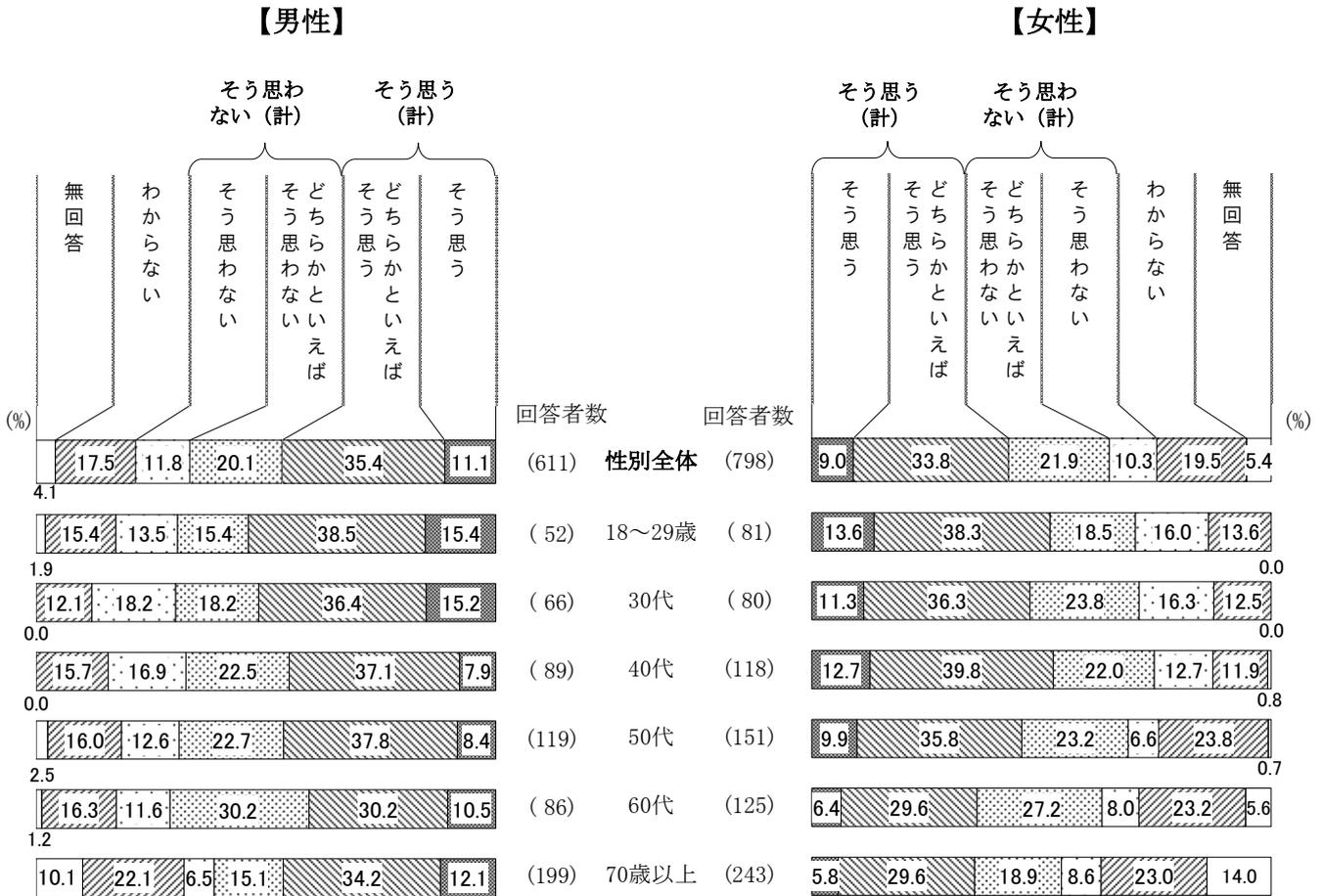


ケ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

(ア) 〈足立区を人に勧めたい〉を性別で見ると、【**そう思う**】は男性（46.5%）の方が女性（42.9%）より3.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は男性の18～29歳が53.8%で最も高く、次いで女性の40代と18～29歳、男性の30代が5割で続いている。一方、【**そう思わない**】は男性の60代が41.9%で最も高く、次いで女性の30代、男性の40代が4割前後となっている。

図11-1-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



コ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

(ア) 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を性別で見ると、【そう思う】は男性(52.5%)の方が女性(48.1%)より4.4ポイント高くなっている。

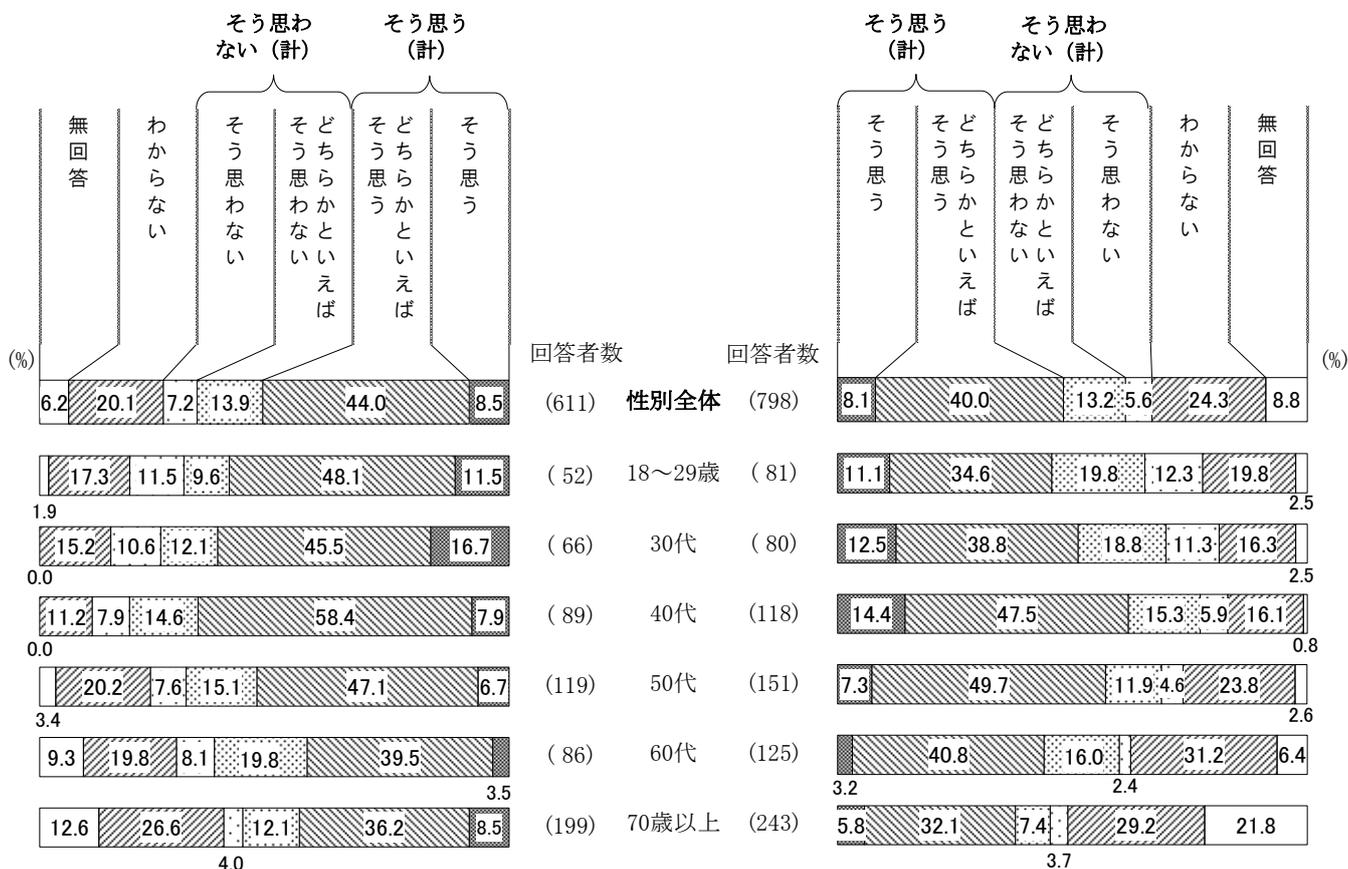
(イ) 性・年代別で見ると、【そう思う】は男性の40代が66.3%で最も高く、次いで男性の30代、女性の40代が6割台で続いている。一方、【そう思わない】は女性の18～29歳が32.1%で最も高く、次いで女性の30代が3割、男性の60代が2割台後半となっている。

図11-1-3-④ 性別、性・年代別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

【男性】

【女性】



サ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち

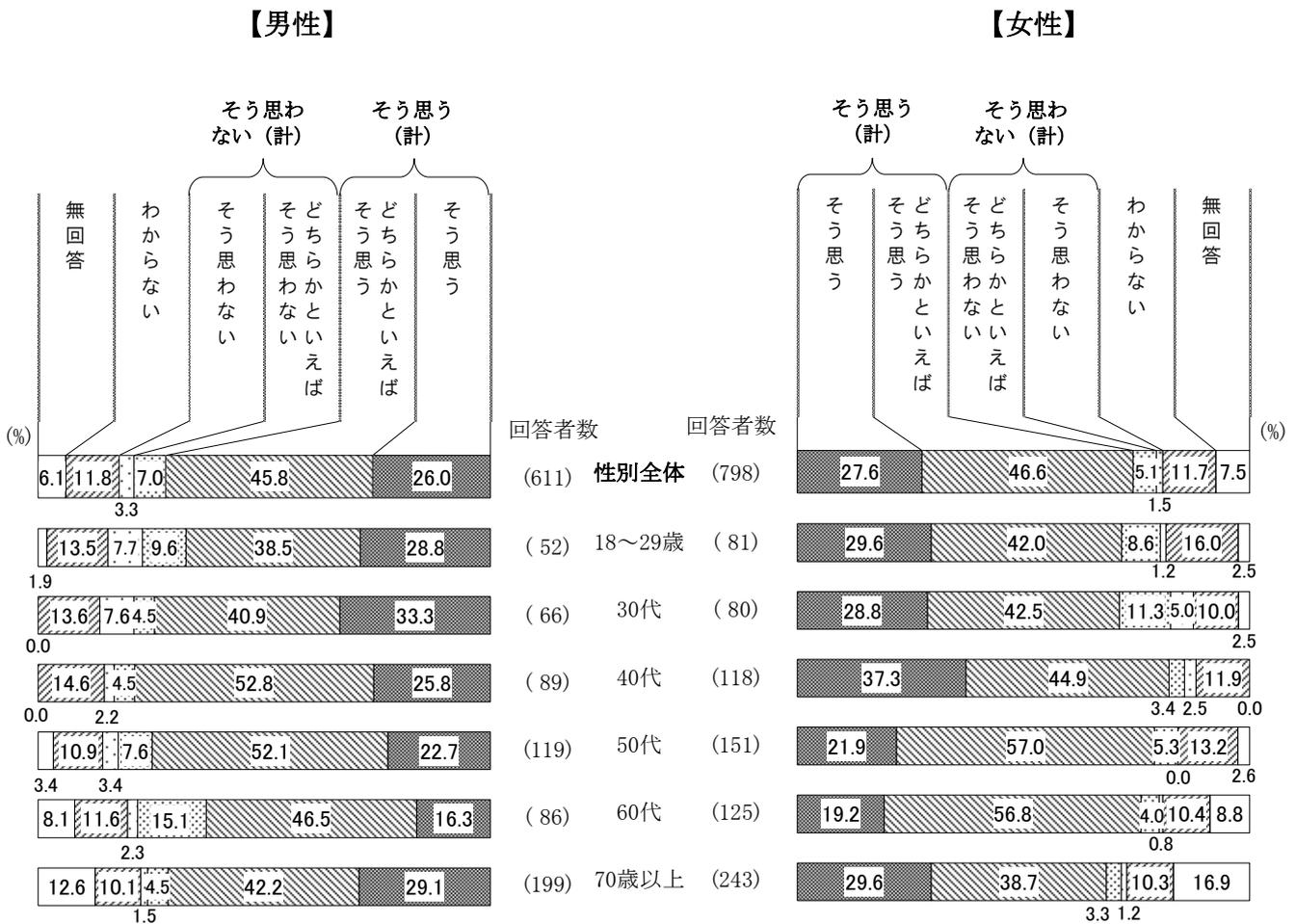
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

(ア) 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を性別で見ると、【**そう  
思わない**】は男性(10.3%)が女性(6.6%)より3.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【**そう思う**】は女性の40代で82.2%と最も高く、次いで女性の50代、男性の40代が8割弱で続いている。一方、【**そう思わない**】は男性の60代が17.4%で最も高く、次いで男性の18～29歳、女性の30代が1割台後半となっている。

図11-1-3-⑤ 性別、性・年代別／区に対する気持ち

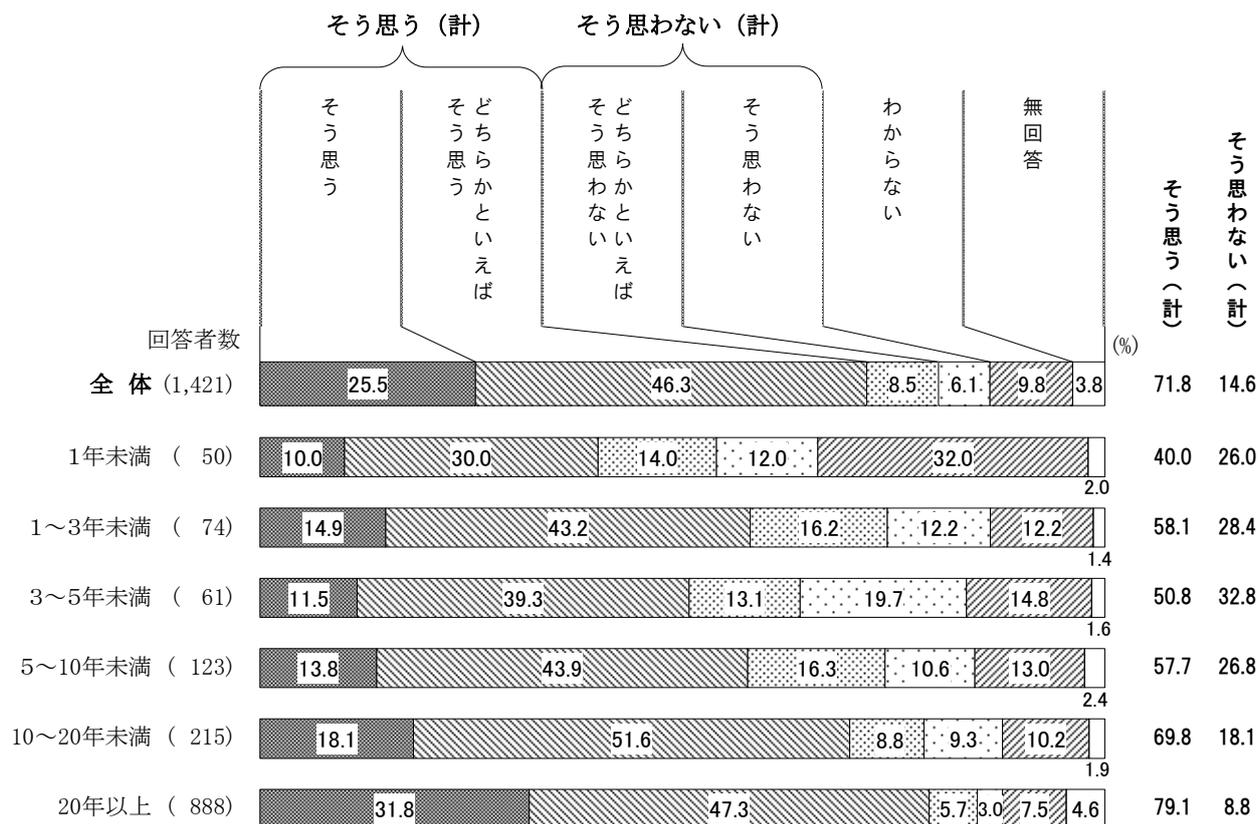
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



シ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は1年未満で40.0%と最も低く、10～20年未満で約7割、20年以上で約8割と高くなっている。一方、【**そう思わない**】は、1年未満（26.0%）から3～5年未満（32.8%）にかけて高くなり、それ以降は低くなり、20年以上で8.8%と最も低くなっている。

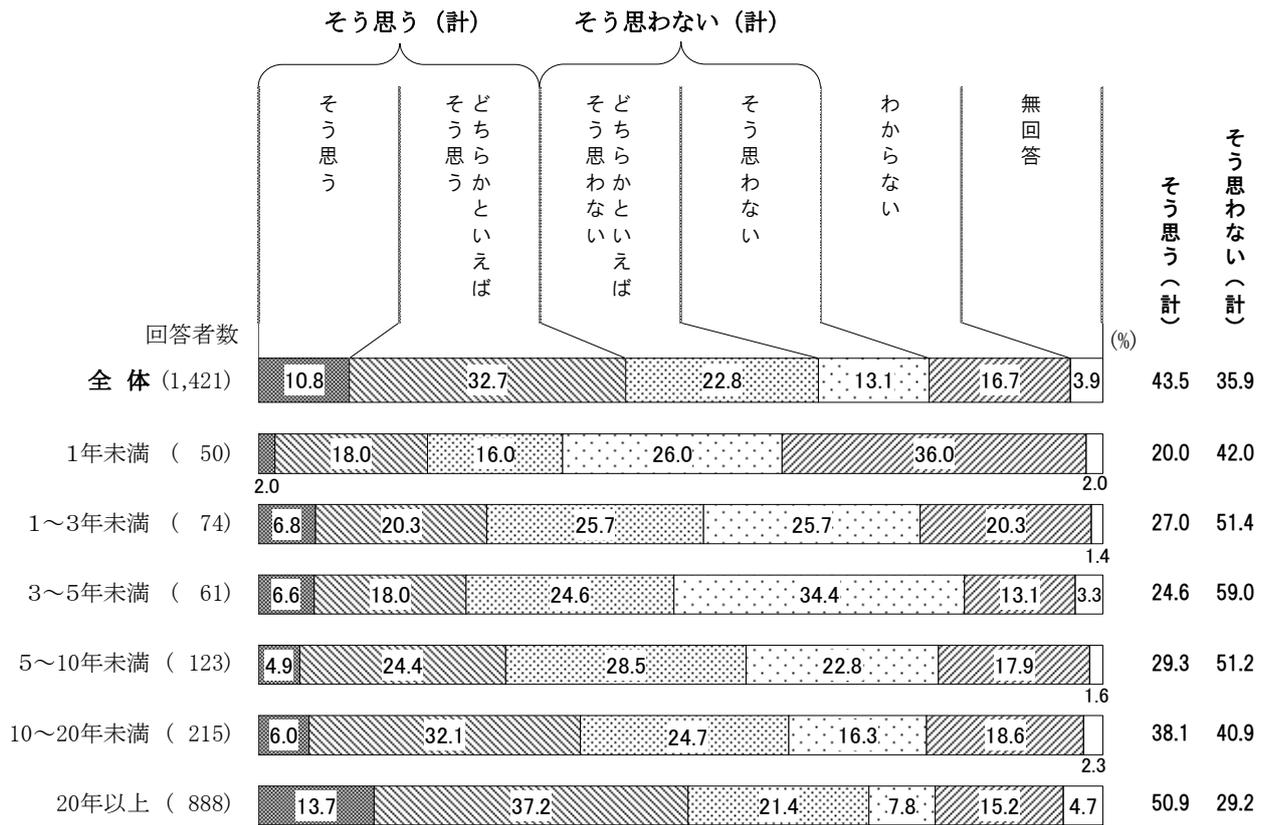
図11-1-4-① 居住年数別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ス クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は1年未満で20.0%と最も低く、10～20年未満で4割弱、20年以上で5割と高くなっている。一方、【**そう思わない**】は、1年未満（42.0%）から3～5年未満（59.0%）にかけて高くなり、それ以降は低くなり、20年以上で29.2%と最も低くなっている。

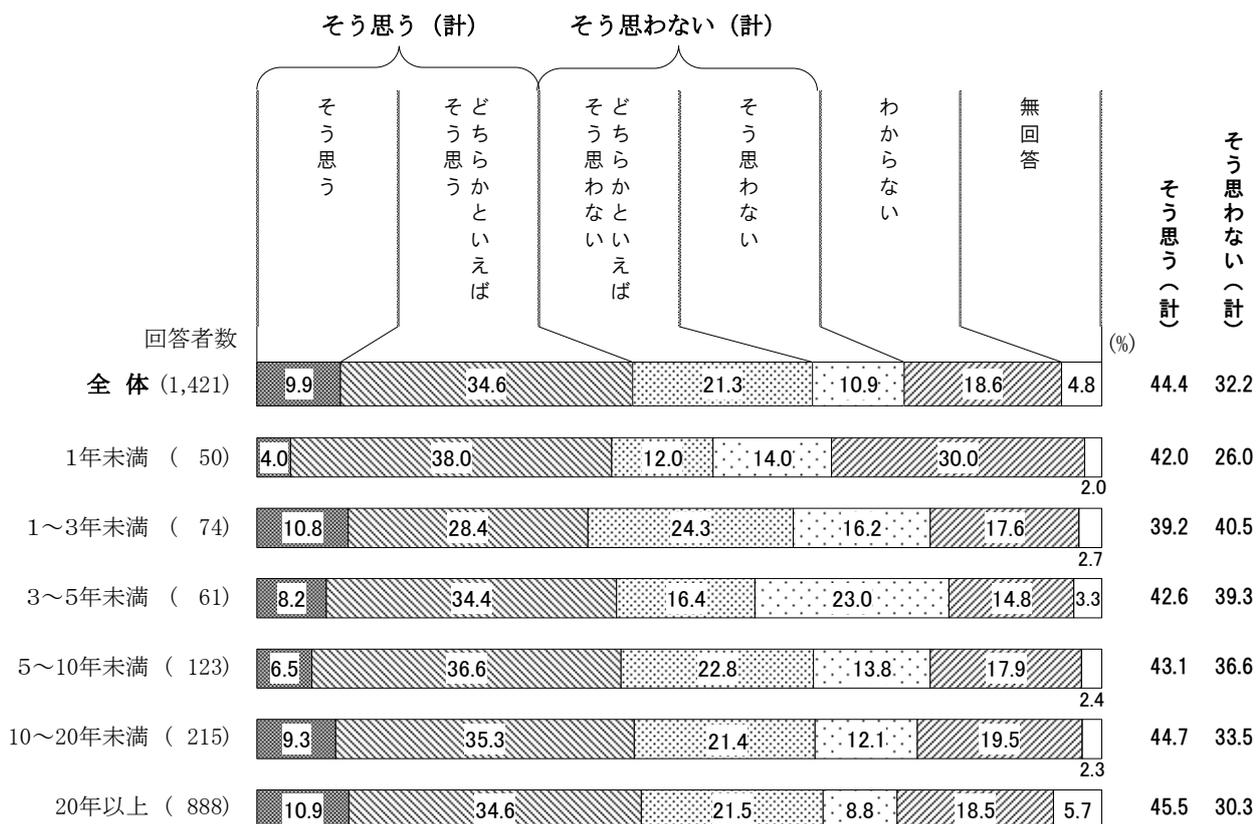
図11-1-4-② 居住年数別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



セ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は1～3年未満（39.2%）で3割台となっている以外は4割台で、居住年数により大きな違いは見られない。一方、【**そう思わない**】は1年未満が26.0%と最も低く、1～3年未満で40.5%と最も高くなり、それ以降は居住年数が長くなるほど低くなっている。

図11-1-4-③ 居住年数別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

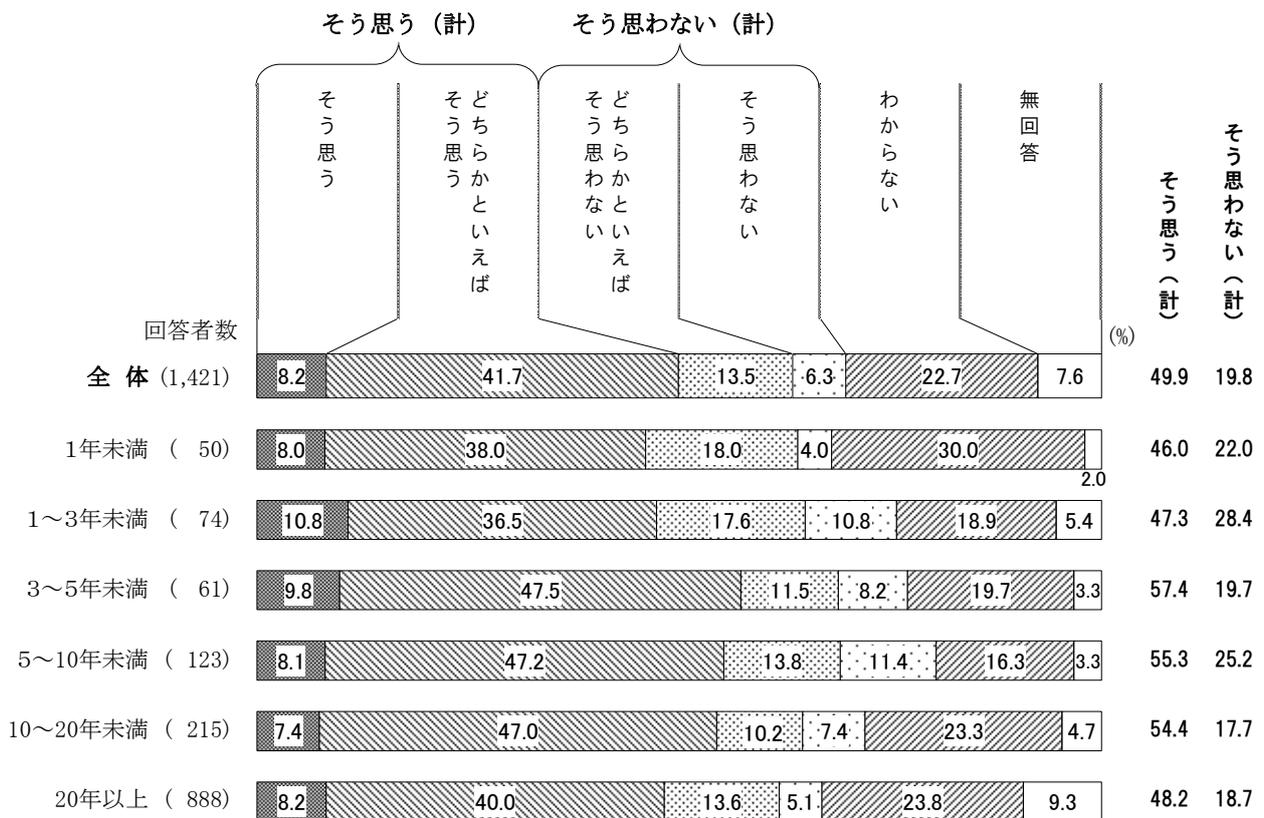


ソ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を居住年数別で見ると、【そう思う】は1年未満が46.0%と最も低く、3～5年未満で57.4%と最も高くなり、それ以降は居住年数が長くなるほど低くなっている。一方、【そう思わない】は1～3年未満で28.4%と最も高く、10～20年未満で17.7%、20年以上で18.7%と低くなっている。

図11-1-4-④ 居住年数別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするために何かしたい



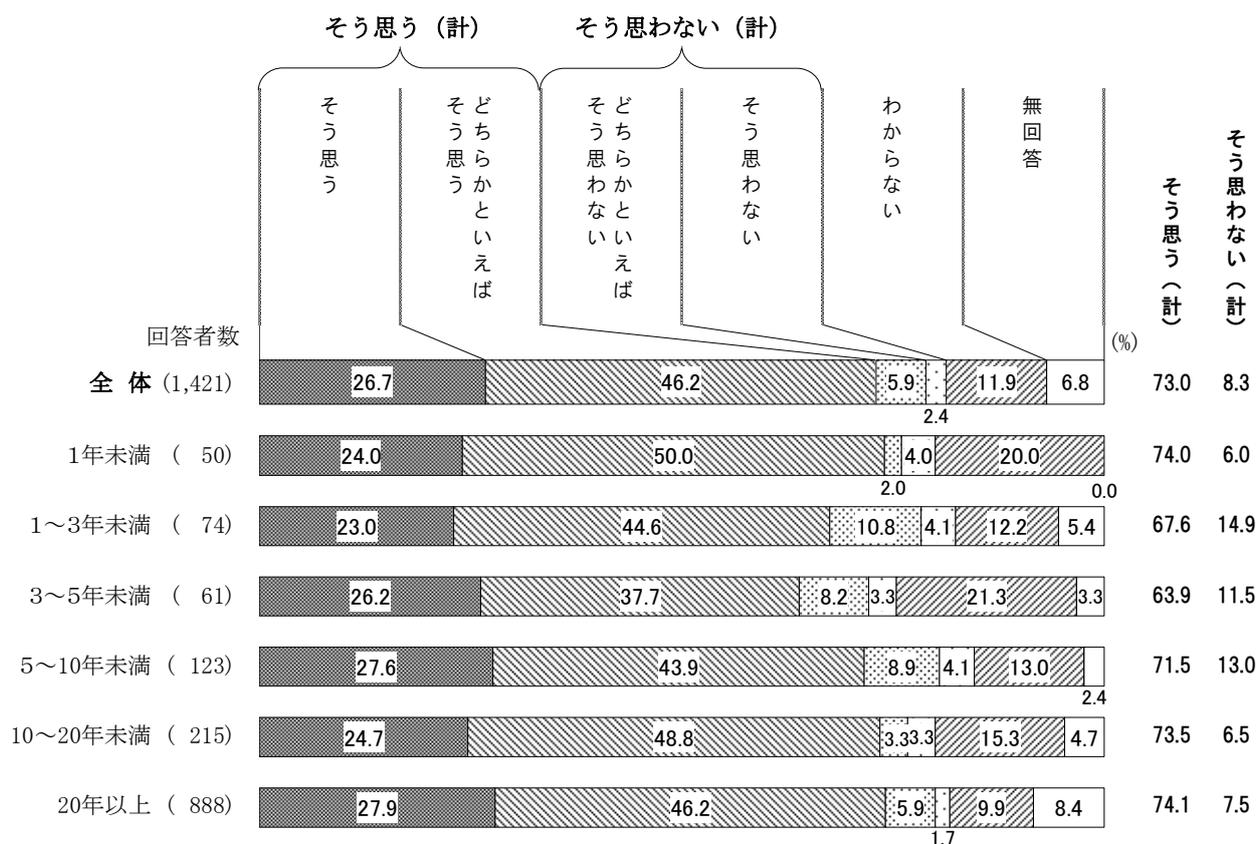
タ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を居住年数別で見ると、【**そう思う**】は1年未満と5年以上で7割台と高く、1～5年未満で6割台と低くなっている。一方、【**そう思わない**】は1年未満と10年以上で1割未満と低く、1～10年未満で1割台となっている。

図11-1-4-⑤ 居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



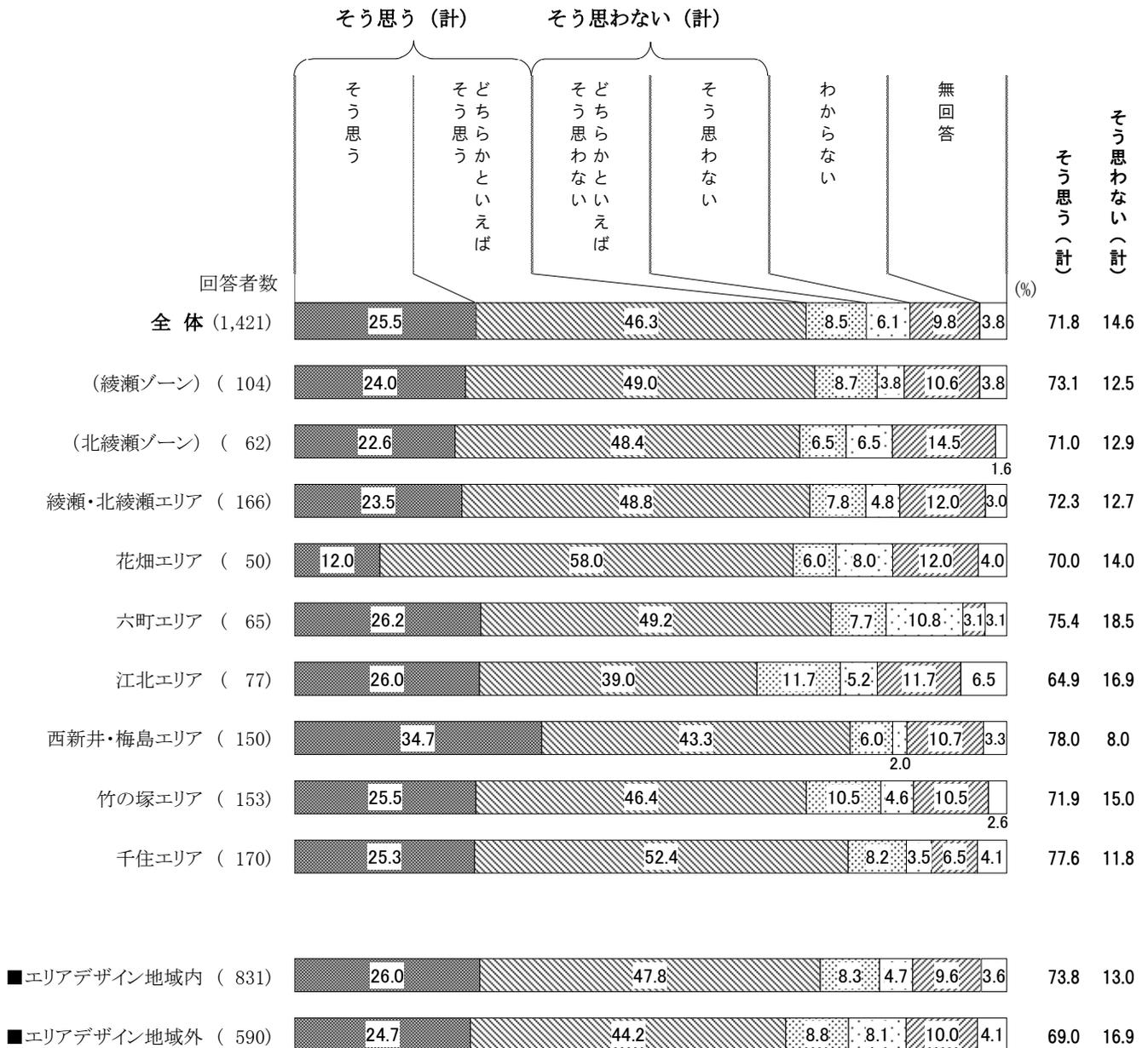
チ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

(ア) 〈足立区に愛着をもっている〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は西新井・梅島エリアが78.0%で最も高く、次いで千住エリアが7割台後半が続いている。逆に、江北エリア(64.9%)が唯一6割台で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内(73.8%)が地域外(69.0%)より4.8ポイント高くなっている。

※(綾瀬ゾーン)と(北綾瀬ゾーン)は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-① エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



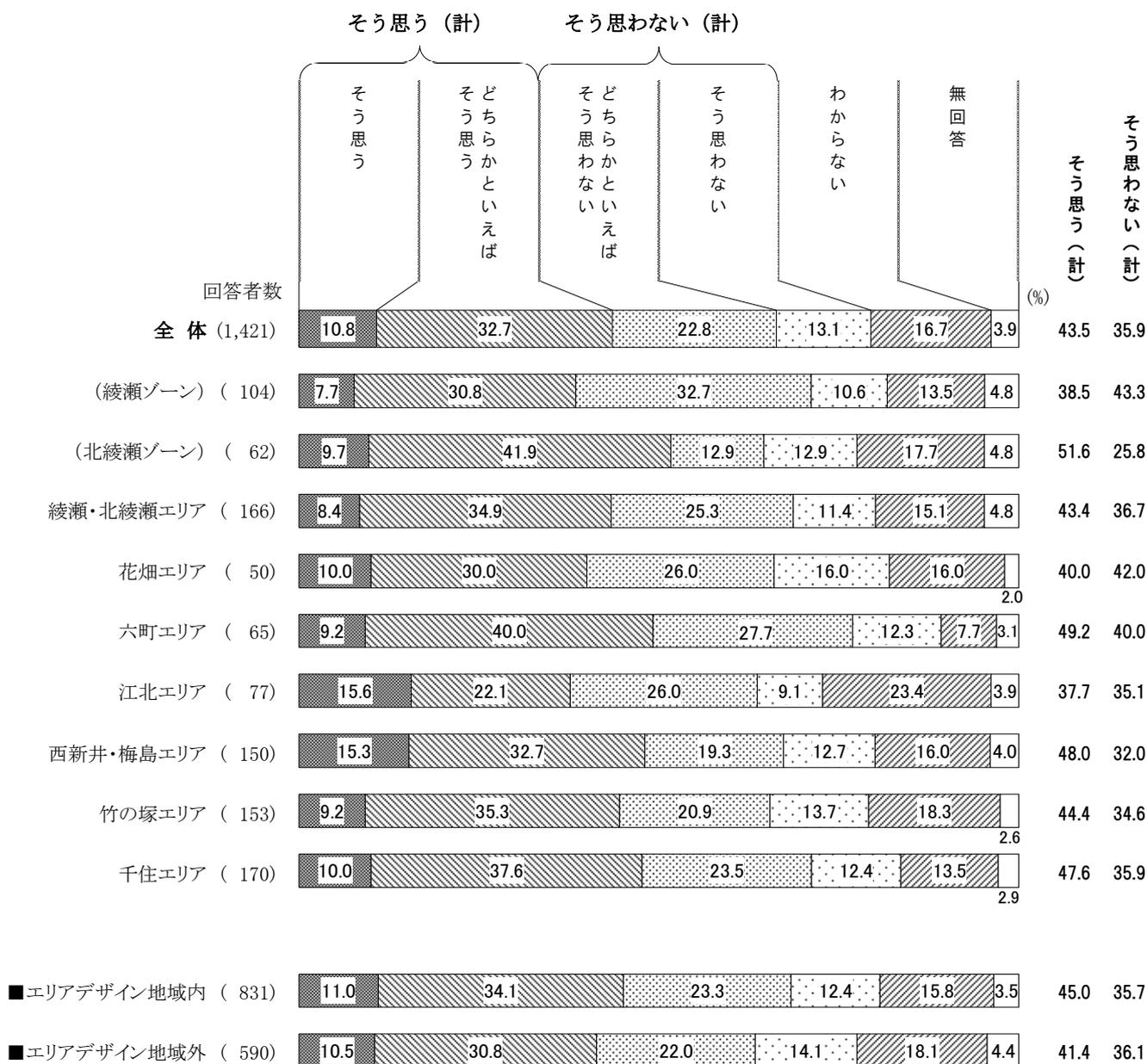
ツ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 〈足立区に誇りをもっている〉をエリアデザイン別でみると、【**そう思う**】は、六町エリアが49.2%で最も高く、次いで西新井・梅島エリア（48.0%）となっている。逆に、江北エリア（37.7%）が3割台で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【**そう思う**】は地域内（45.0%）の方が地域外（41.4%）より3.6ポイント高くなっている。

※（綾瀬ゾーン）と（北綾瀬ゾーン）は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-② エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



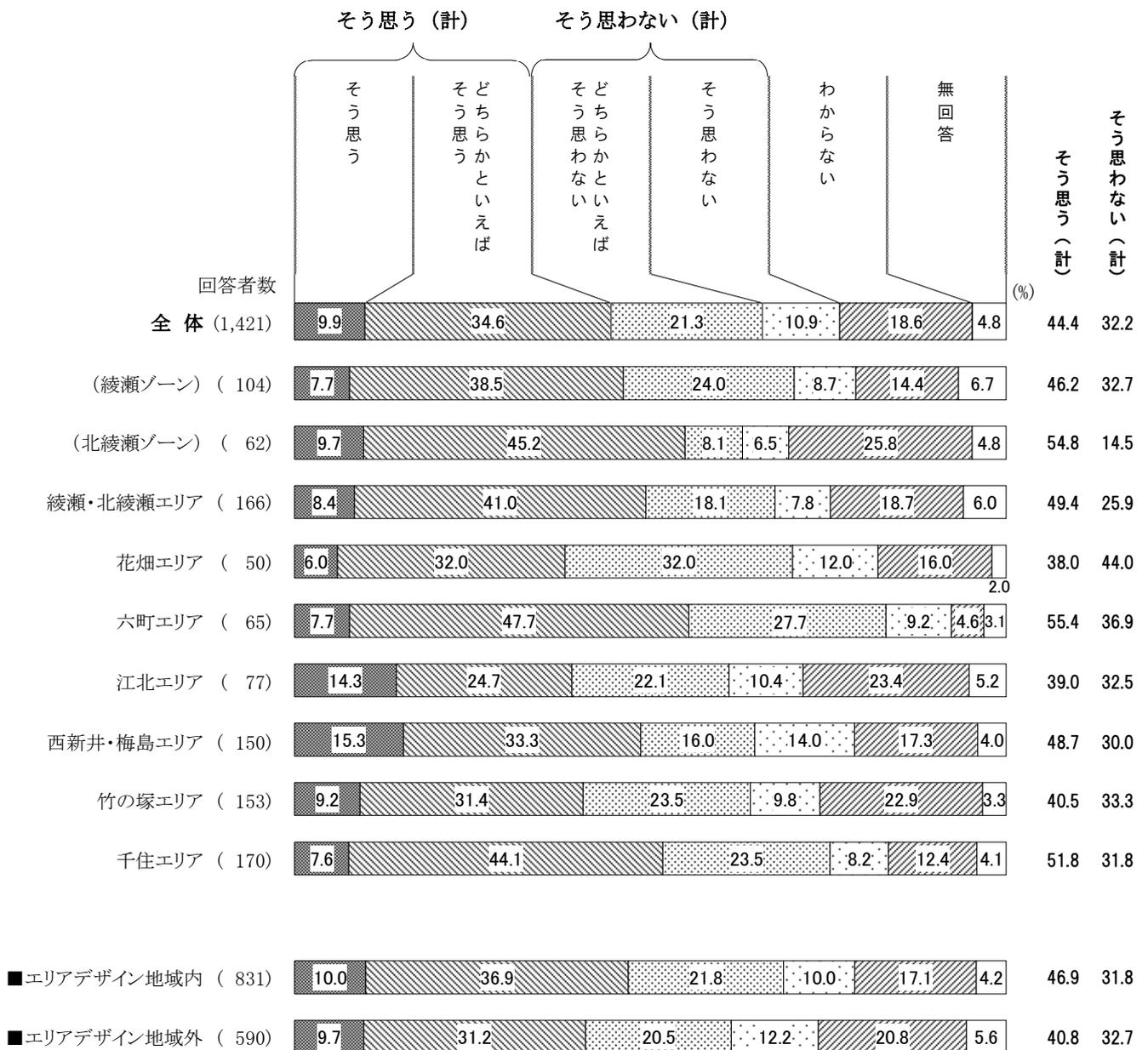
テ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

(ア) 〈足立区を人に勧めたい〉をエリアデザイン別でみると、【**そう思う**】は、六町エリアが55.4%で最も高く、次いで、千住エリア(51.8%)が5割台で続いている。逆に、花畑エリア(38.0%)と江北エリア(39.0%)が3割台で低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【**そう思う**】は地域内(46.9%)の方が地域外(40.8%)より6.1ポイント高くなっている。

※(綾瀬ゾーン)と(北綾瀬ゾーン)は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-③ エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



ト クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち

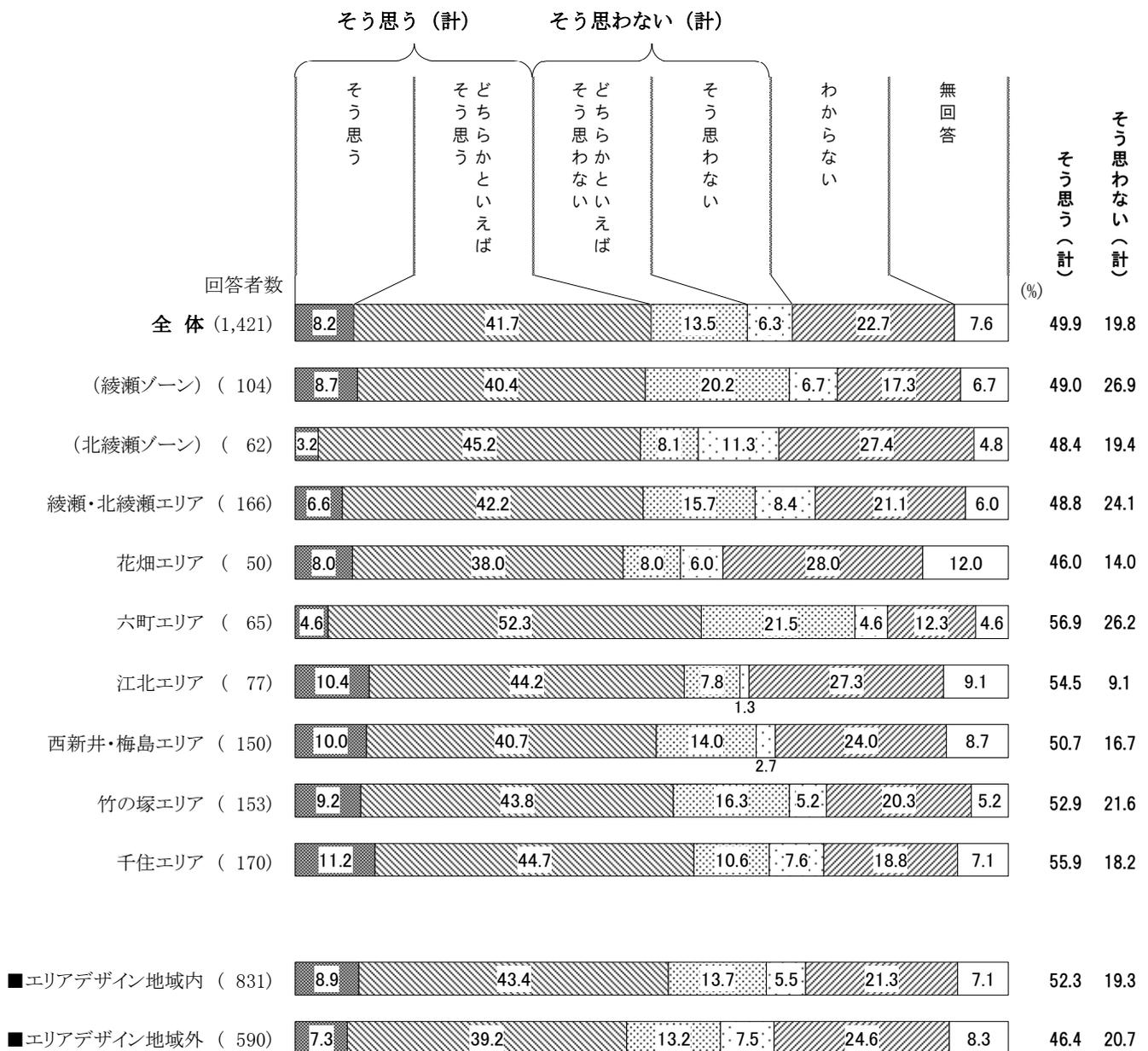
／足立区を良いまちにするために何かしたい

(ア) 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、六町エリアが56.9%で最も高く、次いで千住エリアが55.9%で続いている。逆に、花畑エリア（46.0%）と綾瀬・北綾瀬エリア（48.8%）が4割台と低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内（52.3%）の方が地域外（46.4%）より5.9ポイント高くなっている。

※（綾瀬ゾーン）と（北綾瀬ゾーン）は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-④ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするために何かしたい



ナ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち

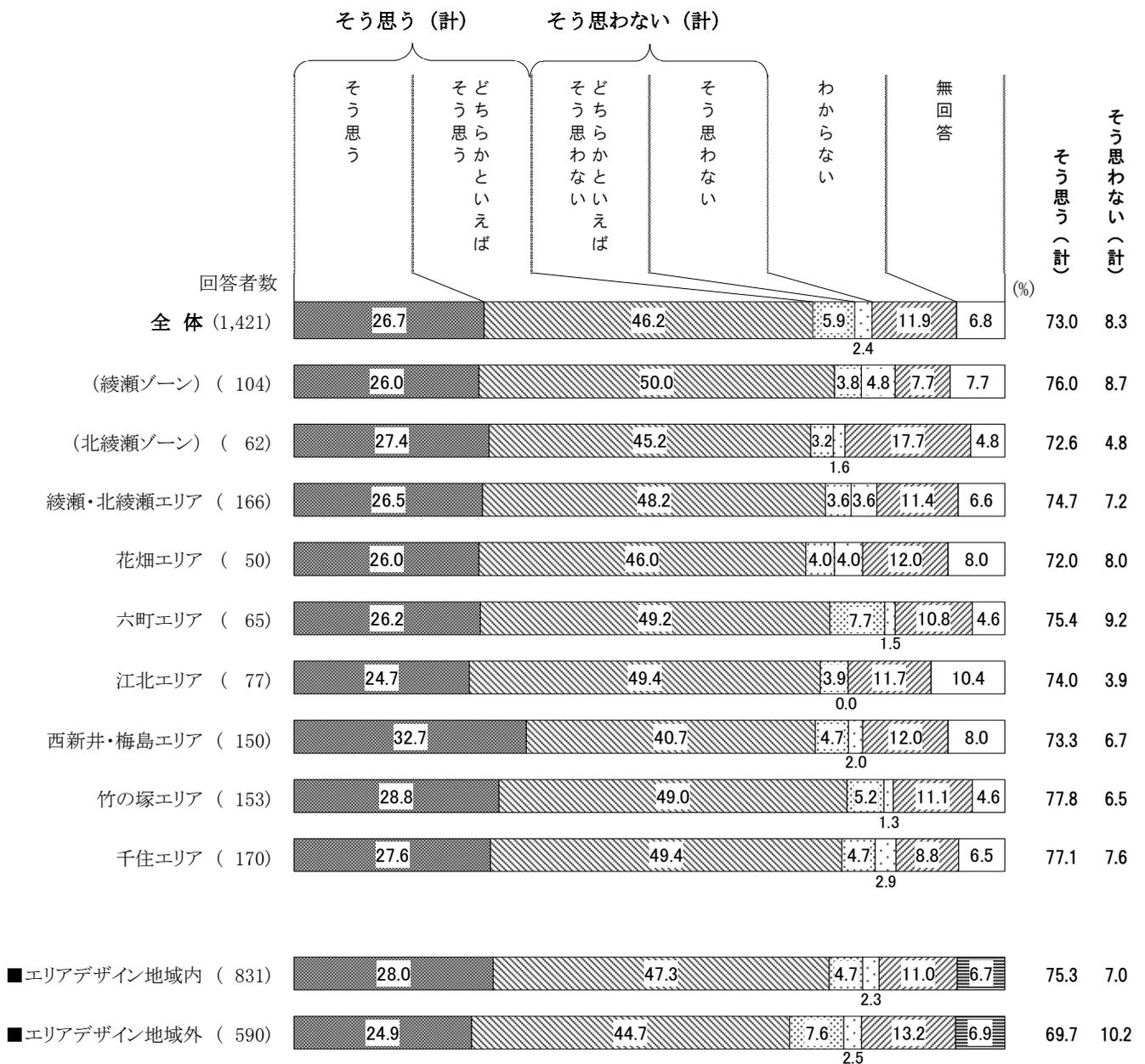
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

(ア) 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉をエリアデザイン別で見ると、【**そう思う**】は、竹の塚エリアが77.8%で最も高く、次いで、千住エリア(77.1%)となっている。逆に、花畑エリアが72.0%で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【**そう思う**】は地域内(75.3%)の方が地域外(69.7%)より5.6ポイント高くなっている。

※(綾瀬ゾーン)と(北綾瀬ゾーン)は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

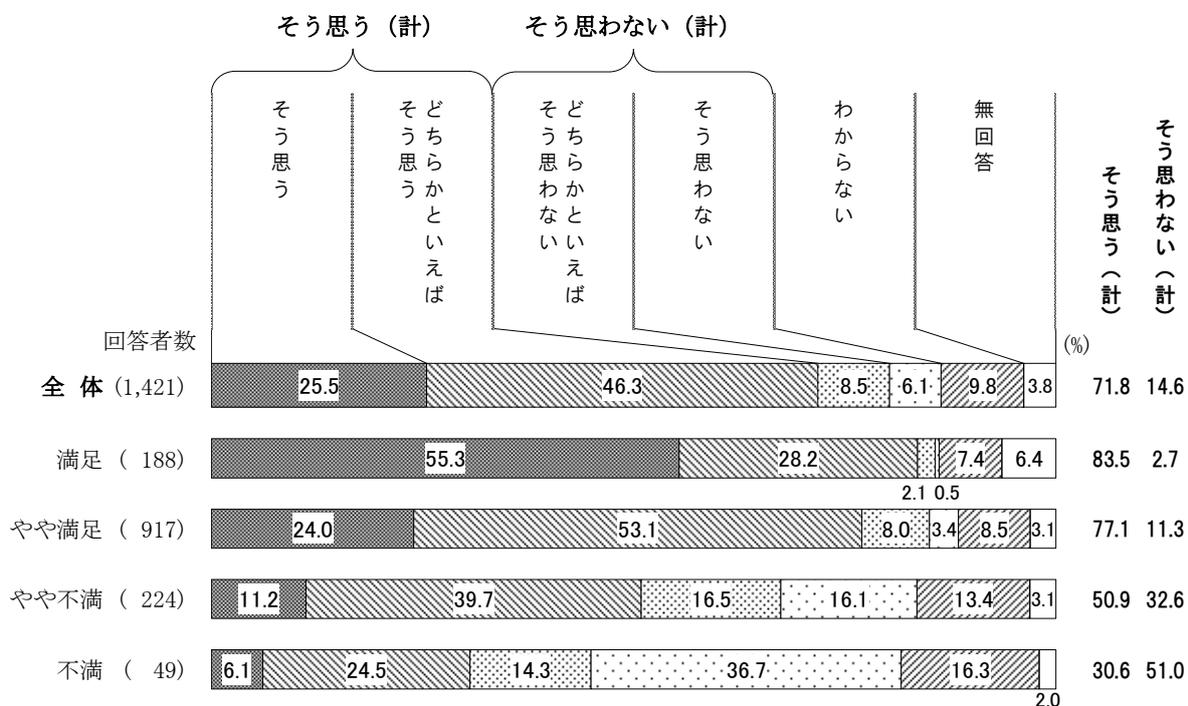
図11-1-5-⑤ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



ニ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で83.5%と最も高くなっている。

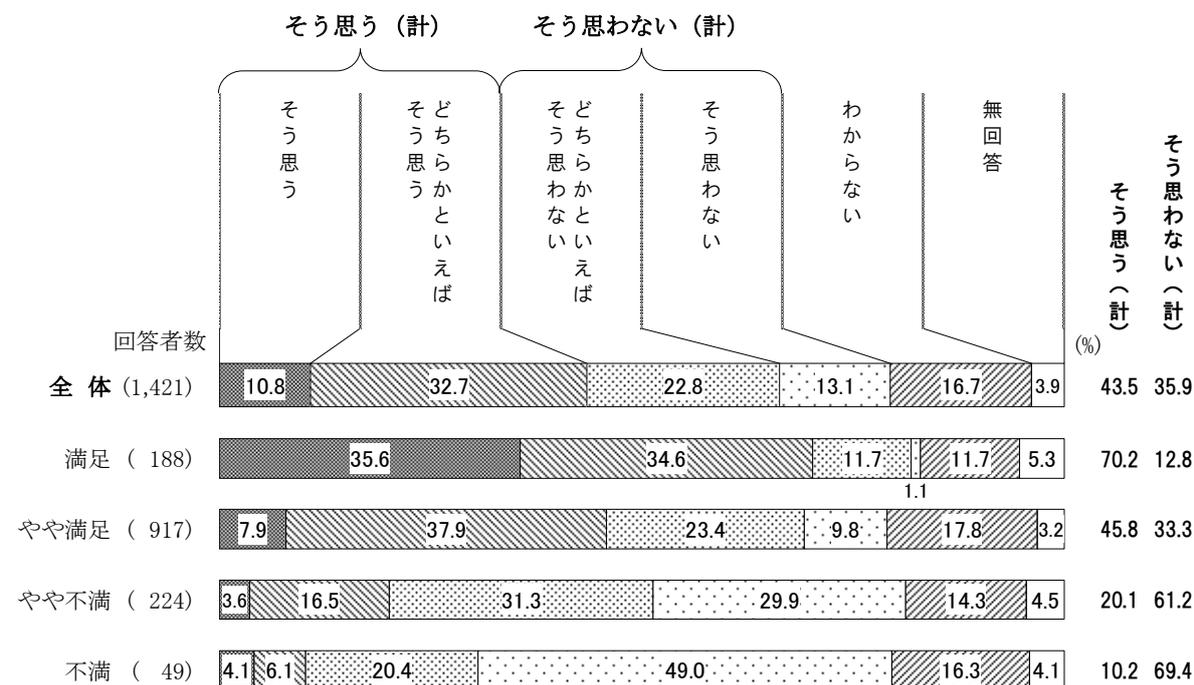
図11-1-6-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ヌ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で70.2%と最も高くなっている。

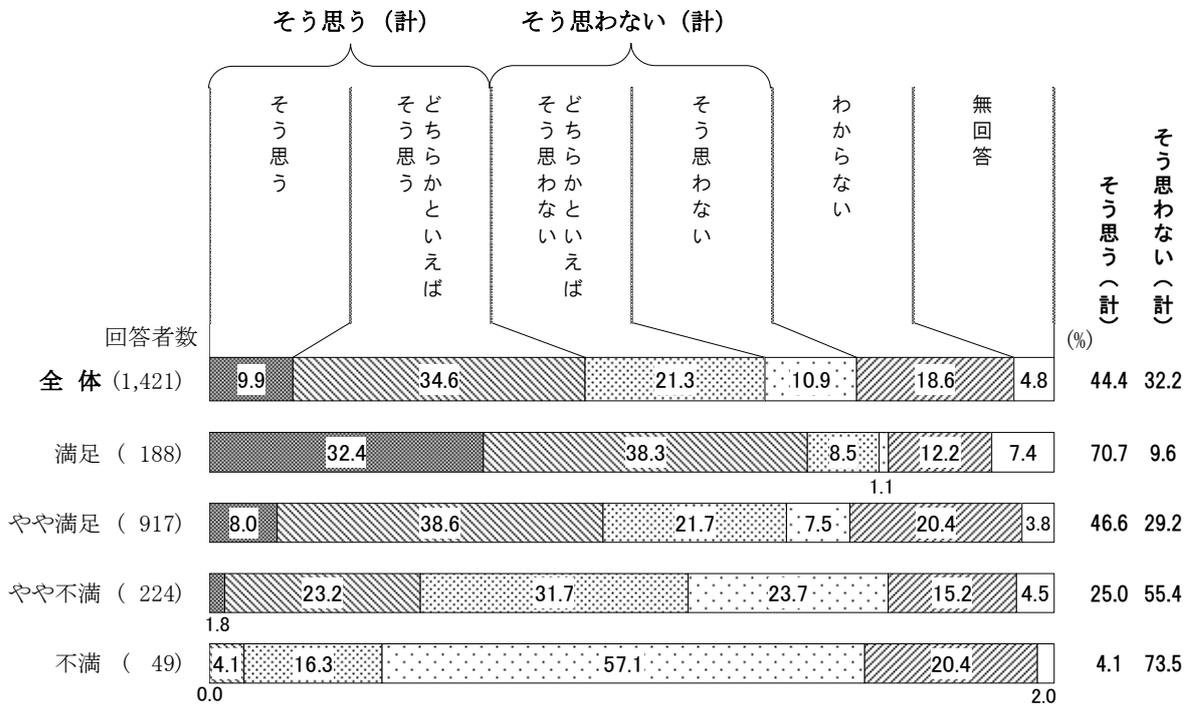
図11-1-6-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



ネ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で70.7%と最も高くなっている。

図11-1-6-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

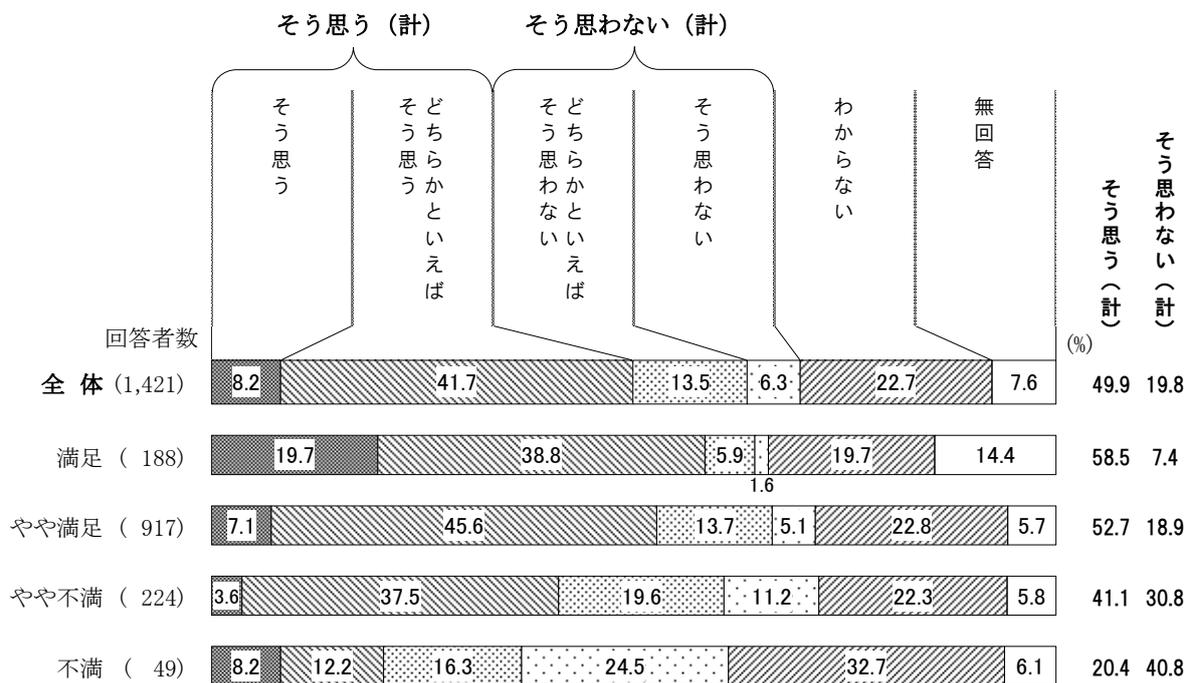


ノ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で58.5%と最も高くなっている。

図11-1-6-④ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



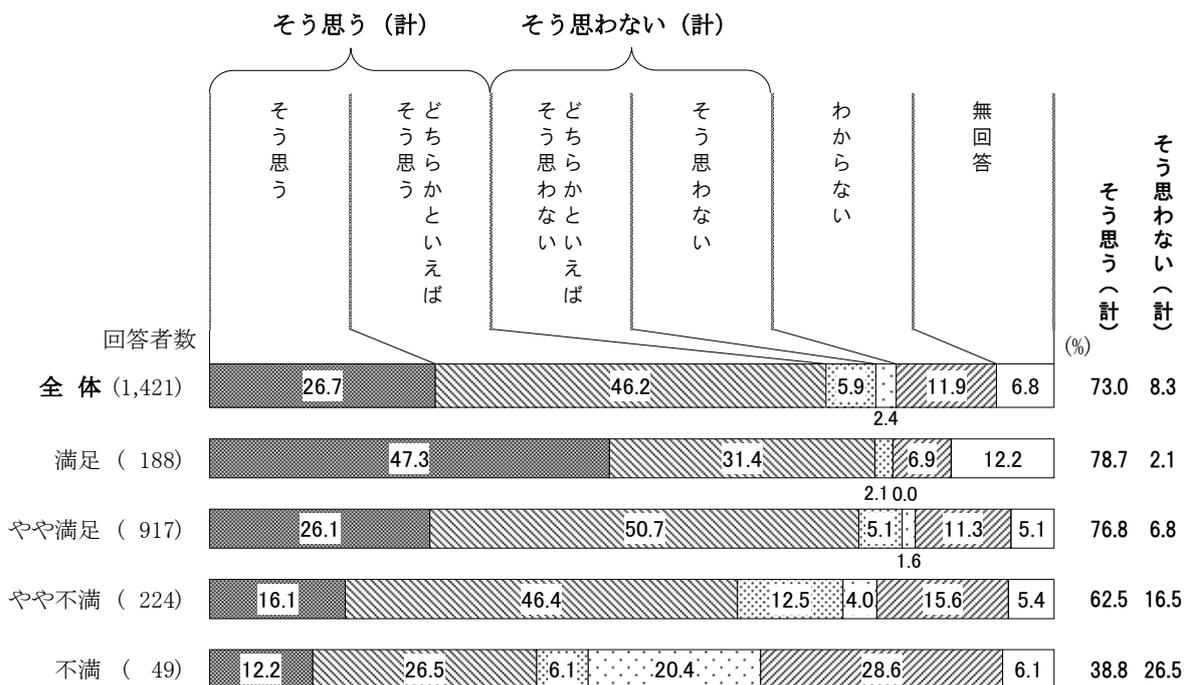
ハ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について、区政満足度別で見ると、【**そう思う**】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で78.7%と最も高くなっている。

図11-1-6-⑤ 区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



ヒ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／【区政「満足層」・「不満層」】と【気持ち「そう思う」・「そう思わない」】の相関

(ア) 区政満足層（計）においては、すべての〈気持ち〉で肯定層『そう思う（計）』の割合が否定層『そう思わない（計）』の割合を上回っている。

- ① 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉（+71.1ポイント）
- ② 〈足立区に愛着をもっている〉（+68.3ポイント）
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉（+36.8ポイント）
- ④ 〈足立区を人に勧めたい〉（+24.8ポイント）
- ⑤ 〈足立区に誇りをもっている〉（+20.2ポイント）

(イ) 区政不満層（計）においては、〈気持ち〉の肯定層と否定層の割合に一定の相関は見られず、否定層の割合が肯定層の割合を上回っている〈気持ち〉は2つとなっている。

- ① 〈足立区に誇りをもっている〉（+44.3ポイント）
- ② 〈足立区を人に勧めたい〉（+37.4ポイント）
  - － 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉（－4.8ポイント）
  - － 〈足立区に愛着をもっている〉（－11.4ポイント）
  - － 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉（－39.9ポイント）

(ウ) 区政満足度と各気持ちとの相関は、区政満足層で〈気持ち〉の肯定層の割合が高く、区政不満層で〈気持ち〉の否定層の割合が高いほど相関があるといえ、それぞれの割合の差がともに20ポイント以上ある〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉が区政満足度との相関関係が強いといえる。

図11-1-6-⑥ 区政満足度別／区に対する気持ち

／【区政「満足層」・「不満層」】と【気持ち「そう思う」・「そう思わない」】の相関

		ア いる 足立区に愛着をもつて		イ いる 足立区に誇りをもつて		ウ 足立区を人に勧めたい		エ る 足立区を何かし ために良いまちに す		オ る 足立区を良い ために活動をし る る 人に共感する まちにす てい	
		(計) そう 思う	(計) そう 思わ ない	(計) そう 思う	(計) そう 思わ ない	(計) そう 思う	(計) そう 思わ ない	(計) そう 思う	(計) そう 思わ ない	(計) そう 思う	(計) そう 思わ ない
区政満足度	全 体	71.8	14.6	43.5	35.9	44.4	32.2	49.9	19.8	73.0	8.3
	満足層(計)	78.2	9.9	50.0	29.8	50.7	25.9	53.7	16.9	77.1	6.0
	不満層(計)	47.3	35.9	18.3	62.6	21.2	58.6	37.4	32.6	58.2	18.3

肯定層が否定層より20ポイント以上高い

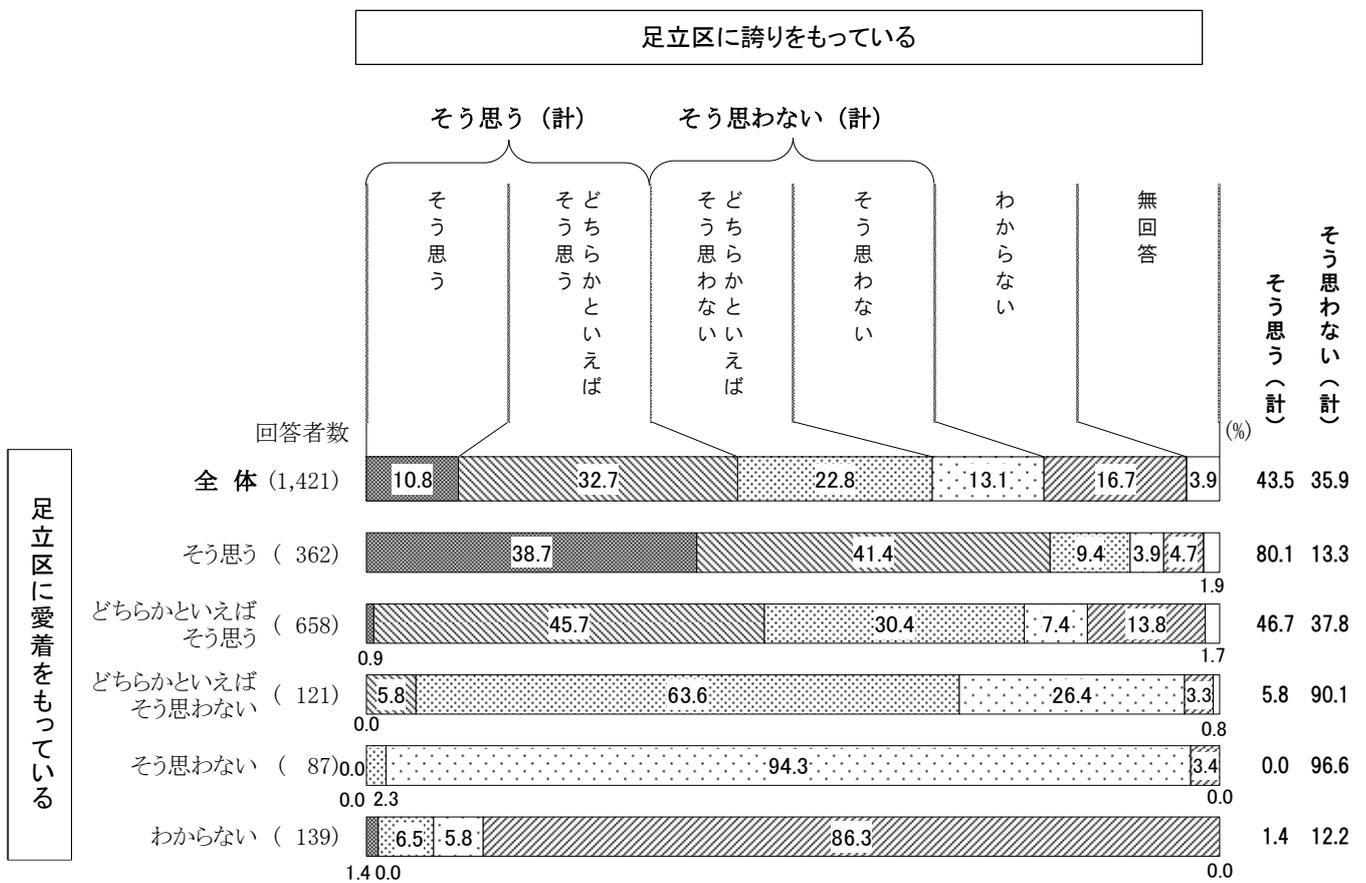
否定層が肯定層より20ポイント以上高い

フ クロス集計・区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 区への愛着度別に『区に誇りをもっている』をみると、愛着度が強まるにつれて【『区に誇りをもっている』で〈そう思う〉】の割合は増加し、『区に愛着をもっている』で〈そう思う〉と回答した層では80.1%を占めており、【『区に誇りをもっている』で〈そう思わない〉】は13.3%に過ぎない。

(イ) 『区に愛着をもっている』で〈そう思わない〉と回答した層で【『区に誇りをもっている』で〈そう思う〉】と回答した割合は0.0%で、【『区に誇りをもっている』で〈そう思わない〉】(96.6%)がほぼすべてとなっており、『区に愛着をもっている』と『区に誇りをもっている』が強い正の相関関係にあることがわかる。

図11-1-7 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



## (2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）

問44-1 問44の項目のア. イ. ウで、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた理由をお書きください。

問44-2 問44の項目のア. イ. ウで、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と答えた理由をお書きください。

- “愛着をもっている”理由は「居住期間、地縁、住みやすさ」、 “誇りをもっている”理由は「住みやすさ、居住期間、治安・防犯」、 “人に勧めたい”理由は「物価、住みやすさ、交通網・道路網」

前問の3項目（「ア 足立区に愛着をもっている」「イ 足立区に誇りをもっている」「ウ 足立区を人に勧めたい」）において、〈そう思う〉〈どちらかといえばそう思う〉と回答された方には【賛同の理由】を、また、〈どちらかといえばそう思わない〉〈そう思わない〉と回答された方には【反対の理由】をそれぞれ自由記述で聴いたところ、下表のとおり具体的な理由の記述をいただいた。

気持ち	ア 愛着		イ 誇り		ウ お勧め	
	件数	%	件数	%	件数	%
そう思う (理由記述あり)	1,020 (849)	71.8 (59.7)	618 (444)	43.5 (31.2)	631 (501)	44.4 (35.3)
わからない	139	9.8	238	16.7	265	18.6
そう思わない (理由記述あり)	208 (136)	14.6 (9.6)	510 (342)	35.9 (24.1)	457 (281)	32.2 (19.8)

(n=1,421) (割合は対全体)

以下に、記述いただいたそれぞれの理由を分野別に分類し、それぞれの分野で「そう思う＝○」「そう思わない＝●」の中から一部を抜粋して記載する。

### 愛着

- 永年住んでいるから／愛着を持てるほど長く住んでいない（○488件 ●36件）

- 生まれた土地で、昔から知っているお店の方や知り合いが暮らしているから。
- 足立区に住み始めて70年、生きていく限り住み続けていきたいです。
- この歳まで住み続けているのもう区外へ出ようとは考えにくい。
- 60年間足立区に住んでいるので、愛着があります。
- 住み始めてそこまで年数がたっていないのでまだ湧いていない。
- 住みやすいが「愛着」を持つ要素が今までなかったため。

- 地縁・地元感がある／地縁・地元感がない（○112件 ●31件）

- 結婚以来住み続けて60年経ち、他に行きたくはありません。
- 子どもが小学校、中学校と足立区立に通学していたため。
- 永く住んでいる、母親の出身地だから、自身の地元からも近く昔から身近だから。
- 自宅・職場ともに足立区にあり、区外に出ることが少ないため。
- 生れてから住んでいる地域ではなく、必ずしも今後も住み続けたいとは考えていない。

- 駅と自宅の往復ばかりで、区内の他地域のことをよく知らない。
- 引っ越してきた身で地域活動と縁がないので。

■ 住みやすさ／住み慣れてない（○101件 ●1件）

- 足立に住んで60年以上、住みやすくなってきた。
- 今まで何ヶ所か引っ越しをしているが、足立区が一番住みやすい。
- 住みやすさ、地域性が都内の生活が初めての方に非常に良いと思う。
- 実際に住んでみると住みやすく心地いいから。
- 住み慣れていない。

■ 人情味・人繋がりがある／人情味・人繋がりがない（○54件 ●5件）

- 結婚後定住したが、子育て、近所の方々との交流のしやすさが、友人との会話から常々実感できる。
- 地元の友達が変わらず足立区にいたので安心できる。子どもを母校に通わせている。友達も多く、嬉しいなと思います。
- 人との距離が割と近く、仲良くなりやすい。言い方は悪いが、プライドが高い人が少ないと思います。
- 若干ながら地域コミュニティが存在する。（自治会やご近所付き合い）
- 村意識が強くて、他区から来た人はなじみにくい。
- 30年以上住んでいるが好きになれない。（街並み、人）

■ 落ち着き感・街のイメージ・雰囲気が良い／良くない（○38件 ●6件）

- 千住の店、街並み、人が好きだから。
- 自身が住んでいる綾瀬地区は街もきれいで緑が多い。
- 少し昭和感が残っていてホッとする。
- 気取らずに自然体で近所を歩ける気楽な街。
- 街づくりが進んでいる気がしない。
- イメージが悪いから。

■ 生活環境・公園・自然（○29件 ●3件）

- 公園、河川も多く、自然に恵まれている。
- 緑と公園が多い所が好きですし、住みやすいです。
- 住んでいる地域の田畑の風景が好き。
- 環境が汚な過ぎて事件が多いです。
- 自然が減っている点。
- 景観が悪いから。

■ 交通網・道路網（○21件 ●1件）

- 都心へのアクセスも良く物価が安い方だと思うから。
- 鉄道は少ないですが、バス便が多いので助かり、便利です。
- 東京と埼玉の境で、どちらにも行きやすいので。
- 足立区の外れに住んでいるせいか、足立区内の移動が不便で、他区に行くことが多い。

■ 買い物等の利便性（○15件 ●1件）

- 交通の便が良く、買い物や日常の用事が便利に済ませられるところが気に入っています。
- 北千住に住んでいるが、お店が多く、交通の便もよく、花火大会など有名なイベントもあり、住みやすいまちと感じるから。
- スーパーやドラッグストア、コンビニ等食品や日用品を買いやすい事。
- 飲食店が少ない

■ 物価（○11件）

- 住みやすくて、物価が安い。
- 物価が安く、住んでいる人が皆優しく感じるので。
- 物価が安く、のどかで生活しやすいと思うから。

■ 区政・福祉（○10件）

- 交通、環境、お役所に対する安心感。
- 足立に帰る橋を渡るとホッとする。足立は福祉が充実している。
- 高齢者に親切で優しい。

■ 治安・防犯（○9件 ●11件）

- イメージとは違い、治安もよく交通アクセスも良く住みやすいと思うから。
- 考えていたより治安も良く、住みやすい。
- 奇声をあげたり、歌いながら自転車に乗る変な人が多いから。自転車盗難が多過ぎる。
- 自転車、歩行者などのマナーが悪い。（住民も）

■ 発展性（○4件）

- 生まれた時から居住しているので。昔より発展して、地価も上がっている。
- 大学が増え、交通が便利になりつつある。

■ その他（○23件 ●43件）

- 在住年数が増えてきて、街に詳しくなってきたから。
- 子育てしやすい。
- 住みたくて住んでいるわけではないので、特別な感情はない。
- 区に魅力がない。
- 職場までの通勤の都合で選んだだけ。

**誇り**

■ 住みやすさ（○52件）

- 住みやすい感じで、TVで取り上げられているから。
- 住みやすい、近隣住民に気持ちが良い人が多くいるので。
- 足立区は住みやすく、一生住んでいたいと思えるところ。
- 徐々にではあるが、住みやすいまちに選ばれることが多く、良いまちになってきた。

■ 永年住んでいる・育ったところ／住んで間もない・あまり知らない（○49件 ●33件）

- 長く暮らしているので安心感がある。
- やはり子どもの頃から育ち、見たり聞いた事などで誇りに思っ良いと思う。

- 社会人生活の大半を過ごし、今も住み続けているから。
- まだ誇りというほど区のことを知れていないので。
- 正直なところ、そこまでよくこの区のことを知らない。
- 足立区に住んで日が浅いため。

■ 治安・防犯生活が良い／悪い・イメージが良くない（○43件 ●61件）

- 犯罪が多いイメージを、区政の取り組みで一掃できた。
- 一昔前は治安が悪かったがいまは改善されていると思っている。
- 犯罪が多いイメージがあるが、自分の居住地では少ないイメージがある。
- パトロール等をしてくださり、町を良くしようという気持ちが伝わります。
- 治安の悪いイメージがどうしても払拭できず、身近にも風紀を乱す住人がいるため。
- 治安が悪いなど、自ら卑下する傾向がある人が多いから。
- 引っ越して来たばかりだが、過去の事件等でイメージが悪い。

■ 生活環境・公園・自然が良い（○40件）

- 緑、そして医者の数も多く、何と言ったらいいか、足立は私の誇りです。
- 緑も多く、とてもきれいで住むにはとても良い環境だなと思います。
- 足立区が自然環境を大切に、公園や緑地を守っていることを誇りに思います。

■ 人情味がある・人繋がりがある／住民の質やマナーが悪い（○40件 ●35件）

- イメージは良くないが、住んでみて人も温かく心地良い。
- 近隣とのお付き合いも良好ですし、声掛けもお互いにできている。
- 知らない人でも声を掛けてもらえることが多く、温かい気持ちになるから。
- 下町感があり、住んでいる人も親しみやすく魅力のある人が多い。
- ゴミのポイ捨て、タバコのポイ捨てが酷い、特に老人の自転車の乗り方が酷い。
- 住民のマナーが悪すぎるので誇りには思わない。
- 道端にゴミが落ちていたり、酔っ払いが夜中騒いでいることがあるから。

■ 区政・職員の対応（○35件 ●3件）

- 自分がしっかりとした考え（ライフプラン）を持って生活していれば、補助、配慮など、他区と比べて整備された環境だと思う。
- 自分の考えに合った政治、生活スタイルなどが合っていて、それが誇りになる。
- 庶民的なところ。昔は悪いイメージばかりで、治安も悪く感じていたけど、区政の取り組みも大きな成果となって表れている気がする。
- 区役所等の活動が少ない。
- 高齢者の対策ばかりで若者や家庭に対してメリットになることが少ない。

■ 落ち着いて住める・街のイメージ・雰囲気が良い／悪い（○30件 ●54件）

- 区政に信頼を持てる 下町情緒と新開発地区の利便性が両方感じられる。
- 昭和の時代の足立区のイメージとは大幅に変わり良くなったから。
- イメージとして悪く言われる事もあるが住んでいる身としては良い町だと思うから。
- 普通の街ではなく、下町感と都市感の両方を大切にしていると感じるから。普通の街ではつまらないが、特色があると感じる。
- 千住らしい街並みや店が開発によって失われているから。

- そのようにはあまり感じないが治安が悪い地域と知られているので誇りをもって住んでいるわけではない。
- 他の区部に比べて交通が不便、街に華がない。
- やはり若者が少ないから、活躍力と青春というものがちょっと少ないと思います。足立区のイメージは老人が多く、古い建物も多い。だけど私は足立区をちょっと好きです。

■ 地縁・居住関係がある／ない（○23件 ●14件）

- 足立区で生まれ、育ち、昔の足立区も知っているし、新しい足立区も見てきているからそれは誇りでもあります。
- 主人の家系がずっと足立区の農家のため、誇りに思っています。
- 生まれ育った町ではないので。
- 生まれ故郷が一番の誇りです。

■ 文化・芸術・学術（大学誘致等）がある（○20件）

- 小・中学校のグラウンドが広く、子どもが伸び伸びと過ごしていると思う。
- 大学等の誘致を含め、（各大学との交流で）子ども達にたくさんの選択肢がある事が知ってもらえるから。
- 図書館が多いし、文化・芸術に力を入れていると思う。

■ 交通利便性・道路整備が良い／悪い（○20件 ●9件）

- 千住エリアは都心へのアクセスがとても良いため。
- 舎人ライナーもあり、交通が便利になってきている。
- 都心への交通の便が良く、生活の利便性も良くなっている。
- 歩道が歩きにくく、ゴミも多く美しくない、恥ずかしい。
- 主要な鉄道網が少ない

■ 発展性がある（○16件）

- 昔の治安の悪いイメージを払拭しつつあり、自分の住む綾瀬地区は利便性もよく、潜在的価値から健在化され、これからの発展に期待が持てるから。
- 大学や大学病院誘致、再開発、年々良い町になっていると思う。
- 近年、若者（大学生等）が増え、活気に満ちている。
- 区政が安定していて、区画整理が進んでいる。

■ 住民の質や意識（マナー）が良い（○13件）

- 他区に負けぬ様な心意気を感じる。
- 地域の企業の方々が、店先に花を植えていたり、ゴミ拾いしているのをよく見かける。
- ライフワークバランスを大切にできる暮らしを好んでいる人が多く集まっていると感じるから。

■ 歴史・観光がある（○12件）

- 歴史ある日光街道、文化・芸術を皮膚で感じられる。また、自然あふれる環境も備わり、心身共にリフレッシュできる。
- 区はいろいろ頑張っていると思う。花火大会も費用はかかるだろうが区外からも楽しみにして来てほしいし、色々な理由でイベント事が無くなってきている今の時代だからこそ頑

張ってほしい。

○歴史のあるお寺、神社、保存樹等がある。

■ 誇りを持てる事柄がない（●102件）

●区外の人に積極的にお勧めができる区かと言うと、そうでは無い。あと一步、区の活気が足りないのかと思ったりもする。

●誇りを感じられるようなことを（自分の体験とか、地域の良さとか）感じたことがない。

●自信を持って足立区にはこれがあると言えるものがない。

●足立区は好きだが、誇りに思えるような部分は特に無い。

■ その他（○34件 ●42件）

○他の地域よりも野菜などの値段が安い。北野武の出身だから。

○子ども、高齢者に優しい。

○子育てをするには色々と生活しやすいのではと思う。実際子育て世代が多く居住していると聞くので。

●温かみがないところがある、地域の交流不足。

●大雨の時、浸水するのではと不安な土地なので。

●大学病院が少ない。

●子育てサポートがもっと充実していれば誇りとして胸をはれる。

●商業施設が少ない。

**人に勧めたい**

■ 物価が安い（○106件）

○物価が安いし、不動産も、まあ色々なものが安いから。

○家賃が安いから住みやすいかなと思う。

○都内では物価も安いし、なんだかんだ便利である。

■ 住みやすい／住みにくい（○99件 ●4件）

○住みやすく、地域の人たちもあたたかいから。

○20年以上住んでいて、住みやすくなった実感がある。

○住みやすいと感じています。娘家族にも足立区を勧めているところです。

○残念ながら足立区を誇りに思うほどまで完成された街とは言い難いですが、家賃や物価が安く、その気になれば東京では珍しいご近所付き合いも望めますので、地方から出てくる人、引越しの予定がある人におすすめの場所を聞かれたら足立区と言ってます。

●住みやすい（安全面）とは思わない。

●住みやすい区とは言えないから。

■ 交通利便性・道路整備が良い／悪い（○89件 ●33件）

○道路とか整備されており、暮らしやすいから。

○昔と違い、舍人ライナーができ、利便性が良く、緑も多く、住みたい足立区です。

○交通の便も良いし、茨城・埼玉・千葉方面に出かけやすい。

- 都心へのアクセスが良く、通勤や通学に便利です。北千住駅からは多くの路線が利用できる所以で行動範囲が広がります。
- 綾瀬駅前の道路が狭く、12月に完成するロータリーも小さくて意味がない、造るならもっと大きく造って欲しかった。
- 急な都市化により人口が増え、交通の整備、道路の整備が遅れている。
- コミュニティバス等の本数が減っている所以で不便を感じる。歩行者道路が狭い所以で危険を感じる事が多い。自転車も歩道を通ることが多いため。整備されてない道が多い。
- 都内であればもっと便利で住みやすい街がたくさんあるから。

#### ■ 生活環境・公園・自然が良い（○57件）

- 買い物などの場所も多く、便利なため。
- 広々として公園も適当にあり、静かで、買い物も便利だと勧めたい。増々高齢者が増える所以で緑の多い、きれいな公園が増えると良いと思います。
- 現在住んでいる地域が気に入っているため。駅からは離れてバスか徒歩での生活（車含む）ですが、静かな街で気に入っています。
- 公園が多くて、とても緑が多く、空気感が良いと思う。
- 緑も多く、とてもきれいで住むにはとても良い環境だなと思います。

#### ■ 買い物等の利便性が良い／悪い（○51件 ●5件）

- 駅まで明るい、お店が多く更にとっても安い、エキア竹ノ塚ができ、秋には東武ストアができ、利便が良い。
- 学校、病院、スーパーなど生活に必要なものはどこに住んでいても、だいたい揃っていると思うから。
- 身近にスーパーや商業施設が多数あり生活がしやすい。
- 北千住のリーズナブルな飲食店の豊富さ。
- 近所に商業施設が少ない。
- 普段の買い物はしやすいが、外食したくてもあまり店舗がない。
- 足立区内でも格差があるイメージ。

#### ■ 治安・防犯が良い／悪い（○44件 ●59件）

- 治安が悪いイメージがあるが、実はそんなことはなく、物価も安くて住みやすい。
- 足立区は犯罪の発生件数の増減を区民にしっかりと伝えているし、対策や声掛けも至る所で見かけるので、きちんと改善すべき点を区が受け入れている。自転車の防犯カバーを使っている方をよく見るので、皆で防犯意識を持とうとしている点がむしろ安心できる。
- ここ10年程で治安もよくなり町もきれいになったし便利で住みやすい街だと思うから。
- 治安の悪いイメージがあるが、犯罪発生は減少しているし、長年住んでいて、犯罪に遭遇したことはない。物価も安く、住みやすいと感じる。
- 治安の不安、交通マナーが悪い。
- 地域によって治安に差がある。外国人が国ごとにコミュニティができている地域は特に感じる。
- 以前と比べると安全になった感じだが、犯罪の発生件数を見ると勧める気になれない。
- 生活するには物価は安く良いと思う。下町の人情っぽいところも良いが、それを上回ってしまう治安の悪さにガッカリする。

■ 区・街のイメージが良い／悪い（○34件 ●25件）

- 私の住んでいるところは田舎すぎず都会すぎず丁度良い。
- 見栄を張らずに楽に住める所だから。
- 世間の評判ほど悪くないことは積極的に発信したい。
- 世間一般の足立区の悪いイメージほど、具体的な劣る点は見つからないから。
- 足立区のイメージが悪くて勧められない。外国の人が多くなった。ヤンキーが多い、怖いイメージ。車のマナーが悪くて、横断歩道を渡る時、気を使う。歩行者に気を使わない人が多いからキライ。
- 足立区に住んでいると伝えるだけで“さげすむ”視線を感じる人が多い、山の手に住む友人達の誤解だと思うが。
- メディアが足立区をバカにした番組づくりをするから。

■ 子育て環境（支援）が良い（○33件）

- お子さんを持った家族には住みやすい所だと思う。
- 若い人には特に子どもへの対策が充実しているため。
- 子育てにおいても孤立することなく、フレンドリーな人が多い。
- 有名なスポットがある訳ではなく、見所はあまりないが、子どもを育てやすい環境にあると思っている。

■ 人情味・人繋がりがある／ない（○26件 ●2件）

- 知らない人でも声を掛けてもらえることが多く、温かい気持ちになるから。
- 仲町の自治会が優しいので、イベント（ラジオ体操、祭り）に参加している。
- 周りの方々が親切でした。話し相手にもなってくれる優しい人に恵まれました。
- 近所の方々等優しいですし、いつも、気に掛けてくれる区民だから。
- 私の住んでいる町は若い人向きで、年配者には不便。

■ 福祉・病院・教育が良い（○26件）

- 医療施設、図書館、スポーツ施設、お店（買い物）が近い。
- 様々な活動をして、特に、学校・病院を誘致して住み良くしようとしているから。
- 年をとったら、介護施設もたくさんあるし、良いのでは。

■ 長年住んでいるから（○17件）

- 足立区で生まれ育ってきたから。
- 長く住んで心地良いと感じているから。

■ 歴史・観光・施設がある（○10件）

- 歴史・文化・芸術を皮膚で感じられ、自然あふれる環境も備わっている。
- SNSなどで、盆踊りやイベントなどの様子を発信し、良い所だと勧めている。
- 昔からのもの、新しいものが共生している。

■ 区政・職員の対応が良い／悪い（○9件 ●6件）

- 行政など（保健センターなど）も親身に相談にのってくれるので。
- 住めば住むほど、より良い自治体になろうとしているのがわかるから。

- 区役所の職員が画一的で有り、他人に勧めたいと思わない。
- 区政が本当に区民のために動いているのかわからないことあり。荒川の以北の地域の様子がわからない。外国人の増加があると聞くと不安になる。

■ 発展性がある（○9件）

- 暮らしやすい所と思うので、発展する伸びしろのある区だと思うので。
- 公園が多いし学校も多くて子育てしやすいと思う。北綾瀬は始発駅で開発が進んでいる。道路も新しくできて交通の便も良い。
- 北千住など若返りが見られ今後の新しい変化に期待をしている。

■ 勧められる点がない（●51件）

- 舎人に住んでいるが魅力は「舎人公園」以外に何もない。
- 人に勧めたいと思えるほどに突出した強みが無い（知らない）から。

■ 住民の質や意識（マナー）が悪い（●36件）

- 民度の低い発言・行動も見られるので恥ずかしいところがある。
- 一時は治安がよくなったかと思った時期もありましたが、最近は少年少女らの不良が増えていると体感します。

■ 他国籍者が多くマナーが低下（●10件）

- 外国人が多く、コミュニティが出来ている地域も多く、公共施設、病院等で嫌な目にたまに合うため。
- ここ数年、アジア系の方が増えてきて不安があるため。

■ 災害・水害の危険性がある（●10件）

- 地震・洪水など、自然災害リスクが高いと感じているため。
- 大地震等起きた時、危ないエリアに含まれているため。

■ その他（○25件 ●58件）

- 実際に住んでみると、ネガティブなイメージは感じなかったから。
- 海外の寮生活での経験も含めてやはり平和な環境であると感じたし、足立区の魅力を肌で感じてきたから。
- 北千住地区は楽しく、趣がある。
- 足立区の一部しか都市開発が進んでいないから。
- 人口が増え過ぎるのが心配。
- 千住らしい街並みや店が開発によって失われているから。芸術（音楽ホールや図書館、講座など）が充実して欲しい。
- 足立区には若者が集まらない、そういう場所がないからあまり昔と変化がないように感じるから。

(3) 区を良いまちにするための行動

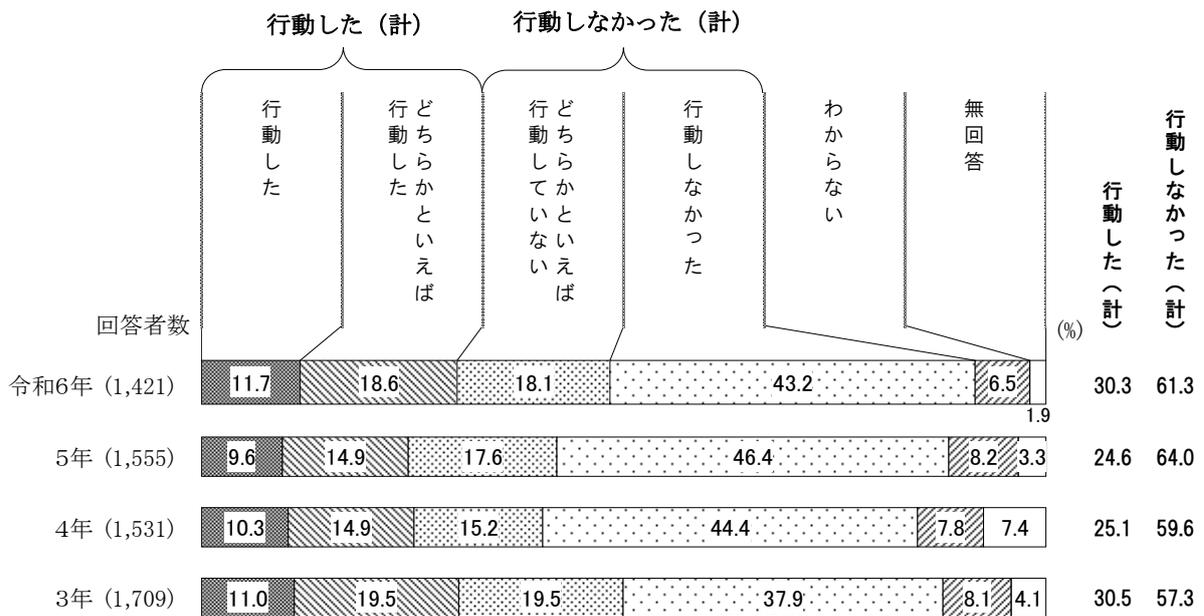
問45 あなたはこの1年間に足立区を良いまちにするために行動をしましたか  
 (○は1つだけ)。  
 ※ 町会・自治会活動、ボランティア活動、防犯活動、地域イベントの手伝いのほか、家の前の清掃をしている、道案内など困っている人を助けた、足立区内の魅力的な情報を伝えた(発信した)などの個人的な行動も含まれます。

■【行動しなかった】が6割超で、【行動した】の3割を大きく上回る

ア 単純集計・経年比較/区を良いまちにするための行動

- (ア) この1年間に足立区を良いまちにするための行動をしたか聞いたところ、「行動しなかった」が43.2%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(18.1%)を合わせた【行動しなかった】は61.3%となっている。
- (イ) 「行動した」は11.7%に留まり、「どちらかといえば行動した」(18.6%)を合わせた【行動した】は30.3%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【行動した】は5.7ポイントの増加となっている。

図11-3-1 経年比較/区を良いまちにするための行動

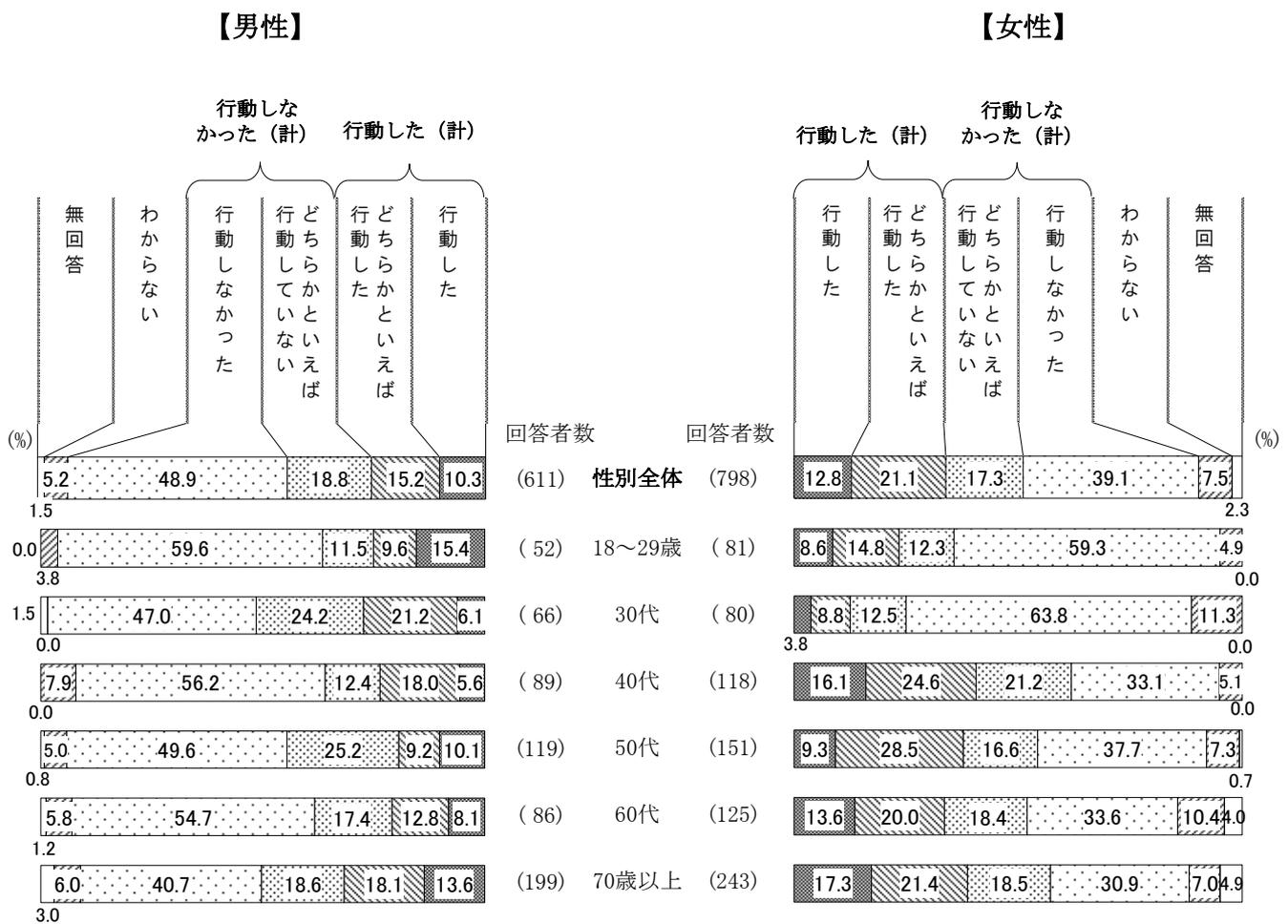


イ クロス集計・性別、性・年代別／区を良いまちにするための行動

(ア) 性別にみると、【行動した】は女性（33.8%）の方が男性（25.5%）より8.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行動した】は、女性の40代が40.7%で最も高く、50代以上の年齢層では3割以上となっており、男性では70歳以上のみで3割超となっている。一方、【行動しなかった】は女性の30代が76.3%で最も高く、次いで男性の50代（74.8%）となっている。

図11-3-2 性別、性・年代別／区を良いまちにするための行動



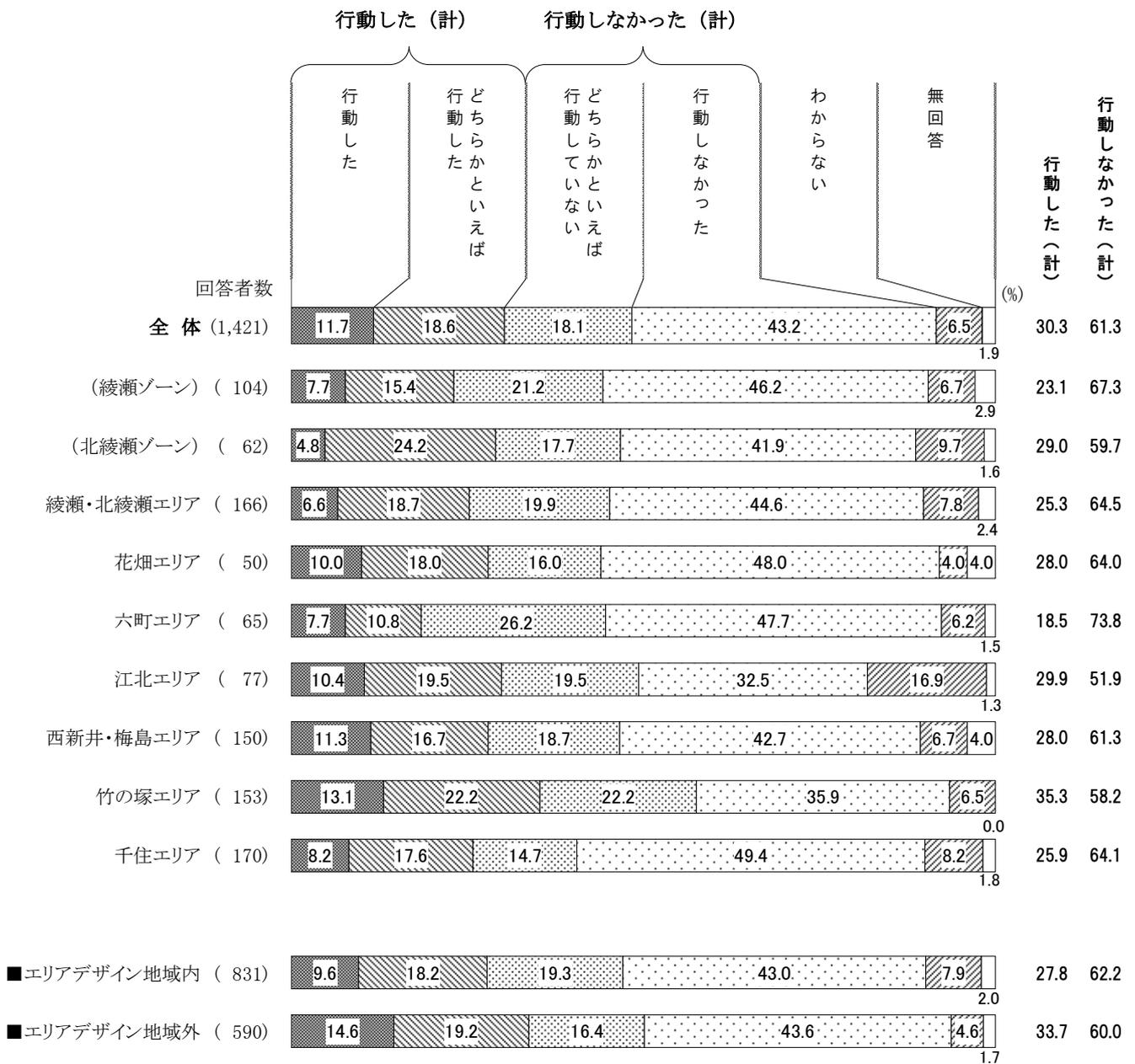
ウ クロス集計・エリアデザイン別／区を良いまちにするための行動

（ア）『区を良いまちにするための行動』をエリアデザイン別にみると、【行動した】は、竹の塚エリアが35.3%で最も高く、次いで江北エリアが29.9%となっている。一方、【行動しなかった】は、六町エリアが73.8%で最も高く、次いで綾瀬・北綾瀬エリア（64.5%）となっている。

（イ）エリアデザインの地域内外で比較すると、【行動した】は地域外（33.7%）の方が地域内（27.8%）より5.9ポイント高くなっている。

※（綾瀬ゾーン）と（北綾瀬ゾーン）は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

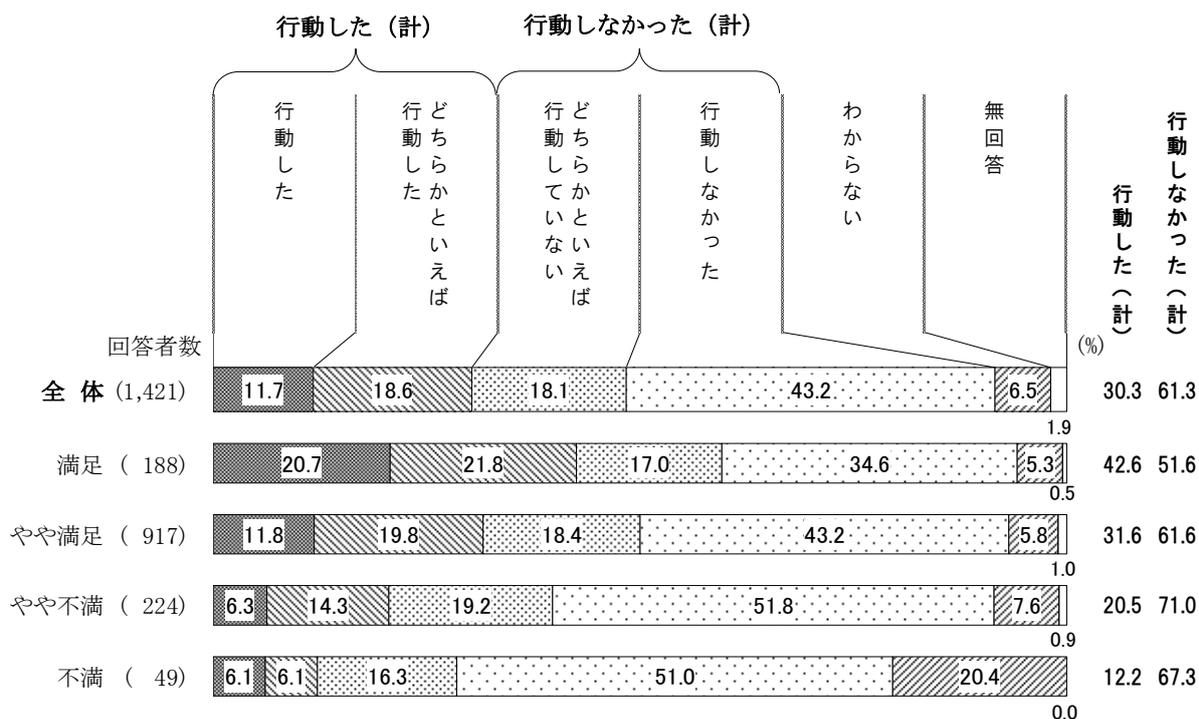
図11-3-3 エリアデザイン別／区を良いまちにするための行動



エ クロス集計・区政満足度別／区を良くするための行動

『区を良くするための行動』を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【行動した】の割合は増加し、『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【行動した】は42.6%となっている。『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【行動した】は12.2%に留まり、【行動しなかった】は67.3%を占めている。

図 11-3-4 区政満足度別／区を良くするための行動



（4）区の取り組みで満足している分野

問46 次の足立区の取り組みのうち、あなたが満足、やや満足と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

■ 「情報提供」が4割超で最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割台半ば超

【区の取り組み（分野）】

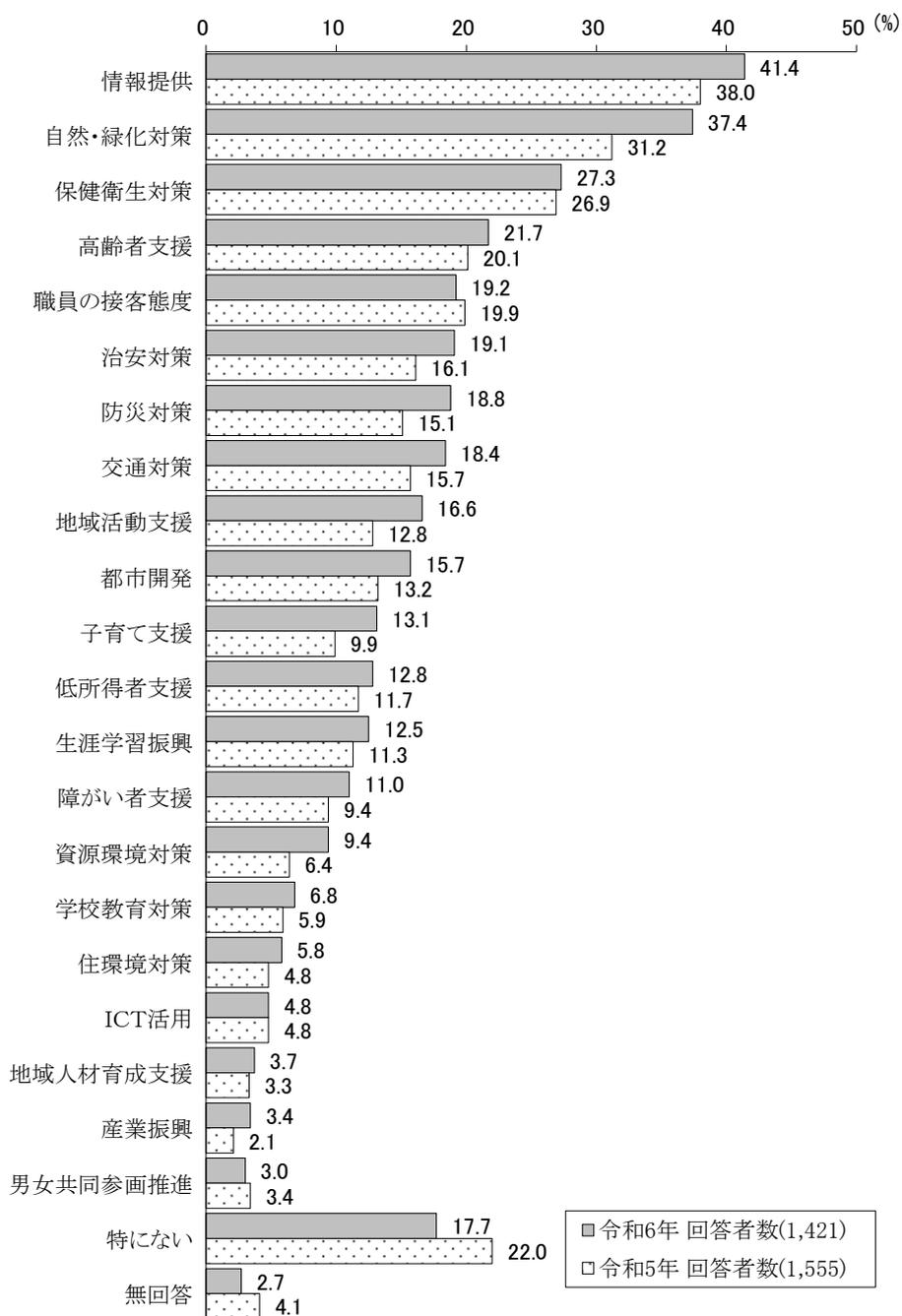
分野名		取り組み内容（選択肢）
1	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供
2	職員の接客態度	職員の接客態度
3	ICT活用	ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上
4	防災対策	防災対策
5	治安対策	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策
6	地域活動支援	町会・自治会など地域活動支援
7	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進
8	地域人材育成支援	NPOやボランティアの育成や支援
9	高齢者支援	高齢者の生活や介護などの支援
10	障がい者支援	障がい者の生活や介護などの支援
11	低所得者支援	低所得者の生活援助や就労支援
12	保健衛生対策	健康づくりやがん検診など保健衛生対策
13	子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援
14	学校教育対策	教育内容の充実など学校教育対策
15	生涯学習振興	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興
16	資源環境対策	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策
17	産業振興	商工業や起業支援など産業振興
18	自然・緑化対策	公園や緑地などの整備
19	都市開発	美しい街並みや景観づくりなど都市開発
20	住環境対策	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策
21	交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策

ア 単純集計／区の取り組みで満足している分野

(ア) 区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が41.4%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(37.4%)、「保健衛生対策」(27.3%)、「高齢者支援」(21.7%)、「職員の接客態度」(19.2%) などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、順位では、上位6位までの取り組みに変動はなかった。割合の増減で見ると、「自然・緑化対策」が6.2ポイント増加しているのをはじめ、「地域活動支援」、「防災対策」、「情報提供」、「子育て支援」、「治安対策」、「資源環境対策」で3ポイント以上の増加となっており、ほとんどの項目で増加している。

図 11-4-1 前回調査比較／区の取り組みで満足している分野



イ クロス集計・地域別／区の取り組みで満足している分野

（ア）地域別で見ると、第8地域は「保健衛生対策」「高齢者支援」「生涯学習振興」「障がい者支援」「学校教育対策」など5分野で最も高く、第7地域は「治安対策」「子育て支援」「資源環境対策」の3分野で、第13地域でも「自然・緑化対策」「職員の接客態度」「防災対策」の3分野で、第1地域は「住環境対策」「産業振興」の2分野で最も高い割合となっている。

図11-4-2 地域別／区の取り組みで満足している分野



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	情報提供	41.4	42.4	38.4	38.6	49.6	49.2	39.4	39.5	42.9	44.3	33.9	35.3	41.0	40.3	30.0	49.1
2	自然・緑化対策	37.4	26.5	41.9	28.9	31.6	36.9	44.4	44.7	41.8	38.1	33.9	37.1	39.3	45.5	42.5	45.3
3	保健衛生対策	27.3	23.5	25.6	31.3	29.3	30.0	22.2	23.7	35.7	32.0	25.8	25.0	29.5	27.3	22.5	26.4
4	高齢者支援	21.7	21.2	25.6	22.9	21.1	24.6	8.1	17.1	28.6	16.5	22.6	26.7	18.0	24.7	23.8	22.6
5	職員の接客態度	19.2	17.1	17.4	15.7	25.6	24.6	19.2	19.7	19.4	19.6	12.9	19.0	14.8	26.0	13.8	15.1
6	治安対策	19.1	18.8	12.8	21.7	24.8	17.7	18.2	25.0	19.4	17.5	9.7	23.3	14.8	18.2	18.8	20.8
7	防災対策	18.8	15.3	12.8	16.9	25.6	23.8	24.2	21.1	21.4	11.3	11.3	17.2	6.6	29.9	18.8	18.9
8	交通対策	18.4	14.1	23.3	20.5	17.3	17.7	20.2	11.8	24.5	26.8	21.0	18.1	8.2	18.2	16.3	17.0
9	地域活動支援	16.6	17.1	7.0	19.3	16.5	23.1	14.1	13.2	22.4	13.4	16.1	15.5	8.2	19.5	15.0	26.4
10	都市開発	15.7	14.7	20.9	13.3	12.0	7.7	22.2	13.2	18.4	18.6	19.4	17.2	13.1	22.1	12.5	15.1
11	子育て支援	13.1	11.8	17.4	9.6	15.0	10.8	11.1	18.4	17.3	13.4	4.8	10.3	16.4	13.0	13.8	15.1
12	低所得者支援	12.8	10.0	12.8	12.0	11.3	13.8	12.1	10.5	16.3	17.5	14.5	15.5	8.2	9.1	16.3	11.3
13	生涯学習振興	12.5	14.1	11.6	12.0	12.8	11.5	8.1	11.8	18.4	13.4	9.7	13.8	8.2	11.7	16.3	9.4
14	障がい者支援	11.0	8.8	15.1	10.8	9.8	10.0	8.1	7.9	18.4	5.2	11.3	14.7	4.9	14.3	11.3	17.0
15	資源環境対策	9.4	10.0	10.5	6.0	9.0	10.0	7.1	14.5	14.3	7.2	6.5	12.1	6.6	13.0	6.3	3.8
16	学校教育対策	6.8	6.5	7.0	6.0	10.5	4.6	2.0	5.3	13.3	7.2	4.8	5.2	4.9	11.7	5.0	5.7
17	住環境対策	5.8	10.6	7.0	4.8	4.5	2.3	4.0	1.3	6.1	3.1	8.1	8.6	0.0	5.2	8.8	9.4
18	ICT活用	4.8	2.9	9.3	4.8	8.3	2.3	7.1	1.3	5.1	6.2	3.2	5.2	0.0	6.5	3.8	3.8
19	地域人材育成支援	3.7	4.1	3.5	2.4	3.8	3.1	3.0	0.0	6.1	3.1	4.8	7.8	3.3	1.3	2.5	5.7
20	産業振興	3.4	5.9	4.7	1.2	3.8	0.0	4.0	3.9	4.1	2.1	4.8	4.3	1.6	5.2	1.3	1.9
21	男女共同参画推進	3.0	4.1	3.5	1.2	4.5	5.4	3.0	0.0	5.1	1.0	1.6	4.3	0.0	2.6	1.3	1.9
—	特にない	17.7	17.1	17.4	20.5	19.5	16.2	17.2	18.4	16.3	15.5	19.4	19.8	13.1	18.2	18.8	18.9

区全体より高い

最も高い

## ウ クロス集計・性別、年代別／区の取り組みで満足している分野

(ア) 性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「保健衛生対策」(+9.1ポイント)、「治安対策」(+5.0ポイント)、「情報提供」(+4.1ポイント)、「生涯学習振興」(+3.6ポイント)

b 「特にない」は男性の方が女性より6.3ポイント高くなっている。

(イ) 年代別でみたときに、区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 70歳以上では、21項目中最多の7項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」で14.4ポイント、「地域活動支援」で11.4ポイント高くなっている。

b 40代では、3項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、「子育て支援」で8.4ポイント、「学校教育対策」で7.1ポイント、「治安対策」で5.8ポイント高くなっている。

c 30代では、「子育て支援」で区全体より10.5ポイント、60代では、「情報提供」で区全体より5.0ポイント高くなっている。

d 「特にない」は18～29歳で区全体より10.4ポイント高くなっている。

図11-4-3 性別、年代別／区の取り組みで満足している分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	情報提供	41.4	39.4	43.5	20.7	36.5	36.4	42.1	46.4	49.0
2	自然・緑化対策	37.4	37.2	37.8	37.8	33.8	40.7	37.0	32.7	39.5
3	保健衛生対策	27.3	22.1	31.2	22.2	16.2	24.4	27.1	28.9	33.4
4	高齢者支援	21.7	20.3	22.8	8.9	7.4	12.4	19.8	21.3	36.1
5	職員の接客態度	19.2	19.8	19.0	11.9	14.9	19.6	19.4	16.1	24.2
6	治安対策	19.1	16.4	21.4	20.7	14.2	24.9	19.4	14.7	19.6
7	防災対策	18.8	19.8	18.2	14.8	18.2	19.6	17.6	13.7	23.0
8	交通対策	18.4	19.1	17.7	19.3	14.9	21.1	17.6	16.6	19.2
9	地域活動支援	16.6	15.7	17.4	10.4	8.1	11.5	11.0	15.2	28.0
10	都市開発	15.7	14.6	16.7	17.8	16.9	17.2	16.8	11.8	15.1
11	子育て支援	13.1	12.8	13.5	17.0	23.6	21.5	9.2	9.5	8.6
12	低所得者支援	12.8	13.6	12.2	10.4	7.4	10.5	13.2	8.1	18.5
13	生涯学習振興	12.5	10.6	14.2	11.9	10.1	14.4	8.8	9.0	16.7
14	障がい者支援	11.0	11.5	10.5	5.9	6.8	7.7	14.3	7.1	15.3
15	資源環境対策	9.4	8.2	10.5	4.4	4.7	6.2	8.4	6.6	16.0
16	学校教育対策	6.8	7.4	6.4	11.1	4.7	13.9	5.1	5.2	4.5
17	住環境対策	5.8	4.9	6.5	5.2	3.4	5.3	8.1	4.7	6.1
18	ICT活用	4.8	4.9	4.8	8.1	4.7	7.7	5.9	1.9	3.2
19	地域人材育成支援	3.7	3.4	4.0	2.2	2.7	3.3	2.6	3.3	5.6
20	産業振興	3.4	4.3	2.8	0.7	3.4	5.3	4.0	2.4	3.4
21	男女共同参画推進	3.0	3.8	2.5	3.7	2.0	2.9	2.2	1.4	4.5
—	特にない	17.7	21.1	14.8	28.1	19.6	20.1	18.7	16.6	12.9
			性差3p以上		区全体より5p以上高い					

(5) 区の取り組みで不満の分野

問47 次の足立区の取り組みのうち、あなたが不満、やや不満と感じている分野を選んでください(〇はあてはまるものすべて)。

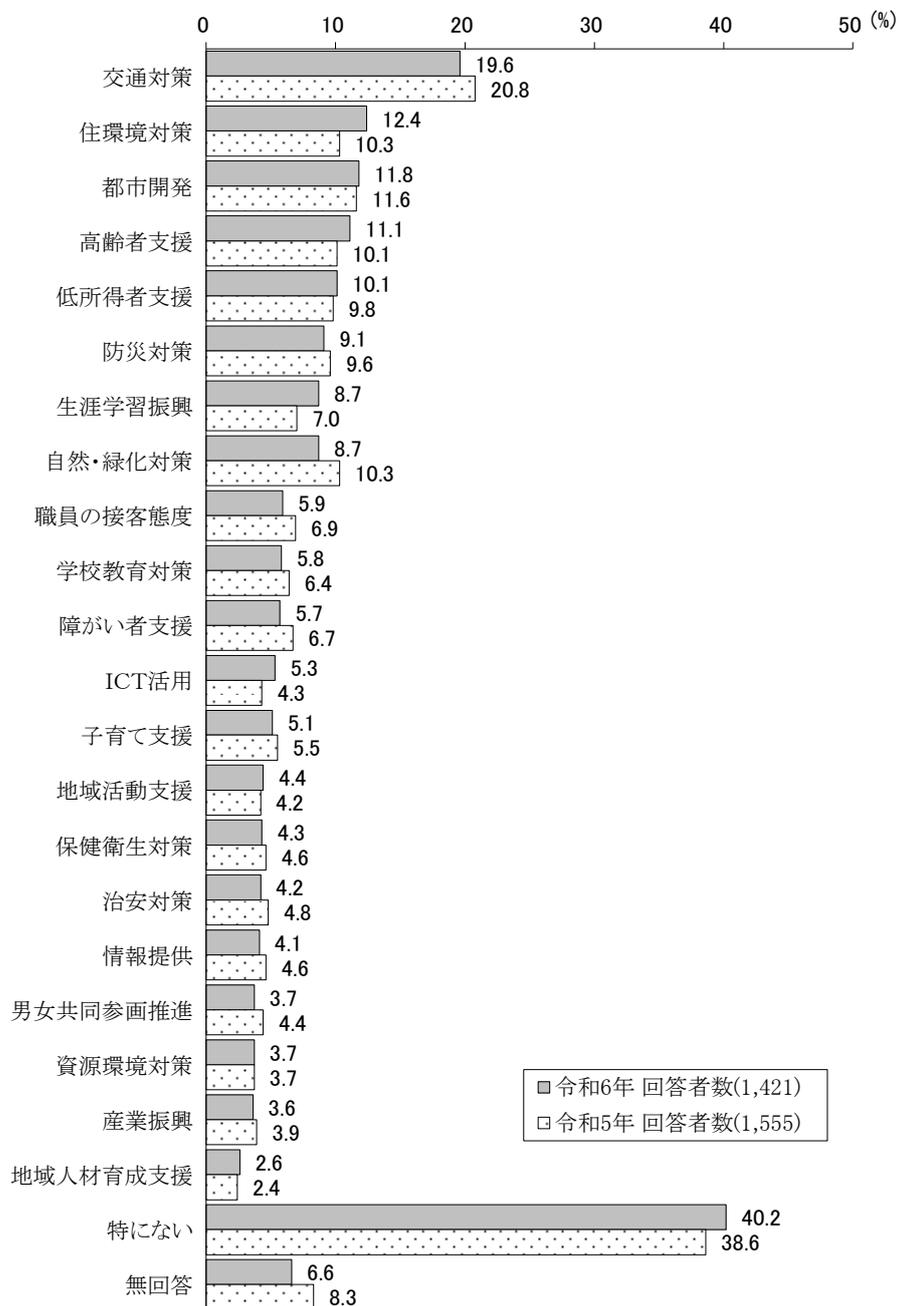
■ 「交通対策」が約2割で最上位、次いで「住環境対策」が1割超で続く

ア 単純集計／区の取り組みで不満の分野

(ア) 区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が19.6%で最も高く、次いで、「住環境対策」(12.4%)、「都市開発」(11.8%)、「高齢者支援」(11.1%)などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、順位では、「住環境対策」が前回の同率3位から今回2位に上がり、逆に「自然・緑化対策」が前回の同率3位から今回8位に下がった。割合の増減で見ると、「住環境対策」が2.1ポイント増加しているが、他の項目は2ポイント未満の増減となっている。

図 11-5-1 前回調査比較／区の取り組みで不満の分野

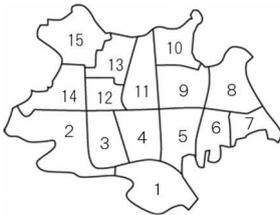


イ クロス集計・地域別／区の取り組みで不満の分野

(ア) 地域別でみると、第13地域は「防災対策」「学校教育対策」「障がい者支援」「治安対策」「情報提供」「資源環境対策」など6分野で最も高く、第6地域は「都市開発」「生涯学習振興」「子育て支援」「保健衛生対策」の4分野で、第10地域は「低所得者支援」「職員の接客態度」「男女共同参画推進」の3分野で、第2地域は「ICT活用」「地域活動支援」の2分野で最も高い割合となっている。

図11-5-2 地域別／区の取り組みで不満の分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	交通対策	19.6	18.8	14.0	31.3	15.8	22.3	21.2	14.5	16.3	19.6	19.4	16.4	23.0	28.6	18.8	17.0
2	住環境対策	12.4	12.9	12.8	12.0	12.8	17.7	10.1	9.2	7.1	6.2	16.1	9.5	23.0	14.3	10.0	17.0
3	都市開発	11.8	15.9	9.3	13.3	11.3	13.8	16.2	15.8	5.1	12.4	6.5	10.3	11.5	13.0	7.5	7.5
4	高齢者支援	11.1	8.8	8.1	8.4	12.0	8.5	14.1	11.8	10.2	13.4	11.3	13.8	9.8	9.1	15.0	15.1
5	低所得者支援	10.1	7.6	4.7	10.8	12.0	8.5	9.1	6.6	11.2	11.3	17.7	12.9	14.8	11.7	8.8	7.5
6	防災対策	9.1	13.5	12.8	6.0	3.0	12.3	12.1	9.2	5.1	7.2	11.3	4.3	13.1	14.3	6.3	7.5
7	生涯学習振興	8.7	12.9	8.1	8.4	9.0	8.5	16.2	5.3	8.2	3.1	3.2	6.0	8.2	9.1	10.0	9.4
8	自然・緑化対策	8.7	12.4	5.8	9.6	5.3	6.2	11.1	7.9	4.1	11.3	8.1	10.3	14.8	7.8	8.8	5.7
9	職員の接客態度	5.9	7.6	3.5	3.6	6.8	7.7	3.0	1.3	4.1	4.1	11.3	6.9	6.6	9.1	5.0	7.5
10	学校教育対策	5.8	5.3	3.5	4.8	5.3	6.9	4.0	2.6	4.1	5.2	11.3	6.0	4.9	13.0	6.3	7.5
11	障がい者支援	5.7	4.7	1.2	4.8	6.8	4.6	7.1	3.9	6.1	3.1	4.8	3.4	8.2	11.7	11.3	7.5
12	ICT活用	5.3	7.1	9.3	6.0	3.0	2.3	9.1	3.9	7.1	3.1	6.5	2.6	3.3	5.2	6.3	7.5
13	子育て支援	5.1	4.1	5.8	6.0	3.0	4.6	10.1	1.3	4.1	9.3	3.2	1.7	8.2	7.8	1.3	9.4
14	地域活動支援	4.4	1.2	8.1	3.6	3.8	4.6	4.0	5.3	6.1	7.2	4.8	5.2	3.3	6.5	1.3	3.8
15	保健衛生対策	4.3	5.3	3.5	6.0	2.3	2.3	8.1	3.9	5.1	5.2	4.8	3.4	6.6	2.6	3.8	1.9
16	治安対策	4.2	2.4	3.5	2.4	3.8	3.8	4.0	2.6	5.1	7.2	6.5	0.9	6.6	9.1	5.0	3.8
17	情報提供	4.1	3.5	5.8	2.4	0.8	3.1	7.1	3.9	7.1	2.1	4.8	1.7	4.9	7.8	6.3	3.8
18	男女共同参画推進	3.7	4.7	1.2	3.6	3.0	3.8	6.1	2.6	5.1	3.1	6.5	0.9	4.9	2.6	5.0	3.8
19	資源環境対策	3.7	4.7	5.8	3.6	3.8	0.8	4.0	3.9	5.1	2.1	4.8	0.9	4.9	6.5	3.8	3.8
20	産業振興	3.6	1.8	2.3	4.8	3.0	3.1	5.1	1.3	3.1	7.2	1.6	1.7	3.3	3.9	8.8	5.7
21	地域人材育成支援	2.6	2.4	1.2	3.6	3.0	1.5	5.1	5.3	4.1	3.1	0.0	0.9	0.0	3.9	1.3	3.8
—	特にない	40.2	37.6	44.2	41.0	42.1	39.2	41.4	48.7	46.9	37.1	41.9	40.5	31.1	32.5	41.3	34.0

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／区の取り組みで不満の分野

(ア) 性別でみると、区の取り組みで満足の方の分野に比べ、男女の差が小さい。

a 男性の方が女性より2ポイント以上高い取り組み

「情報提供」(+2.7ポイント)、「ICT活用」(+2.2ポイント)、「都市開発」と「高齢者支援」(各+2.0ポイント)

b 女性の方が男性より2ポイント以上高い取り組みはなかった。

(イ) 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 18～29歳では、「低所得者支援」「男女共同参画推進」「産業振興」の3項目で5ポイント以上高くなっている。

b 30代では「都市開発」と「子育て支援」の2項目、60代と70歳以上で「高齢者支援」がそれぞれ区全体より5ポイント以上高くなっている。

c 「特にない」は、18～29歳で区全体より5ポイント以上高くなっている。

図11-5-3 性別、年代別／区の取り組みで不満の分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	交通対策	19.6	20.6	18.8	21.5	24.3	23.4	20.1	23.7	13.3
2	住環境対策	12.4	13.6	11.7	8.1	12.8	15.3	12.5	12.8	12.0
3	都市開発	11.8	12.9	10.9	13.3	17.6	11.5	12.8	13.3	8.1
4	高齢者支援	11.1	12.3	10.3	6.7	5.4	3.8	7.0	16.1	18.1
5	低所得者支援	10.1	10.6	9.8	17.8	5.4	7.2	8.4	10.9	11.3
6	防災対策	9.1	9.8	8.8	8.9	6.1	7.7	10.3	13.3	8.4
7	生涯学習振興	8.7	8.2	9.0	9.6	8.1	8.1	8.1	10.4	8.4
8	自然・緑化対策	8.7	7.7	9.4	9.6	10.1	5.7	8.8	10.9	8.1
9	職員の接客態度	5.9	5.9	5.6	8.1	4.7	9.6	3.7	5.7	5.4
10	学校教育対策	5.8	5.4	6.3	10.4	8.8	4.3	7.3	6.6	2.9
11	障がい者支援	5.7	5.7	5.6	8.1	4.1	4.3	5.5	7.1	5.6
12	ICT活用	5.3	6.5	4.3	8.1	8.1	8.1	5.5	4.7	2.3
13	子育て支援	5.1	4.4	5.6	8.1	10.1	6.7	5.1	3.3	2.5
14	地域活動支援	4.4	5.1	3.8	3.7	0.7	3.8	4.4	2.8	7.0
15	保健衛生対策	4.3	4.3	4.4	6.7	4.7	2.9	4.0	6.2	3.4
16	治安対策	4.2	5.2	3.3	8.9	2.7	3.8	5.9	2.4	3.2
17	情報提供	4.1	5.6	2.9	8.9	6.1	5.3	1.8	4.3	2.7
18	男女共同参画推進	3.7	2.9	4.1	10.4	2.7	3.8	2.2	4.7	2.5
19	資源環境対策	3.7	3.8	3.6	5.9	1.4	3.3	4.8	2.8	3.8
20	産業振興	3.6	3.8	3.4	9.6	3.4	2.9	4.8	2.4	2.0
21	地域人材育成支援	2.6	2.6	2.6	3.7	0.7	2.4	2.2	4.7	2.3
-	特にない	40.2	39.6	41.0	47.4	42.6	45.0	44.3	38.4	33.2
			性差2p以上		区全体より5p以上高い					

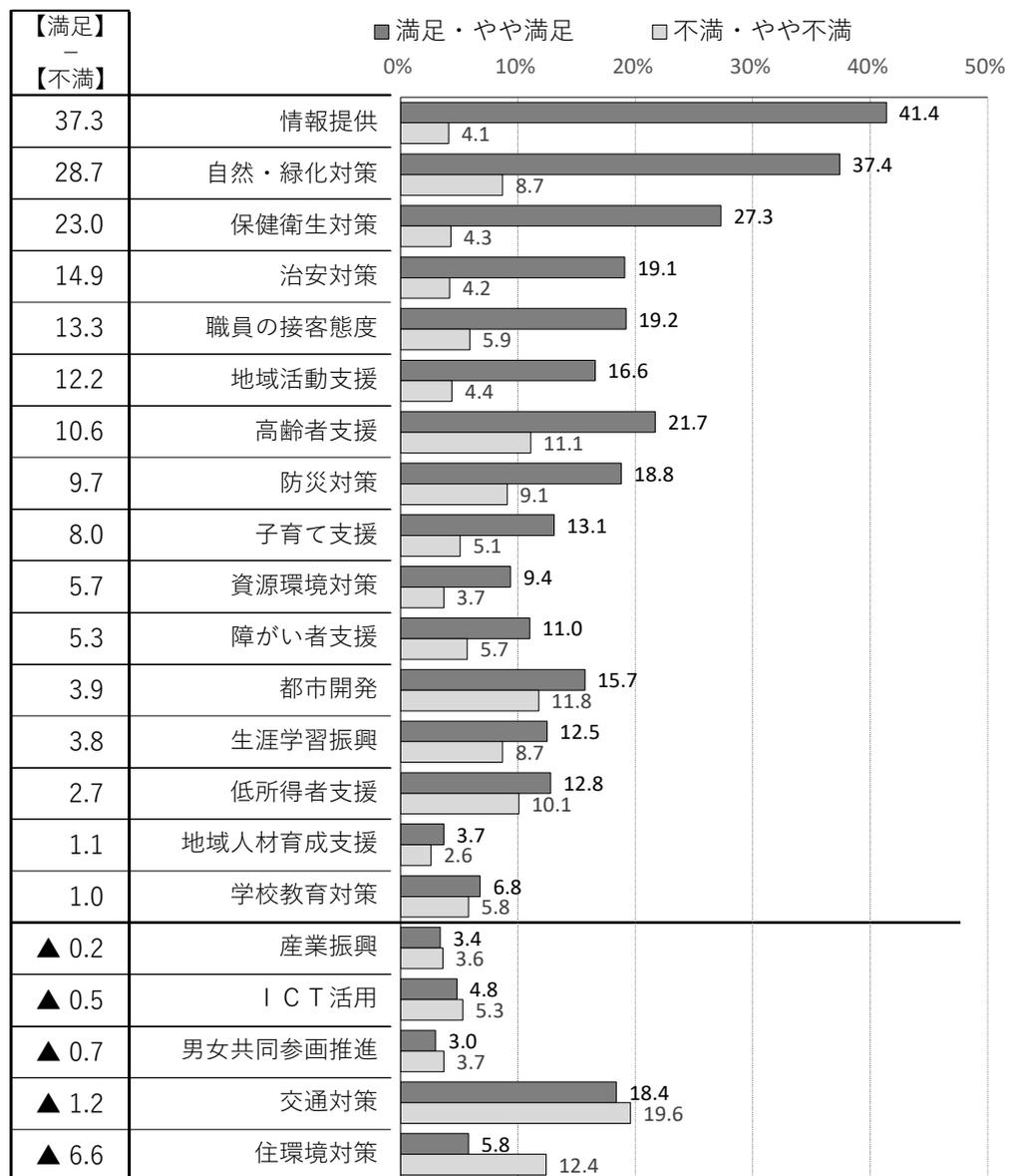
(6) 区の取り組み(分野)に対する評価(【満足割合】－【不満割合】)

満足している取り組み(問46)と不満な取り組み(問47)をそれぞれ単独で質問したが、それぞれの評価値の差異(【満足評価割合】－【不満評価割合】)をみることで、各取り組み(分野)の現状評価を試みた。

ア クロス集計／【満足評価割合】－【不満評価割合】《足立区全体》

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み(上位5位)  
「情報提供」(+37.3ポイント)、「自然・緑化対策」(+28.7ポイント)、「保健衛生対策」(+23.0ポイント)、「治安対策」(+14.9ポイント)、「職員の接客態度」(+13.3ポイント)
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み(-2ポイント以上)  
「住環境対策」(-6.6ポイント)
- (ウ) 「交通対策」については、【満足評価割合】が21項目中8番目に高いが、【不満評価割合】が最も高いため、評価としては、《不満割合が高い取り組み》となっている。

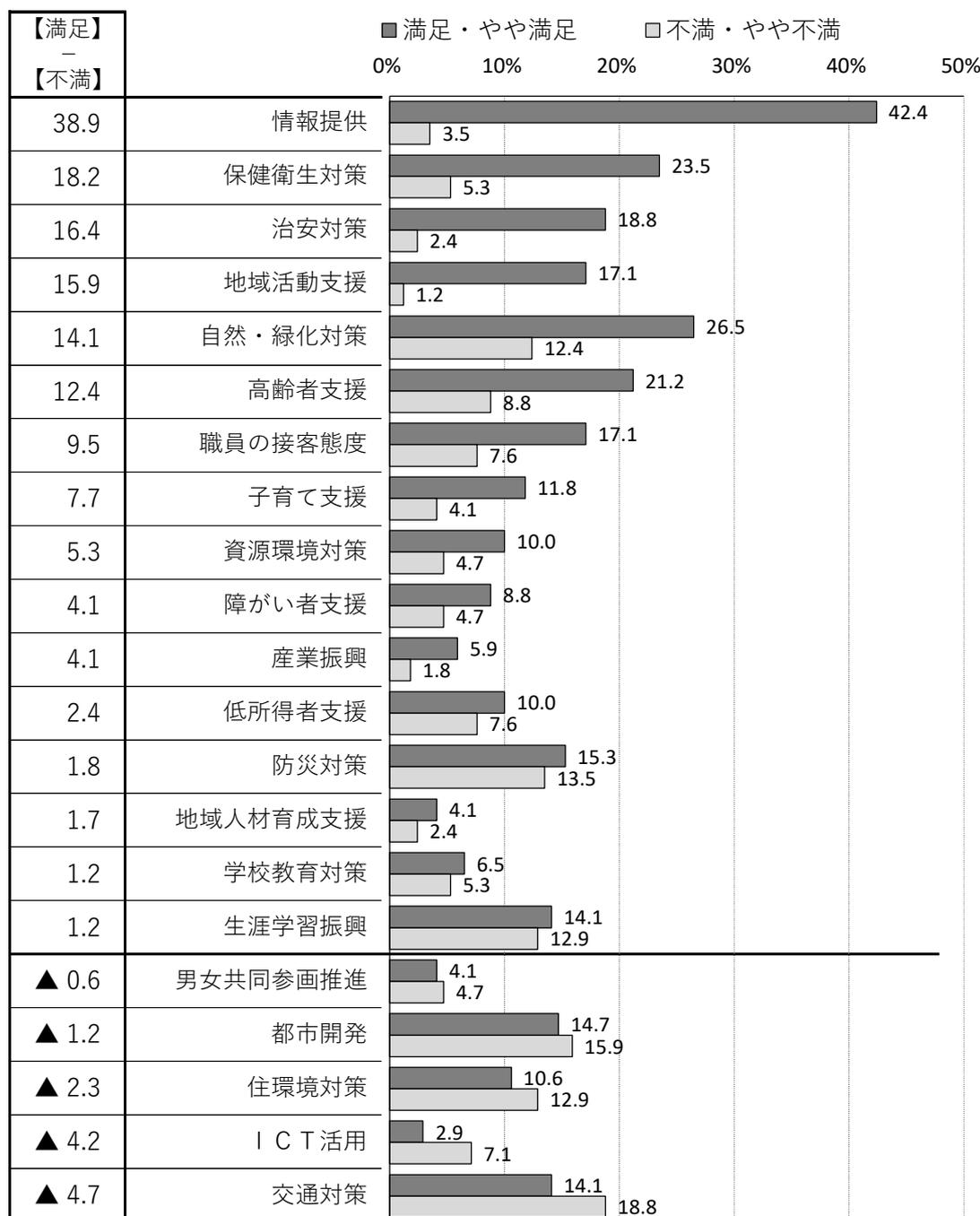
図11-6-1 各取り組みの現状評価《足立区全体》(【満足評価】－【不満評価】)



イ クロス集計・地域別《第1地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
「情報提供」（+38.9ポイント）、「保健衛生対策」（+18.2ポイント）、「治安対策」（+16.4ポイント）、「地域活動支援」（+15.9ポイント）、「自然・緑化対策」（14.1ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
「交通対策」（-4.7ポイント）、「ICT活用」（-4.2ポイント）、「住環境対策」（-2.3ポイント）
- (ウ) 第1地域の特徴として、【満足評価割合】で「住環境対策」（10.6%）と「産業振興」（5.9%）が15地域中最も高い割合となっている。

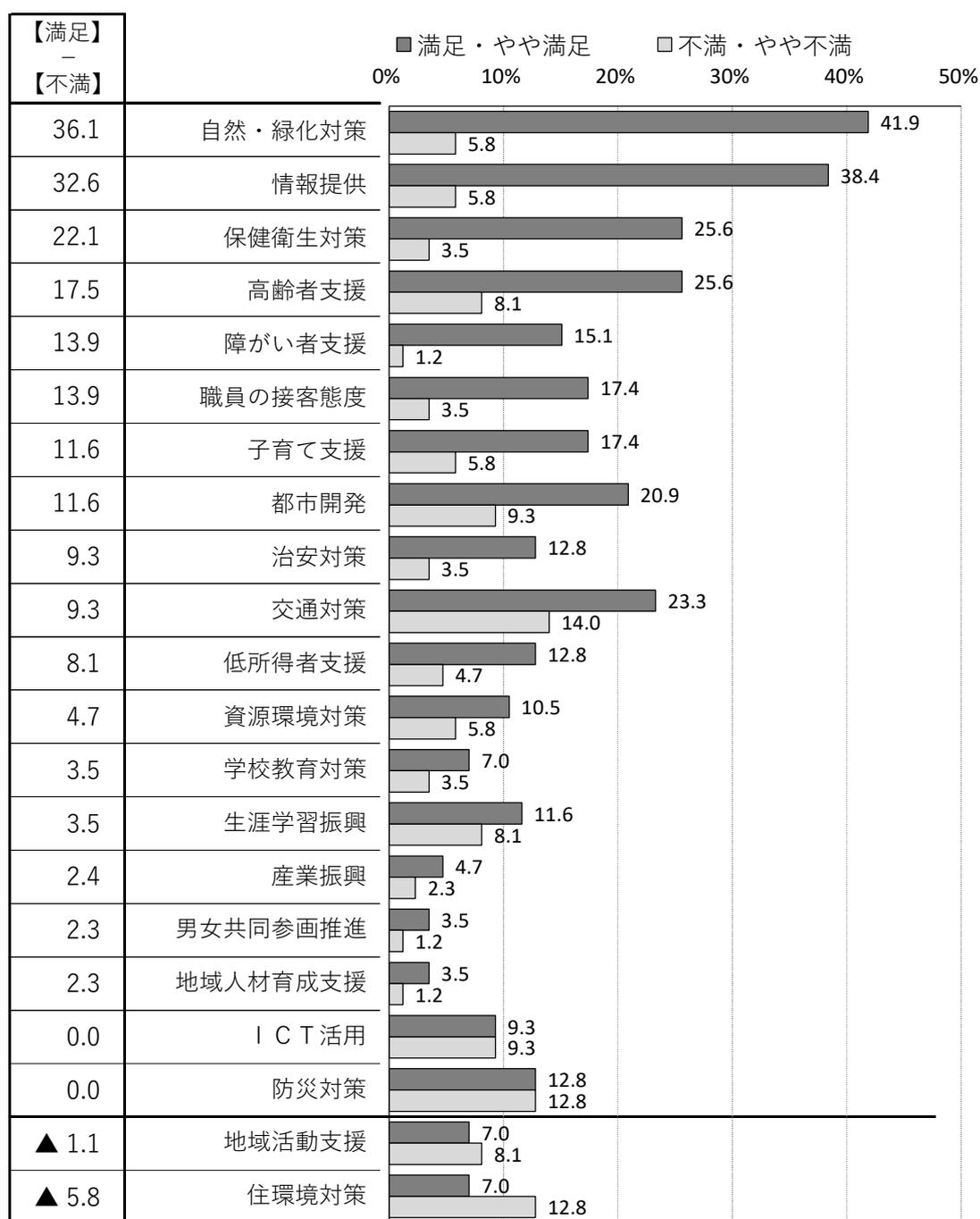
図11-6-2 各取り組みの現状評価《第1地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ウ クロス集計・地域別《第2地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
「自然・緑化対策」（+36.1ポイント）、「情報提供」（+32.6ポイント）、「保健衛生対策」（+22.1ポイント）、「高齢者支援」（+17.5ポイント）、「障がい者支援」（+13.9ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
「住環境対策」（-5.8ポイント）、「地域活動支援」（-1.1ポイント）
- (ウ) 第2地域の特徴として、【満足評価割合】で「ICT活用」（9.3%）が15地域中最も高く、「子育て支援」（17.4%）が15地域中2番目に高い割合となっている。

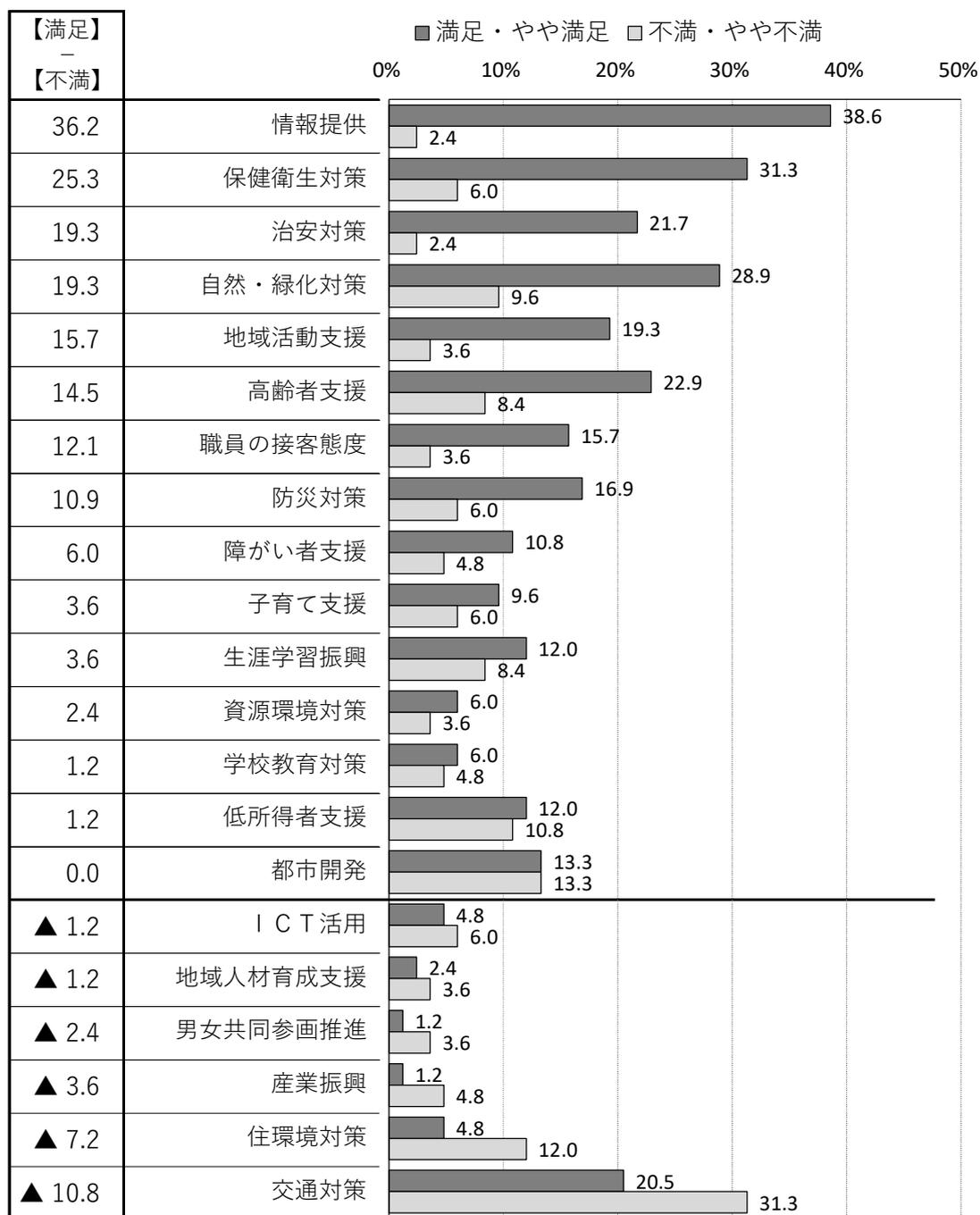
図11-6-3 各取り組みの現状評価《第2地域》（【満足評価】－【不満評価】）



エ クロス集計・地域別《第3地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
「情報提供」（+36.2ポイント）、「保健衛生対策」（+25.3ポイント）、「治安対策」と「自然・緑化対策」（各+19.3ポイント）、「地域活動支援」（+15.7ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
「交通対策」（-10.8ポイント）、「住環境対策」（-7.2ポイント）、「産業振興」（-3.6ポイント）、「男女共同参画推進」（-2.4ポイント）
- (ウ) 第3地域の特徴として、【不満評価割合】で「交通対策」（31.3%）が15地域中最も高い割合となっている。

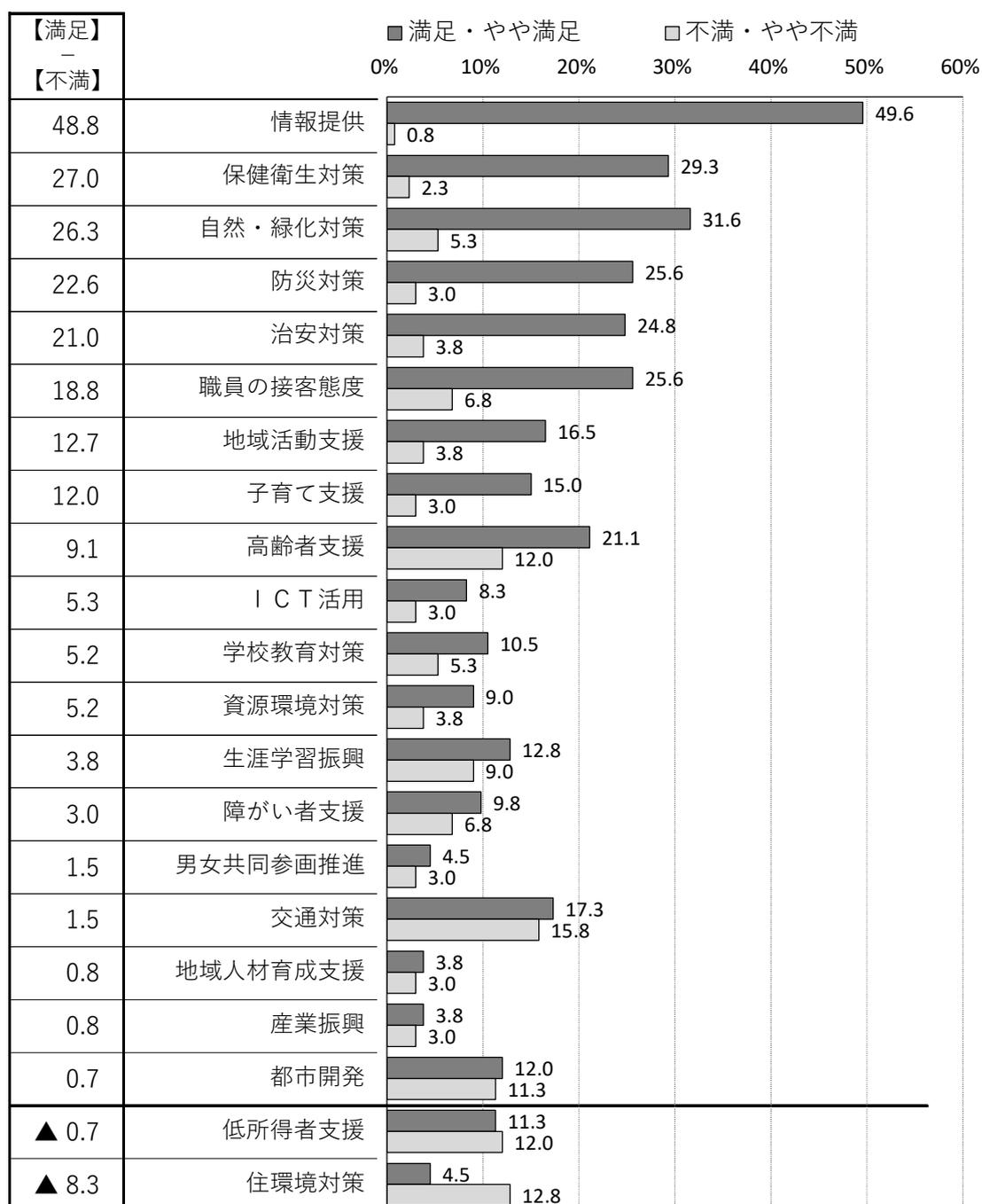
図11-6-4 各取り組みの現状評価《第3地域》（【満足評価】－【不満評価】）



オ クロス集計・地域別《第4地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
「情報提供」（+48.8ポイント）、「保健衛生対策」（+27.0ポイント）、「自然・緑化対策」（+26.3ポイント）、「防災対策」（+22.6ポイント）、「治安対策」（+21.0ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
「住環境対策」（-8.3ポイント）
- (ウ) 第4地域の特徴として、【満足評価割合】で「情報提供」（49.6%）が15地域中最も高く、「職員の接客態度」「ICT活用」「防災対策」「治安対策」が2番目に高い割合となっている。

図11-6-5 各取り組みの現状評価《第4地域》（【満足評価】－【不満評価】）



カ クロス集計・地域別《第5地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

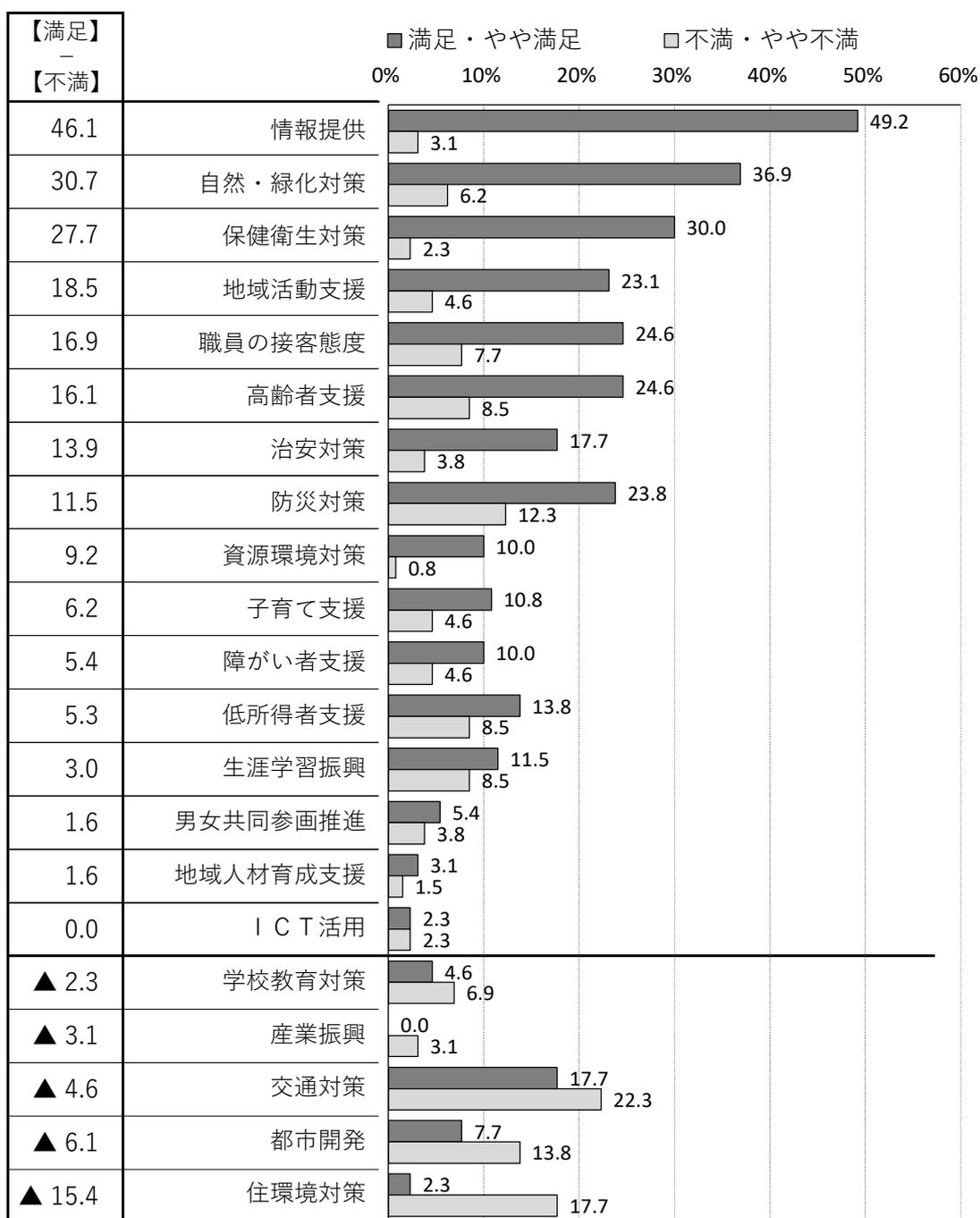
「情報提供」（+46.1ポイント）、「自然・緑化対策」（+30.7ポイント）、「保健衛生対策」（+27.7ポイント）、「地域活動支援」（+18.5ポイント）、「職員の接客態度」（+16.9ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-15.4ポイント）、「都市開発」（-6.1ポイント）、「交通対策」（-4.6ポイント）、「産業振興」（-3.1ポイント）、「学校教育対策」（-2.3ポイント）

(ウ) 第5地域の特徴として、【満足評価割合】で「情報提供」（49.2%）と「地域活動支援」（23.1%）が15地域中2番目に高い割合となっている。

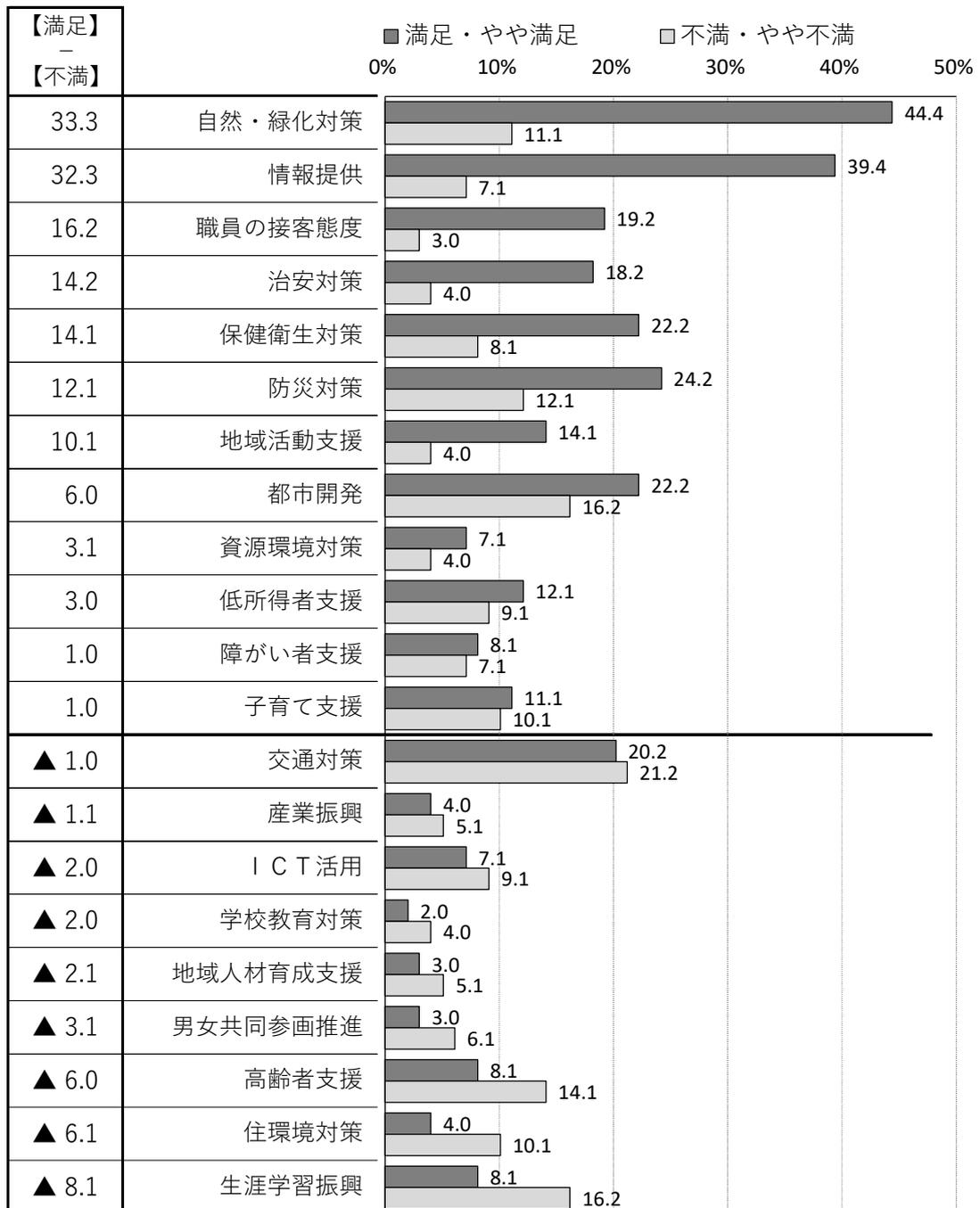
図11-6-6 各取り組みの現状評価《第5地域》（【満足評価】－【不満評価】）



キ クロス集計・地域別《第6地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
 「自然・緑化対策」（+33.3ポイント）、「情報提供」（+32.3ポイント）、「職員の接客態度」（+16.2ポイント）、「治安対策」（+14.2ポイント）、「保健衛生対策」（+14.1ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
 「生涯学習振興」（-8.1ポイント）、「住環境対策」（-6.1ポイント）、「高齢者支援」（-6.0ポイント）、「男女共同参画推進」（-3.1ポイント）
- (ウ) 第6地域の特徴として、【満足評価割合】で「都市開発」（22.2%）が15地域中最も高い割合であるが、【不満評価割合】でも「都市開発」（16.2%）は最も高くなっている。また、「生涯学習振興」（16.2%）、「子育て支援」（10.1%）、「保健衛生対策」（8.1%）でも15地域中最も高い割合となっている。

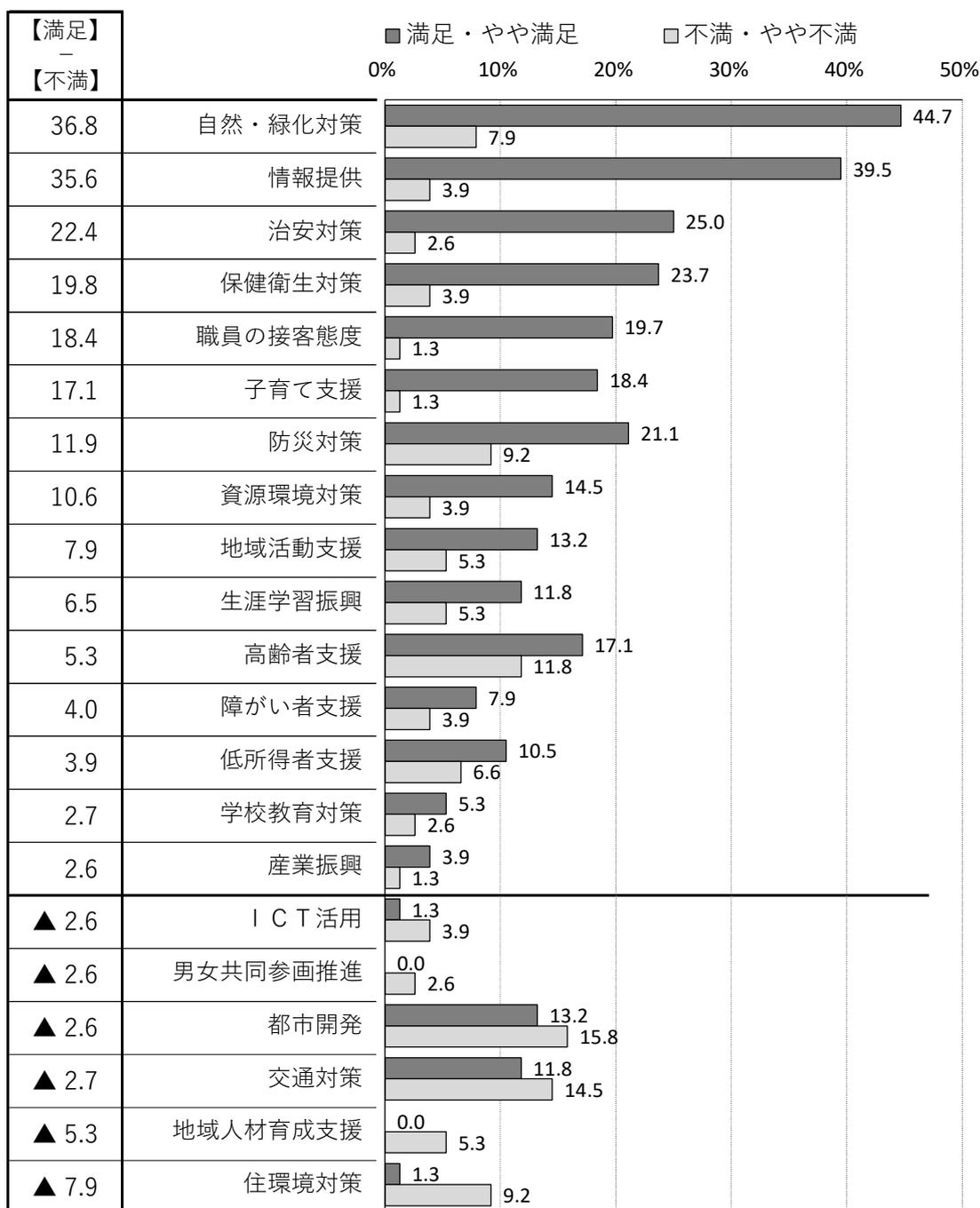
図11-6-7 各取り組みの現状評価《第6地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ク クロス集計・地域別《第7地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
 「自然・緑化対策」（+36.8ポイント）、「情報提供」（+35.6ポイント）、「治安対策」（+22.4ポイント）、「保健衛生対策」（+19.8ポイント）、「職員の接客態度」（+18.4ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
 「住環境対策」（-7.9ポイント）、「地域人材育成支援」（-5.3ポイント）、「交通対策」（-2.7ポイント）、「都市開発」「男女共同参画推進」「ICT活用」（各-2.6ポイント）
- (ウ) 第7地域の特徴として、【満足評価割合】で「治安対策」（25.0%）、「子育て支援」（18.4%）、「資源環境対策」（14.5%）が15地域中最も高い割合となっている。

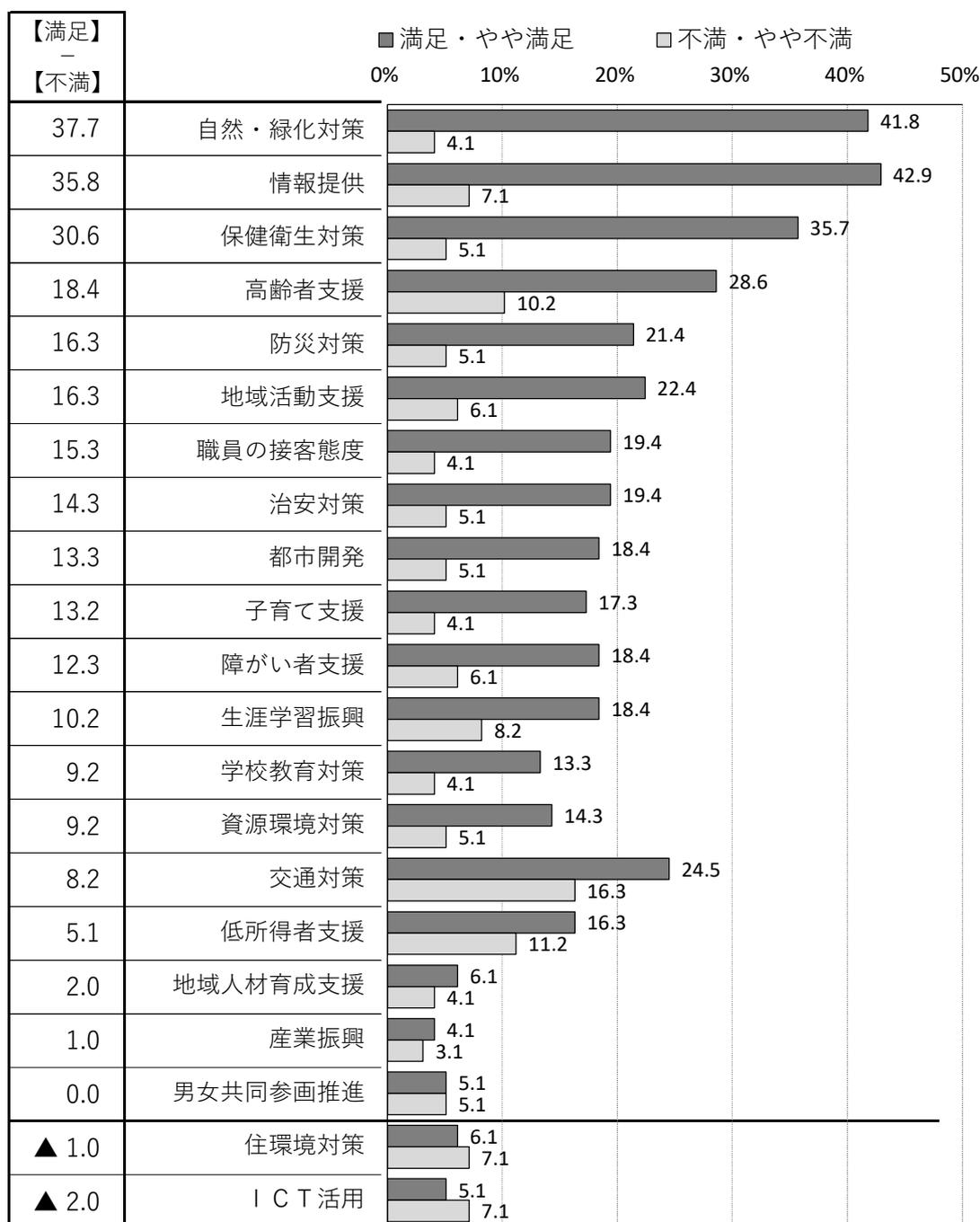
図11-6-8 各取り組みの現状評価《第7地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ケ クロス集計・地域別《第8地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
「自然・緑化対策」（+37.7ポイント）、「情報提供」（+35.8ポイント）、「保健衛生対策」（+30.6ポイント）、「高齢者支援」（+18.4ポイント）、「防災対策」（+16.3ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）  
「ICT活用」（-2.0ポイント）
- (ウ) 第8地域の特徴として、【満足評価割合】で「保健衛生対策」（35.7%）、「高齢者支援」（28.6%）、「障がい者支援」と「生涯学習振興」（各18.4%）、「学校教育対策」（13.3%）の5項目で15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-9 各取り組みの現状評価《第8地域》（【満足評価】－【不満評価】）



コ クロス集計・地域別《第9地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

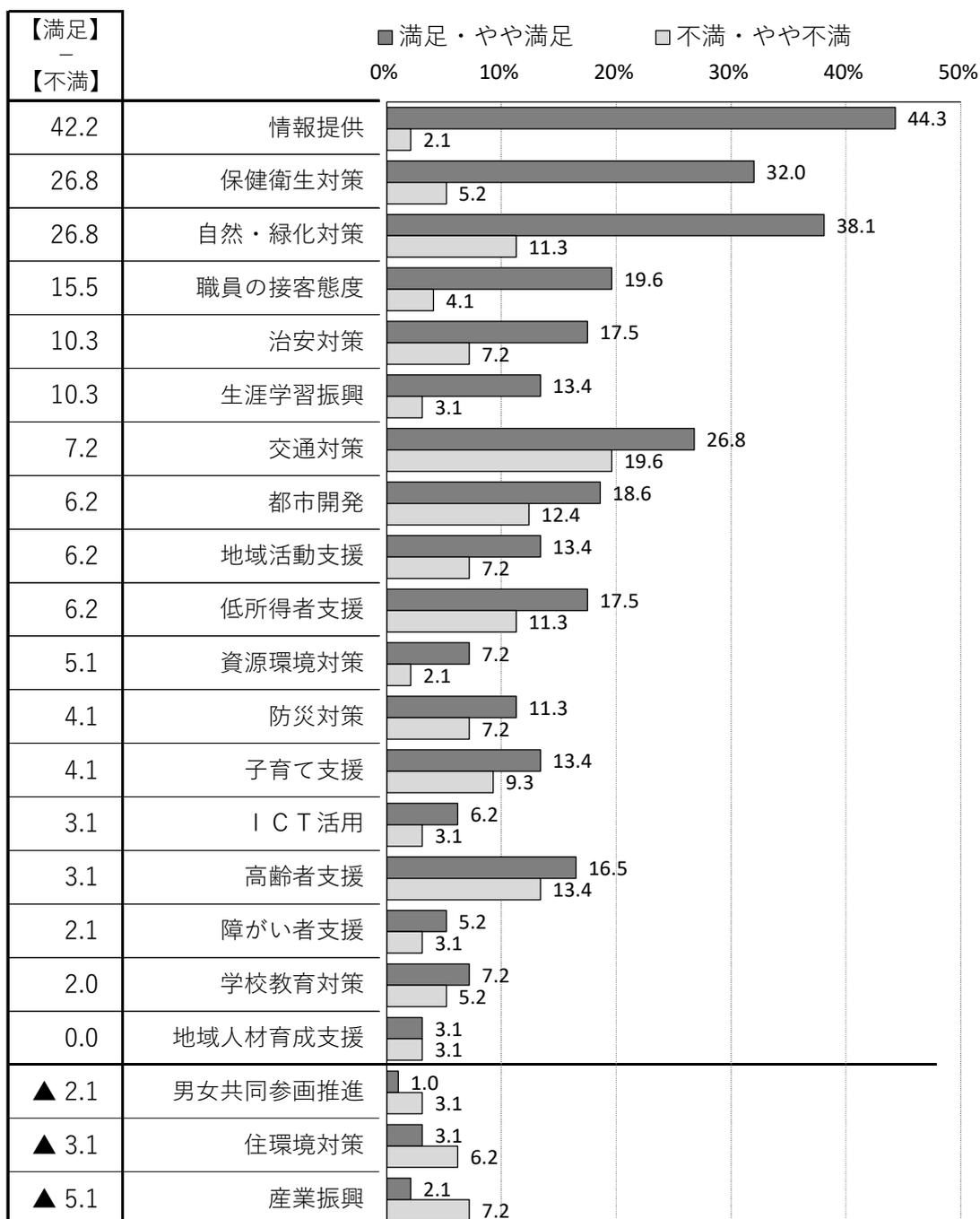
「情報提供」（+42.2ポイント）、「保健衛生対策」と「自然・緑化対策」（各+26.8ポイント）、「職員の接客態度」（+15.5ポイント）、「治安対策」と「生涯学習振興」（各+10.3ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「産業振興」（-5.1ポイント）、「住環境対策」（-3.1ポイント）、「男女共同参画推進」（-2.1ポイント）

(ウ) 第9地域の特徴として、【満足評価割合】で「交通対策」（26.8%）、「低所得者支援」（17.5%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-10 各取り組みの現状評価《第9地域》（【満足評価】－【不満評価】）



サ クロス集計・地域別《第10地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

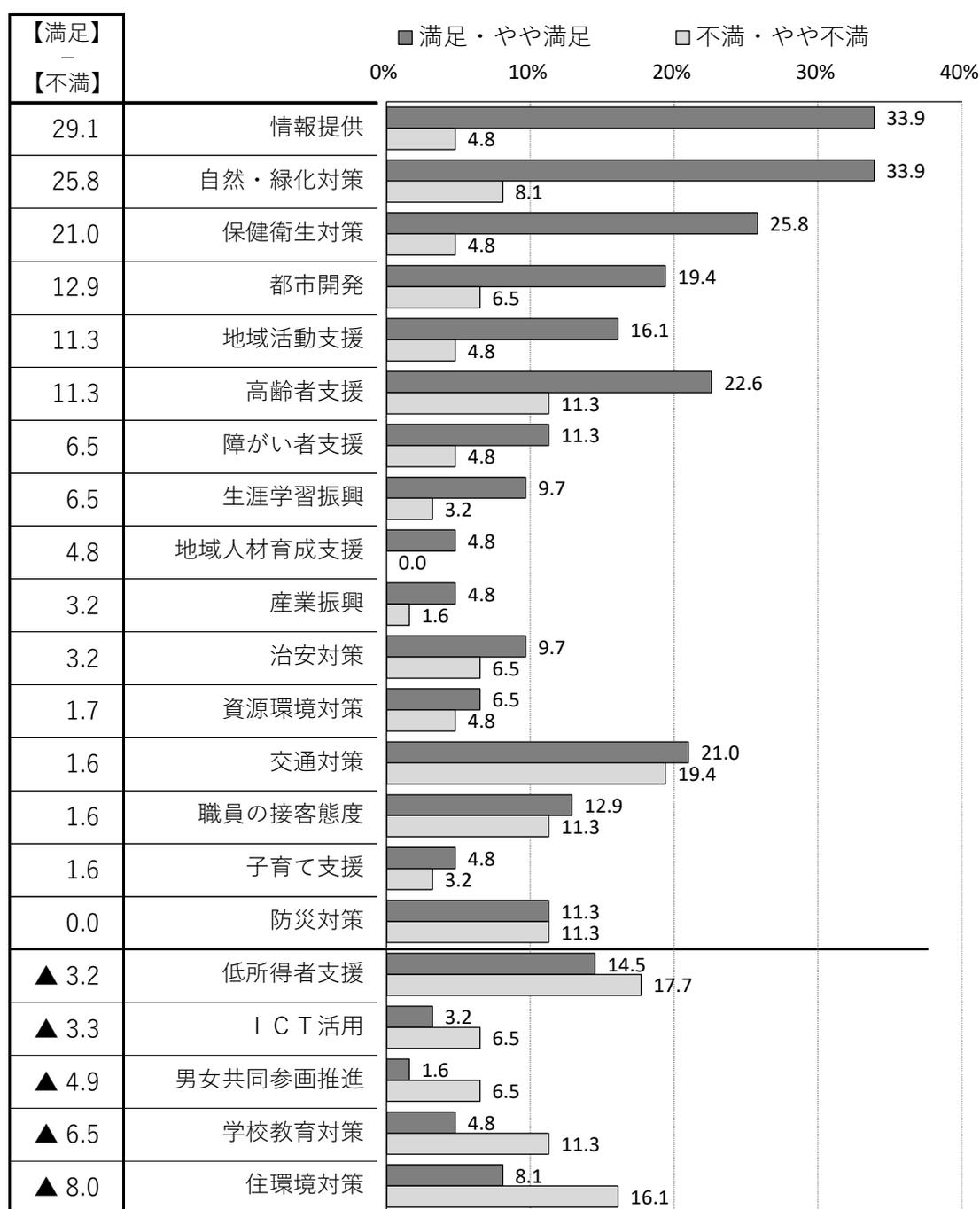
「情報提供」（+29.1ポイント）、「自然・緑化対策」（+25.8ポイント）、「保健衛生対策」（+21.0ポイント）、「都市開発」（+12.9ポイント）、「地域活動支援」と「高齢者支援」（各+11.3ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-8.0ポイント）、「学校教育対策」（-6.5ポイント）、「男女共同参画推進」（-4.9ポイント）、「ICT活用」（-3.3ポイント）、「低所得者支援」（-3.2ポイント）

(ウ) 第10地域の特徴として、【不満評価割合】で「低所得者支援」（17.7%）、「職員の接客態度」（11.3%）、「男女共同参画推進」（6.5%）が15地域中最も高い割合となっている。

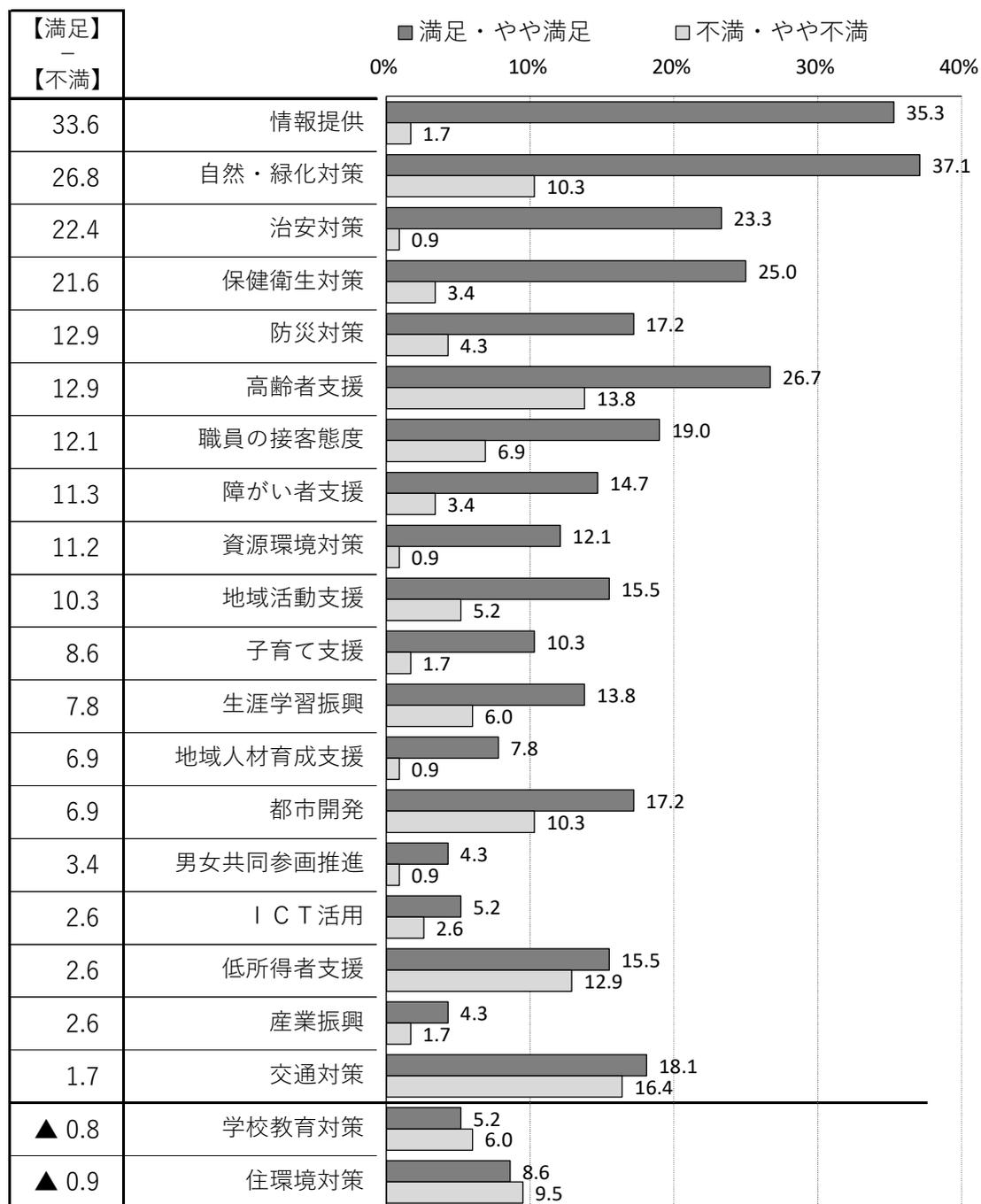
図11-6-11 各取り組みの現状評価《第10地域》（【満足評価】－【不満評価】）



シ クロス集計・地域別《第11地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

- (ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）  
「情報提供」（+33.6ポイント）、「自然・緑化対策」（+26.8ポイント）、「治安対策」（+22.4ポイント）、「保健衛生対策」（+21.6ポイント）、「防災対策」（+12.9ポイント）
- (イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より1ポイント以上大きい取り組みはない
- (ウ) 第11地域の特徴として、【満足評価割合】で「地域人材育成支援」（7.8%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-12 各取り組みの現状評価《第11地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ス クロス集計・地域別《第12地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

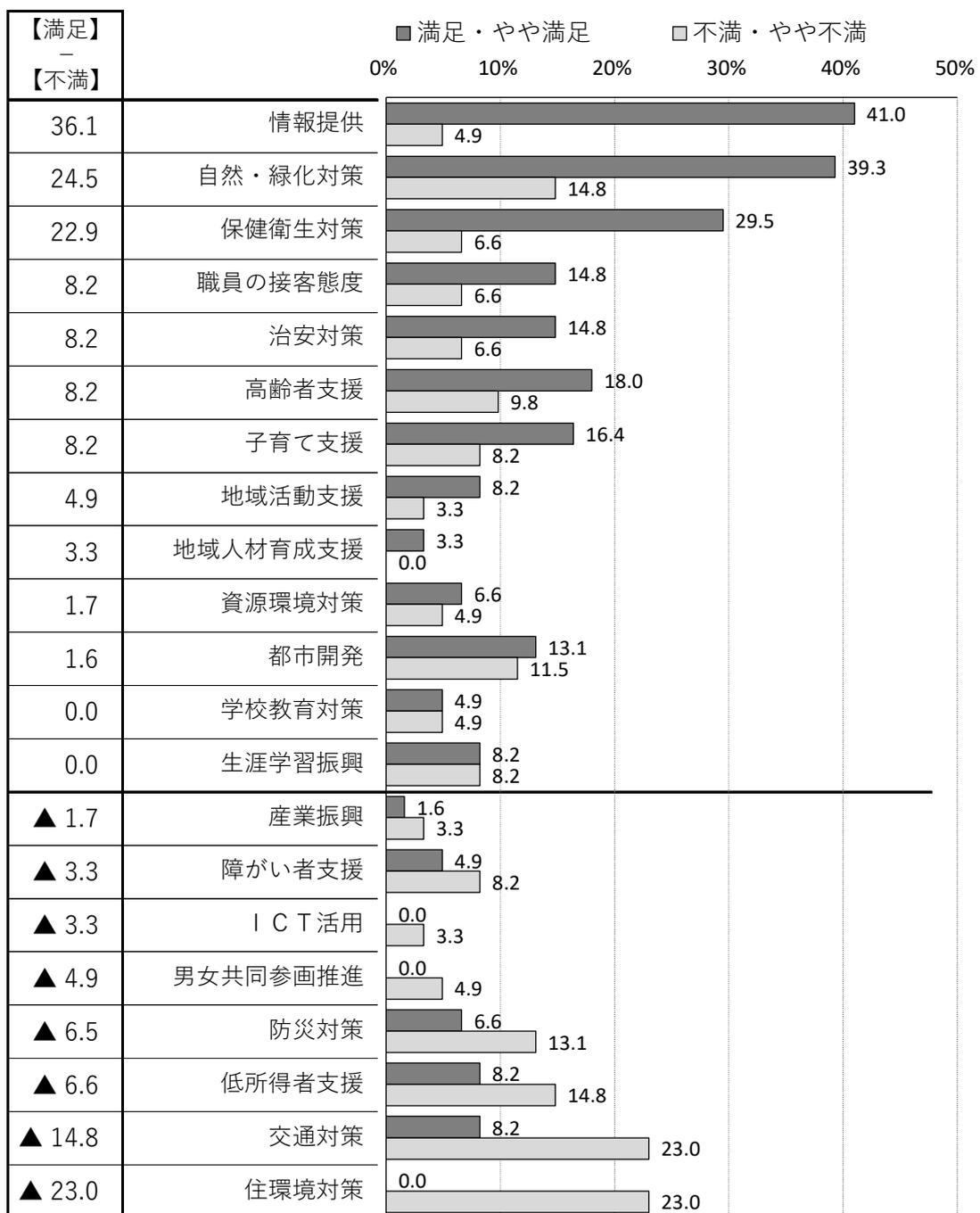
「情報提供」（+36.1ポイント）、「自然・緑化対策」（+24.5ポイント）、「保健衛生対策」（+22.9ポイント）、「職員の接客態度」「治安対策」「高齢者支援」「子育て支援」（各+8.2ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-23.0ポイント）、「交通対策」（-14.8ポイント）、「低所得者支援」（-6.6ポイント）、「防災対策」（-6.5ポイント）、「男女共同参画推進」（-4.9ポイント）

(ウ) 第12地域の特徴として、【不満評価割合】で「住環境対策」（23.0%）、「自然・緑化対策」（14.8%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-13 各取り組みの現状評価《第12地域》（【満足評価】－【不満評価】）



セ クロス集計・地域別《第13地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

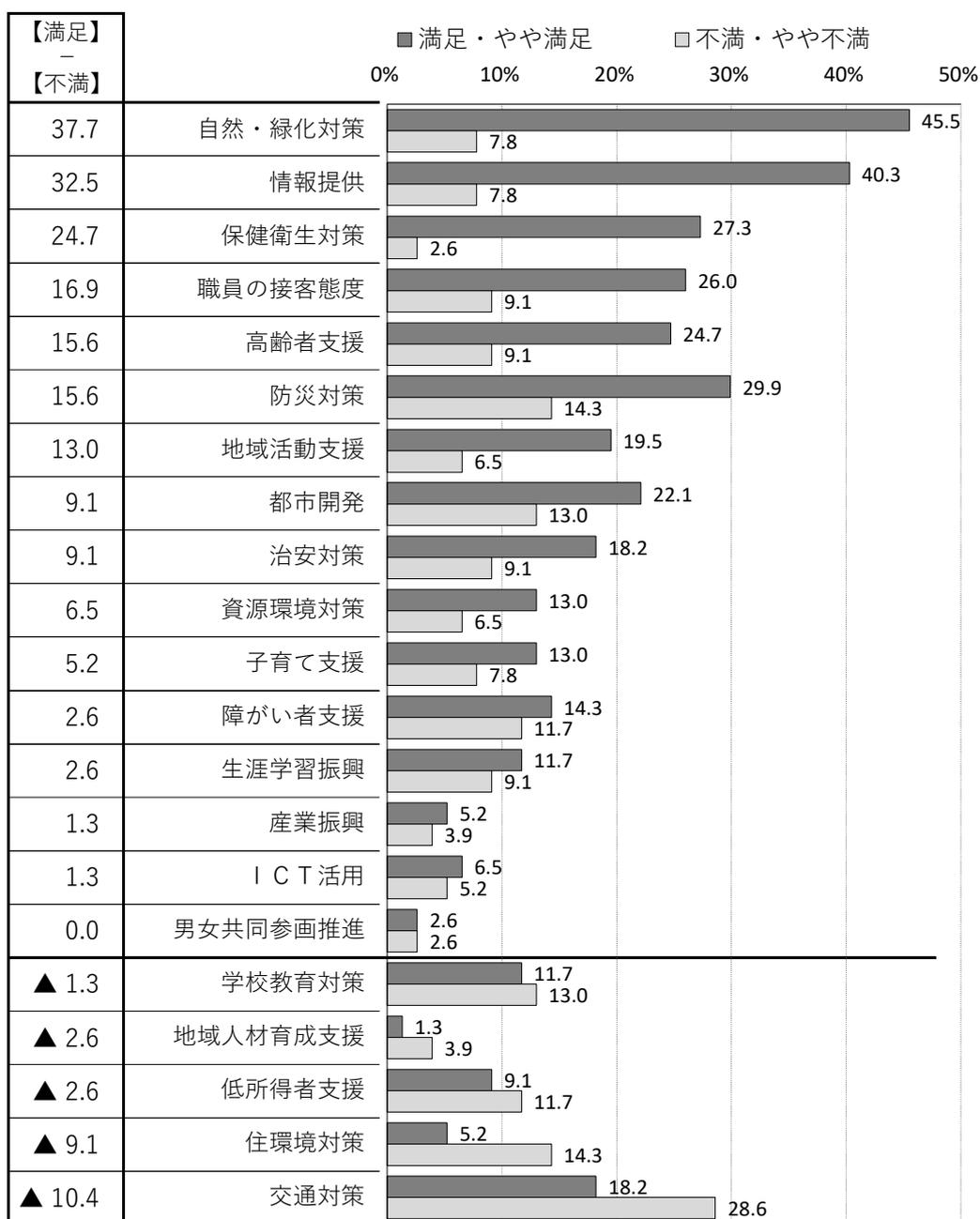
「自然・緑化対策」（+37.7ポイント）、「情報提供」（+32.5ポイント）、「保健衛生対策」（+24.7ポイント）、「職員の接客態度」（+16.9ポイント）、「高齢者支援」「防災対策」（+15.6ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「交通対策」（-10.4ポイント）、「住環境対策」（-9.1ポイント）、「低所得者支援」と「地域人材育成支援」（各-2.6ポイント）

(ウ) 第13地域の特徴として、【満足評価割合】で「自然・緑化対策」（45.5%）、「防災対策」（29.9%）、「職員の接客態度」（26.0%）が15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】でも「防災対策」（14.3%）、「学校教育対策」（13.0%）、「障がい者支援」（11.7%）「治安対策」（9.1%）「情報提供」（7.8%）「資源環境対策」（6.5%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-14 各取り組みの現状評価《第13地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ソ クロス集計・地域別《第14地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

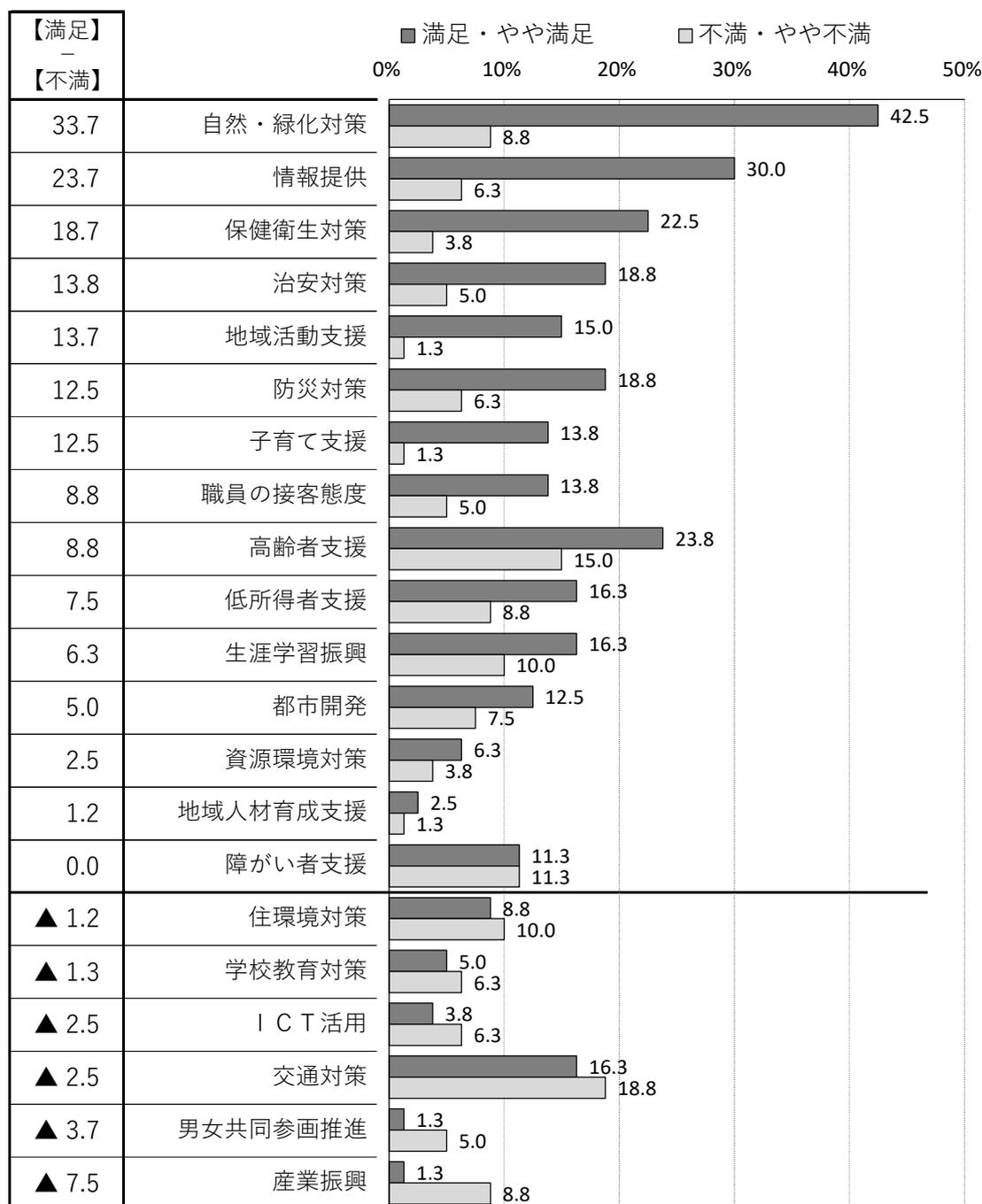
「自然・緑化対策」（+33.7ポイント）、「情報提供」（+23.7ポイント）、「保健衛生対策」（+18.7ポイント）、「治安対策」（+13.8ポイント）、「地域活動支援」（+13.7ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「産業振興」（-7.5ポイント）、「男女共同参画推進」（-3.7ポイント）、「交通対策」と「ICT活用」（各-2.5ポイント）

(ウ) 第14地域の特徴として、【不満評価割合】で「産業振興」（8.8%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-15 各取り組みの現状評価《第14地域》（【満足評価】－【不満評価】）



タ クロス集計・地域別《第15地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

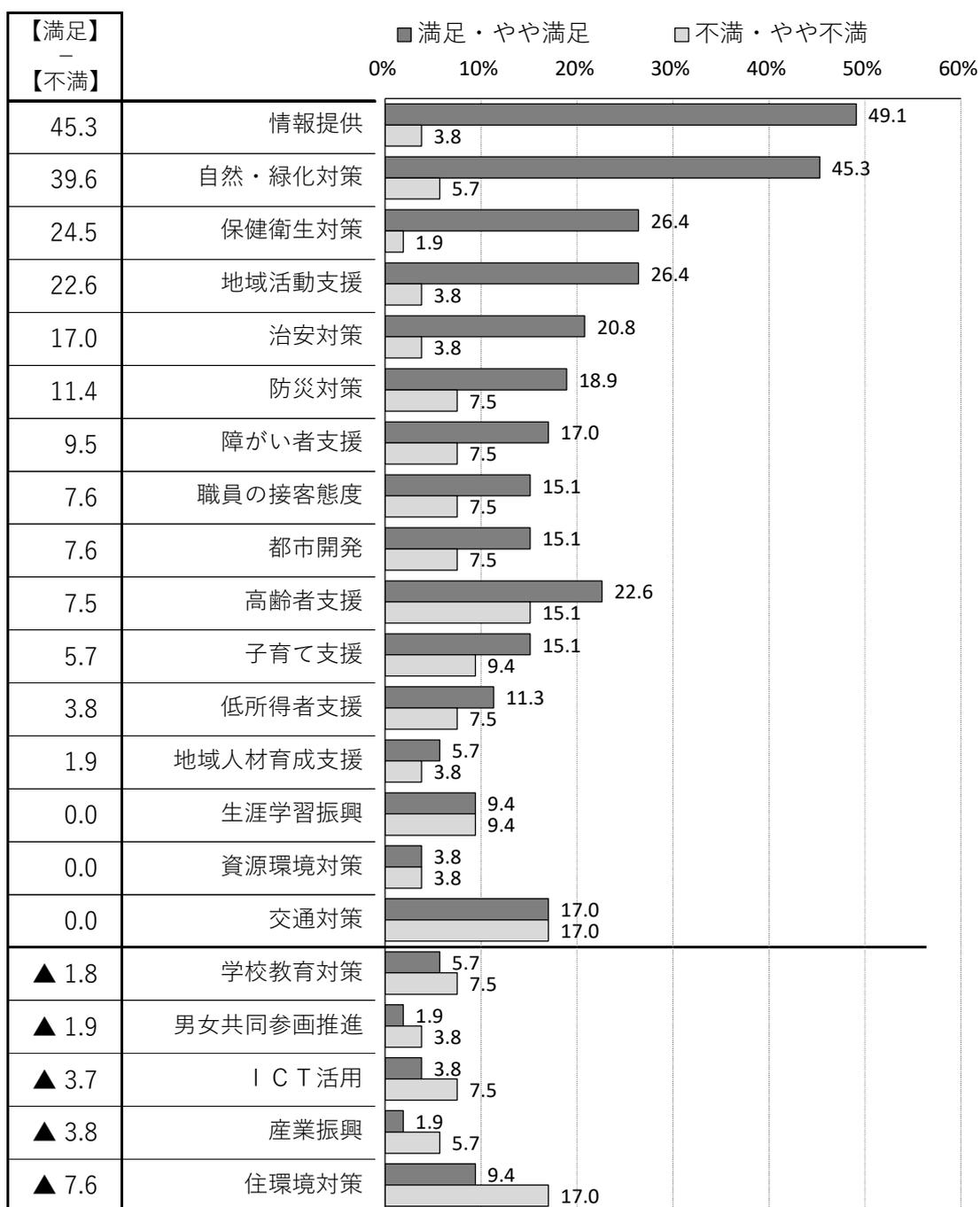
「情報提供」（+45.3ポイント）、「自然・緑化対策」（+39.6ポイント）、「保健衛生対策」（+24.5ポイント）、「地域活動支援」（+22.6ポイント）、「治安対策」（+17.0ポイント）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位）

「住環境対策」（-7.6ポイント）、「産業振興」（-3.8ポイント）、「ICT活用」（-3.7ポイント）

(ウ) 第15地域の特徴として、【満足評価割合】で「地域活動支援」（26.4%）が15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「高齢者支援」（15.1%）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-16 各取り組みの現状評価《第15地域》（【満足評価】－【不満評価】）



(7) 区政に対する満足度

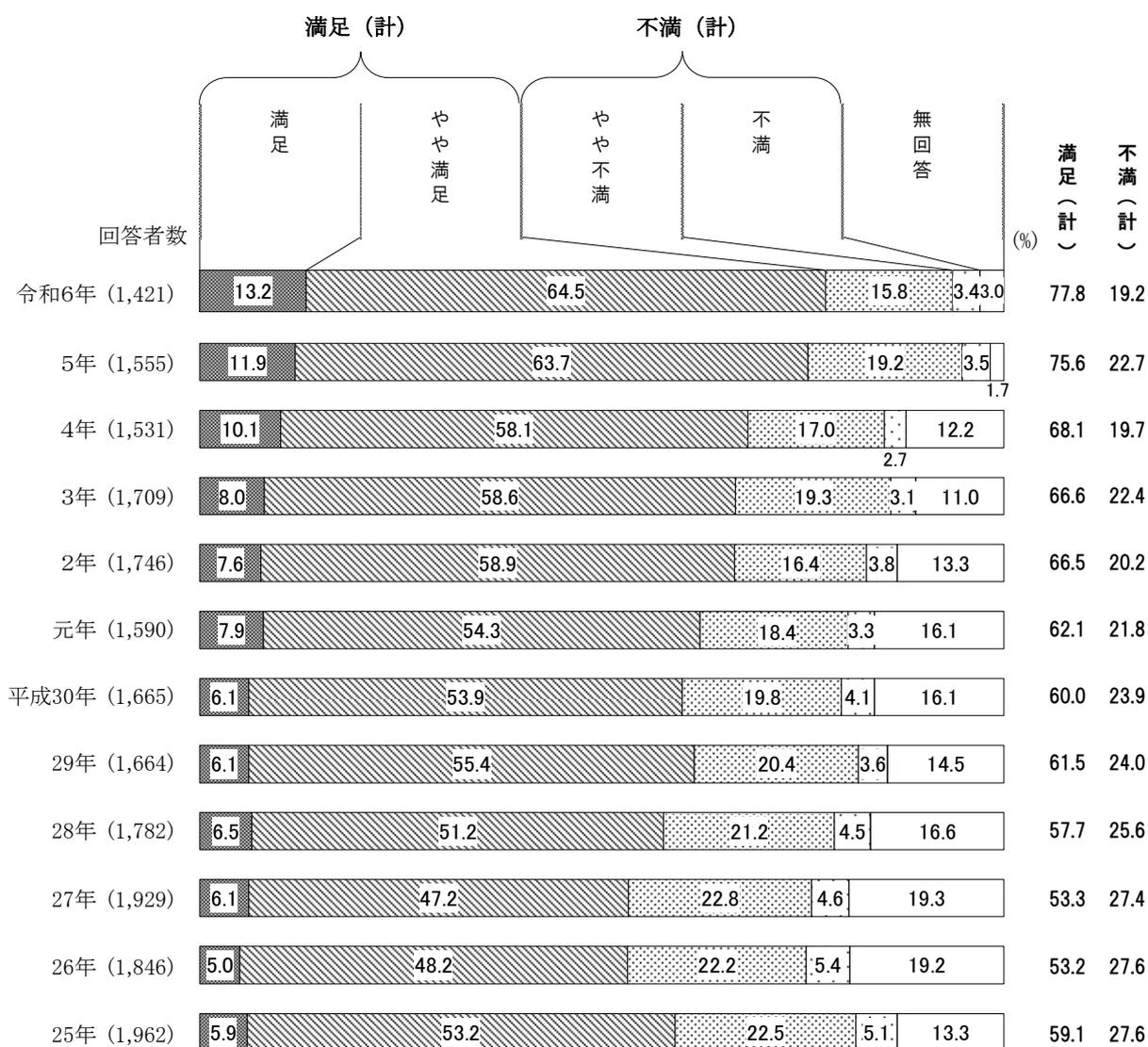
問48 あなたは足立区の区政全体について、満足に感じていますか（○は1つだけ）。

■ 【満足】は7割台半ば超で、平成25年の設問開始以降で最も高い割合

ア 単純集計・経年比較／区政に対する満足度

(ア) 足立区の区政全体について、満足に感じているか聞いたところ、「やや満足」が64.5%で最も高く、これに「満足」(13.2%)を合わせた【満足】は77.8%となっている。一方、「やや不満」(15.8%)と「不満」(3.4%)を合わせた【不満】は19.2%となっている。  
 (イ) 前回調査と比較すると、【満足】は本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となった。

図 11-7-1 経年比較／区政に対する満足度

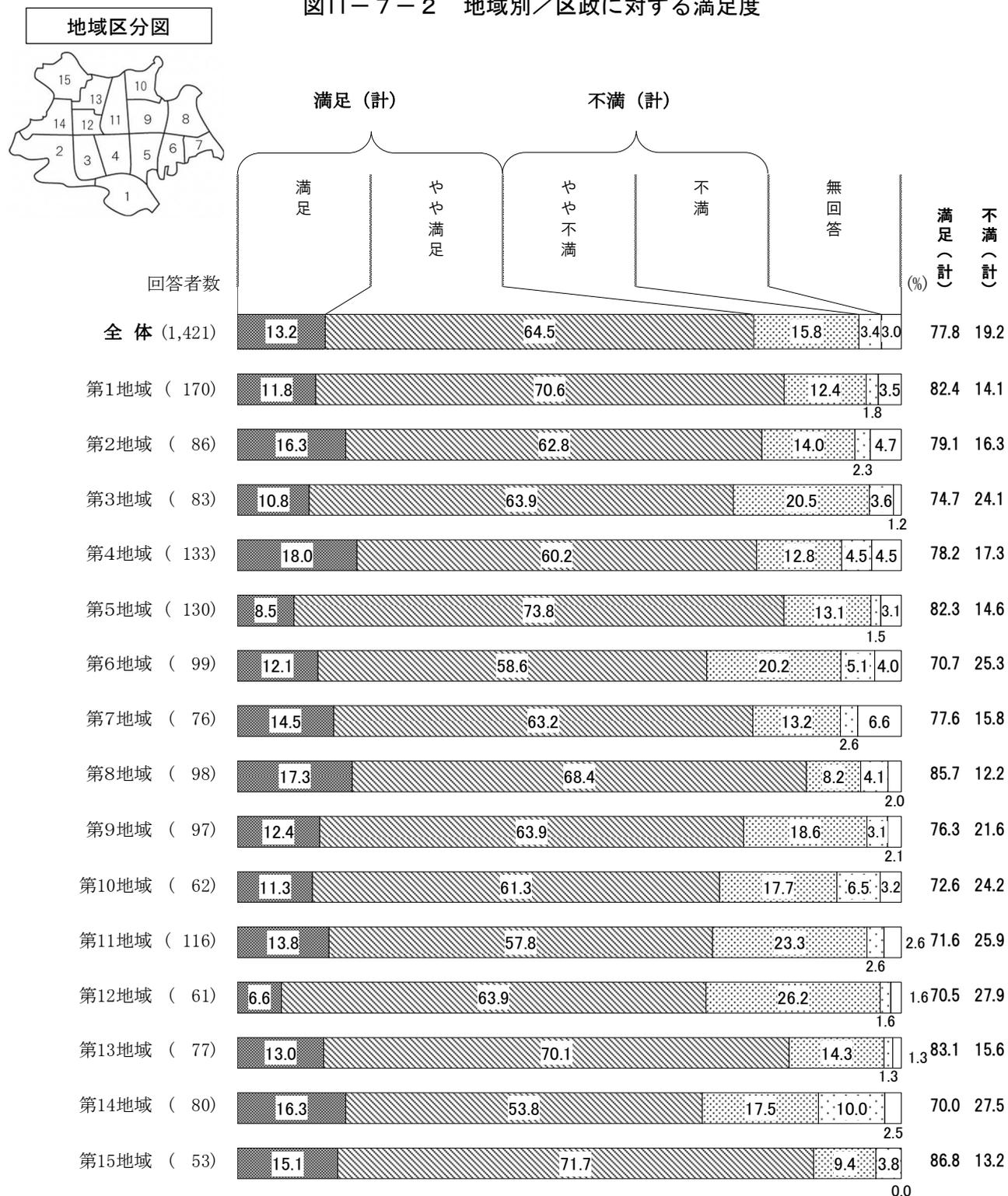


※ 令和4年度までは問46で挙げた21の取り組みと併せて質問する形式であったが、令和5年度調査からは本設問を単独で聞いたことから、無回答の割合が低くなったと考えられる。

イ クロス集計・地域別／区政に対する満足度

(ア) 地域別で見ると、【満足】は第15地域で86.8%と最も高く、次いで、第8地域(85.7%)、第13地域(83.1%)などとなっている。一方、【不満】は第12地域で27.9%と最も高く、次いで、第14地域(27.5%)、第11地域(25.9%)などとなっている。

図11-7-2 地域別／区政に対する満足度

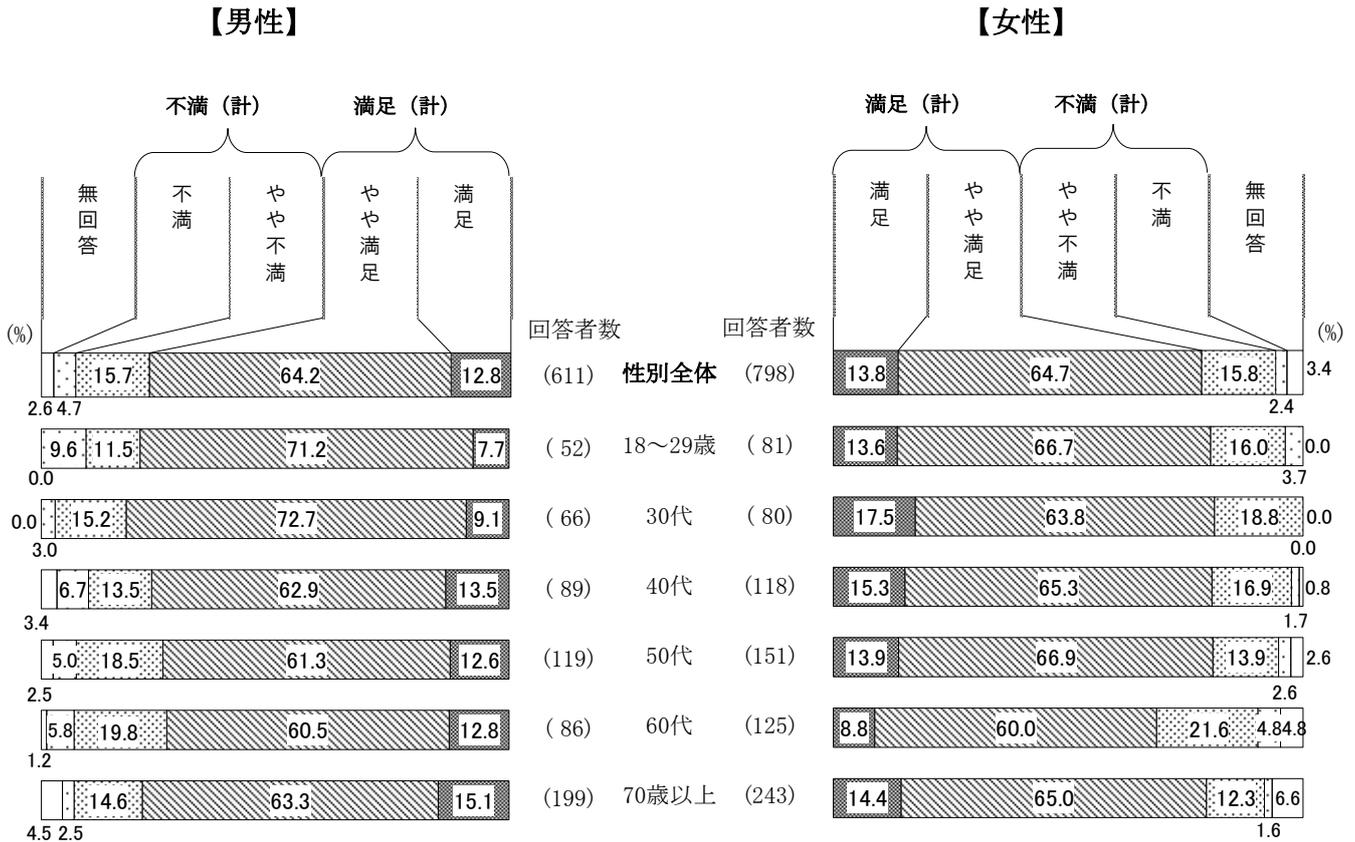


ウ クロス集計・性別、性・年代別／区政に対する満足度

(ア) 性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別にみると、【満足】は、男性の30代で81.8%と最も高く、次いで、女性の30代(81.3%)となっており、女性の18～29歳から50代までのすべて年齢層で8割台と高くなっている。一方、【不満】は女性の60代で26.4%と最も高く、次いで、男性の60代(25.6%)となっている。

図11-7-3 性別、性・年代別／区政に対する満足度



（8）今後特に尽力してほしい取り組み分野

問49 次の足立区の取り組みのうち、あなたが今後特に力を入れてほしい分野を選んでください（〇はあてはまるものすべて）。

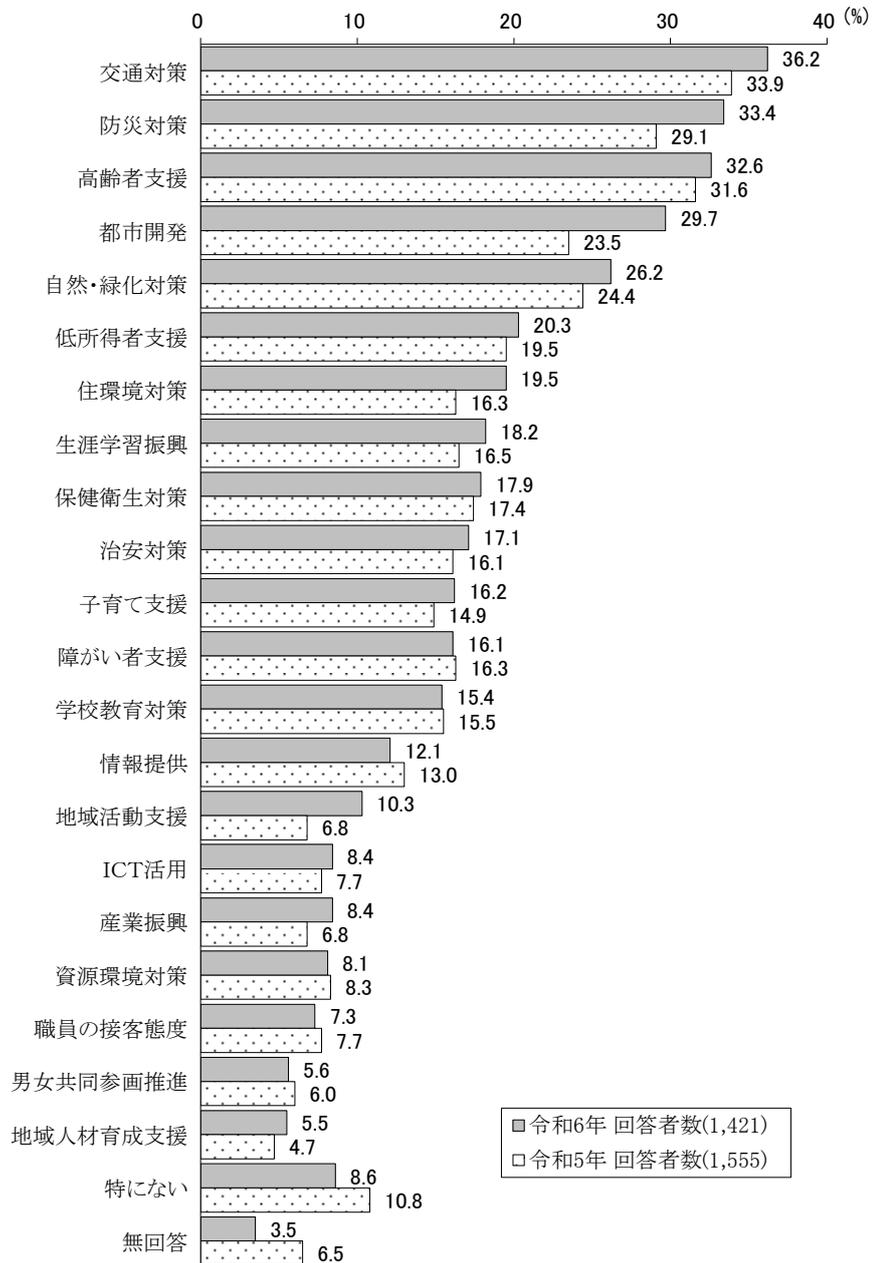
■ 「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「防災対策」「高齢者支援」が3割半ば近くで続く

ア 単純集計／今後特に尽力してほしい取り組み分野

（ア）区の取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が36.2%と最も高く、次いで、「防災対策」（33.4%）、「高齢者支援」（32.6%）、「都市開発」（29.7%）、「自然・緑化対策」（26.2%）などとなっている。

（イ）前回調査と比較すると、順位では、「防災対策」が「高齢者支援」に代わって第2位、「都市開発」が「自然・緑化対策」に代わって第4位にそれぞれ上がった。割合の増減で見ると、上位項目はすべて割合が増加しており、「都市開発」が6.2ポイント、「防災対策」が4.3ポイントの増加となっている。

図11-8-1 前回調査比較／今後特に尽力してほしい取り組み分野

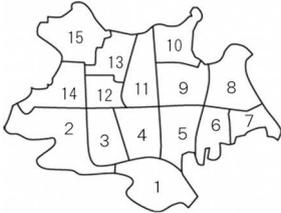


イ クロス集計・地域別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

(ア) 地域別でみると、第6地域は「防災対策」「都市開発」「自然・緑化対策」「治安対策」「子育て支援」「産業振興」の6分野で、第13地域では「高齢者支援」「障がい者支援」「ICT活用」「資源環境対策」の4分野で、第1地域では「保健衛生対策」「地域人材育成支援」の2分野で、第14地域では「生涯学習振興」「情報提供」の2分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

図11-8-2 地域別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	交通対策	36.2	28.8	33.7	48.2	33.1	40.0	36.4	28.9	33.7	39.2	41.9	33.6	39.3	42.9	40.0	34.0
2	防災対策	33.4	30.0	33.7	30.1	35.3	40.8	42.4	31.6	31.6	28.9	22.6	30.2	32.8	41.6	37.5	24.5
3	高齢者支援	32.6	32.9	24.4	22.9	26.3	35.4	31.3	34.2	31.6	36.1	29.0	39.7	31.1	44.2	33.8	35.8
4	都市開発	29.7	31.8	26.7	22.9	28.6	36.2	41.4	27.6	22.4	34.0	29.0	26.7	27.9	29.9	31.3	18.9
5	自然・緑化対策	26.2	34.7	27.9	14.5	21.1	24.6	37.4	32.9	24.5	24.7	30.6	19.8	31.1	28.6	20.0	15.1
6	低所得者支援	20.3	21.8	14.0	18.1	18.0	17.7	20.2	21.1	23.5	18.6	29.0	23.3	21.3	15.6	23.8	20.8
7	住環境対策	19.5	21.8	14.0	13.3	21.8	23.1	20.2	13.2	15.3	16.5	21.0	23.3	21.3	22.1	21.3	18.9
8	生涯学習振興	18.2	22.9	18.6	16.9	17.3	20.0	23.2	15.8	18.4	15.5	9.7	16.4	13.1	14.3	25.0	15.1
9	保健衛生対策	17.9	21.8	20.9	16.9	16.5	18.5	18.2	15.8	21.4	17.5	16.1	19.0	13.1	18.2	12.5	13.2
10	治安対策	17.1	18.8	17.4	14.5	17.3	20.0	22.2	15.8	12.2	21.6	17.7	18.1	13.1	20.8	11.3	5.7
11	子育て支援	16.2	18.2	16.3	18.1	12.8	13.8	23.2	17.1	17.3	18.6	12.9	5.2	13.1	19.5	20.0	20.8
12	障がい者支援	16.1	14.1	18.6	12.0	13.5	19.2	17.2	13.2	15.3	8.2	14.5	19.0	11.5	26.0	21.3	20.8
13	学校教育対策	15.4	20.0	24.4	12.0	12.0	12.3	18.2	14.5	14.3	17.5	6.5	14.7	4.9	22.1	17.5	13.2
14	情報提供	12.1	13.5	10.5	8.4	11.3	15.4	16.2	7.9	12.2	12.4	4.8	9.5	11.5	13.0	20.0	9.4
15	地域活動支援	10.3	12.4	11.6	9.6	9.0	12.3	7.1	7.9	9.2	12.4	9.7	9.5	8.2	11.7	8.8	15.1
16	ICT活用	8.4	9.4	9.3	7.2	3.8	8.5	13.1	6.6	7.1	8.2	9.7	3.4	4.9	18.2	11.3	9.4
17	産業振興	8.4	7.1	9.3	8.4	7.5	10.0	11.1	10.5	4.1	9.3	9.7	9.5	8.2	7.8	7.5	7.5
18	資源環境対策	8.1	7.6	12.8	1.2	10.5	8.5	7.1	10.5	8.2	11.3	6.5	4.3	1.6	13.0	8.8	7.5
19	職員の接客態度	7.3	6.5	4.7	8.4	6.8	10.0	6.1	5.3	4.1	7.2	12.9	6.0	6.6	10.4	10.0	7.5
20	男女共同参画推進	5.6	7.6	5.8	3.6	4.5	5.4	8.1	5.3	3.1	7.2	9.7	1.7	3.3	9.1	7.5	1.9
21	地域人材育成支援	5.5	11.2	1.2	1.2	5.3	6.2	3.0	3.9	2.0	6.2	8.1	6.0	4.9	3.9	6.3	9.4
—	特にない	8.6	6.5	10.5	7.2	10.5	6.9	10.1	9.2	13.3	6.2	8.1	11.2	6.6	5.2	6.3	11.3

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

(ア) 性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み

「交通対策」(+4.7ポイント)、「低所得者支援」(+4.3ポイント)、「都市開発」(+3.6ポイント)、「情報提供」(+3.3ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「高齢者支援」(+3.3ポイント)

(イ) 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 40代は21項目中最多の6項目、30代は3項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、ともに「学校教育対策」と「子育て支援」で10ポイント以上高くなっている。

b 18～29歳では4項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」と「都市開発」の2項目で7ポイント以上高くなっている。

c 70歳以上では、「高齢者支援」と「地域活動支援」、60代では、「高齢者支援」で区全体より5ポイント以上高くなっている。

図11-8-3 性別、年代別／今後特に尽力してほしい取り組み分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	交通対策	36.2	39.0	34.3	33.3	37.8	42.6	40.3	38.9	29.8
2	防災対策	33.4	33.9	33.2	35.6	26.4	32.5	38.1	36.0	31.4
3	高齢者支援	32.6	30.9	34.2	8.9	10.8	21.5	35.5	38.4	47.9
4	都市開発	29.7	31.8	28.2	37.0	32.4	37.3	33.3	26.5	22.1
5	自然・緑化対策	26.2	27.8	25.3	31.1	28.4	28.7	25.6	26.5	23.0
6	低所得者支援	20.3	22.7	18.4	23.7	12.2	16.7	15.4	24.2	24.6
7	住環境対策	19.5	18.7	20.2	14.1	14.2	24.9	23.1	19.9	17.8
8	生涯学習振興	18.2	17.2	18.7	16.3	18.2	20.6	22.0	18.0	15.1
9	保健衛生対策	17.9	16.5	18.9	15.6	14.9	21.1	18.7	20.4	16.3
10	治安対策	17.1	16.9	17.2	16.3	23.6	20.6	20.1	13.7	13.3
11	子育て支援	16.2	16.5	16.0	24.4	33.8	26.3	11.7	10.9	8.4
12	障がい者支援	16.1	16.9	15.5	8.9	8.8	15.8	17.6	18.5	19.0
13	学校教育対策	15.4	16.0	14.9	17.0	29.7	27.8	15.0	9.5	7.4
14	情報提供	12.1	14.1	10.8	8.9	6.1	11.0	9.5	13.7	16.5
15	地域活動支援	10.3	11.6	9.4	4.4	3.4	6.7	7.0	7.1	19.9
16	ICT活用	8.4	9.2	7.9	14.1	10.1	13.4	12.1	6.2	2.5
17	産業振興	8.4	9.3	7.6	14.1	10.8	10.5	11.4	3.8	5.4
18	資源環境対策	8.1	7.9	8.4	8.1	4.1	7.2	11.0	5.2	9.5
19	職員の接客態度	7.3	8.2	6.8	5.9	6.1	10.0	6.6	6.2	7.9
20	男女共同参画推進	5.6	4.4	6.4	8.1	4.7	7.7	4.0	5.2	5.4
21	地域人材育成支援	5.5	5.2	5.6	3.7	3.4	4.3	4.8	6.6	7.2
—	特にない	8.6	8.5	8.6	12.6	8.1	8.6	5.9	9.0	9.0
			性差3p以上		区全体より5p以上高い					

(9) 区政への区民意見の反映度

問50 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

■【そう思う】は4.0ポイント増加し3割台半ば、【そう思わない】は2割台半ば、「わからない」4割近く

ア 単純集計・経年比較／区政への区民意見の反映度

(ア) 区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(3.4%)と「どちらかといえばそう思う」(30.4%)を合わせた【そう思う】は33.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)と「そう思わない」(7.2%)を合わせた【そう思わない】(24.2%)を9.6ポイント上回っている。

(イ) 前回調査と比較してみると、【そう思う】が4.0ポイント増加している。

図11-9-1-① 経年比較／区政への区民意見の反映度

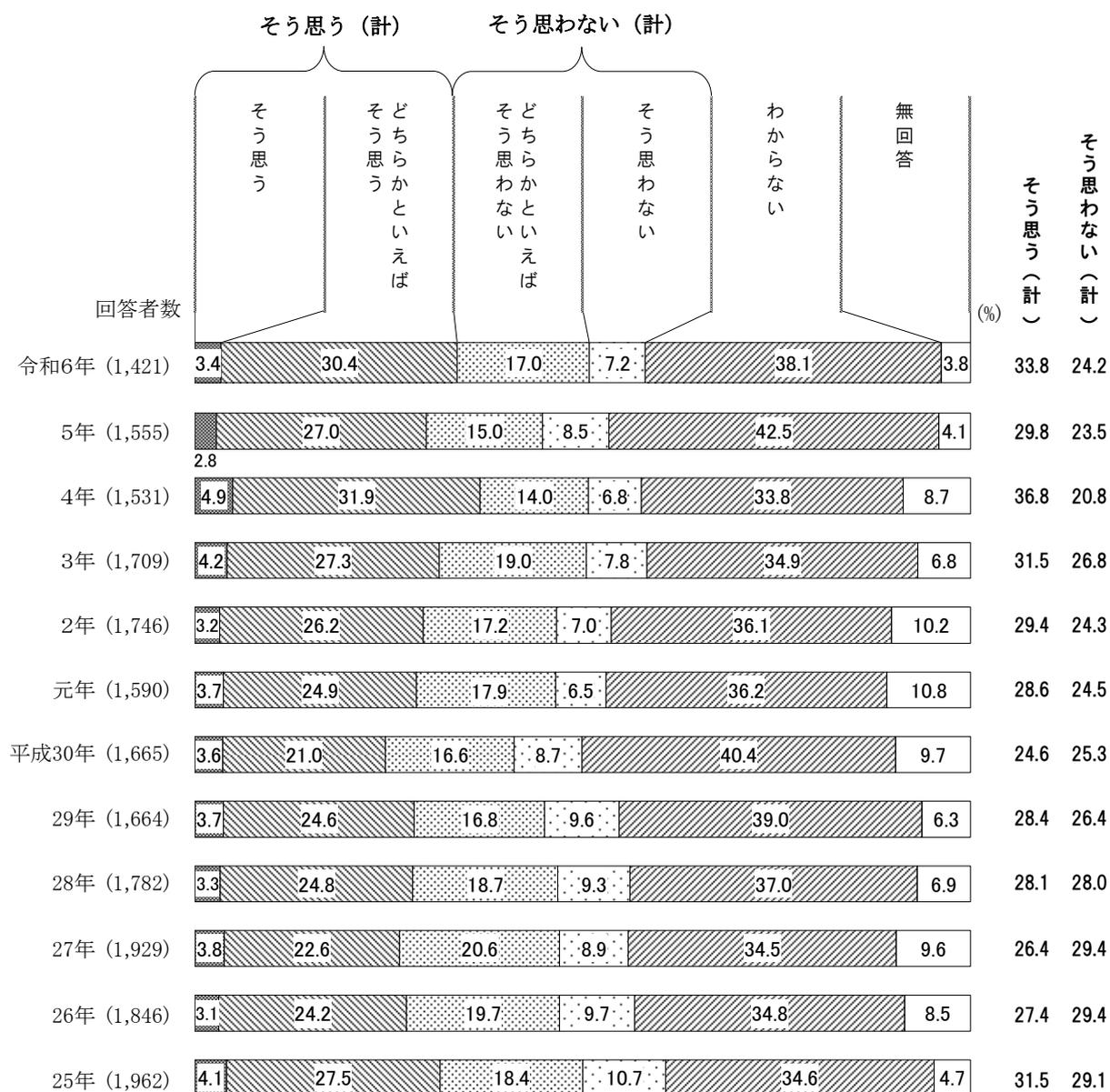
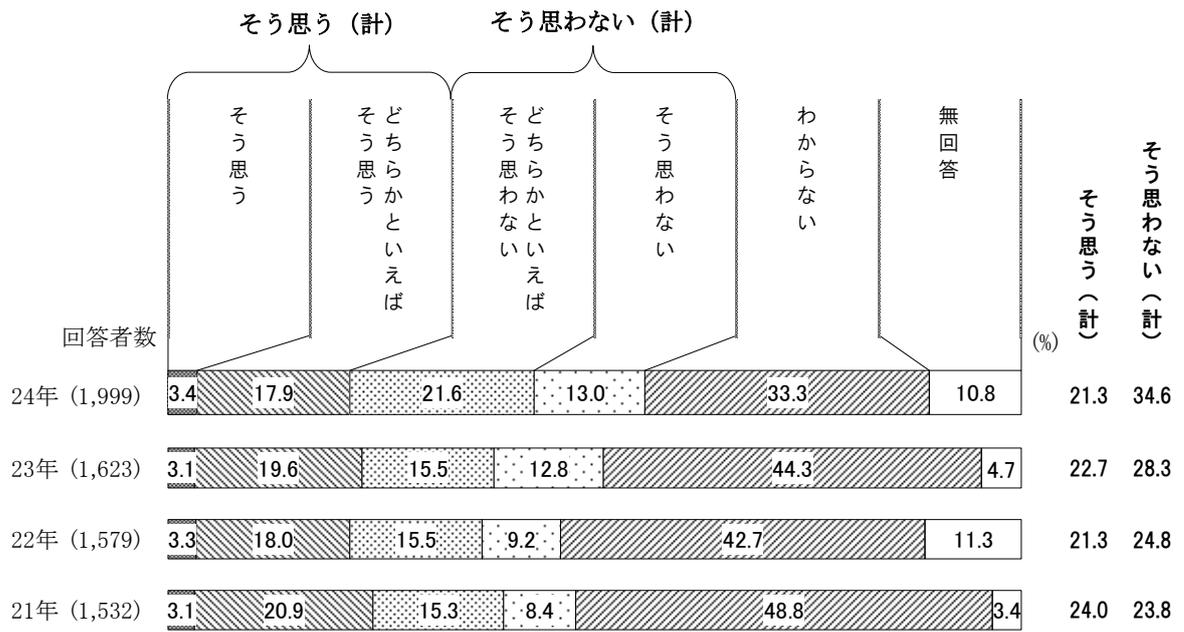


図11-9-1-② 経年比較／区政への区民意見の反映度



イ クロス集計・性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度

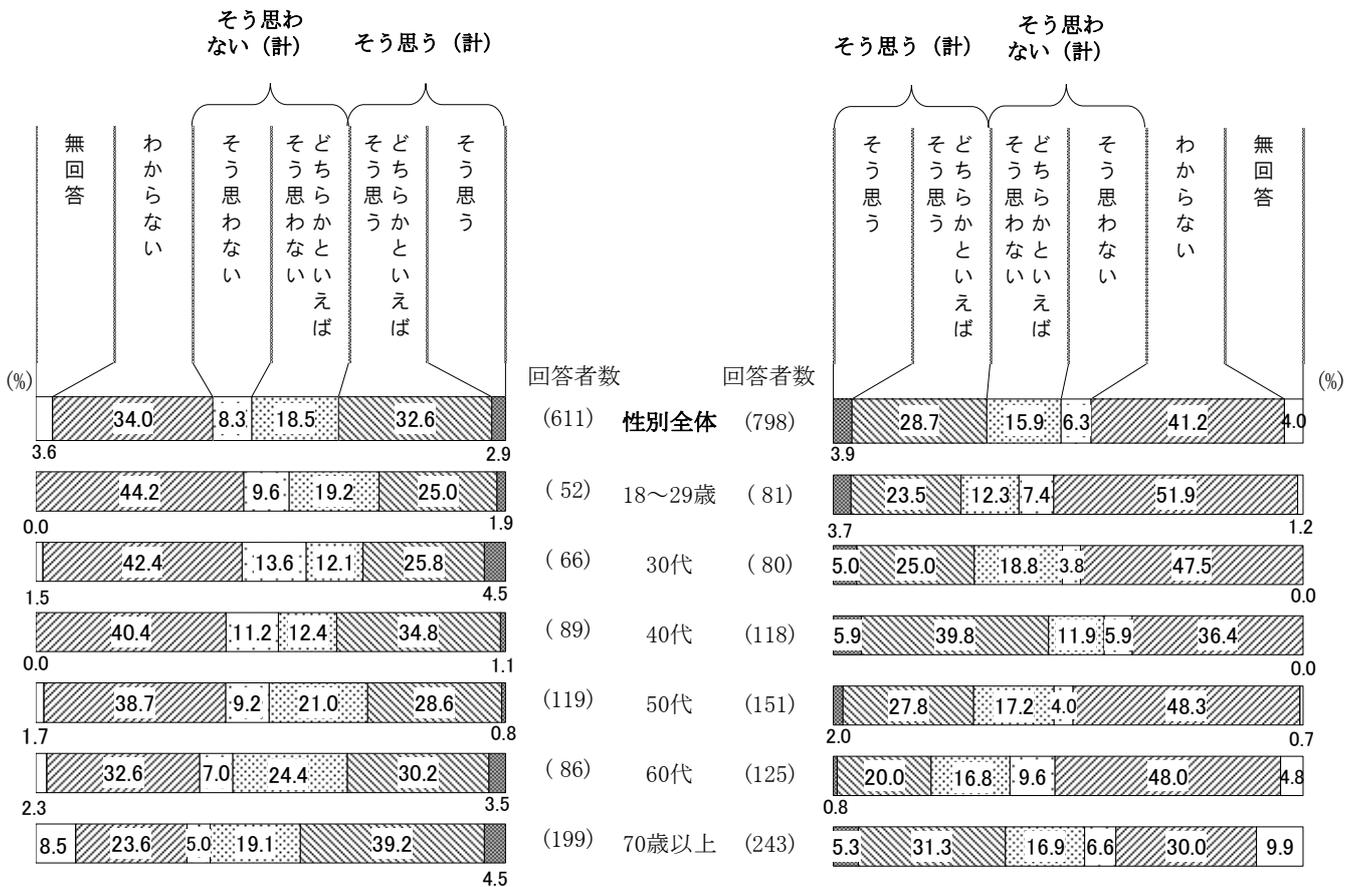
(ア) 性別で見ると、【そう思わない】は男性（26.8%）の方が女性（22.2%）より4.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【そう思う】は、女性の40代で45.8%と最も高く、次いで男性の70歳以上が43.7%となっている。一方、【そう思わない】は男性の50代と60代で3割から3割強と高くなっている。

図11-9-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度

【男性】

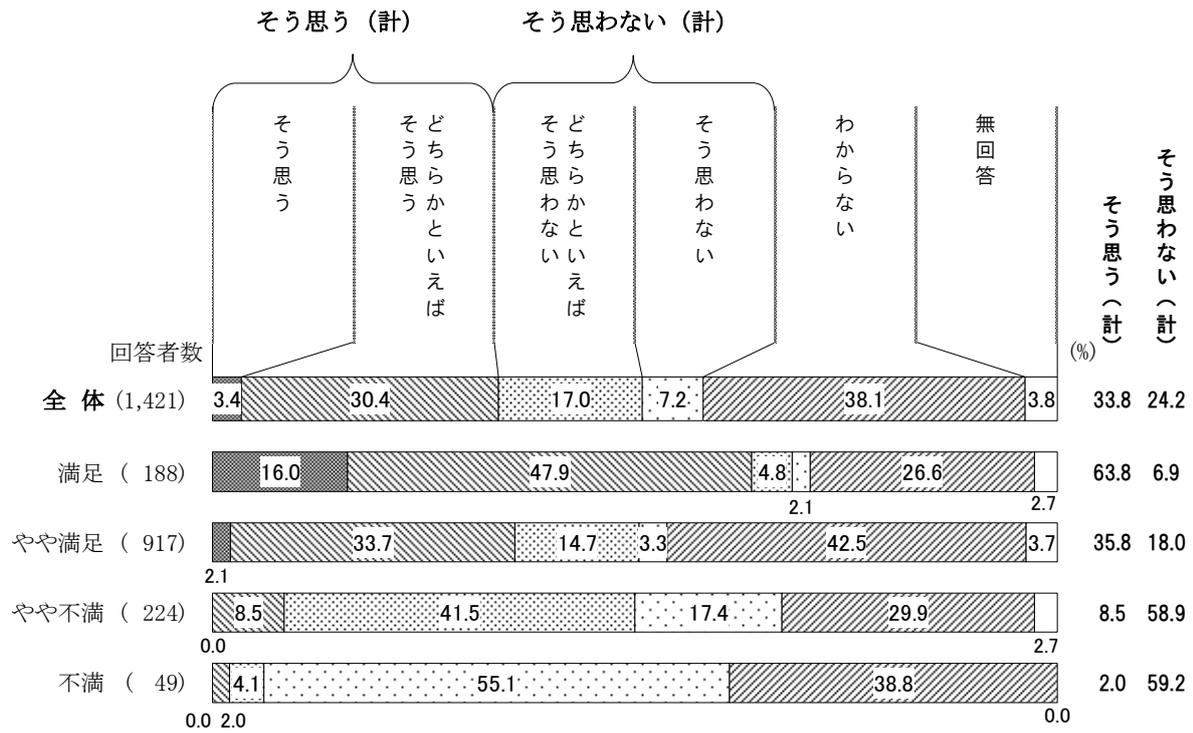
【女性】



ウ クロス集計・区政満足度別／区政への区民意見の反映度

本アンケートによって区民意見が区政に反映されているかについて、区政満足度別で見ると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で6割台半ば近くと高くなっている。

図11-9-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



## (10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問51 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、494名から延べ582件のご意見やご要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

#### ■ 道路や交通網の整備、交通安全対策（80件）

- ・足立区は古い街で道路が狭く、危険な箇所が多い。道路の拡張、歩道の整備、自転車道の整備を行ってほしい。公共のバス（はるかぜ）の路線拡大（買い物困難者の救済のためにも）。
- ・歩行者信号がない交差点が多く、自動車信号が青で進むと、左右から自転車がノーブレーキで進入してきて、この数年で3回程ヒヤッとした事がある。歩行者信号100%を目指して欲しい。
- ・先日、NHKの番組を見ていたら、足立区のコミュニティバスが減らされているとのこと。高齢者等にとって大事な乗り物になっています。もっと国や都と協議して欲しいと思います。
- ・公共交通機関が届いていない地域があるのを何とかできないか。一部地域のバスの本数が1日数本である実態を最近知った。高齢者や妊婦などのタクシー利用券配布など。
- ・道幅が狭い上に、自転車や歩行者のモラルが欠如しているため、車を運転していて危険を感じることが多い。電柱を無くして道幅を広げることや自転車や歩行者の取り締まりを強化していただきたい。
- ・歩きタバコや自転車に乗りながらのタバコが多い。非常に不愉快なので、もう少し取り締まって欲しいと思う。後は自転車をもものすごいスピードでこいで来る人、左右前後確認せずに道路に出てくる人（歩行者含め）、もう少し気を付けて欲しいと思うことが多い。

#### ■ ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策（35件）

- ・ビューティフル・ウィンドウズ運動は、定量的に効果・進捗を説明して頂いており、とても良い取り組みであると思います。
- ・治安が他の区と比べ悪かったり、街灯が少なく、夜に外を出歩くのに不安を持ったりすることがある。また、たまにはあるが、酔っ払いがコンビニ前や公園でたむろしている。これらは足立区のイメージダウンに繋がると思うので、対応して頂きたい。
- ・ビューティフルウィンドーの運動は素晴らしいと思います。20年以上前の足立区に比べると、断然きれいになって来ております。が、路上喫煙については、もっと取り締まってほしい。決められた場所での喫煙は可なのだから、禁煙エリア（駅周辺の路上など）での取り締まりはもっと行うべきだと思います。
- ・防犯カメラの設置と運用は区で負担すべきではないでしょうか。設置後のランニングコストを町会が負担していると聞いています。防犯から防災への転換が行われることを期待します。

#### ■ 区政全般（31件）

- ・足立区は学校給食無償化にする判断も遅かったと思う。他の区は早く無償化にしていた。足立プレミアム商品券も良かったと思う。だけど使える施設をもっと増やして欲しい。それから都で度々行われている、低所得者への給付やは、低所得者ばかりにフォーカスされ、中間層以上の方の税金の支払い等が圧迫されているのに、全くフェアじゃないと思うばかりだ。その中でも以前、足立区独自で対象から外れた所得者達に給付していたのはすごく良かったと思う。何かと都がやっている政策はいつもの外れなので。足立区には的を得て欲しいと思う。税金で支えているのは税金を納めている人なのだから。その人達も助けて欲しい。
- ・特定のゾーン・エリアで新しい街づくりを進めているとのことだが、特定のエリア以外にも目を向けて頂きたい。人口が多く、様々な施設が整っている地域を更に良くするのも大切かもし

れませんが、全体のボトムアップも必要だと思います。

- ・区民事務所や区民センターに目安箱を置いて、もっと区民の声が区政に届くよう努力してほしい。選挙の時だけ大騒ぎして、選ばれた人がその後区民のために何をしたのか、もっと分かりやすく発信してほしい。
- ・足立区は緑も多く公園の整備などに力を入れてきている印象がある。小さな子どもがいる家庭には良い環境であると実感している一方で、足立区の印象は一般的には良いイメージがもたれないのが残念である。良い印象に変化させていくためには、足立区としての特徴をもっと積極的に打ち出していく必要があると考えている。川に囲まれ、海拔も低く、災害には強いとは言えない地域が多いので、全国的にも模範となるような防災に強い街づくりなど、他と同等レベルではなく、足立区が最先端といわれるような防災都市構想を打ち出し、区民が安全・安心に暮らせる街づくりを期待しています。

#### ■ 保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援（27件）

- ・学校の先生も子どもたちに深く関わらないようにしていると思う。もう少し関与してもいいのではということがある。家庭環境により子どもの性格や学力に差が生まれることがあると思う。そのため、子育ての支援機関など、もっと普及させるべきだ。そして、大人の行動がどれだけ子どもに影響するのか、大人は考えた方がいい。SNSの普及により良い情報だけではなく、悪い情報が溢れていて、判断力のない子ども達が悪い情報に流されているのをよく目にする。それにより最悪の結果、自殺や犯罪に関わっている子を目にする。目にしているのに、何もできない自分に無力さを感じる。大人も自分の自由のために、ICTに頼り、子どもと面と向かって接するのが少なくなっていると感じる。食事の時の一家の団欒だったり…時代のせいもあるのではないかと思うが、一番近くにいる家族に素を見せられなかったり、本気でぶつかり合えないのは悲しいことである。一家で団欒など、向き合う時間が少ないのであれば、本当に困っている子どもたちがいつでも相談でき、帰りたいたいと思える第2の家のような存在（施設）があってもいいのではないかと思う。
- ・所得に関係なく子育てには厚い支援が必要。小学校から私学やインターナショナルスクールに入る子どもの補助金の支給などを考えるべき。品川区の様な夏休み食料支援の様な取り組みも必要。子育て世帯が住む住宅の確保。これらを実行していかないと皆都心へ行って、高齢者ばかりになってしまう。税収入も減収してしまうのではないか。
- ・学童保育の利用条件等の緩和。働きたい意思があっても条件に当てはまらないため、子どもを預けられないというような悩みを聞く。
- ・地域学習センターや体育館・プールが近くにないため、施設や各種プログラムの利用について、足立区内の地域格差を感じています。来年度より子どもが小学校に上がりますが近辺の学童は18時までで、就労後、お迎えに間に合いません。職場にも相談するつもりですが、私だけ柔軟に対応してもらえない可能性は低く、仕事を継続できるか心配です。

#### ■ 文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興（26件）

- ・地域のお祭りのように高齢者と子どもが関われる催しをもっとあるといいなと思います。文化の継承を兼ねて交流することにより高齢者の孤立も防げて、子どもの教育にも良いと考えます。夏祭りじゃない方が安全かもしれません。足立区にはよい歴史があります。文化継承にもっと力を入れていけたらより良いと思います。
- ・高齢者が利用する施設（悠々館）が各地域にあります。地域によっては運動（ヨガやストレッチ等）教室が偏っていて全くない所もあり、バランス良く、運動できる教室を作って欲しいです。

- ・もう私は子育てはほとんど終わったのですが、ずっと思っていたのが足立区は図書館が狭過ぎます。本も少ない。勉強する場所も少ない。本を読みましようという前に、施設の充実をお願いしたいです。他の地域から来た身として、この本の少なさにはびっくりしました。まず、幼少期のうちに本に接することで、学力にも差が出てしまうと思いますので、子ども達の将来のためによろしくをお願いします。
- ・野球やサッカーができる公園が非常に減っていて、どこもボール禁止など自由にスポーツできる公園が少ない。元気な小中学生のためにも高齢者向けの健康器具がある狭い公園だけでなく自由に球技ができる公園を作ってほしい。そうしないと、ますますゲームなど室内遊びが増え運動能力低下に繋がる。

#### ■ 高齢者の生活や介護などの支援（24件）

- ・高齢者社会と言われている中で、シルバー（60歳以上）の仕事について、働きやすく、ある程度保障がある雇用があればと思います。
- ・ヤングケアラーについて足立区ではどの様にお考えですか。学業や友人関係等で困っていると大変心が痛みます。
- ・高齢者を抱えている子どもの大半は低所得になりがちで、お先真っ暗な気持ちで日々を過ごしているのに、解決策はどこにもなく、結局親殺しや子殺し、または年金不正受給をせざるを得ない状況に、政治は目を向けるべきだと思う。

#### ■ 防災対策（22件）

- ・防災対策は個人では限界があるため、是非区（都）で進めて頂きたい。特に洪水と地震。当方の住んでいるエリアは二階でも浸水の可能性があるが、何年か前に区民農園だった畑に20～30軒の二階建ての戸建住宅が建った。浸水リスクが高いエリアは区民農園のまま残し、三階以上の建物にするなど、中長期的な視点で町を支えていく必要があるのではないかと。洪水に際しては、区外へ避難せよというのは対策なのでしょう。江戸川区のように宿泊施設を確保して頂けると有難い。区民農園を残すことは、地震の際の防災にも有効なのではないかと思ひ、現状をととても残念に思っている。
- ・マンションの管理組合単位での大規模修繕の相談や災害時の備蓄についての支援を考えて欲しい。地区の自治会は高齢化していて災害時機能しないと思う。
- ・予見される水害に対し、区外に逃げろ、あなたの区域は5メートル浸水します、という掛け声だけでなく、少なくとも床下浸水程度まで、水害の被害を軽減する施策を打ち出してほしい。

#### ■ 公園や緑地などの整備（21件）

- ・川をもう少し活かすといいと思う。木陰を増やして居心地を良くするとか、滞在しやすい空間づくりをしてみるとか。
- ・春の舎人公園が本当に綺麗で感動しました。カラスが多いのは気になるけど…。四季の移ろいを感じる公園が増えたら嬉しいです。
- ・昔とは子どものする遊びが変化してきているので、バスケットゴールのある公園や、スケボーのできる公園を増やして欲しい。
- ・足立区立西中第一公園にはゴミが捨ててあったり（小さい子が拾ってしまう）、足立富士見公園はタバコを吸っている人がいたり（禁煙なのにベンチで吸っていて子どもと離れた遊具でしか遊べない）、西新井西公園は小学高学年が砂場で鬼ごっこをし始め砂遊びをしている子どもに危ないよと言ったり、オブジェが壊れていて危なかったり。行きたい公園があるのに、家の近く

なのに安心して遊びに行けません。なので行かなくなってしまいました。上沼田東公園の整備が進んでいて素晴らしいと思いますが、元ある公園の改善や対策も対応をお願いします。

#### ■ 本調査について（21件）

- ・世論調査に答えていて、知らないことが多いと感じたので、知りたいと思いました。ホームページは調べる時しか利用していないので、区報にいろいろな情報があると嬉しいです。
- ・私のように区政に何も関わった事のない者にも意見を聞いてくれる事は嬉しい。今の所は何もないが、病気になったり、生活に困ったりした時は、相談したいと思います。どうぞよろしくをお願いします。
- ・本アンケートは質問数が多く、特に現役世代は途中で回答意欲が減退すると思う。今後の世論調査では質問項目を絞り込むべき。

#### ■ 教育内容の充実など学校教育対策（21件）

- ・教育現場では自分と違う意見、考えを認める教育と道徳教育とまではいかずとも、人としての行動がとれる人物を作り出す教え等、これからの日本、足立区をリードするような人間教育を足立区から作って欲しい。
- ・コロナ禍でICT教育が急速に発展したが、もっと活用できると思う。子どもが体調不良などで欠席したときにも、オンラインで授業を受けられる環境作りを早急に求めます。
- ・小中学校の統合をある程度進めるべきだと思います。そうすることで、教員不足が解決すると思います。
- ・足立区の教育に関して。先生の質。授業、宿題の量にムラがありすぎる。

#### ■ 広報やホームページなどによる区政情報の提供（18件）

- ・区政の職員の方、足立区の色々な活動に協力されている方々には本当に感謝です。力強さと愛を感じます。しかし、プロジェクトや色々な活動が区民に伝わっていない、伝わりにくい。
- ・足立区商店街応援券、初めて購入しました。広報にも載っていないし、情報が少な過ぎて困ります。物価高もありますので、幅広く共有して頂きたいです。今回は商店に貼ってあったポスターで見つけました。
- ・足立区は公園や緑が多く住みやすいので、良い点を伸ばして防災や犯罪に強い街づくりを強化してほしいです。足立の花火だけでなく、町のお祭りなども近隣区にも宣伝して多くの人を呼び込める広報を推進してほしいです。
- ・名所や名物、日本初や都内初で知名度を上げて、イメージを向上させて欲しい。昔ほど犯罪件数も減って安全な街だともっとアピールして欲しい。注目されることで民度も上がると思います。竹ノ塚駅前にはURではなく、もっとイメージ向上につながる商業施設を作ってほしい。

#### ■ 多文化共生（18件）

- ・外国人が増えてきたので、彼らが日本への愛国心を育めるよう、日本のマナーや作法を学ぶ機会を提供してあげてほしい。外国人がゴミ置き場の資源物を持っていくことがあるので、役所から注意してほしい。
- ・外国人に向けていろいろな案内内容を増やして紹介させていただきもらえば嬉しいです。
- ・最近、埼玉県で外国人の問題や犯罪が増加しているそうです。足立区は隣接した地域なので、危機感を持って注視して頂きたいです。

■ 職員の接客態度（16件）

- ・区の行事や、問い合わせがある時、いつも区の職員の方が親切丁寧で、足立区に住んで良かったなと思います。
- ・時々、区民事務所に行く機会があります。職員さんは多くいますが、順番がなかなか回ってこない時があり、忙しい時に困ります。男の方、女の方、制服を着ていないので、わかりづらい時が多々あります。

■ 美しい街並みや景観づくりなど都市開発（16件）

- ・住んでいる街が新しいまちづくりのエリアから外れており、疎外された思いである。荒川沿いの水害に強いまちづくりが進んでいない。
- ・足立区の玄関。江戸時代の三宿、千住の千住。駅前（北千住駅近辺）を清潔、美しい街並み、景観を大切にしてください。
- ・新しいまちづくりのエリアに江北や竹ノ塚はあるのに、見沼代・舎人・古千谷周辺が含まれないのは何故ですか？見沼代は舎人ライナーの終着駅なのに魅力がほとんどないのは致命的だと思います。隣市で仕事をしていますが、行ってみたいとは言われなし、知らないという人がほとんどでした。

■ 健康づくりやがん検診など保健衛生対策（13件）

- ・一年に一度、歯科検診を無料でやって欲しいです。
- ・給付金や自分が病気（乳がん）になった時にわかりやすい情報が知りたい。特に給付金に関してはこちらが調べないとわからなかった事が多く、自治体から進んで動いて欲しい。
- ・子どもたちが更に栄養価のある美味しい給食を十分に食べてすくすくと育ててほしい。
- ・二次救急病院（複数をもち）が近くで2軒、相次いで閉院し、長年かかっていたので困っている。

■ 低所得者の生活援助や就労支援（12件）

- ・足立区も高齢者、低所得者が増えていると思います。低所得対策や都営住宅、区でも安い住宅の設置。特養があまりにも入居困難。環境も大切ですが、老後の事を考えると年金にも入っていない人は老後の事が一番心配です。是非特養を増やして欲しいです。
- ・生活保護認定の緩さと認定後の放置状態を改善して欲しい。生活保護自体が許せないわけではなく、本当に必要としている人以外が認定されてることや、娯楽に使われていることが足立区は特に目立つため。
- ・低所得者（住民税非課税ではギリギリならないなど）という括りだと、もれてしまう家庭があることを理解し、支援をしてほしい。

■ 省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策（12件）

- ・生ゴミを集めて堆肥に変えるステーションがあったらいいと思う。
- ・清掃局が依頼しているところがいい加減。資源ゴミはどこかの人が集めて、持ち去っているが、知っていても対策を取らない。
- ・現在、ゴミ収集方法を変更しているが、プラスチックゴミが多く、大きなゴミ箱を外に用意しても週1回では入りきらないため、他の地域までゴミを出しに行っています。どうかして欲しいです。
- ・資源ごみ回収の日になると、明らかに業者ではない人間がアルミ缶を大量に回収している。数

年前に引っ越してから未だに続いている。放置してよい問題ではないはずなのに対策が取られていない。

#### ■ 障がい者の生活や介護などの支援（11件）

- ・道路など、車椅子を利用する人にとっては、高低差があり、やや不便を感じます。駅なども高齢の方、ベビーカーの方、車椅子の方など、エレベーターを利用するしか手段がない人が多くなってきたため、エレベーターを2台位にして欲しい（エレベーターを譲らないなどの配慮のない場面を目にします）。
- ・障がい者の就労やグループホームなどへの支援に対する区の一部の職員さんの圧倒的な理解不足を感じます。自助があたりまえなのは理解しますが、せめて区内のことだけでも案内や助言をもう少し充実させて、プッシュ型の支援があればと思います。

#### ■ 町会・自治会など地域活動支援（10件）

- ・公園等多くありますが、公園の活用・利用などはなく、無駄なように思われます。そこで小さな屋根付きの集まれる場所を設置し、高齢者などの休憩集会場所として、いつでも誰かがいるコミュニケーションの場として、会話・社会・生活などで友好関係を持ち、できれば若い人達も加わり、意見交換など楽しい会話等ができ、引きこもりの人、いつも会話がなない人、悩み事、病気など意見交換をして、そうすると健康的にもよく、友達もでき、一人で考えることもなくなるのでは。
- ・区民の声を聞いて、区政をしてきている感じがします。これからも区民のためになるようお願いいたします。区民同士が交流する機会をもっと増やすべきだと思う。東京の近所付き合いは本当に少ないと思うので災害時とかがとても心配です。
- ・子どもとか老人だけではなく、中間層も一人で孤立している人が多くいると思います。区の情報誌を見ても、その辺りの対策がぼっかり抜けているように感じます。子どももいなければ、介護にはまだ早い。どうすれば、地域活動に参加できますか。
- ・町内会の担当運営をもっと簡単にしてほしい 町会費集めるのはかなり大変です。毎年順番が回るのですがその係さえも協力してくれない方少なくないです。同じ方が何年も行い、引き継いでもらう方を探すのも見つからない、自分で探さないとやめられられないのは理不尽です。

#### ■ 空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策（9件）

- ・都住の空き部屋が多く感じられ、少しでも困っている人に提供できるよう、敏速にできませんか。
- ・空き家が多く、持ち主も他地区に移動し、そのままにされている。
- ・公営・公団住宅に今よりも入居しやすいルールに改善して欲しい。公営・公団住宅に後付けタイプでも良いので、もっとエレベーターの設置を進めて欲しい。理由は住民の高齢が進み、そのまま住み続けたくても階段の昇降が困難になり退去しなくてはならないと良く聞くから。

#### ■ 商工業や起業支援など産業振興（8件）

- ・足立区にも歴史的な所がたくさんあると思います。色々なコースをバスで回って頂けたら、足立区の歴史を知り、楽しいと思います。できれば、都バスが一日券500円ですので、足立区は300円位でお願いできたら嬉しいですね。若い人も年配者も楽しく勉強できます。
- ・足立の花火大会等もあり、他区の人に関心を持っている。大学も増え、若い人達のエネルギーを感じる。

- ・西新井大師近くに住んでますが、門前など全く活気がない。区が助成などして西新井大師をもっと活性化してほしい。

#### ■ 区のイメージ（8件）

- ・足立区のイメージが他者から見ると良くない。もっとあこがれるような街づくりを多方面から行って欲しい。住みたいと思ってもらえるような宣伝活動も大切だと思う。
- ・足立へ引っ越す時、多くの人々から「何故足立？」と質問された。人々にとって足立は今も危険な町として評価は低い。清潔で便利で治安も良い、今の足立をもっとアピールする必要があると思う。北千住は大学が進出し、土地も比較的安いため、若者やヤングファミリーが多くて、明るく活気のある良い町になっている。北千住を中心に若者にも高齢者にも優しい、未来に希望の持てるまちづくりをと切に願う。
- ・足立区は治安悪いだけじゃない 面白い町なんよ。

#### ■ 感謝・激励（58件）

- ・職員の皆様の対応は親切で、その課の人との話は終わり、他の部署を聞いても親切、丁寧に教えてくれ、大変有難かったです。今年は「足立の花火」も中止になってしまいました。残念でしたが、関係者の皆様ご苦労様でした。来年を楽しみにしています。
- ・足立区は特別区23区の中で、下位にランキングされる事項も多いとは思いますが、発想を変えれば、努力次第で良くなる事項も多いということです。区民の要望・意見に耳を傾け、区民を巻き込みながら、近藤区長のリーダーシップのもとで、区政（区行政）が優先事項を決めて、課題改善・解決に向け、チャレンジして欲しいと思います。
- ・住めば住むほど快適なまちになっているし、こうした調査以外にも色々な場所で、区民の声を聞いて、反映させていこうとする努力は感じます。引き続き、区政運営がより良いものになるよう祈念しています。
- ・街中に防犯カメラも増えてきて、良い事だと思います。交通至便で、高齢者も外出しやすいと思います。文教大学ができて、若者も増えて、活気づいていると思います。
- ・足立区でよかったと思える理由をつくってもらいたいです。

#### ■ その他（65件）

- ・SNS等を利用し、親しみやすく、わかりやすいアピールをしてもいいと思います。これからはHP等ももっと見たいと思います。
- ・自宅近くの小売店がどんどん減っているため、対策して欲しいです。
- ・ヤングケアラー家庭や独居のお年寄りへの見守りなど近隣のお手伝いが出来ればと思っていますが何をどこに相談すればいいのかわかりません。ホームページなどで窓口の紹介などをしてほしい。誰でもいいわけではなく登録した人の身でないと受ける側も不安かと思っています。何か地域に貢献できることをしたくても窓口が分からないので、定期的な配布物でPRをしてほしい。
- ・介護施設があっても人手がなく空き室になったり、元区役所後芸術センターや千住大橋駅前の長期の空き地など、区民が十分に活用でき、無駄のないように考えて欲しい。
- ・低所得者への支援はあっても、底に触れない微妙な所得者への支援が何もない。中間層への支援はどう感じて、考えているのだろうか。

(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

問52 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか（○は1つだけ）。

■本調査を【有効な内容だと思う】は7割超、【そう思わない】は1割

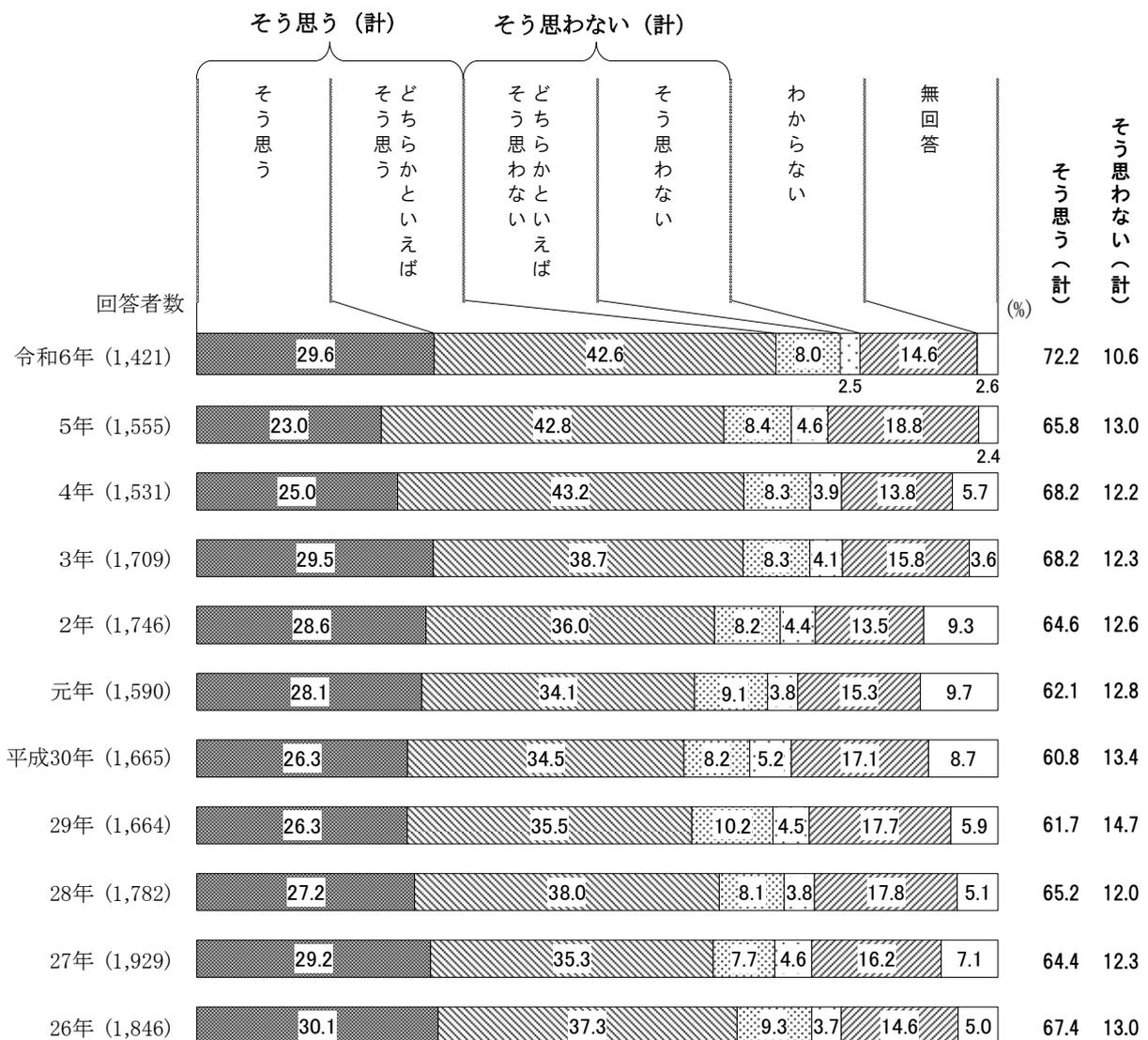
ア 単純集計・経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

(ア) 本調査の質問内容が、区民ニーズや意識を把握するうえで有効かを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が42.6%で最も高く、次いで、「そう思う」が29.6%となっている。これらを合わせた【そう思う】は7割超となっている。

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」（8.0%）と「そう思わない」（2.5%）を合わせた【そう思わない】は1割となっている。

(ウ) 前回調査と比較してみると、【そう思う】が6.4ポイント増加し、「わからない」が4.2ポイント減少している。

図11-11-1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

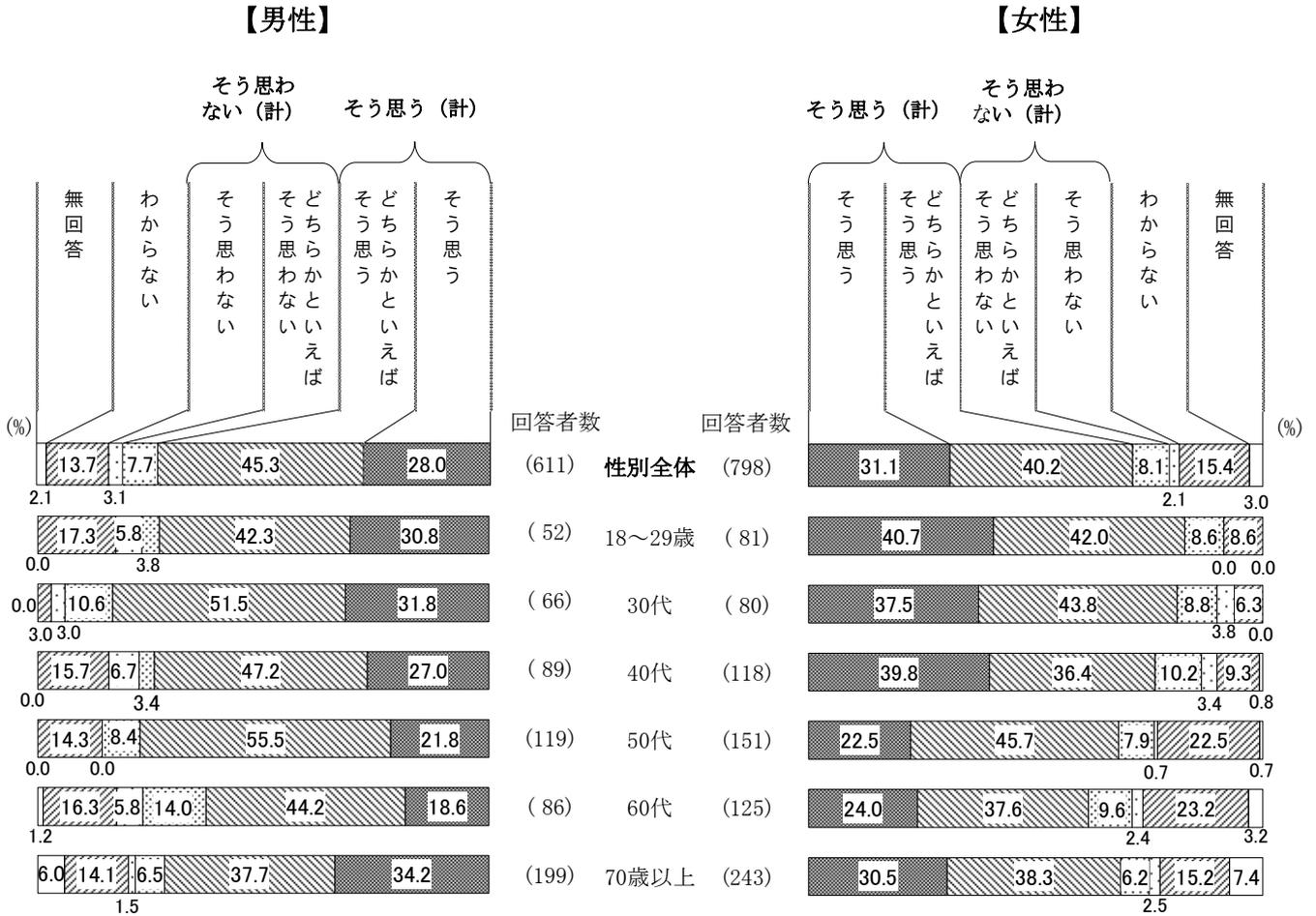


イ クロス集計・性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【そう思う】は、男性の30代、女性の18～29歳と30代で8割台と高くなっている。一方、【そう思わない】は、男性の60代で19.8%と最も高くなっている。

図11-11-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度





## 第4章 使用した調査票



## 令和6年度（第53回）足立区政に関する世論調査

### ご回答にあたってのお願い

- 1 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
- 2 ご本人がひとりで回答することが難しい場合は、ご家族など、身近な方に代理で回答していただいても構いません。その場合は、ご本人の意思を確認しながら、ご回答ください。
- 3 ご不明な点がございましたら、下記【お問合せ先】までお問い合わせください。

【調査主体】 足立区 政策経営部 区政情報課 区政情報係  
足立区中央本町1-17-1

【お問合せ先】 お問い合わせコール あだち  
03-3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／1月1日から3日を除く毎日）

【調査受託機関】 株式会社 サーベイ リサーチ センター



この調査は、《インターネットによる回答》と《郵送による回答》の2通りの回答ができます。  
どちらかの方法により**令和6年9月6日（金）まで**にご回答ください。

### 1 インターネットによる回答

- ① 調査回答サイトにアクセスする

下記のURL又は右記のQRコードにより、調査回答サイトにアクセスします

<https://en.surece.co.jp/2024adachi>



※ URLはブラウザのアドレスバーに入力してください（詳しくは裏面へ）。

- ② ログイン・回答する

調査回答サイトのログイン画面で、下記の回答用「ID」と「パスワード」を入力し、回答を開始してください。

あなたの回答用

「ID」・「パスワード」

ID : ●●●●●●●●  
パスワード : ●●●●●●●●

ID、パスワードをご入力ください。

ID:

パスワード:

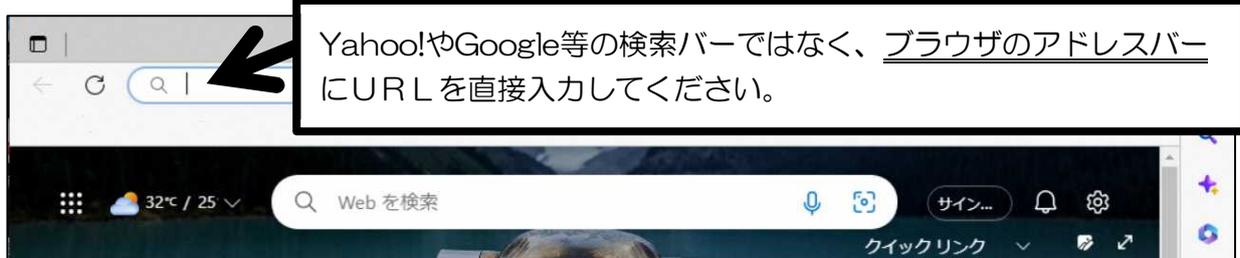
### 回答に関するご注意

- 回答は途中保存が可能です。中断される場合はそのまま画面を閉じてください。最後に「次へ」ボタンを押したページまでの回答が保存されています。再開する場合は回答用ページへ再度アクセスし、ログインしてください。
- 前の設問に戻るには各ページに設置されている「戻る」ボタンを押してください（※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください）。
- 60分以内に「戻る」ボタン又は「次へ」ボタンを最低1回は押すようにしてください（※時間内にボタンを押さないと、自動的にログアウトされます）。
- JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。
- 回答は1回限りです。回答を送信されるとその後の修正はできませんのでご注意ください。

### 調査回答サイトへのアクセス方法（QRコードが読み込めない場合）

- パソコンからURLを入力し、調査回答サイトへアクセスする方法  
ブラウザのアドレスバーに下記URLを直接入力し、調査回答サイトへアクセスしてください。キーワード検索では調査回答サイトにアクセスできません。

<https://en.surece.co.jp/2024adachi>



- 足立区ホームページのリンクから調査回答サイトへアクセスする方法  
足立区ホームページの「令和6年度（第53回）足立区政に関する世論調査にご協力を」（<https://www.city.adachi.tokyo.jp/kuse/47yoron.html>）のページにあるリンク（「調査回答サイトはこちら」の文字をクリック）から調査回答サイトへアクセスしてください。

## 2 郵送による回答

- ① 調査票にご記入の際は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- ② お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
- ③ 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
- ④ 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
- ⑤ 調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありませんので、記入なさらないようお願いします。

### ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、ご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理します。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひとも率直なご意見をお聞かせください。

※ 調査票内の集計母数について  
特にサンプル数表記のない設問は、全数ベース（回答者数1,421）で集計しており、母数の記載を割愛した。一部の該当設問については、設問ごとに回答者数を表記した。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	男性	43.0%	3	どちらでもない	0.1	無回答	0.2
2	女性	56.2	4	答えたくない	0.5		

F 2 あなたは、何歳ですか（○は1つだけ）。

1	20歳未満	0.9%	6	40～44歳	6.6	10	60～64歳	7.4
2	20～24歳	3.3	7	45～49歳	8.1	11	65～69歳	7.5
3	25～29歳	5.3	8	50～54歳	9.9	12	70～79歳	18.2
4	30～34歳	4.4	9	55～59歳	9.3	13	80歳以上	13.0
5	35～39歳	6.0					無回答	0.1

F 3 あなたは、足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

1	1年未満	3.5%	3	3～5年未満	4.3	5	10～20年未満	15.1
2	1～3年未満	5.2	4	5～10年未満	8.7	6	20年以上	62.5
							無回答	0.7

F 4 あなたのお住まい（住居）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	一戸建て持家	41.0%	6	社宅・公務員住宅・寮	0.9
2	一戸建て借家	1.9	7	間借り・住み込み	0.2
3	分譲マンション	21.5	8	その他	0.7
4	賃貸マンション・アパート	22.1		無回答	1.1
5	都市再生機構（旧公団）・公社 ・都営住宅・区営住宅	10.5			

F 5 あなたの職業は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1	自営業・事業主	8.6%	5	主に家事に従事（専業主婦など）	10.1
2	自由業 （開業医、弁護士、芸術家など）	1.3	6	学生	2.0
3	会社員・公務員	35.2	7	無職（年金生活を含む）	24.7
4	パート・アルバイト	14.7	8	その他	1.9
				無回答	1.4

(F5で「1」～「4」または「6」か「8」とお答えの方に)

F5-1 あなたの就労場所(就学場所)は、次のどれにあたりますか(○は1つだけ)。

回答者数906

1 自宅	9.2%	4 23区以外の東京	2.2
2 足立区内	28.7	5 茨城、神奈川、埼玉、千葉	9.5
3 足立区外の東京22区	46.7	6 その他	2.9
		無回答	0.9

F6 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか(○はあてはまるものすべて)。

1 ひとり暮らし	18.8%	4 祖父・祖母	1.1	7 兄弟・姉妹	6.6
2 配偶者	56.5	5 子ども	37.7	8 その他	2.8
3 父・母	13.7	6 孫	2.8	無回答	2.5

F7 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか(○は1つだけ)。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	1	25.5%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる		
一番上の子どもが小学校入学前	2	0.2
一番上の子どもが小学生	3	0.3
一番上の子どもが中学生	4	0.2
一番上の子どもが高校・大学生	5	0.4
一番上の子どもが学校卒業	6	10.4
◎ 配偶者がいて子どもがいない	7	12.5
◎ 配偶者がいて子どもがいる		
一番上の子どもが小学校入学前	8	4.1
一番上の子どもが小学生	9	4.9
一番上の子どもが中学生	10	2.3
一番上の子どもが高校・大学生	11	4.5
一番上の子どもが学校卒業	12	25.3
無回答		9.4

F8 足立区では、「綾瀬」「北綾瀬」「花畑」「六町」「江北」「西新井・梅島」「竹の塚」「千住」のゾーン・エリアで新しいまちづくりを進めています。あなたのお住まいは、下段枠内の1～9の選択肢のうち、どの範囲に入っていますか（○は1つだけ）。

1	綾瀬ゾーン（綾瀬1～7、東和1・3、東綾瀬1～3）	7.3%
2	北綾瀬ゾーン（加平1～3、谷中1～4、大谷田4、東和5）	4.4
3	花畑エリア（花畑1～7、保木間4～5）	3.5
4	六町エリア（西加平1～2、一ツ家2～4、六町1～4、保塚町、南花畑1～3、北加平町、神明南1）	4.6
5	江北エリア（江北1～7、椿1～2、堀之内1～2、西新井7、西新井本町2、扇3）	5.4
6	西新井・梅島エリア （梅島1～3、梅田5～8、西新井栄町1～2、関原3、島根3、栗原1・3）	10.6
7	竹の塚エリア（竹の塚1～7、西竹の塚1～2、六月1～3、栗原2・4、西保木間1～4、伊興1～5、伊興本町1～2、東伊興1～4）	10.8
8	千住エリア（千住関屋町、千住曙町、千住東1～2、千住旭町、柳原1～2、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町1～3、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木1～2、千住1～5、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町）	12.0
9	その他（お住まいの町丁が1～8のゾーン・エリア以外の場合）	41.5

※ 町丁名の後の数字は丁目を表しています。

お住まいの地域について、おうかがいします

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思 わない	わか らない	無回答
ア 自転車利用者の交通ルール、 走行マナーが良いと感じる	5.2%	26.2	29.7	32.8	3.5	2.6
イ 快適で安全なまちである	9.9	52.9	22.1	9.9	2.7	2.6
ウ 景観・街並みが良好である	9.5	46.6	24.8	12.8	3.2	3.0
エ まちなかの花や緑が多い	17.2	45.4	21.4	11.5	1.9	2.6
オ ごみがなく地域がきれいになったと 感じる	12.7	49.1	19.8	11.8	3.6	3.0
カ 普段の買い物が便利である	37.0	39.4	12.3	8.9	0.6	1.8
キ 通勤や通学などの交通の便が良い	29.3	39.3	14.6	11.5	2.1	3.1
ク よく行く、または行きたい公園がある	18.2	32.0	21.1	17.0	9.2	2.4
ケ 地域の施設（建物や道路など）は、高 齢者や障がいのある方なども利用しや すいよう配慮されている	7.7	35.6	25.6	12.2	16.3	2.5
コ 子育て環境（保育所、学童クラブな ど）が整っている	9.8	38.7	10.8	4.2	32.9	3.7
サ 文化芸術に親しめるまちである	3.4	19.8	29.6	21.0	23.0	3.2
シ 地域の人々が、日常生活で高齢者や障 がいのある方などに配慮している	3.7	30.9	25.3	11.8	25.8	2.5
ス 男女が対等な立場で意思表示や活動 ができ、また責任も分かちあっている	3.4	27.9	17.7	8.8	38.8	3.4
セ 国籍、文化などが異なる人々がとも に暮らしやすいまちである	5.8	36.2	17.7	10.3	27.3	2.6
ソ 人権課題である「障がい者」「子ど も」「女性」「インターネットによる 人権侵害」について、偏見や差別がな い	3.9	26.1	18.4	10.0	39.1	2.5

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

1 暮らしやすい	28.9%	3 どちらかといえば暮らしにくい	9.9
2 どちらかといえば暮らしやすい	57.3	4 暮らしにくい	2.3
		無回答	1.5

（問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に）  
問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。 回答者数174

1 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	45.4%
2 地域の間人間関係が希薄なこと	17.8
3 治安が良くないこと	32.8
4 災害対策が不十分なこと	12.1
5 行政のサービスが良くないこと	10.3
6 自然が少ないこと	8.0
7 交通の便が悪いこと	38.5
8 買い物がしにくいこと	36.8
9 子育て環境が悪いこと	1.1
10 教育環境が整っていないこと	5.2
11 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	20.1
12 家の広さなどの居住環境が悪いこと	9.2
13 職場や学校から遠いこと	4.6
14 その他	8.0
無回答	0.6

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（〇は1つだけ）。

1 ずっと住み続けたい	38.5%	3 区外に転出したい	6.0
2 当分は住み続けたい	44.1	4 わからない	10.6
		無回答	0.9

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいします

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（〇は1つだけ）。

1 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	28.4%
2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	47.7
3 特に用意していない ⇒次ページの問5へお進みください	20.4
無回答	3.5

（問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（〇はあてはまるものすべて）。回答者数1,081

1 水	92.7%	10 消火器	21.8
2 食料（缶詰、アルファーム、インスタント食品など）	88.2	11 ペット対策用品（ケージ、エサなど）	11.1
3 簡易トイレ	57.8	12 水の確保用品（ポリタンク、水袋など）	29.1
4 あかり（ろうそく、懐中電灯など）	73.9	13 救助用工具（バール、ハンマーなど）	11.7
5 情報収集手段（携帯ラジオなど）	44.4	14 ヘルメット	19.2
6 医薬品（常備薬を含む）	47.7	15 救急セット	25.1
7 衣類	32.5	16 避難ロープ	7.4
8 生理用品	22.4	17 防災袋（非常用持出袋）	29.6
9 電池・予備バッテリー	57.5	18 その他	1.5
		無回答	0.7

（問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に）

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

ア 水 回答者数1,002 / イ 食料 回答者数953 / ウ 簡易トイレ 回答者数625

	1週間分以上	3日以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア 水	14.9%	34.7	37.9	8.5	3.2	0.8
イ 食料	9.7	35.0	42.6	9.1	2.3	1.3
ウ 簡易トイレ	13.9	25.9	30.2	14.4	14.7	0.8

ここから再び、すべての方におうかがいします
-----------------------

問5 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

		知っている	なんとなく見当がつく	知らない	無回答
ア <small>いつきしゅうごうばしょ</small> 一時集合場所	あなたの地域の場所	36.3%	36.0	23.9	3.8
	意味	24.4	31.7	29.3	14.6
イ 避難場所	あなたの地域の場所	36.7	38.4	20.7	4.2
	意味	26.5	33.1	25.8	14.6
ウ 第一次避難所	あなたの地域の場所	24.3	31.9	37.4	6.3
	意味	18.4	28.1	38.5	15.1

問6 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（〇は1つだけ）。

1 避難所	50.5%	4 車や公園など	6.7
2 別居している家族や親戚の家	25.2	5 その他	2.5
3 友人・知人などの家	1.6	6 考えていない	12.2
		無回答	1.3

洪水対策について、おうかがいします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問7 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（〇は1つだけ）。

1 見て、自宅の浸水深を確認した	31.1%	3 見たが、内容までは覚えていない	37.4
2 見て、内容は確認した	23.6	4 存在を知らない	6.4
		無回答	1.4

問8 河川がはん濫する恐れがある場合、あなたはどこに避難しますか（〇は1つだけ）。

1 自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）	55.1%
2 区内の親戚や知人の家	2.5
3 区外の親戚や知人の家	3.4
4 近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所	22.7
5 車や公共交通機関で浸水しない地域へ行く	2.3
6 近くにある高い建物	7.5
7 その他	0.8
8 決めていない	4.9
無回答	0.9

（問8で「8 決めていない」とお答えの方に）

問8-1 避難する場所を決めていない理由は何ですか（〇は1つだけ）。 回答者数69

1 避難する場所がわからないから	46.4%
2 近くに避難できる場所がないから	11.6
3 自分や家族だけで避難することができないから	14.5
4 河川のはん濫は起こらないと思っているから	15.9
5 その他	11.6

区の情報発信のあり方について、すべての方におうかがいします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム(A-メール)のほか、公式LINEやツイッター、フェイスブックなど、様々な方法で区の情報を発信しています。

問9 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか  
(○はあてはまるものすべて)。

1 あだち広報	74.0%	10 区民事務所などの窓口	5.6
2 トキメキ	37.5	11 町会・自治会の掲示板・回覧板	23.5
3 区のホームページ	26.0	12 新聞(区内紙、一般紙)	11.8
4 A-メール	17.2	13 テレビ、ラジオ	16.6
5 ツイッター	5.5	14 J:COM足立(ケーブルテレビ)	4.7
6 フェイスブック	1.1	15 人から聞く	13.4
7 足立区LINE公式アカウント	10.8	16 防災無線	13.3
8 ポスター、チラシ	15.0	17 その他	0.8
9 行政サービス案内	5.8	18 特に入手していない	7.8
		無回答	0.8

問10 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか(○は1つだけ)。

1 十分に得られている	3.7%	5 必要と思ったことがない	5.3
2 ある程度得られている	69.0	6 区の情報に関心がない	4.3
3 得られないことが多い	13.6	無回答	1.9
4 まったく得られない	2.3		

↓  
問10-1へお進みください

※ 問10で、選択肢の「1」「2」「5」「6」のいずれかに○のついた方は、  
次ページの「健康について」にお進みください。

(問10で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に)  
問10-1 主にどのような理由からですか(○は1つだけ)。 回答者数225

1 情報が探しにくい	25.8%	4 情報の内容がわかりにくい	11.1
2 情報の探し方がわからない	38.7	5 情報量が少ない	11.1
3 情報伝達が遅い	5.8	6 その他	5.3
		無回答	2.2

健康について、おうかがいします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問11 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（〇は1つだけ）。



※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

1	内容まで知っている	15.6%	3	知らない（初めて聞いた）	50.3
2	詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	32.7		無回答	1.4

問12 初期の糖尿病には自覚症状がありませんが、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で、あなたが知っているものはどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

1	神経障がい（手足のしびれ）	33.4%	7	口の渇き	48.3
2	網膜症	28.9	8	人工透析	49.3
3	白内障	26.3	9	失明	61.1
4	腎不全	35.7	10	足の壊疽 <sup>えそ</sup>	60.3
5	脳梗塞 <sup>こうそく</sup>	25.7	11	その他	1.3
6	心筋梗塞 <sup>こうそく</sup>	24.6	12	ひとつも知らない	9.6
				無回答	1.5

問13 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（〇は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

1	食べている	70.2%	3	わからない	5.6
2	食べていない	23.2		無回答	1.0

問14 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（〇は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1	できている	9.6%	4	できていない	13.9
2	だいたいできている	33.4	5	わからない	3.5
3	あまりできていない	38.8		無回答	0.8

問15 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（〇は1つだけ）。

1 非常に健康だと思う	3.8%	3 あまり健康ではない	27.8
2 健康な方だと思う	60.7	4 健康ではない	7.0
		無回答	0.8

問16 あなたの体調や習慣について、あてはまるものをお答えください

（〇はあてはまるものすべて）。

1 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	28.3%	2 習慣的にタバコを吸っている	15.6
		3 どちらもあてはまらない	56.0
		無回答	3.4

問17 あなたが安心して受診できる医療機関は身近にありますか（〇は1つだけ）。

1 ある	74.5%	2 ない	23.9	無回答	1.7
------	-------	------	------	-----	-----

問18 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください

（〇はあてはまるものすべて）。

1 毎年健康診断を受けている	66.2%
2 がん検診を定期的に受けている	19.5
3 毎日朝ごはんを食べている	60.9
4 毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるようにしている	37.5
5 主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている	33.4
6 食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している	18.2
7 日ごろ、健康のために適度な運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	37.7
8 その他	3.0
9 特にない	6.3
無回答	0.6

問19 あなたがこの一年間で受けたがん検診は以下のどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

1 胃がん検診	17.5%	6 前立腺がん検診	4.6
2 肺がん検診	10.8	7 その他	1.4
3 大腸がん検診	21.3	8 がん検診は受けていない	49.8
4 子宮頸がん検診	16.7	9 わからない	3.1
5 乳がん検診	17.4	無回答	3.7

問20 あなたは、かかりつけの歯科医院で、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（〇はあてはまるものすべて）。

1	定期健診（年1回以上）	36.0%	4	その他	2.2
2	歯石除去・歯面清掃	43.6	5	特になし	30.4
3	歯みがき指導	12.2	6	かかりつけの歯科医院を決めていない	11.8
				無回答	2.0

問21 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（〇は1つだけ）。

1	毎日（毎回）行っている	80.2%	3	あまり行っていない	3.9
2	ときどき行っている	12.2	4	行っていない	2.1
				無回答	1.5

問22 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（〇は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

1	内容まで知っている	3.5%
2	詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	16.1
3	知らない（初めて聞いた）	79.0
	無回答	1.4

## スポーツ・読書について おうかがいします

問23 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（〇は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

1	30分以上の運動を週2回以上	21.3%	6	運動・スポーツはしていない	38.5
2	週2回以上（時間は問わない）	13.2		⇒ 次ページの間23-3へ	
3	週1回程度（時間は問わない）	11.1		お進みください	
4	月1回～3回程度（時間は問わない）	7.6		無回答	2.8
5	年に数回（時間は問わない）	5.6			

（問23で1～5のいずれかをお答えの方に）

問23-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

（〇はあてはまるものすべて）。回答者数834

1	野球・ソフトボール	2.3%	14	健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）	19.9
2	サッカー・フットサル	2.9	15	ラジオ体操	11.2
3	バスケットボール	1.2	16	武道（柔道・剣道・空手など）	1.2
4	バレーボール	1.2	17	ダンス	3.0
5	ビーチボールバレー	0.4	18	水泳・水中運動（ウォーキングなど）	5.0
6	テニス	3.0	19	登山・ハイキング	3.7
7	ファミリーテニス	0.1	20	陸上競技	0.5
8	バドミントン	1.2	21	ウォーキング	48.4
9	卓球	1.6	22	ジョギング・マラソン	8.6
10	ゴルフ	7.7	23	サイクリング	9.2
11	ゲートボール・グラウンドゴルフ	1.0	24	太極拳、ヨガ	3.7
12	ボウリング	1.2	25	パラスポーツ（パラリンピック種目に限らない）	0.2
13	筋力トレーニング	23.3	26	その他	6.6
				無回答	1.3

（同様に、問23で1～5のいずれかをお答えの方に）

問23-2 あなたは、どこで運動・スポーツを行うことが最も多いですか（〇は1つだけ）。

回答者数834

1	自宅	16.2%	4	職場及び職場周辺（区外）	3.8
2	自宅周辺	47.1	5	その他の場所（区内）	13.5
3	職場及び職場周辺（区内）	2.4	6	その他の場所（区外）	9.8
				無回答	7.1

(問23で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に)

問23-3 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。回答者数547

1	手頃な価格で施設を利用できる	31.3%
2	身近な場所で運動・スポーツができる	33.6
3	早朝や夜間にも施設が利用できる	11.0
4	一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える	17.9
5	レベルを気にせず参加できる機会がある	21.4
6	運動・スポーツの楽しみ方・やり方を教えてもらえる	8.4
7	運動・スポーツできる場所や機会についての情報が得やすい	6.4
8	プロの試合や国際大会を観戦する機会がある	1.5
9	トップアスリートと交流する機会がある	1.1
10	託児サービスなど子どもの面倒を見てもらえる	3.3
11	その他	8.8
12	どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない	15.4
13	わからない	18.8
	無回答	3.1

ここから再び、すべての方におうかがいします

問24 次の活動のうち、過去1年間にあなたが関わった運動・スポーツを支える活動はありますか (○はあてはまるものすべて)。

1	運動・スポーツの指導	3.6%
2	スポーツの審判	1.5
3	教室・大会・イベントの運営や世話	2.6
4	自身やあなたのお子さんが所属するクラブ・団体の運営や世話	3.2
5	大会やイベント会場での選手やチームの応援	5.4
6	クラブ・団体や大会・イベントへの寄附	0.9
7	スポーツの指導や審判などに関わる講習会・研修会への参加	0.8
8	パラスポーツ競技者のサポート (移動介助を含む)	0.1
9	その他	1.6
10	活動したかったが、する機会がなかった	6.7
11	活動しなかった	73.3
	無回答	6.4

次ページの間24-1へお進みください

(問24で「10 活動したかったが～」または「11 活動しなかった」とお答えの方に)

問24-1 あなたが運動・スポーツを支える活動をしなかった理由は何ですか

(〇はあてはまるものすべて)。回答者数1,136

1	仲間や一緒に参加する人がいないから	20.6%
2	一人でも活動できる場がないから	9.6
3	子どもに手がかかるから	5.1
4	病気やけがをしているから	9.6
5	年をとったから	18.5
6	興味のある競技がないから	8.0
7	お金に余裕がないから	12.6
8	技術や資格がないとできないと思うから	7.0
9	運動・スポーツが嫌いだから	5.4
10	謝礼がもらえる活動が少ないから	0.7
11	面倒くさいから	16.4
12	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	6.6
13	その他	7.6
14	特に理由はない	30.6
	無回答	0.2

問25 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください(〇はあてはまるものすべて)。

※ ここでいう「本」「漫画」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていなくてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含まれません。

1	本を読む	45.8%	
2	漫画を読む	30.1	
3	雑誌を読む	34.3	
4	新聞を読む	43.1	
5	図書館に行く	13.2	
6	書店・古書店に行く	27.4	
7	本などの通販サイトをみる	17.7	
8	1～7のことをしたかったが、できなかった	1.6	
9	1～7のことはいずれもしなかった	13.2	⇒ 理由を問25-1でお答えください
	無回答	2.2	⇒ 理由を問25-1でお答えください

(問25で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはい  
ずれもしなかった」とお答えの方に)

問25-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。回答者数211

1	子どもに手がかかるから	6.2%
2	忙しいから	20.4
3	加齢に伴い目が悪くなり読みづらくなったから	21.8
4	加齢に伴い読む気力がなくなったから	13.7
5	場所や施設がないから	3.8
6	本などをすすめてくれる人がいないから	0.9
7	どんな本を読めばいいかわからないから	4.3
8	お金に余裕がないから	10.9
9	本などを読むことが嫌いだから	14.2
10	面倒くさいから	22.3
11	その他	9.0
12	特に理由はない	25.6
	無回答	0.5

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、すべての方におうかがいします

問26 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動(※)」という取  
り組みを知っていますか(○は1つだけ)。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」  
を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運  
動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの  
美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪の  
ない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1	知っていて、活動を実践している	5.3%
2	知っているが、特に何も行ってない	22.1
3	名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	19.2
4	知らない(初めて聞いた)	52.0
	無回答	1.3

問27 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加し  
ている、もしくは今後参加したいものは何ですか(○はあてはまるものすべて)。

1	防犯パトロール運動	5.6%	6	ながら見守り活動	13.2
2	花の育成活動	10.2	7	ごみ屋敷通報	3.2
3	まちの清掃活動	11.5	8	不法投棄通報	8.0
4	公園、児童遊園、プチテラスなどの管理活動	3.2	9	落書き発見・通報	5.2
5	違反広告物除却活動	1.8	10	参加していない(今後も参加しない)	59.5
				無回答	6.1

問28 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか  
（〇は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1 良 い	10.0%	3 どちらかといえば悪い	19.3	5 わからない	10.0
2 どちらかといえば良い	54.6	4 悪 い	3.8	無回答	2.3

↓ 問28-2へ  
 （問28で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に）  
 問28-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。 回答者数918

1 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	32.6%
2 テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから	19.6
3 犯罪の発生件数が減っているということを知ったから	13.5
4 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	52.4
5 安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	23.1
6 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから	20.5
7 防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから	4.4
8 その他	1.6
無回答	0.7

← （問28で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に）  
 問28-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（〇は2つまで）。 回答者数328

1 治安が悪いイメージがあるから	31.1%
2 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	7.6
3 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	9.1
4 自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから	39.3
5 歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから	33.8
6 区内主要駅周辺での客引き行為等を見かけることが多いから	4.9
7 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	15.5
8 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	10.7
9 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	20.4
10 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	6.4
11 その他	7.0
無回答	0.6

ここから再び、すべての方におうかがいします

問29 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか

(〇はそれぞれ1つずつ)。

	いつも鍵をかけている	鍵をかけることが多い	短時間のときは鍵をかけないことがある	鍵をかけることは少ない	鍵はかけていない (鍵がついていないを含む)	自転車を 持っていない、使っていない	無回答
ア 外出先で駐車するとき	68.8%	4.0	1.5	0.6	0.6	17.7	6.8
イ 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき	59.4	3.1	1.4	4.0	6.5	17.2	8.3

環境・地域活動について、おうかがいします

問30 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか (〇はあてはまるものすべて)。

1	ごみと資源の分別を実行している	89.0%
2	節電や節水など省エネルギーを心がけている	52.9
3	くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	41.2
4	マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	78.3
5	環境に配慮した製品を選んで使っている	11.2
6	家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある	28.1
7	雑紙(※)を燃やすごみではなく、資源として出している	57.5
8	自然環境を大切にすることを心がけている	26.2
9	外食時に食べられる分だけ注文する	55.7
10	買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする	41.4
11	買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している	39.2
12	買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る	18.8
13	その他	0.8
14	特にない	1.5
	無回答	1.0

※ 雑紙(ざつがみ) …家庭から排出される古紙のうち、新聞、雑誌、段ボール、紙パックのいずれの区分にも入らないもの(パンフレット、コピー用紙、お菓子の包装紙など)

問31 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していますか（〇は1つだけ）。

1 行動している	21.0%
2 行動することが時々ある	48.1
3 環境への影響を考えるが、行動していない	22.4
4 環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない	4.6
無回答	3.9

問32 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に 参加された活動	引き続き、また は今後参加した いと思う活動
1 自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み	23.6%	27.0
2 区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞 または伝統芸能に親しむ機会 (映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)	21.7	30.9
3 区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など	12.0	17.2
4 特に参加していない・特になし	49.6	38.6
無回答	10.9	12.7

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいします

問33 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか  
（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1 知っていて、内容も概ね理解している	11.0%	3 知らない（初めて聞いた）	64.6
2 聞いたことはあるが、内容はわからない	21.6	無回答	2.8

問34 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか  
（○はあてはまるものすべて）。

1 高齢者の健康や介護の相談	46.7%
2 介護予防教室や地域の居場所等の紹介	24.3
3 介護保険サービスの相談	33.1
4 もの忘れが心配な高齢者の方の相談	16.0
5 認知症の方の見守り支援	18.0
6 高齢者虐待の対応	10.1
7 成年後見制度の紹介	8.7
8 高齢者による地域貢献やボランティア活動の紹介	12.1
9 老後の準備、老い支度の相談	10.9
10 高齢者宅への訪問調査	29.6
11 高齢者を主とした地域活動の支援	16.5
12 絆のあんしん協力員による定期的な高齢者への声かけ、見守り	12.3
13 地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない	16.6
14 地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない	30.5
無回答	2.3

問35 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

1 積極的に協力したい	2.3%
2 負担にならない範囲で協力してもよい	21.6
3 協力したいが、時間などに余裕がない	30.9
4 興味がない、協力したくない	10.9
5 わからない	30.8
無回答	3.5

問36 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っていて、活動を実践している	15.6%	3 知らない（初めて聞いた）	39.2
2 知っているが、特に何もしていない	43.1	無回答	2.1

問37 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（〇は1つだけ）。

※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

1 毎食（1日3回）食べている	19.3%	4 週に数回食べている	10.7
2 1日2回位食べている	34.1	5 ほとんど食べない	0.6
3 1日1回位食べている	33.9	無回答	1.4

問38 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（〇は1つだけ）。

1 取れている	36.2%	3 わからない	16.6
2 取れていない	17.5	4 仕事をしていない	27.3
		無回答	2.4

問39 あなたは、下記のア、イ、ウについて知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容はわからない	知らない	無回答
ア 高齢者などの権利を守るしくみである「 <small>せいねんこうけんせいど</small> 成年後見制度」について	26.7%	37.3	33.7	2.3
イ 身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について	46.2	38.4	12.7	2.8
ウ「LGBT」という言葉について	47.4	24.1	25.7	2.8

「協働・協創」・「SDGs」について、おうかがいします

問40 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。あなたは、この「協創」という言葉を知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っている	7.6%	3 知らない（初めて聞いた）	71.0
2 聞いたことはある	19.6	無回答	1.8

（問40で「1 知っている」とお答えの方に）

問40-1 あなたは、区役所・区民・団体（企業）との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（〇は1つだけ）。回答者数108

1 すでに、活動を実践している	21.3%	3 関心がない	9.3
2 関心はあるが、特に活動していない	67.6	無回答	1.9

問41 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（〇は1つだけ）。

1 そう思う	4.4%	4 そう思わない	7.0
2 どちらかといえばそう思う	24.4	5 わからない	48.6
3 どちらかといえばそう思わない	12.4	無回答	3.3

問42 あなたは、SDGsについて知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

1 内容まで知っている	34.5%	3 知らない（初めて聞いた）	20.5
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	42.6	無回答	2.4

問43 あなたは、SDGsに関心がありますか（〇は1つだけ）。

1 とても関心がある	4.5%	4 全く関心がない	7.8
2 関心がある	32.1	5 どちらともいえない	27.7
3 あまり関心がない	25.3	無回答	2.7

足立区の取り組みについて、おうかがいします

問44 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか  
(〇はそれぞれ1つずつ)。

	そう思う	どちらか かといえ ばそう 思う	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう思わ ない	わから ない	無回答
ア 足立区に愛着をもっている	25.5%	46.3	8.5	6.1	9.8	3.8
イ 足立区に誇りをもっている	10.8	32.7	22.8	13.1	16.7	3.9
ウ 足立区を人に勧めたい	9.9	34.6	21.3	10.9	18.6	4.8
エ 足立区を良いまちにするために 何かしたい	8.2	41.7	13.5	6.3	22.7	7.6
オ 足立区を良いまちにするための 活動をしている人に共感する	26.7	46.2	5.9	2.4	11.9	6.8

問44-1 問44の項目のア、イ、ウのいずれかで、「そう思う」または「どちらかといえば  
そう思う」と答えた理由をお書きください。

(ア 愛着)
(イ 誇り)
(ウ 勧めたい)

問44-2 問44の項目のア、イ、ウのいずれかで、「どちらかといえばそう思わない」また  
は「そう思わない」と答えた理由をお書きください。

(ア 愛着)
(イ 誇り)
(ウ 勧めたい)

問45 あなたはこの1年間に足立区を良いまちにするために行動をしましたか（○は1つだけ）。

※ 町会・自治会活動、ボランティア活動、防犯活動、地域イベントの手伝いのほか、家の前の清掃をしている、道案内など困っている人を助けた、足立区内の魅力的な情報を伝えた（発信した）などの個人的な行動も含まれます。

1 行動した	11.7%	4 行動しなかった	43.2
2 どちらかといえば行動した	18.6	5 わからない	6.5
3 どちらかといえば行動していない	18.1	無回答	1.9

問46 次の足立区の取り組みのうち、あなたが満足、やや満足と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

1 広報やホームページなどによる区政情報の提供	41.4%
2 職員の接客態度	19.2
3 ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上	4.8
4 防災対策	18.8
5 ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	19.1
6 町会・自治会など地域活動支援	16.6
7 男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	3.0
8 NPOやボランティアの育成や支援	3.7
9 高齢者の生活や介護などの支援	21.7
10 障がい者の生活や介護などの支援	11.0
11 低所得者の生活援助や就労支援	12.8
12 健康づくりやがん検診など保健衛生対策	27.3
13 保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	13.1
14 教育内容の充実など学校教育対策	6.8
15 文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	12.5
16 省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	9.4
17 商工業や起業支援など産業振興	3.4
18 公園や緑地などの整備	37.4
19 美しい街並みや景観づくりなど都市開発	15.7
20 空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	5.8
21 道路や交通網の整備、交通安全対策	18.4
22 特にない	17.7
無回答	2.7

問47 次の足立区の取り組みのうち、あなたが**不満**、**やや不満**と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

1	広報やホームページなどによる区政情報の提供	4.1%
2	職員の接客態度	5.9
3	ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上	5.3
4	防災対策	9.1
5	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	4.2
6	町会・自治会など地域活動支援	4.4
7	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	3.7
8	NPOやボランティアの育成や支援	2.6
9	高齢者の生活や介護などの支援	11.1
10	障がい者の生活や介護などの支援	5.7
11	低所得者の生活援助や就労支援	10.1
12	健康づくりやがん検診など保健衛生対策	4.3
13	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	5.1
14	教育内容の充実など学校教育対策	5.8
15	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	8.7
16	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	3.7
17	商工業や起業支援など産業振興	3.6
18	公園や緑地などの整備	8.7
19	美しい街並みや景観づくりなど都市開発	11.8
20	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	12.4
21	道路や交通網の整備、交通安全対策	19.6
22	特にない	40.2
	無回答	6.6

問48 あなたは足立区の区政全体について、**満足**に感じていますか（○は1つだけ）。

1	満足	13.2%	3	やや不満	15.8
2	やや満足	64.5	4	不満	3.4
				無回答	3.0

問49 次の足立区の取り組みのうち、あなたが今後特に力を入れてほしい分野を選んでください  
(〇はあてはまるものすべて)。

1	広報やホームページなどによる区政情報の提供	12.1%
2	職員の接客態度	7.3
3	ICT（情報技術）を活用した区民サービスの向上	8.4
4	防災対策	33.4
5	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	17.1
6	町会・自治会など地域活動支援	10.3
7	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	5.6
8	NPOやボランティアの育成や支援	5.5
9	高齢者の生活や介護などの支援	32.6
10	障がい者の生活や介護などの支援	16.1
11	低所得者の生活援助や就労支援	20.3
12	健康づくりやがん検診など保健衛生対策	17.9
13	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	16.2
14	教育内容の充実など学校教育対策	15.4
15	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	18.2
16	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	8.1
17	商工業や起業支援など産業振興	8.4
18	公園や緑地などの整備	26.2
19	美しい街並みや景観づくりなど都市開発	29.7
20	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	19.5
21	道路や交通網の整備、交通安全対策	36.2
22	特にない	8.6
	無回答	3.5

問50 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1	そう思う	3.4%	4	そう思わない	7.2
2	どちらかといえばそう思う	30.4	5	わからない	38.1
3	どちらかといえばそう思わない	17.0		無回答	3.8

問51 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。


問52 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか  
(〇は1つだけ)。

1	そう思う	29.6%	4	そう思わない	2.5
2	どちらかといえばそう思う	42.6	5	わからない	14.6
3	どちらかといえばそう思わない	8.0		無回答	2.6

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。  
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、  
返信用封筒に入れて 9月6日(金)までにご投函ください。



本調査にご協力いただいた方には、抽選でのプレゼントをご用意しておりますので、最終ページの【謝礼(抽選)のご案内】をご覧ください。





---

## 第53回 足立区政に関する世論調査

2025年3月発行

発行 足立区

編集 足立区 政策経営部 区政情報課  
東京都足立区中央本町1-17-1  
電話 03-3880-5111 (代表)

実施 (株) サーベイリサーチセンター  
東京都文京区後楽1-1-3  
電話 03-5990-9011 (代表)

---



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス<https://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 区政情報課

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI

